

鹿島浦遺跡

北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

〔第1分冊 本文・挿図編〕

2010

東日本高速道路株式会社
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

鹿島浦遺跡は、太田市東今泉町に所在し、北関東自動車道の伊勢崎インターチェンジから県境間の建設に伴い、平成 15・16 年度に当事業団によって発掘調査が実施されました。

このほど、東日本高速道路株式会社の委託を受けて、平成 20 年度から平成 21 年度にかけて整理事業を行いました成果がまとまり、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

遺跡は、現在の北関東自動車道太田桐生インターチェンジ下にあり、インターに接して国道 122 号線、500m 程で国道 50 号線との合流地点という交通の要所に位置しています。

発掘調査においても、都と東北地方を結ぶ古代官道「東山道駅路」跡が発見され、西に大道東遺跡を経て大道西遺跡・八ヶ入遺跡へと約 1 km にわたり直線的に繋がる道路跡であることが解りました。時を越えて交通の要所である北関東自動車道のインターチェンジがこの地に出来たことは、人の営みの普遍性を物語っているかのように思えます。

本報告書の刊行に至るまでには、東日本高速道路株式会社(旧日本道路公団)・群馬県教育委員会・太田市教育委員会をはじめ、関係各位並びに周辺地域住民の方々にも多大なご尽力・ご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げますとともに、今後、本報告書ならびに出土資料が教育や研究に広く活用されますことを願い、序といたします。

平成 22 年 3 月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 須 田 栄 一

例 言

本書は、平成 15・16 年度に行われた北関東自動車道（伊勢崎～県境）の建設に伴う「鹿島浦遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。遺跡は、群馬県太田市東今泉町 487 番地他に所在し、隣接の楽前遺跡と合わせて、現在の北関東自動車道太田桐生インターチェンジ部分に相当する。

- 1、事業主体 東日本高速道路株式会社 関東支社（調査時旧称「日本道路公団 東京建設局」）
- 2、調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 3、調査期間 平成 15 年 8 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日
平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日
- 4、調査面積 48,483㎡（平成 15 年度 =14,138㎡ 平成 16 年度 =34,345㎡）
- 5、調査組織
理事長 小野宇三郎、常務理事 住谷永市、事業局長 神保侑史、管理部長 萩原利通 (H15)・矢崎敏夫 (H16)
総務課 課長 植原恒夫 (H15)・丸岡道雄 (H16)、係長 竹内 宏・高橋房雄、主幹 須田朋子・吉田有光
主任 阿久澤玄洋・栗原幸代 (H16)・佐藤聖行 (H16)、主事 田中賢一
補助員 今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子
東毛調査事務所 所長 平野進一、調査研究部長 真下高幸、調査研究第二課長 下城 正・井川達雄 (H15)、
調査研究第三課長 中沢 悟 (H16)、課長 石塚久則
庶務課 係長 笠原秀樹、副主幹 柳岡良宏・今泉大作 (H16)、
主任 北野勝美 (H15)・清水秀紀 (H16)、事務補助員 中沢恵子・金子三枝子
調査担当者〔平成 15 年度〕 専門員 関根慎二・土谷慎二
専門員 廣津英一・小林 徹〔範囲確認調査 2 月 16 日～3 月 5 日〕
〔平成 16 年度〕 専門員 関根慎二（～7 月）・新倉明彦・土谷慎二
調査研究員 齊藤幸男 (8 月～)・横山直樹
- 6、整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7、整理期間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
- 8、整理組織
〔平成 20 年度〕
理事長 高橋勇夫、常務理事 木村裕紀・津金澤吉茂、資料整理部長 相京建史、調査研究部長 飯島義雄
総務部 補佐兼総務 GL 笠原秀樹、係長（総括）兼経理 GL 佐嶋芳明、
係長（総括） 須田朋子、主幹（総括） 斎藤恵利子・柳岡良宏、主幹 矢島一美、主任 齋藤陽子
事務補助員 今井もと子・若田誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典
整理担当 専門員（総括） 新倉明彦、主任調査研究員 田村邦宏
器械実測 整理補助員 田所順子・岸 弘子・小池益美
デジタル写真処理 整理補助員 牧野裕美・市田武子・酒井史恵・廣津真希子・安藤美奈子・矢端真観
高梨由美子・須藤絵美・下川陽子・横塚由香
保存処理 主幹 関 邦一、補助員 小材浩一・津久井桂一・多田ひさ子
木器処理 整理補助員 田中のぶ子・狩野なつ子・小池 緑・佐々木茂美
遺物写真撮影 主幹（総括） 佐藤元彦

[平成 21 年度]

理事長 高橋勇夫・須田栄一、常務理事 木村裕紀、事業局長 相京建史
資料整理部長 石坂 茂、調査研究部長 飯島義雄
総務部 総務部長兼総務 GL 笠原秀樹、係長(総括)兼経理 GL 佐嶋芳明、係長(総括) 須田朋子、
主幹(総括) 柳岡良宏、主幹 田口小百合、矢島一美、主任 高橋次代
事務補助員 今井もと子・若田誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典
整理担当 主任専門員(総括) 新倉明彦
器械実測 整理補助員 田所順子・木原幸子・岸 弘子・福島瑞希
デジタル写真処理 整理補助員 牧野裕美・市田武子・酒井史恵・廣津真希子・安藤美奈子・矢端真観
高梨由美子・須藤絵美・下川陽子・横塚由香
保存処理 主幹 関 邦一、補助員 増田政子・津久井桂一・多田ひさ子・
木器処理 整理補助員 田中のぶ子・狩野なつ子
遺物写真撮影 主幹(総括) 佐藤元彦

本報告書の執筆者

編集・執筆 主任専門員(総括) 新倉明彦、主任調査研究員 田村邦宏
遺物観察 上席専門員 綿貫邦男・神谷佳明、主席専門員 山口逸弘、主任専門員(総括) 大西雅広
主任調査研究員 笹澤泰史
執筆 主任専門員(総括) 関根慎二 第3章 第1節 縄文時代の遺構と遺物 第1項
主任専門員(総括) 岩崎泰一 第3章 第1節 縄文時代の遺構と遺物 第2項 石器
専門員(総括) 高島英之 第3章 第2節 第4項-6 道路状遺構(東山道駅路)
指導・助言 主席専門員(総括) 小島敦子、主任調査研究員 齊田智彦

9、指導・分析・委託等

- 発掘調査指導・助言 古代交通研究会 木下 良・道路文化研究所 武部健一
遺構掘削請負業務 (株)技研測量(代理人 岩松・茂木)、火山灰等分析 (株)古環境研究所、
航空写真撮影業務 (株)シン技術コンサル、地上測量業務 (株)アコン測量・朝日測量、
遺構図デジタルトレース業務 (株)アコン測量、石材同定 群馬県地質研究会会員 飯島静男
- 10、出土遺物並びに遺構測量図・写真等の記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。今後、研究・教育等各方面での幅広い活用が望まれる。
- 11、発掘調査時から本報告書作成に至る間、群馬県教育委員会・太田市教育委員会をはじめ関係機関、並びに周辺住民の方々には多大な協力を頂いた。また、猛暑・極寒の厳しい気候時においても発掘調査に従事して頂いた発掘作業員各位にも改めて感謝の意を表したい。

凡 例

1、遺構の名称と番号

本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時において付与された記号(SJ・SB・SD・SKなど)を「竪穴住居跡・掘立柱建物跡」などに改め、また、番号については、遺構測量原図・出土遺物注記などとの整合性を保つために、原則として調査時に付した番号を踏襲し、()内に旧名称・旧番号を記した。

2、方位と主軸

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号の示す北は座標上の北を示し、主軸角度等の計算においてもこれを基準として用いた。

3、挿図の縮尺

本報告書に掲載の図の縮尺は、原則として下記のとおりとし、例外については挿図内にその縮尺を記した。

遺構実測図

竪穴住居跡・掘立柱建物跡 1:80 (炉・カマド跡 1:40)、井戸跡・土坑跡・Pit跡 1:40、
溝跡 1:100

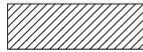
遺物実測図

土器(土師器・須恵器・縄文土器〔中期〜〕) 1:4、土器(縄文土器〔早期〕) 1:2、
土製・石製・金属製品(土錘・砥石・打製石斧・鉄滓) 1:4、
石製・金属製品(紡錘車・石核・古銭) 1:2、小型石製・金属製品(石鏃・帯金具) 1:1、
大型土器・大型石製品(須恵器大甕・五輪塔・石臼・石皿) 1:8

4、挿図のトーン

挿図内のトーン部は、原則として下記を表し、これ以外については挿図内に記した。

遺構実測図



焼土・炭

遺物実測図



内面黒色処理



粘土付着



漆



粘

5、写真図版

遺物写真の縮尺は、原則として実測図に準じた縮尺を用いた。

6、色 調

遺構埋土の注釈および遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。

7、地形図

本報告書で使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院 地勢図 1/200,000 「宇都宮」 地形図 1/25,000 「桐生」・「上野境」

国土地理院 数値地図 25000 (地図画像) 「宇都宮」

目次

扉	
口 絵	
序	
例 言	
凡 例	
目 次	
遺構別検索 (挿図・図版目次)	

第1章 発掘調査の概要		第4項 6・7区の遺構と遺物	
第1節 調査に至る経緯	1頁	1、調査区の概要	276頁
第2節 調査の方法と経過	1頁	2、竪穴住居跡	279頁
第3節 基本土層	3頁	3、掘立柱建物跡	310頁
第2章 周辺の環境		4、土坑跡・Pit跡	312頁
第1節 地理的環境	4頁	5、井戸跡	319頁
第2節 歴史的環境	5頁	6、道路状遺構	320頁
第3章 検出遺構と出土遺物		第5項 8区の遺構と遺物	
第1節 縄文時代の遺構と遺物		1、調査区の概要	325頁
第1項 埋葬・土坑跡	9頁	2、竪穴住居跡	327頁
第2項 遺構外出土遺物(縄文)	22頁	3、掘立柱建物跡	356頁
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物		4、土坑跡・Pit跡	362頁
第1項 1・2・3区の遺構と遺物		5、井戸跡	407頁
1、調査区の概要	48頁	6、その他の遺構	411頁
2、竪穴住居跡	51頁	第6項 溝跡	414頁
3、掘立柱建物跡	187頁	第7項 遺構外出土遺物	
4、土坑跡・Pit跡	188頁	(奈良・平安)	530頁
5、井戸跡	210頁	第3節 中世～近現代の遺構と遺物	
6、その他の遺構	216頁	第1項 畠跡・耕作痕	536頁
第2項 4区の遺構と遺物		第2項 氾濫跡(旧大溝跡)	
1、調査区の概要	223頁	および遺構外出土遺物(中世～)	558頁
2、竪穴住居跡	225頁	報告書抄録	601頁
3、土坑跡・Pit跡	254頁	写真図版編(第2分冊)	
4、井戸跡	271頁	検出遺構	PL 01
5、その他の遺構	271頁	出土遺物	PL235
第3項 5区の遺構と遺物		付 図 全体図	
1、調査区の概要	275頁		

整穴住居跡 136 軒

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	1号整穴住居跡	1・2区 SJ-01	51	第35図	51	第35図	51	6	249	-
1・2区	2号整穴住居跡	1・2区 SJ-02	51.52	第36.37図	52	第38図	53	6.7	249	-
1・2区	3号整穴住居跡	1・2区 SJ-03	53.54	第39.40図	54	第41図	54	8	249	-
1・2区	4号整穴住居跡	1・2区 SJ-04	54.55	第42-44図	56	第45図	56	9.1	249	-
1・2区	5号整穴住居跡	1・2区 SJ-05	57	第46.47図	57	第48図	57	11	249	-
1・2区	6号整穴住居跡	1・2区 SJ-06	58	第49図	-	-	-	12	-	-
1・2区	7号整穴住居跡	1・2区 SJ-07	59.6	第50.51図	61	第54図	61	13.14	250	-
1・2区	8号整穴住居跡	1・2区 SJ-08	59-61	第50-53図	61	第55図	62	13.14	250	-
1・2区	9号整穴住居跡	1・2区 SJ-09	62.63	第56.57図	63.64	第58.59図	64	15	250	-
1・2区	10号整穴住居跡	1・2区 SJ-10	65	第60図	66	第61図	66.67	16	250.251	-
1・2区	11号整穴住居跡	1・2区 SJ-11	67	第62図	68	第63図	68	17	251	-
1・2区	12号整穴住居跡	1・2区 SJ-12	69	第64図	70	第65図	70	18	251	-
1・2区	13号整穴住居跡	1・2区 SJ-13	69	第64図	70	第66図	70	18	251	-
1・2区	14号整穴住居跡	1・2区 SJ-14	71	第67図	72	第68図	72	19	251	-
1・2区	15号整穴住居跡	1・2区 SJ-15	73.74	第69-71図	75	第72図	75	20	251.252	-
1・2区	16号整穴住居跡	1・2区 SJ-16	73.74	第69.70図	76	第73図	76	21	252	-
1・2区	17号整穴住居跡	1・2区 SJ-17	77	第74図	78	第75図	78	22	252	-
1・2区	18号整穴住居跡	1・2区 SJ-18	79	第76図	79	第77図	79	23	252	-
1・2区	19号整穴住居跡	1・2区 SJ-19	80	第78図	81	第79図	81	24	252	-
1・2区	20号整穴住居跡	1・2区 SJ-20	81.82	第80.81図	82	第81図	82	25	252	-
1・2区	21号整穴住居跡	1・2区 SJ-21	83.84	第82.83図	83	第82図	84	26	252.253	-
1・2区	22号整穴住居跡	1・2区 SJ-22	85	第84図	-	-	-	27	-	-
1・2区	23号整穴住居跡	1・2区 SJ-23	85.86	第85-87図	86.87	第88.89図	87	28	253	-
3区	24号整穴住居跡	3区 SJ-24	88	第90図	88	第91図	89	29	254	-
3区	25号整穴住居跡	3区 SJ-25	89	第92図	-	-	-	30	-	-
1・2区	26号整穴住居跡	1・2区 SJ-26	90	第93.94図	90	第94図	90	30.31	254	-
1・2区	27号整穴住居跡	1・2区 SJ-27	91.92	第95.96図	92	第97図	93	32	254	-
1・2区	28号整穴住居跡	1・2区 SJ-28	94	第98図	95	第99図	95	33	254	-
1・2区	29号整穴住居跡	1・2区 SJ-29	96.97	第100.101.103図	96	第102図	97	34.35	255	-
1・2区	30号整穴住居跡	1・2区 SJ-30	98	第104.105図	99	第108図	99	34-36	255	-
1・2区	31号整穴住居跡	1・2区 SJ-31	98.99	第104.106.107図	100	第109図	100	34.36	255	-
1・2区	32号整穴住居跡	1・2区 SJ-32	100.102	第110-112図	102.103	第113.114図	103	37	255	-
1・2区	33号整穴住居跡	1・2区 SJ-33	104	第115-117図	105	第118図	105	38	256	-
1・2区	34号整穴住居跡	1・2区 SJ-34	106.107	第119-121図	107	第122図	108	39	256	-
1・2区	35号整穴住居跡	1・2区 SJ-35	109	第123.124図	109	第125図	109	40	256	-
1・2区	36号整穴住居跡	1・2区 SJ-36	110.111	第126.127図	111	第128図	112	41	256.357	-
1・2区	37号整穴住居跡	1・2区 SJ-37	112.113	第129-131図	113	第132図	114	42	357	-
1・2区	38号整穴住居跡	1・2区 SJ-38	114	第133図	115	第134図	115	43	357	-
1・2区	39号整穴住居跡	1・2区 SJ-39	116	第135-137図	116.117	第138.139図	117	44	257	-
1・2区	40号整穴住居跡	1・2区 SJ-40	118.119	第140-145図	119.120	第146.147図	120	45	258	-
1・2区	41号整穴住居跡	1・2区 SJ-41	121.122	第148.149図	122	第150図	123	46	258	-
1・2区	42号整穴住居跡	1・2区 SJ-42	123.124	第151-153図	124	第154図	125	47	259	-
1・2区	43号整穴住居跡	1・2区 SJ-43	125	第155.156図	126	第157図	126	48	259	-
1・2区	44号整穴住居跡	1・2区 SJ-44	126.127	第158.159図	127.128	第160.161図	128	49	259	-

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考	
1・2区	45号整穴住居跡	1・2区 SJ-45	129	第162.163図	129	第164図	130	50	259	-	
1・2区	46号整穴住居跡	1・2区 SJ-46	130	第165-168図	131	第169図	131	51	259.260	-	
1・2区	47号整穴住居跡	1・2区 SJ-47	132	第170-173図	133	第174図	133	52	260	-	
1・2区	48号整穴住居跡	1・2区 SJ-48	133.134	第175-177図	134	第178図	134.135	53	260	-	
1・2区	49号整穴住居跡	1・2区 SJ-49	135.136	第179-182図	136	第182図	136	54	260	-	
1・2区	50号整穴住居跡	1・2区 SJ-50	136.137	第183-185図	138.139	第186.187図	139.140	55	260.261	-	
1・2区	51号整穴住居跡	1・2区 SJ-51	141	第188-190図	141	第191図	142	56	261	-	
1・2区	52号整穴住居跡	1・2区 SJ-52	142.143	第192-194図	143	第195図	143	57	261	-	
1・2区	53号整穴住居跡	1・2区 SJ-53	144.145	第196-198図	145	第199図	145	58	262	-	
1・2区	54号整穴住居跡	1・2区 SJ-54	146.147	第200-202図	147	第203図	147	59	262	-	
1・2区	55号整穴住居跡	1・2区 SJ-55	148.149	第204-209図	149	第210図	150	60	262	-	
1・2区	56号整穴住居跡	1・2区 SJ-56	150.151	第211-213図	151	第214図	151	61	262	-	
1・2区	57号整穴住居跡	1・2区 SJ-57	146	第200図	-	-	-	62	-	-	
1・2区	58号整穴住居跡	1・2区 SJ-58	152	第215-217図	153	第218図	154	63	262.263	-	
1・2区	59号整穴住居跡	1・2区 SJ-59	154.155	第219-221図	155	第222図	155	64	263	-	
1・2区	60号整穴住居跡	1・2区 SJ-60	156	第223-225図	157	第226図	157	65	263	-	
1・2区	61号整穴住居跡	1・2区 SJ-61	157.158	第227-229図	158	第230図	159	66	263.264	-	
1・2区	62号整穴住居跡	1・2区 SJ-62	159.160	第231.232図	160	第233図	160	67	264	-	
1・2区	63号整穴住居跡	1・2区 SJ-63	160.161	第234.235図	161	第236図	161	67	264	-	
1・2区	64号整穴住居跡	1・2区 SJ-64	161.162	第237.238図	162	第239図	162	68	264	-	
1・2区	65号整穴住居跡	1・2区 SJ-65	163	第240図	164	第241図	164.165	69	264.265	-	
1・2区	66号整穴住居跡	1・2区 SJ-66	165.166	第242-244図	166	第245図	166	70	265	-	
1・2区	67号整穴住居跡	1・2区 SJ-67	167	第246図	168	第247図	168	71	265	-	
1・2区	68号整穴住居跡	1・2区 SJ-68	168.169	第248-250図	169	第251図	169	72	265	-	
1・2区	69号整穴住居跡	1・2区 SJ-69	170.171	第252.253図	171	第254図	171.172	73	265	-	
1・2区	70号整穴住居跡	1・2区 SJ-70	172	第255.256図	172	第257図	172	74	266	-	
1・2区	71号整穴住居跡	1・2区 SJ-71	173	第258図	174.175	第259.260図	175.176	75	266.267	-	
1・2区	72号整穴住居跡	1・2区 SJ-72	177	第261図	177	第262図	177	76	267	-	
1・2区	73号整穴住居跡	1・2区 SJ-73	178	第263図	173	第264図	173	77	267	-	
1・2区	74号整穴住居跡	1・2区 SJ-74	179	第265-267図	179	第268図	179	78	267	-	
1・2区	75号整穴住居跡	1・2区 SJ-75	180	第269-271図	-	-	-	79	-	-	
1・2区	76号整穴住居跡	1・2区 SJ-76	181	第272図	181	第272図	181	80	267	-	
1・2区	77号整穴住居跡	1・2区 SJ-77	182	第273.274図	182	第275図	182	81	267	-	
1・2区	78号整穴住居跡	1・2区 SJ-78	183	第276-278図	183	第279図	184	82	267.268	-	
1・2区	79号整穴住居跡	1・2区 SJ-79	184.185	第280.281図	185.186	第282.283図	186	83	268	-	
4区	1号整穴住居跡	4区 SJ-01	225	第322.323図	-	-	-	104	-	-	
4区	2号整穴住居跡	4区 SJ-02	※調査時欠番							-	-
4区	3号整穴住居跡	4区 SJ-03	225.226	第324-327図	226	第328図	227	105	271	-	
4区	4号整穴住居跡	4区 SJ-04	227.228	第329-331図	228	第332図	228	106	271	-	
4区	5号整穴住居跡	4区 SJ-05	229.23	第333.335図	229	第334図	230	107	271	-	
4区	6号整穴住居跡	4区 SJ-06	231	第337図	231	第338図	232	108	271	-	
4区	7号整穴住居跡	4区 SJ-07	232.234	第339-342図	233	第343図	234	109	272	-	
4区	8号整穴住居跡	4区 SJ-08	234.235	第344-346図	235	第347図	236	110	272	-	
4区	9号整穴住居跡	4区 SJ-09	237.238	第349.350図	238	第351図	239	111	272.273	-	

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿図番号	遺物実測図	挿図番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
4区	10号竪穴住居跡	4区 SJ-10	239.24	第352-354図	240	第355図	240	112	273	-
4区	11号竪穴住居跡	4区 SJ-11	241.242	第356-359図	242	第360図	242	113	273	-
4区	12号竪穴住居跡	4区 SJ-12	243.244	第361.363.364図	243	第362図	244	114	273	-
4区	13号竪穴住居跡	4区 SJ-13	245	第365-367図	246	第368図	246	115	273	-
4区	14号竪穴住居跡	4区 SJ-14	246	第369図	247	第370図	247	116	273	-
4区	15号竪穴住居跡	4区 SJ-15	247-249	第371-374図	249	第375図	250	117	273.274	-
4区	16号竪穴住居跡	4区 SK-110	251	第375-378図	251	第379図	252	118	274	-
4区	17号竪穴住居跡	4区 SJ-17	254.255	第380-382図	255	第383図	255	119	274	-
6区	1号竪穴住居跡	6区 SJ-01	279.28	第406-408.410図	280	第409図	280	147	275	-
6区	2号竪穴住居跡	6区 SJ-02	280.281	第411-413図	281	第414図	282	148	275	-
6区	3号竪穴住居跡	6区 SJ-03	282.283	第415-418図	283	第419図	283	149	275	-
6区	4号竪穴住居跡	6区 SJ-04	284.285	第420-422図	285	第423図	285	150	275	-
7区	1号竪穴住居跡	7区 SJ-01	286	第424.425図	287	第426図	287	151	275	-
7区	2号竪穴住居跡	7区 SJ-02	287	第427図	288	第428図	288	152	275	-
7区	3号竪穴住居跡	7区 SJ-03	288.289	第429.431図	289	第430図	289	153	275	-
7区	4号竪穴住居跡	7区 SJ-04	289	第433図	289	第432図	290	154	275	-
7区	5号竪穴住居跡	7区 SJ-05	290	第435.436図	291	第437図	291	155	275	-
7区	6号竪穴住居跡	7区 SJ-06	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	7号竪穴住居跡	7区 SJ-07	291.292	第438-440図	292	第441図	292	155.156	276	-
7区	8号竪穴住居跡	7区 SJ-08	293.294	第442-445図	294	第446図	294	156.157	276	-
7区	9号竪穴住居跡	7区 SJ-09	295	第447図	296	第448図	296	158	276	-
7区	10号竪穴住居跡	7区 SJ-10	296	第449図	296	第449図	296	159	276	-
7区	11号竪穴住居跡	7区 SJ-11	297.298	第450-453図	298	第454図	299	160	276.277	-
7区	12号竪穴住居跡	7区 SJ-12	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	13号竪穴住居跡	7区 SJ-13	300	第455.456図	300	第457図	301	161	277	-
7区	14号竪穴住居跡	7区 SJ-14	301.302	第458.459図	302	第459図	302	162	277	-
7区	15号竪穴住居跡	7区 SJ-15	303	第460図	303	第460図	304	163	277	-
7区	16号竪穴住居跡	7区 SJ-16	304	第461図	305	第462図	305	164	277	-
7区	17号竪穴住居跡	7区 SJ-17	305.306	第463.464図	306	第464図	306	165.166	277.278	-
7区	18号竪穴住居跡	7区 SJ-18	306	第465図	-	-	-	166	-	-
7区	19号竪穴住居跡	7区 SJ-19	307	第466図	308	第467図	308	167	278	-
7区	20号竪穴住居跡	7区 SJ-20	309	第468図	309	第468図	309	168	278	-
7区	21号竪穴住居跡	7区 SJ-21	310	第469図	310	第469図	310	169	278	-
8区	1号竪穴住居跡	8区 SJ-01	327	第485.486図	329	第487図	329	180	279	-
8区	2号竪穴住居跡	8区 SJ-02	327	第485.486図	329	第487図	329	180	279	-
8区	3号竪穴住居跡	8区 SJ-03	330.331	第489-491図	331	第491図	332	181.182	279	-
8区	4号竪穴住居跡	8区 SJ-04	333.334	第492.493図	334	第493図	334	183	279	-
8区	5号竪穴住居跡	8区 SJ-05	335	第494図	335.336	第494.495図	336	184.185	279	-
8区	6号竪穴住居跡	8区 SJ-06	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	7号竪穴住居跡	8区 SJ-07	337.338	第496.497図	338	第497図	338	186	279	-
8区	8号竪穴住居跡	8区 SJ-08	338.339	第498.499図	339.34	第499.500図	340	187.188	280	-
8区	9号竪穴住居跡	8区 SJ-09	341.342	第501.502図	342	第502図	342	188.189	280	-
8区	10号竪穴住居跡	8区 SJ-10	343.344	第503.504図	344	第504図	344.345	190	280	-
8区	11号竪穴住居跡	8区 SJ-11	345	第505図	346	第506図	346	191	280	-

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿図番号	遺物実測図	挿図番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
8区	12号竪穴住居跡	8区 SJ-12	346.347	第507.508図	347	第508図	347	192	280	-
8区	13号竪穴住居跡	8区 SJ-13	348	第509図	348	第509図	348	193	280	-
8区	14号竪穴住居跡	8区 SJ-14	349	第510.511図	350	第511図	350	194	281	-
8区	15号竪穴住居跡	8区 SJ-15	350-353	第512-515図	354	第516図	355	195-197	281	-
8区	16号竪穴住居跡	8区 SJ-16	-	-	-	-	-	196.197	-	-
8区	17号竪穴住居跡	8区 SJ-17	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	18号竪穴住居跡	8区 SJ-18	329	第488図	-	-	-	180	-	-

掘立柱建物跡 17棟

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿図番号	遺物実測図	挿図番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	1号掘立柱建物跡	1・2区 SB-01	187	第284図	-	-	-	84	-	-
1・2区	2号掘立柱建物跡	1・2区 SB-02	-	-	-	-	-	-	-	-
1・2区	3号掘立柱建物跡	1・2区 SB-03	188	第285図	-	-	-	84	-	-
6区	1号掘立柱建物跡	6区 SB-01	310	第470図	-	-	-	169	-	-
6区	2号掘立柱建物跡	6区 SB-02	310	第471図	310	第471図	310	170	278	-
6区	3号掘立柱建物跡	6区 SB-03	310	第472図	-	-	-	170	-	-
8区	1号掘立柱建物跡	8区 SB-01	356	第517図	-	-	-	198	-	-
8区	2号掘立柱建物跡	8区 SB-02	356	第518図	-	-	-	198	-	-
8区	3号掘立柱建物跡	8区 SB-03	357	第519図	-	-	-	199	-	-
8区	4号掘立柱建物跡	8区 SB-04	357	第520図	-	-	-	199	-	-
8区	5号掘立柱建物跡	8区 SB-05	358	第521図	-	-	-	200	-	-
8区	6号掘立柱建物跡	8区 SB-06	358	第521図	-	-	-	200	-	-
8区	7号掘立柱建物跡	8区 SB-07	359	第522図	-	-	-	201	-	-
8区	8号掘立柱建物跡	8区 SB-08	359	第523図	-	-	-	201	-	-
8区	9号掘立柱建物跡	8区 SB-09	360	第524図	-	-	-	202	-	-
8区	10号掘立柱建物跡	8区 SB-10	360	第525図	-	-	-	202	-	-
8区	11号掘立柱建物跡	8区 SB-11	361	第526図	-	-	-	203	-	-
8区	12号掘立柱建物跡	8区 SB-12	362	第527図	-	-	-	-	-	-

土坑跡 388基

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿図番号	遺物実測図	挿図番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	1号土坑跡	1・2区 SK-01	188	第286図	-	-	-	85	-	-
1・2区	2号土坑跡	1・2区 SK-02	188	第286図	188	第286図	189	85	268	-
1・2区	3号土坑跡	1・2区 SK-03	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	4号土坑跡	1・2区 SK-04	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	5号土坑跡	1・2区 SK-05	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	6号土坑跡	1・2区 SK-06	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	7号土坑跡	1・2区 SK-07	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	8号土坑跡	1・2区 SK-08	189	第287図	-	-	-	85	-	-
1・2区	9号土坑跡	1・2区 SK-09	189	第287図	-	-	-	86	-	-
1・2区	10号土坑跡	1・2区 SK-10	189	第287図	189	第287図	190	-	268	-
1・2区	11号土坑跡	1・2区 SK-11	190	第288図	-	-	-	86	-	-
1・2区	12号土坑跡	1・2区 SK-12	190	第288図	190	第288図	190	86	268	-
1・2区	13号土坑跡	1・2区 SK-13	190	第288図	190	第288図	190	86	268	-
1・2区	14号土坑跡	1・2区 SK-14	191	第289図	-	-	-	86	-	-
1・2区	15号土坑跡	1・2区 SK-15	191	第289図	-	-	-	86	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿入 番号	遺物 実測図	挿入 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考	
1-2区	16号土坑跡	1-2区 SK-16	191	第289図	-	-	-	86	-	-	
1-2区	17号土坑跡	1-2区 SK-17	191	第289図	-	-	-	86	-	-	
1-2区	18号土坑跡	1-2区 SK-18	191	第289図	-	-	-	86	-	-	
1-2区	19号土坑跡	1-2区 SK-19	191	第289図	-	-	-	86	-	-	
1-2区	20号土坑跡	1-2区 SK-20	191	第289図	-	-	-	86	-	-	
1-2区	21号土坑跡	1-2区 SK-21	191	第289図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	22号土坑跡	1-2区 SK-22	191	第289図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	23号土坑跡	1-2区 SK-23	191	第289図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	24号土坑跡	1-2区 SK-24	192	第290図	192	第290図	192	87	268	-	
1-2区	25号土坑跡	1-2区 SK-25	191	第289図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	26号土坑跡	1-2区 SK-26	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	27号土坑跡	1-2区 SK-27	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	28号土坑跡	1-2区 SK-28	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	29号土坑跡	1-2区 SK-29	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	30号土坑跡	1-2区 SK-30	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	31号土坑跡	1-2区 SK-31	1-2区 4号井戸跡改称								
1-2区	32号土坑跡	1-2区 SK-32	192	第291図	-	-	-	87	-	-	
1-2区	33号土坑跡	1-2区 SK-33	1-2区 5号井戸跡改称								
1-2区	34号土坑跡	1-2区 SK-34	192	第291図	-	-	-	88	-	-	
1-2区	35号土坑跡	1-2区 SK-35	1-2区 6号井戸跡改称								
1-2区	36号土坑跡	1-2区 SK-36	193	第292図	193	第268図	193	88	268	-	
3区	37号土坑跡	1-2区 SK-37	193	-	-	-	-	88	-	-	
3区	38号土坑跡	1-2区 SK-38	193	-	-	-	-	88	-	-	
3区	39号土坑跡	1-2区 SK-39	193	-	-	-	-	88	-	-	
3区	40号土坑跡	1-2区 SK-40	-	-	-	-	-	-	-	-	
1-2区	41号土坑跡	1-2区 SK-41	193	第293図	193	第268図	194	88	268	-	
1-2区	42号土坑跡	1-2区 SK-42	194	第294図	194	第268図	194	88	268	-	
1-2区	43号土坑跡	1-2区 SK-43	194	第295図	-	-	-	88	-	-	
1-2区	44号土坑跡	1-2区 SK-44	194	第295図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	45号土坑跡	1-2区 SK-45	194	第295図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	46号土坑跡	1-2区 SK-46	161	第237図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	47号土坑跡	1-2区 SK-47	194	第295図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	47B号土坑跡	1-2区 SK-47	195	第296図	195	第296図	195	89	269	-	
1-2区	48号土坑跡	1-2区 SK-48	194	第295図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	49号土坑跡	1-2区 SK-49	195	第296図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	50号土坑跡	1-2区 SK-50	195	第296図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	51号土坑跡	1-2区 SK-51	195	第296図	-	-	-	89	-	-	
1-2区	52号土坑跡	1-2区 SK-52	195	第296図	-	-	-	90	-	-	
1-2区	53号土坑跡	1-2区 SK-53	195	第296図	195	第296図	195	90	-	-	
1-2区	54号土坑跡	1-2区 SK-54	195	第296図	-	-	-	90	-	-	
1-2区	55号土坑跡	1-2区 SK-55	195	第296図	-	-	-	90	-	-	
1-2区	56号土坑跡	1-2区 SK-56	195	第296図	-	-	-	90	-	-	
1-2区	57号土坑跡	1-2区 SK-57	195	第296図	195	第296図	195	90	269	-	
1-2区	58号土坑跡	1-2区 SK-58	196	第297図	-	-	-	90	-	-	

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿入 番号	遺物 実測図	挿入 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考	
1-2区	59号土坑跡	1-2区 SK-59	196	第297図	-	-	-	90	-	-	
1-2区	60号土坑跡	1-2区 SK-60	196	第297図	196	第297図	196	91	269	-	
1-2区	61号土坑跡	1-2区 SK-61	196	第297図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	62号土坑跡	1-2区 SK-62	196	第297図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	63号土坑跡	1-2区 SK-63	196	第297図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	64号土坑跡	1-2区 SK-64	196	第297図	196	第297図	196	91	269	-	
1-2区	65号土坑跡	1-2区 SK-65	196	第297図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	66号土坑跡	1-2区 SK-66	196	第297図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	67号土坑跡	1-2区 SK-67	197	第298図	-	-	-	91	-	-	
1-2区	68号土坑跡	1-2区 SK-68	197	第298図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	69号土坑跡	1-2区 SK-69	-	-	-	-	-	-	-	-	
1-2区	70号土坑跡	1-2区 SK-70	96	第298図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	71号土坑跡	1-2区 SK-71	197	第298図	197	第298図	198	92	269	-	
1-2区	72号土坑跡	1-2区 SK-72	198	第299図	198	第299図	198	92	269	-	
1-2区	73号土坑跡	1-2区 SK-73	198	第299図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	74号土坑跡	1-2区 SK-74	1-2区 7号井戸跡改称								
1-2区	75号土坑跡	1-2区 SK-75	198	第299図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	76号土坑跡	1-2区 SK-76	198	第299図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	77号土坑跡	1-2区 SK-77	198	第299図	-	-	-	92	-	-	
1-2区	78号土坑跡	1-2区 SK-78	198	第299図	-	-	-	-	-	-	
1-2区	79号土坑跡	1-2区 SK-79	198	第299図	-	-	-	-	-	-	
4区	1号土坑跡	4区 SK-01	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	2号土坑跡	4区 SK-02	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	3号土坑跡	4区 SK-03	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	4号土坑跡	4区 SK-04	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	5号土坑跡	4区 SK-05	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	6号土坑跡	4区 SK-06	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	7号土坑跡	4区 SK-07	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	8号土坑跡	4区 SK-08	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	9号土坑跡	4区 SK-09	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	10号土坑跡	4区 SK-10	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	11号土坑跡	4区 SK-11	254	第384図	-	-	-	121	-	-	
4区	12号土坑跡	4区 SK-12	254	第384図	-	-	-	121	-	-	
4区	13号土坑跡	4区 SK-13	254	第384図	-	-	-	121	-	-	
4区	14号土坑跡	4区 SK-14	255	第385図	-	-	-	121	-	-	
4区	15号土坑跡	4区 SK-15	255	第385図	-	-	-	121	-	-	
4区	16号土坑跡	4区 SK-16	255	第385図	-	-	-	121	-	-	
4区	17号土坑跡	4区 SK-17	255	第385図	-	-	-	121	-	-	
4区	18号土坑跡	4区 SK-18	255	第385図	-	-	-	121	-	-	
4区	19号土坑跡	4区 SK-19	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	20号土坑跡	4区 SK-20	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	21号土坑跡	4区 SK-21	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	22号土坑跡	4区 SK-22	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	23号土坑跡	4区 SK-23	※調査時欠番								
4区	24号土坑跡	4区 SK-24	231	第338図	-	-	-	122	-	-	

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考	
4区	25号土坑跡	4区 SK-25		4区 1号井戸跡に改称							-
4区	26号土坑跡	4区 SK-26	254	第384図	-	-	-	120	-	-	
4区	27号土坑跡	4区 SK-27	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	28号土坑跡	4区 SK-28	255	第385図	-	-	-	122	-	-	
4区	29号土坑跡	4区 SK-29	-	-	-	-	-	122	-	-	
4区	30号土坑跡	4区 SK-30	255	第385図	-	-	-	123	-	-	
4区	31号土坑跡	4区 SK-31	255	第385図	-	-	-	123	-	-	
4区	32号土坑跡	4区 SK-32	255	第385図	-	-	-	123	-	-	
4区	33号土坑跡	4区 SK-33	255	第385図	-	-	-	123	-	-	
4区	34号土坑跡	4区 SK-34	256	第386図	-	-	-	123	-	-	
4区	35号土坑跡	4区 SK-35	256	第386図	-	-	-	123	-	-	
4区	36号土坑跡	4区 SK-36	256	第386図	-	-	-	123	-	-	
4区	37号土坑跡	4区 SK-37	256	第386図	-	-	-	123	-	-	
4区	38号土坑跡	4区 SK-38	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	39号土坑跡	4区 SK-39	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	40号土坑跡	4区 SK-40	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	41号土坑跡	4区 SK-41	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	42号土坑跡	4区 SK-42	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	43号土坑跡	4区 SK-43	256	第386図	-	-	-	124	-	-	
4区	44号土坑跡	4区 SK-44	256	第386図	-	-	-	125	-	-	
4区	45号土坑跡	4区 SK-45	256	第386図	-	-	-	125	-	-	
4区	46号土坑跡	4区 SK-46	256	第386図	-	-	-	125	-	-	
4区	47号土坑跡	4区 SK-47	257	第387図	257	第387図	257	125	274	-	
4区	48号土坑跡	4区 SK-48	256	第386図	-	-	-	125	-	-	
4区	49号土坑跡	4区 SK-49	256	第386図	-	-	-	125	-	-	
4区	50号土坑跡	4区 SK-50	257	第388図	-	-	-	125	-	-	
4区	51号土坑跡	4区 SK-51	257	第388図	-	-	-	125	-	-	
4区	52号土坑跡	4区 SK-52	257	第388図	-	-	-	125	-	-	
4区	53号土坑跡	4区 SK-53	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	54号土坑跡	4区 SK-54	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	55号土坑跡	4区 SK-55	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	56号土坑跡	4区 SK-56	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	57号土坑跡	4区 SK-57	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	58号土坑跡	4区 SK-58	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	59号土坑跡	4区 SK-59	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	60号土坑跡	4区 SK-60	257	第388図	-	-	-	126	-	-	
4区	61号土坑跡	4区 SK-61	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	62号土坑跡	4区 SK-62	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	63号土坑跡	4区 SK-63	254	第384図	-	-	-	127	-	-	
4区	64号土坑跡	4区 SK-64	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	65号土坑跡	4区 SK-65	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	66号土坑跡	4区 SK-66	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	67号土坑跡	4区 SK-67	258	第389図	-	-	-	127	-	-	
4区	68号土坑跡	4区 SK-68	258	第389図	-	-	-	127	-	-	

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
4区	69号土坑跡	4区 SK-69	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	70号土坑跡	4区 SK-70	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	71号土坑跡	4区 SK-71	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	72号土坑跡	4区 SK-72	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	73号土坑跡	4区 SK-73	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	74号土坑跡	4区 SK-74	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	75号土坑跡	4区 SK-75	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	76号土坑跡	4区 SK-76	258	第389図	-	-	-	128	-	-
4区	77号土坑跡	4区 SK-77	258	第389図	-	-	-	129	-	-
4区	78号土坑跡	4区 SK-78	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	79号土坑跡	4区 SK-79	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	80号土坑跡	4区 SK-80	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	81号土坑跡	4区 SK-81	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	82号土坑跡	4区 SK-82	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	83号土坑跡	4区 SK-83	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	84号土坑跡	4区 SK-84	259	第390図	-	-	-	129	-	-
4区	85号土坑跡	4区 SK-85	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	86号土坑跡	4区 SK-86	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	87号土坑跡	4区 SK-87	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	88号土坑跡	4区 SK-88	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	89号土坑跡	4区 SK-89	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	90号土坑跡	4区 SK-90	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	91号土坑跡	4区 SK-91	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	92号土坑跡	4区 SK-92	259	第390図	-	-	-	130	-	-
4区	93号土坑跡	4区 SK-93	259	第390図	-	-	-	131	-	-
4区	94号土坑跡	4区 SK-94	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	95号土坑跡	4区 SK-95	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	96号土坑跡	4区 SK-96	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	97号土坑跡	4区 SK-97	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	98号土坑跡	4区 SK-98	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	99号土坑跡	4区 SK-99	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	100号土坑跡	4区 SK-100	260	第391図	-	-	-	131	-	-
4区	101号土坑跡	4区 SK-101	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	102号土坑跡	4区 SK-102	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	103号土坑跡	4区 SK-103	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	104号土坑跡	4区 SK-104	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	105号土坑跡	4区 SK-105	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	106号土坑跡	4区 SK-106	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	107号土坑跡	4区 SK-107	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	108号土坑跡	4区 SK-108	260	第391図	-	-	-	132	-	-
4区	109号土坑跡	4区 SK-109	260	第391図	-	-	-	133	-	-
4区	110号土坑跡	4区 SK-110	4区 16号竪穴住居跡に改称							-
4区	111号土坑跡	4区 SK-111	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	112号土坑跡	4区 SK-112	261	第392図	-	-	-	133	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
4区	113号土坑跡	4区 SK-113	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	114号土坑跡	4区 SK-114	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	115号土坑跡	4区 SK-115	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	116号土坑跡	4区 SK-116	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	117号土坑跡	4区 SK-117	261	第392図	-	-	-	133	-	-
4区	118号土坑跡	4区 SK-118	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	119号土坑跡	4区 SK-119	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	120号土坑跡	4区 SK-120	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	121号土坑跡	4区 SK-121	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	122号土坑跡	4区 SK-122	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	123号土坑跡	4区 SK-123	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	124号土坑跡	4区 SK-124	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	125号土坑跡	4区 SK-125	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	126号土坑跡	4区 SK-126	261	第392図	-	-	-	134	-	-
4区	127号土坑跡	4区 SK-127	261	第392図	-	-	-	135	-	-
4区	128号土坑跡	4区 SK-128	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	129号土坑跡	4区 SK-129	261	第392図	-	-	-	135	-	-
4区	130号土坑跡	4区 SK-130	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	131号土坑跡	4区 SK-131	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	132号土坑跡	4区 SK-132	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	133号土坑跡	4区 SK-133	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	134号土坑跡	4区 SK-134	262	第393図	-	-	-	135	-	-
4区	135号土坑跡	4区 SK-135	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	136号土坑跡	4区 SK-136	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	137号土坑跡	4区 SK-137	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	138号土坑跡	4区 SK-138	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	139号土坑跡	4区 SK-139	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	140号土坑跡	4区 SK-140	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	141号土坑跡	4区 SK-141	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	142号土坑跡	4区 SK-142	262	第393図	-	-	-	136	-	-
4区	143号土坑跡	4区 SK-143	262	第393図	-	-	-	137	-	-
4区	144号土坑跡	4区 SK-144	262	第393図	-	-	-	137	-	-
4区	145号土坑跡	4区 SK-145	262	第393図	-	-	-	137	-	-
4区	146号土坑跡	4区 SK-146	263	第394図	-	-	-	137	-	-
4区	147号土坑跡	4区 SK-147	263	第394図	-	-	-	137	-	-
4区	148号土坑跡	4区 SK-148	263	第394図	-	-	-	137	-	-
4区	149号土坑跡	4区 SK-149	263	第394図	-	-	-	137	-	-
4区	150号土坑跡	4区 SK-150	263	第394図	-	-	-	137	-	-
4区	151号土坑跡	4区 SK-151	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	152号土坑跡	4区 SK-152	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	153号土坑跡	4区 SK-153	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	154号土坑跡	4区 SK-154	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	155号土坑跡	4区 SK-155	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	156号土坑跡	4区 SK-156	263	第394図	-	-	-	138	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
4区	157号土坑跡	4区 SK-157	263	第394図	-	-	-	138	-	-
4区	158号土坑跡	4区 SK-158	235	第346図	-	-	-	138	-	-
4区	159号土坑跡	4区 SK-159	264	第396図	264	第396図	264	139	274	-
4区	160号土坑跡	4区 SK-160	263	第394図	-	-	-	140	-	-
4区	161号土坑跡	4区 SK-161	264	第395図	-	-	-	140	-	-
4区	162号土坑跡	4区 SK-162	263	第394図	-	-	-	140	-	-
4区	163号土坑跡	4区 SK-163	264	第395図	-	-	-	140	-	-
4区	164号土坑跡	4区 SK-164	264	第395図	-	-	-	140	-	-
4区	165号土坑跡	4区 SK-165	264	第395図	-	-	-	140	-	-
4区	166号土坑跡	4区 SK-166	264	第397図	-	-	-	140	-	-
4区	167号土坑跡	4区 SK-167	264	第397図	-	-	-	140	-	-
4区	168号土坑跡	4区 SK-168	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	169号土坑跡	4区 SK-169	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	170号土坑跡	4区 SK-170	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	171号土坑跡	4区 SK-171	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	172号土坑跡	4区 SK-172	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	173号土坑跡	4区 SK-173	264	第397図	-	-	-	141	-	-
4区	174号土坑跡	4区 SK-174	265	第398図	-	-	-	141	-	-
4区	175号土坑跡	4区 SK-175	265	第398図	-	-	-	141	-	-
4区	176号土坑跡	4区 SK-176	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	177号土坑跡	4区 SK-177	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	178号土坑跡	4区 SK-178	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	179号土坑跡	4区 SK-179	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	180号土坑跡	4区 SK-180	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	181号土坑跡	4区 SK-181	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	182号土坑跡	4区 SK-182	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	183号土坑跡	4区 SK-183	265	第398図	-	-	-	142	-	-
4区	184号土坑跡	4区 SK-184	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	185号土坑跡	4区 SK-185	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	186号土坑跡	4区 SK-186	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	187号土坑跡	4区 SK-187	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	188号土坑跡	4区 SK-188	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	189号土坑跡	4区 SK-189	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	190号土坑跡	4区 SK-190	265	第398図	-	-	-	143	-	-
4区	191号土坑跡	4区 SK-191	265	第398図	-	-	-	-	-	-
6区	1号土坑跡	6区 SK-01	312	第473図	312	第473図	312	171	278	-
6区	2号土坑跡	6区 SK-02	312	第473図	-	-	-	171	-	-
7区	1号土坑跡	7区 SK-01	313	第475図	313	第475図	313	171	278	-
7区	2号土坑跡	7区 SK-02	313	第476図	313	第476図	313	171	278	-
7区	3号土坑跡	7区 SK-03	313	第476図	-	-	-	171	-	-
7区	4号土坑跡	7区 SK-04	314	第477図	314	第477図	314	171	278	-
7区	5号土坑跡	7区 SK-05	314	第477図	314	第477図	314	171	278	-
7区	6号土坑跡	7区 SK-06	315	第479図	315	第479図	315	172	278	-
7区	7号土坑跡	7区 SK-07	314	第478図	-	-	-	172	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
7区	8号土坑跡	7区SK-08	314	第478図	-	-	-	172	-	-
7区	9号土坑跡	7区SK-09	314	第478図	-	-	-	172	-	-
7区	10号土坑跡	7区SK-10	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	11号土坑跡	7区SK-11	315	第479図	315	第479図	315	172	278	-
7区	12号土坑跡	7区SK-12	315	第479図	315	第479図	315	172	278	-
7区	13号土坑跡	7区SK-13	301	第458図	-	-	-	172	-	-
7区	14号土坑跡	7区SK-14	316	第480図	-	-	-	172	-	-
7区	15号土坑跡	7区SK-15	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	16号土坑跡	7区SK-16	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	17号土坑跡	7区SK-17	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	18号土坑跡	7区SK-18	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	19号土坑跡	7区SK-19	316	第480図	316	第480図	317	173	278	-
7区	20号土坑跡	7区SK-20	316	第480図	-	-	-	173	-	-
7区	21号土坑跡	7区SK-21	316	第480図	316	第480図	317	173	278	-
7区	22号土坑跡	7区SK-22	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	1号土坑跡	8区SK-01	362	第528図	-	-	-	-	-	-
8区	2号土坑跡	8区SK-02	362	第528図	-	-	-	-	-	-
8区	3号土坑跡	8区SK-03	362	第528図	372	第539図	373	203	282	-
8区	4号土坑跡	8区SK-04	362	第528図	372	第539図	373	203	282	-
8区	5号土坑跡	8区SK-05	363	第529図	-	-	-	203	-	-
8区	6号土坑跡	8区SK-06	363	第529図	372	第539図	373	203	282	-
8区	7号土坑跡	8区SK-07	362	第528図	-	-	-	204	-	-
8区	8号土坑跡	8区SK-08	363	第529図	372	第539図	373	204	282	-
8区	9号土坑跡	8区SK-09	363	第529図	372	第539図	373	204	282	-
8区	10号土坑跡	8区SK-10	363	第529図	-	-	-	204	-	-
8区	11号土坑跡	8区SK-11	363	第529図	-	-	-	204	-	-
8区	12号土坑跡	8区SK-12	363	第529図	372	第539図	373	204	282	-
8区	13号土坑跡	8区SK-13	363	第529図	-	-	-	204	-	-
8区	14号土坑跡	8区SK-14	363	第529図	372	第539図	373	204	282	-
8区	15号土坑跡	8区SK-15	363	第529図	-	-	-	204	-	-
8区	16号土坑跡	8区SK-16	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	17号土坑跡	8区SK-17	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	18号土坑跡	8区SK-18	364	第530図	372	第539図	373	205	282	-
8区	19号土坑跡	8区SK-19	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	20号土坑跡	8区SK-20	364	第530図	372	第539図	373	205	282	-
8区	21号土坑跡	8区SK-21	364	第530図	-	第539図	-	205	282	-
8区	22号土坑跡	8区SK-22	364	第530図	372	第539図	374	205	282	-
8区	23号土坑跡	8区SK-23	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	24号土坑跡	8区SK-24	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	25号土坑跡	8区SK-25	364	第530図	-	-	-	205	-	-
8区	26号土坑跡	8区SK-26	365	第531図	-	-	-	206	-	-
8区	27号土坑跡	8区SK-27	365	第531図	-	-	-	206	-	-
8区	28号土坑跡	8区SK-28	365	第531図	-	-	-	206	-	-
8区	29号土坑跡	8区SK-29	365	第531図	-	-	-	206	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
8区	30号土坑跡	8区SK-30	365	第531図	-	-	-	-	-	206
8区	31号土坑跡	8区SK-31	365	第531図	-	-	-	-	-	206
8区	32号土坑跡	8区SK-32	365	第531図	-	-	-	-	-	206
8区	33号土坑跡	8区SK-33	365	第531図	-	-	-	-	-	206
8区	34号土坑跡	8区SK-34	365	第531図	-	-	-	-	-	206
8区	35号土坑跡	8区SK-35	363	第529図	-	-	-	-	-	207
8区	36号土坑跡	8区SK-36	365	第531図	372	第539図	374	207	282	-
8区	37号土坑跡	8区SK-37	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	38号土坑跡	8区SK-38	366	第532図	372	第539図	374	207	282	-
8区	39号土坑跡	8区SK-39	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	40号土坑跡	8区SK-40	366	第532図	372	第539図	374	207	282	-
8区	41号土坑跡	8区SK-41	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	42号土坑跡	8区SK-42	366	第532図	372	第539図	374	207	282	-
8区	43号土坑跡	8区SK-43	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	44号土坑跡	8区SK-44	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	45号土坑跡	8区SK-45	366	第532図	-	-	-	-	-	207
8区	46号土坑跡	8区SK-46	367	第533図	-	-	-	-	-	207
8区	47号土坑跡	8区SK-47	367	第533図	-	-	-	-	-	207
8区	48号土坑跡	8区SK-48	367	第533図	-	-	-	-	-	208
8区	49号土坑跡	8区SK-49	367	第533図	-	-	-	-	-	208
8区	50号土坑跡	8区SK-50	367	第533図	-	-	-	-	-	208
8区	51号土坑跡	8区SK-51	367	第533図	-	-	-	-	-	208
8区	52号土坑跡	8区SK-52	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	53号土坑跡	8区SK-53	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	54号土坑跡	8区SK-54	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	55号土坑跡	8区SK-55	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	56号土坑跡	8区SK-56	368	第534図	-	-	-	-	-	-
8区	57号土坑跡	8区SK-57	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	58号土坑跡	8区SK-58	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	59号土坑跡	8区SK-59	368	第534図	-	-	-	-	-	-
8区	60号土坑跡	8区SK-60	368	第534図	-	-	-	-	-	-
8区	61号土坑跡	8区SK-61	367	第533図	-	-	-	-	-	-
8区	62号土坑跡	8区SK-62	368	第534図	-	-	-	-	-	208
8区	63号土坑跡	8区SK-63	368	第534図	-	-	-	-	-	208
8区	64号土坑跡	8区SK-64	368	第534図	-	-	-	-	-	208
8区	65号土坑跡	8区SK-65	368	第534図	-	-	-	-	-	208
8区	66号土坑跡	8区SK-66	368	第534図	-	-	-	-	-	208
8区	67号土坑跡	8区SK-67	368	第534図	-	-	-	-	-	209
8区	68号土坑跡	8区SK-68	368	第534図	-	-	-	-	-	-
8区	69号土坑跡	8区SK-69	368	第534図	-	-	-	-	-	-
8区	70号土坑跡	8区SK-70	369	第535図	-	-	-	-	-	-
8区	71号土坑跡	8区SK-71	369	第535図	-	-	-	-	-	-
8区	72号土坑跡	8区SK-72	369	第535図	-	-	-	-	-	-
8区	73号土坑跡	8区SK-73	369	第535図	-	-	-	-	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考	
1・2区	410号Pit跡	1・2区P410	-	-	-	-	-	-	-	-	
1・2区	411号Pit跡	1・2区P411	-	-	-	-	-	-	-	-	
6区	1号Pit跡	6区P1	317	第481図	-	-	-	173	-	-	
7区	1号Pit跡	7区P1	317	第481図	317	-	317	173	-	-	
7区	2号Pit跡	7区P2	※調査時欠番							-	-
7区	3号Pit跡	7区P3	317	第481図	-	第481図	-	173	278	-	
7区	4号Pit跡	7区P4	※調査時欠番							-	-
7区	5号Pit跡	7区P5	317	第481図	-	-	-	173	-	-	
7区	6号Pit跡	7区P6	317	第481図	-	-	-	173	-	-	
8区	1号Pit跡	8区P1	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	2号Pit跡	8区P2	508	第647図	-	-	-	-	-	-	
8区	3号Pit跡	8区P3	-	-	-	-	-	206	-	-	
8区	4号Pit跡	8区P4	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	5号Pit跡	8区P5	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	6号Pit跡	8区P6	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	7号Pit跡	8区P7	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	8号Pit跡	8区P8	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	9号Pit跡	8区P9	378	第540図	-	-	-	211	-	-	
8区	10号Pit跡	8区P10	378	第540図	-	-	-	211	-	-	
8区	11号Pit跡	8区P11	378	第540図	-	-	-	211	-	-	
8区	12号Pit跡	8区P12	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	13号Pit跡	8区P13	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	14号Pit跡	8区P14	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	15号Pit跡	8区P15	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	16号Pit跡	8区P16	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	17号Pit跡	8区P17	378	第540図	-	-	-	211	-	-	
8区	18号Pit跡	8区P18	378	第540図	-	-	-	211	-	-	
8区	19号Pit跡	8区P19	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	20号Pit跡	8区P20	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	21号Pit跡	8区P21	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	22号Pit跡	8区P22	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	23号Pit跡	8区P23	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	24号Pit跡	8区P24	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	25号Pit跡	8区P25	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	26号Pit跡	8区P26	378	第540図	-	-	-	-	-	-	
8区	27号Pit跡	8区P27	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	28号Pit跡	8区P28	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	29号Pit跡	8区P29	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	30号Pit跡	8区P30	-	-	-	-	-	-	-	-	
8区	31号Pit跡	8区P31	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	32号Pit跡	8区P32	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	33号Pit跡	8区P33	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	34号Pit跡	8区P34	379	第541図	-	-	-	-	-	-	
8区	35号Pit跡	8区P35	379	第541図	-	-	-	-	-	-	

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
8区	36号Pit跡	8区P36	379	第541図	-	-	-	-	-	-
8区	37号Pit跡	8区P37	379	第541図	-	-	-	-	-	-
8区	38号Pit跡	8区P38	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	39号Pit跡	8区P39	379	第541図	-	-	-	-	-	-
8区	40号Pit跡	8区P40	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	41号Pit跡	8区P41	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	42号Pit跡	8区P42	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	43号Pit跡	8区P43	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	44号Pit跡	8区P44	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	45号Pit跡	8区P45	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	46号Pit跡	8区P46	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	47号Pit跡	8区P47	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	48号Pit跡	8区P48	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	49号Pit跡	8区P49	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	50号Pit跡	8区P50	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	51号Pit跡	8区P51	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	52号Pit跡	8区P52	380	第542図	-	-	-	-	-	-
8区	53号Pit跡	8区P53	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	54号Pit跡	8区P54	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	55号Pit跡	8区P55	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	56号Pit跡	8区P56	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	57号Pit跡	8区P57	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	58号Pit跡	8区P58	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	59号Pit跡	8区P59	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	60号Pit跡	8区P60	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	61号Pit跡	8区P61	370	第536図	-	-	-	-	209	-
8区	62号Pit跡	8区P62	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	63号Pit跡	8区P63	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	64号Pit跡	8区P64	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	65号Pit跡	8区P65	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	66号Pit跡	8区P66	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	67号Pit跡	8区P67	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	68号Pit跡	8区P68	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	69号Pit跡	8区P69	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	70号Pit跡	8区P70	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	71号Pit跡	8区P71	381	第543図	-	-	-	-	-	-
8区	72号Pit跡	8区P72	382	第544図	-	-	-	-	-	-
8区	73号Pit跡	8区P73	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	74号Pit跡	8区P74	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	75号Pit跡	8区P75	382	第544図	-	-	-	-	-	-
8区	76号Pit跡	8区P76	382	第544図	-	-	-	-	-	-
8区	77号Pit跡	8区P77	382	第544図	-	-	-	-	-	-
8区	78号Pit跡	8区P78	382	第544図	-	-	-	-	-	-
8区	79号Pit跡	8区P79	382	第544図	-	-	-	-	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
8区	898号Pit 跡	8区 P898	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	899号Pit 跡	8区 P899	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	900号Pit 跡	8区 P900	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	901号Pit 跡	8区 P901	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	902号Pit 跡	8区 P902	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	903号Pit 跡	8区 P903	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	904号Pit 跡	8区 P904	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	905号Pit 跡	8区 P905	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	906号Pit 跡	8区 P906	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	907号Pit 跡	8区 P907	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	908号Pit 跡	8区 P908	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	909号Pit 跡	8区 P909	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	910号Pit 跡	8区 P910	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	911号Pit 跡	8区 P911	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	912号Pit 跡	8区 P912	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	913号Pit 跡	8区 P913	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	914号Pit 跡	8区 P914	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	915号Pit 跡	8区 P915	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	916号Pit 跡	8区 P916	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	917号Pit 跡	8区 P917	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	918号Pit 跡	8区 P918	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	919号Pit 跡	8区 P919	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	920号Pit 跡	8区 P920	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	921号Pit 跡	8区 P921	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	922号Pit 跡	8区 P922	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	923号Pit 跡	8区 P923	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	924号Pit 跡	8区 P924	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	925号Pit 跡	8区 P925	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	926号Pit 跡	8区 P926	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	927号Pit 跡	8区 P927	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	928号Pit 跡	8区 P928	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	929号Pit 跡	8区 P929	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	930号Pit 跡	8区 P930	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	931号Pit 跡	8区 P931	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	932号Pit 跡	8区 P932	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	933号Pit 跡	8区 P933	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	934号Pit 跡	8区 P934	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	935号Pit 跡	8区 P935	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	936号Pit 跡	8区 P936	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	937号Pit 跡	8区 P937	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	938号Pit 跡	8区 P938	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	939号Pit 跡	8区 P939	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	940号Pit 跡	8区 P940	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	941号Pit 跡	8区 P941	-	-	-	-	-	-	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
8区	942号Pit 跡	8区 P942	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	943号Pit 跡	8区 P943	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	944号Pit 跡	8区 P944	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	945号Pit 跡	8区 P945	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	946号Pit 跡	8区 P946	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	947号Pit 跡	8区 P947	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	948号Pit 跡	8区 P948	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	949号Pit 跡	8区 P949	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	950号Pit 跡	8区 P950	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	951号Pit 跡	8区 P951	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	952号Pit 跡	8区 P952	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	953号Pit 跡	8区 P953	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	954号Pit 跡	8区 P954	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	955号Pit 跡	8区 P955	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	956号Pit 跡	8区 P956	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	957号Pit 跡	8区 P957	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	958号Pit 跡	8区 P958	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	959号Pit 跡	8区 P959	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	960号Pit 跡	8区 P960	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	961号Pit 跡	8区 P961	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	962号Pit 跡	8区 P962	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	963号Pit 跡	8区 P963	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	964号Pit 跡	8区 P964	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	965号Pit 跡	8区 P965	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	966号Pit 跡	8区 P966	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	967号Pit 跡	8区 P967	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	968号Pit 跡	8区 P968	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	969号Pit 跡	8区 P969	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	970号Pit 跡	8区 P970	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	971号Pit 跡	8区 P971	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	972号Pit 跡	8区 P972	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	973号Pit 跡	8区 P973	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	974号Pit 跡	8区 P974	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	975号Pit 跡	8区 P975	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	976号Pit 跡	8区 P976	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	977号Pit 跡	8区 P977	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	978号Pit 跡	8区 P978	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	979号Pit 跡	8区 P979	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	980号Pit 跡	8区 P980	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	981号Pit 跡	8区 P981	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	982号Pit 跡	8区 P982	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	983号Pit 跡	8区 P983	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	984号Pit 跡	8区 P984	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	985号Pit 跡	8区 P985	382	第544図	-	-	-	-	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考		
8区	2104号 Pit 跡	8区 P2104	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2105号 Pit 跡	8区 P2105	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2106号 Pit 跡	8区 P2106	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2107号 Pit 跡	8区 P2107	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2108号 Pit 跡	8区 P2108	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2109号 Pit 跡	8区 P2109	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2110号 Pit 跡	8区 P2110	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2111号 Pit 跡	8区 P2111	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2112号 Pit 跡	8区 P2112	-	-	-	-	-	-	-	-		
8区	2113号 Pit 跡	8区 P2113	※調査時欠番							-	-	-
8区	5001号 Pit 跡	8区 P5001	382	第544図	-	-	-	191	-	-		
8区	5002号 Pit 跡	8区 P5002	382	第544図	-	-	-	-	-	-		
8区	5003号 Pit 跡	8区 P5003	382	第544図	-	-	-	-	-	-		
8区	5004号 Pit 跡	8区 P5004	382	第544図	-	-	-	-	-	-		
8区	5005号 Pit 跡	8区 P5005	382	第544図	-	-	-	-	-	-		
8区	5006号 Pit 跡	8区 P5006	382	第544図	-	-	-	-	-	-		

井戸跡 13基

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	1号井戸跡	1・2区 SE-01	210	第304図	210	第304図	210	95	269	-
1・2区	2号井戸跡	1・2区 SE-02	210	第305図	-	-	-	95	-	-
1・2区	3号井戸跡	1・2区 SE-03	210, 211	第305, 306図	211	第306図	211	96	269	-
1・2区	4号井戸跡	1・2区 SK-31	212	第307図	213	第308図	213	97	269	-
1・2区	5号井戸跡	1・2区 SK-33	213, 214	第309図	-	-	-	98	-	-
1・2区	6号井戸跡	1・2区 SK-35	214	第310, 311図	214	第311図	215	99, 100	269	-
1・2区	7号井戸跡	1・2区 SK-74	215	第312図	215	第312図	215	100	269	-
4区	1号井戸跡	4区 SK-25	271	第399図	271	第399図	271	143	274	-
6区	1号井戸跡	6区 SE-01	319	第482図	-	-	-	174	-	-
7区	1号井戸跡	7区 SE-01	319	第483図	-	-	-	174	-	-
7区	2号井戸跡	7区 SE-02	319	第483図	-	-	-	174	-	-
7区	3号井戸跡	7区 SE-03	-	-	-	-	-	-	-	-
8区	1号井戸跡	8区 SE-01	407-409	第545-547図	409	第547図	409	212	-	-

溝跡 88条

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	1号溝跡	1・2区 SD-01	419, 422	第558-559図	419	第558図	522	219	-	-
1・2区	2号溝跡	1・2区 SD-02	421, 422	第560, 561図	421	第560図	522	219	-	-
1・2区	3号溝跡	1・2区 SD-03	423-425	第562-564図	425	第564図	522	219, 222	285	-
1・2区	4号溝跡	1・2区 SD-04	421, 422	第562-564図	422	第561図	522	219	285	-
1・2区	5号溝跡	1・2区 SD-05	430, 431	第569, 570図	430	第569図	522	219, 221	286	-
1・2区	6号溝跡	1・2区 SD-06	431	第570図	-	-	-	221	-	-
1・2区	7号溝跡	1・2区 SD-07	430, 431	第569, 570図	431	第570図	522	221	286	-
1・2区	8号溝跡	1・2区 SD-08	432, 438, 439	第571図	432	第571図	522, 523	214	282, 283	-
1・2区	9号溝跡	1・2区 SD-09	433-439	第572-578図	433-437	第572-576図	522-525	214, 216	283, 284	-
3区	9号溝跡	3区SD-09	433	第572図	433	第572図	-	-	284	-
1・2区	10号溝跡	1・2区 SD-10	426, 427	第565, 566図	-	-	-	220	-	-

調査区	遺構名	旧称	遺構実測図	挿入番号	遺物実測図	挿入番号	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	備考
1・2区	11号溝跡	1・2区 SD-11	427	第566図	-	-	-	-	220	-
1・2区	12号溝跡	1・2区 SD-12	428, 429	第567, 568図	429	第568図	526	222	286	-
1・2区	13号溝跡	1・2区 SD-13	419	第558図	-	-	-	223	-	-
1・2区	14号溝跡	1・2区 SD-14	421	第560図	-	-	-	223	-	-
1・2区	15号溝跡	1・2区 SD-15	423	第562図	-	-	-	224	-	-
1・2区	16号溝跡	1・2区 SD-16	440-442	第579-581図	-	-	-	225	-	-
3区	16号溝跡	3区SD-16	442	第581図	-	-	-	-	-	-
1・2区	17号溝跡	1・2区 SD-17	443	第582図	443	第582図	527	224	286	-
4区	1号溝跡	4区SD-01	464, 468	第603, 607図	468	第607図	527	226	286	-
4区	2号溝跡	4区SD-02	459	第598図	-	-	-	-	-	-
4区	3号溝跡	4区SD-03	459	第598図	-	-	-	-	-	-
4区	4号溝跡	4区SD-04	448-453	587-592	-	-	-	227	-	-
4区	5号溝跡	4区SD-05	448	第587図	-	-	-	-	-	-
4区	6号溝跡	4区SD-06	448, 449, 451, 454	第587-590, 593図	-	-	-	225	-	-
4区	7号溝跡	4区SD-07	455	第594図	-	-	-	227	-	-
4区	8号溝跡	4区SD-08	466-470	第605-609図	466	第605図	523	216	285	-
4区	9号溝跡	4区SD-09	462-465	第601-604図	465	第604図	526	216	285	-
4区	10号溝跡	4区SD-10	456-458	第595-597図	458	第597図	526	221, 222	286	-
4区	11号溝跡	4区SD-11	451-453	第587-592図	451	第590図	526	227	285	-
4区	12号溝跡	4区SD-12	452, 453	第591, 592図	-	-	-	227	286	-
4区	13号溝跡	4区SD-13	450, 457	第598, 596図	-	-	-	-	-	-
4区	14号溝跡	4区SD-14	460	第599図	-	-	-	-	-	-
4区	15号溝跡	4区SD-15	460	第599図	-	-	-	178	-	-
4区	16号溝跡	4区SD-16	461	第600図	-	-	-	227	-	-
4区	17号溝跡	4区SD-17	461	第600図	-	-	-	228	-	-
4区	18号溝跡	4区SD-18	461	第600図	-	-	-	228	-	-
4区	19号溝跡	4区SD-19	447	第586図	-	-	-	221	-	-
4区	20号溝跡	4区SD-20	447	第586図	-	-	-	221	-	-
4区	21号溝跡	4区SD-21	447	第586図	-	-	-	221	-	-
4区	22号溝跡	4区SD-22	461	第600図	-	-	-	-	-	-
4区	23号溝跡	4区SD-23	447	第586図	-	-	-	-	-	-
4区	24号溝跡	4区SD-24	458	第597図	-	-	-	-	-	-
4区	25号溝跡	4区SD-25	447	第586図	-	-	-	-	-	-
6区	1号溝跡	6区SD-01	476-478	第615-617図	-	-	-	-	-	-
6区	2号溝跡	6区SD-02	476-478, 479	第615-617, 618図	-	-	-	-	-	-
6区	3号溝跡	6区SD-03	476-478	第615-617図	477	第616図	527	228	286	-
6区	4号溝跡	6区SD-04	476-478	第615-617図	477	第616図	527	228	286	-
6区	5号溝跡	6区SD-05	480	第619図	-	-	-	-	-	-
6区	6号溝跡	6区SD-06	480	第619図	-	-	-	-	-	-
6区	7号溝跡	6区SD-07	-	-	-	-	-	-	-	-
6区	8号溝跡	6区SD-08	473-475	第612-614図	-	-	-	216	-	-
6区	9号溝跡	6区SD-09	473-475	第612-614図	474	第613図	526	217	285	-
6区	10号溝跡	6区SD-10	481	第620図	481	第620図	527	228	286	-

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考
6区	11号溝跡	6区SD-11	481	第620図	-	-	-	228	-	-
6区	12号溝跡	6区SD-12	481	第620図	-	-	-	228	-	-
6区	13号溝跡	6区SD-13	482.483	第621.622 図	-	-	-	228	-	-
6区	14号溝跡	6区SD-14	482	第621図	-	-	-	229	-	-
6区	15号溝跡	6区SD-15	482.483	第621.622 図	482	第621図	527	229	286	-
7区	1号溝跡	7区SD-01	486-492	第625-631 図	489	第628図	528	177	286	-
7区	2号溝跡	7区SD-02	486-492	第625-631 図	487.489	第626.628 図	528	-	286	-
7区	3号溝跡	7区SD-03	487-489	第626-628 図	488	第627図	528	229	286	-
7区	4号溝跡	7区SD-04	493	第632図	-	-	-	229	-	-
7区	5号溝跡	7区SD-05	494.495	第633.634 図	-	-	-	229	-	-
7区	6号溝跡	7区SD-06	494.195	第633.634 図	-	-	-	229	-	-
7区	7号溝跡	7区SD-07	496	第635図	-	-	-	-	-	-
7区	8号溝跡	7区SD-08	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	9号溝跡	7区SD-09	-	-	-	-	-	-	-	-
7区	10号溝跡	7区SD-10	496	第635図	-	-	-	-	-	-
7区	11号溝跡	7区SD-11	497.498	第636.637 図	-	-	-	-	-	-
8区	1号溝跡	8区SD-01	513.514.516	第652.653.655 図	-	-	-	-	-	-
8区	2号溝跡	8区SD-02	513.514	第652.653 図	-	-	-	-	-	-
8区	3号溝跡	8区SD-03	514.516	第653.655 図	-	-	-	229	-	-
8区	4号溝跡	8区SD-04	515.519-521	第654.658-660 図	520	第659図	528	229	286	-
8区	5号溝跡	8区SD-05	515	第654図	-	-	-	229	-	-
8区	6号溝跡	8区SD-06	515	第654図	-	-	-	229	-	-
8区	7号溝跡	8区SD-07	508	第647図	508	第647図	528	229	286	-
8区	8号溝跡	8区SD-08	501-507	第640-646 図	501	第640図	523	216.217.219	285	-
8区	9号溝跡	8区SD-09	501-507	第640-646 図	501	第640図	523	216.217.219	285	-
8区	10号溝跡	8区SD-10	509.51	第648.649 図	-	-	-	230	-	-
8区	11号溝跡	8区SD-11	508	第647図	-	-	-	229	-	-
8区	12号溝跡	8区SD-12	514	第653図	-	-	-	-	-	-
8区	13号溝跡	8区SD-13	517.518	第656.657 図	-	-	-	-	-	-
8区	14号溝跡	8区SD-14	519	第658図	-	-	-	-	-	-
8区	15号溝跡	8区SD-15	519	第658図	-	-	-	-	-	-
8区	16号溝跡	8区SD-16	519	第658図	-	-	-	230	-	-
8区	17号溝跡	8区SD-17	519	第658図	-	-	-	230	-	-
8区	18号溝跡	8区SD-18	511.512	第650.651 図	511	第650図	528	230	286	-

その他の遺構

調査区	遺構名	旧称	遺構 実測図	挿図 番号	遺物 実測図	挿図 番号	遺物 観察表	遺構 写真	遺物 写真	備考		
1・2区	1号埋裏	1・2区1号埋裏	11	第6図	11	第6図	11	2	235	-		
6区	1号埋裏	6区1号埋裏	11	第6図	11.12	第6.7図	12	2	235	-		
6区	2号埋裏	6区2号埋裏	12	第7図	12	第7図	13	2	235	-		
7区	1号埋裏	7区1号埋裏	13	第8図	13	第8図	14	3	236	-		
7区	2号埋裏	7区2号埋裏	13	第8図	13.14	第8.9図	14	3	236	-		
7区	3号埋裏	7区3号埋裏	14	第9図	14	第9図	14	3	236	-		
7区	4号埋裏	7区4号埋裏	15	第10図	15	第10図	15	3	236	-		
7区	5号埋裏	7区5号埋裏	15	第10図	15	第10図	15	3	237	-		
7区	6号埋裏	7区6号埋裏	16	第11図	16	第11図	16	4	237	-		
1・2区	1号不明遺構	1・2区SX-01	222	第319図	-	-	-	102	-	-		
8区	1号不明遺構	8区SX-01	※調査時欠番							-	-	-
8区	2号不明遺構	8区SX-02	411	第551図	411	第551図	412	-	282	-		
8区	3号不明遺構	8区SX-03	412	第552図	-	-	-	-	-	-		
8区	4号不明遺構	8区SX-04	412	第553図	413	第554図	413	-	282	-		
1・2区	1号土器集中	1号土器集中	216	第313図	216-219	第313-316図	219.22	101	269-271	-		
1・2区	2号土器集中	2号土器集中	221	第317図	221	第317図	221	101	271	-		
1・2区	3号土器集中	3号土器集中	-	-	-	-	-	-	-	-		
1・2区	4号土器集中	4号土器集中	221	第318図	221	第318図	221	-	271	-		
4区	1号集石遺構	1号集石遺構	271.272	第400.401 図	273	第402図	273	144	274	-		
4区	2号集石遺構	2号集石遺構	274	第403図	274	第403図	274	144	274	-		
7区	1号集石遺構	1号集石遺構	-	-	-	-	-	178	-	-		
7区	2号集石遺構	2号集石遺構	-	-	-	-	-	178	-	-		
7区	3号集石遺構	3号集石遺構	-	-	-	-	-	178	-	-		
4区	1号杭列	1号杭列	529	第661図	-	-	-	232	-	-		
4区	2号杭列	2号杭列	529	第661図	-	-	-	-	-	-		
1・2区	畚跡	畑跡	536-545	第669-678 図	-	-	-	231	-	-		
4区	畚跡	1-7号畑跡	564-550	第679-683 図	-	-	-	232	-	-		
6区	畚跡	1-2号畑跡	551.552	第684.685 図	-	-	-	232	-	-		
6区	近現代畑跡	近現代畑跡	553	第686図	-	-	-	233	-	-		
7区	畚跡	畚跡	554	第687図	-	-	-	-	-	-		
7区	水田跡	水田跡	554	第687図	-	-	-	233	-	-		
8区	畚跡	1・2号耕作痕	555-557	第688-690 図	-	-	-	233	-	-		
5-7区	河川氾濫跡	6・7区大溝跡	561-568	第693-698 図	569-585	第699-715図	586-600	233.234	288-302	-		

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

北関東自動車道(伊勢崎～群馬栃木県境間)建設事業に伴い、群馬県教育委員会では埋蔵文化財分布状況の詳細確認を行うため、沿線の伊勢崎市・佐波郡東村・新田郡敷塚本町・太田市の2市1町1村に協力要請を行い、遺跡の確認作業に入った。伊勢崎～県境間の建設に伴う計画路線に関わる埋蔵文化財発掘調査については、群馬県教育委員会スポーツ文化部文化財保護課、群馬県土木部道路建設課高速道路対策室、日本道路公団の三者で協議した結果、本線部分の発掘調査及び県道(側道)についての発掘調査は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなり、平成12年8月に日本道路公団東京建設局長、群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者により協定書を締結、これに基づき道路公団と事業団との間で契約を結び、平成12年度より伊勢崎～群馬栃木県境間17.7kmについての発掘調査が開始された。太田市東今泉町に所在する当遺跡は、平成15・16年度に調査の対象となった。(注:市町村および機関はすべて当時の名称)

第2節 調査の方法と経過

鹿島浦遺跡は、高速道インターチェンジ部に当たるため、総面積48,483㎡を測る。平成15年7月から準備を開始し、調査対象域内を現有道を境に1～8区の調査区に分割(後掲調査区設定図参照)し、開始当初は調査担当者2名をもって、5区・6区・7区を対象に調査を進めることとした。平成16年1月以降は、次年度調査を円滑に進めるため、対象区の範囲確認～表土掘削を先行して行うと共に、1月には検出された東山道駅路を中心とした現地説明会を開催した。

翌年度を迎え4月より体制を新たに4区・8区・1～3区を対象に、隣接農地の耕作時期等との調整を図りつつ調査を進め、調査区毎に調査を終えた時点で埋め戻し、平成16年3月31日をもって終了した。

【平成15年度】

8月19日 調査事務所設置、調査開始(調査担当者=関根・土谷)
 8月21日 7区表土除去作業開始
 8月26日 並行して7区遺構確認作業開始、測量杭打設
 9月5日 7区遺構掘削作業開始
 9月中 降雨のため作業休止日続く
 10月6日 7区調査に並行して5区・6区範囲確認調査開始
 10月16日 7区調査に並行して6区表土除去作業開始
 10月24日 6区遺構確認作業開始、測量杭打設
 11月4日 7区遺構調査、6区遺構(水田・畠跡)掘削作業開始
 11月7日 7区-1・2航空写真撮影
 11月12日 7区遺構調査、6区水田・畠跡調査、5区畠跡調査
 11月26日 7区-1下面遺構確認作業～遺構掘削・調査
 12月4日 7区-1調査に並行して6区遺構確認作業
 12月12日 7区-1調査終了
 12月18日 6区遺構確認作業～遺構(溝跡)掘削開始
 12月24日 年内作業終了
 1月7日 調査再開、6区遺構調査
 1月15日 木下良、武部健一両先生指導
 1月25日 遺跡現地説明会開催(来場者259名)
 1月28日 6区遺構調査、7区旧石器試掘調査開始
 2月9日 6区航空写真撮影
 2月16日 6・7区調査に並行して4区範囲確認調査開始
 2月16日 調査担当者=関根・土谷・廣津・小林
 2月23日 8区表土除去作業開始
 2月25日 7区旧石器試掘調査開始
 3月2日 6区・7区大溝跡掘削作業
 3月10日 8区-1遺構確認作業～調査
 3月16日 6区谷部掘削・旧石器試掘調査開始
 3月23日 年度内調査終了
 3月24日 7区-1・2埋め戻し作業
 3月26日 6区埋め戻し作業

【平成16年度】

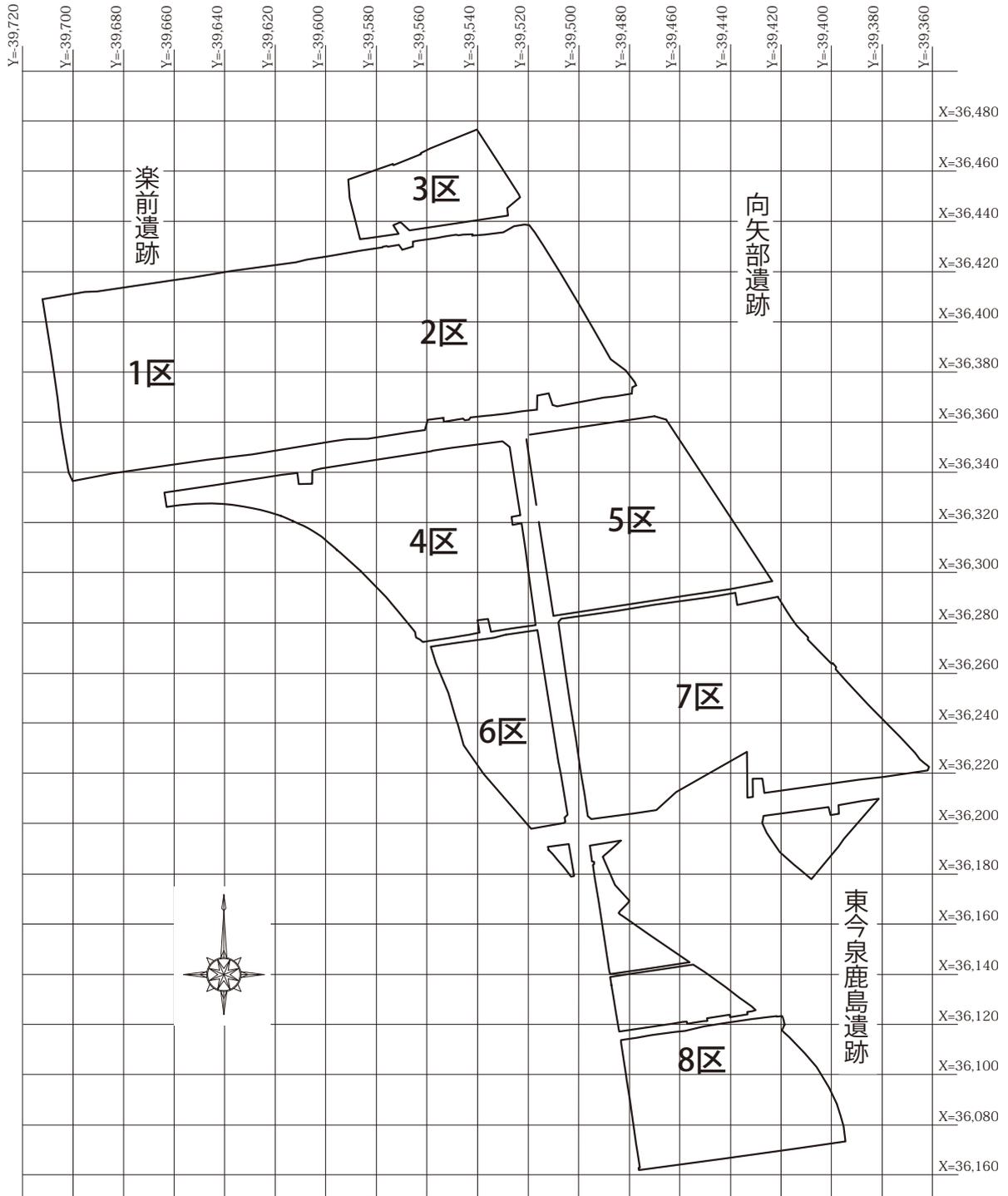
4月8日 発掘調査作業再開、(調査担当者=関根・新倉・土谷・横山)
 4月9日 8区-2・3及び4区遺構確認作業
 4月21日 8区遺構確認作業～遺構掘削(溝跡)作業開始
 4月23日 並行して7区-3表土除去作業開始

4月26日 4区遺構確認作業～遺構(住居跡)掘削開始
 4月27日 測量杭打設
 5月13日 8区-2・3及び4区-2航空写真撮影
 5月14日 7区-3遺構確認作業、8区洪水氾濫層除去作業
 5月24日 8区洪水氾濫下遺構確認作業～遺構掘削作業開始
 5月24日 1・2区表土掘削作業開始、4区・8区遺構調査
 6月2日 1・2区遺構確認作業、7区旧石器試掘調査開始
 6月中 降雨による現場休止続く
 6月9日 1・2区湧水のため調査難航、水切り溝及び排水施設設置
 6月11日 1・2・4区降雨のため水没、排水作業
 6月21日 7区-3調査終了埋め戻し
 6月28日 8区調査、1・2区遺構掘削作業開始
 8月2日 調査担当者=新倉・土谷・斎藤・横山
 8月12日 現場休止(お盆休み)
 8月17日 調査再開、4区調査、8区水没のため排水作業
 8月18日 1区遺構確認～掘削作業、4区・8区並行調査
 9月16日 1・2区航空写真撮影
 9月27日 10月初旬にかけて降雨
 10月12日 8区調査終了～埋め戻し
 10月15日 1・2区、4区航空写真(実機)撮影
 10月18日 降雨による現場休止続く
 11月中 1・2区、4区並行調査。中頃より3区調査開始
 12月1日 1・2区、4区並行調査。3区航空写真撮影
 12月8日 3区調査終了～埋め戻し
 12月14日 4区航空写真撮影
 12月20日 4区調査終了～埋め戻し
 12月22日 年内調査終了～外周安全対策
 12月28日 年内作業終了
 1月6日 調査再開、1・2区調査
 2月16日 降雪のため作業休止
 3月9日 1・2区航空写真撮影
 3月18日 調査終了
 3月22日 1・2区埋め戻し。調査事務所撤収準備
 3月23日 調査終了諸手続(発見届等)
 3月30日 埋め戻し完了。プレハブ解体

第1章 発掘調査の概要

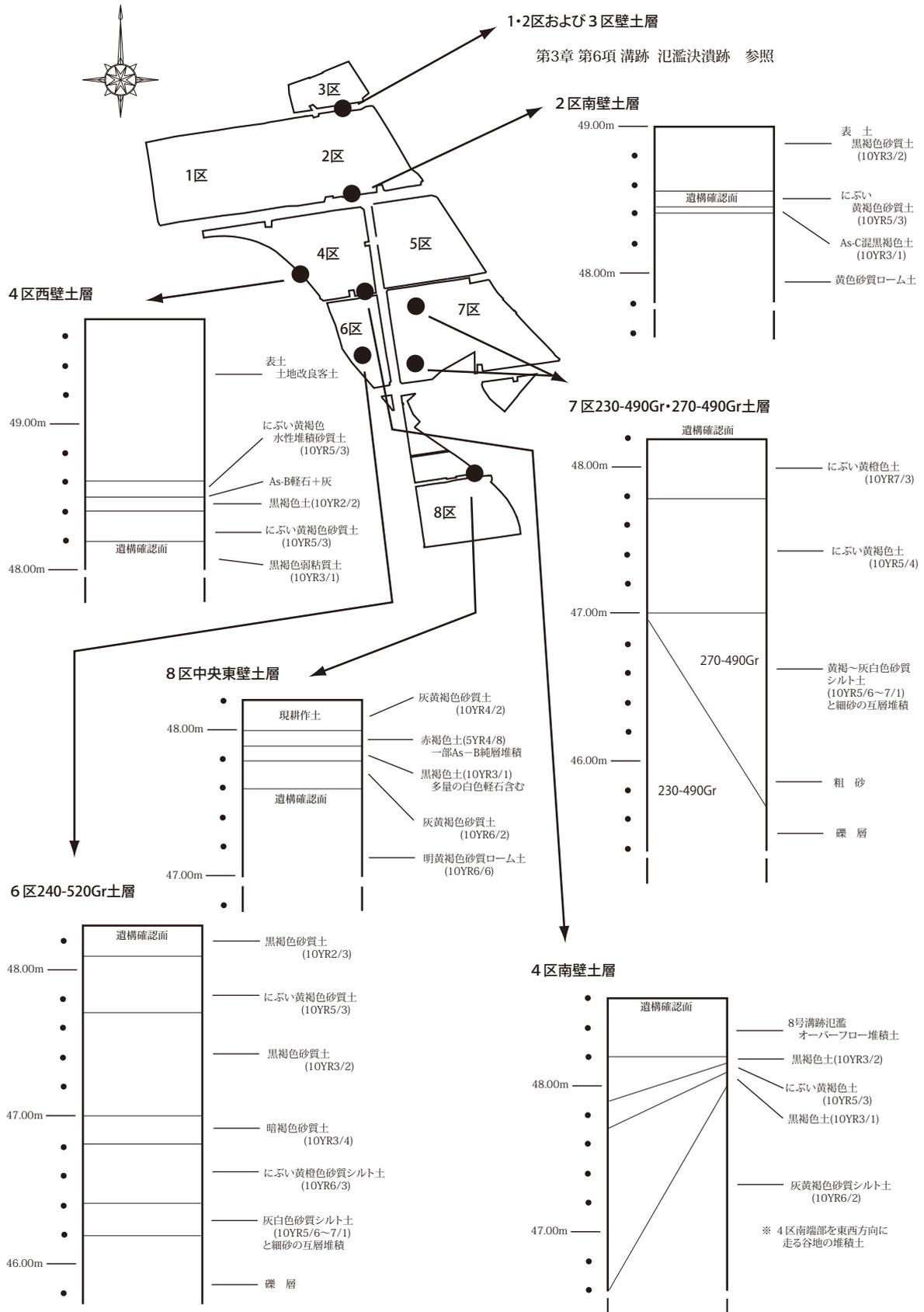
調査に際し設定した調査区については、アラビア数字をもって呼称し、グリッドについては国家座標第IX系を用いて調査時の平面測量等を行った。グリッドの呼称については、一般的なアルファベットと数字の組合わせによる任意の設定を行わず、X・Yの座標値の下3桁を連ねて位置の呼称とした。また、検出遺構の名称については、各調査区毎の連番を原則とし、調査時においてはアルファベット略号(SJ・SB・SE・SD等)を用いて命名した。

遺構の図化記録については、原則1/20の縮尺とし、一部1/10・1/40・1/100等の縮尺を用いた。写真記録については、35mmモノクロISO400・35mmリバーサルISO200・6×7ブローニー判モノクロISO400のフィルムを用いて調査担当者が撮影を行った。掘削作業、重機掘削作業、基準点・水準点測量作業、デジタル測量作業、航空写真撮影等の実施については専門業者に委託し行った。



第1図 鹿島浦遺跡 調査区設定図 S=1:2,500

第3節 基本土層



第2図 基本土層図

第2章 周辺の環境

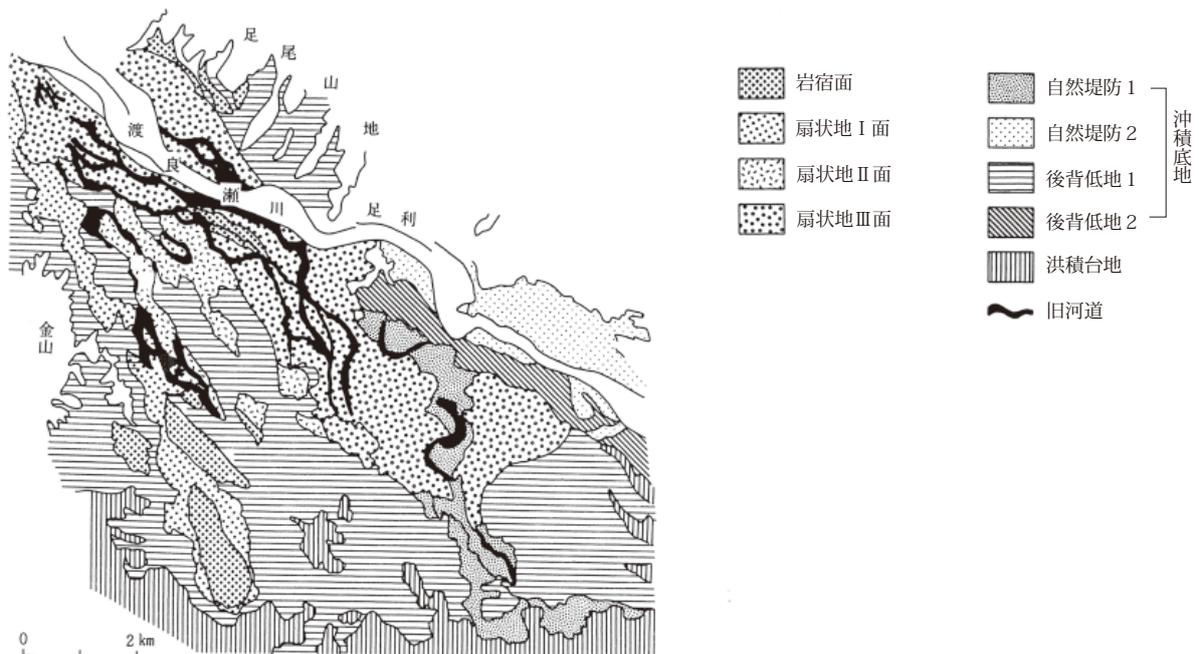
第1節 地理的環境

遺跡の所在する周辺の地形は、金山丘陵（標高約 236m）と八王子丘陵（標高約 294m = 桐生市茶白山）および、その周辺の台地・低地および渡良瀬川で構成される。金山丘陵・八王子丘陵は、元々は足尾山地よりの延端部であったものが、断層が生じ、さらに大間々扇状地を形成した渡良瀬川が約 24,000 年前ころから流路を東に変えたことにより、現在の独立丘陵となったとされる。

大間々扇状地は、渡良瀬川が足尾山地を流れ出る谷口にあたる大間々町（標高約 200m）を扇頂とし、西は赤城山南東斜面、東は八王子丘陵・金山丘陵を限りとする東西約 14km、南北約 16km に及ぶ関東地方で三番目に大きな扇状地である。大量の砂礫を堆積させた渡良瀬川は、その後に現在の河道へと移動したため、扇中央部には河川がなく乾燥した土地となった。一方、基盤層である厚い砂礫層を流れ伝わる地下水や扇状地上に降った雨水は浸透し、扇端部で湧水として湧出する。この湧水点を源として小河川が生まれ、南側の利根川に沿って帯状に形成された自然堤防との間に沖積低地を形成した。八王子丘陵・金山丘陵の西側は、この大間々扇状地（敷塚面）の扇端部に当たるため、等高線に沿うように湧水池が数多く点在し、「寺井・小金井・上野井・市野井・金井」など「井」の付く地名が連なる。その南側には洪積台地である由良（宝泉）台地が延び、周辺は沖積地となる。

また、本遺跡が所在する八王子丘陵・金山丘陵の東側から現渡良瀬川河道との間の地形は、渡良瀬川の流路変更以前に形成された葦川台地や流路変更後に形成された渡良瀬川扇状地・旧河道・沖積地となる。渡良瀬川扇状地は、桐生市赤岩橋付近（標高約 120m）を扇頂とし、太田市下小林から栃木県足利市御厨を扇端部とする南北 18km 東西 7.5km に及ぶ扇状地で、渡良瀬川の東遷により形成された時期の異なる 3 面で構成される。扇状地面は南北に細長く、旧河道や沖積地が入り乱れ、複雑な地形となる。遺跡は、この渡良瀬川扇状地Ⅱ面上にあり、前掲の基本土層に示したとおり、その基盤層には扇状地砂礫層や洪水層の堆積が認められる。

この渡良瀬川扇状地については、隣接遺跡である大道東遺跡の調査報告（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 464 集「大道東遺跡（1）—縄文時代編—」）に、渡良瀬川扇状地上に点在する北関東自動車道地域等の近年の発掘調査事例と従来の渡良瀬川扇状地研究との若干の齟齬について担当者の私見を記されているので参照願いたい。



第3図 渡良瀬川扇状地の地質区分図（「太田市史」1996 沢口原図より）

第2節 歴史的環境

旧石器時代から中・近世に至る通史的環境については、隣接遺跡の調査報告である「楽前遺跡(1)」(2009年刊財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第454集)に詳しい報告があるので、ここでは、本遺跡より検出された遺構の時代についての概観のみを述べるにとどめる。

奈良・平安時代

〈東山道駅路〉 北関東自動車道関連の太田市域の発掘調査により、八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡の4遺跡から、巾約13mを測り、両側に側溝を有する道路状遺構が検出された。この道路状遺構は4遺跡間の約1kmほどの距離をほぼ直線で結ぶことから、古代官道としての東山道駅路であろうと推察される。

東山道は古代の地域区分である五畿七道のひとつで、近江・美濃・飛騨・信濃・上野・武蔵(後に東海道)・下野・陸奥・出羽の九つの国からなると同時に、都を起点に全国に向けて造られた七つの官道のひとつでもある。官道には規程により30里(約16km)毎に駅家(うまや)が設置され、駅馬が配置されると共に休憩宿泊施設が設けられた。上野国内には坂本(碓氷郡)・野後(碓氷郡)・群馬(群馬郡)・佐佐(佐佐郡)・新田(新田郡)の5駅が置かれていたことが『延喜式』に見える。特に新田駅は上野より下野へ向かう東山道駅路と武蔵へ向かう幹道との分岐点であり、交通の要衝であったと考えられる。

この東山道駅路に対する考古学的検証は、これまで県内各地で検出された古代幹線路に比定される道路状遺構調査事例から、9世紀以降の推定国府付近を通るルートや7世紀後半から8世紀代の牛堀・矢ノ原ルート、および県南部を通るルート等が想定されてきた。前記の太田市域検出の4事例については、重複する住居跡等の年代から、6世紀代より新しく、かつ8世紀中葉より古いものであると推定されるが、4事例共に現在整理作業中もしくは未整理状態にあり、今後、遺構に対する詳細な報告の後に、更なる検討がなされるものと思われる。

〈寺院・官衙跡〉 金山丘陵西北の寺井・天良地区から小金井・市野井(旧新田町)にかけての地域には、大型掘立柱建物跡・礎石建物跡や瓦の出土などから古代寺院跡や地方官衙跡に比定される遺跡が多く存在する。寺院跡としては、8世紀中葉の小規模寺院跡と推定される釣堂遺跡や7世紀後半の創建と推定される寺井廃寺がある。また、官衙的な遺跡としては、新田郡の郡家倉庫跡と推定される礎石建物跡が検出された天良七堂遺跡のほか、小金井入谷でも礎石建物跡や瓦が検出され、未整理遺跡ではあるが、北関東自動車道関連の八ヶ入遺跡・楽前遺跡・向矢部遺跡・鹿島浦遺跡等より三彩陶器片・軒丸瓦片・円面硯・獣脚円面硯・漆紙文書など、近隣に寺院・官衙的施設の存在を想わせる遺物の出土もある。

〈生産跡〉 金山丘陵周辺地域には、菅ノ沢遺跡や高太郎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡など、古くから製鉄窯跡や須恵器窯跡群が数多く点在することが知られている。北関東自動車道関連の峯山遺跡では、製鉄炉や鍛冶工房遺構などが検出されると共に、製鉄関連集団の居住域としての集落跡も検出された。この峯山遺跡と併せ、同じく北関東自動車道関連の西野原遺跡でも同様の製鉄関連遺構が検出され、両遺跡合わせて7基の箱形炉・出土鉄滓量に至っては数十トンにもおよび、7世紀後半代の製鉄関連遺跡としては国内でも最大級の規模となり、この金山丘陵周辺地域は有数の工業地帯であったといえる。

また、農業生産跡として、上強戸遺跡群から、7世紀末から8世紀前半頃と考えられる厚い洪水堆積物に覆われた水田跡が広域に渡り検出された。水田跡の遺存状況は良好で、畦を境にして耕作・整備状況の異なる水田面や埋没水田と時期を同じくする用水路跡なども検出されている。この用水路跡には木樋の出土や複数の分岐溝があり、周辺一帯の幹線用水路であったと考えられる。同遺跡からは、天仁元(1108)年の浅間山噴火による火山灰で埋没した水田跡も検出されている。同噴火による埋没水田跡の検出例として、他に前沖遺跡などがあり、この火山災害は県内の他地域と同様に、この地域の田畑に壊滅的な打撃をもたらした。

鎌倉・室町時代以降

〈新田荘〉 本遺跡の位置する太田市域の中世を語る上で最も重要である新田荘は、平安時代末から鎌倉時代初頭にかけて上野国新田郡一円に成立した荘園である。

清和源氏の八幡太郎源義家の子義国が足利に下向し坂東に土着。その子新田義重(源義重)が新田の地に入部して再

第2章 周辺の環境

開発に努め、保元2(1157)年に左衛門督家藤原忠雅・金剛心院に寄進し、義重は下司職に任命立券された。新田荘は義重の子孫に相続され、東国武士団としての新田一族の基盤となった。荘園域は赤城南麓を北端に、南は利根川の自然堤防、東は八王子・金山丘陵、西は早川沿岸を境とした。本遺跡は、新田荘東端部付近に位置することになる。荘園水田開発に欠くことのできない水源として、前記の地理的環境の項に記した大間々扇状地上に点在する湧水点の存在が大きい。河川の少ない扇状地上にあつて地表下を流れる伏流水は重要な水源となった。また、荘園の飛躍的な規模拡大の要因となったことは、この地が新田開発ではなく、天仁元(1108)年の浅間山噴火災害により埋没した律令期水田の復興にあったからと推察される。新田開発が用地の削平や新規用水路の確保を要するのに対して、埋没水田の復興は労力が少なく、かつ生産の確実性が高い。新田荘域における埋蔵文化財発掘調査で検出される浅間山B軽石下水田遺構の様相、即ち、復興の痕跡の有無を調査することで新田荘域の再開を考古学的に検証することができるものと考えられる。〈新田荘遺跡〉平成12年に旧太田市・旧新田町・旧尾島町(現在は合併し太田市)の広域にわたる11ヶ所の寺社・館跡・湧水地など新田氏関係の遺跡を一括して「新田荘遺跡」として史跡指定される。円福寺境内・十二所神社・生品神社境内・江田館跡・反町館跡・重殿水源・矢田神水源・総持寺境内・長楽寺境内・東照宮境内・明王院境内の11ヶ所におよぶ新田荘関係の中世遺跡を面的にとらえての指定である。

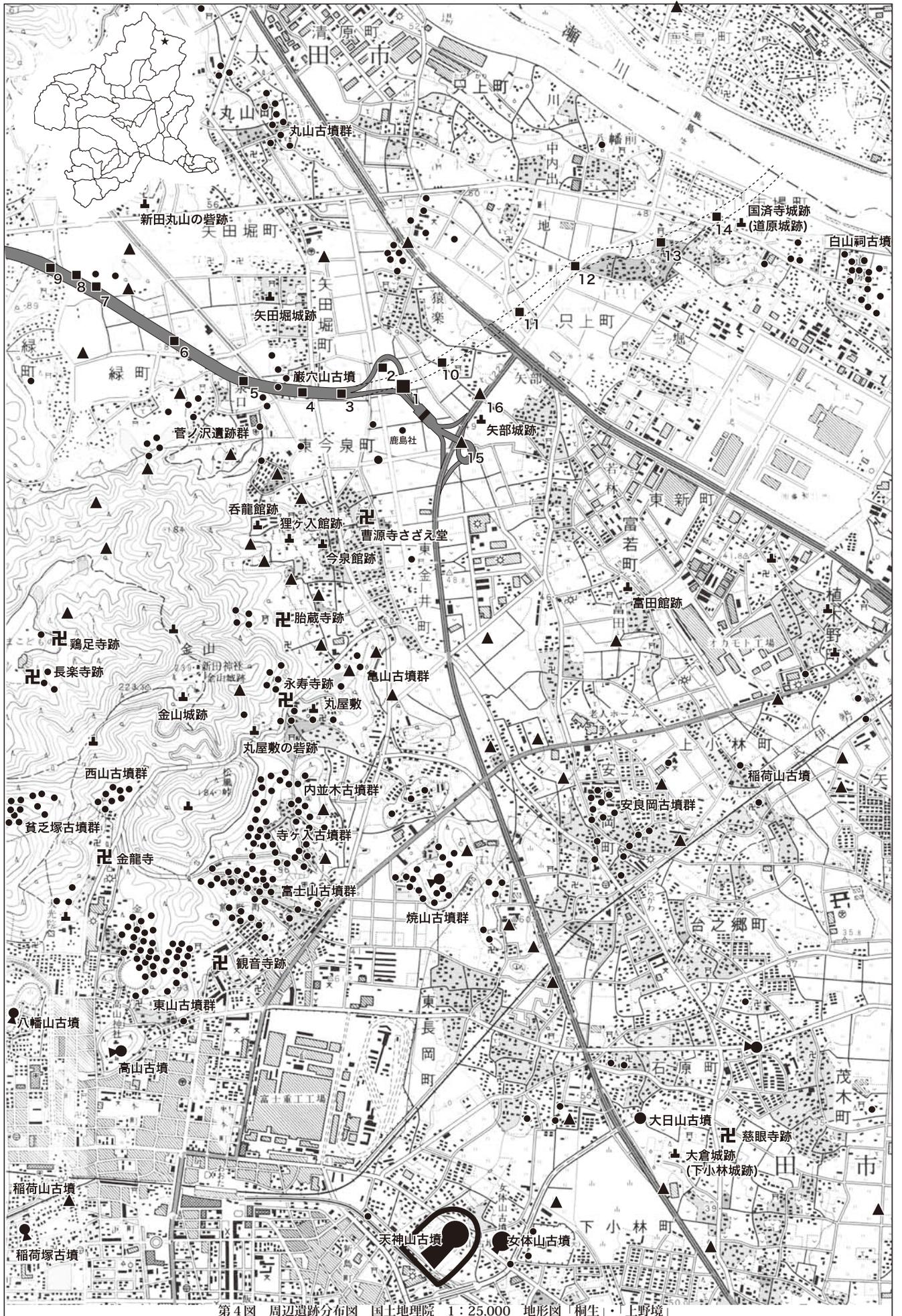
〈金山城〉城は本遺跡の南東に位置する金山丘陵(標高約236m)上にある山城。昭和9年に国史跡に指定。築城は応永3(1469)年に新田氏一族の岩松家純が家臣である横瀬国繁に命じ、世良田長楽寺の僧松陰軒の縄張り(地鎮祭)により城を築かせたとされる。岩松氏は新田荘岩松郷を名字とする一族で、鎌倉時代後期には新田本宗家をしのぐ勢力に至り、後の南北朝動乱期には足利方につき、新田義貞ら南朝方新田氏が滅んだ後は、新田荘を支配し新田氏を称した。享禄元(1528)年、下克上の流れに乗じて主君岩松昌純を殺害し、城の実権は横瀬泰繁・成繁父子が奪い、実質的な金山城主となる。天正年間には新田・桐生・伊勢崎・館林・足利を手中に治め、後に成繁は源姓由良と改称し戦国大名の地位を得るが、この間の領地を取り巻く情勢は厳しく、甲斐の武田氏・越後の上杉氏・相模の後北条氏と列強戦国大名の狭間に有り、度重なる攻略に合うものの、金山城は難攻不落を誇る。天正12(1584)年に後北条氏の謀略により城主由良国繁と弟の館林城主長尾顕長の両名が小田原城に幽閉、帰還を条件に城は開城され、後北条氏支配下となるものの、天正18(1590)年に豊臣秀吉の小田原城攻略により後北条氏は滅亡、金山城は廃城となる。

金山城の城域は広大で、山頂部に実城を置き、山頂から延びる西尾根に西城を、北に延びる観音山に北城を、南の中八王子山には八王子山ノ砦を構える、言わば複合的城郭である。山頂部の実城域に日ノ池・月ノ池の大池を持ち、石垣・石敷き通路・石組み排水路・石組み井戸など山城としては珍しい石組みの施設を有する。

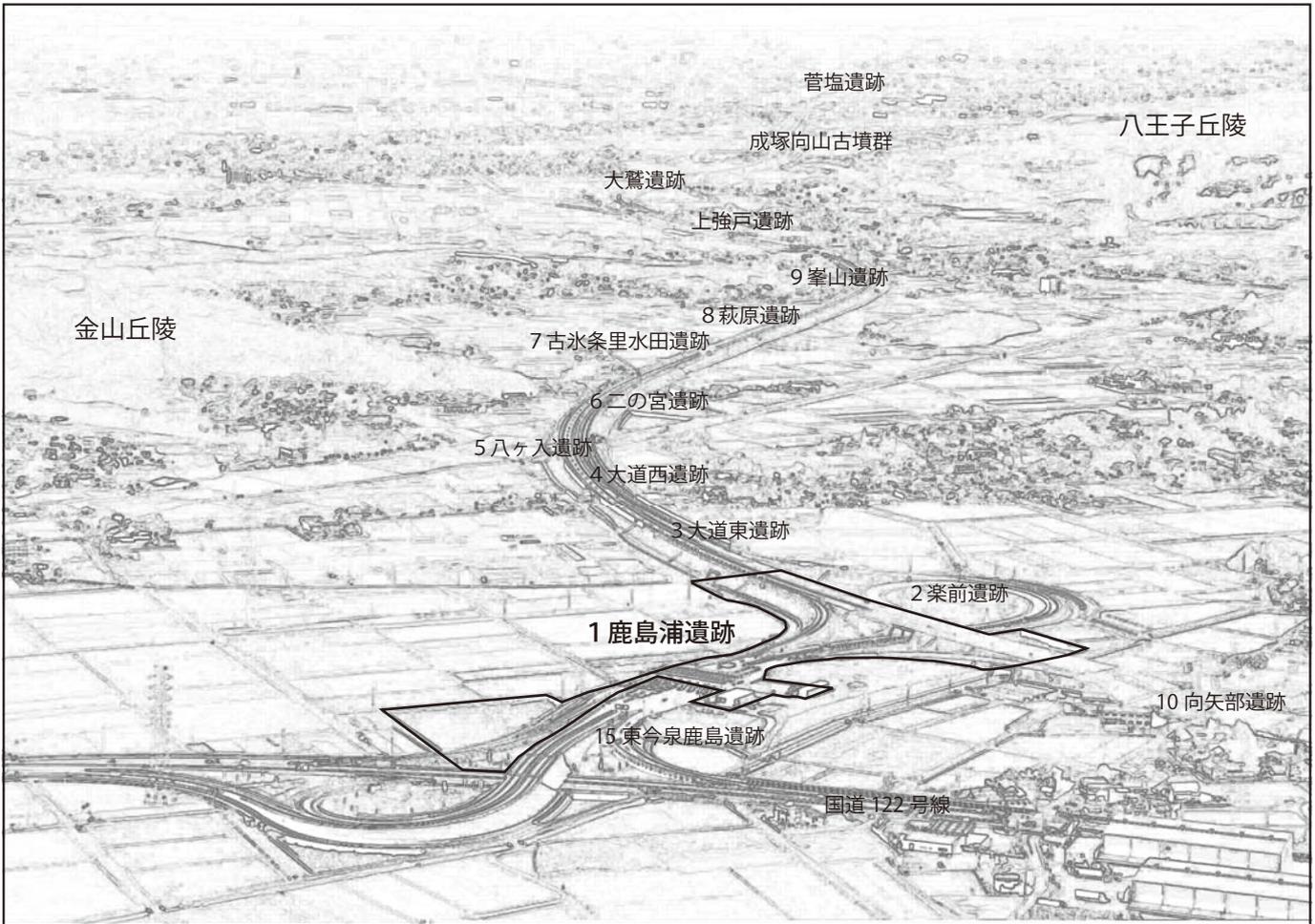
〈小字名〉遺跡名の元となる小字名「鹿島浦」は、記録によっては「鹿島裏」と記されたものもあり、この呼称には「かしまり」と仮名が添えられている。いづれにしても、遺跡の南に位置していた「鹿島社」に由来するものと考えられる。

周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	遺跡概要	主な文献
1	鹿島浦遺跡(本遺跡)	太田市東今泉町	北関東自動車道関連発掘調査	本報告書
2	桑前遺跡	太田市東今泉町	昭和61～63年 太田市教育委員会発掘調査 北関東自動車道関連発掘調査	「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報」 事業団調査報告書第454集
3	大道東遺跡	太田市東今泉町	昭和41年 駒沢大学発掘調査 北関東自動車道関連発掘調査	「太田市史」 事業団調査報告書第464集・481集
4	大道西遺跡	太田市東今泉町	北関東自動車道関連発掘調査	未報告
5	八ヶ入遺跡	太田市東今泉町・緑町	北関東自動車道関連発掘調査	
6	二の宮遺跡	太田市緑町	北関東自動車道関連発掘調査	事業団調査報告書第459集
7	古氷条里制水田遺跡	太田市緑町	北関東自動車道関連発掘調査	事業団調査報告書第459集
8	萩原遺跡	太田市緑町	北関東自動車道関連発掘調査	
9	峯山遺跡	太田市緑町・上強戸町	北関東自動車道関連発掘調査	事業団調査報告書第460集
10	向矢部遺跡	太田市只上町	平成3,6,7,8,12,16年 太田市教育委員会発掘調査 北関東自動車道関連発掘調査	「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報」・「市内遺跡XI」・事業団調査報告書
11	矢部遺跡	太田市只上町	北関東自動車道関連発掘調査	
12	只上深町遺跡	太田市只上町	北関東自動車道関連発掘調査	未報告
13	新島遺跡	太田市只上町	北関東自動車道関連発掘調査	未報告
14	道原遺跡	太田市只上町	北関東自動車道関連発掘調査	未報告
15	東今泉鹿島遺跡	太田市東今泉町	国道122号線道路改良工事に伴う発掘調査	事業団調査報告書第403集
16	猿楽遺跡	太田市只上町	平成3・8年太田市教育委員会発掘調査	「市内遺跡XIII」



第4図 周辺遺跡分布図 国土地理院 1:25,000 地形図「桐生」・「上野境」



第 5 図 北関東自動車道沿線遺跡

第3章 検出土遺構と出土遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

第1項 埋甕・土坑跡

本遺跡での縄文時代遺構は、住居は検出されず土坑を主体に検出されている。本遺跡の北西側には、縄文中期から後期の集落遺跡である大道東遺跡・楽前遺跡が立地する。本遺跡は、これらの縄文集落遺跡の東端に位置しており、集落遺跡の縁辺部にあたる。このため、集落の本体である住居遺構は検出されず、土坑や遺物廃棄場である包含層等が検出されたのみである。検出された遺構は、土壙(埋設土器含む)15基、谷地部の縄文土器廃棄場1箇所である。以下各遺構について概要を記す。

1・2区検出遺構

1号埋甕(P11 PL2・235)形状は、ほぼ円形を呈する土壙である。規模は、長軸0.86m、短軸0.68m、深さ19cmを測る。底面は、平坦ではなく凹凸があり柔らかい。土壙掘削後、間もなく土器を埋設し埋め戻していると考えられる。土壙のほぼ中央に、口縁部の欠損した深鉢が正位に埋設されていた。遺構確認までの段階で上部が削平されており、深鉢口縁が削平された可能性がある。

6区検出遺構

1号埋甕(P11・12 PL2・235)形状は、南北に長い長楕円形を呈する土壙である。規模は、長軸1.28m、短軸0.92m、深さ18cm、主軸はN-19°-Wを測る。底面は比較的平坦で、覆土の観察から、土器を埋設すると同時に土壙全体を埋め戻していると思われる。大形の深鉢が4個体埋設されていた。本土壙は、底面に大形の深鉢を横にして敷き詰めるように置き、その上に深鉢を被せるように埋設されていた。

2号埋甕(P12 PL2・235)形状は、隅丸方形を呈する土壙である。規模は長軸0.62m、短軸0.56m、深さ22cm、主軸はN-112°-Wを測る。底面は、平坦ではなく凹凸が多い。覆土中には、ローム混じり土が堆積しており人為的な埋め戻しと考えられる。深鉢が2個体出土している。深鉢は、土圧等の影響で小片になって出土している状態であったが、破片が重なって出土していることから、2個の土器が重なって埋められていたと考えられる。

縄文時代土層により埋没した谷地(図21 写真2)が確認されている。遺物などは、検出されておらず、谷を覆っている堆積土から縄文時代中期頃のものと同判断した。

7区検出遺構

1号埋甕(P13 PL3・236)形状は、東西に長い不整形を呈する。規模は、長軸0.79m、短軸0.54m、深さ10cm、主軸はN-65°-Wを測る。底面は平坦で皿状に掘り込まれている。深鉢は、底部を正位に埋設した状態で検出された。上面が削平されていることから、さらに上部があったと考えられる。

2号埋甕(P13・14 PL3・236)本遺構は、南側にある長方形の土壙と北側にある楕円形になる土壙の2基が重複している。規模は、南側の長方形の土坑が長軸0.58m、短軸0.41m、深さ28cm、主軸N-9°-Eを測る。北側にある土壙は、長軸0.98m、短軸0.78m、深さ10cm、主軸N-87°-Wを測る。北側土壙の遺物が南側に乗るように出土していることから、北側土壙が新しい。角礫を主体とした集石遺構に大形の深鉢土器片が、割られた状態で出土している。

3号埋甕～6号埋甕遺構は、埋甕の掘り方が検出されなかった。深鉢大形破片がまとまって出土したため、埋甕として報告する。3号埋甕(P14 PL3・236)は、地山の上につぶれた状態で出土している。4号埋甕(P15 PL3・236)は、礫と共に、深鉢胴部～底部にかけての大形破片が、地山の上に礫と共につぶれた状態で出土した。5号埋甕(P15 PL3・237)は、礫と共に大形の口縁部破片や深鉢口縁～胴部にかけての土器が地山の上につぶれた状態で出土している。6号埋甕(P16 PL4・237)本遺構は、掘り込みが認められなかった。地山状に礫と土器破片が集中して検出されている。

第3章 検出遺構と出土遺物

10号土坑(P16・17 PL4・237・238)本遺構は、長方形の掘り込みとその中にある楕円形の掘り込みである。掘り込みの中から大小の深鉢形土器や浅鉢形土器、石器が出土している。長方形土坑の規模は、長軸2.62m、短軸1.78m、深さ17cm、主軸N-90°-Wを測る。楕円形の土坑は、長軸1.08m、短軸0.59m、深さ22cm、主軸N-53°-Eを測る。長方形遺構の覆土中には、炭化物や焼土粒が混入し、覆土中に土器小片が出土していることから、埋没にある程度の時間差が認められる。楕円形遺構は、底面に深鉢が正位で埋められており、覆土中に炭化物や焼土が認められるなど、炉の可能性も考えられる。一方で、方形遺構の周辺からは、柱穴などは検出されておらず規模も小さいことから、住居址と捉えにくい性格の遺構である。

15号土坑(P18 PL4・238)本遺構の掘り込みは不鮮明で、出土遺物周辺がなだらかに落ち込んでいる状況である。掘り込み底面は、比較的平坦で遺物が底面から若干浮いた状態で出土している。2個体の深鉢形土器が並んで置かれた状態で出土している。その他に、礫や石斧、磨石などが出土している。

16・17号土坑(P19 PL4)2基の土坑がL字形に重複している。17号土坑が新しい。16号土坑は長方形を呈し、現状で長軸1.8m、短軸1.15m、主軸N-90°-Wを測る。底面は比較的平坦で掘り込みは浅い。17号土坑は、中央部で括れる長楕円形を呈する。底面は、比較的平坦で掘り込みは浅い。長軸1.4m、短軸1.25m、主軸は、ほぼ北を向く。覆土中から縄文中期加曾利EⅢ式土器の小片が出土しているが図示できるものではなかった。

18号土坑(P19 PL4)形状は、長楕円形を呈する。規模は、長軸1.81m、短軸1.01m、深さ36cm、主軸N-21°-Wを測る。底面に向かって緩やかに傾斜し、平坦面は少ない。覆土上層から縄文中期加曾利EⅢ式土器や礫の小片が多く出土しているが、図示できるものはなかった。

19号土坑(P19)形状は、南北方向に長い楕円形を呈する。規模は、長軸1.29m、短軸1.1m深さ42cmを測る。主軸は、ほぼ北を向く。底面は、平坦面が少なく凹凸が多い。覆土には、下層に焼土・炭化物を含む層が堆積、上層では、黒色土主体の覆土が堆積していることから自然体積と考えられる。遺構の南では、礫が2個出土している。

1号配石(P19)不整形の掘り込みに、角礫が主体となって置かれている。掘り込みは浅く、底面は比較的平坦である。規模は、長軸10.8m、短軸0.62cmを測る。この範囲に礫が集中している。礫に混じり縄文中期の加曾利EⅢ式土器の小片が出土しているが、図示できるものはなかった。

風倒木(P19)風倒木痕からは、礫がまとまって出土しているが図示できるもの無い。縄文包含層(P19 PL2)からは、角礫や加曾利EⅢ式土器の小片が出土しているが図示できるものはなかった。その他7区からは性格不明の小土坑群(P20)が検出されているが、遺構確認土層から縄文時代と認定した。これらの小土坑群からは、遺物が検出されず、性格不明である。

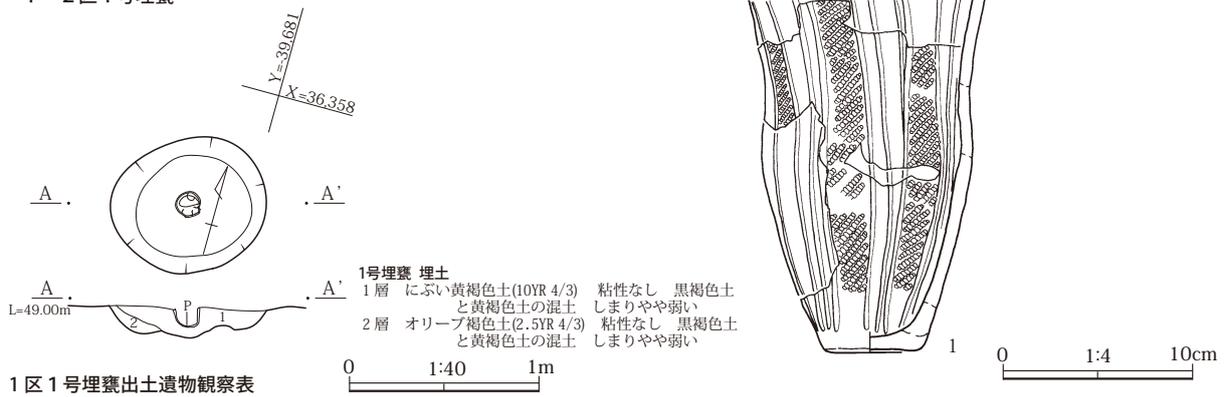
包含層出土の土器

縄文時代の土器は、早期の押型文、条痕文系土器、前期関山式、黒浜式、諸磯式、中期の五領ヶ台式、阿玉台式、勝坂式、加曾利E式、後期の堀之内式土器などが、遺跡全体から散発的に出土している。

その中で、早期後半の野島式土器が、6区北西隅でまとまって出土している。出土総量は少ないが、この近辺にまとまって出土していることから何らかの遺構が周辺にあったと想定される。群馬県において野島式土器の出土例は少なく、貴重な資料である。この時期の土器を出土する遺跡では、板倉町離山貝塚の資料が知られている。本遺跡では、出土していないが鶴ヶ島式土器が赤城山南麓の丘陵地帯に遺跡があり、縄文海進期における低地部と丘陵部の遺跡のあり方を検討する資料の一つになると考える。

縄文中期の加曾利EⅢ式土器は、本遺跡全体から出土している。本遺跡の北西部に位置する大道東遺跡、楽前遺跡では、加曾利EⅢ式期の集落が発見されており、その一連の中で考える必要がある。集落の主体である住居群を外れた本遺跡では、埋設土器が数カ所で検出されている。住居群の外側にある集落の施設として、埋設土器群や、土坑群が検出された。さらに土器の廃棄場として深鉢の大形破片も出土している。これらの出土遺物や遺構は、縄文集落全体の構造を検討する資料になると考える。

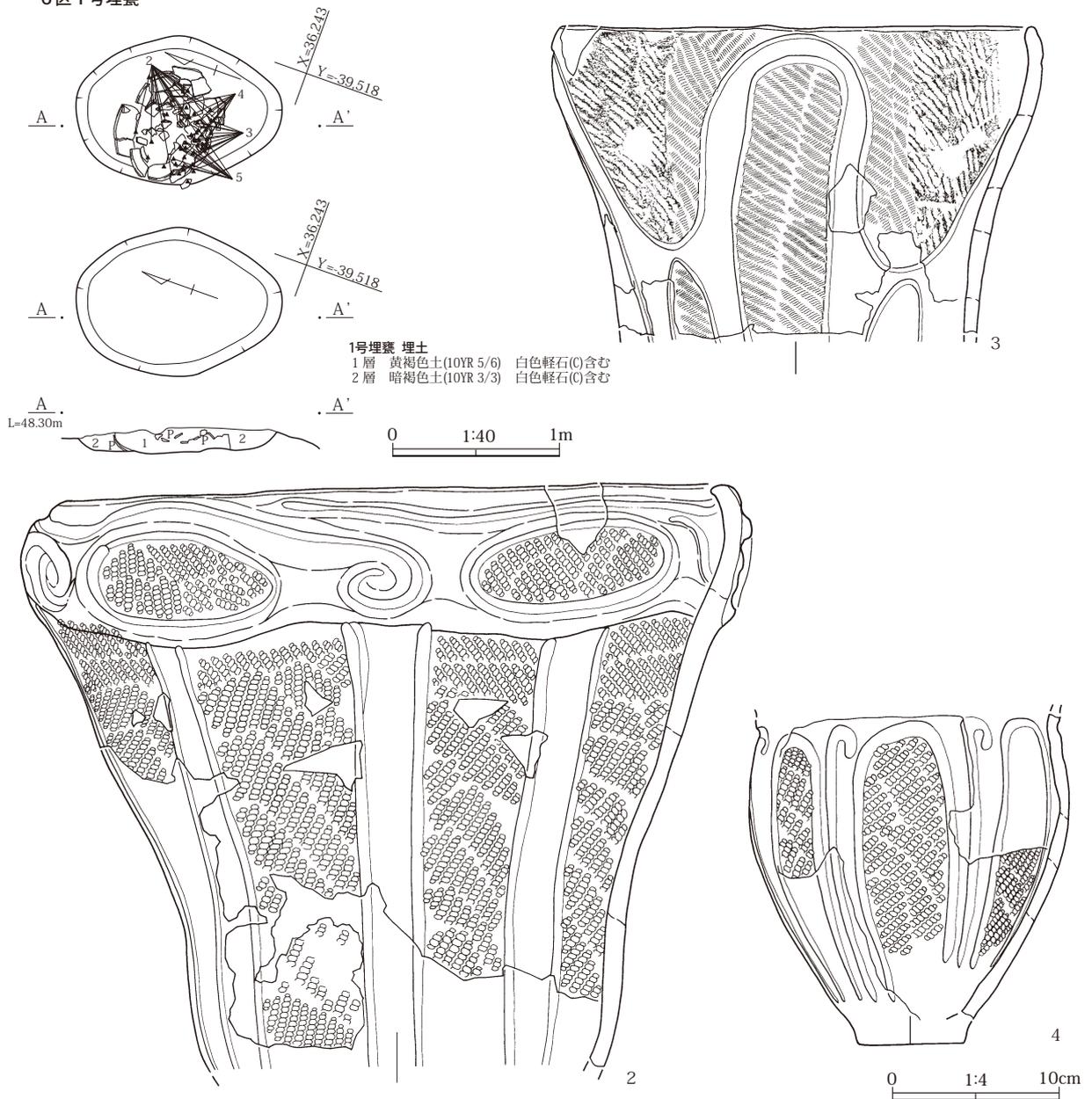
1・2区1号埋竈



1区1号埋竈出土遺物観察表

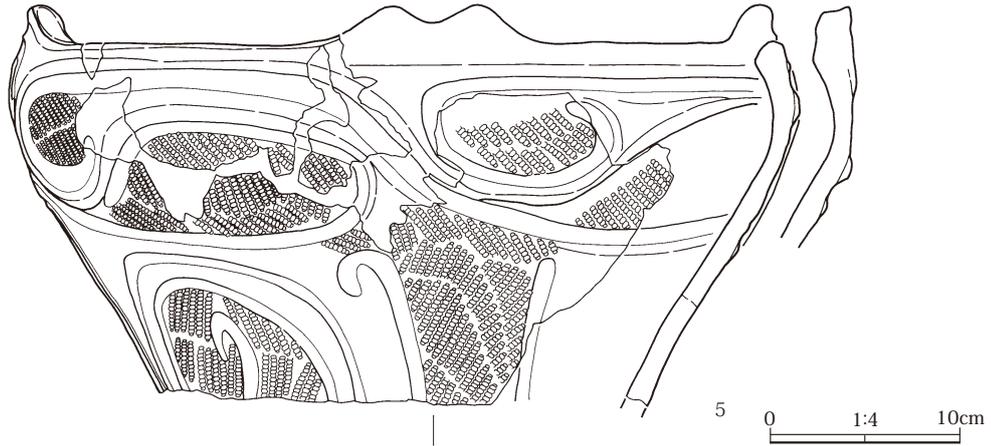
番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
1	深鉢 体部～底部	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③ 橙色5YR6/6	底：4.5。小型深鉢。やや細身の体部器形。3条の垂下沈線による懸垂文構成。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式

6区1号埋竈



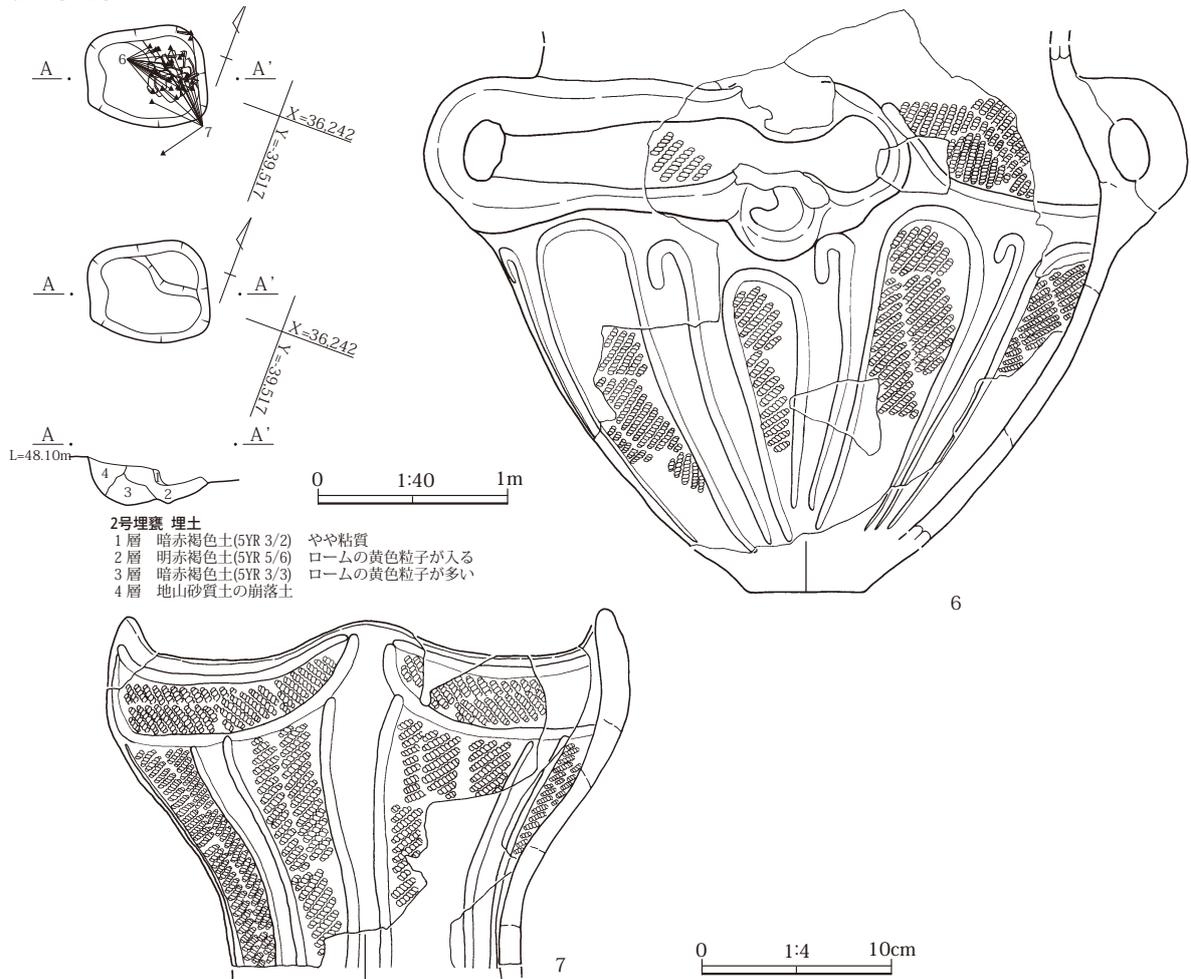
第6図 1・2区1号埋竈・6区1号埋竈

第3章 検出遺構と出土遺物



番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
2	深鉢 口縁～体部中位4/5	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	口：(39.6)。大型の深鉢。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。5単位構成か。側線は凹線及び撫で。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。縄文はR L充填施文	加曾利EⅢ式
3	深鉢 口縁～体部中位1/3	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	口：(28.0)。平縁。口縁部は緩やかに内湾する。沈線による波状文と逆U字状意匠による二帯構成。無節L充填施文	加曾利EⅢ式
4	深鉢 体部のみ1/3	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	体部中位が内湾する。沈線による蕨手状懸垂文と逆U字状懸垂文が配される。縦位R L充填施文。	加曾利EⅢ式
5	深鉢 口縁～体部上半1/3	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	口：(41.8)。大型深鉢。波状突起を付す。口縁部隆線による半渦巻文と楕円状区画文を配す。体部は蕨手状沈線等による懸垂文構成か。R L充填施文	加曾利EⅢ式

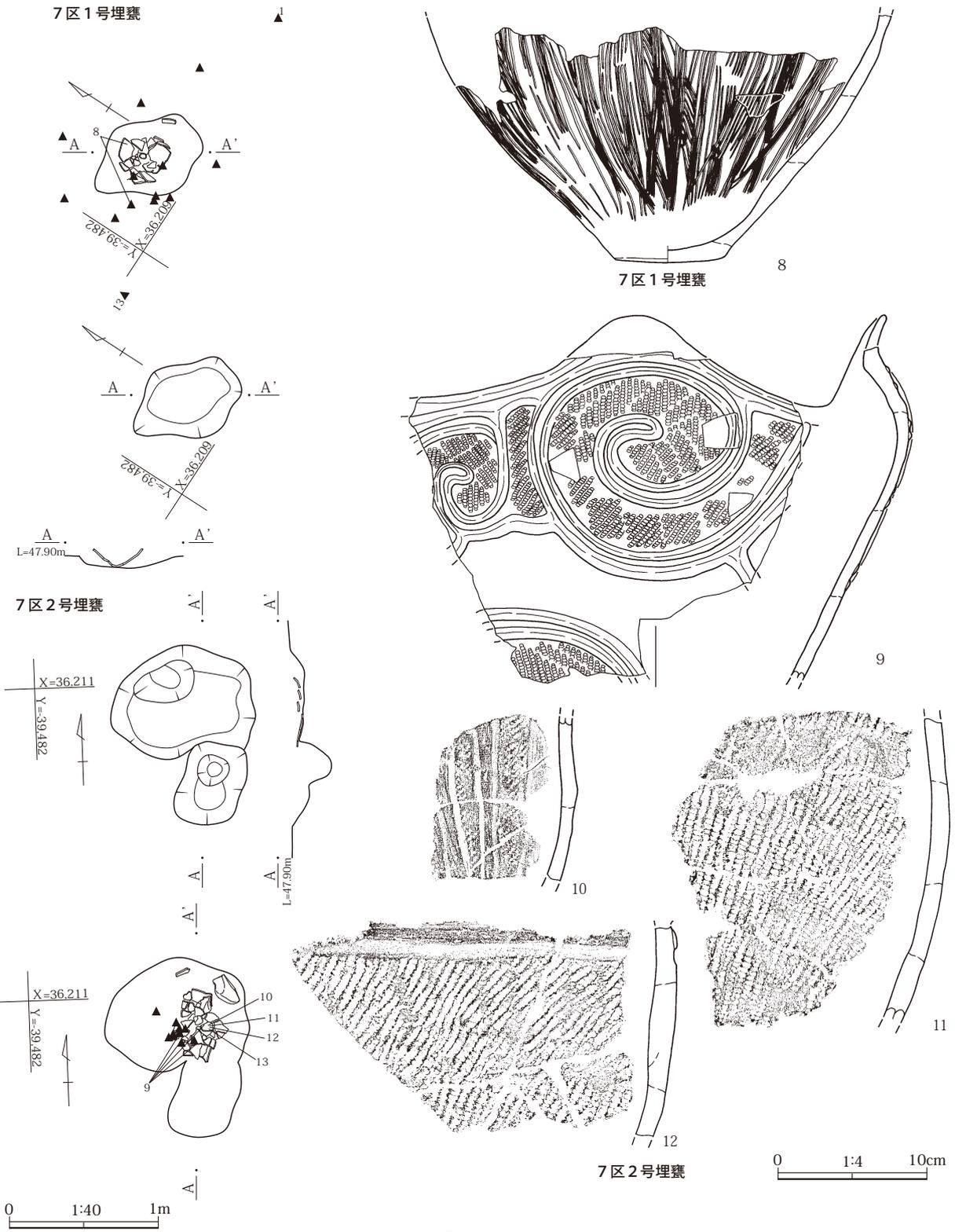
6区2号埋甕



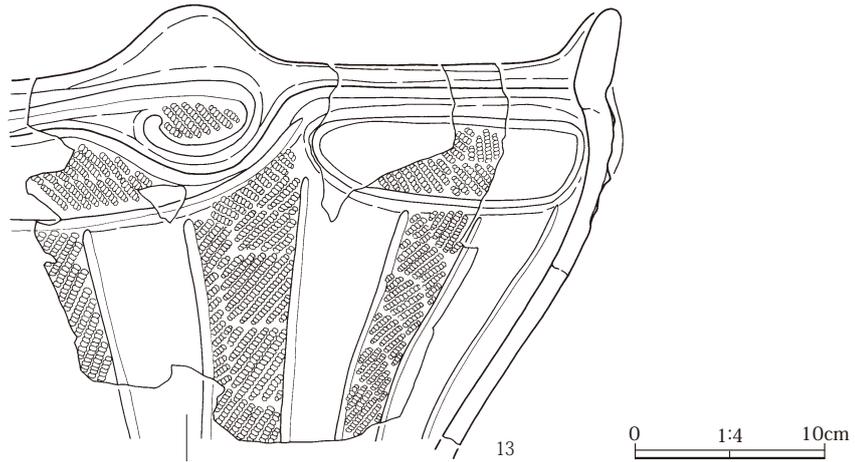
- 2号埋甕 埋土
- 1層 暗赤褐色土(5YR 3/2) やや粘質
 - 2層 明赤褐色土(5YR 5/6) ロームの黄色粒子が入る
 - 3層 暗赤褐色土(5YR 3/3) ロームの黄色粒子が多い
 - 4層 地山砂質土の崩落土

第7図 6区1号埋甕・2号埋甕

番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
6	深鉢 体部1/4	① 細：白色粒・片岩粒少・輝石 ② 良好 ③ 橙色5YR6/6	体部上半に橋状把手を設け、隆線・沈線による区画文を接続する。単位は不明。体部は逆U字状懸垂文・縦位藤手状沈線を配す。R L 充填施文	加曾利EⅢ式
7	深鉢 口縁～体部中位4/5	① 細：白色粒・石英 ② 良好 ③ 鈍い黄橙色10YR7/3	波状線4単位。口：(25.0)。口縁部は沈線による長区画文構成。体部は2条沈線による懸垂文構成。R L 充填施文。体部中位で意図的な欠損を見る	加曾利EⅢ式

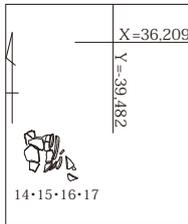


第8図 7区1号埋甕・2号埋甕

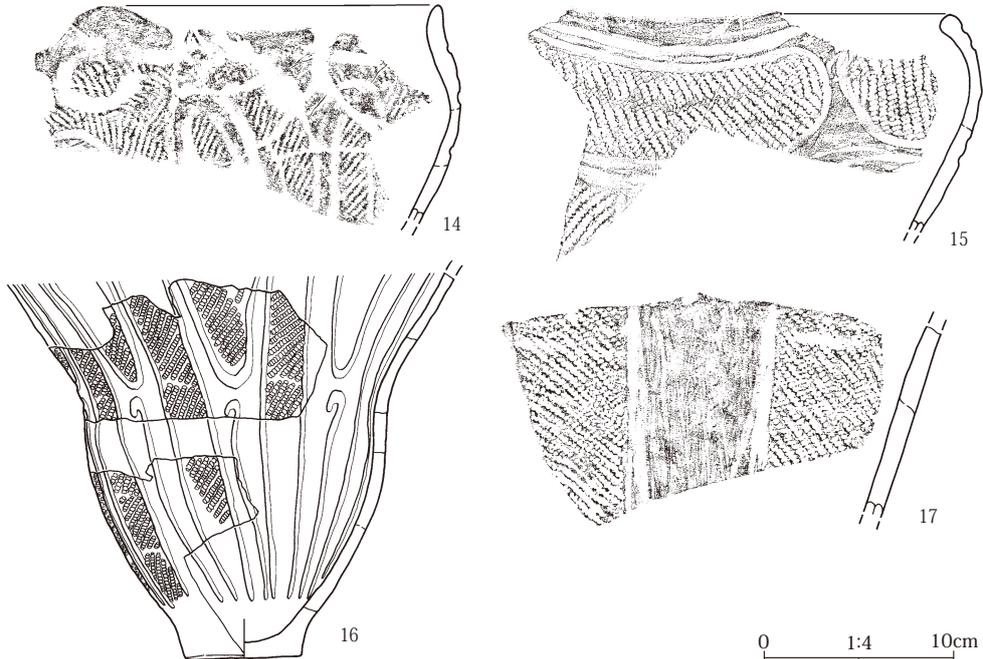


番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
8	深鉢 体部中位～底部のみ	① 細：白色粒・石英・雲母 ② 良好 ③ 褐色7.5YR4/3	底：7.3。体部下半は内湾気味に強く開く。5・6条単位の縦位密接条線が器面を覆う	加曾利EⅢ式
9	深鉢 口縁～体部上半1/4	① 細：白色粒・石英・輝石 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/4	波状突起頂部を欠損。口縁部は2条隆線による大柄の渦巻き状意匠を配す。体部は無文部を挟むことから、二帯構成が窺えよう。R L充填施文	加曾利EⅢ式
10	深鉢 体部中位破片	① 細：白色粒・輝石 ② 良好 ③ 橙色7.5YR6/6	小径の体部か。沈線による懸垂文構成。施文部縄文は縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式
11	深鉢 体部破片	① 粗：白色粒・石英・輝石 ② 良好 ③ 鈍い橙色7.5YR6/4	縦位・斜位R Lを施す	加曾利EⅢ式
12	深鉢 体部上半破片	① 細：白色粒・石英・輝石 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR6/4	頸部横位隆線を設け凹線を側線とし、以下縦位R Lが覆う	加曾利EⅢ式
13	深鉢 口縁～体部上半1/5	① 粗：白色粒・石英・輝石 ② 良好 ③ 明赤褐色5YR5/6	口：(45.0)。波状突起を付し直下に隆線による渦巻き状意匠を配し長楕円状区画文を連接する。体部は2条沈線による懸垂文構成。縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式

7区3号埋藏



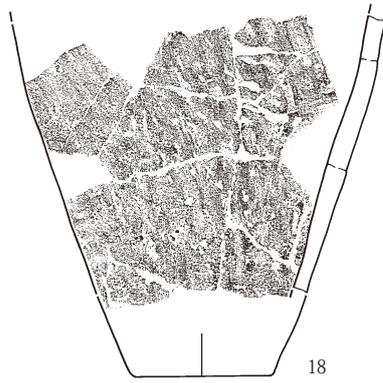
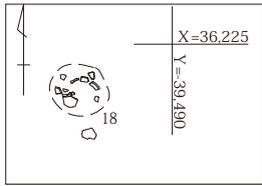
0 1:40 1m



番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
14	深鉢 口縁～体部上半破片	① 細：白色粒・石英 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/3	波状突起を付し直下に沈線による渦巻文。体部は2条沈線による逆U字状意匠を配す。R L充填施文	加曾利EⅢ式
15	深鉢 口縁部破片	① 細：白色粒・輝石 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR5/3	波状縁。沈線による口縁部楕円状区画文構成。体部は沈線による懸垂文。R L充填施文。	加曾利EⅢ式
16	深鉢 体部中位～底部3/4	① 細：白色粒・輝石 ② 良好 ③ 橙色5YR6/6	底：6.0。キャリパー状深鉢。体部上半は沈線によるU字状意匠を配し下半は蕨手状懸垂文を配す。R L充填施文。外面上半、内面下半に炭化物附着	加曾利EⅢ式
17	深鉢 体部中位破片	① 細：白色粒・石英 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/3	磨消部は幅広で縦位研磨を加える。垂下沈線による懸垂文構成。L R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式

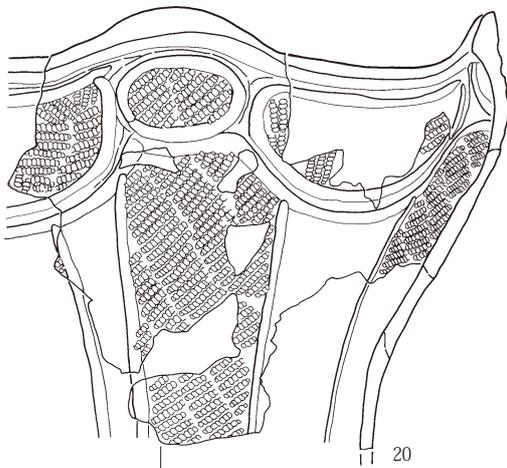
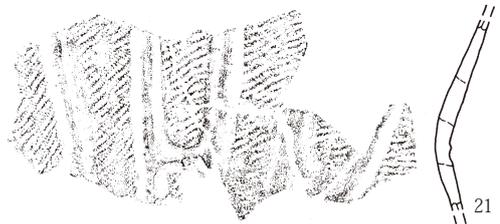
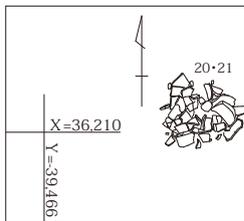
第9図 7区2号埋藏・3号埋藏

7区4号埋蔵



番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
18	深鉢 体部2/3	①粗：白色粒・褐色粒・雲母 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	無文の体部下半。縦位研磨を施す。炭化物は外面体部中に内面体部下半に附着する	加曾利EⅢ式

7区5号埋蔵

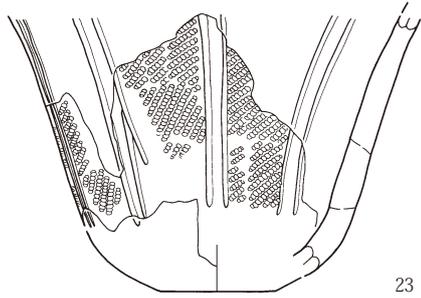
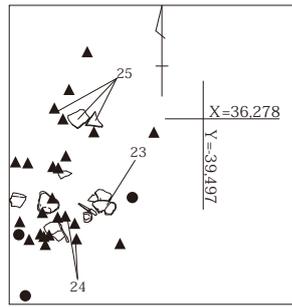


番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
19	深鉢 口頸部破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	2条沈線による逆U字状意匠か。縄文は口縁部が横位、以下は縦位無節Lが施される	加曾利EⅢ式
20	深鉢 口縁～体部上半1/4	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/3	口：(17.0)。波状縁。波状突起を付し沈線による口縁部円形区画文を配し、楕円状区画文が連なる。体部は2条沈線による懸垂文構成。R L充填施文。	加曾利EⅢ式
21	深鉢 体部中位破片	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR6/3	2条沈線による懸垂文構成。U字状意匠と逆U字状意匠も配される。縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式
22	深鉢 口縁～体部中位1/2	①細：白色粒・石英 ②やや軟質 ③鈍い橙色7.5YR6/4	口：26.4。口縁部内湾するキャリバー状を呈す。体部中位の屈曲強い。2条の沈線による逆U字状意匠を接続した二帯の懸垂文構成。無節L充填施文	加曾利EⅢ式

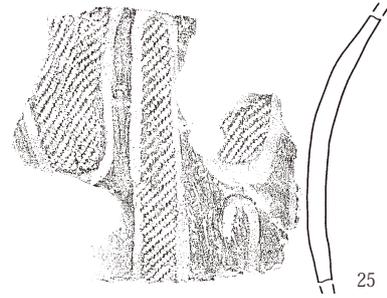
第10図 7区4号埋蔵・5号埋蔵

第3章 検出遺構と出土遺物

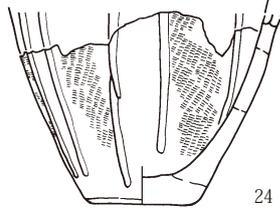
7区6号埋甕



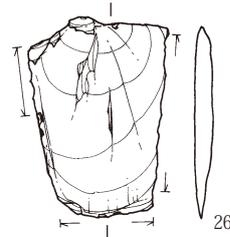
23



25



24



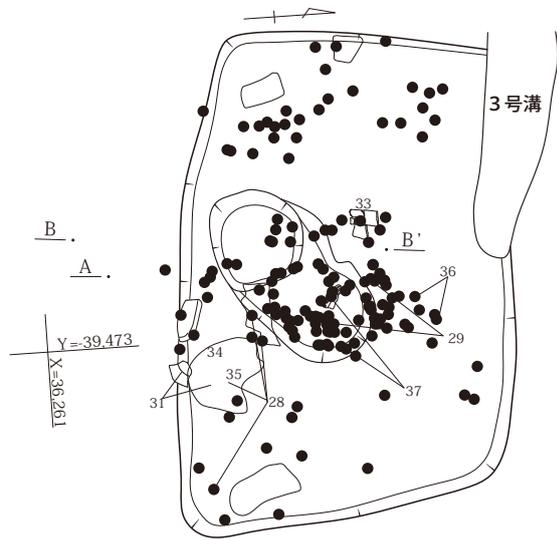
26

0 1:4 10cm

番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
23	深鉢 体部下半破片	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	大型の深鉢か。2条沈線による懸垂文構成。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
24	深鉢 体部中位～底部のみ	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR7/3	底：5.7。2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。無節L縦位・斜位充填施文	加曾利EⅢ式
25	深鉢 体部破片	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	沈線で画されたU字状意匠と逆U字状懸垂文。縦位・手状沈線も加わる。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式

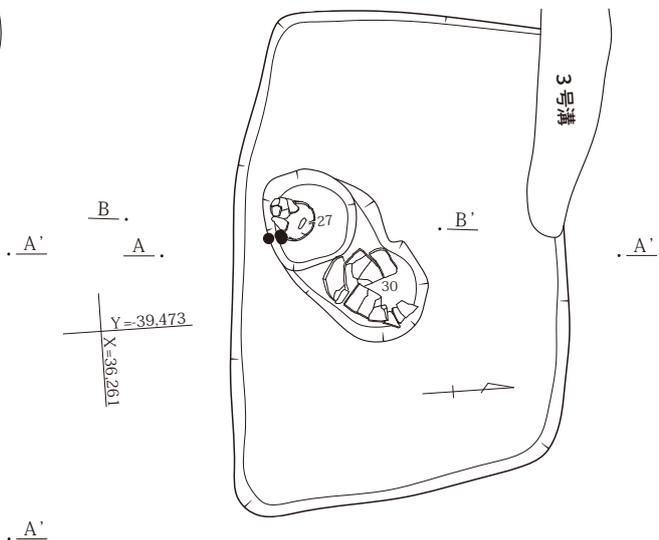
番号	器種	形態	残存状態	製作状況	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)
26	削器	幅広剥片	完形	—	黒色頁岩	10.6	7.5	1.1	112.7

7区10号土坑(SK-10)



A
L=48.20m

B
L=48.20m



10号土坑(A-A') 埋土

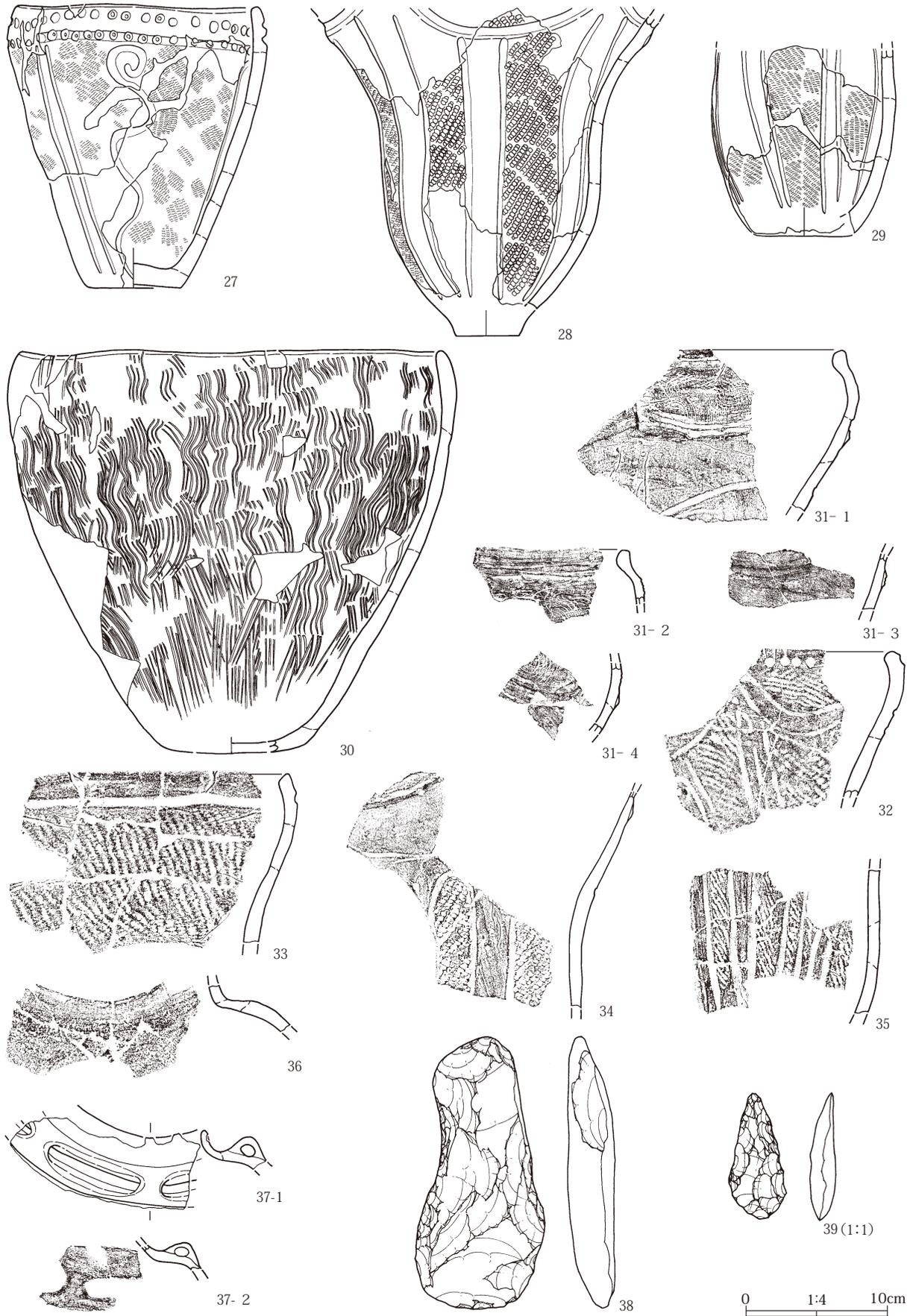
- 1層 黒褐色土(7.5YR 3/1) ローム粒・炭化物含む
- 2層 褐色土(7.5YR 4/4) ローム粒多い
- 3層 にぶい橙色土(7.5YR 6/4) ロームブロックに1層が混入

10号土坑(B-B') 埋土

- 1層 明褐色土(7.5YR 5/8) ロームブロックに若干の焼土・炭化物含む

0 1:40 1m

第11図 7区6号埋甕・10号土坑



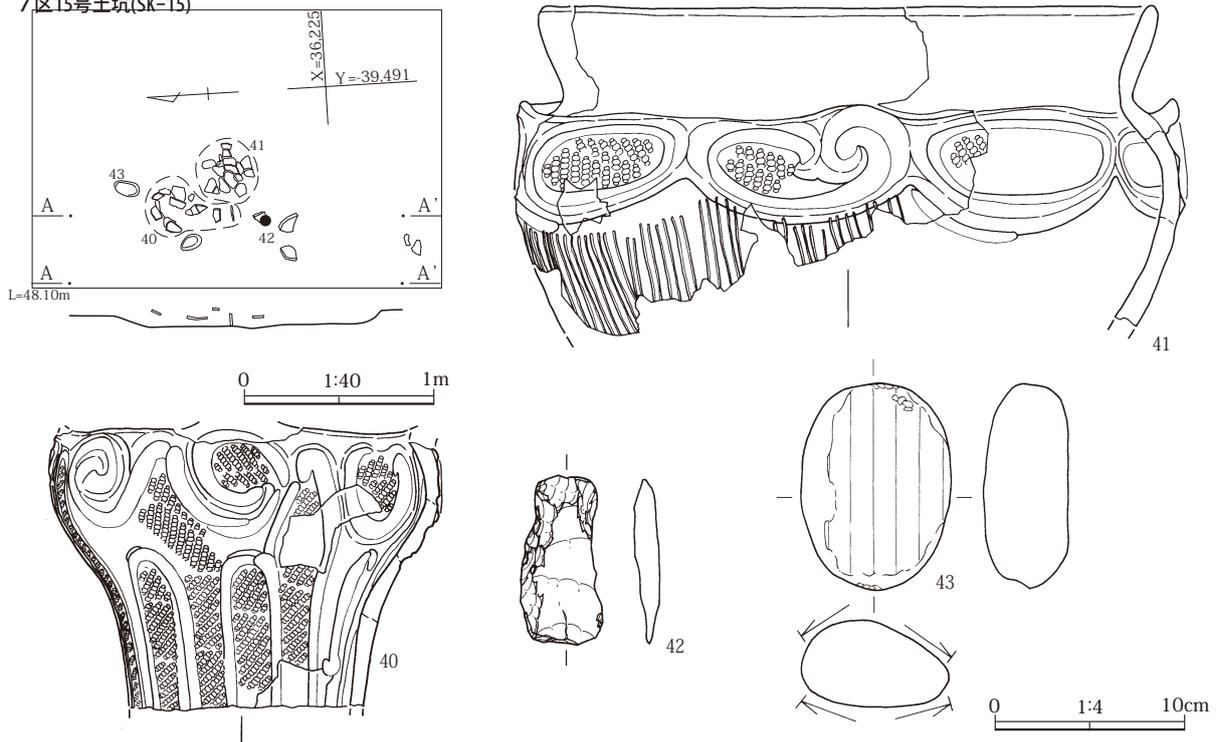
第12図 7区10号土坑出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
27	深鉢 体部下位一部欠損	① 細：白色粒・石英・輝石 ② やや軟質 ③ 橙色5YR6/6	口17.0 底：6.5 高：20.2。小型深鉢。口縁部に2段の横位円形刺突文を施す。体部は沈線による蕨手状懸垂文と逆U字状懸垂文を配す。3単位を数える。無節Lを施す。器面摩滅	加曾利EⅢ式
28	深鉢 体部2/3	① 細：白色粒 ② 良好 ③ 明褐色7.5YR7/2	キャリバー状深鉢。口縁部文様帯下段の隆線を見る。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。RL充填施文	加曾利EⅢ式
29	深鉢 体部下半1/3	① 粗：白色粒・石英・雲母 ② 良好 ③ 橙色5YR6/6	体部下半は内湾する。2条の垂下沈線による懸垂文構成。無節L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
30	深鉢 口縁～底部1/3	① 粗：石英・白色粒 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/3	口：(29.2) 底：10.8 高：28.7。大型の鉢状深鉢。縦位羽状密接条線が器面を覆う。器面摩滅	加曾利EⅢ式
31-1	深鉢 口縁部破片	① 粗：白色粒・石英少 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/2	4点からなる。やや薄手の器厚を呈し、口縁部内湾する。細隆線による口縁部区画文構成。側縁は浅い沈線。区画内は密接条線による弧線文を充填する。体部は沈線による弧状意匠の上端をみる	加曾利EⅢ式
31-2	深鉢 口縁部破片	① 粗：白色粒・石英少 ② 良好 ③ 黒褐色10YR3/1		
31-4	深鉢 頸部破片	① 粗：白色粒・石英少 ② 良好 ③ 黒褐色10YR3/1		
31-3	深鉢 頸部破片	① 粗：白色粒・石英少 ② 良好 ③ 黒褐色10YR3/1		
32	深鉢 口縁～頸部破片	① 細：白色粒・輝石 ② やや軟質 ③ 橙色7.5YR7/6	口縁部は円形刺突文と2条沈線による半楕円状区画。体部は沈線による懸垂文構成。無節L充填施文	加曾利EⅢ式
33	深鉢 口縁～体部破片	① 細：白色粒・輝石少 ② やや軟質 ③ 橙色7.5YR7/6	口縁部に横位沈線を設け、以下斜位RLが覆う。器面摩滅する	加曾利EⅢ式
34	深鉢 体部上半破片	① 細：白色粒 ② 良好 ③ 鈍い褐色7.5YR5/3	細隆線による口縁部区画文構成。浅い横位沈線以下体部は沈線による逆U字状懸垂文。RL充填施文	加曾利EⅢ式
35	深鉢 体部中位破片	① 粗：白色粒・石英 ② 良好 ③ 鈍い褐色7.5YR6/6	垂下沈線による懸垂文構成。施文部縄文は無節L縦位充填施文。内面炭化物付着	加曾利EⅢ式
36	鉢 肩部破片	① 細：白色粒・石英・輝石 ② 良好 ③ 黄灰色2.5YR5/2	強く内湾する体部上半。低位隆帯による弧状意匠が配されるが、判然としない。器面摩滅	加曾利EⅢ式
37-1	鉢 口頸部破片	① 粗：白色粒・石英 ② 良好 ③ 灰黄褐色10YR6/2	2点からなる。強く内湾する体部上半。2条の横位隆線をつなぐ小型の橋状把手を設ける。赤彩痕跡僅かに見る	加曾利EⅢ式
37-2	鉢 口頸部破片	① 粗：白色粒・石英 ② 良好 ③ 灰黄褐色10YR6/2		

番号	器種	形態	残存状態	製作状況	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)
38	打製石斧	石鏃?	右辺欠	完形	ホルンフェルス	19.2	9.0	3.2	686.6
39	石鏃	円基鏃	完形	未製品	チャート	2.3	1.0	0.4	0.9

7区15号土坑(SK-15)

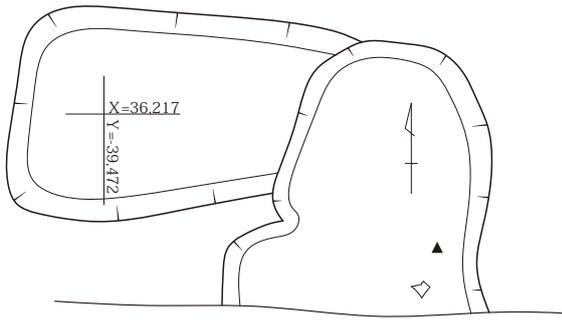


第13図 7区15号土坑

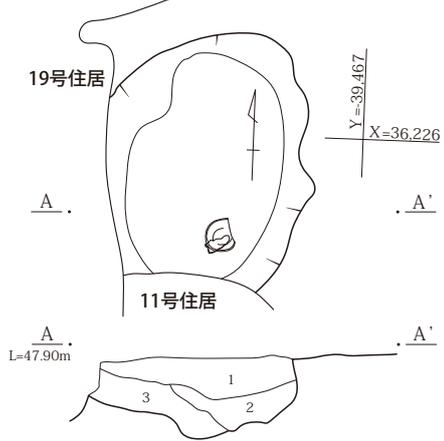
番号	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
40	深鉢 口縁～胴部中位1/1	① 粗：白色粒・輝石 ② 良好 ③ 鈍い黄褐色10YR7/4	口：18.5。波状突起を意図的に欠く。隆線による半渦巻き状意匠を口縁部に配す。体部は沈線による逆U字状懸垂文構成。蕨手状沈線が口縁部まで達する。RL充填施文	加曾利EⅢ式
41	深鉢 口縁～胴部中位破片	① 粗：白色粒・石英 ② 良好 ③ 明赤褐色2.5YR5/6	口：(32.0)。あるいは両耳壺か。口縁部は無文で頸部屈曲強い。体部上半は隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。下半は縦位密接条線を施す	加曾利EⅢ式

番号	器種	形態	残存状態	製作状況	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)
42	打製石斧	短冊形	完形?	未製品	ホルンフェルス	8.9	4.3	1.3	60.3
43	磨石	楕円礫	完形	—	粗粒輝石安山岩	10.8	8.0	4.3	584.0

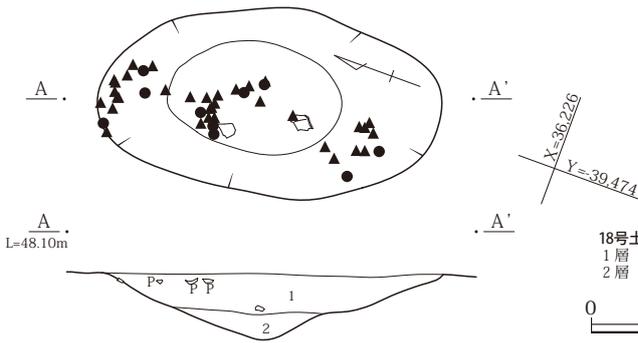
7区 16、17号土坑 (SK-16、17)



7区19号土坑(SK-19)



7区 18号土坑 (SK-18)

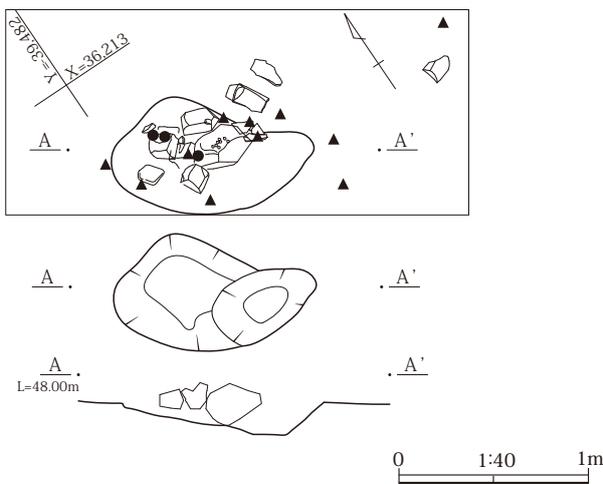


- 19号住居 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色ローム少量含む
 - 2層 にふい黄褐色土(10YR 4/3) 炭化物・焼土・黄褐色ロームブロック含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土・炭化物含む

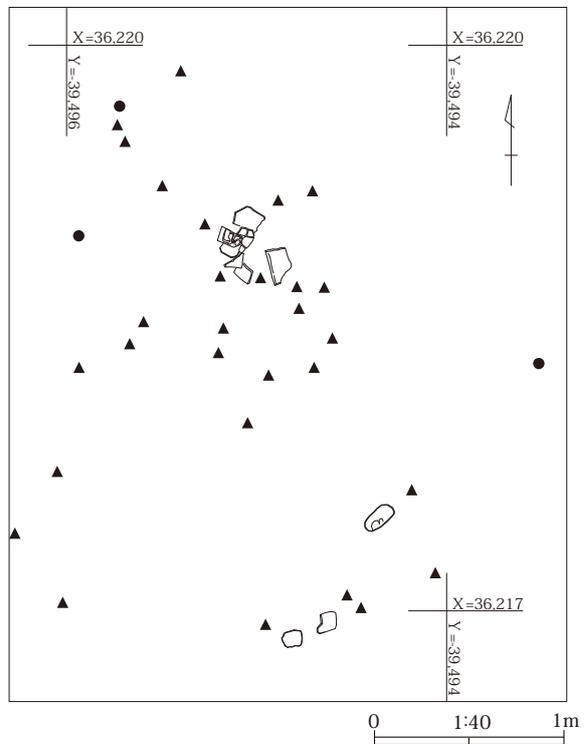
- 18号土坑 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色ローム混ざる
 - 2層 黄褐色土(10YR 5/6) 微量の黒色土混ざる

0 1:40 1m

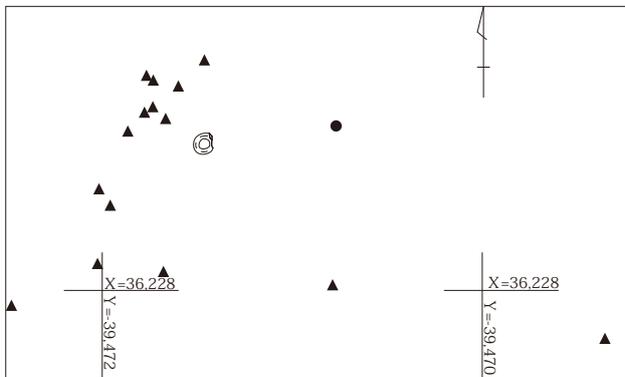
7区 1号配石



7区縄文包含層 遺物出土状況

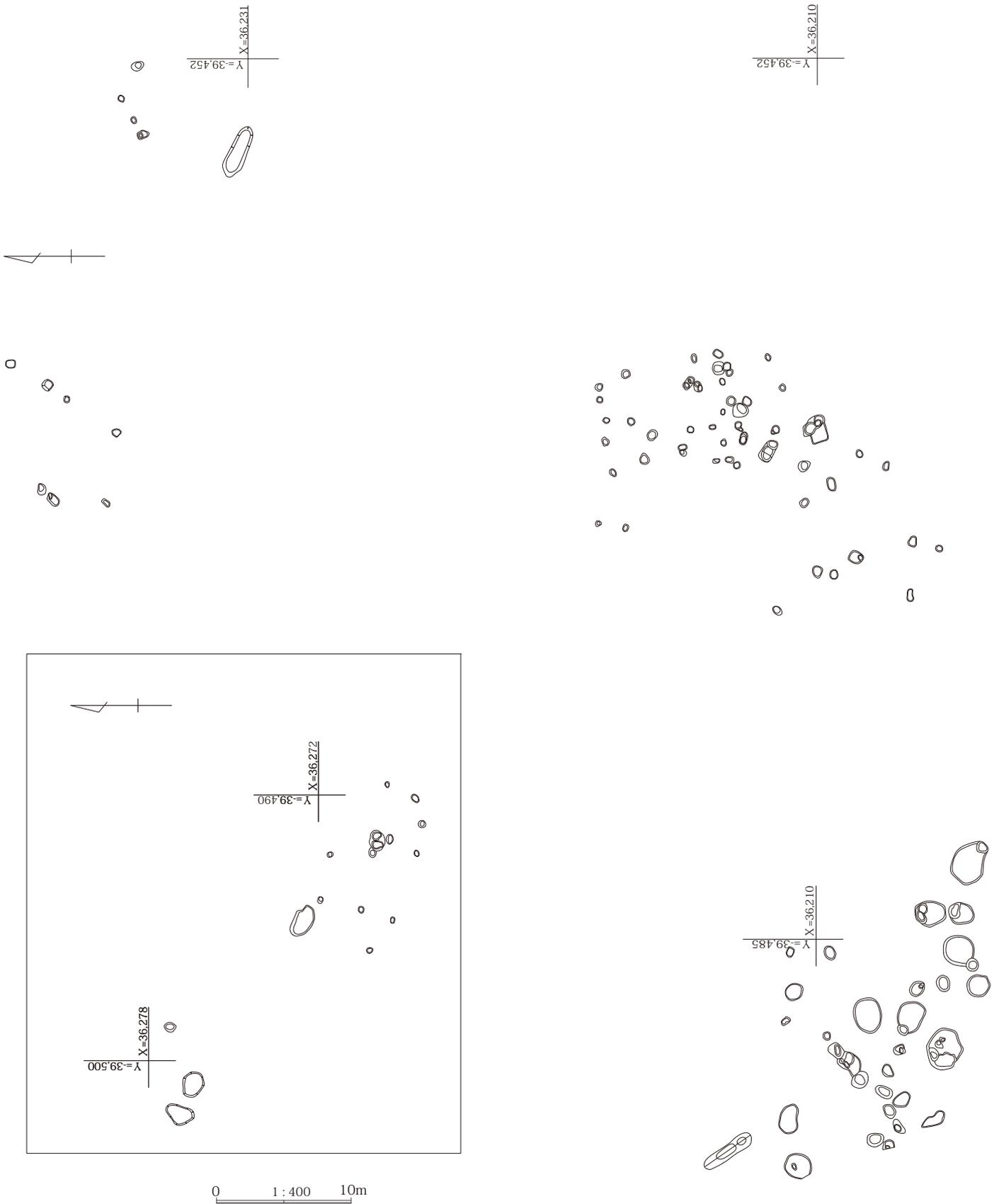


7区風倒木

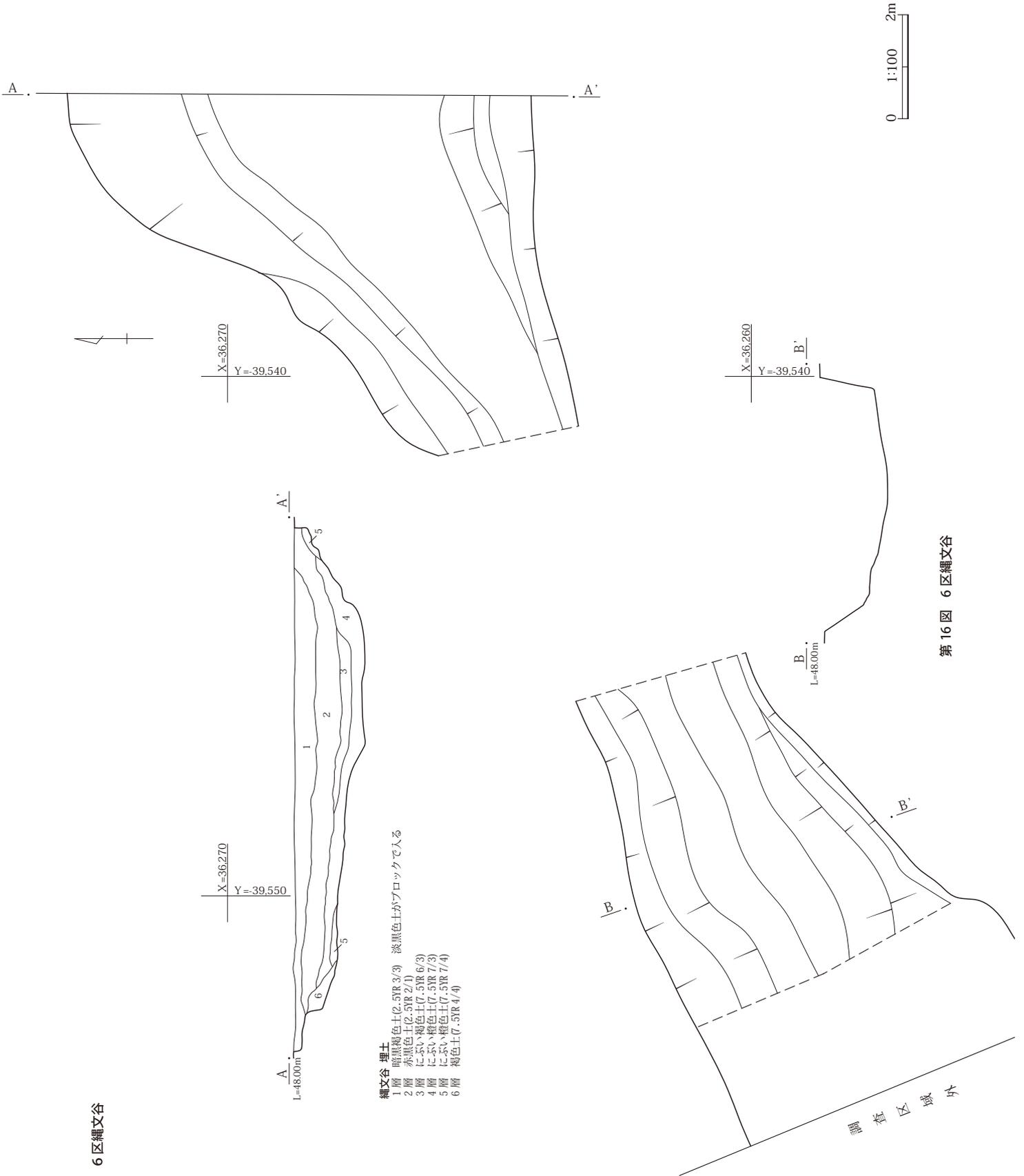


第14図 7区 16・17号土坑、18号土坑、19号土坑、1号配石、遺物包含層、風倒木

第3章 検出遺構と出土遺物

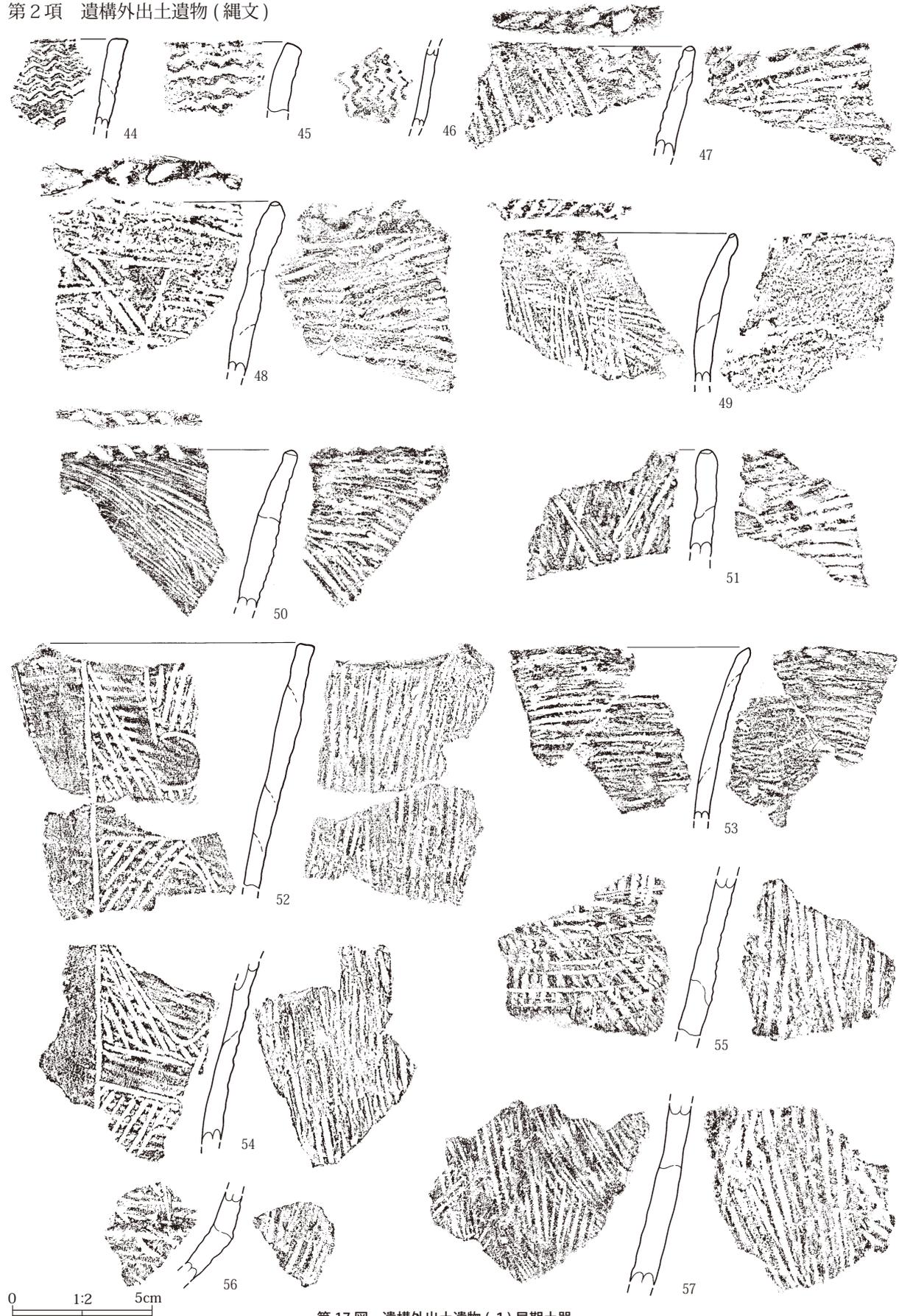


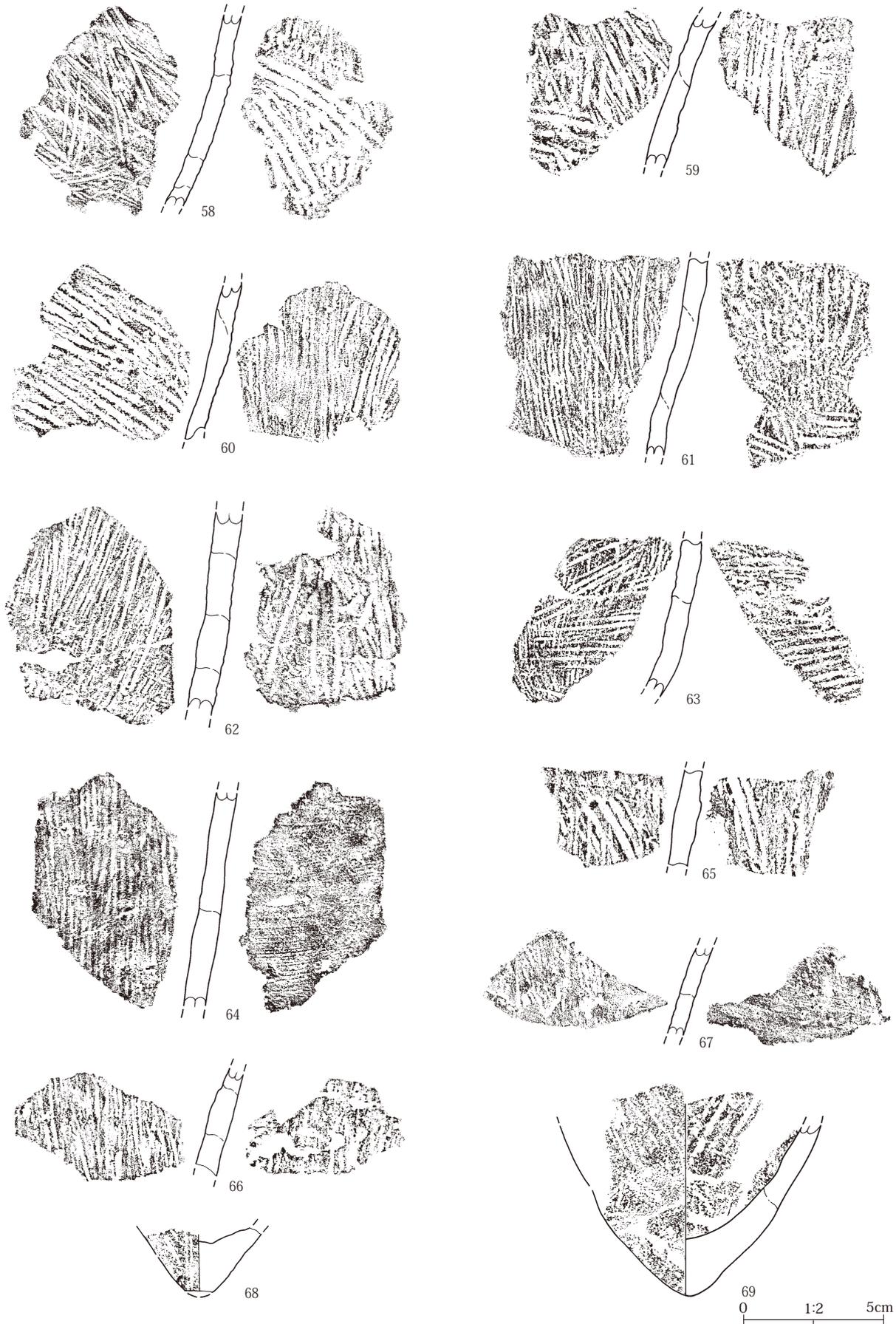
第15図 7区土坑群



- 縄文谷 埋土
- 1層 暗黒褐色土(2.SR 3/3) 淡黒色土がブロックで入る
 - 2層 赤黒色土(2.SR 2/1)
 - 3層 にぶい褐色土(7.SR 6/3)
 - 4層 にぶい褐色土(7.SR 7/3)
 - 5層 にぶい褐色土(7.SR 7/4)
 - 6層 褐色土(7.SR 4/4)

第2項 遺構外出土遺物(縄文)



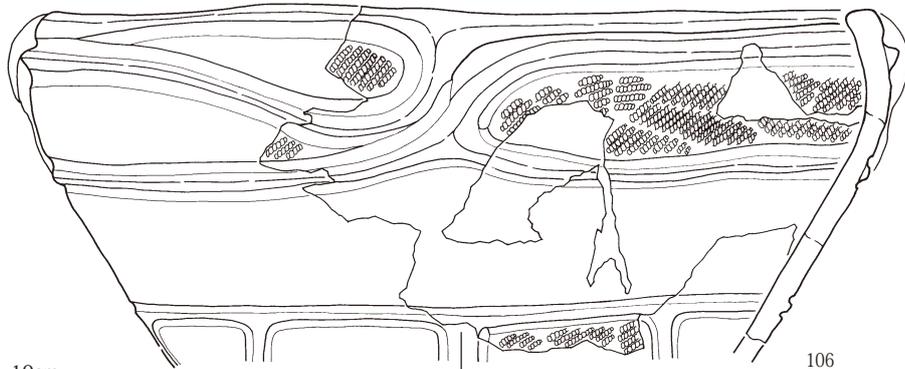
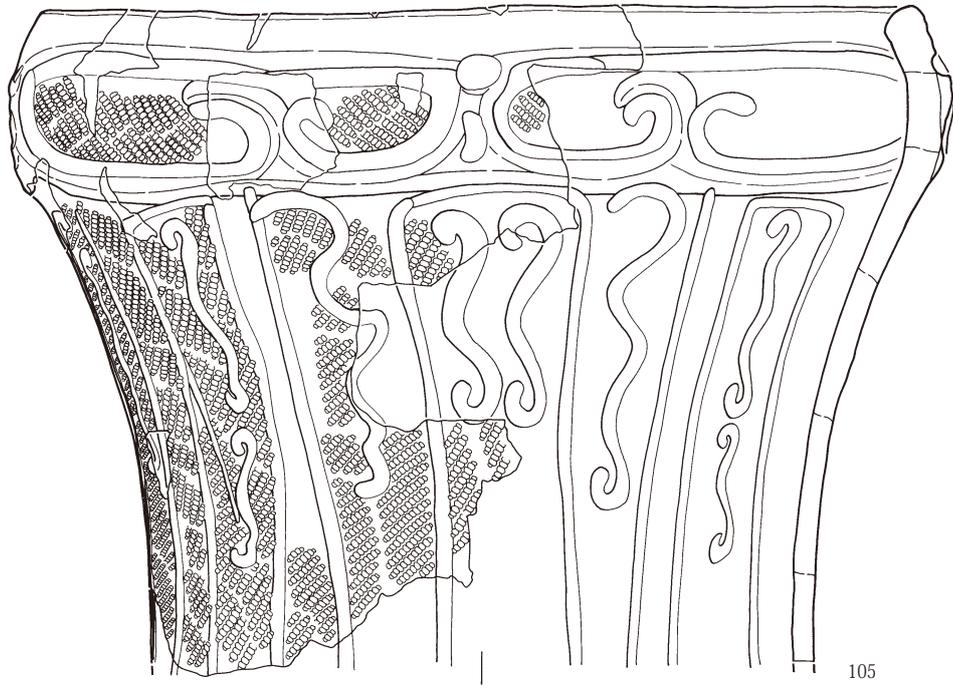
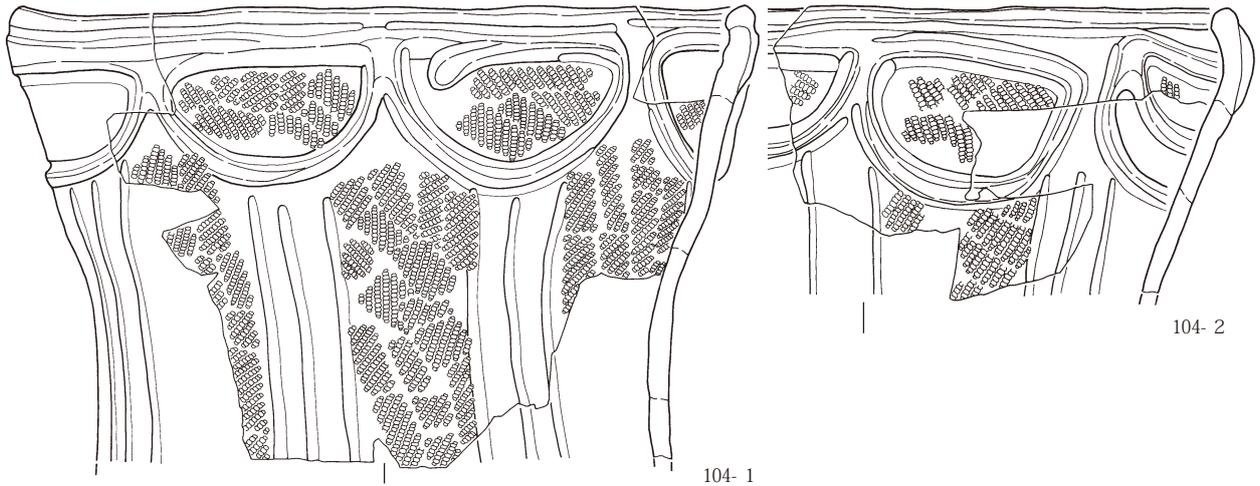


第18図 遺構外出土遺物(2) 早期土器

第3章 検出遺構と出土遺物

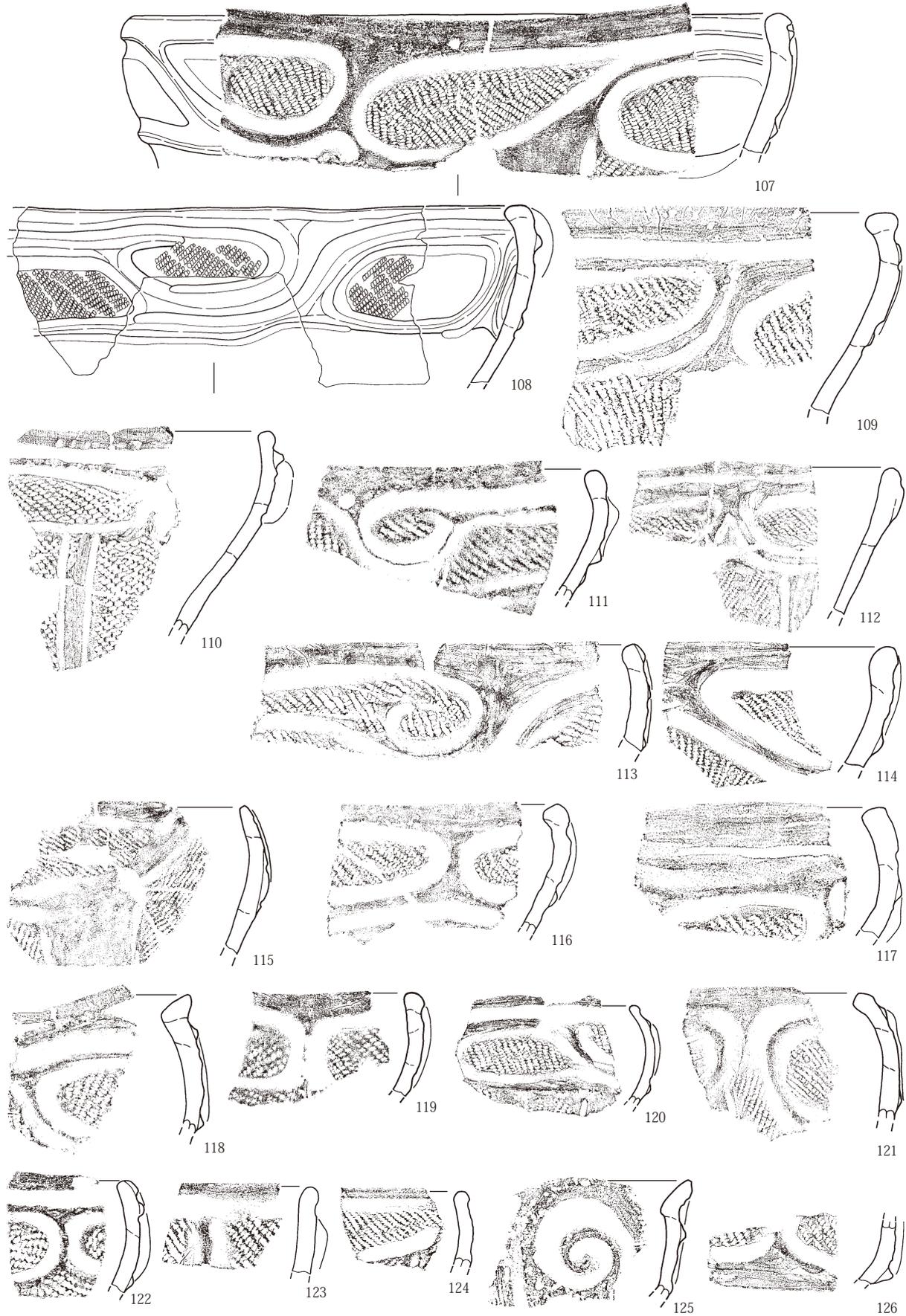


第19図 遺構外出土遺物(3)

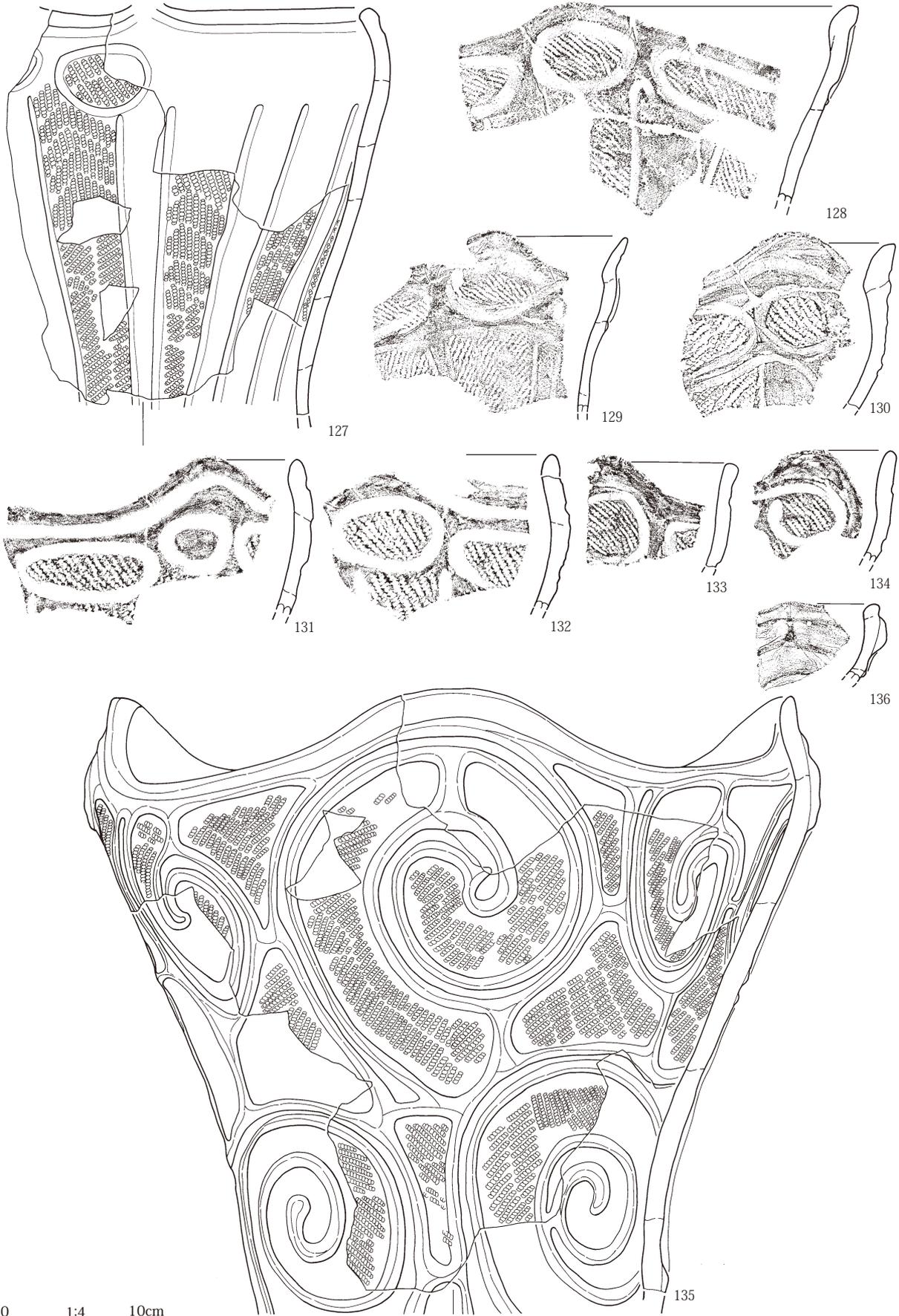


0 1:4 10cm

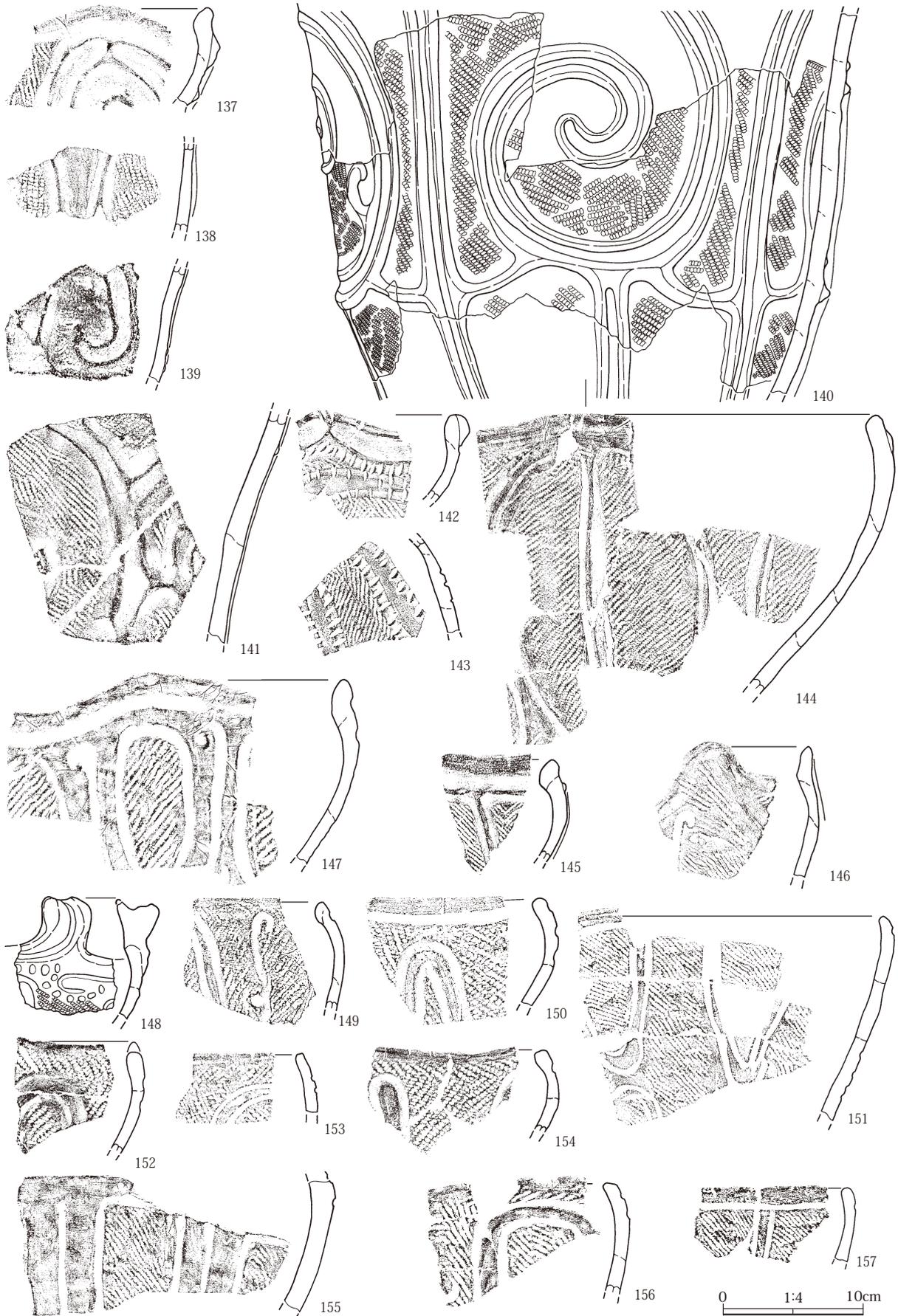
第20図 遺構外出土遺物(4)



第21図 遺構外出土遺物(5)



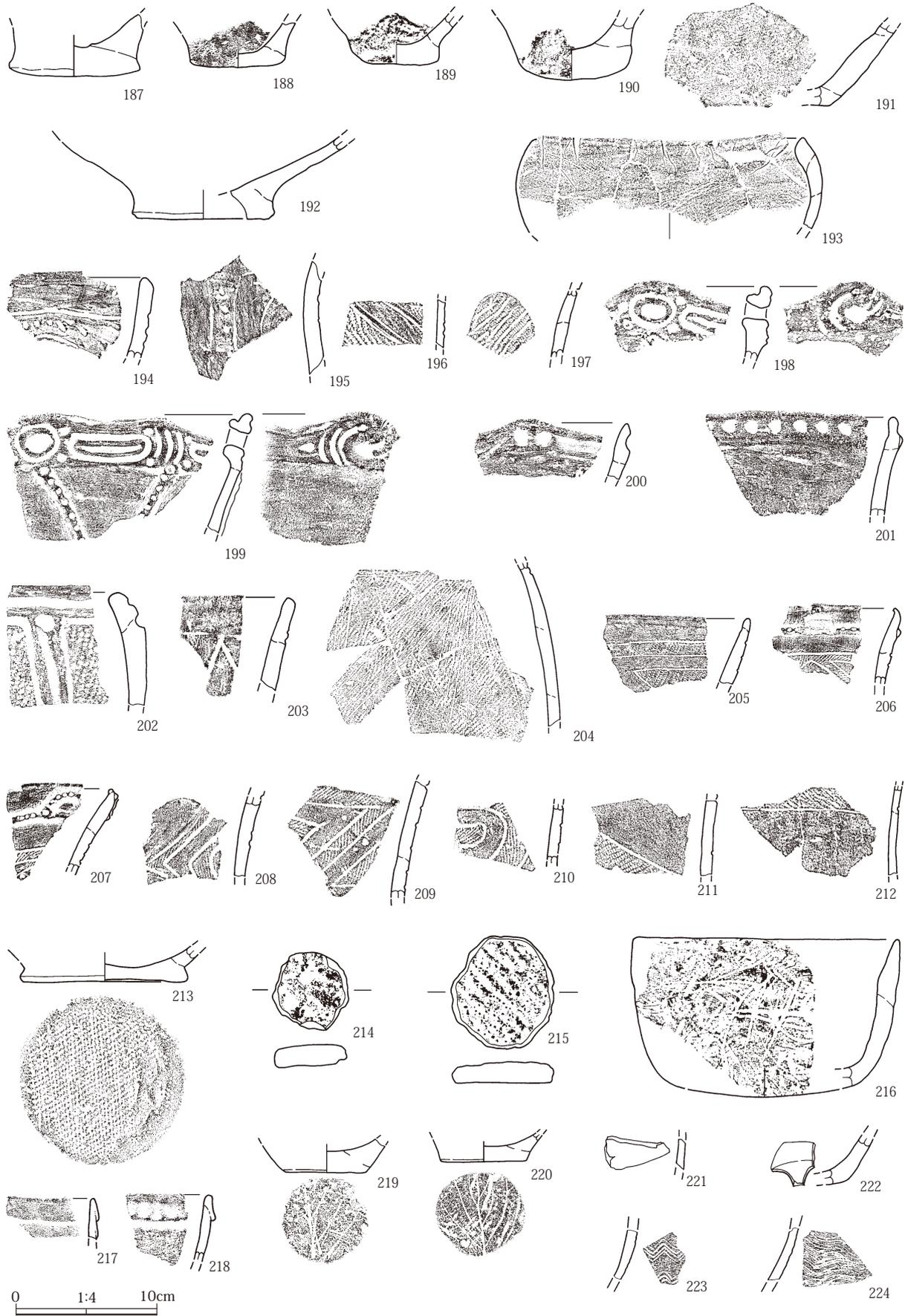
第22図 遺構外出土遺物(6)



第23図 遺構外出土遺物(7)



第24図 遺構外出土遺物(8)



第25図 遺構外出土遺物(9)

第1節 縄文時代の遺構と遺物

縄文遺構外観表

NO	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
	出土位置			
44	深鉢 口縁部破片 260-520	①粗：砂礫・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/3	口唇端部角頭状をなす。横位山形押型文を多段に施す。原体幅約2cm	早期
45	深鉢 口縁部破片 260-530	①粗：石英・輝石多 ②良好 ③灰褐色5YR5/2	口唇部角頭状で僅かに凹む。やや幅広の横位山形押型文を施す。	早期
46	深鉢 体部破片 表採	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③浅黄色2.5Y7/3	器厚やや薄手。縦位山形押型文を施す	早期
47	深鉢 口縁部破片 260-550	①粗：白色粒・輝石・繊維・チャート？ ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	口唇部に斜位刻みを付す。外面斜位、内面横位条痕を施す	野島式
48	深鉢 口縁部破片 260-550	①粗：石英・チャート大・白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	口唇部に斜位刻みを加える。外面は横位・斜位条痕、内面は横位条痕を施す。幅広で深い施文	野島式
49	深鉢 口縁部破片 260-550	①粗：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/3	口唇部外反。口唇部に刻み。外面横位条痕後縦位条痕、内面は弱い横位条痕を施す	野島式
50	深鉢 口縁部破片 260-550	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③灰黄褐色10YR4/2	口唇端部に刻みを施す。外面斜位条痕、内面口縁部横位、体部斜位条痕を施す	野島式
51	深鉢 口縁部破片 260-550	①粗：石英大・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	口唇部に刻みを加える。外面縦位条痕後格子目状の条痕施文。内面は深い横位条痕を施す	野島式
52	深鉢 口縁部破片 260-550	①細：白色粒・輝石・繊維 ②良好 ③褐色7.5YR4/4	波状縁。口唇部角頭状。外面は横位条痕後縦位・斜位沈線による区画文か。無文部を設け小弧状意匠や斜位沈線を充填する。内面は縦位条痕を施す	野島式 54と同一個体か
53	深鉢 口縁部破片 260-550	①細：白色粒・繊維少 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	口唇部外反。薄手の器厚で口唇部は尖る。内外面とも横位条痕を施す	野島式
54	深鉢 体部破片 260-550	①細：白色粒・輝石・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色5YR5/3	横位条痕後縦位・横位沈線による小区画文構成。無文部を設け、斜位沈線を充填する。内面は縦位条痕を施す	野島式
55	深鉢 体部破片 260-550	①粗：白色粒・輝石・繊維・チャート？ ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	緩やかな湾曲を呈す。外面縦位・斜位条痕後横位条痕、内面は縦位条痕を深く施す	野島式
56	深鉢 体部中位破片 表採	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	屈曲する体部。外面横位条痕後縦位・斜位条痕、内面は縦位条痕を施す	野島式
57	深鉢 体部破片 260-550	①細：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③明黄褐色10YR6/6	内外面とも縦位・斜位条痕を施す。破片下端に補修孔を見る	野島式
58	深鉢 破片 260-550	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	やや薄手の器厚で緩やかな湾曲を呈す。外面は斜位・縦位条痕、内面条痕は深く、斜位に施される	野島式
59	深鉢 体部破片 表採	①粗：白色粒・石英・繊維・チャート？ ②良好 ③鈍い褐色7.5YR6/4	外面横位・斜位条痕、内面縦位条痕を施す。内外面器面凹凸。	野島式
60	深鉢 体部破片 260-550	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③明赤褐色5YR5/8	やや薄手の器厚。外面は斜位条痕、内面は縦位条痕。条痕幅やや広い	野島式
61	深鉢 体部破片 260-550	①細：白色粒・石英・輝石・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	器面凹凸顕著。外面は縦位条痕、内面は縦位・横位条痕を施す	野島式
62	深鉢 体部破片 260-550	①粗：白色粒・輝石・繊維 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	僅かな湾曲を呈す。内外面とも縦位条痕を施す	野島式
63	深鉢 体部破片 表採	①細：白色粒・繊維少 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	緩やかに湾曲を呈す。外面は横位・斜位条痕、内面は横位条痕を施す	野島式
64	深鉢 体部破片 260-550	①粗：石英大・白色粒・輝石・繊維・チャート？ ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	外面縦位条痕、内面横位条痕を施す。内面条痕は細くやや浅い施文	野島式
65	深鉢 体部破片 260-550	①粗：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③明褐色7.5YR5/6	内外面とも縦位・斜位条痕を施す。	野島式
66	深鉢 体部破片 260-550	①粗：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/4	やや薄手の器厚。外面縦位条痕後撫で、内面は横位撫でを施す	野島式？
67	深鉢 体部破片 260-550	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	内外面とも縦位条痕を施す	野島式
68	深鉢 底部破片 表採	①細：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/3	尖底端部欠損。外面縦位条痕を施す。内面器壁剥落	野島式
69	深鉢 体部下位～底部のみ SD-2フク土	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③橙色5YR6/6	尖底。内外面凹凸顕著で縦位・斜位条痕を施す	野島式？
70	深鉢 口縁部破片 200-510	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	口唇部角頭状をなす。横位環付き無節Rを多段に施す。内面弱い研磨を加える	関山1
71	深鉢 体部破片 220-520	①細：白色粒・石英・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色	環付R L横位施文	関山1
72	深鉢 口縁部破片 210-490	①粗：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い褐色10YR6/3	口唇部丸みを帯びる。無節L横位施文	黒浜式
73	深鉢 体部中位 220-510	①細：白色粒・繊維 ②繊維 ③褐灰色10YR4/1	緩やかな屈曲を呈する体部。横位L R Lを施す	黒浜式
74	深鉢 体部破片 表採	①細：白色粒・石英・繊維少 ②良好 ③鈍い褐色5YR6/4	付加条R L + L横位・縦位施文による横位羽状縄文構成	黒浜式
75	深鉢 頸部破片 220-490	①粗：白色粒・繊維 ②良好 ③浅黄色2.5Y7/3	頸部屈曲部に幅狭の連続爪形文を横位に設ける。地文は横位L R・R Lによる羽状縄文構成	黒浜式
76	深鉢 頸部破片 SD01フク土	①粗：片岩・繊維 ②良好 ③褐色7.5YR6/6	屈曲部に小型の連続爪形文を横位多段に配す。内面平滑	黒浜式
77	深鉢 底部破片 200-510	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い赤褐色2.5YR5/4	短脚の台付き深鉢。L R・R L横位施文による羽状縄文構成	黒浜式
78	深鉢 口縁部破片 SD01フク土	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③灰黄色2.5YR7/2	口唇部角頭状をなす。横位L R Lを施す	黒浜式
79	深鉢 口縁部破片 200-510	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	歪みある器形。横位R Lが器面を覆う	黒浜式
80	深鉢 口縁部破片 220-490/210-490	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③暗灰黄色2.5Y5/2	口唇部丸みを帯びる。横位R Lを施す。内面雑な横位研磨を施す	黒浜式

第3章 検出遺構と出土遺物

NO	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
	出土位置			
81	深鉢 口縁部破片 230-520	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	口唇部尖り気味。0段多糸R Lを横位に施す。内面研磨を加える	黒浜式
82	深鉢 体部破片 220-490	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い橙色10YR6/3	横位R Lを施す。器面凹凸多い	黒浜式
83	深鉢 口縁部破片 1・2区フク土	①細：白色粒・繊維 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/4	波頂部に小型の円形刺突文を縦位に配し、口唇部に沿って平行沈線が派生する。地文は無節L	黒浜式
84	深鉢 口縁部破片 260-540	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色5YR6/6	口縁部は横位連続刺突文を多段に設け、円形刺突文を加える。体部は連続刺突文を弧状に施す	諸磯a式
85	深鉢 口縁部破片 SD01フク土	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明褐色7.5YR5/4	口唇部直下に内皮平行沈線による楕円状意匠と斜位沈線を配す。地文は横位R L	諸磯a式
86	深鉢 口縁部破片 1・2区表土	①粗：石英・片岩 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	口縁部に横位平行沈線群を配し、以下横位R Lを施す。器厚薄手。内面研磨を加える	諸磯a式
87	深鉢 口縁部破片 SJ53 No.1・2	①粗：石英・片岩 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	口縁部に横位平行沈線群を配し、以下横位R Lを施す。器厚薄手。内面研磨を加える	諸磯a式
88	深鉢 体部破片 240-510	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR7/4	薄手で緩やかに外反する。横位R Lを施す。結束部を見る。内面研磨を加える	諸磯a式
89	深鉢 体部中位破片 1・2区 SK-193フク土	①細：白色粒・石英 ②良好 ③褐色7.5YR4/3	緩やかに内湾する体部。横位L Rが覆う。器厚薄手	諸磯a式
90	深鉢 体部破片 SD01フク土	①粗：石英・片岩 ②良好 ③鈍い黄褐色5YR5/4	横位R Lを施す	諸磯a式
91	深鉢 体部破片 SD01フク土	①粗：石英・片岩 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3	横位R Lを施す	諸磯a式
92	深鉢 体部破片 240-490	①粗：白色粒・片岩・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	斜位R Lを施す	諸磯a式
93	深鉢 体部破片 表採	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色2.5YR5/4	縦位平行沈線による懸垂文構成。縦位矢羽状沈線を充填する	諸磯c式
94	深鉢 体部上半破片 260-540	①粗：石英大多・雲母 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	横位沈線以下、3条の短沈線が垂下し、両脇に弧状沈線・三叉文を配す。横位L Rを充填する	五領ヶ台Ⅱ式
95	深鉢 口縁部破片 230-490	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③橙色7.5YR6/4	波状緑波頂部。垂下隆線下端部で屈曲する。側線・充填文は複列単独施文の節節沈線	阿玉台Ⅱ式
96	深鉢 口縁部破片 230-460	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③明褐色5YR7/2	波状緑波頂部。垂下隆線で口縁部を画す。複列単独施文の横位節節沈線を充填する	阿玉台Ⅱ式
97	深鉢 口縁部破片 4区表採	①粗：石英大・雲母 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	隆線による口縁部楕円状区画。側線は複列の節節沈線。頸部に横位刻み目列を施す	阿玉台Ⅱ式
98	深鉢 口縁部破片 210-480	①粗：石英・雲母 ②良好 ③灰褐色5YR5/2	平縁で尖状突起を付す。口唇部および口縁部に横位刻み目列を施す	阿玉台Ⅱ式
99	深鉢 頸部破片 220-490	①粗：石英・雲母多 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/2	横位波状沈線を2条施す	阿玉台Ⅱ式
100-1	深鉢 体部破片 200-480	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色5YR6/4	5点を同一個体と判断した。頸部は無文で、頸部隆線上位に幅広連続爪形文を施す。体部は弧状隆線を配し、側線に沈線が沿い内縁を波状沈線が施される。隆線貼付後にR Lを充填施文しており、意図的に縄文が隆線上に及ぶ	中期中葉
100-2	深鉢 体部破片 SJ7 No.7	①粗：白色粒・石英大多・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4		
100-3	深鉢 体部破片 SK2 No.9	①粗：白色粒・石英大多・雲母 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4		
100-4	深鉢 体部破片 SJ 7フク土	①粗：白色粒・石英大多・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3		
100-5	深鉢 体部破片 SJ6フク土	①粗：白色粒・石英大多・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/3		
101	深鉢 体部破片 220-530	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	横位内皮連続刺突文以下斜位沈線・波状沈線・蓮華文が施される	勝坂3式
102	深鉢 口縁部破片 210-530	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR7/3	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。渦巻文は下位で突出。地文は横位R L。頸部は無文。	加曾利E1式
103	深鉢 口縁部破片 230-530	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR6/3	細隆線による口縁部区画文。側線は凹線。体部は浅い垂下沈線による懸垂文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
104-1	深鉢 口縁～体部中位1/3 230-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	口：(37.8)。2点の大破片からなる。平縁。隆線による口縁部区画文構成。おそらく4単位。側線は凹線および撫で。体部は2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。縄文はR L充填施文	加曾利EⅢ式
104-2	深鉢 口縁～体部中位1/3 230-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4		
105	深鉢 口縁～体部中位1/3	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色 10YR7/3	口：(46.0)。大型の深鉢。平縁で隆線による口縁部楕円状区画文構成。4単位を推定した。区画接点上位に円文を配す。体部は沈線による逆U字状懸垂文と縦位蕨手状沈線を配す。R L充填施文	加曾利EⅢ式
106	深鉢 口縁～頸部破片 230-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	口：(43.4)。口縁部は隆線による長楕円状区画文構成。区画接点に弧状突起を付す。側線は凹線と沈線。頸部は無文で、体部は横位沈線以下2条沈線による懸垂文構成か。L R充填施文	加曾利EⅢ式 108と同一個体か
107	深鉢 口縁部1/4 070-470・SX2	①粗：白色粒・石英・雲母少・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	口：45.6。隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は凹線・L Rを充填する。未貫孔の補修孔を見る	加曾利EⅢ式
108	深鉢 口縁～頸部破片 230-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	口：(42.0)。隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は凹線・L R充填施文。頸部は無文。	加曾利EⅢ式
109	深鉢 口縁部破片 配石1 2層No.5・10	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	口縁部に幅広の横位凹線を設け以下低位隆線による半楕円状区画文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
110	深鉢 口縁部破片 SD01フク土	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	隆線による口縁部楕円状区画文構成。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縦位L R Lを施す	加曾利EⅢ式
111	深鉢 口頸部破片 SD01フク土	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	隆線による口縁部半渦巻文と楕円状区画文構成。側線は凹線。横位L Rを充填する	加曾利EⅢ式
112	深鉢 口縁部破片 230-530	①細：白色粒・石英少 ②良好 ③赤灰色2.5YR6/1	隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は沈線。体部は沈線による懸垂文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式

第1節 縄文時代の遺構と遺物

NO	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
	出土位置			
113	深鉢 口縁部破片 表採	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	低位隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫で、R L充填施文	加曾利EⅢ式
114	深鉢 口縁部破片 配石1 2層No.8	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色5YR6/6	隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線。R L充填施文	加曾利EⅢ式
115	深鉢 口縁部破片 SJ12	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	低位隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線。体部は垂下沈線による懸垂文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
116	深鉢 口縁部破片 210-480	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	口唇部肥厚。隆線による口縁部楕円状区画文構成。凹線を側線とし、横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
117	深鉢 口縁部破片 220-490	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/3	口縁部に横位沈線を設け、以下隆線による楕円状区画文構成。側線沈線、横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
118	深鉢 口縁部破片 SK77No.2	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	緩やかな波状線。隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は撫で。縦位R Lを充填施文する。	加曾利EⅢ式
119	深鉢 口縁部破片 SD1フク土	①細：白色粒 ②良好 ③橙色7.5YR5/6	隆線による口縁部区画文構成。沈線を側線とし、複節L R Lを充填する。器面水流のため摩滅	加曾利EⅢ式
120	深鉢 口縁部破片 220-530	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線凹線体部は垂下沈線による懸垂文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
121	深鉢 口縁部破片 3層フク土	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	隆線による大柄な口縁部渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線の上端を見る。R L充填施文	加曾利EⅢ式
122	深鉢 口縁部破片 240-520	①細：白色粒 ②良好 ③橙色5YR6/6	隆線による口縁部区画文構成。側線は沈線、縦位R L Rを充填する	加曾利EⅢ式
123	深鉢 口縁部破片 VII-3 リュウ	①細：白色粒・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	口縁部に横位凹線を設け、隆線による区画文を配す。側線は撫で、横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
124	深鉢 口縁部破片 200-460	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③灰黄褐色10YR6/2	低位隆線による口縁部区画文構成。側線は凹線、横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
125	深鉢 口縁部破片 270-490	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	波状突起。隆線による渦巻文を配す。側線は撫で。口縁部区画内は密接条線か	加曾利EⅢ式
126	深鉢 口縁部破片 SJ19フク土	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/3	隆線による口縁部区画文下端。側線は沈線、横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
127	深鉢 口縁部～体部中位1/4 220-530	①細：白色粒 ②良好 ③鈍い橙色2.5YR6/4	口：(32.0)。波状線か。口縁部横位沈線以下、沈線による円形区画文を配す。直下より体部は2条沈線による懸垂文構成。縄文はR L充填施文	加曾利EⅢ式
128	深鉢 口縁～体部上半破片 220-530・230-530	①細：白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/4	波状突起を付す。隆線による円形・楕円状区画文構成。側線は沈線。体部は臍手状沈線等による懸垂文構成。縦位L R充填施文	加曾利EⅢ式
129	深鉢 口縁～体部上半破片 SD1No.3 ミ	①細：白色粒 ②良好 ③明黄褐色10YR7/6	波状突起下は隆線による口縁部区画文構成。体部は2条沈線の懸垂文構成。無節Rを充填施文する	加曾利EⅢ式
130	深鉢 口縁～体部上半破片 270-470	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色5YR6/6	波状突起を付し、波頂部に沈線による円形区画文を配す。体部は磨消部懸垂文構成か。R L充填施文	加曾利EⅢ式
131	深鉢 口縁部破片 230-530	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	波状突起を付し、沈線による円形・楕円状区画文構成。側線は凹線。横位R Lを充填する	加曾利EⅢ式
132	深鉢 口縁部破片 220-530	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/3	波状線波頂部欠損。口唇部に凹線。凹線による口縁部楕円状区画文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
133	深鉢 口縁部破片 220-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	波状突起。波頂部下に沈線による円形区画文を配す。縄文はR L充填施文	加曾利EⅢ式
134	深鉢 口縁部破片 260-530	①粗：白色粒・石英・チャート？ ②良好 ③橙色5YR6/6	波状突起。波頂下に沈線による半渦巻き状意匠を配す。L R縦位充填施文	加曾利EⅢ式
135	深鉢 口縁～体部中位1/3 230-530・220-530・250-540	①細：白色粒 ②良好 ③浅黄色5YR7/3	口(47.8)。大型の4単位波状線深鉢。波頂部に2条隆線による大柄の渦巻文を配す。渦巻文は波底部及び体部下半にも設けられ、隆線が連携する。側線は撫で、R L充填施文。内面上半に黒色付着物	加曾利EⅢ式
136	深鉢 口縁部破片 SK18 2層 No.19	①細：白色粒・石英 ②良好 ③淡黄色2.5Y8/3	やや小径。波状突起。2条隆線による渦巻文を配す。充填文は施文されない。	加曾利EⅢ式
137	深鉢 口縁部破片 220-480/220-470	①粗：白色粒・石英・輝石少 ②良好 ③橙色7.5YR7/6	波状突起。2条隆線による渦巻文を配す。側線は撫で。L R充填施文	加曾利EⅢ式
138	深鉢 体部破片 270-500	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色5YR6/6	細隆線による体部弧状意匠。側線は撫で、R L充填施文	加曾利EⅢ式
139	深鉢 体部破片 SK3No.10	①粗：白色粒・石英・雲母少 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	2条の細隆線による大柄の渦巻き状意匠。比較的薄手の器厚	加曾利EⅢ式
140	深鉢 体部のみ 230-530	①細：白色粒・雲母 ②良好 ③淡黄色5Y8/3	2条隆線による懸垂文構成と大柄の渦巻文構成。4単位。各隆線を横位に連結する1条の隆線によって上下二帯の構成となる。L R充填施文	加曾利EⅢ式
141	深鉢 体部中位破片 230-530	①粗：白色粒・輝石 ②良好 ③浅黄色2.5Y7/4	2条隆線による大柄な渦巻文構成。側線は撫で、R L充填施文。内面炭化状の付着物	加曾利EⅢ式
142	深鉢 口縁部破片 270-500	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	波状線。口縁部横位隆線以下磨消部と縄文施文部による弧状・渦巻き状意匠か。深い刻みを施す	加曾利EⅣ式 143と同一個体か
143	深鉢 体部破片 280-500	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR7/4	磨消部と縄文施文部による弧状・渦巻き状意匠か。無節R充填施文、磨消部に深い刻みが沿う	加曾利EⅣ式
144	深鉢 口縁部～体部上半破片 270-500	①粗：白色粒・輝石・石英 ②良好 ③赤褐色5YR4/6	緩波状突起下に2条沈線による縦位対弧状意匠を配し、中位を垂下沈線で区画する。R L充填施文	加曾利EⅢ式
145	深鉢 口縁部破片 270-500	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/3	口縁部下に横位隆線を設け、斜位隆線が派生する。大柄の区画文・渦巻文か。L R充填施文	加曾利EⅢ式
146	深鉢 口縁部破片 080-420	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	双波状突起か。細隆線が派生し区画文を画す。臍手状沈線も施される。無節L充填施文	加曾利EⅢ式
147	深鉢 口縁～体部上半破片 260-540	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色10YR7/4	波状線。口縁部凹線以下、体部は沈線による縦位楕円状区画文を主とした2帯構成か。R L充填施文	加曾利EⅢ式
148	深鉢 口縁部突起 3層	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄褐色10YR8/3	突出する渦巻き状突起。口縁部に円形刺突文と横位沈線を設け、体部は逆U字状意匠を配す	加曾利EⅢ式

第3章 検出遺構と出土遺物

NO	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
	出土位置			
149	深鉢 口縁部破片 配石1 2層No.13	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色10YR6/4	2条の沈線による逆U字状意匠を配す。腕手状沈線も加える。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
150	深鉢 口縁部破片 SK10No.153	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR7/6	口唇部に横位沈線を設け、以下2条沈線による逆U字状意匠を配す。縦位L R充填施文	加曾利EⅢ式
151	深鉢 口縁～体部上半破片 230-530	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色5YR6/4	2条の沈線による懸架状区画構成を上半に配す。下半も弧状懸垂文か。無節L充填施文	加曾利EⅢ式
152	深鉢 口頸部破片 240-510	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	波状突起を付す。2条沈線で画された磨消部逆U字状意匠を配す。R L充填施文	加曾利EⅢ式
153	深鉢 口縁部破片 表採	①細：白色粒 ②良好 ③橙色5YR6/6	2条沈線による弧状意匠、逆U字状意匠か。付加条第1種R L+L2条を充填する	加曾利EⅢ式
154	深鉢 口縁部破片 230-530	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	口縁部内湾。沈線による逆U字状意匠が配される。縄文は口唇部横位、体部縦位R L	加曾利EⅢ式
155	深鉢 口頸部破片 260-550	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR7/4	口唇部欠損し、突起剥落痕跡を見る。沈線による逆U字状懸垂文か。無節L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
156	深鉢 口縁部破片 220-530	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色2.5YR6/8	沈線で画された磨消部逆U字状意匠が配される。縦位S字状沈線も施される。無節L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
157	深鉢 口縁部破片 230-530	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	平線か。口縁部横位沈線より2条の沈線が垂下する。無節L縦位充填施文。内面褐色付着物	加曾利EⅢ式
158	深鉢 口縁部破片 80-460	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	口縁部より沈線2条が垂下する懸垂文構成。縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式
159	深鉢 口縁部破片 縄文包	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	浅い沈線による口縁部区画構成。体部は2条沈線による懸垂文構成。R L充填施文	加曾利EⅢ式
160	深鉢 口縁～体部上半破片 270-500/280-485	①粗：白色粒・輝石・石英 ②良好 ③明赤褐色5YR5/6	口縁部に横位細沈線を設け、以下細沈線による分岐懸垂文を配す。縦位L R充填施文	加曾利EⅣ式
161	深鉢 口縁部破片 270-500	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部に横位沈線を設け、以下横位・縦位R Lが覆う。乱雑な羽状縄文構成	加曾利EⅢ式
162	深鉢 口縁部破片 SK10No.163	①細：白色粒 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	口唇部に円形刺突文。以下2条の沈線による横位弧状意匠を配す。無節L充填施文	加曾利EⅢ式
163	深鉢 口縁部破片 080-430	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色5YR5/4	内湾する口縁部に横位沈線を設け、横位R Lを施す。以下は縦位R Lが覆う	加曾利EⅢ式
164	深鉢 口縁部破片 260-540	①粗：白色粒・石英・輝石・雲母少 ②良好 ③橙色5YR7/6	口縁部強く内湾。横位凹線以下、横位R Lと縦位R Lが覆う	加曾利EⅢ式
165	深鉢 口縁部破片 表土	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部内湾し横位細沈線を設ける。以下、細沈線による分岐懸垂文構成か。R L充填施文	加曾利EⅣ式
166	深鉢 口縁部破片 260-540	①粗：白色粒・石英・雲母 ②良好 ③黒褐色10YR3/2	揺るやかな波状縁。口縁部下に沈線を沿わせ、横位・斜位L Rを充填する	加曾利EⅢ式
167	深鉢 口縁部破片 240-520	①細：白色粒 ②良好 ③橙色5YR7/8	口縁部内湾。幅広の無文口縁部下に横位沈線を設け、体部に縦位密接条線を施す	加曾利EⅢ式
168	深鉢 口縁部破片 表採	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	口縁部下に横位沈線を設け、以下は縦位密接条線が覆う	加曾利EⅢ式
169	深鉢 口縁部破片 220-530	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部内湾。口縁部横位沈線はやや太い。体部に縦位密接条線を施す	加曾利EⅢ式
170	深鉢 口縁部破片 表採	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色5YR7/6	口唇部は斜位、以下は縦位密接条線を施す	加曾利EⅢ式
171	深鉢 口縁部破片 110-430・トレ1	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色5YR6/6	縦位密接条線と波状条線を施す	加曾利EⅢ式
172	深鉢 口縁～体部上半破片 220-530	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色5YR5/4	口縁部内湾。横位沈線を設け、以下幅広の密接条線を縦位に施す。口縁部器壁剥落著しい	加曾利EⅢ式
173	深鉢 体部下半破片 220-530	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色7.5YR7/6	6・7条単位の密接条線を縦位・斜位に施す	加曾利EⅢ式
174	深鉢 体部破片 表採	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色10YR7/4	2条隆線による弧状意匠、渦巻文か。L R充填施文。隆線は異種粘土を使用し色調の差を見る	加曾利EⅢ式
175	深鉢 体部破片 表採	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	内湾する体部。低位細隆線による懸垂文構成。無節L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
176	深鉢 体部中位破片 210-470	①細：白色粒・石英 ②良好 ③橙色7.5YR7/6	垂下沈線による懸垂文構成。U字状・逆U字状意匠を配す。L R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
177	深鉢 体部破片 表採	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/3	沈線による逆U字状懸垂文。上位は楕円状区画か。磨消部に腕手状沈線を配す。L R充填施文	加曾利EⅢ式
178	深鉢 体部中位破片 3層	①細：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	2条沈線で画された磨消部懸垂文構成。R L縦位充填施文。突起剥落痕跡を見る	加曾利EⅢ式
179	深鉢 体部中位破片 230-530	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③橙色5YR6/6	沈線によるU字状・逆U字状懸垂文を配す体部二帯構成。無節L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
180	深鉢 体部下半破片 240-520	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色5YR6/6	垂下沈線による懸垂文構成下部部。施文部縄文は縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式
181	深鉢 底部のみ SD2フク土	①粗：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	底：6.8。垂下沈線2・3条による懸垂文構成下部部。縄文は縦位R L充填施文	加曾利EⅢ式
182	深鉢 底部のみ 270-490	①粗：白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	底：6.2。直立気味に開く体部下半。縦位密接条線下部部を見る	加曾利EⅢ式
183	深鉢 底部のみ SD1No.44	①粗：白色粒・石英多・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	底：5.6。体部下半は強く開く。縦位R Lが施される	中期後葉
184	深鉢 底部のみ SK10No.30・32・34	①細：白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	底：6.0。垂下沈線による懸垂文構成下部部。施文部に縄文が施されるが判然としない。	加曾利EⅢ式
185	深鉢 体部下半1/1 270-490	①細：白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色5YR6/6	台付き深鉢台部欠損。円形孔を3単位設ける。体部は縦位楕円状意匠か。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
186	深鉢 体部上半～底部1/2 SD-2フク土	①粗：白色粒 ②良好 ③浅黄褐色10YR8/3	底：(6.4)。キャリバー状深鉢。体部は沈線による逆U字状懸垂文を配す。沈線は底部際にまで達す。R L縦位充填施文	加曾利EⅢ式
187	深鉢 底部のみ 1・2区表採	①粗：白色粒・石英 ②やや軟質 ③明赤褐色5YR5/6	底：(9.0)。あるいは、台付き深鉢か。底面の摩滅著しい。内面の湾曲は強い	中期後葉

第1節 縄文時代の遺構と遺物

NO	器種・部位	①胎土②焼成③色調	文様の特徴等	備考
	出土位置			
188	深鉢 底部のみ 250-530	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	底:5.7。小径で丸みを帯びた底部。内面形状も湾曲する。体部下端は無文	加曾利EⅢ式
189	ミニチュア 底部破片 表採	①細:白色粒 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	底:2.5。深鉢ミニチュアか。体部下半は強く開く。横位RLを施す。底部内面内湾。	中期後葉
190	ミニチュア 底部破片 SD1	①細:白色粒・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	底:3.9。底面は丸みを帯び、体部も凹凸ある整形で粗雑な作り。無文	中期後葉
191	深鉢 体部下半破片 SD1中層	①粗:白色粒・石英 ②やや軟質 ③橙色5YR6/6	大型の深鉢か。無文で内面凹凸著しい	中期後葉
192	深鉢 体部～底部破片 270-500	①細:白色粒・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	底:9.2。底部は突出し、体部下半は強く開く。底部内面は内湾する。器面摩滅	中期後葉
193	深鉢 口縁部1/2 230-530	①細:白色粒 ②良好 ③灰褐色5YR5/2	口:(19.0)。口唇部肥厚。浅い密接条線を斜位に施す。器面摩滅。内外面に炭化物付着	加曾利EⅢ式
194	深鉢 口縁部破片 4区表土	①細:白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	横位沈線で画された意匠文上端。施文部は横位刺突文を施す。	称名寺Ⅱ 195と同一個体か
195	深鉢 体部破片 4区表土	①細:白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4	浅い沈線で画された意匠文か。施文部は縦位刺突文を施す。磨消部には研磨が加わる	称名寺Ⅱ
196	深鉢 体部破片 250-470	①細:白色粒・石英・片岩粒 ②良好 ③灰黄褐色10YR4/2	2条の内皮沈線が磨消部を画し、斜位意匠文を配す。RL充填施文	称名寺式
197	深鉢 体部破片	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR5/4	弧状沈線で画された区画内を異段LR1を充填施文する	称名寺式
198	深鉢 口縁部破片 3層フク土	①細:白色粒・石英・雲母少・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR6/4	中に円孔を設けた環状突起。周縁を沈線・円形刺突文が巡る。口縁部には楕円状沈線を配す	堀之内1式
199	深鉢 口縁部破片 表土	①粗:白色粒・石英・雲母少・輝石 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	環状突起周縁を沈線・円形刺突文が巡る。口縁部に楕円状沈線を配す。頸部は斜位隆線が伸びる	堀之内1式
200	深鉢 口縁部破片 100-460	①細:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③橙色7.5YR6/6	波頂部に円文を配す。口唇部に凹線が巡る。頸部は無文か	堀之内1式
201	深鉢 口縁部破片 080-440	①細:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	頸部は強く外反する。肥厚口縁部に円形刺突文を横位に連続する。頸部は無文	堀之内1式
202	深鉢 口縁部破片 270-470	①細:白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4	口縁部横位沈線を設け、円文を中核に垂下沈線が懸垂する。斜位LRを施す	堀之内1式
203	深鉢 口縁部破片 220-530	①微細:白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4	平線。口縁部に横位沈線を設け以下斜位沈線による斜格子文構成	堀之内1式
204	深鉢 体部上半破片 SJ1 1No.4・19・フク土	①粗:石英・輝石・チャート? ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	横位細沈線以下垂下沈線による懸垂文構成。斜位沈線を加える	堀之内1式
205	深鉢 口縁部破片 3層	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い橙色7.5YR7/4	口唇部内屈。細沈線で画された施文部幾何学文構成。細縄文LRを充填する	堀之内2式
206	深鉢 口縁部破片 260-540	①細:白色粒多・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4	口縁部横位細隆線以下細沈線で画された施文部幾何学文構成。無節Lを充填する	堀之内2式
207	深鉢 口縁部破片 表採	①粗:白色粒・輝石 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR5/4	口縁部横位隆線に弧状隆線を付す。体部は2条沈線で画した施文部幾何学文構成か。LR充填施文	堀之内2式
208	深鉢 体部破片 SJ3カマドフク土	①粗:白色粒・石英・雲母少・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/2	細沈線で画された充填縄文施文部による幾何学文構成。細縄文LRを充填する	堀之内2式
209	深鉢 体部破片 210-480	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/3	細沈線で画された施文部による幾何学文構成。三角形区画か。細縄文LRを充填する	堀之内2式
210	深鉢 体部中位破片 220-490	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③浅黄色2.5Y7/3	細沈線で画された施文部による弧状意匠。LR充填施文	堀之内2式
211	深鉢 体部破片 表土	①粗:白色粒・石英・輝石多・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色7.5YR3/4	斜位沈線2条に画された縄文施文部。LRを充填する	堀之内2式
212	深鉢 体部下半破片 240-470	①粗:白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	体部下半の横位沈線2条で画された施文部。横位RLを充填する	堀之内2式
213	深鉢 底部のみ 表採	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/3	底:11.6。大型の深鉢か。張り出し底部で体部は強く開く。底面に網代痕残る	堀之内式
214	土製円盤 完形 220-470	①粗:白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR7/4	径:2.5 重:5.74g。深鉢体部破片を使用か。無文で凹凸多い	中期後葉か
215	土製円盤 完形 SD-1	①粗:白色粒・石英 ②良好 ③褐色7.5YR4/3	径:3.3×3.8。重さ12.59g。深鉢体部破片を使用。横位RLを施す	諸磯a式か
216	ミニチュア 口縁～底部破片 Ⅷ-3 Ⅲ層フク土	①細:白色粒・輝石 ②良好 ③灰黄褐色10YR5/2	口:9.4 底:- 高:5.6。鉢ミニチュアか。口唇部は尖り外傾する。器面凹凸多く、横位沈線や斜位沈線が乱雑に施文される	中期後葉か
217	甕? 口縁部破片 160-460	①微細:白色粒 ②良好 ③灰黄褐色10YR6/2	折り返し口縁。口唇部は尖り折り返し部は短い	弥生
218	甕か 口縁部破片 表採	①粗:白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色10YR6/2	折り返し口縁。折り返し部に指頭圧痕を見る	弥生
219	深鉢 底部のみ 100-430	①粗:白色粒・輝石・雲母少 ②良好 ③鈍い赤褐色2.5YR5/4	底:5.6。体部下半は強く開く。底部器厚やや厚手。底面に木葉痕残る	弥生か
220	深鉢 底部のみ 表採	①粗:白色粒・石英・輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色10YR6/4	底:5.8。体部下半は強く開く。底面に木葉痕残る	弥生か
221	壺? 体部破片 1住カクラン	①微細:輝石 ②良好 ③鈍い黄褐色5YR5/4	肩部小片か。内外面とも丁寧な研磨を施し、赤色塗彩を加える	弥生
222	甕? 底部破片 1住カクラン	①微細:白色粒 ②良好 ③浅黄褐色10YR8/4	底面に孔を設ける甕か。小片のため判然としない	弥生
223	甕か 胴部 表採	①細砂粒 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR 6/3)	外面:3条1単位の櫛描籐状文を施文。内面:横疋。	弥生
224	甕か 胴部 表採	①細砂粒・粗砂粒 ②酸化焰 良好 ③鈍い黄橙(10YR 7/2)	外面:櫛描文を施文。内面:横疋。	弥生

第3章 検出遺構と出土遺物

石器

遺構外出土の石器として剥片系石器 189 点・礫石器類 110 点が、古代住居の覆土や溝から出土している。器種構成(下表)は石斧類・狩猟具類・削器類・製粉具類・呪術具類に大別され、削器類の出土は少ない。区別に出土量を見ると、出土量は遺構分布に比例しており、縄文時代の遺構(埋葬)が確認されている6区(77点 25.8%)・7区(113点 37.8%)に出土量が多い。区別に見た石器の器種構成については特に大きな差はないようであるが、強いて言えば多孔石が6区に、磨石類が7区に偏在する傾向が指摘できそうである。

調査所見では縄文期遺物包含層は欠いたとされるが、1区の低地部は湧水起源の浅い埋没谷の谷頭と見られ、北側に抜けるようなものではないことに注意しておきたい。石器類が古代住居や溝等の覆土から出土していることから明らかに提示資料は部分的であるというべきであり、以下隣接する大道東遺跡の石器組成・石材組成を参照してその概要を解説していきたい。

大道東遺跡の包含層出土土器は、縄文時代中期後半から後期前半のそれが圧倒的多数を占めた。同時期の住居 12 棟・土坑 93 基が検出され、調査区外へ集落が広がることが明らかであり、地域の拠点集落と評することもできる規模の遺跡である。石器類には剥片系石器 9 種と礫石器 8 種があり、典型的な中・後期の器種組成を示していた。石器石材は 20 種があり、剥片系石器にはチャート・ホルンフェルス、礫石器類には粗粒輝石安山岩が多用されていた。器種レベルで見た石材の利用状況は打製石斧や削器類にホルンフェルスが、石鏃等の小形石器にチャートが多用されたようであり、在地石材の利用が圧倒していた。流域外の石材

調査区 器種	1・2区	3区	4区	6区	7区	8区	表採	不明	総計
打斧	8		4	17	22	12			63
磨斧						1			1
片斧			1						1
石鏃	6		9	13	21	10			59
石錐				1	1				2
削器				5	2				7
石核		1		9	8	2		1	21
加工痕ある剥片	4			9	13	2		6	34
使用痕ある剥片								1	1
石錘						1			1
凹石	1			5	11	2		12	31
磨石	5			7	22	1	1		36
敲石				1	4			2	7
石皿	3			3	2	1		1	10
台石	1	1	1		1	1		2	7
多孔石	1		1	7	4	2		1	16
石製品					1				1
石棒					1				1
計	29	2	16	77	113	35	1	26	299

では利根川上流域の黒色頁岩や黒色安山岩・信州産黒曜石、硬質頁岩が少量あり、石鏃や削器など小形石器の石材として利用されたようである。礫石器類には粗粒輝石安山岩の利用が圧倒的に多い。溶結凝灰岩や金山石、花こう岩など周辺域に潤沢な石材についてはその利用頻度は意外に低く、石材選択の際の志向性が見て取れる。以上が大道東遺跡にお

石材 器種	チャート	ホルンフェルス	黒色頁岩	珩質頁岩	硬質泥岩	黒色安山岩	細粒輝石安山岩	黒曜石	変玄武岩	粗粒輝石安山岩	緑色片岩	角閃石安山岩	流紋岩	計
打斧		57	3	1			1						1	63
磨斧									1					1
片斧		1												1
石鏃	51		1	4				3						59
石錐	2													2
削器		3	3			1								7
石核	14	2	1		1	1		2						21
加工痕ある剥片	18	15				1								34
使用痕ある剥片		1												1
石錘													1	1
凹石										30		1		31
磨石										36				36
敲石		2	1	1			1			2				7
石皿										10				10
台石										7				7
多孔石										16				16
石製品										1				1
石棒											1			1
計	85	81	9	6	1	3	2	5	1	102	1	1	2	299

ける石器の概要だが、本遺跡出土の石器にはどのような傾向があるだろうか。

本遺跡出土の縄文土器は縄文時代中期後半(加曾利E3・4式)の土器を主体に、早期(野島式)～後期(堀之内式)の土器が出土している。このほか少量だが弥生時代の土器も出土しており、各々に帰属する石器が混在しているのは明らかである。剥片類についてはチャート496点・ホルンフェルス21点・赤碧玉13点・黒色頁岩11点・黒曜石9点・珪質頁岩4点・頁岩3点など計560点がカウントされているが、未集計のホルンフェルス製の剥片類が相当量あり、これらを用いた石器製作も確實視されるところである。剥片系石器8種・礫石器9種を確認しており、組成的には大道東と変わるところはない。石器石材は13種を確認した。大道東の24種に比べ半減(在地石材では花こう岩・はんれい岩等の深成岩類・金山石・砂岩・砂質頁岩、流域外の石材では硬質頁岩が欠落)しているとはいえ、チャート・ホルンフェルス・粗粒輝石安山岩を多用、石鏃等の小形石器にはチャートを、石鏃を除く各種石器にホルンフェルスを用いており、器種：石材関係も概ね相似するものとすることができよう。以下、個別石器について整理過程で気付いた特徴となるだろう点について記していきたい。

打製石斧(63点が出土)は短冊形27点・撥形4点・分銅形27点・石鏃?6点があり、形態的には短冊形・分銅形の両者が拮抗している。形態的に完成状態にあるものが主体を占めるようであるが、短冊9/27点・分銅4/27点が未製品と見られ、遺跡内で最終的に仕上げる段階で破損したものと考えている。ホルンフェルス製の石斧には磨耗痕が未発達だが、完成状態にあるものの変形度は高く、遺跡内で頻繁な刃部再生が行われたことを示唆する。短冊タイプには側縁が弱く内湾するもの(225・227)、分銅タイプには側縁を小さく抉り込んでいるもの(245)、上端側に偏り抉れるもの(240・246)などバリエーションがある。大道東遺跡で注目した糸巻き状を呈するそれは1点(248)が出土しただけであり、量的には少ない。撥形としたそれは礫面を大きく残す幅広剥片を用い、側縁を裏面側から加工したものの(235・234)で、片刃石斧(239)の加工に類似、早期的な色彩の強い石斧である。このほか、石鏃?としたもの(235～237)がある。器体中央付近に最大幅を有す本体に幅広の基部が付くタイプで、長さ20cmを越える大形例(237)がある。3点とも刃部再生を受け、刃部は大きく変形している。238は、長さ10cmと小形だが形態的には類似しており、同類の石器として理解すべきものかもしれない。237は重さ1095gを測る大形例であり、仮に、これを縄文期のそれとすれば、弥生期石鏃と見分けることが難しい。

石鏃は、59点が出土した。その内訳は、凹基無茎鏃36点・平基無茎鏃5点・凸基有茎鏃15点・円基鏃1点・不明2点であり、凹基無茎鏃(61.0%)と凸基有茎鏃(25.4%)が圧倒的多数を占める。完成度で石鏃を見ると完成品43点・未製品16点となり、未製品の占める割合は25%を越えた。石鏃は自前調達の石器であり、その製作地は遺跡内であるはずであるが、形態別の未製品は凹基無茎鏃(10点・27.7%)に偏り、凸基有茎鏃は15点とも完成状態にあるという結果を示した。平基無茎鏃については未製品が5点中3点と未製品が主体となるようだが、これについては製作過程の姿(275)であり、最終的形狀を示しているとは限らないという見方も成り立ち、現状ではどちらとも判断できない。身の形状が三角形を呈するもの(250～256)と二等辺三角形を呈するもの(258～261など)があり、後者の占める比率が高い。チャートや珪質頁岩など在地石材を用いた石鏃には、重さ2gを越える大形品(254・264・267・268・269・270・271・272)があり、石器石材の豊富な地域における潤沢な石材利用の在り方を示している。こうした非在地石材(黒曜石)の吝嗇的利用と、豊富な在地石材(チャート等)を用いた大形石鏃の共存現象は伊勢崎市清水田遺跡・前期前半の石鏃に見られ、通時的現象とすべきものとして注意しておきたい。

剥片系石器を理解する上で欠かせないのが、剥片類を含む石核類の在り方である。図示したとおり、石核には板状の剥片を用いた小形石核(283～285・286)と、やや大形の部類に属す石核(287～289)がある。両者とも小形剥片を剥離しており、選択的に石鏃や削器の素材とされたであろうが、剥片サイズは前者より後者が大きい。石核形状の多様性については素材形状に即した剥片生産ということで説明が可能であるが、より薄手の剥片を用いた石核(281・282)の中には両極剥離を駆使して石鏃を製作した可能性もあるだろうことを指摘しておきたい。大形削器類についてはホルンフェルス製のそれが多く、加工痕ある剥片とした中にも類似資料があり、器種：石材レベルで言えば、打製石斧の製作に関連させ、理解すべきものである。これに直接関連するものではないが、より定型化した例(278)や風化状態の異なる例(280)があり、図示した。278は、幅広剥片を用い周辺加工したもので、旧石器的要素を有する削器である。

第3章 検出遺構と出土遺物

形態的には搔器様だが、右側縁の加工が丁寧で側刃削器とすべきものかもしれない。280は、左側縁に小剥離痕が連続する削器である。礫面を大きく残す幅広剥片を用いたものであり、右側縁の加工部を除いた全面が磨耗している。

礫石器類では剥片製の円形敲打具(299・300・303や、小口部に打痕・磨耗痕を有する棒状敲打具(329～333)、呪術具としての石製品(341)の存在が特徴的である。凹石を含む磨石類は大道東と同様の傾向にあり、また、石皿・多孔石の在り方も大きく相違しないようである。

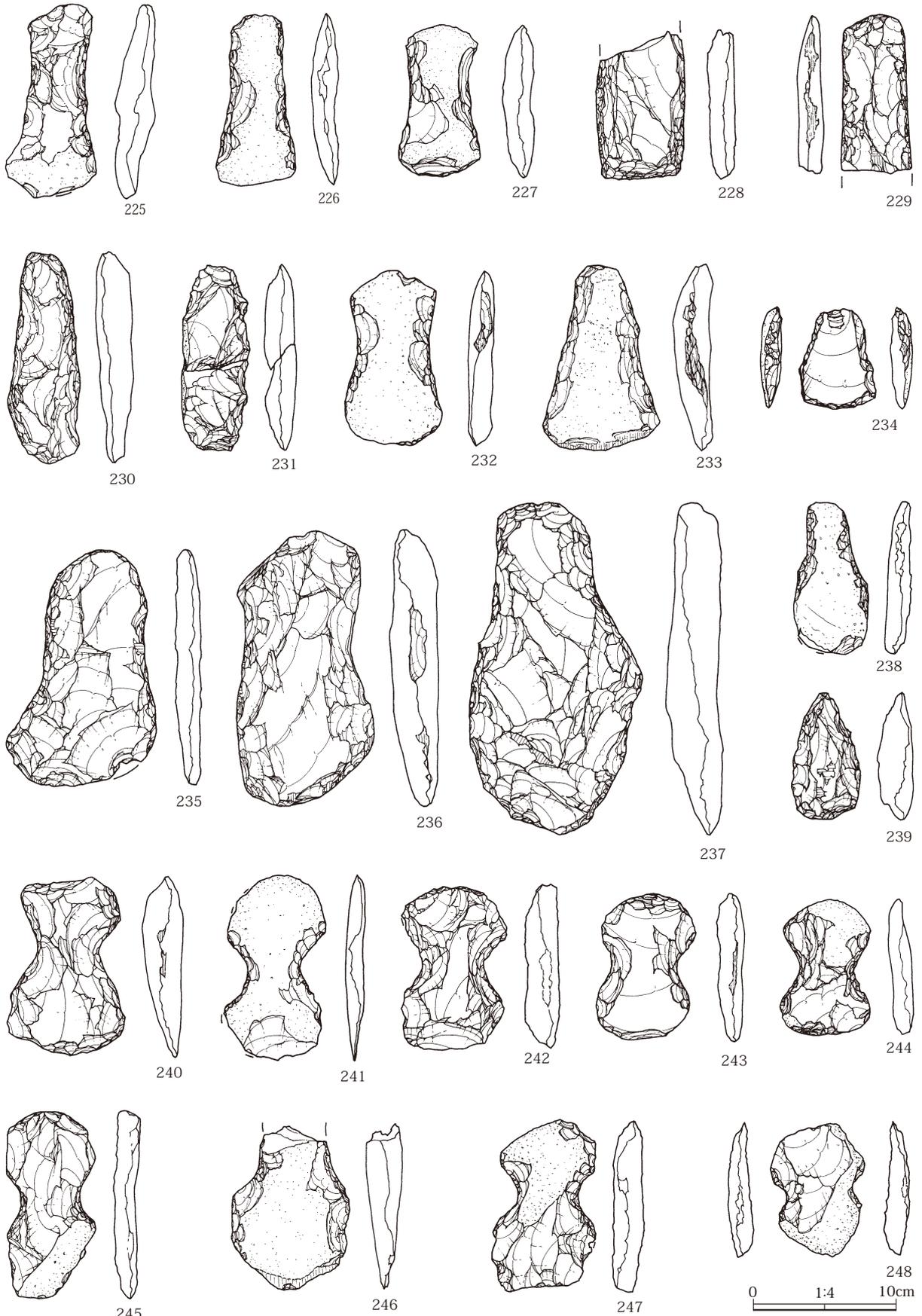
本遺跡の製粉具類には、石皿・磨石類がある。磨石類には凹石を含み、ほぼ拮抗する割合で組成する。磨石類は偏平礫を用いるものが多く、使用面が浅い石皿が主体を占めることと整合する。磨石類には側縁敲打・磨耗するもの(305・311・313・314など)が多く、側縁に稜を持つ例も多く、磨石類の形態的变化は暫移的で、石鹼型等の型式認定は意味をなさないものと考えている。7点が出土した台石(342・343・345など)にも磨耗面があり、無縁の石皿として使用されたものを含み、機能的には多義的である。

本遺跡では、敲打痕のみからなる石器製作用敲打具(ハンマー)に加えて、敲打痕と磨耗痕が並存する敲打具2種が出土した。円形敲打具としたものの典型例は303で、長さ10cm程度の大形剥片を粗く加工、エッジに敲打痕・磨耗痕を有するものである。敲打痕・磨耗痕は299・300には明らかでないが、同種石器が大道東にもあり、敲打痕や磨耗痕のないそれについても未使用の敲打具として、これに加えるべきものと考えている。棒状敲打具の先端には石器製作時に生じる打痕に加えて磨耗痕が明らかであり、単なる石器製作用のハンマーとするのは理解が表層的であるというべきだろう。同種敲打具は大道東遺跡の敲打具のほか、渋川市上白井西井熊遺跡にもあり、普遍的に存在したようである。これに類するものとして、小形偏平礫の側面に線状痕の残る石製研磨具がある。これは土器内面整形用のそれとされたものであり、本遺跡出土資料にも小形の偏平礫や円礫があり、線状痕等について分類時から注意して観察した。結論的には線状痕や磨耗痕はなく言及するだけのものはないが、混入物とするだけの根拠がない以上、人為的に持ち込まれたものとすべきであり、その存在には今後とも留意すべきだろう。

呪術具には、多孔石・石棒等がある。多孔石は16点が出土しており、いずれも粗粒輝石安山岩を用いていた。楕円偏平礫を用いるもの(347)や、断面高の厚い楕円礫を用いるもの(355～357が多い。大道東遺跡で特徴的であるとされた1穴の多孔石については本遺跡では出土していないが、これは石材観が異なることに由来、同じ粗粒輝石安山岩でも肌理の粗いもの(多孔質?)が孔多数を穿ち、肌理の細かいもの(より硬質)が孔1を穿つ傾向が指摘されるようである。石棒(360)は、側縁整形・打痕を加えたものである。これを未製品とするならば、遺跡内再生の可能性、転用の可能性を示唆するものであり、また、これを完成品とするならば、石棒を簡略して表現したものと評価されることになるだろう。

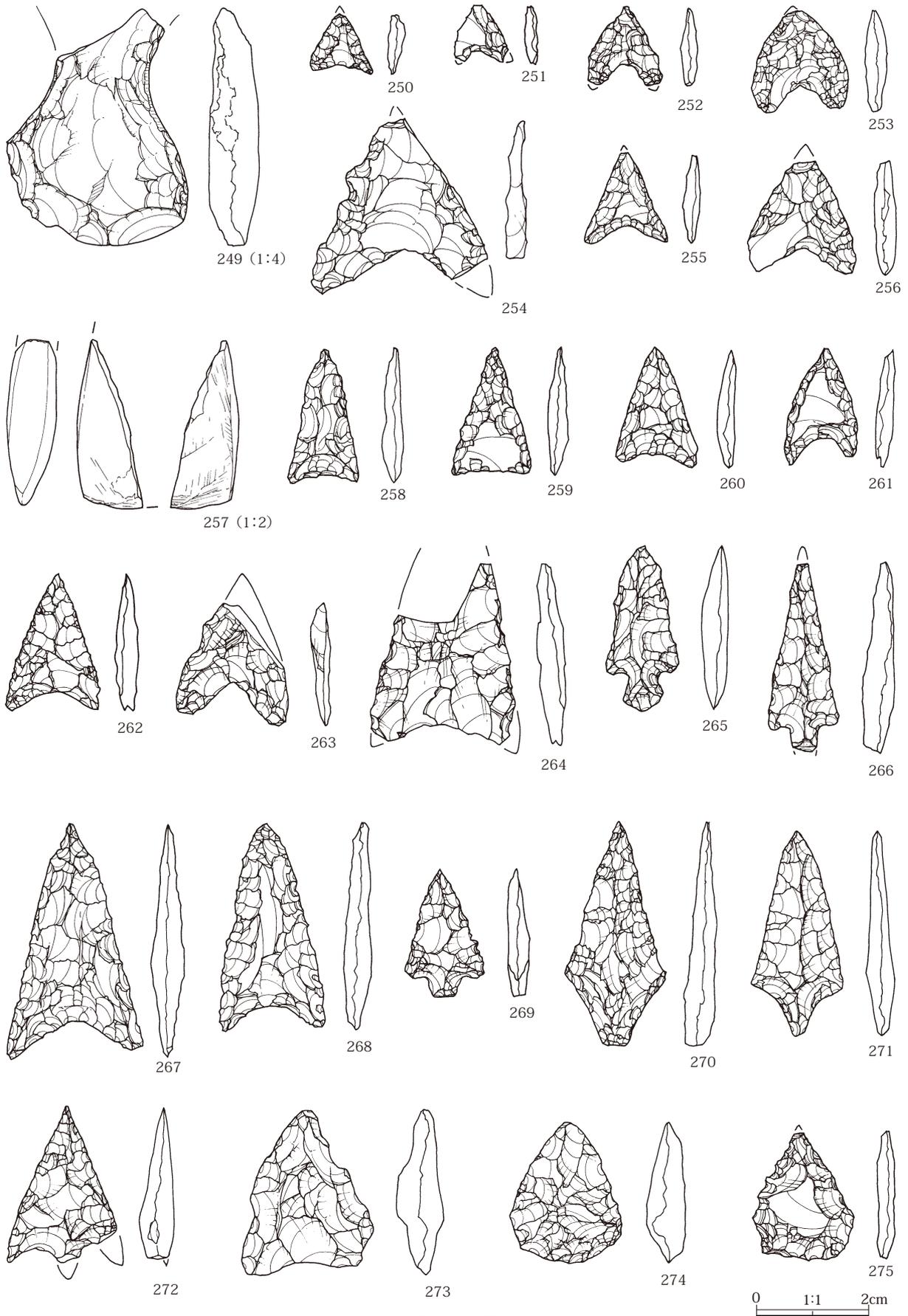
このほか、注目されるものとして用途不明の石製品(341)や皿状の石製品(361)がある。用途不明の341は、幅5cm前後の溝が周囲に廻る石製品である。溝は幅広く明瞭で、石皿の製作に伴う細いリード線とは異なり、大道東遺跡の不明石製品(第464集、第128図560)と同一のものである。出土資料は破片資料で形状は不明だが、形態的には略「横型」を呈する伊勢崎市下田遺跡のそれに近い。この種の石器は大道東の報告時に注目されたものであり、本例を除きその後の類似資料の存在は確認できていないが、隣接遺跡とはいえ、大道東と同時期の遺跡から類似資料が確認されたことの意義を認識すべきである。それは偶発的であるというようなものではなく、意図的であるというべきで、縄文人の呪術体系に一端を担う呪術具としての性格を有していたことを再確認しておきたい。361は径5cm弱の河床礫を分割、その分割面を敲打して皿状に窪めたもので、口辺を丁寧に整えている。これより大形だが、ミニチュアタイプの石皿(336)に通じる形態的属性を有しており、その関連性に注目しておきたい。

縄文遺構外遺物(石器)

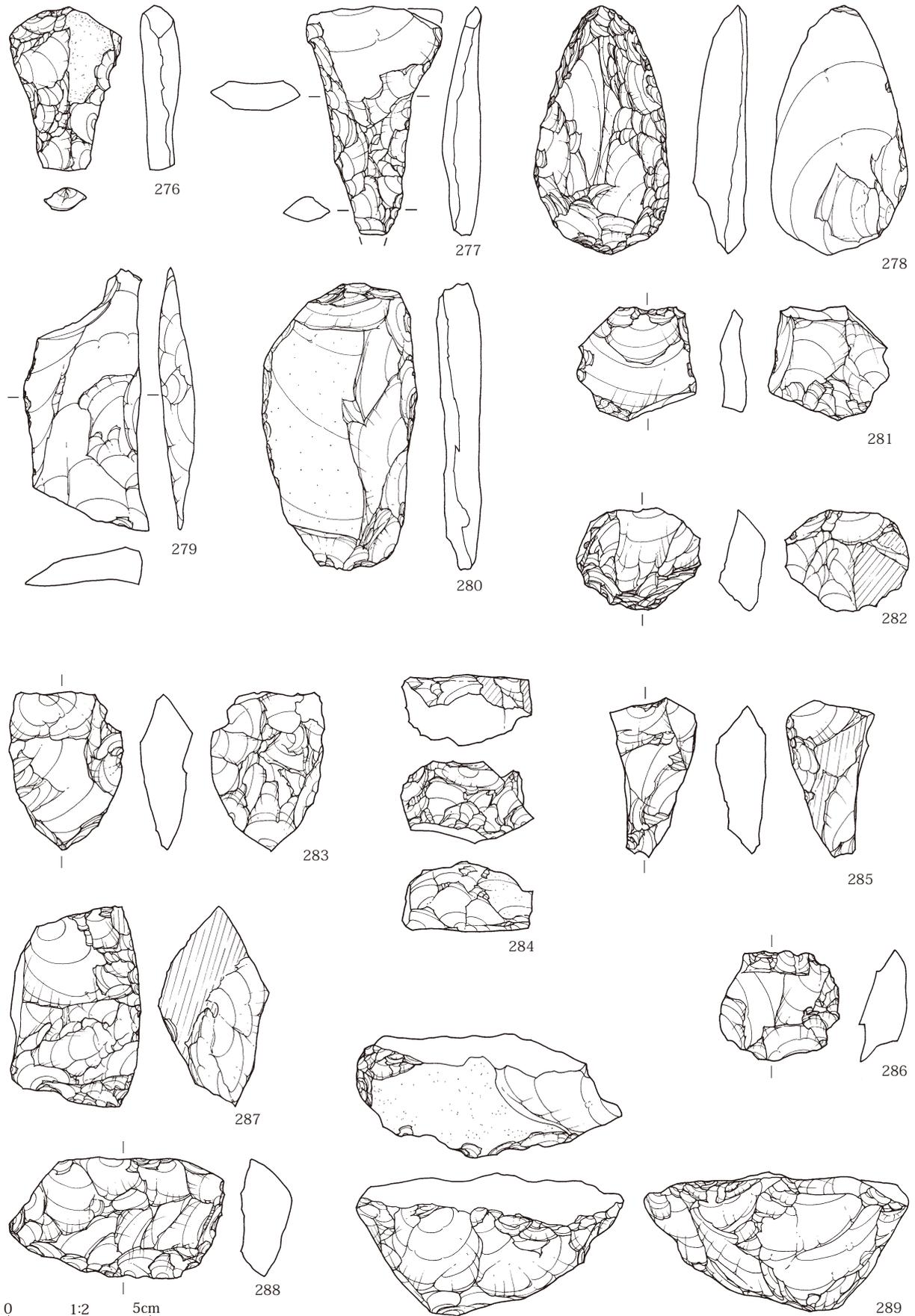


第26図 遺構外出土遺物(10)

第3章 検出遺構と出土遺物



第27図 遺構外出土遺物(11)

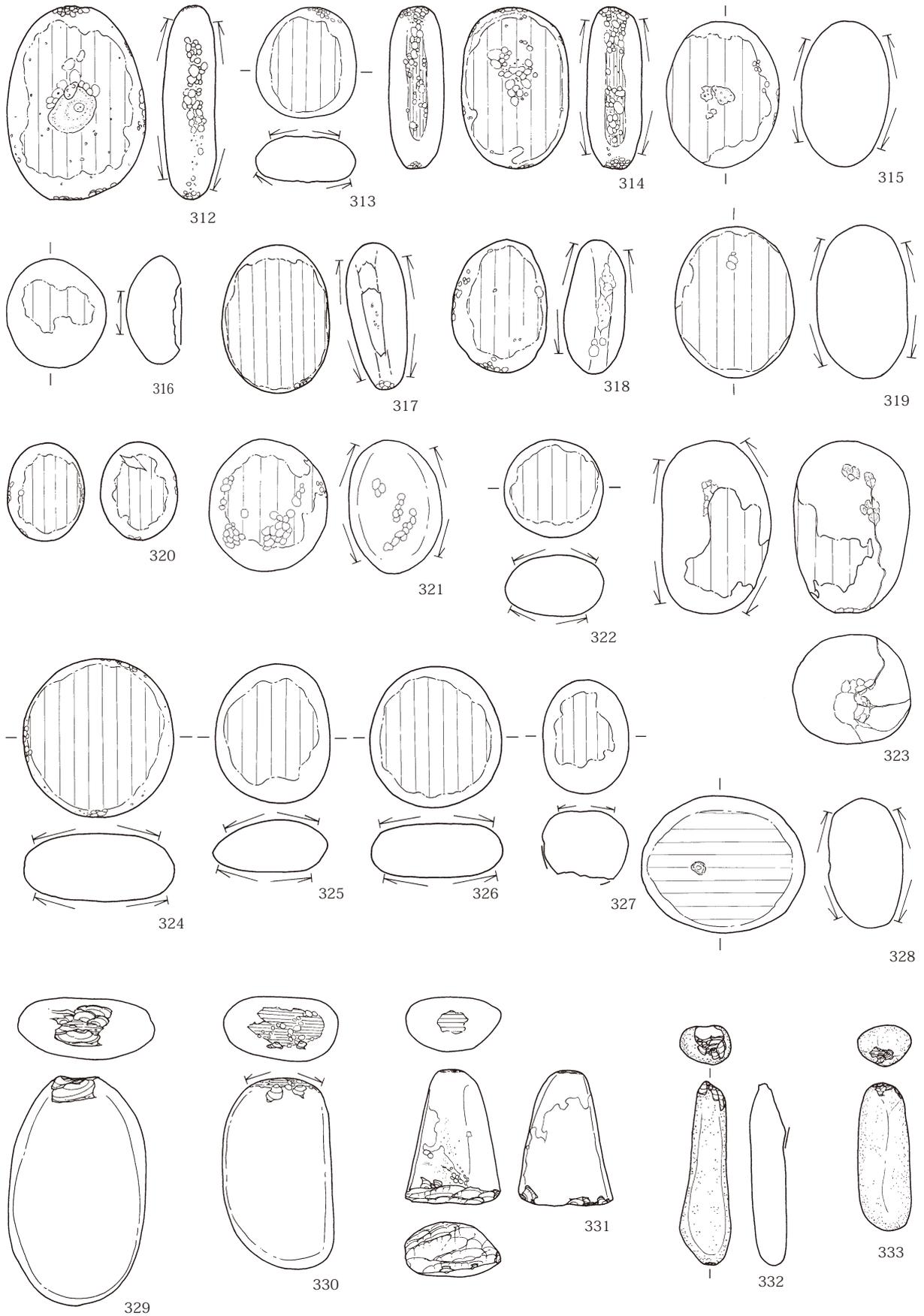


第28図 遺構外出土遺物(12)

第3章 検出遺構と出土遺物

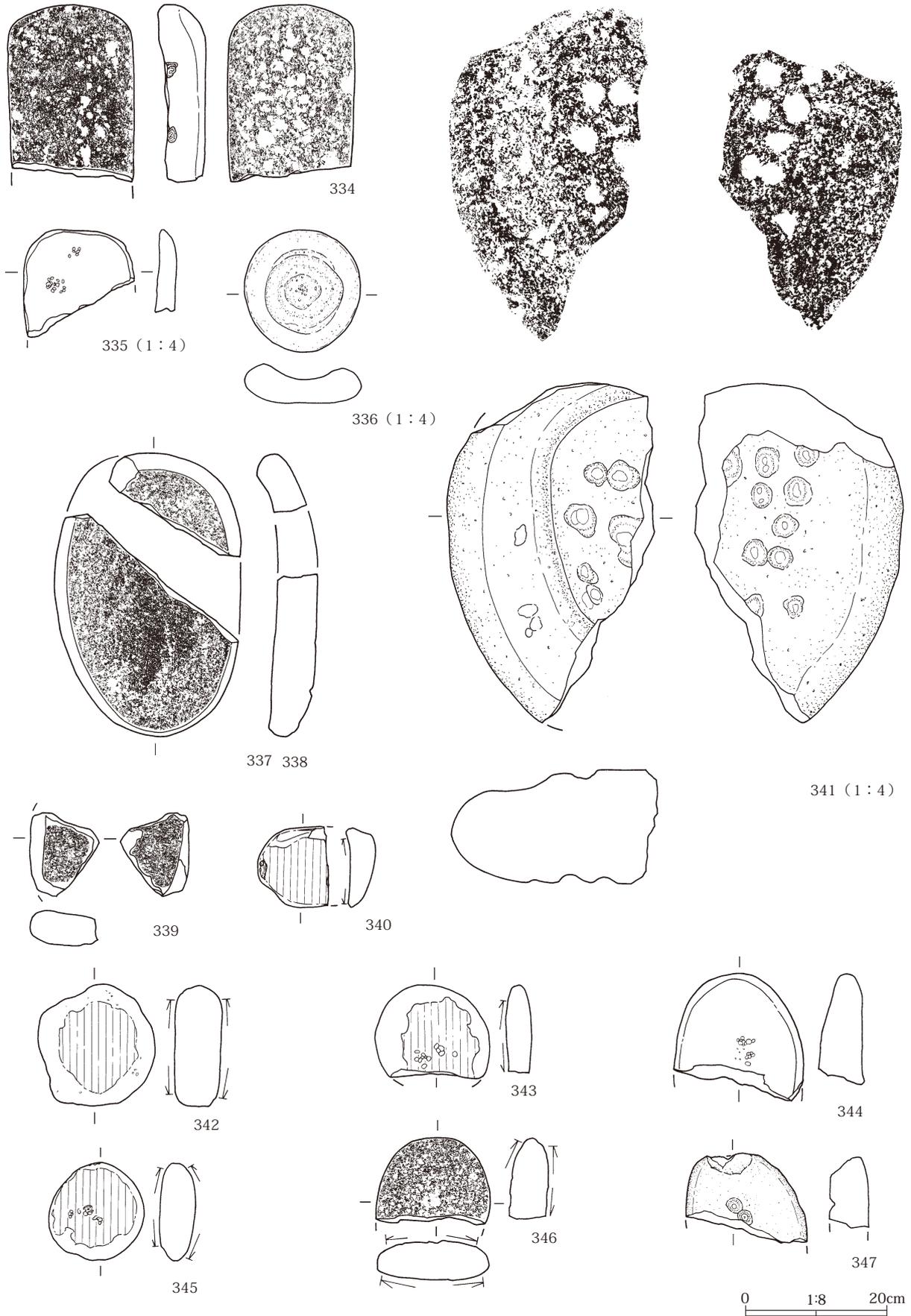


第29図 遺構外出土遺物(13)



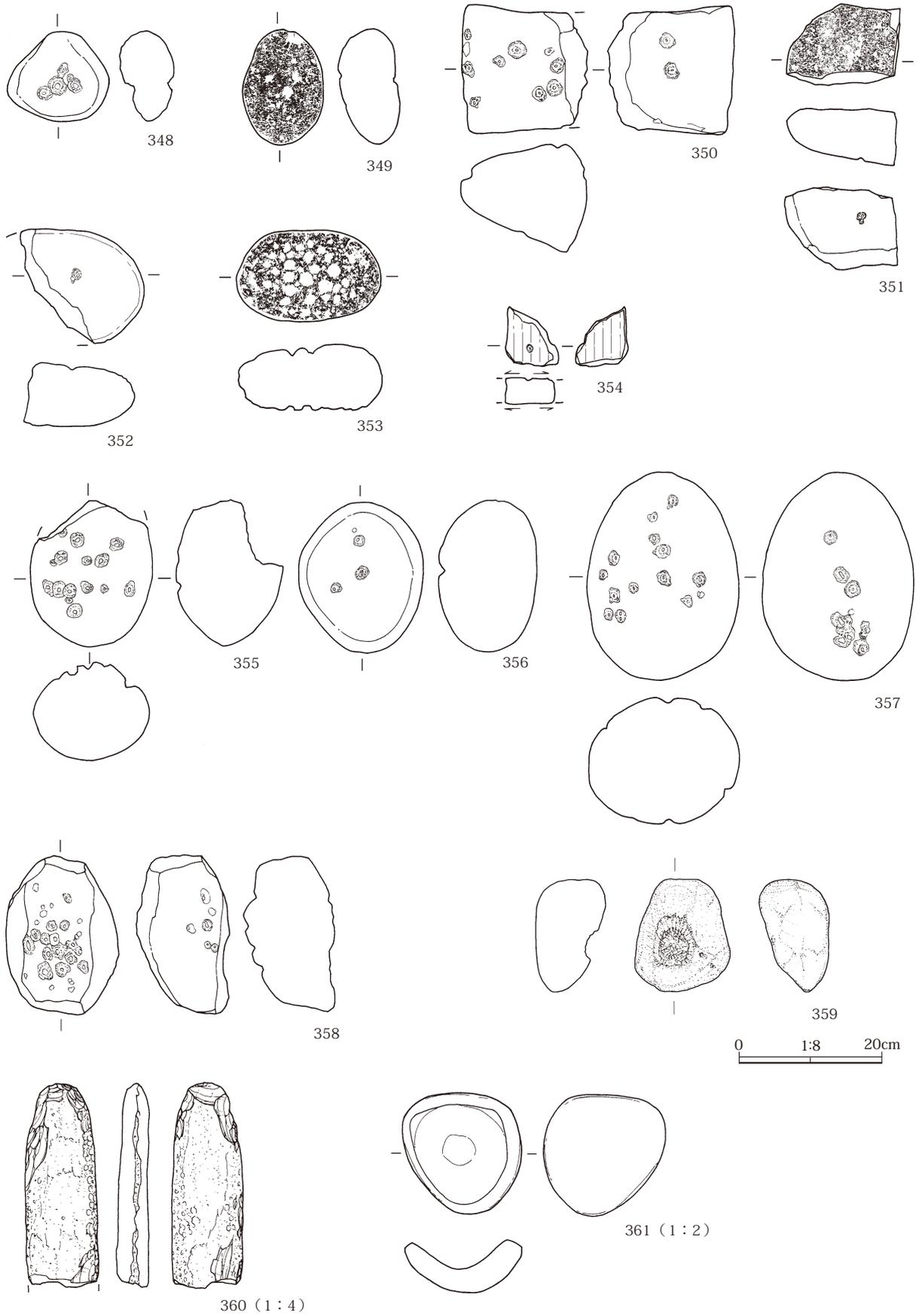
第30図 遺構外出土遺物(14)

0 1:4 10cm



第31図 遺構外出土遺物(15)

第1節 縄文時代の遺構と遺物



第32図 遺構外出土遺物(16)

第3章 検出遺構と出土遺物

縄文遺構外観表

番号	区	遺構種	器種	形態	残存状態	製作状況	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)
225	1・2	表採	打製石斧	短冊形	完形	完成	ホルンフェルス	13.5	6.0	2.5	201.7
226	4	4号溝跡	打製石斧	短冊形	完形	完成	ホルンフェルス	12.5	5.5	1.8	132.5
227	6	220-520G	打製石斧	短冊形	完形	完成	ホルンフェルス	10.8	5.8	1.8	159.9
228	6	260-540G	打製石斧	短冊形	上半欠損	完成	ホルンフェルス	10.3	6.2	1.4	178.9
229	7	11号住居跡	打製石斧	短冊形	刃部欠損	完成	細粒輝石安山岩	11.0	4.8	1.5	151.6
230	1・2	1号溝跡	打製石斧	短冊形	完形	完成	ホルンフェルス	14.8	5.0	2.2	209.6
231	6	1号住居跡	打製石斧	短冊形	完形	未製品	珪質頁岩	13.0	5.0	1.7	165.2
232	4	13号溝跡	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	12.0	6.8	1.6	188.0
233	6	大溝跡	打製石斧	撥形	完形	完成	ホルンフェルス	12.8	8.0	2.7	261.0
234	6	大溝跡	打製石斧	撥形	完形	完成	黒色頁岩	7.0	5.2	1.4	69.8
235	6	260-540G	打製石斧	石鏃?	完形	完成	ホルンフェルス	16.2	10.5	1.6	347.5
236	7	表採	打製石斧	石鏃?	完形	完成	ホルンフェルス	19.1	9.5	3.2	771.5
237	6	5号溝跡	打製石斧	石鏃?	完形	完成	ホルンフェルス	23.3	12.0	3.7	1095.0
238	7	210-470G	打製石斧	短冊形?	完形	完成	ホルンフェルス	10.3	5.2	1.5	104.4
239	4	9号住居跡	片刃石斧		完形	完成	ホルンフェルス	8.8	4.6	2.2	105.4
240	6	大溝跡	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	12.5	8.1	2.6	276.1
241	4	14号溝跡	打製石斧	分銅形	完形	完成	黒色頁岩	13.0	6.7	1.1	109.6
242	1・2	3号井戸跡	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	11.8	7.0	2.4	245.9
243	8	080-460G	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	10.4	6.6	1.8	154.9
244	8	070-470G	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	9.5	6.2	1.4	102.1
245	7	270-490G	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	13.0	6.2	1.5	163.9
246	7	大溝跡	打製石斧	分銅形	上半欠損	?	ホルンフェルス	11.0	8.3	2.2	223.0
247	7	5号住居跡	打製石斧	分銅形	完形	未製品	ホルンフェルス	12.2	7.0	2.0	199.9
248	8	1・2号住居跡	打製石斧	分銅形	完形	完成	ホルンフェルス	9.2	6.5	1.5	106.0
249	8	表採	打製石斧	分銅形	上半欠損	完成	ホルンフェルス	17.5	13.5	3.5	846.9
250	6	260-540G	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	1.2	1.1	0.3	0.3
251	6	220-500G	石鏃	凹基無茎鏃	返し欠	未製品	珪質頁岩	1.0	1.0	0.2	0.2
252	8	6号住居跡	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	黒曜石	1.5	1.5	0.2	0.4
253	8	表採	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	1.8	1.7	0.4	1.1
254	6	大溝跡	石鏃	凹基無茎鏃	右辺	未製品	珪質頁岩	3.1	3.0	0.3	2.8
255	1・2	6号住居跡	石鏃	凹基無茎鏃	返し欠	完成	チャート	1.7	1.5	0.3	0.6
256	6	260-540G	石鏃	凹基無茎鏃	先端欠	完成	チャート	2.0	2.0	0.3	1.3
257	8	表採	磨製石斧		破片		変玄武岩	6.2	2.2	1.6	27.1
258	7	8号住居跡	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	2.4	1.3	0.3	0.9
259	6	200-520G	石鏃	平基無茎鏃	完形	完成	チャート	2.3	1.5	0.3	0.9
260	6	260-530G	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	黒曜石	2.2	1.5	0.3	0.7
261	8	080-420G	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	2.1	1.3	0.3	0.7
262	7	270-480G	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	2.5	1.6	0.3	1.1
263	7	220-480G	石鏃	凹基無茎鏃	先端欠	未製品	チャート	2.0	2.0	0.2	1.1
264	7	表採	石鏃	凹基無茎鏃	先端欠	未製品	チャート	3.3	2.5	0.5	3.3
265	7	表採	石鏃	凸基有茎鏃	完形	完成	チャート	3.0	1.4	0.4	1.5
266	6	210-500G	石鏃	凸基有茎鏃	返・茎欠	完成	珪質頁岩	3.5	1.2	0.5	1.7
267	8	100-470G	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	チャート	4.2	2.5	0.5	3.6
268	7	大溝跡	石鏃	凹基無茎鏃	完形	完成	珪質頁岩	3.7	2.0	0.4	2.8
269	6	220-520G	石鏃	凸基有茎鏃	茎欠	完成	チャート	2.3	1.5	0.3	1.0
270	4	表採	石鏃	凸基有茎鏃	返し欠	完成	チャート	4.0	1.8	0.4	2.5
271	1・2	表採	石鏃	凸基有茎鏃	完形	完成	チャート	3.7	1.6	0.5	2.0
272	4	表採	石鏃	凸基有茎鏃	返・茎欠	完成	チャート	3.0	2.0	0.5	2.2
273	7	大溝跡	石鏃	凹基無茎鏃	完形	未製品	チャート	3.0	2.5	0.8	4.4
274	7	230-460G	石鏃	凹基無茎鏃	茎欠	未製品	チャート	2.5	2.0	0.7	3.5
275	8	表採	石鏃	平基無茎鏃	完形	未製品	黒曜石	2.3	1.8	0.3	1.1
276	6	表採	石鏃				チャート	2.9	2.0	0.6	3.8
277	7	大溝跡	石鏃		先端欠		チャート	4.0	2.5	0.6	5.2
278	6	200-520G	削器		完形		黒色安山岩	8.9	4.7	1.7	74.5
279	6	210-510G	削器				黒色頁岩	9.5	4.6	1.0	44.6
280	6	2号溝跡	削器		破片		黒色頁岩	10.0	5.5	1.0	96.1
281	8	090-470G	石核				チャート	4.5	4.0	0.9	19.5
282	7	210-440G	石核				チャート	3.6	3.2	1.2	22.0
283	3	表採	石核				黒色安山岩	5.8	4.5	1.6	45.1
284	7	280-500G	石核				チャート	4.4	3.0	1.8	34.5
285	8	表採	石核				チャート	5.6	3.0	1.5	29.9
286	7	表採	石核				赤碧玉	4.1	3.9	2.0	24.4
287	6	表採	石核				チャート	6.8	4.6	3.4	130.9
288	7	2号溝跡	石核				チャート	7.2	4.4	1.6	66.4
289	6	230-240G	石核				硬質泥岩	9.2	5.4	3.4	181.8
290	7	表採	加工痕ある剥片				チャート	2.5	2.5	1.0	6.1
291	7	表採	加工痕ある剥片				チャート	2.9	2.4	0.9	5.6
292	7	270-500G	加工痕ある剥片				チャート	4.4	3.5	1.0	23.0
293	6	240-540G	加工痕ある剥片				チャート	4.4	3.5	0.8	15.4

第1節 縄文時代の遺構と遺物

番号	区	遺構種	器種	形態	残存状態	製作状況	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
294	8	100-470G	石錘		完形		流紋岩	4.5	2.1	1.4	16.6
295	6	4号溝跡	加工痕ある剥片				チャート	4.1	4.8	1.0	23.7
296	6	220-530G	加工痕ある剥片				チャート	4.8	4.8	1.5	19.6
297	7	220-460G	加工痕ある剥片				チャート	4.2	2.0	0.7	7.2
298	8	10号土抗跡	加工痕ある剥片				チャート	3.4	2.8	0.9	23.5
299	表採	表採	加工痕ある剥片				ホルンフェルス	9.6	10.2	2.9	311.4
300	6	3号溝跡	加工痕ある剥片		完形		ホルンフェルス	9.3	8.1	2.0	248.4
301	7	大溝跡	加工痕ある剥片		破片		ホルンフェルス	14.0	6.7	1.5	116.4
302	1・2	27号住居跡	加工痕ある剥片		完形?		ホルンフェルス	11.3	4.3	1.2	82
303	表採	表採	加工痕ある剥片				ホルンフェルス	12.7	10.7	4.0	695.7
304	7	220-490G	凹石		1/2		粗粒輝石安山岩	7.5	6.4	3.8	246.9
305	7	大溝跡	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	11.8	8.2	4.7	665.3
306	8	060-470G	凹石				粗粒輝石安山岩	8.8	10.7	308.0	340.0
307	6	210-530G	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	10.6	7.9	4.7	450.0
308	6	5号溝跡	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	11.6	8.5	3.8	559.1
309	7	220-490G	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	11.5	8.9	5.0	663.1
310	7	18号土抗跡	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	11.5	8.5	5.5	749.7
311	6	3号溝跡	凹石		1/2		粗粒輝石安山岩	9.6	8.5	5.0	569.6
312	6	5号溝跡	凹石		完形		粗粒輝石安山岩	13.6	9.7	3.1	624.3
313	7	230-500G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	8.0	7.0	3.8	321.1
314	6	240-510G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	11.5	7.5	3.6	527.1
315	1・2	45号住居跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	11.5	8.0	6.0	744
316	7	大溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	7.3	7.0	3.8	247.2
317	6	5号溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	10.5	7.6	3.9	490.7
318	1・2	3号溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	9.2	6.7	4.5	336
319	6	3号溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	10.8	8.6	6.0	827.6
320	6	210-520G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	7.0	5.3	4.5	188.6
321	7	260-490G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	9.5	8.5	6.0	589.1
322	7	大溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	7.0	7.0	4.2	260.9
323	6	大溝跡	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	12.2	8.5	7.5	1059.0
324	6	200-510G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	11.0	10.5	5.0	838.1
325	7	270-480G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	10.0	8.0	3.3	448.9
326	7	230-480G	磨石		完形		粗粒輝石安山岩	10.0	9.1	3.7	578.6
327	8	1号溝跡	磨石		一部欠		粗粒輝石安山岩	8.0	6.0	4.5	297.0
328	表採	表採	磨石				粗粒輝石安山岩	11.4	9.6	5.5	770.0
329	7	大溝跡	敲石		ほぼ完形		ホルンフェルス	16.0	10.0	4.0	1016.2
330	7	270-500G	敲石		完形		ホルンフェルス	13.8	7.5	4.3	781.0
331	7	大溝跡	敲石		1/2		珪質頁岩	9.5	7.5	3.7	317.4
332	6	4号溝跡	敲石		完形		粗粒輝石安山岩	12.8	3.5	2.5	168.6
333	7	12号住居跡	敲石		完形		黒色頁岩	10.5	3.6	2.5	156.4
334	7	230-500G	石皿		1/3		粗粒輝石安山岩	25.2	18.0	6.7	3164.0
335	8	表採	台石		1/2		粗粒輝石安山岩	15.3	15.6	3.2	890.0
336	表採	表採	石皿		完形		粗粒輝石安山岩	8.7	8.2	3.0	274.0
337	1・2	表採	石皿		2/3		粗粒輝石安山岩	(33.5)	(23.0)	5.5	6108.0
338	1・2	表採	石皿		破片		粗粒輝石安山岩	(21.0)	(9.4)	5.5	1618.0
339	8	表採	石皿				粗粒輝石安山岩	11.8	9.7	4.8	800.0
340	7	220-480G	石皿		1/2		粗粒輝石安山岩	11.3	9.8	4.5	689.9
341	1・2	表採	石皿		破片		粗粒輝石安山岩	24.1	14.5	8.0	3100.0
342	表採	表採	台石				粗粒輝石安山岩	17.2	16.5	6.6	3100.0
343	4	1号土抗跡	台石		ほぼ完形		粗粒輝石安山岩	16.3	12.4	3.8	1065
344	1・2	表土	台石		破片		粗粒輝石安山岩	17.8	18.2	6.3	2450.0
345	3	24号住居跡	台石		完形		粗粒輝石安山岩	13.8	13.0	5.4	1104
346	7	流路	台石		1/2		粗粒輝石安山岩	12.2	15.9	5.6	1200.0
347	6	8号土坑	多孔石		1/3		粗粒輝石安山岩	12.7	16.8	5.4	1570.0
348	7	220-470G	多孔石		完形		粗粒輝石安山岩	12.5	14.0	7.5	1005.0
349	1・2	表採	多孔石		完形		粗粒輝石安山岩	16.0	11.2	8.6	1678.0
350	8	080-420G	多孔石				粗粒輝石安山岩	18.0	1405.0	17.5	5580.0
351	7	200-480G	多孔石		破片		粗粒輝石安山岩	15.9	11.3	7.6	1710.0
352	6	1号大溝	多孔石				粗粒輝石安山岩	16.1	17.0	9.0	2650.0
353	6	1号大溝	多孔石		完形		粗粒輝石安山岩	20.0	13.0	9.7	2350.0
354	6	1号大溝	多孔石		破片		粗粒輝石安山岩	8.4	7.3	3.7	300.0
355	6	1号大溝	多孔石				粗粒輝石安山岩	20.4	17.0	15.0	5700.0
356	8	160-480G	多孔石				粗粒輝石安山岩	21.1	17.3	13.5	6.8
357	7	1号大溝	多孔石		完形		粗粒輝石安山岩	29.4	21.2	17.8	13100.0
358	6	210-530G	多孔石		一部欠		粗粒輝石安山岩	22.4	15.8	12.9	5400.0
359	6	表採	多孔石				粗粒輝石安山岩	16.0	13.4	10.0	2880.0
360	7	大溝跡	石棒		2/3		緑色片岩	14.2	5.1	2.1	291.9
361	7	大溝跡	石製品		完形		粗粒輝石安山岩	4.6	4.0	1.9	35.0

第3章 検出遺構と出土遺物

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

第1項 1・2・3区の遺構と遺物

1、調査区の概要

1・2区は遺跡の北側に位置し、北関東自動車道の本線部分に当たる。調査当初は用地の旧筆割りによって西半の1区と東半の2区に別れていたが、実際には両区は連続しているため、調査に当たっては1・2区と称し、同一調査区として扱った。また、北東端に位置し、1・2区とは用水路を境に隣接する3区についても遺構番号等1・2区に続くものとして扱った。

1・2区は北側に用水路を境として、また、3区は西側に地続きで築前遺跡4区と隣接する。築前遺跡4区と本遺跡1～3区は、幸いに調査時期を同じくしたため、遺構確認面や連続する遺構の検出に際し、調査担当間で情報交換を行いながら調査に当たった。実際に検出された遺構の様相をみても、溝跡・畠跡・竪穴住居跡群などその土地利用の変遷は、同一集落であることを物語っている。ただ惜しむらくは、調査時期が冬季であったにもかかわらず、遺構確認面直下の基盤層が渡良瀬川扇状地砂礫層であるため、湧水が激しく、調査区北辺～東辺端に止水のための溝を掘り、南東端部で水中ポンプにて常時排水を行っての調査であった。このため、用水路部分の退避に加えて止水溝設置による遺構調査面の損失を余儀なくされた。以下に調査区の特徴を記す。

〈溝跡〉 この調査区の特徴でもあり、遺跡全体の特徴とも言える8・9号の二条の溝跡が3区より1・2・4・6・7を経て8区へと延長420mほど遺跡内を大きく縦断する。3区～2区にかけて、8号溝跡の大規模な氾濫・決壊跡が検出された。両溝跡は、渡良瀬川取水の古代用水路跡と考えられ、9号溝跡が河川氾濫の影響を受けて埋没後、復旧困難であった為か、隣接して同規模の8号溝跡を新設している。その規模などから遺跡地南の水田域に水を供給するための基幹用水路と推察され、現代も休泊掘用水路が調査区の東側を溝跡に並行して走る。

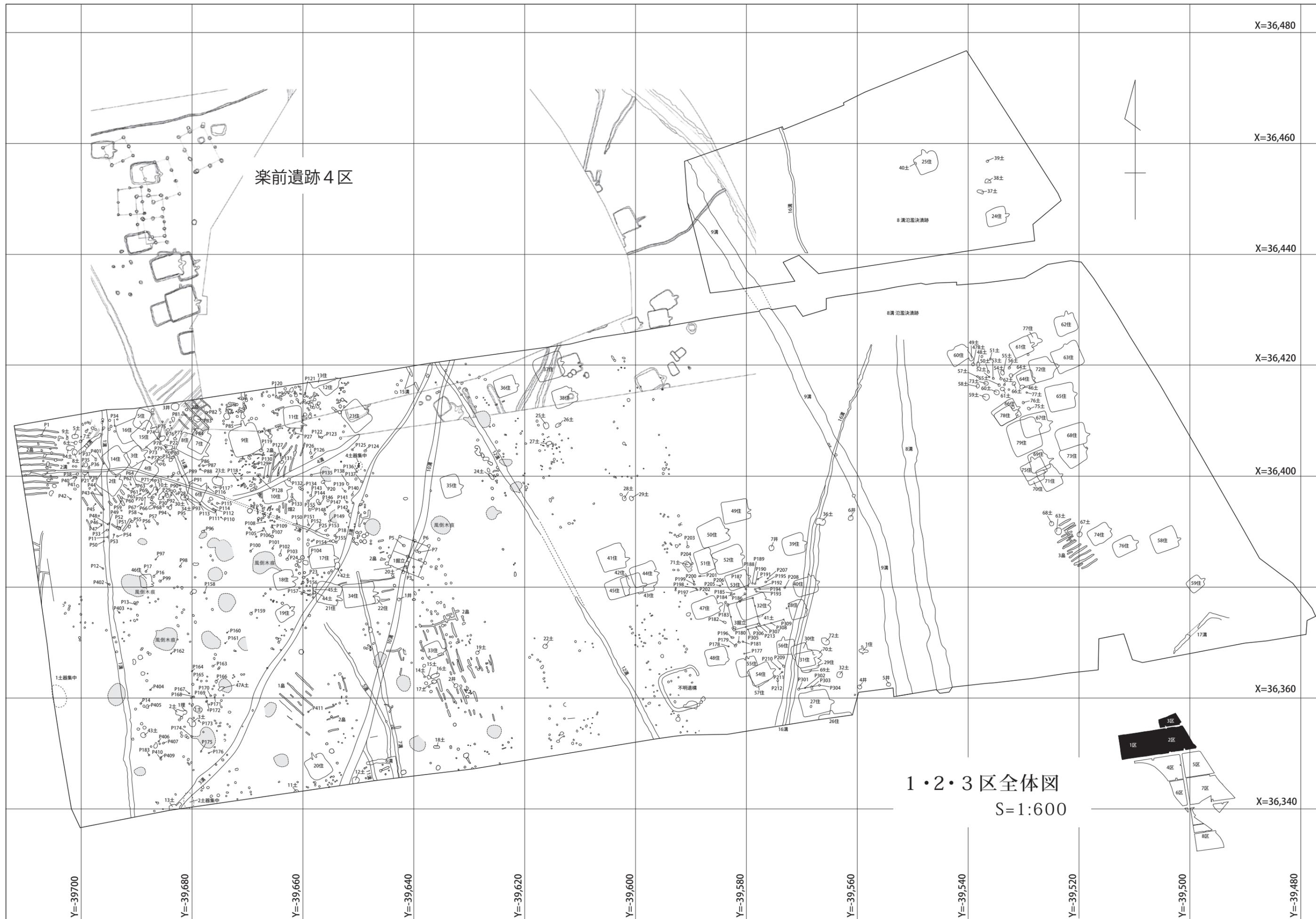
調査区中央付近を南北に貫き4区に連なる16号溝跡は、重複する全ての住居跡より古いもので、集落形成に先行する遺構と判断される。(溝跡については「第6項 溝跡」に記載)

〈住居跡〉 1～3区内の竪穴住居跡は、大きく3群に分かれる。まず西側中央から北西にかけての一群、これは隣接する築前遺跡4区に連なる。次いで調査区中央から南側にかけての一群で、これは4区へと連なり、前記の8・9号溝と一定の距離を開けて沿うように並列する。3群目は3区東端から2区東端にかけての一群で、同じく8・9号溝跡と距離を持って並列する。このように、8・9号溝に近い住居跡群は、溝と重複・近接することなく、いずれも溝跡の存在を意識して構築されたものと考えられる。これは1～3区に限らず、遺跡全体にも共通する。基幹用水路の存在は、集落配置を規制するほどであったと言える。また、集落配置に関しては、この1～3区は必ずしも立地条件が良好であるとは言えず、前記の地山基盤層が渡良瀬川扇状地に起因する砂礫層であり、検出された竪穴住居跡の掘り方面には5～15cm大の円礫が露出しており、その為か殆どの住居跡内には良好な柱穴跡や貯蔵穴が存在していない。この条件は調査区東側ほど悪く、前記の3区東端から2区東端にかけての一群では、床面に礫の露出がみられる程であった。好んでの選地とは思えず、推測の域を出ないものの、他所よりの強制移入である可能性も考えられる。また、特殊な住居跡として、1区東側中央部付近にある46号住居跡は、その規模が小さく、他の住居跡群から孤立して存在する。

〈特殊な遺構〉 調査区中央南端に、コの字状に細い溝跡が巡る遺構が検出された。小堂宇的な建物を想定したが、区画内には浅く小さなピットを検出するのみで、柱穴と成り得るようなものは検出できなかった。溝の軸が周囲の竪穴住居跡の軸とほぼ一致し、集落側に入口らしき開口部があることから、集落に伴う小堂宇である可能性も考えられる。

〈出土遺物〉 調査区中央南東よりの8・9号溝跡氾濫埋没土(砂礫層)上面から、獣脚付円面硯が出土している。遺物そのものには水流による磨滅が見られないことから、氾濫後に投棄されたものと推察される。また、51号住居跡内より三彩陶器小壺片が、27号住居跡より鉄製帯金具が出土している。このように、1～3区からの出土遺物には、非一般集落的な遺物が多く見受けられ、付近に郡役所・寺院などの公的な施設の存在が推察される。

また、65号住居跡からは、大型の鉄鎌が複数出土している。



1・2・3区全体図
S=1:600

第33図 1・2・3区全体図

2、 竪穴住居跡

1・2区1号住居跡(旧称1・2区SJ-1)

位置：X = 36368 Y = -39558 主軸方向：N-96°-E

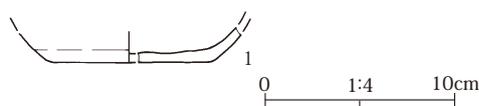
平面形状：不明 残存深度：不明 埋没土：不明 床面：不明

カマド：東向きカマド。上面を削平された状態で、掘り方の一部のみを検出。

柱穴：不明 貯蔵穴：不明 壁周溝：不明 重複遺構：なし 掘り方：カマドのみに掘り方を持ち、残存深度は19cmほどを測る。

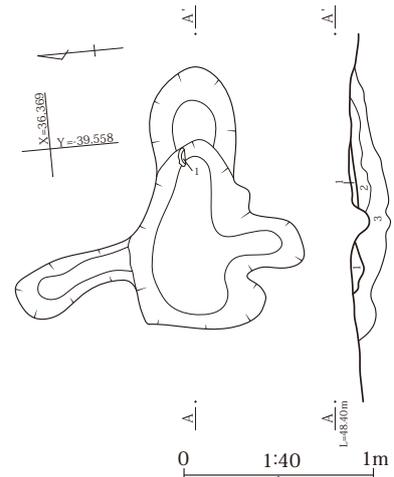
出土遺物：カマド掘り方埋土中より須恵器杯(No. 1)が出土。

所見：東に向かって下がる緩やかな斜面上に位置する。上面を削平された状態で検出され、カマド掘り方の一部しか確認できず、住居の全容は不明。



第34図 1・2区1号住居跡出土遺物

- 1号住居 埋土
- 1層 灰褐色土(7.5YR 4/2) 少量の焼土小ブロック(φ3~10mm大)と灰を含む[カマド使用面]
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の焼土粒子・炭化物・白色軽石(榛名ニッ岳軽石+浅間C軽石)を含む[カマド掘り方埋土](本層に焼土を含むことから使用中の改修が認められる)
 - 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の淡黄色砂質ローム粒子・同小ブロック(φ5~15mm大)を含む[カマド掘り方埋土]



第35図 1・2区1号住居跡カマド平・断面図

1・2区1号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈埋土中 体部下端~底部 破片	口径 - 底径 8.4 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：体部回転ナデ。底部ヘラ削り。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	

1・2区2号住居跡(旧称1・2区SJ-2)

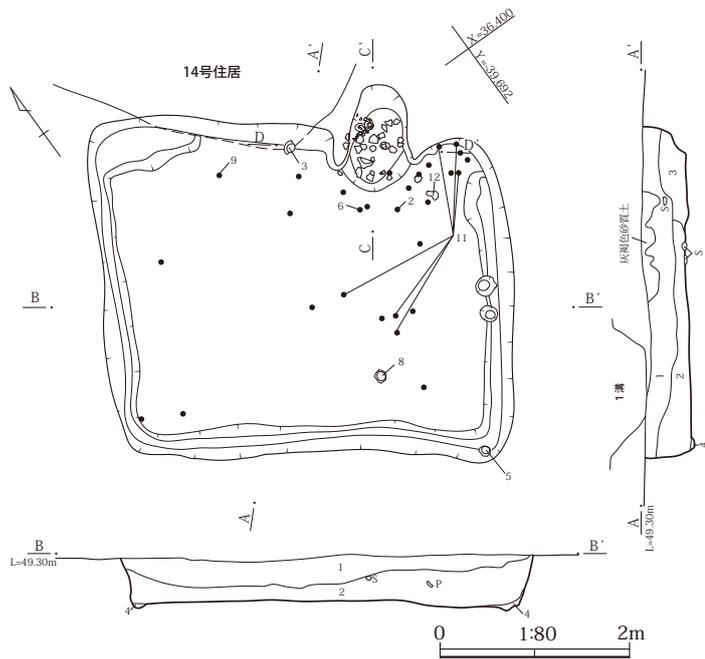
位置：X = 36399 Y = -39695

主軸方向：N-38°-E 規模：4.3m×3.5m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：26cm~58cm 埋没土：主に白色軽石を少量含む灰褐色~褐色砂質土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：貼り床は検出されず、地山ローム土を平坦に整形し床面とする。

カマド：北東壁の南東寄りに位置する。両袖には芯材として袖石(円礫)を用い、粘質土で覆い構築する。煙道端部は傾斜が急峻で、壁より大きく突出しない。柱穴：主柱穴に当たるものは検出されていないが、南東壁際で径16~21cm、深さ7~12cmを測る2穴を検出。出入り口施設と考えられるが、床面の硬化は顕著ではない。貯蔵穴：なし。壁周溝：北東部を除いて幅20~35cm、深さ3~5cmを測る溝が廻る。重複遺構：14号住居跡、1号・2号溝跡と重複する。遺構確認~掘削時の埋土の様相から、本遺構は14号住居跡より新しく、両溝跡より古いものと判断される。

掘り方：カマド部分のみにて深度は9cmほどの掘り方を有する。出土遺物：床面直上で

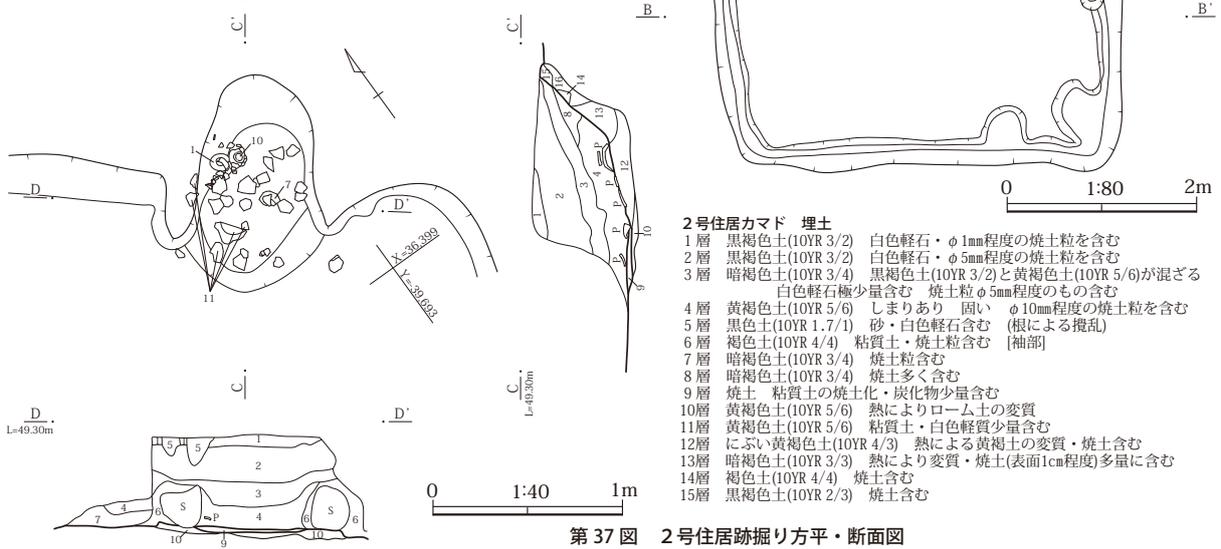


- 2号住居 埋土
- 1層 灰褐色砂質土(7.5YR 4/2) 少量の白色軽石(榛名ニッ岳軽石+浅間C軽石)・焼土粒子・炭化物を含む
 - 2層 褐色砂質土(7.5YR 4/3) 微量の白色軽石と少量の焼土粒子・炭化物・黒色土ブロック(φ5~50mm大)を含む
 - 3層 褐色砂質土(7.5YR 4/3) 微量の白色軽石と少量の黄色砂質ローム粒子・焼土粒子を含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 5/3) 少量の黄色砂質ローム粒子・同小ブロック(φ5~15mm)を含む

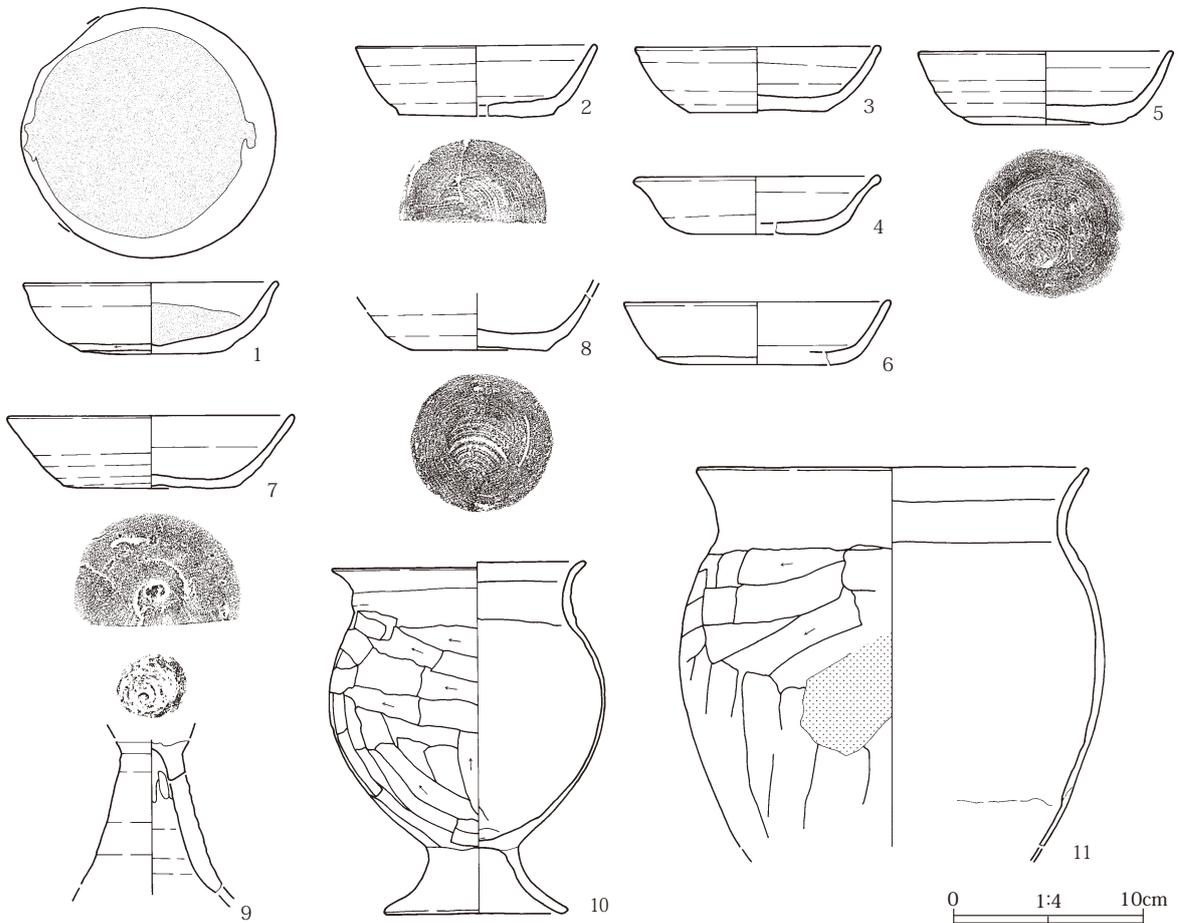
第36図 1・2区2号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

須恵器杯(No. 2)片・須恵器高杯の脚部(No. 9)片などが出土している。また、カマド跡出土の土師器甕(No.10、11)が後記の4号住居跡カマド構築時埋設と接合し、埋土中より出土の蓋破片が、隣接する3号住居跡よりの出土片と接合する。**所見**：東に向かって下がる緩やかな斜面上に位置する。出土土器の接合関係から、隣接する4号住居跡との共存が推察される。



第37図 2号住居跡掘り方平・断面図



第38図 2号住居跡出土遺物

1・2区2号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.1 底径 7.3 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄(2.5Y 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。体部下半～底部に塗付着。	漆付着土器。
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口径 12.4 底径 8.1 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 黒(10YR 2/1)	ロクロ整形。内外面燻し。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	燻焼成。
3	須恵器 杯	床面+19cm 口縁部～底部 1/2	口径 12.6 底径 7.3 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 6.8 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内外面に火傷が認められる。
5	須恵器 杯	床面+30cm 口縁部～底部 1/4	口径 13.2 底径 8.2 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	黒色土器 杯	床面+6cm 口縁部～底部 破片	口径 13.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 内面黒色処理 ③ 橙(2.5YR 6/6)	ロクロ整形。 外面：口縁部～底部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部ヘラ磨き、単位不鮮明。	
7	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 14.9 底径 9.2 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ起し後、底部周辺は回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 杯	床面+47cm 体部～底部 口縁部欠損	口径 — 底径 7.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
9	須恵器 高杯	床面直上 脚部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 青灰(5B 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。脚部2面透。 外面：脚部回転ナデ。 内面：脚部回転ナデ調整。	
10	土師器 台付甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 13.1 底径 4.7 器高 18.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	輪積み。台部貼付。 外面：口縁部と台部横ナデ。胴部上半横ヘラ削り、胴部下半縦ヘラ削り。 内面：口縁部と台部横ナデ、胴部ヘラ削り。	底部に孔痕あり。
11	土師器 甕	竈埋土中+埋土中 口縁部～胴部 1/2	口径 20.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め、下位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区3号住居跡(旧称1・2区SJ-3)

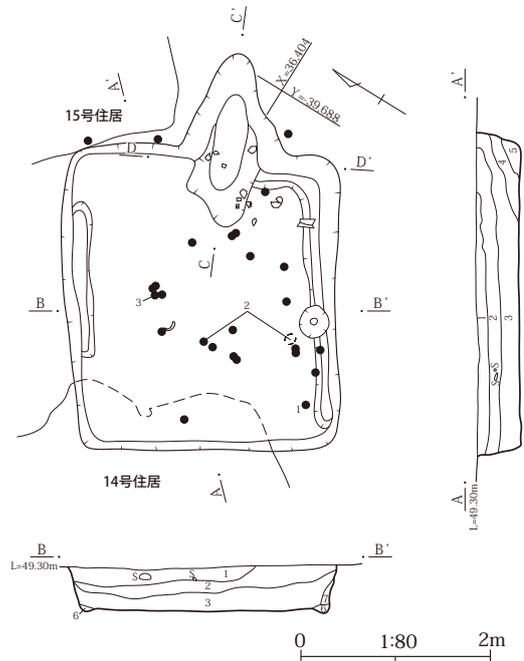
位置：X=36403 Y=-39690 主軸方向：N-60°-E

規模：3.3m×2.9m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：45cm～46cm 埋没土：白色軽石を少量含む黒褐色～暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：貼り床は検出されず、地山ローム土を平坦に整形し床面とする。カマド：北東壁ほぼ中央に位置する。袖部は礫等の芯材を用いず、粘質土のみで構築する。煙道端部は傾斜が緩やかに立ち上がる。柱穴：南東壁際で径34cm、深さ11cmを測る柱穴を1穴のみを確認。貯蔵穴：なし。

壁周溝：一部において幅16～20cm、深さ3～10cmを測る周溝を確認。重複遺構：14号住居跡と重複し、本遺構が14号住居跡のカマドを壊して造られていることから、本遺構の方が新しいものと判断される。掘り方：なし。

出土遺物：カマド周辺に小片が散乱して出土。出土の蓋(No. 1)片は隣接する2号住居跡のものと接合。

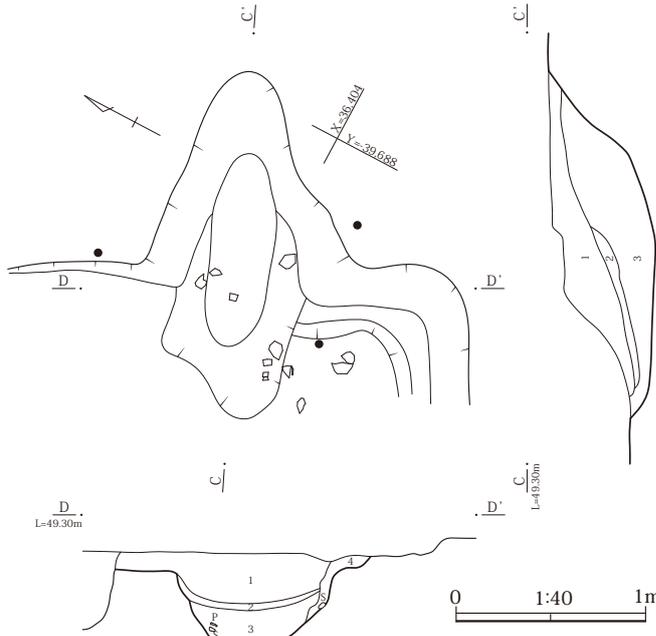


3号住居 埋土

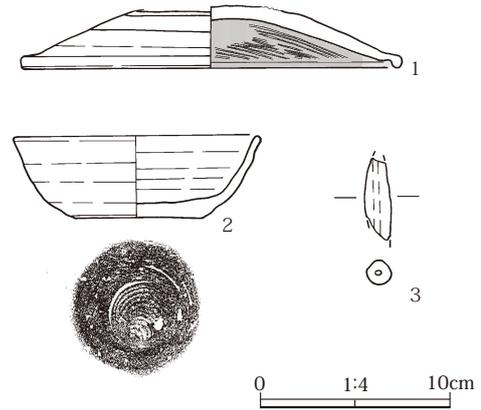
- 1層 黒褐色土 炭化物・焼土粒・白色軽石含む
- 2層 暗褐色土 焼土粒含む 炭化物は少量 白色軽石・黄褐ローム土混ざる
- 3層 暗褐色土 焼土粒・炭化物含む 黄褐ローム土・白色軽石少量混ざる
- 4層 暗褐色土 焼土粒・白色軽石少量含む
- 5層 暗褐色土 焼土粒極少量含む 白色軽石少量・黄褐ローム土少量混ざる
- 6層 褐色土 黄褐ローム土少量含む しまりなし 周溝含む
- 7層 褐色土 黄褐ローム土多く混ざる

第39図 3号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第40図 3号住居跡カマド平・断面図



第41図 3号住居跡出土遺物

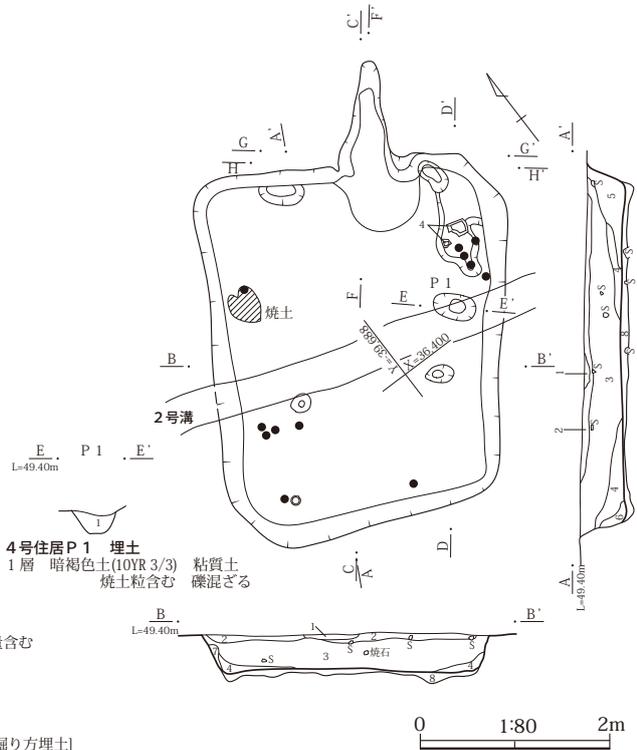
- 3号住居 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・焼土粒・炭化物含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土(10YR 5/6)ブロック含む
 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 焼土粒・炭化物・少量の白色軽石含む
 4層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土(10YR 5/6)混ざる 炭化物含む

1・2区3号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯蓋	床面+18cm 天井部~口縁部	口径 19.7 摘径 — 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焼 良好 内面黒色 処理 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部横ナデ。天井部回転ヘラ削り。摘み貼付。 内面：口縁部横ナデ。天井部ナデ後、丁寧なヘラ磨き。	隣接する2号住居埋土中の土器片と接合。
2	須恵器 杯	床面+5cm 口縁部~底部 3/4	口径 12.6 底径 7.7 器高 4.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焼 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り、口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	土製品 錘	床面+39cm 一部欠損	長さ 4.3 径 1.3 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焼 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	上端、下半欠損、外面ナデ。 中心部縦に3mmの穿孔。 重量7g	

1・2区4号住居跡(旧称1・2区SJ-4)

位置：X=36401 Y=-39688 主軸方向：N-38°
 -E 規模：4.0m×3.04m 平面形状：隅丸長方形
 残存深度：39cm~53cm 埋没土：白色軽石を含む黒褐色~暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり4cmほどの厚さで褐色土を用いて貼り床を敷設する。カマド：北東壁ほぼ中央に位置する。残存状況は比較的良好。両袖間より3個体の土師器甕が横位に重ね合わせた状態で出土し、焼き口天井部の芯材として用いたものと考えられる。このうちの2個体は、隣接する2号住居跡カマド跡出土の甕と接合する。両袖には芯材として袖石(円礫)を用い、粘質土で覆い



- 4号住居 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘質土 焼土粒含む 礫混ざる
 2層 砂層 [2号溝埋土]
 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石含む 炭化物・焼土粒少量含む
 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・炭化物・焼土粒含む
 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 炭化物・焼土粒少量含む
 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色ローム土少量混ざる
 7層 暗褐色土(10YR 3/3) しまりなし
 8層 黄褐色土(10YR 5/6) ロームブロック
 9層 褐色土(10YR 4/3) 黄褐色土混ざる 粘質土しまりあり[掘り方埋土]

第42図 4号住居跡平・断面図

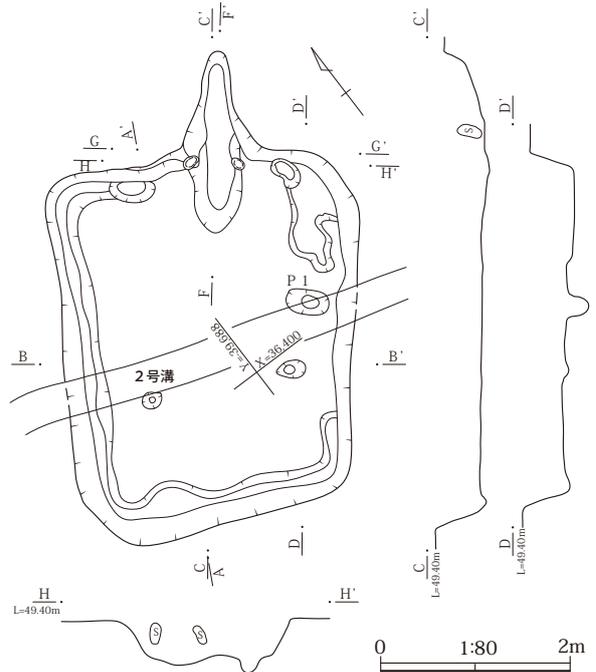
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

袖部を構築する。煙道端部は緩やかに傾斜し立ち上がる。また、燃烧部中央付近に支脚石の埋設を確認した。

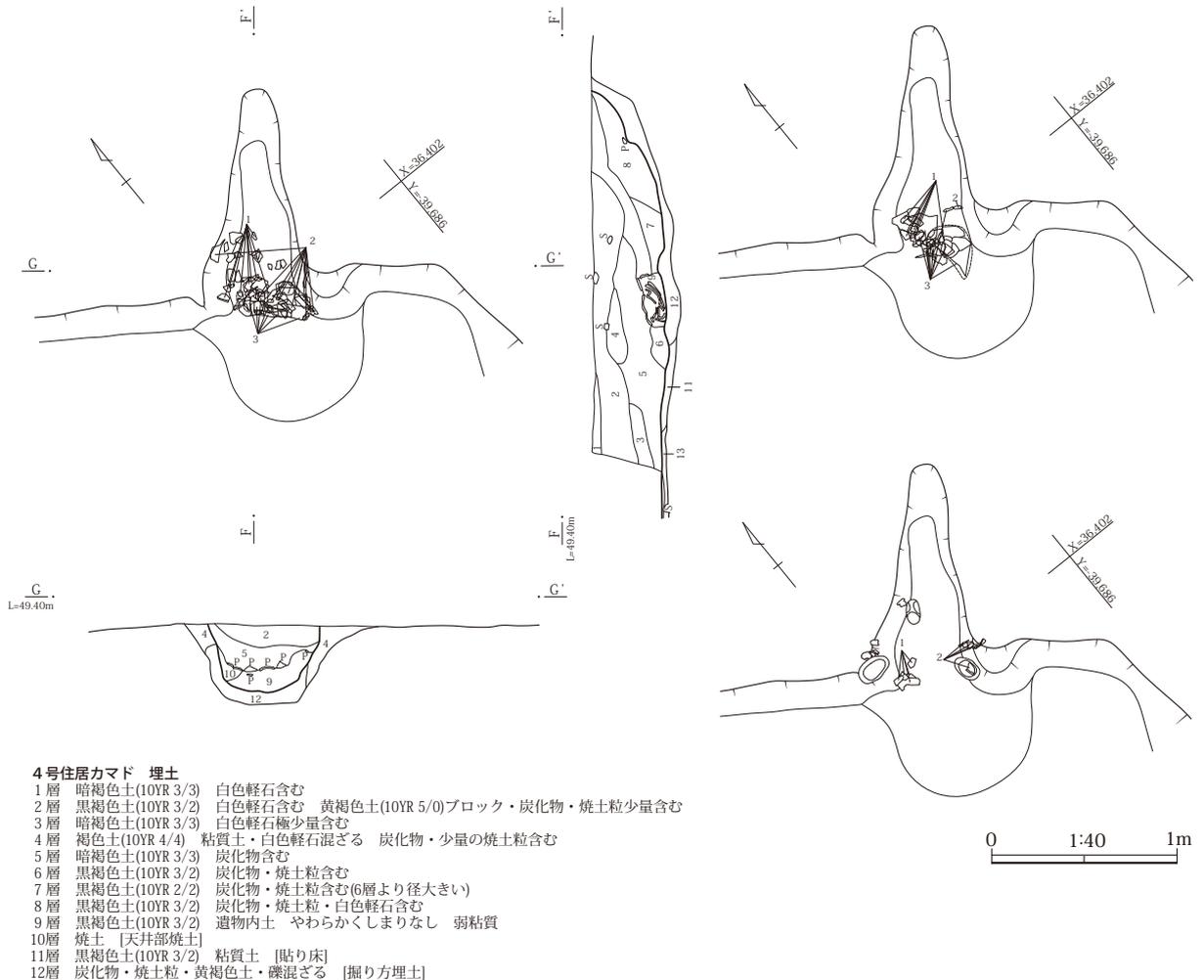
柱穴：掘り方調査時において、径18～47cm、深さ7～23cmを測るピット5穴を検出したが、柱穴に該当するか不明である **貯蔵穴：**なし。 **壁周溝：**床面上においては検出し得なかったが、掘り方調査時において幅30～62cm、深さ3～6cmを測る壁溝が一部を除いて巡ることを確認した。 **重複遺構：**2号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断される。

掘り方：住居全体を均質に4cmほど掘り窪める。掘り方底面には地山礫層が露出する。 **出土遺物：**前記のカマド構築材としての土師器甕(No. 1・2・3)を除き、他の出土遺物は少ない。また、カマド構築材と思われる加工材料(No 4)が出土する。

所見：前記のカマド構築時に埋設の土器片の接合関係から、隣接の2号住居跡との共存が推察される。



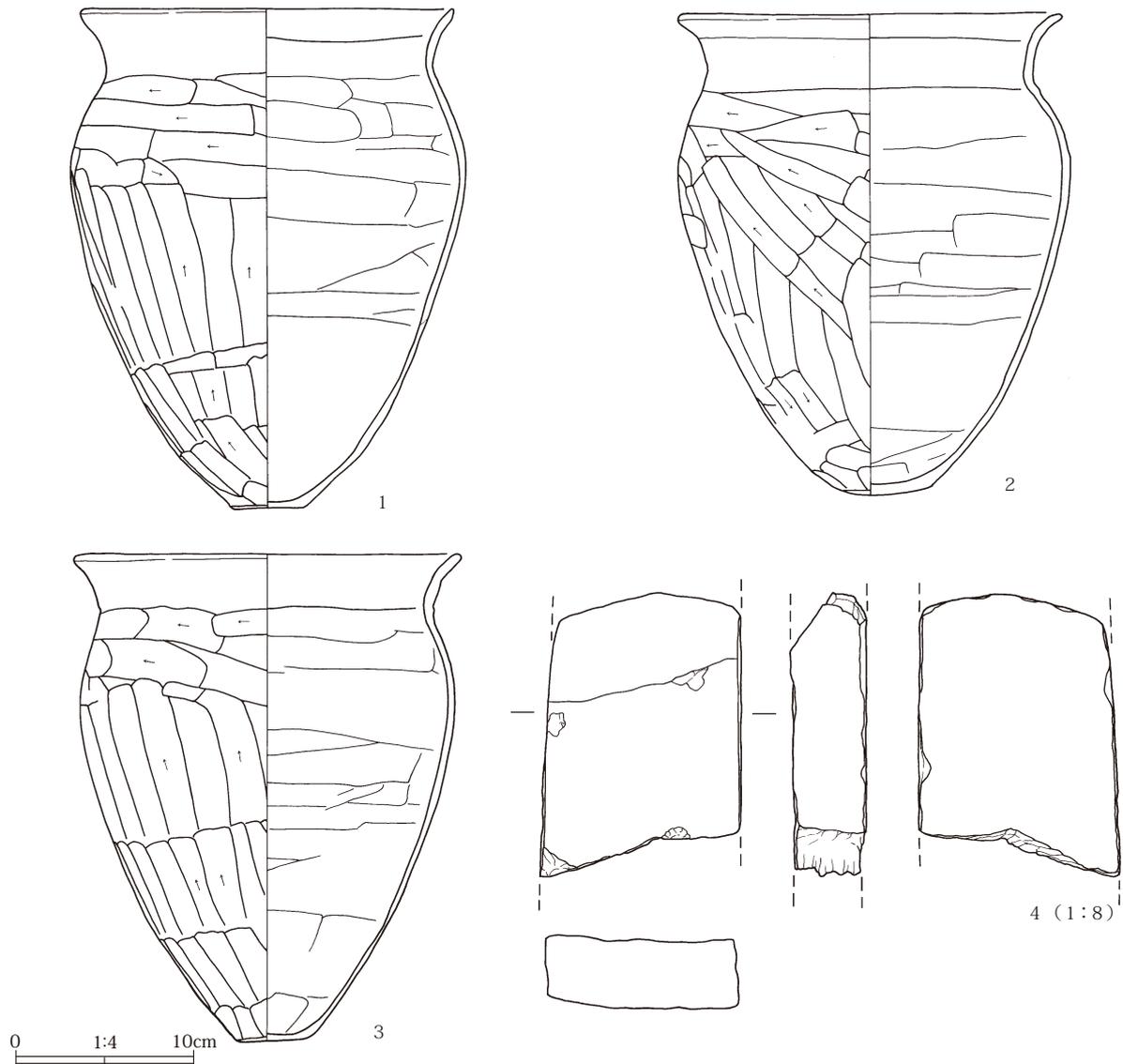
第43図 4号住居跡掘り方平・断面図



- 4号住居カマド 埋土**
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石含む 黄褐色土(10YR 5/0)ブロック・炭化物・焼土粒少量含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石極少量含む
 - 4層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・白色軽石混ざる 炭化物・少量の焼土粒含む
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 炭化物含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 炭化物・焼土粒含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 2/2) 炭化物・焼土粒含む(6層より径大きい)
 - 8層 黒褐色土(10YR 3/2) 炭化物・焼土粒・白色軽石含む
 - 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 遺物内土 やわらかくしまりなし 弱粘質
 - 10層 焼土 [天井部焼土]
 - 11層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘質土 [貼り床]
 - 12層 炭化物・焼土粒・黄褐色土・礫混ざる [掘り方埋土]

第44図 4号住居跡カマド平・断面図・遺物出土状態

第3章 検出遺構と出土遺物



第45図 4号住居跡出土遺物

1・2区4号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
1	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 20.7 底径 4.1 器高 28.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中・下位は縦方向、底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。	隣接する2号住居 カマド埋土中の土 器片と接合。			
2	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形 損	口径 21.0 底径 5.2 器高 27.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。	状口縁。			
3	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 21.4 底径 4.1 器高 27.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中・下位は縦方向、底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
4	石製品	カマド天井		24.2	17.1	6.4	2180	不明	

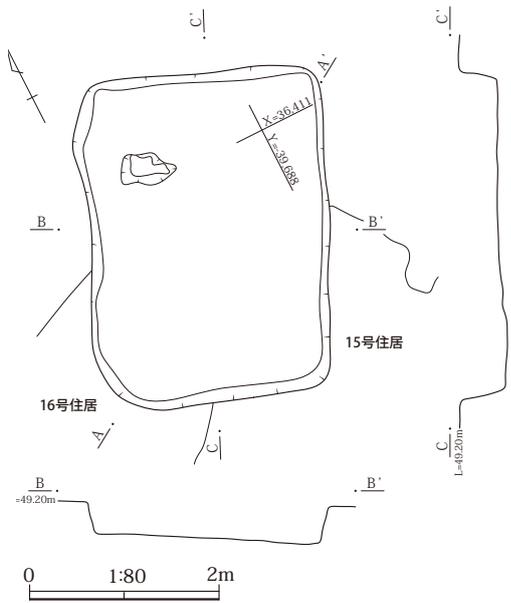
1・2区5号住居跡 (旧称1・2区SJ-5)

位置：X=36410 Y=-39689 主軸方向：N-25°-E 規模：3.48m×2.5m 平面形状：隅丸長方形

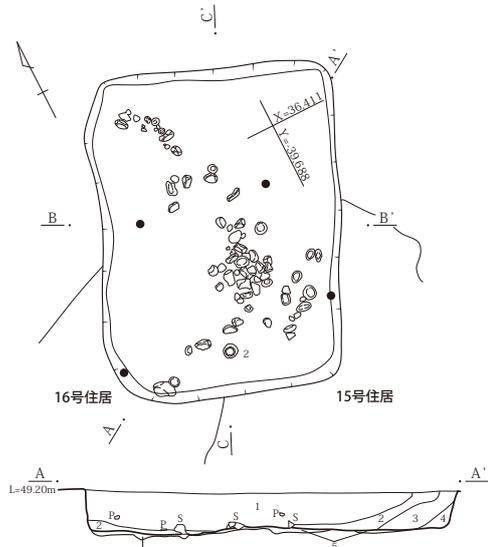
残存深度：34cm～53cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり黄褐色土を用いて4cmほどの厚さで貼り床を敷設し、床面は固く締まる。カマド：調査範囲内においては検出し得なかったため、調査区端にかかる北西コーナー部に存在した可能性が考えられる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：15号・16号住居跡と重複し、遺構確認時の埋

土の状況より本遺構の方が両住居跡より新しいものと判断される。**掘り方**：ほぼ全面にわたり4cmほどの深さで均質に掘り窪める。**出土遺物**：床面直上より完形の漆付着土器(No. 2)が出土する。また、埋土中からは埋没中に投げ込まれたと考えられる多量の円礫が出土した。**所見**：この住居跡からはカマドが検出されていないことから、未だカマド構築に至らない構築途中において廃絶された住居である可能性もあるが、床面が貼られ既に硬化していることから、カマドを持たない竪穴建物跡、出土遺物から漆関連の工房跡である可能性も推察される。

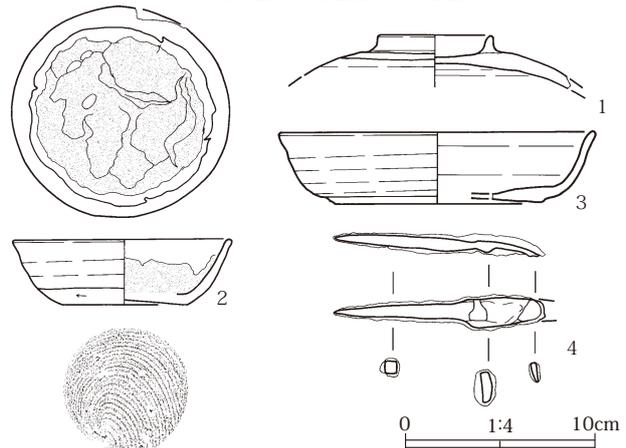


第46図 5号住居跡掘り方平・断面図



5号住居 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土(10YR 5/6)粒少量含む 白色軽石・焼土粒含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層より白色軽石少なく、焼土粒径大きくなる
 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 2層+炭化物含む 黄褐色土(10YR 5/6)粒径大きい
 4層 黄褐色土(10YR 5/6) 暗褐色土(10YR 3/4)少量混ざる
 5層 黄褐色土(10YR 5/6) 暗褐色土(10YR 3/4)極少量混ざる 焼土粒少量含む
 固い [貼り床]

第47図 5号住居跡断面図



第48図 5号住居跡出土遺物

1・2区5号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考		
1	須恵器 杯蓋	埋土中 摘部～天井部 破片	口径 — 摘径 5.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部回転ヘラ削り。回転糸切り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。			
2	須恵器 杯	床面直上 完形	口径 11.3 底径 6.5 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下位に1段の回転ヘラ削り。底部回転糸切り。 内面：口縁部回転ナデ調整。漆紙付着。			
3	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 14.8 底径 9.8 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
4	鉄器	鉈	刃部欠損	11.0	1.9	1.1	21.0	錆激しく詳細不明。

1・2区6号住居跡 (旧称1・2区SJ-6)

位置：X=36397 Y=-39679 **主軸方向**：N-23° -E **規模**：3.0m×3.0m **平面形状**：隅丸方形

残存深度：47cm～51cm **埋没土**：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり4cmほどの厚さで褐色土を用いて貼り床を敷設する。

カマド：北東壁の東寄りに位置する。袖部には芯材を用いず、粘質土のみを固めて構築する。煙道端部は急峻に立ち上がり、住居壁よりあまり突出しない。

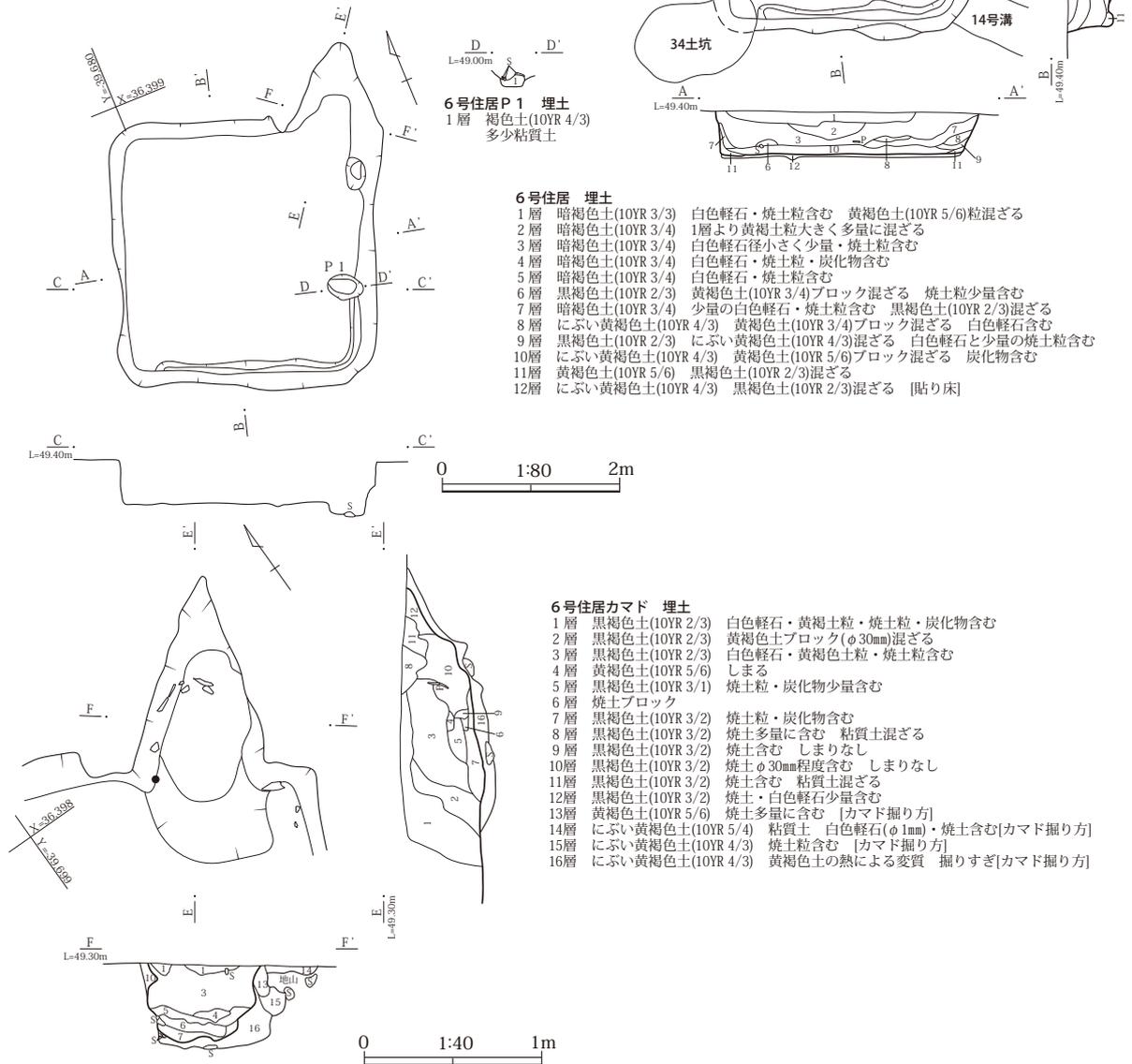
柱穴：2基のピットを検出する。南東壁際にあるP1は径30～40cmの楕円形を

第3章 検出遺構と出土遺物

呈し、深さは13cmを測る。 貯蔵穴：なし。 壁周溝：南壁付近のみに検出。幅は20～34m、深さ4～5cmを測る。

重複遺構：2号・14号溝跡、34号土坑跡と重複する。新旧関係は、遺構検出時の埋土の様相などから、34号土坑跡・2号溝は本遺構よりも新しく、14号溝は本遺構よりも古いものであると判断される。 掘り方：全面にわたり4cmほどの深さで均質に掘り窪める。掘り方底面の一部には、地山小円礫層が露出する。

出土遺物：出土遺物は少なく、埋土中からは土師器杯片等が出土するのみである。



第49図 6号住居跡平・断面図

1・2区7号住居跡 (旧称1・2区SJ-7)

位置：X=36407 Y=-39678 主軸方向：N-32°-E 規模：4.2m×3.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：65cm～72cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり4cmほどの厚さで褐色土を用いて貼り床を敷設する。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置する。袖部には円礫等の芯材を用いず、粘質土のみで構築される。煙道部端は急峻に

立ち上がり、住居壁よりあまり突出しない。

柱穴：なし。 貯蔵穴：なし。 壁周溝：壁下において、幅10～34cm、深さ9～11cmを測る壁溝を確認。

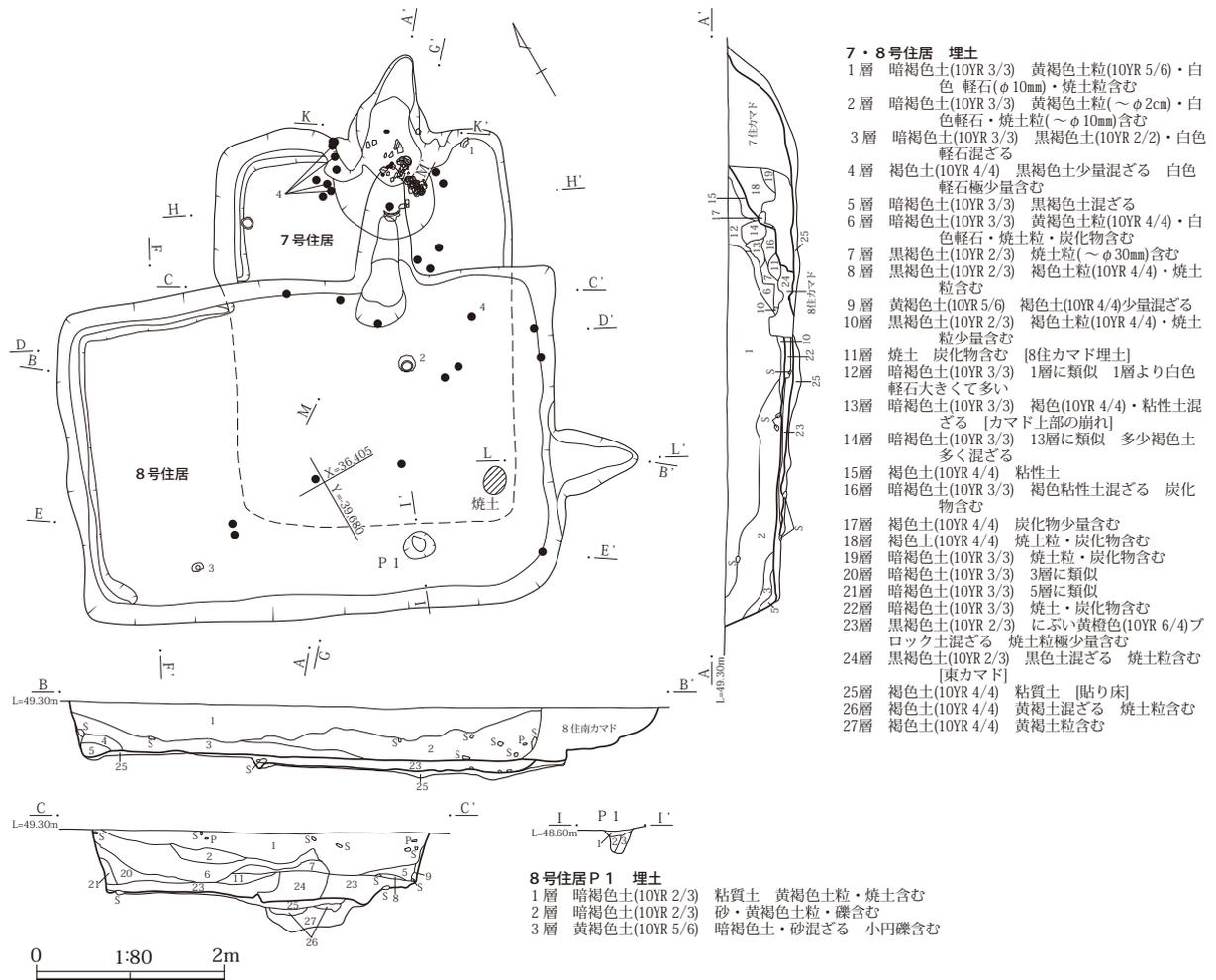
重複遺構：8号住居跡と重複。相互の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断される。 掘り方：全面にわたり4cmほどの深さで均質に掘り窪める。掘り方底面の一部には、地山小円礫層が露出する。

出土遺物：全体的に埋土内より小片が散逸して出土。床面直上で須恵器杯(No. 4)が出土する。

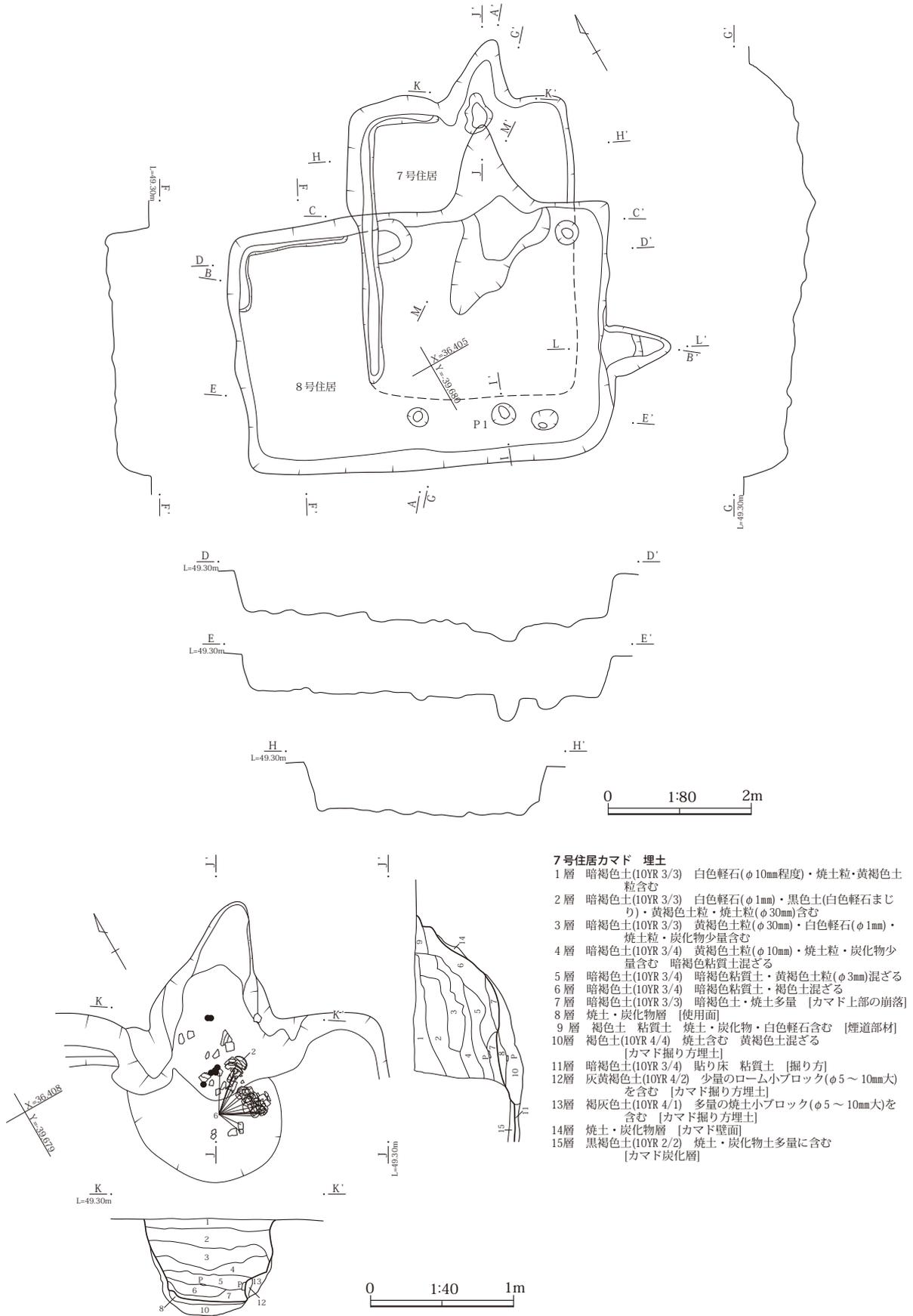
1・2区8号住居跡(旧称1・2区SJ-8)

位置：X=36405 Y=-39680 主軸方向：N-27°-E 規模：3.6m×5.3m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：47cm～61cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり1～4cmほどの厚さで褐色土を用いて貼り床を敷設する。カマド：2基のカマド跡を検出した。北東壁中央やや東寄りに1基(東カマド)。もう1基は、南東壁中央やや南寄りで(南カマド)検出された。いずれも残存度は悪く、特に南カマドは使用面も確認できないため、このカマドを廃絶した後に東カマドを作り直したと思われる。東カマドの煙道端は緩やかな傾斜で立ち上がる。柱穴：3基のピットを検出したが、柱穴と断定できるのは径28cm、深さ37cmを測る1基のみである。貯蔵穴：なし。壁周溝：北側～東側壁下で幅27～35cm、深さ2～7cmを測る壁溝を検出。重複遺構：7号住居跡と重複し、相互の埋土の様相より本遺構の方が新しいものと判断される。掘り方：全面にわたり1～4cmほどの深さで均質に掘り窪める。出土遺物：全体的に出土量は少なく、埋土中から須恵器杯(No. 1)・椀(No. 2)・壺(No. 3)、土師器杯片が出土するのみである。

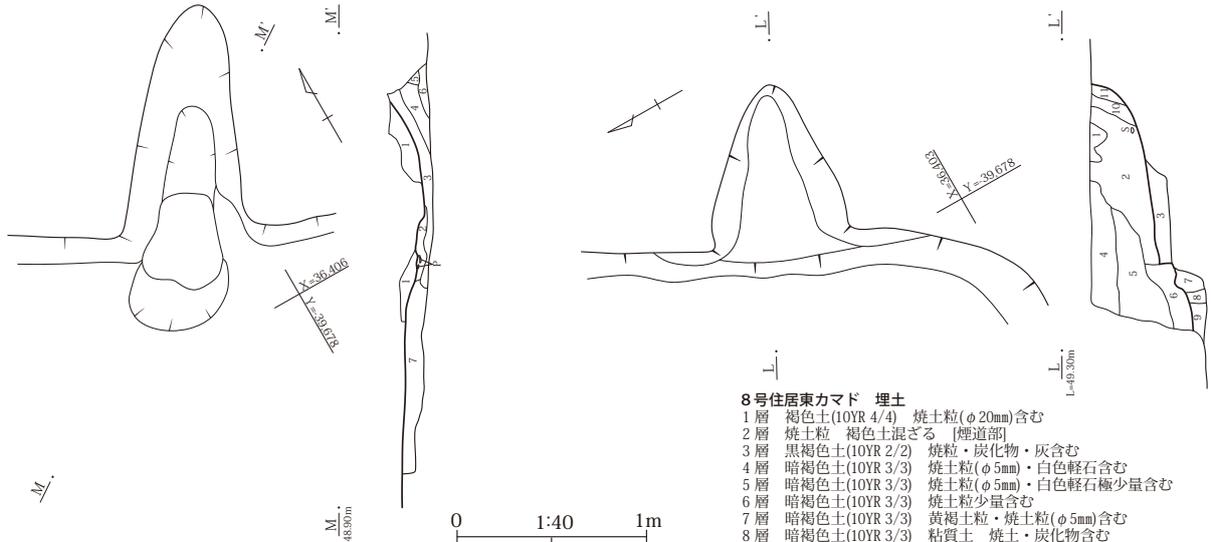


第50図 7・8号住居跡平・断面図



第51図 7・8号住居跡掘り方平・断面図、7号住カマド平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

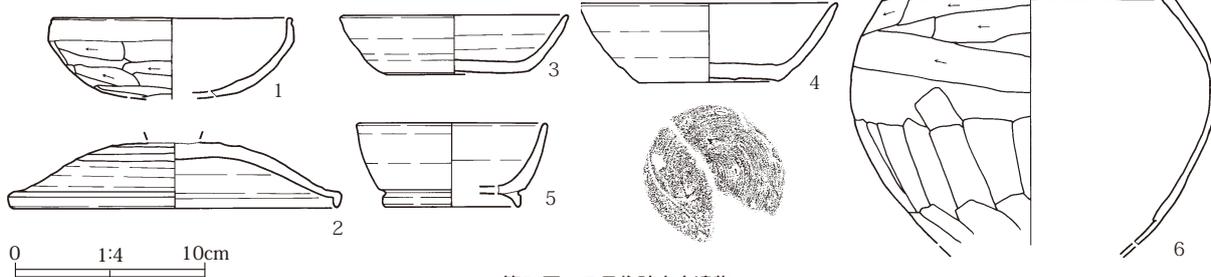


8号住居北カマド 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 熱による変質・粘質土 焼土粒・黒色土少量混ざる
 [天井部の崩落]
 2層 焼土・炭化物層 にぶい黄褐色土混ざる
 3層 黒褐色土(10YR 2/2) にぶい黄褐色土混ざる 焼土粒・炭化物含む
 4層 黒褐色土(10YR 2/2) 黄褐色土ブロック(φ30mm)混ざる 焼土粒・炭化物極少量含む
 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 1層と同じブロック
 6層 黒褐色土(10YR 2/2) 焼土・炭化物多量に含む [7住カマド炭化層]
 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 焼土粒・炭化物含む [掘り方埋土 7住床上面]

8号住居東カマド 埋土
 1層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒(φ20mm)含む
 2層 焼土粒 褐色土混ざる [煙道部]
 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 焼粒・炭化物・灰含む
 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒(φ5mm)・白色軽石含む
 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒(φ5mm)・白色軽石極少量含む
 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒少量含む
 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土・焼土粒(φ5mm)含む
 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘質土 焼土・炭化物含む
 9層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒(φ20mm)・炭化物含む
 10層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒(φ5mm)含む
 11層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石含む

第53図 8号住居跡東カマド平・断面図

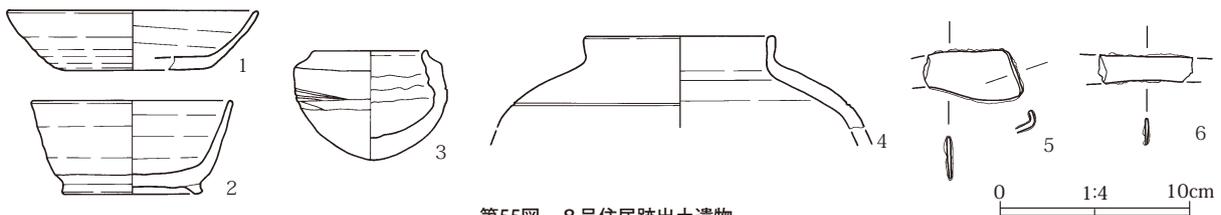
第52図 8号住居跡北カマド平・断面図



第54図 7号住居出土遺物

1・2区7号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+27cm 口縁部-底部 1/2	口径 12.3 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/3)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	須恵器 杯蓋	竈使用面直上 口縁部～天井部 破片	口径 16.8 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
3	須恵器 杯	埋土中 口縁部-底部 破片	口径 11.7 底径 7.0 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部-底部 1/2	口径 13.5 底径 7.4 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。後周辺部回 転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 碗	埋土中 口縁部-底部 破片	口径 9.9 底径 7.0 器高 4.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	土師器 甕	竈使用面直上 口縁部～胴部下半 底部欠損	口径 15.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	



第55図 8号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区8号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法	備考
				長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)		
1	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 13.0 底径 7.0 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
2	須恵器 椀	床面+9cm 口縁部-底部 2/3	口径 10.3 底径 7.2 器高 4.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焼 やや不良 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ヘラ調整。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
3	須恵器 壺	床面+8cm 胴部～底部 口縁部欠損	口径 5.9 底径 - 器高 5.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	外面：胴部上半回転ナデ。胴部下半～底部ナデ調整。 内面：胴部回転ナデ、底部ナデ調整。			
4	須恵器 短頸壺	床面+42cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 9.6 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 灰白(5Y 8/2)	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。			
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
5	鉄器	鎌	基部片	5.3	2.9	0.4	13.0	刃部の摩擦大。
6	鉄器	刀子	刃子中位小片	4.8	1.7	0.3	3.0	

1・2区9号居跡 (旧称1・2区SJ-9住)

位置：X=36406 Y=-39670

主軸方向：N-15°-W

規模：5.3m×5.3m 平面形状：隅丸方形

残存深度：53cm～54cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

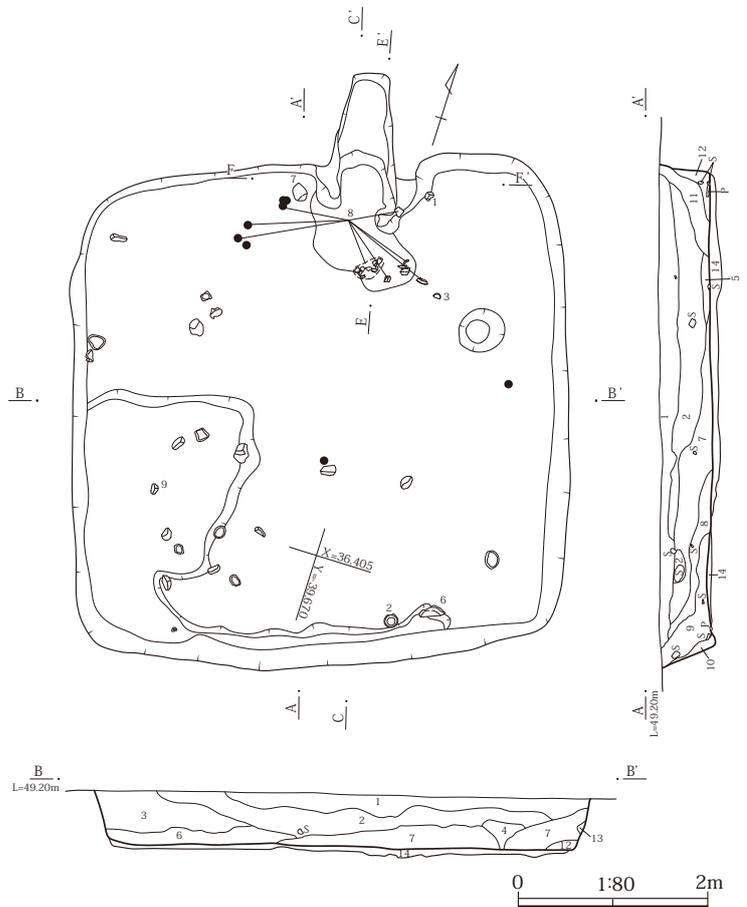
床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり5cmほどの厚さで、にぶい黄褐色土を用いて貼り床を敷設する。

カマド：北壁中央やや東寄りに位置する。残存状態は比較的良好で、部分的に天井部が遺存する。袖部は礫等の芯材を用いず、褐色粘質土で構築されている。煙道部は短く急峻に立ち上がる。柱穴：掘り方調査の段階で径30～50cm、深さ12～34cmを測る2基のピットを検出した。

貯蔵穴：なし。壁周溝：南壁下において、幅40～50cm、深さ2～6cmを測る壁溝を検出する。重複遺構：なし。

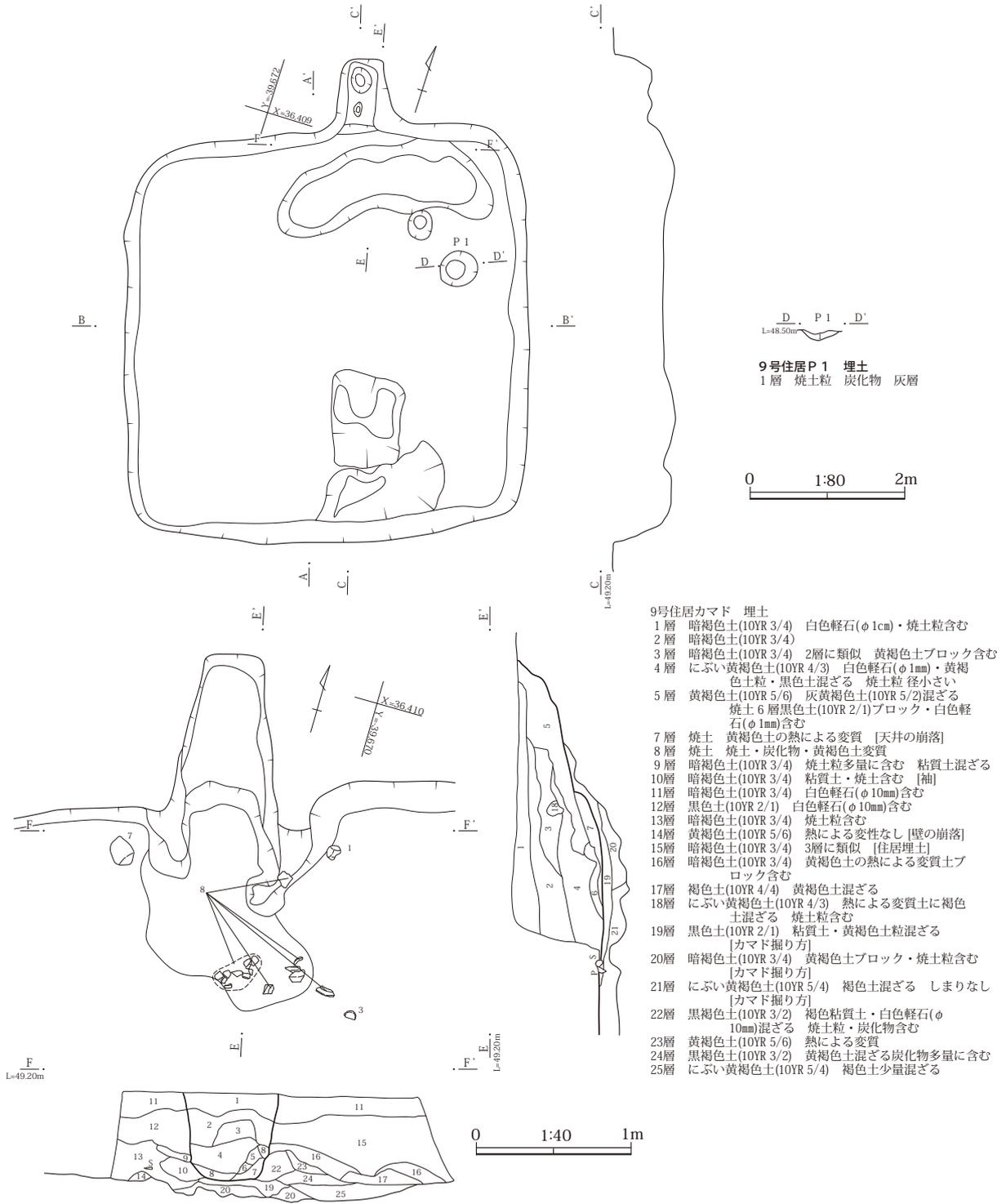
掘り方：住居中央部付近を除き、5cmほどの深さに掘り込む。一部において、地山礫層が露出する。

出土遺物：床面直上で略完形の土師器杯(No. 2)・石製紡錘車(No. 9)が出土する。

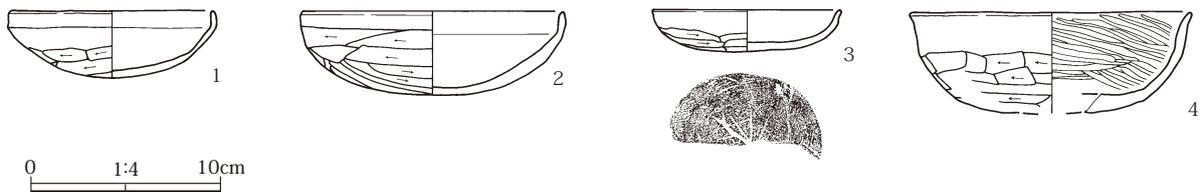


- 9号住居 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 1層より黄褐色土粒径大きくなり多い 黒褐色土(10YR 2/2)混ざる(白色軽石含む)
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・黄褐色土粒含む 焼土粒・炭化物極少量含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 2層に類似 根による攪乱
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 2層に類似 黄褐色土粒径大きい
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒褐色土(10YR 2/2)ブロック(白色軽石含む)含む 焼土粒・炭化物極少量含む
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 黒褐色土(10YR 2/2)ブロック・黄褐色土(φ50mm)(10YR 5/6)ブロック含む
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 暗褐色土と黄褐色土の混ざり
 - 9層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土粒含む
 - 10層 褐色土(10YR 4/4) 壁の崩壊土
 - 11層 褐色土(10YR 4/4) 黒褐色土混ざる 焼土粒下部にあり
 - 12層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 黄褐色土ブロック含む
 - 13層 褐色土(10YR 4/4) 壁 [地山]
 - 14層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 黄褐色土ブロック含む 褐色土との混ざり [掘り方]

第56図 9号住居跡平・断面図

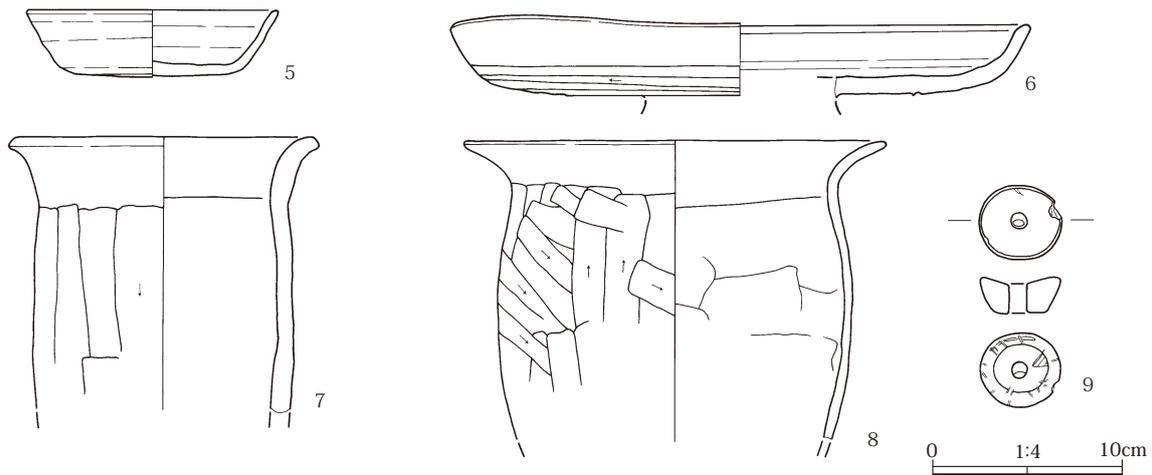


第57図 9号住居跡掘り方平・断面図



第58図 9号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物



第59図 9号住居跡出土遺物

1・2区9号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
							①胎土 ②焼成 ③色調		
1	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 3/4	口径 10.5 底径 — 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへら削り。口縁部やや内湾。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。				
2	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.5 底径 — 器高 4.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちへら削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。				
3	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 9.8 底径 — 器高 2.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/8)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちへら削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	底部外面に木葉痕			
4	土師器 杯	埋土中 ほぼ完形 底部一部欠損	口径 14.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部へら削り。 内面：底部ナデ。口縁部～体部横ナデ後、密な斜放射状へら磨き。				
5	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 13.0 底径 8.0 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5YR 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転へら削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
6	須恵器 高盤	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 30.0 底径 — 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ、体部～底部回転へら削り。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整、底部ナデ調整。				
7	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 破片	口径 15.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 褐灰(10YR 4/1)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向のへら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。				
8	土師器 甕	床面+2cm、竈埋土 中 口縁部～胴部 底部欠損	口径 21.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5Y 4/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦と斜め方向のへら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
9	石製品	紡錘車	完形	3.9	4.2	1.9	44	滑石	孔径0.8cm表面よく使用のため擦り減っている。

1・2区10号住居跡 (旧称1・2区SJ-10)

位置：X=36397 Y=-39665 主軸方向：N-78°-E 規模：4.6m×3.7m 平面形状：隅丸長方形

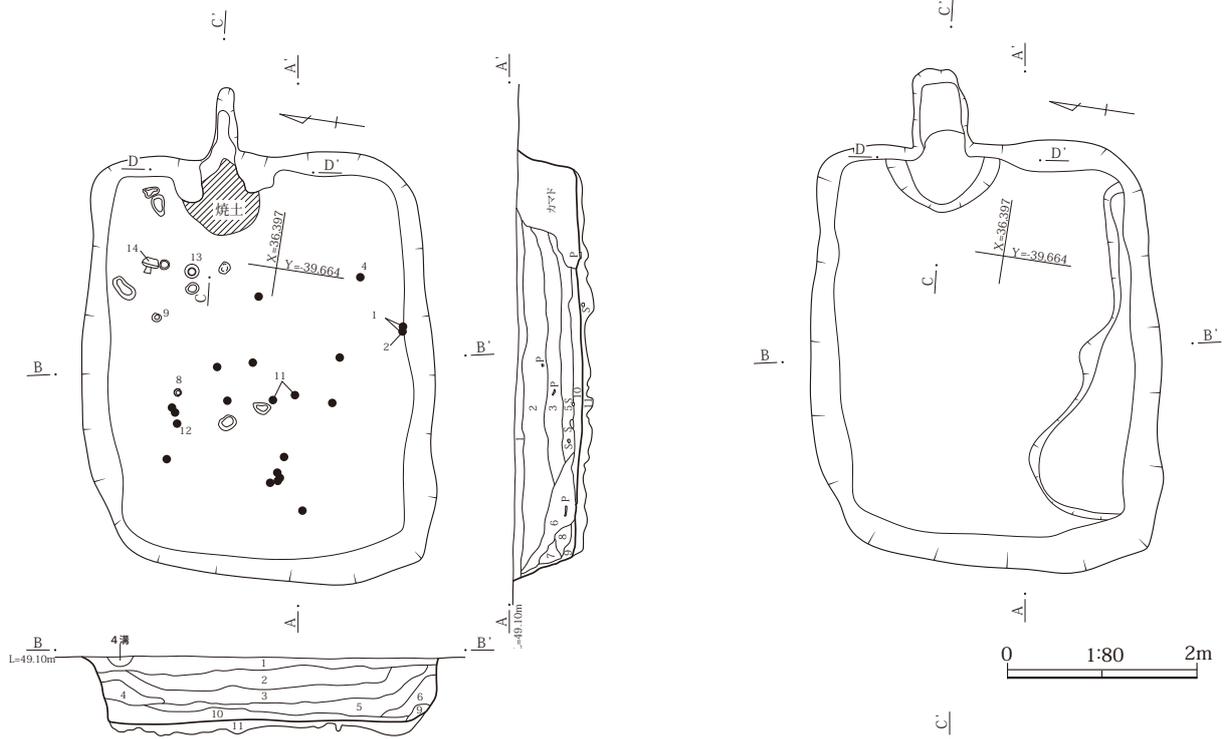
残存深度：65cm～74cm 埋没土：主に白色軽石を含む黒褐色～暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり10cmほどの厚さで主ににぶい黄褐色土を用いて貼り床を敷設する。

カマド：東壁中央やや北寄りに位置し、残存状態は良好。燃烧部と煙道部には比高差があり、煙道部は緩やかに立ち上がる。袖部には芯材を用いず、褐色粘質土で構築されている。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

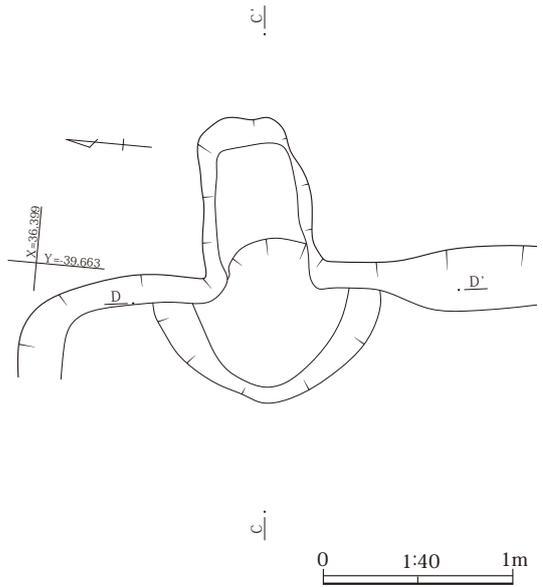
重複遺構：4号溝跡と重複し、遺構検出時の様相から本遺構の方が古いものと判断される。

掘り方：全面にわたり10cmほどの深さでほぼ均質に掘り窪め、一部に地山礫層が露出する。出土遺物：床面直上より完形の須恵器平瓶(No.14)・蓋(No.8)壺(No.13)・土師器杯(No.1・2)・皿(No.4)などが出土する。



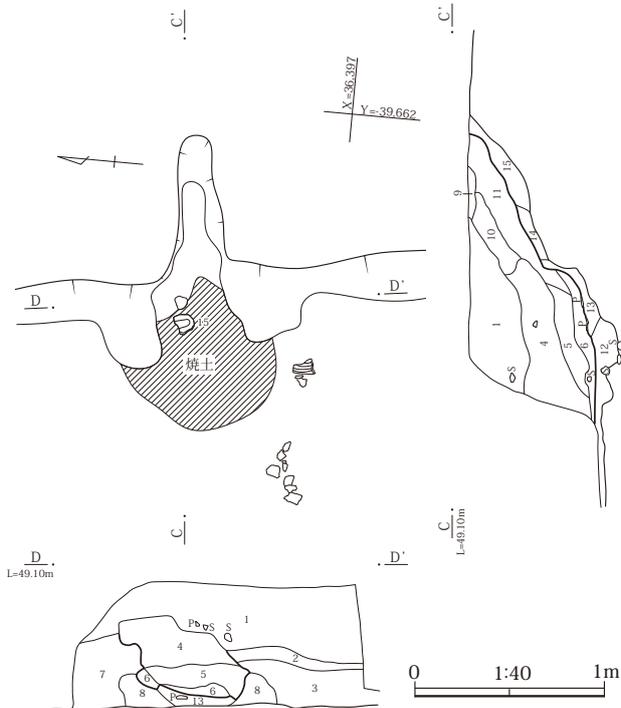
10号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石・焼土粒含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒・白色軽石・焼土粒・炭化物含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒径大きくなり少量含む 白色軽石少量・焼土粒大きくなり・炭化物も径大きくなる
- 4層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒少量含む 炭化物径大きくなる
- 5層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒多量含む 焼土粒極少量含む
- 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土ブロック含む [壁面の崩壊土]
- 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 暗褐色土混ざる
- 8層 黒褐色土(10YR 2/3) 褐色土少量混ざる
- 9層 褐色土(10YR 4/4) [壁面の崩壊土]
- 10層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土粒含む
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4)褐色土混ざる [掘り方埋土]



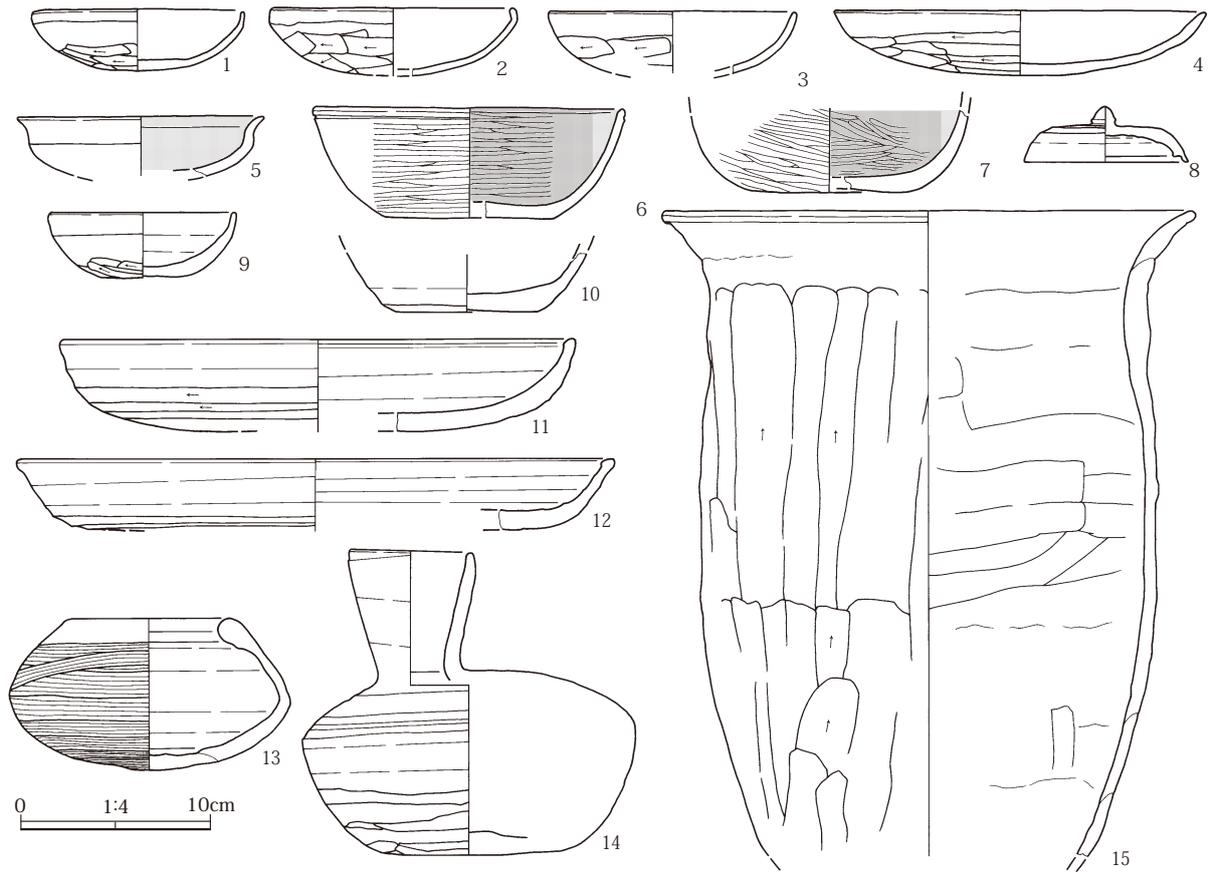
10号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・焼土粒(φ20mm)含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層より黄褐色土粒大きく多い
- 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土粒含む 焼土粒少量含む
- 4層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒・黒色土ブロック・焼土粒(φ10mm)含む
- 5層 黄褐色土(10YR 5/6) 熱による変質 焼土粒(φ30mm)含む
- 6層 焼土 黄褐色変質土混ざる [天井の崩壊]
- 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土粒含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 黄褐色土と褐色土の混ざり
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 熱による変質土と黒色土の混ざり 焼土粒(φ20mm)含む
- 10層 褐色土(10YR 4/4) 4層より黒色土多く混ざる 熱による変質 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 黒色土混ざり弱い 焼土粒(φ50mm)まで含む
- 12層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・炭化物含む 粘質土 [カマド掘り方]
- 13層 灰層 焼土・炭化物含む
- 14層 極暗赤褐色土(5YR 2/4) 焼土ブロック(φ30mm)含む
- 15層 暗褐色土(10YR 3/4) 焼土(φ20mm)含む



第60図 1・2区10号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第61図 10号住居跡出土遺物

1・2区10号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 4/5	口径 11.0 底径 — 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	底部外面に黒斑あり。
2	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 12.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	外面：口縁部横ナデ、体部上半はナデ、下半から底部手持ちヘラ削り。口縁部やや内湾。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 皿	床面+2cm 口縁部～底部 1/4	口径 19.3 底径 — 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明褐(7.5YR 5/6)	外面：口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
5	黒色土器 杯	埋土中 口縁部～体部 破片	口径 12.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ。	
6	黒色土器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 16.0 底径 9.0 器高 5.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ 浅黄橙(10YR 8/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部ヘラ磨き、底部ヘラ削りか。 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ後、ヘラ磨き。	
7	黒色土器 椀	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 8.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。 外面：体部は丁寧なヘラ磨き。底部ヘラ削り。 内面：体部回転ナデ、底部ナデ後、丁寧なヘラ磨き。内面燻し。	
8	須恵器 杯蓋	床面直上 ほぼ完形 口縁一部欠損	口径 8.5 摘径 1.3 器高 2.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗青灰(5B 4/1)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
9	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 9.6 底径 3.2 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：体部回転ナデ。底部手持ちヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
10	須恵器 杯	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 7.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
11	須恵器 盤	床面+22cm 口縁部～底部 破片	口径 26.6 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。体部～底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。	
12	須恵器 盤	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 31.0 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 青灰(10BG 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	

1・2区10号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
13	須恵器 壺	床面直上 完形	口径 8.1 底径 — 器高 8.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回りか。底部閉塞。 外面：胴部～底部回転ナデ。頸部へら削り。胴部カキメ。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。	底部中央に孔(径4.9cm)を塞いだ痕あり。
14	須恵器 平瓶	床面直上 完形	口径 6.3 底径 10.0 器高 16.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	分割接合成型法。ロクロ整形。胴部は天井部で閉塞、口縁部は接合。 外面：胴部回転ナデ。胴部下端～底部へら削り。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。	最大径17.5cm。肩部外面に太さ2mmの条線が2本巡る。
15	土師器 長胴甕	掘方埋土中 口縁部～胴部 1/3	口径 27.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部は縦方向のへら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。	

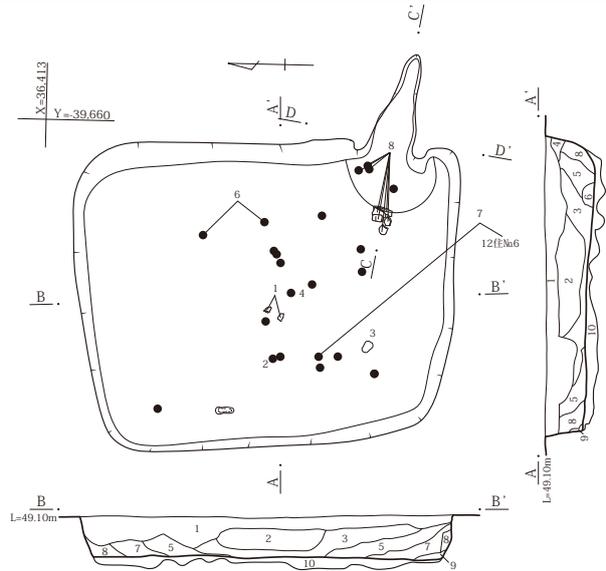
1・2区11号住居跡(旧称1・2区SJ-11)

位置：X = 36411 Y = -39662

主軸方向：N-86° -E 規模：3.3m×4.0m

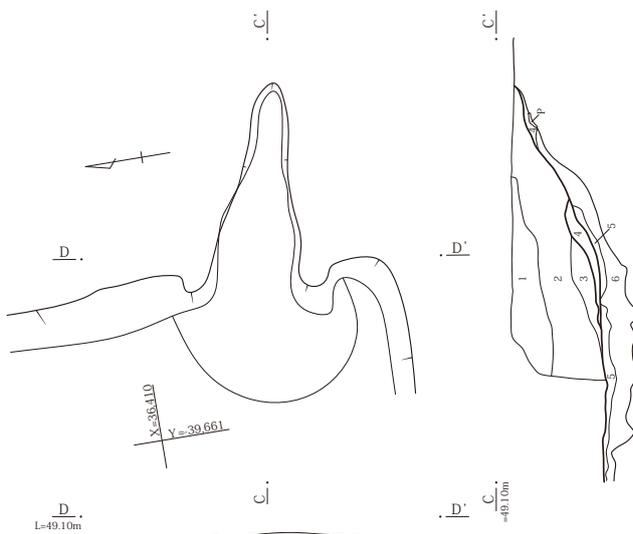
平面形状：隅丸長方形 残存深度：38cm～48cm

埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり4～10cmほどの厚さで主に黒褐色土を用いて貼り床を敷設する。カマド：東壁の南寄りに位置し、遺存状態は比較的良好。煙道部は緩やかに立ち上がる。燃烧部では広域にわたり厚い灰層面が確認された。袖部は芯材を用いず、にぶい黄褐色弱粘質土で構築されている。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：全面にわたり4～10cmほどの不規則な起伏を残し、掘り窪める。出土遺物：埋土中より土師器杯(No. 1・2・3・4)・甑(No. 6・7・8)、須恵器蓋(No. 5)の破片等が出土する。



11号住居 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・黒色土ブロック含む
- 4層 褐色土(10YR 4/4)
- 5層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土ブロック・黒色土ブロック・少量の白色軽石(φ1mm)含む
- 6層 黄褐色土(10YR 5/6) ブロックに褐色土混ざる 少量の焼土粒含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ1mm)・黒色土ブロック・黄褐色土粒含む
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒少量含む
- 9層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土ブロック含む [壁面の崩落]
- 10層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土との混ざり [掘り方]

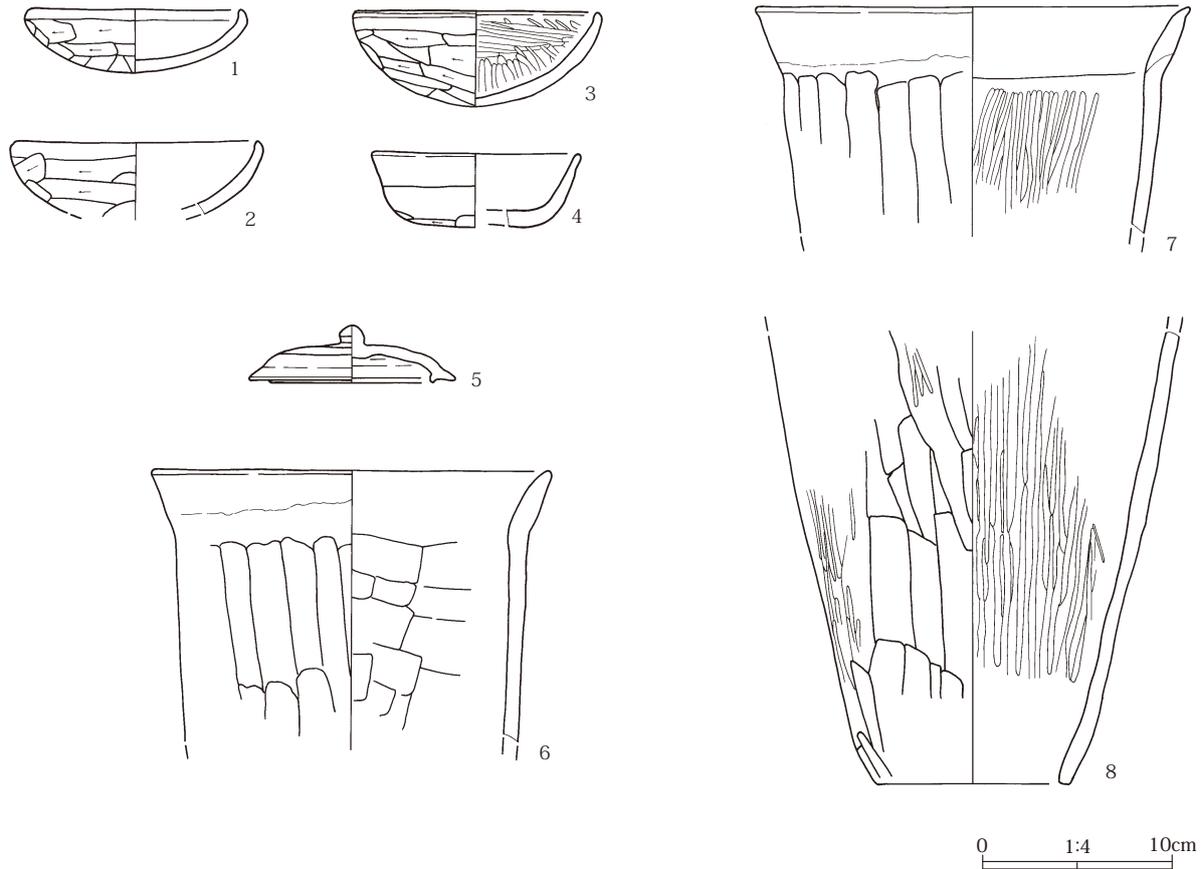


11号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・黒色土ブロック・焼土粒含む
- 3層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物含む
- 4層 焼土・炭化物・灰層
- 5層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘質土 [貼り床]
- 6層 黒褐色土(10YR 2/2) にぶい黄褐色土ブロック含む [掘り方]
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 白色軽石(φ10mm)・黒色土少量混ざる 焼土含む [熱による変質]
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少し熱による変質 焼土内側につく
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒・焼土・炭化物含む [住居埋土]
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 黒色土混ざる [掘り方]

第62図 11号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第63図 11号住居跡出土遺物

1・2区11号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+13cm 口縁部~底部 2/3	口径 10.9 底径 — 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	口縁部内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部~底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 杯	床面+12cm 口縁部~底部 1/2	口径 12.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/3)	口縁部内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部~底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 杯	床面+28cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.7 底径 — 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(2.5YR 4/6)	外面：口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り。 内面：口縁部~底部全面ヘラ磨き。	
4	土師器 杯	床面+31cm 口縁部~底部 破片	口径 10.6 底径 — 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ。	
5	須恵器 杯蓋	埋土中 口縁部~天井部 1/2	口径 10.4 摘径 1.2 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。	
6	土師器 甌	床面+25cm 口縁部~胴部 破片	口径 20.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(2.5YR5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部から胴部に黒斑。 12号住出土と同一個体。
7	土師器 甌	床面+25cm 口縁部~胴部 破片	口径 22.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 黒(N2/0)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。縦方向のヘラ磨き。	口縁部から胴部に黒斑。 12号住居出土した口縁部片と同一個体。
8	土師器 甌	床面+25cm 胴部~底部片 破片	口径 — 底径 10.1 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向のヘラ削り。 部分的にヘラ磨き。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。縦方向のヘラ磨き。	口縁部から胴部に黒斑。 12号住居出土口縁部片と同一個体。

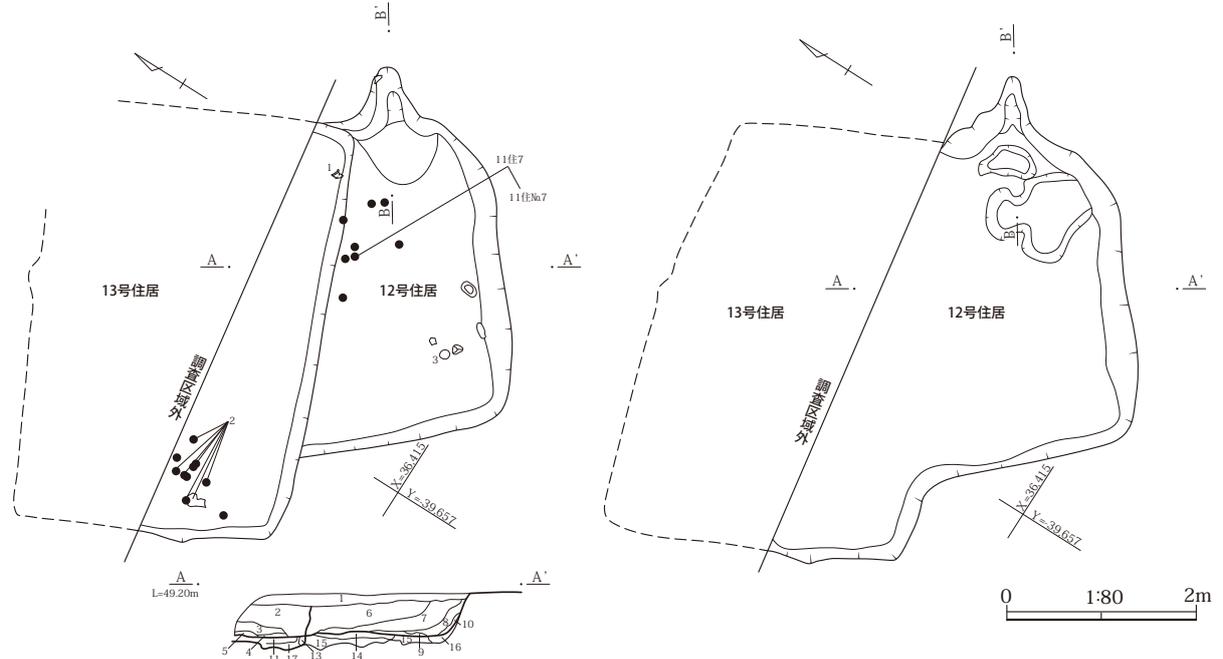
1・2区12号住居跡（旧称1・2区SJ-12）

位置：X=36416 Y=-39655 主軸方向：N-56°-E 規模：3.3m×不明

平面形状：調査区北端部にかかるため、全容は不明。 残存深度：45cm～50cm

埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。 床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり4～5cmほどの厚さに黄褐色粘質土を用いて貼り床を敷設する。 カマド：北東壁の南寄りに位置し、左袖部を残すのみで遺存状況は悪い。煙道部は急峻に立ち上がる。 柱穴・貯蔵穴：調査範囲内においては検出されなかった。 壁周溝：なし。 重複遺構：13号住居跡と重複する。本遺構は13号住居跡によって壊されているため、本遺構の方が古いものと判断される。 掘り方：全面にわたり4～10cmほどの深さを掘り窪める。

出土遺物：埋土中からは完形の須恵器蓋(No. 3) 他、須恵・土師器片が出土している。



12・13号住居 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・焼土粒含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ5mm)含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・黄褐色土ブロック含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・炭化物・黄褐色土粒含む
- 5層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒含む
- 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・黄褐色土粒・焼土粒含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・黄褐色土粒(φ10mm)・焼土粒含む
- 8層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土ブロック含む
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土混ざる
- 10層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色土混ざる [壁面の崩壊]
- 11層 褐色土(10YR 4/4) 黒色土・黄褐色粘質土混ざる 焼土粒・炭化物含む [貼り床]
- 12層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土の混ざり 焼土粒少量含む
- 13層 暗褐色土(10YR 3/3)
- 14層 焼土・褐色土・黄褐色粘質土の層状にならぶ [貼り床]
- 15層 黄褐色土(10YR 5/6) 黒色土・炭化物・焼土の混ざり
- 16層 黒褐色土(10YR 2/3) 焼土粒含む [周溝]

*1～5層13住 6～10層12住

12号住居カマド 埋土

- 1層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石・焼土粒含む
- 2層 黄褐色土(10YR 5/6) 熱による変質している部分あり 焼土粒含み黒色土混じる
- 3層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒(φ20mm)含む 黒色土まざり しまりなし
- 4層 黄褐色土(10YR 5/6) 熱による変質
- 5層 焼土ブロック
- 6層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒・炭化物大量に含む
- 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土ブロック混ざる 焼土粒・炭化物含む
- 8層 濃い黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土混ざる 焼土粒含む
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒(φ50mm)大量に含む [天井の崩落]

第64図 12号・13号住居跡平・断面図、掘り方平面図、12号住居跡カマド平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区13号住居跡 (旧称1・2区SJ-13)

位置：X=36418 Y=-39656 主軸方向：N-68°-E 規模・平面形状：調査区北端部にかかるため、全容は不明。

残存深度：41cm～52cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

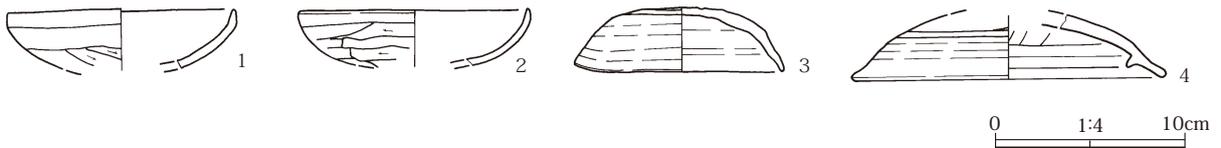
床面：地山ローム土を掘り込んだ後、褐色粘質土を用いて、5cmほどの厚さで貼り床を敷設する。

カマド・柱穴・貯蔵穴：調査範囲内においては検出されていない。 壁周溝：なし。

重複遺構：12号住居跡と重複する。本遺構が12号住居跡を壊しているため、本遺構の方が新しいものと判断される。

掘り方：6cmほどの深さで、全体に掘り窪める。

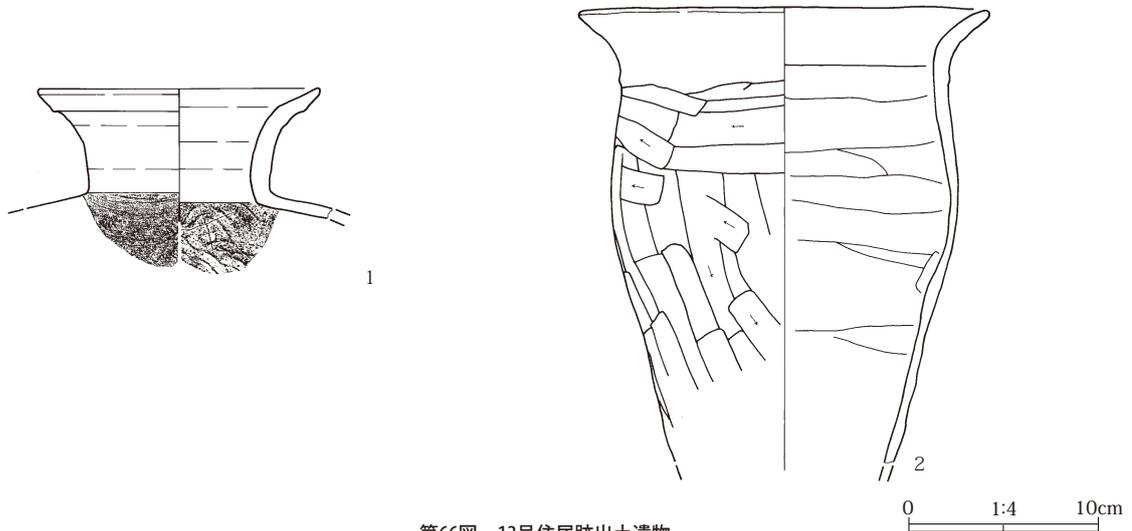
出土遺物：床面直上から土師器甕(No. 2)、埋土中からは須恵器壺(No. 1)の破片が出土した。



第65図 12号住居跡出土遺物

1・2区12号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/3)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器 蓋	床面+15cm 完形	口径 11.0 摘径 — 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転左回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。天井部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯蓋	埋土中 天井部～口縁部 破片	口径 16.2 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半回転ヘラ削り。天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：口縁部回転ナデ。天井部は乱方向のナデ。	



第66図 13号住居跡出土遺物

1・2区13号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 壺	床面+14cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 14.8 胴径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～頸部～胴部回転ナデ。頸部にて胴部と口縁部を貼付。 内面：口縁部横ナデ。頸部横・斜め方向のナデ。胴部アテ具痕。	
2	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上半 1/3	口径 21.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横・中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	

1・2区14号住居跡 (旧称1・2区SJ-14)

位置：X=36403 Y=-39694

主軸方向：N-50° - E 規模：4.5m×4.0m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：42cm～55cm

埋没土：主に白色軽石と黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、粘性のある褐色土を用いて全面にわたり4cmほどの厚さで貼り床を敷設する。カマド：北東壁のほぼ中央に位置する。南半部が重複する3号住居跡によって壊されており、残存度は悪く、袖部は検出できなかった。

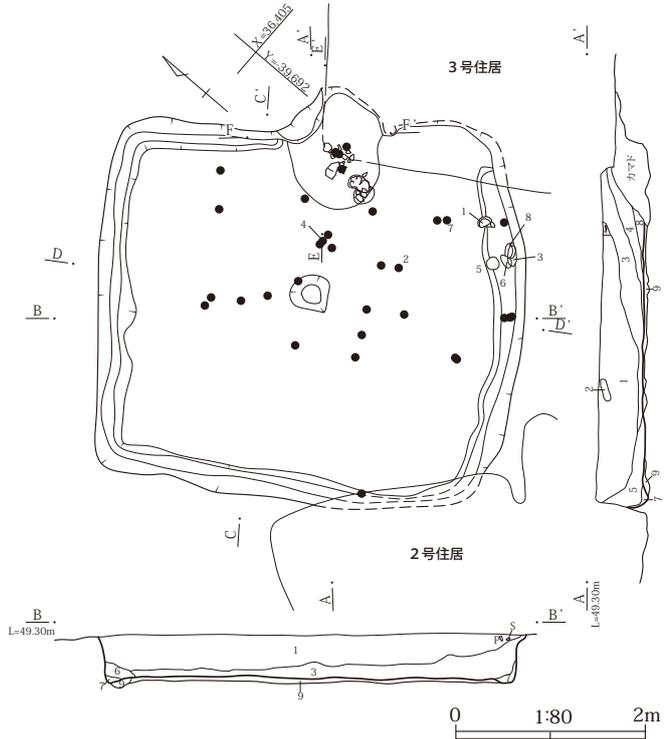
柱穴：掘り方調査の段階で1基検出された。住居のほぼ中央に位置し、径44cm深38cmを測る。

貯蔵穴：なし。壁周溝：一部を除いて幅11～40cm、深さ5～6cmを測り、全周する。

重複遺構：2号住居跡および3号住居跡と重複し、本遺構はこの2軒の住居によって壁が壊されているため、本遺構の方が古いものと判断される。

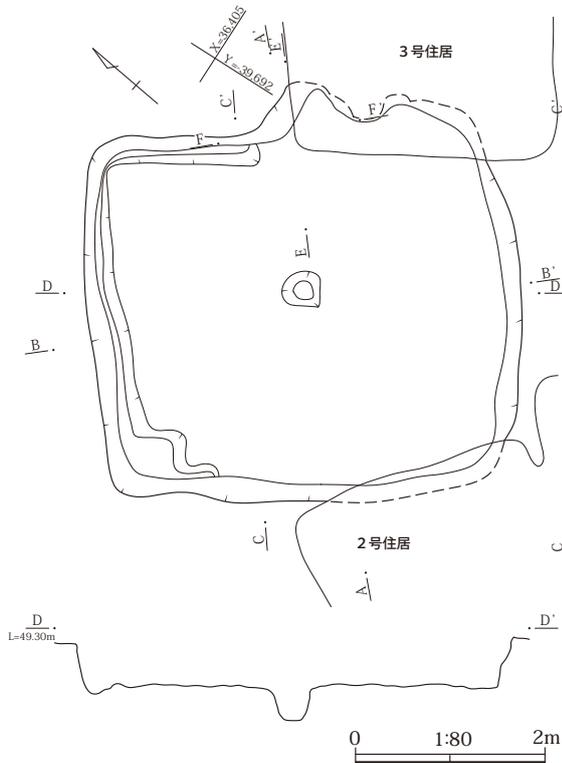
掘り方：全面にわたり4cmほどの深さで掘り窪める。

出土遺物：住居壁際の中からほぼ完形の土師器杯(No. 1)、須恵器碗(No. 7)が出土。周溝埋土中からは墨書須恵器杯(No. 5)が出土する



14号住居 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒・炭化物含む
- 2層 褐色土(10YR 4/6) 褐色粘質土ブロック・焼土粒含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土粒(φ20～50mm)・焼土粒(φ10mm)含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土粒(φ10mm)含む(3層より量少なくなる) 焼土粒増える
- 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・黒色土ブロック含む
- 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)含む 粘質
- 7層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土との混ざり [周溝埋土]
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土の熱変質と褐色土の混ざり 焼土粒多量含む [カマド構築材]
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土 [貼り床]

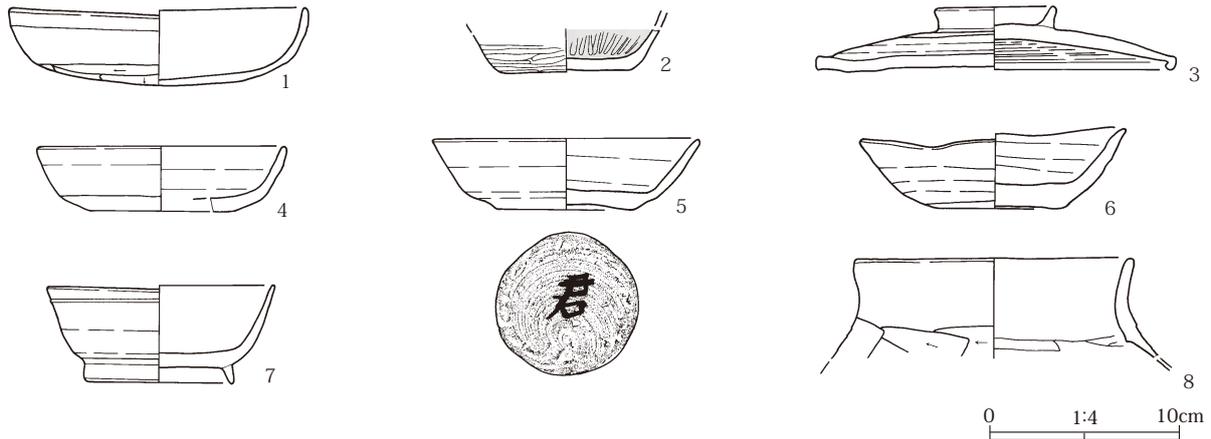


14号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石φ10mm少量・φ1mm黄褐色土粒・焼土粒(φ10mm)含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層より黄褐色土粒(φ20mm)多く褐色粘質土もまじる
- 3層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・褐色粘質土・黒色土ブロック・焼土粒含む
- 5層 焼土
- 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土多量に混ざる [3住掘り方埋土]
- 7層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 黄褐色土粒・白色軽石(φ10mm)含む
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 黄褐色土ブロック(φ30mm)含む
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 熱による変質 [袖部]
- 10層 黒褐色土(10YR 2/3) にぶい黄褐色土の混ざり
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 黒褐色土粒・焼土含む
- 12層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒・焼土粒含む [3住埋土]
- 13層 褐色土(10YR 4/3) 粘質土 焼土粒含む

第67図 14号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第68図 14号住居跡出土遺物

1・2区14号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+10cm ほぼ完形 一部欠損	口径 15.4 底径 — 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	黒色土器 杯	床面+17cm 体部-底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内外面 ③ 黒(2.5Y 2/1)	ロクロ整形。内・外面燻し。 外面：体部、底部ヘラ磨き。 内面：体部～底部回転ナデ調整。ヘラ磨き。	
3	須恵器 杯蓋	周溝埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 18.5 摘径 6.0 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 7.3 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	周溝埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.8 底径 7.3 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	底部外面に「君」の墨書。胴部と底部内面に掻き傷。
6	須恵器 杯	周溝埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.9 底径 6.3 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	歪みがある。
7	須恵器 碗	埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 11.9 底径 7.6 器高 5.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	土師器 甕	周溝埋土中口縁部～ 胴部上端 口縁部のみ完形	口径 14.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区15号住居跡 (旧称1・2区SJ-15)

位置：X=36408 Y=-39688 主軸方向：N-48°-E 規模：4.5m×3.7m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：38cm～54cm 埋没土：主に白色軽石・黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、粘性のある褐色土を用いて全面にわたり2～4cmほどの厚さで貼り床を敷設している。カマド：北東壁のほぼ中央に位置する。両袖とも残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は69cm、長さは178cmほどを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。袖は芯材を用いずに褐色土のみで構築されている。また、燃焼部中央の左寄りには支脚石を設置。

柱穴：床面上において3基を検出する。径22～48cm、深さ17～21cmを測る。P1とP2は南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うものと考えられる。貯蔵穴：なし。壁周溝：一部を除いて幅20～50cm、深さ4～8cmを測る溝が全周する。重複遺構：5号住居跡および16号住居跡と重複し、埋土の様相などから、本遺構は5号住居跡より古く、16号住居跡よりも新しいものと判断される。掘り方：全面にわたり2～4cmほどの深さで掘り窪める。出土遺物：床面直上で須恵器杯(No. 4・5)の他、埋土中からは須恵器杯(No. 3)・黒色土器杯(No. 2)などが出土している

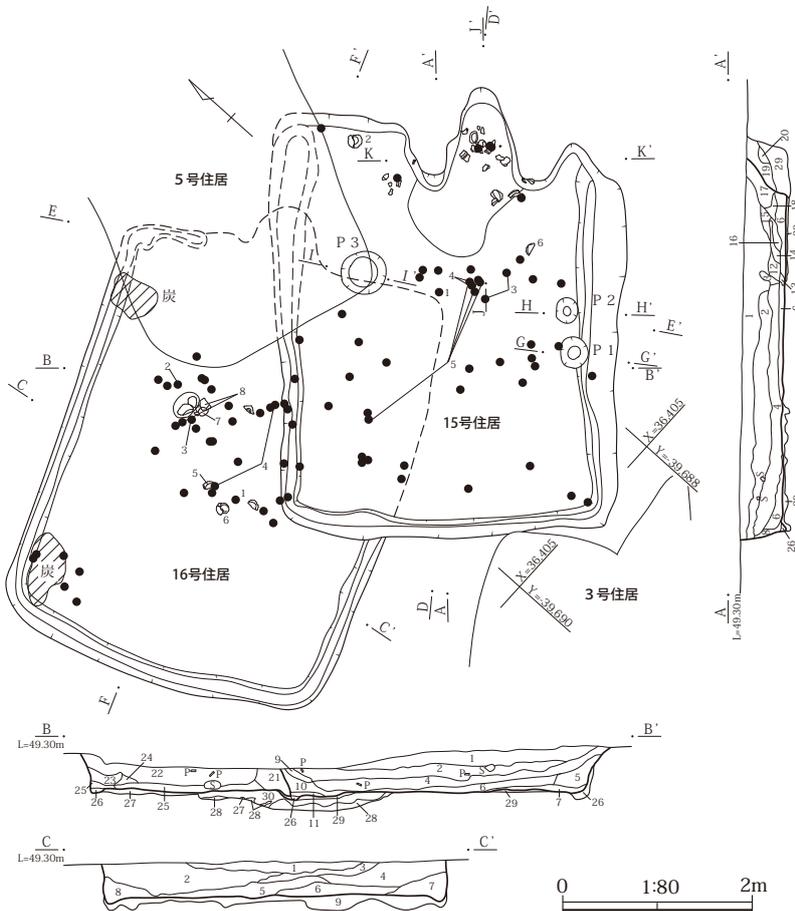
1・2区16号住居跡 (旧称1・2区SJ-16)

位置：X=36408 Y=-39691 主軸方向：N-67°-E 規模：4.6m×3.6m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：31cm～42cm 埋没土：黄褐色土粒を含む黒褐色土～黄褐色土粒を含む暗褐色粘質土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、粘性のあるにぶい黄褐色土を用いて全面にわたり2～8cmほどの貼り床を敷設している。カマド：重複する15号住居跡によって壊されており、検出できなかった。

柱穴：掘り方調査の段階で3基を検出した。径22～25cm、深さ9～11cmを測る。

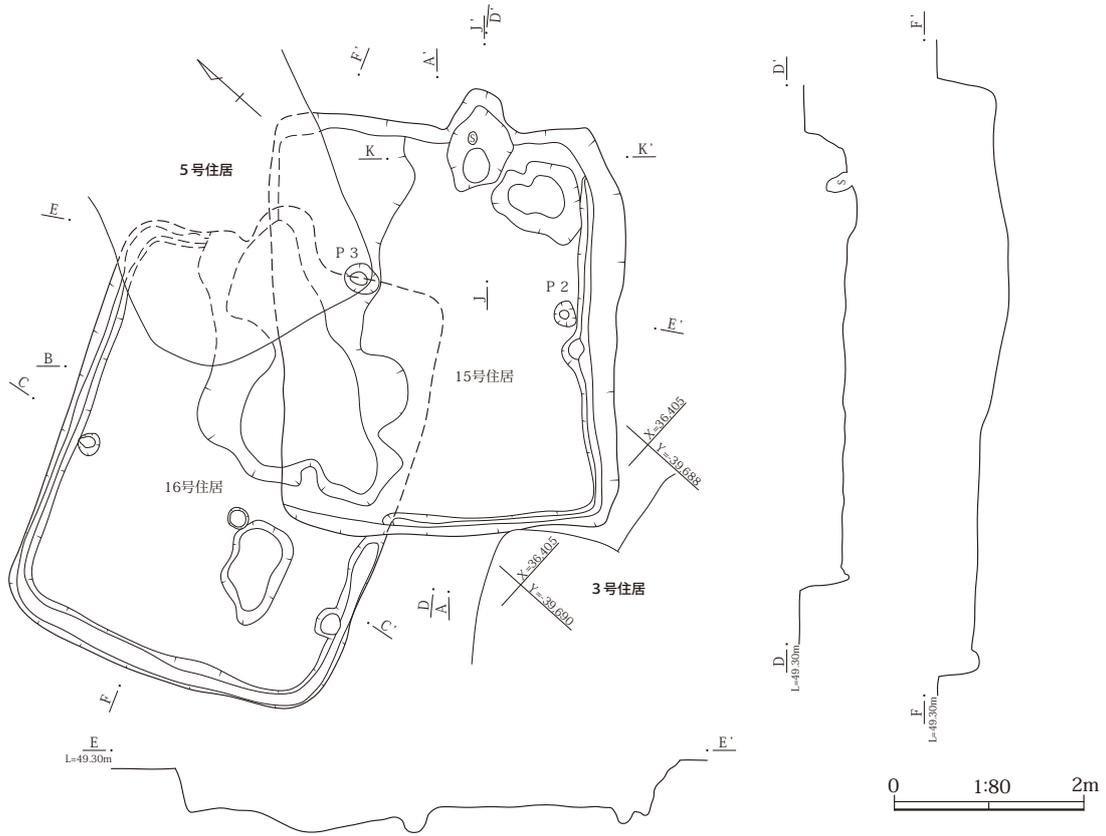
貯蔵穴：検出されていない。重複により壊された可能性もあるが、重複住居跡と本遺構の床面とに比高差は少なく、失われたというよりは存在しなかったものと考えられる。壁周溝：幅17～27cm、深さ4～5cmを測る溝が、ほぼ全周する。重複遺構：5号住居跡および15号住居跡と重複する。埋土の様相などから、本遺構は両住居跡によって壊されており、本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：全面にわたり2～8cmほどの深さで掘り窪め、中央部を方形にやや深く掘り窪める。出土遺物：埋土中から土師器杯(No. 1)、須恵器杯(No. 7・8)・蓋(No. 4)、黒色土器碗片などが出土している。



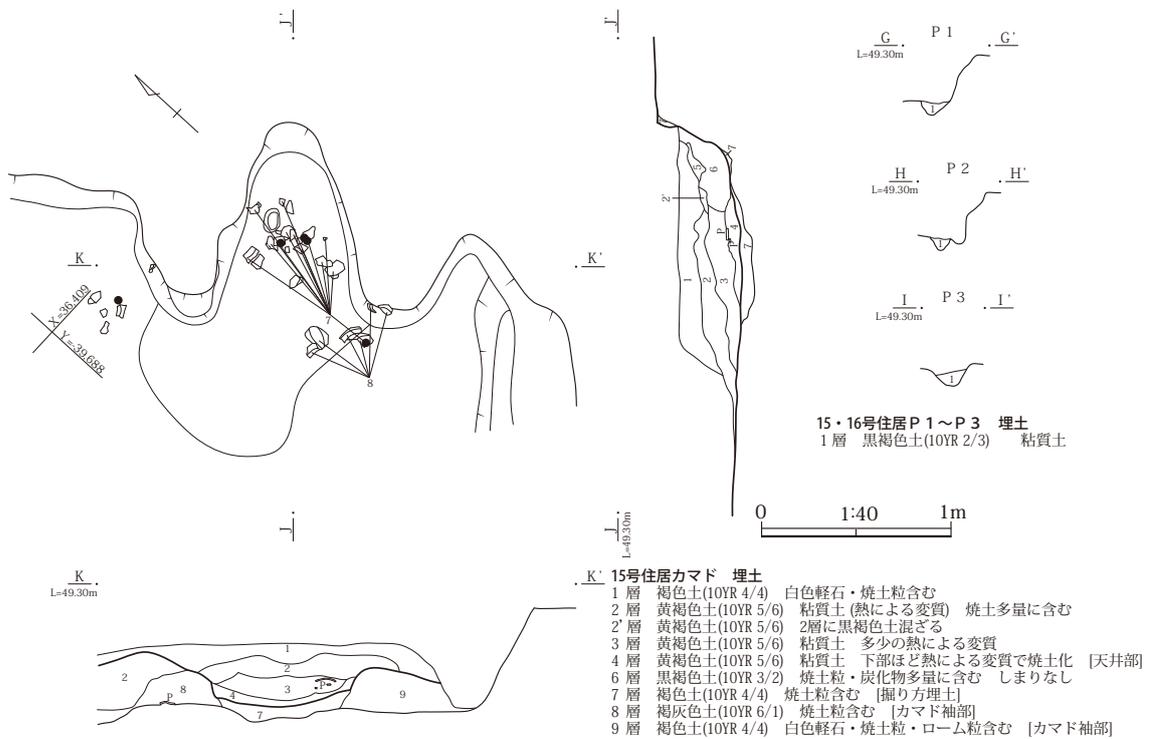
15・16号住居 埋土

- | | |
|--|---|
| 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)と(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む | 17層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土・白色軽石(φ1mm)混ざる 焼土粒含む |
| 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 1層 黄褐色土粒大きくなる(～φ20mm) | 18層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土 熱による変質 焼土粒含む |
| 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘質土・焼土粒(～φ10mm)含む | 19層 褐色土(10YR 4/6) 焼土粒多量に含む |
| 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)と(φ1mm)・黄褐色土粒含む 焼土粒少量含む | 20層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 熱による変質 |
| 5層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・炭化物含む | 21層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土ブロック(～φ20mm)含む 焼土粒・炭化物少量含む |
| 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘質土混ざる 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む | 22層 黒褐色土(10YR 2/2) 黄褐色土粒(～φ10mm)含む 焼土粒・炭化物多量含む |
| 7層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘質土・黄褐色土混ざる | 23層 黒褐色土(10YR 2/2) 褐色土(10YR 6/1)・白色軽石(φ10mm)混ざる |
| 8層 褐色土(10YR 4/6) 黒褐色土混ざる [壁面の崩落] | 24層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒少量含む |
| 9層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土混ざる 焼土粒含む | 25層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘質土・黄褐色土粒(～φ30mm)含む |
| 10層 黒褐色土(10YR 3/2) 黄褐色土粒混ざる 白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む | 26層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒含む [周溝] |
| 11層 黒褐色土(10YR 3/2) 黄褐色土混ざる(～φ30mm) | 27層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土 黒色土との混ざり [貼り床] |
| 12層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土ブロック・礫混ざる 焼土粒含む | 28層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 黒色土との混ざり [掘り方埋土] |
| 13層 黄褐色土(10YR 5/6) ブロック・熱による変質 | 29層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土 黄褐色土との混ざり [貼り床] |
| 14層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐色土混ざる 焼土粒(～φ20mm)多量に含む | 30層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土多量に混ざる [掘り方埋土] |
| 15層 褐色土(10YR 4/6) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む | |
| 16層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒色土(白色軽石(φ1mm)含む)混ざる 焼土粒含む | |

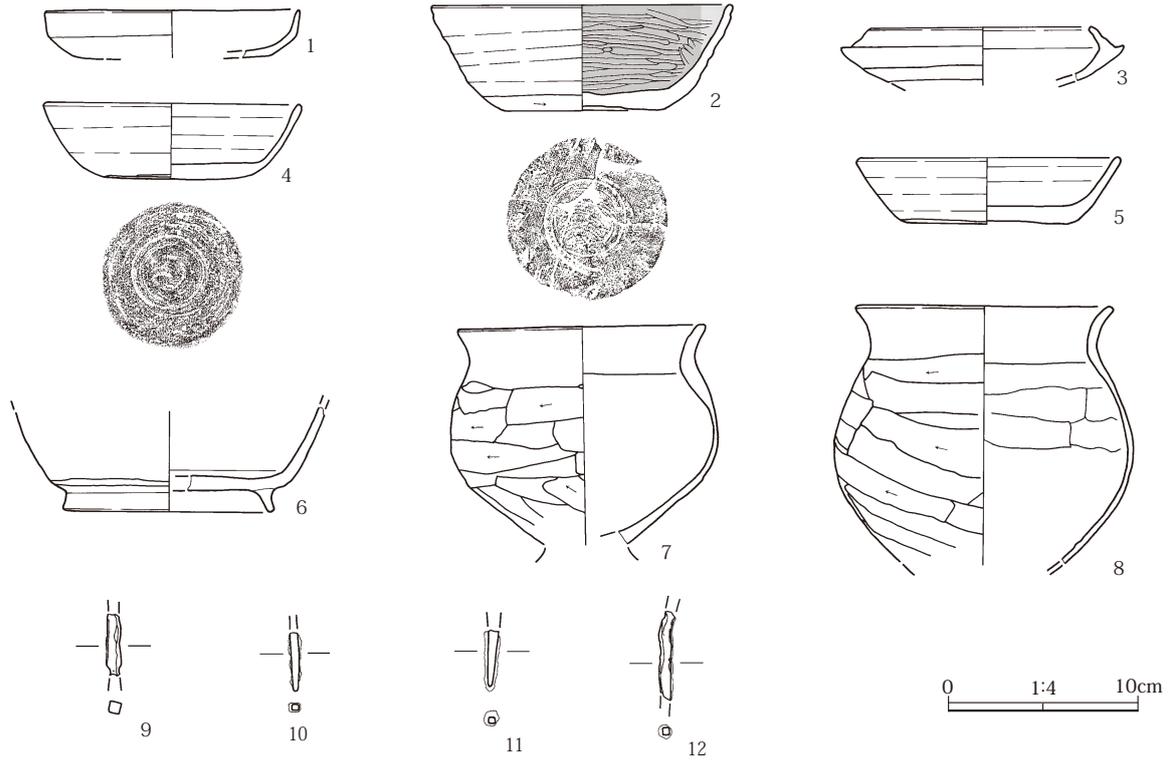
第69図 15・16号住居跡掘り方平・断面図



第70図 15・16号住居跡平・断面図



第71図 15号住居跡カマド平・断面図

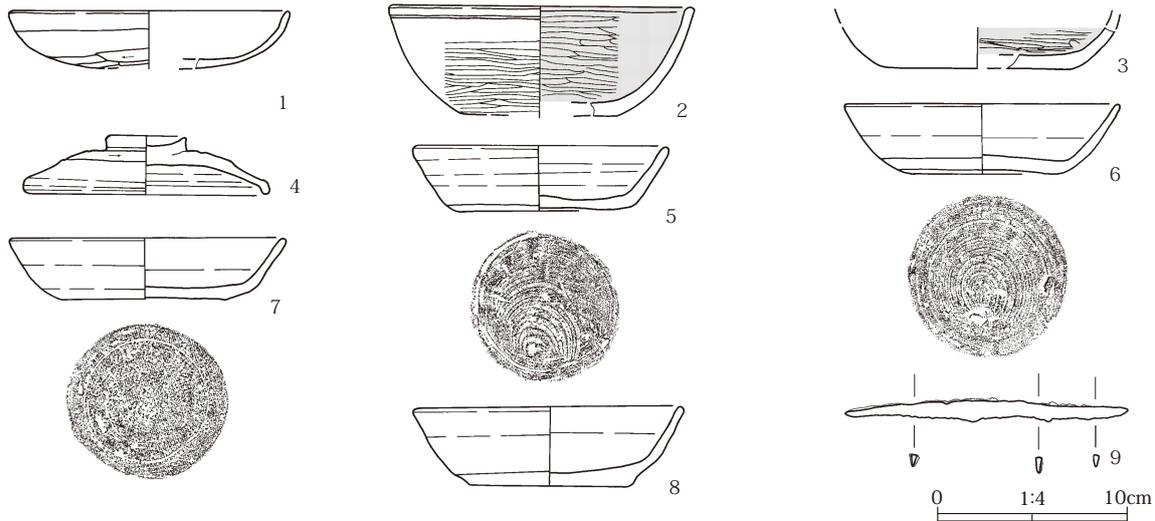


第72図 15号住居跡出土遺物

1・2区15号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法	備考
				①胎土	②焼成	③色調		
1	土師器 杯	床面+37cm 口縁部~底部 破片	口径 13.3 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ 橙(2.5YR6/6)	外面：口縁部上半横ナデ、下半ナデ、体部横方向ヘラ削り。 底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部~底部ナデ。	
2	黒色土器 杯	床面+3cm 口縁部~底部 1/2	口径 15.5 底径 8.7 器高 5.5	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 やや不良 内面黒色処理	③ 黒褐(2.5Y3/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。体部最下位に1段の回転ヘラ削り。底部回転糸切り後ほぼ全面を回転ヘラ削り。 内面：口縁部~胴部ナデ後横方向のヘラ磨き。	
3	須恵器 杯身	床面+19cm 口縁部~天井部端 破片	口径 11.5 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 還元焰 良好	③ オリーブ灰(5Y6/2)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 13.2 底径 7.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒	② 還元焰 良好	③ 灰黄褐(10YR6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	重ね焼きの痕跡
5	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 一部欠損	口径 13.6 底径 8.8 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰(7.5Y5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 椀	床面+4cm 体部~底部 破片	口径 — 底径 12.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	内面底部に火罨が認められる。
7	土師器 台付甕	竈埋土中 口縁部~胴部下端 底部欠損	口径 12.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
8	土師器 甕	竈埋土中 口縁部~胴部下端 胴部~底部欠損	口径 13.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 酸化焰 良好	③ 橙(2.5YR6/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
9	鉄器	鎌	頸部小片	3.3	0.9	6.5	3.0	
10	鉄器	釘	先端部片	3.1	0.6	0.5	1.0	断面長方形から鎌の茎部かも。
11	鉄器	釘	先端部片	3.2	0.8	0.8	2.0	鉄分残存不良。
12	鉄器	鎌	頸部小片	4.7	0.7	0.7	3.0	鉄分残り不良。

第3章 検出遺構と出土遺物



第73図 16号住居跡出土遺物

1・2区16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考		
1	土師器 杯	床面+24cm 口縁部~底部 破片	口径 14.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶ黄橙(10YR 6/3)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。			
2	黒色土器 椀	床面+24cm 口縁部~底部 破片	口径 15.6 底径 8.0 器高 5.8	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。口~底部までヘラ磨き。 内面：口縁部~体部ナデ後横方向のヘラ磨き。底部ナデ後 ヘラ磨き。	No.3と同一個体 か。		
3	黒色土器 椀	床面+21cm 体部下半~底部 破片	口径 — 底径 10.0 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	ロクロ成・整形。 外面：体部回転ナデ。体部~底部ヘラ磨き単位不鮮明。 内面：体部ナデ後横方向のヘラ磨き。底部ナデ後ヘラ磨き。	No.2と同一個体 か。		
4	須恵器 杯蓋	床面+7cm 摘み部~口縁部 1/2	口径 12.6 摘径 4.0 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部上半回転ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。			
5	須恵器 杯	床面+32cm 口縁部~底部 一部欠損	口径 13.2 底径 7.8 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘ ラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。			
6	須恵器 杯	床面+22cm 口縁部~底部 一部欠損	口径 13.8 底径 8.2 器高 4.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(2.5Y 8/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。		
7	須恵器 杯	床面+21cm 口縁部~底部 1/2	口径 14.1 底径 7.1 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後周辺部と 体部下半を回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。			
8	須恵器 杯	床面+24cm 口縁部~底部 2/3	口径 14.2 底径 8.5 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰褐(7.5YR 5/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。			
番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	摘要
9	鉄器	刀子	完形	14.9	1.2	0.5	10.0	刃部の使用激しい。

1・2区17号住居跡 (旧称1・2区SJ-17)

位置：X=36385 Y=-39656 主軸方向：N-86° - E 規模：4.6m×4.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：44cm~55cm 埋没土：主に白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

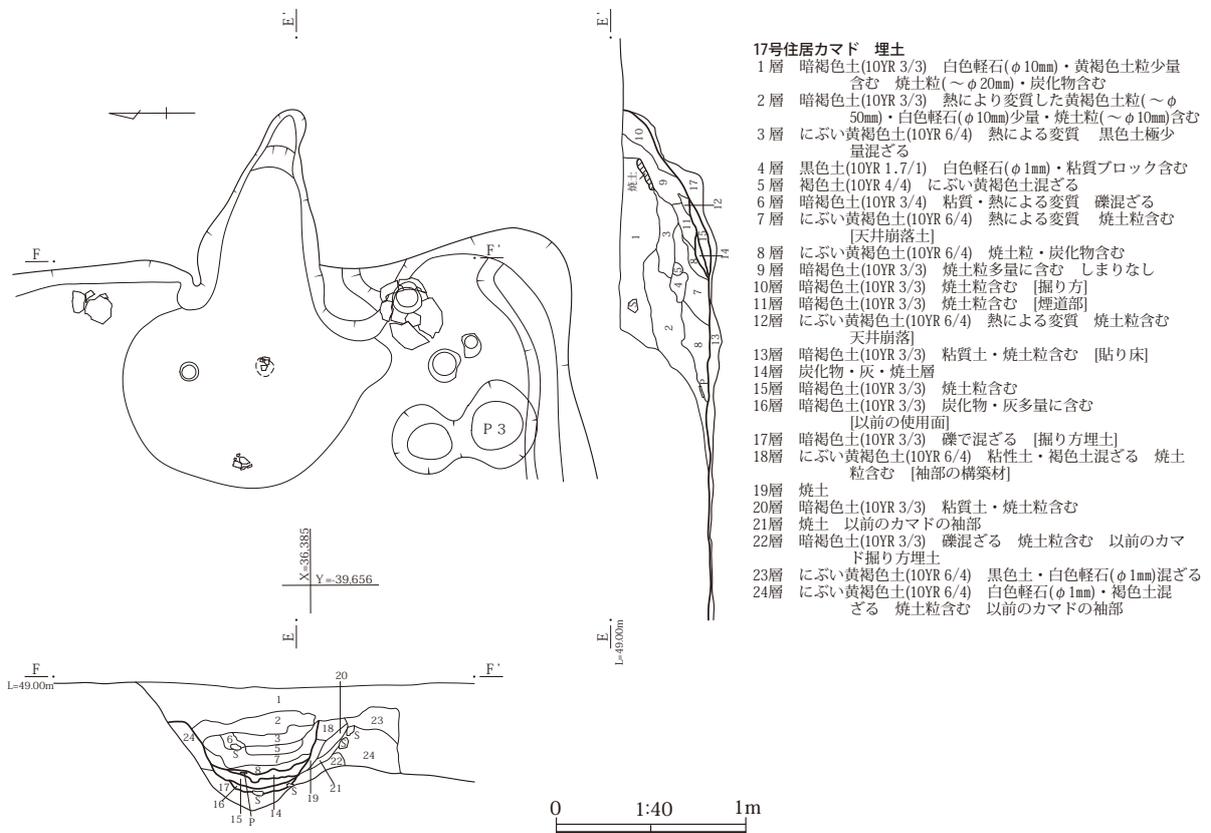
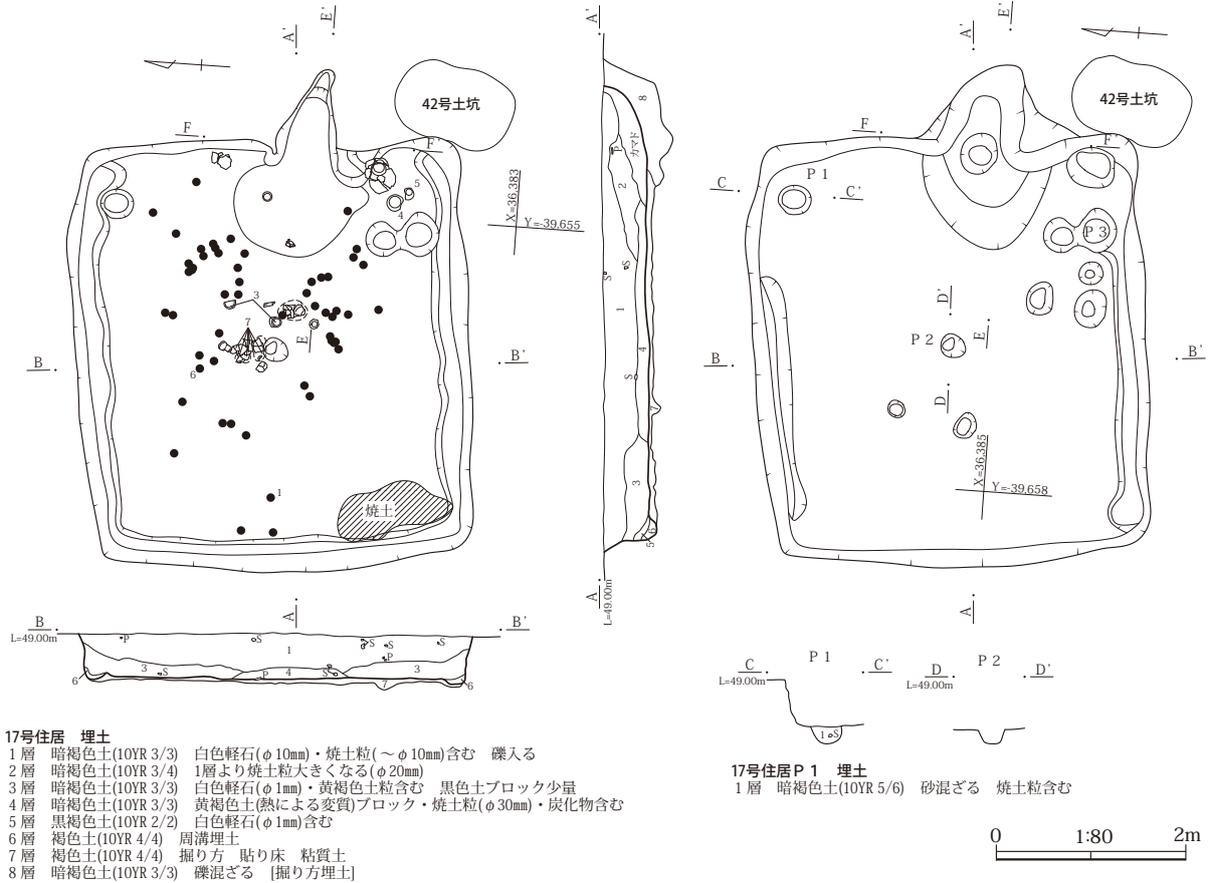
床面：地山ローム土を掘り込んだ後、褐色粘質土を用いて全面にわたり2~6cmほどの貼り床を敷設している。

カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。右袖が残存し、焚き口幅54cm、長さ193cmほどを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。袖は芯材を用いずに褐色粘質土のみで構築されている。 柱穴：掘り方調査の段階で径25~46cm、深さ13~22cmを測る穴を3基検出した。その他にも窪みはあるものの、形状と深さから柱穴として認められなかった。

貯蔵穴：なし。 壁周溝：東壁を除いて幅22~40cm、深さ3~11cmを測る溝が巡る。

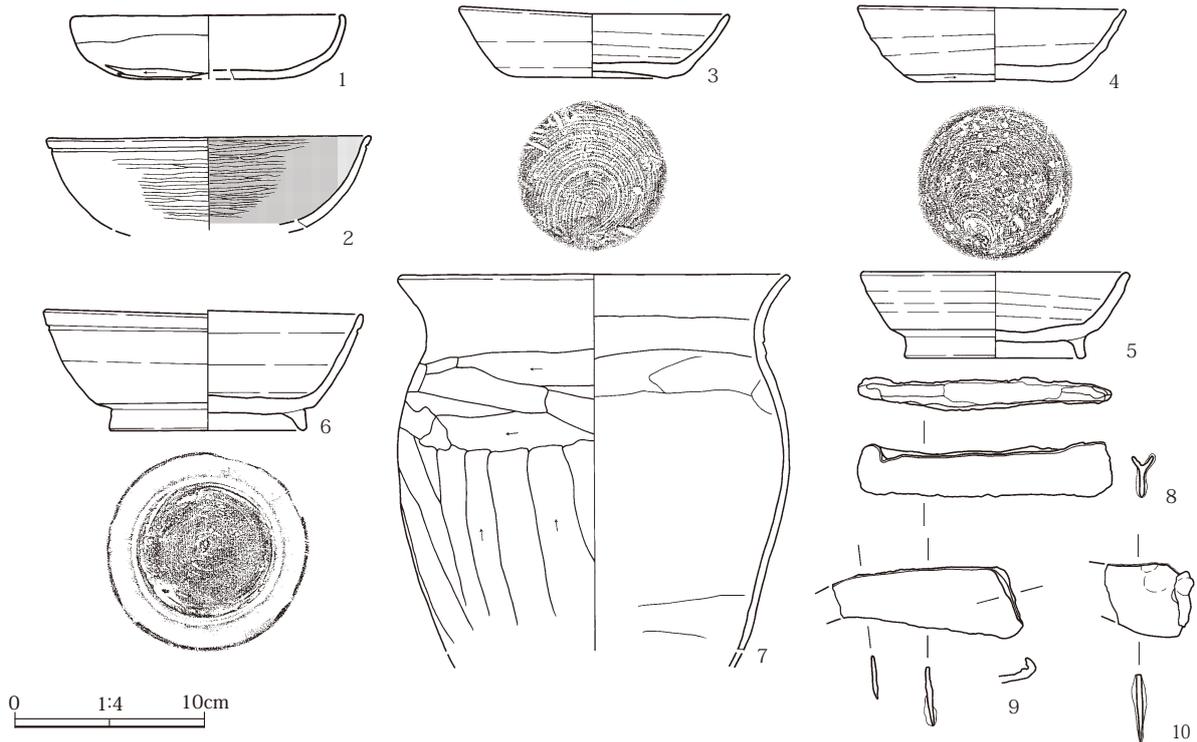
重複遺構：なし。掘り方：全面にわたり2~6cmほどの深さを掘り窪め、一部に地山礫層が露出する。

出土遺物：床面直上からはほぼ完形の須恵器杯(No. 4) 椀(No. 5)が出土。また、埋土中からはほぼ完形の須恵器椀(No. 6)と土師器杯(No. 1)と黒色土器椀片が出土している。



第74図 17号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第75図 17号住居跡出土遺物

1・2区17号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+28cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部は手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部~底部ナデ後、横ナデ。	
2	黒色土器 椀	埋土中 体部~体部 破片	口径 16.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部上半回転ナデ。体部下半横方向へラ磨き。 内面：口縁部~体部ナデ後横方向のへラ磨き。	
3	須恵器 杯	床面+3cm 口縁部~底部	口径 13.9 底径 8.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.8 底径 8.2 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後周辺部と 体部最下位は回転へラ削り。 内面：口縁部~体部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面直上 口縁部~底部 口縁部一部欠損	口径 13.8 底径 10.9 器高 4.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へラ削り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部外面中央に へラ記号「×」
6	須恵器 椀	床面+6cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 16.5 底径 12.0 器高 6.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へラ削り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
7	土師器 甕	床面直上 口縁部~胴部上半 胴部下半~底部欠損	口径 20.1 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のへラ削り、胴部中 位縦方向のへラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部~底部へラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
8	鉄器	鍬先	ほぼ完形か	13.3	2.8	1.6	49.0	錆化の進みが激しい。
9	鉄器	鎌	基部と刃部の一部	10.0	3.3	0.7	23.0	基部は錆化が進んでいる。
10	鉄器	鎌	基部片	4.7	3.7	0.7	11.0	裏面錆化が激しい。

1・2区18号住居跡 (旧称1・2区SJ-18)

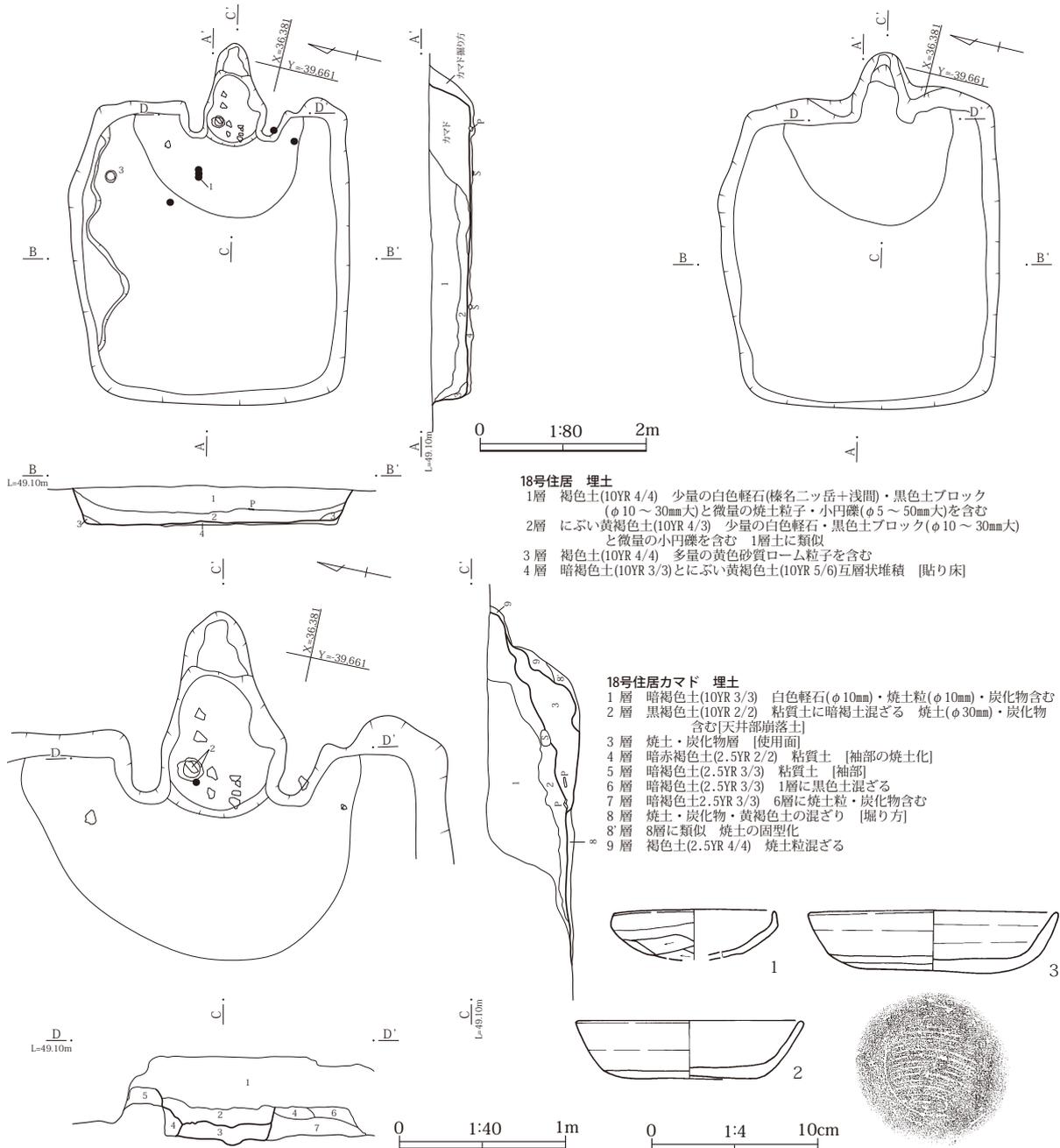
位置：X=36381 Y=-39663 規模：3.6m×3.3m 平面形状：隅丸長方形 残存深度：41cm～45cm

埋没土：少量の白色軽石と焼土粒などを含む褐色～黄褐色土により埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：地山ローム土を掘り込んだ後、にぶい黄褐色土を用いて全面にわたり2～6cmほどの貼り床を敷設している。

カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。両袖ともに残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は60cm、長さは120cmほどを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。燃焼部には焼土と炭化物が厚く堆積しており、その直上の天井部材が崩落した様子が伺える。袖は芯材を用いず褐色粘質土のみで構築されており、焚き口付近は被熱で焼土化が著しい。

柱穴：なし。 貯蔵穴：なし。 壁周溝：なし。 重複遺構：なし。 掘り方：全面にわたり2～6cmほどの深さを掘り窪め、一部に地山礫層が露出する。 出土遺物：全体的に出土量は少ないが、埋土中からほぼ完形の須恵器杯 (No. 3) や土師器杯 (No. 1) 1片が出土している。



第76図 18号住居跡平・断面図

第77図 18号住居跡出土遺物

1・2区18号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+40cm 口縁部～体部 破片	口径 9.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、体部手持ちへラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ。	
2	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 一部欠損	口径 13.3 底径 7.6 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	ロクロ整形。右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転へラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
3	須恵器 杯	床面+14cm ほぼ完形	口径 14.8 底径 8.8 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部静止か糸切り後、回転へラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区19号住居跡 (旧称1・2区SJ-19)

位置: X=36375 Y=-39663 主軸方向: N-57°-E

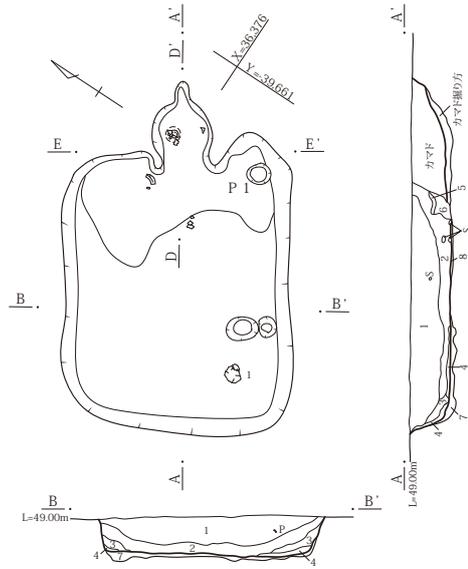
規模: 2.9m×2.4m 平面形状: 隅丸長方形

残存深度: 34cm~43cm 埋没土: 白色軽石・黒褐色ブロック・焼土粒などを含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面: 地山ローム土を掘り込んだ後、にぶい黄褐色土を用いて全面にわたり2~6cmほどの貼り床を敷設している。

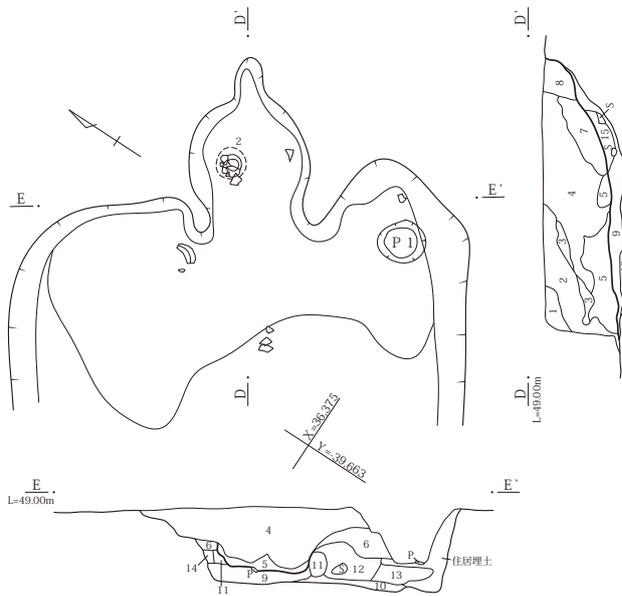
カマド: 北東壁の中央に位置する。両袖とも残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は40cm、長さは150cmほどを測り、煙道は緩やかに立ち上がる。燃烧部は焼土と炭化物が厚く堆積しており、その直上の天井部材が崩落した様子が伺える。袖は芯材を用いず粘質褐色土で構築されており、焚き口付近は被熱で焼土化が著しい。土師器台付甕の台部片が出土している。柱穴: 掘り方調査の段階で径23~25cm、深さは14cmを測るピットを1基検出した。貯蔵穴: なし。壁周溝: なし。

重複遺構: なし。掘り方: 全面にわたり2~6cmほどの深さを掘り窪め、一部に地山礫層が露出する。出土遺物: カマドの焚き口付近で土師器甕の破片が多く出土した。埋土中からは土師器杯(No. 1)・台付甕(No. 2)の破片が出土している。



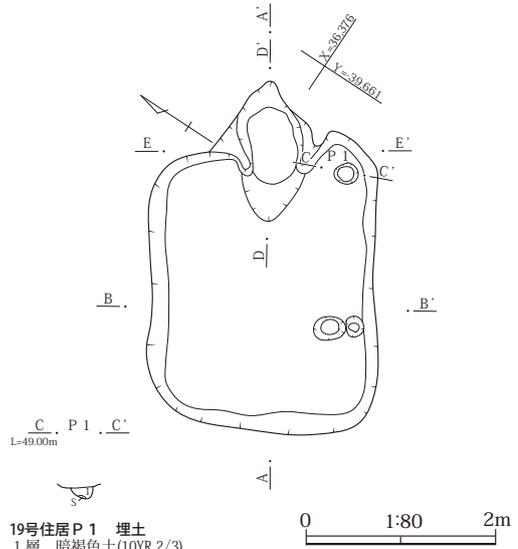
19号住居 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒・炭化物含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒褐ブロック・焼土粒・炭化物含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒褐色土ブロック・黄褐色土粒含む
- 4層 褐色土(10YR 4/4) 壁面の崩落土
- 5層 焼土ブロック 炭化物・褐色土混ざる [カマド上部の崩落]
- 6層 褐色土(10YR 4/4) 焼土・炭化物多量に含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐色土混ざる [掘り方埋土]
- 8層 焼土・炭化物



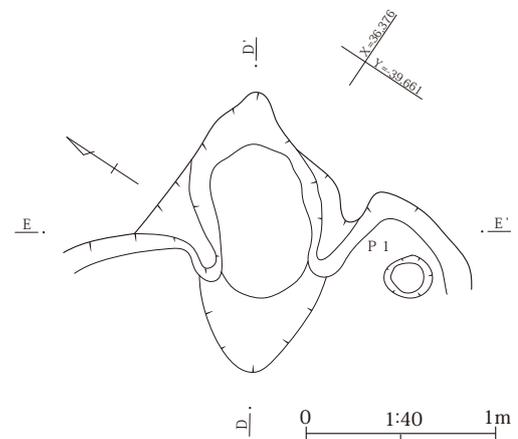
19号住居カマド 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)・焼土粒(φ10mm)含む
- 2層 暗褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)・やや大きい焼土粒を含む
- 3層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土含む [天井の崩落]
- 4層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)極少量・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
- 5層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土 焼土粒(φ10mm)・炭化物含む [袖部の崩壊土]
- 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 褐色粘質土ブロック含む
- 7層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・暗褐色土混ざる 焼土多量に含む [カマド天井部の崩落]
- 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土(φ10mm)含む
- 9層 炭化物・焼土粒層
- 10層 褐色土(10YR 4/4) 住居掘り方埋土
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 熱による変質 [袖] 焼土中側付着
- 12層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒少量含む
- 13層 炭化物・焼土粒
- 14層 黒褐色土(10YR 2/3) にぶい黄褐色土混ざる 焼土含む
- 15層 焼土

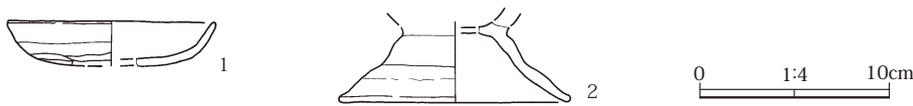


19号住居 P1 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 2/3)



第78図 19号住居跡平・断面図



第79図 19号住居跡出土遺物

1・2区19号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 10.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化燻 良好 ③ にぶい橙(7.5YR7/4)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部～底部ナデ。	
2	土師器 台付甕	竈埋土中 上部 一部欠損	口径 — 底径 5.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化燻 良好 ③ 灰褐(5YR 5/2)	上部貼付。 外面：台部上半は横ナデ、輪積み痕。台部下半は横ナデ。 内面：台部上半は輪積み痕。台部下半は横ナデ。	

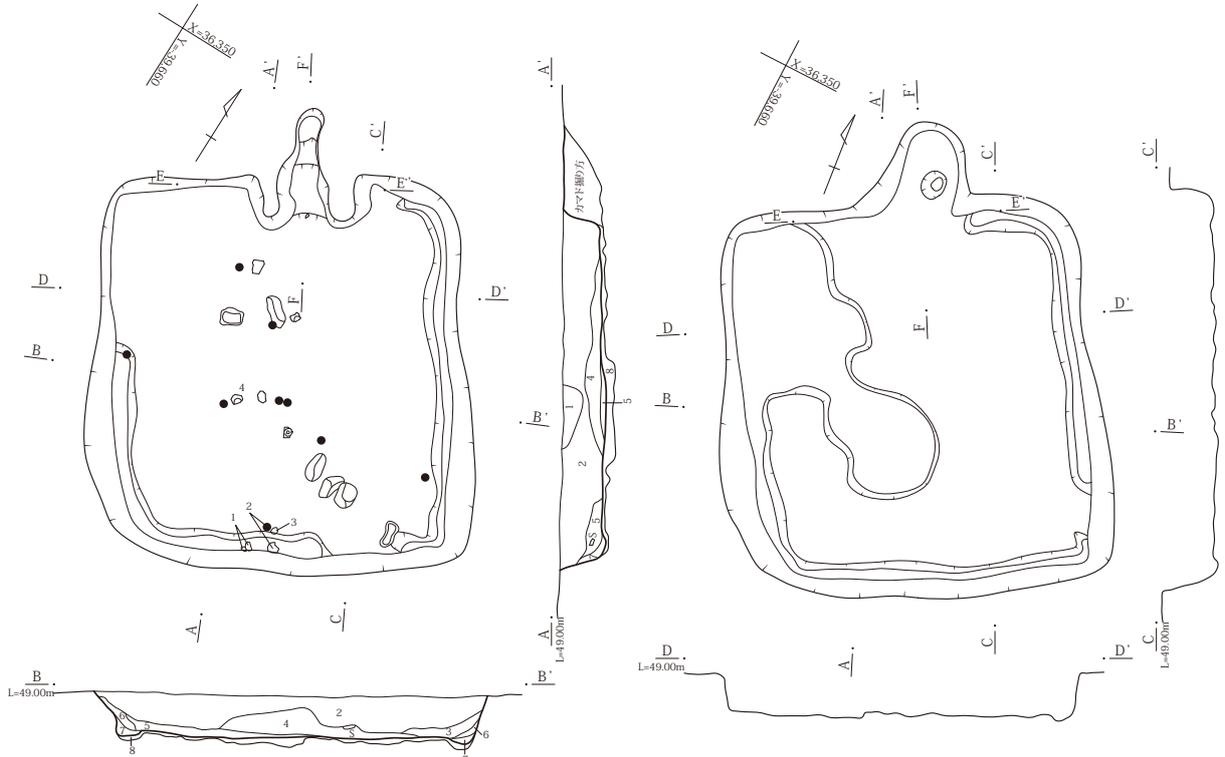
1・2区20号住居跡 (旧称1・2区SJ-20)

位置：X=36347 Y=-39657 主軸方向：N-30° -W 規模：4.2m×3.8m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：34cm～51cm 埋没土：白色軽石・黄褐色土粒・同ブロックなどを含む黒褐色土～暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、暗褐色粘質土を用いて全面にわたり4～6cmほどの貼り床を敷設している。カマド：北西壁の中央に位置する。両袖とも残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は40cmほどを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。燃燒部には焼土や炭化物・灰が堆積する。袖は芯材を用いず、褐色粘質土のみで構築されている。燃燒面からは土師器甕の破片が出土している。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：一部途切れるものの、幅3～5cm、深さ2～8cmを測る溝が廻る。

重複遺構：なし。掘り方：全面にわたり4～6cmほどの深さを掘り窪める。

出土遺物：周溝の底面よりほぼ完形の土師器杯(No. 1)が出土する。

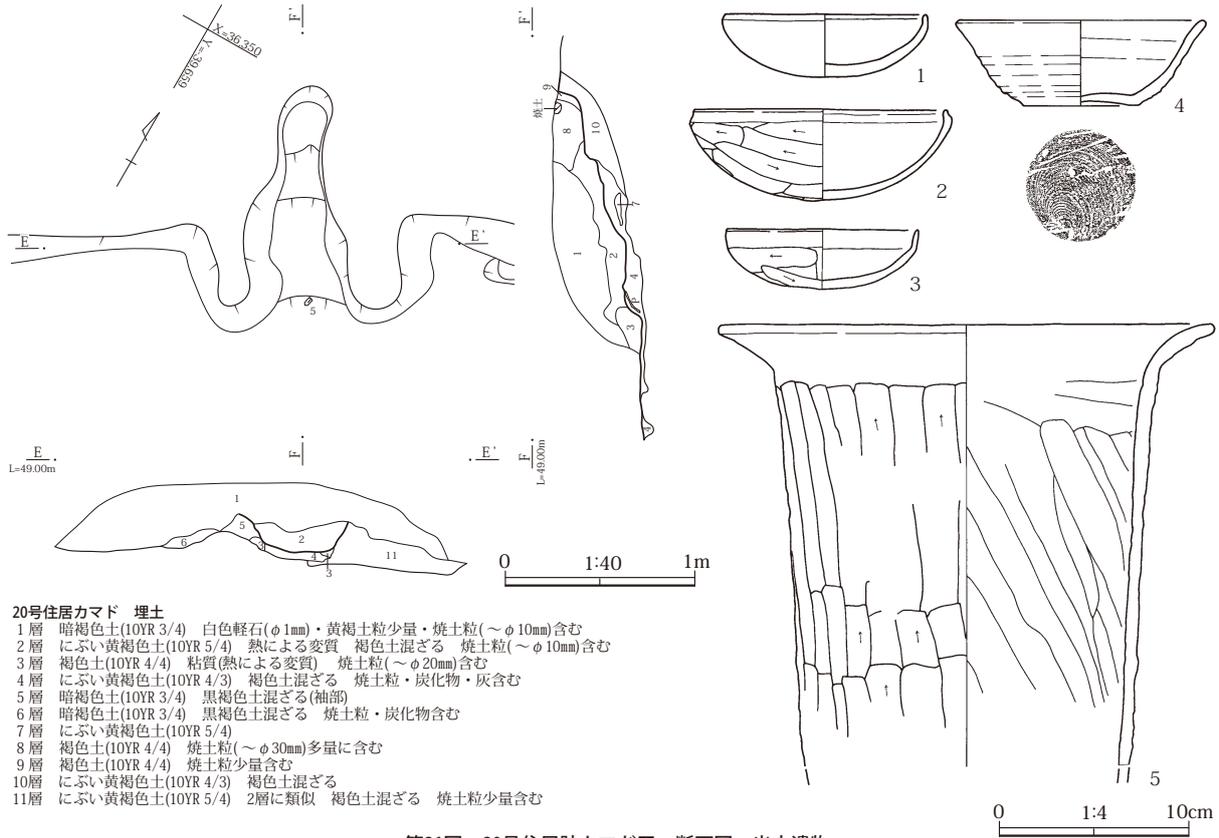


20号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石(φ1mm)・焼土粒・炭化物含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)少量と白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒(～φ20mm)含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土ブロック(～φ100mm)混ざる
- 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土ブロック(～φ30mm)混ざる
- 6層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土混ざる [壁面の崩落]
- 7層 黄褐色土(10YR 5/6) ブロック [壁面の崩落]
- 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性あり しまりあり 多少黄褐色土混ざる [貼り床]

第80図 20号住居跡平・断面図、掘り方平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



20号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒少量・焼土粒(〜φ10mm)含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 熱による変質 褐色土混ざる 焼土粒(〜φ10mm)含む
- 3層 褐色土(10YR 4/4) 粘質(熱による変質) 焼土粒(〜φ20mm)含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土混ざる 焼土粒・炭化物・灰含む
- 5層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒褐色土混ざる(袖部)
- 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 黒褐色土混ざる 焼土粒・炭化物含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4)
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒(〜φ30mm)多量に含む
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒少量含む
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土混ざる
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 2層に類似 褐色土混ざる 焼土粒少量含む

第81図 20号住居跡カマド平・断面図、出土遺物

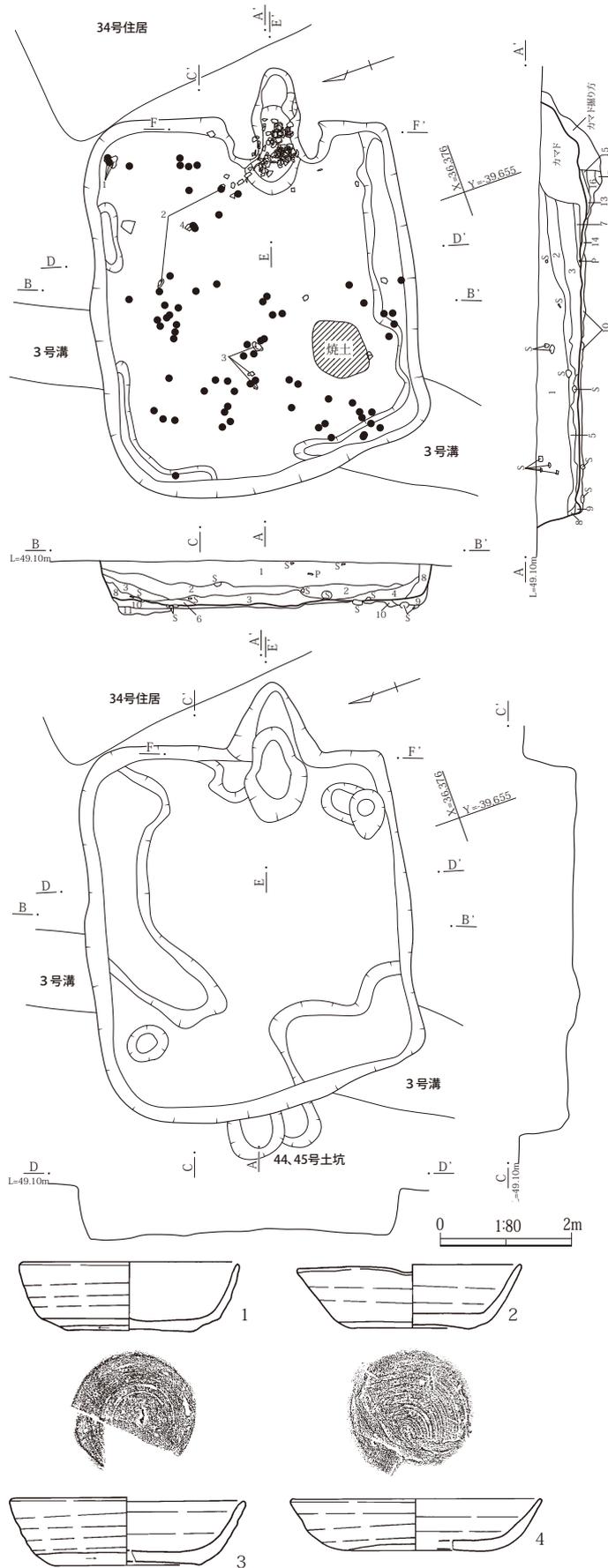
1・2区20号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	周溝底面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 10.4 底径 — 器高 3.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部〜底部ヘラ削り。器面摩耗のため単位不鮮明。口縁部内湾。 内面：口縁部横ナデ。体部〜底部ナデ。	
2	土師器 杯	床面直上 口縁部〜底部 口縁部〜体部一部欠損	口径 13.2 底径 — 器高 4.2	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部〜底部ナデ後、ヘラ削り。 内面：口縁部〜体部横ナデ。底部ナデ。	周溝付近出土。
3	土師器 杯	床面+7cm 口縁部〜底部 1/2	口径 10.0 底径 — 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・中礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部〜底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部〜体部横ナデ。底部ナデ。	
4	須恵器 杯	床面+34cm 口縁部〜底部 1/4	口径 12.6 底径 6.0 器高 4.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 7/2)	ロクろ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部〜体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部〜底部回転ナデ調整。	
5	土師器 長胴甕	竈使用面直上 口縁部〜胴部 破片	口径 25.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口唇部横ナデ。体部、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

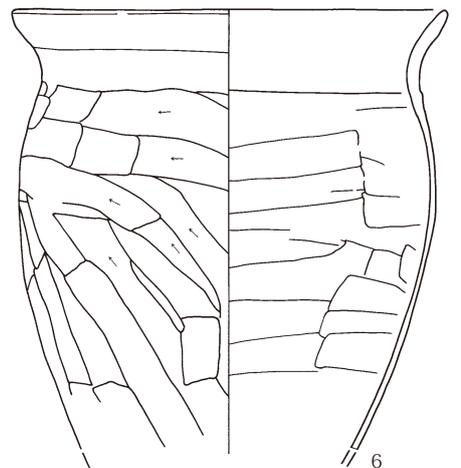
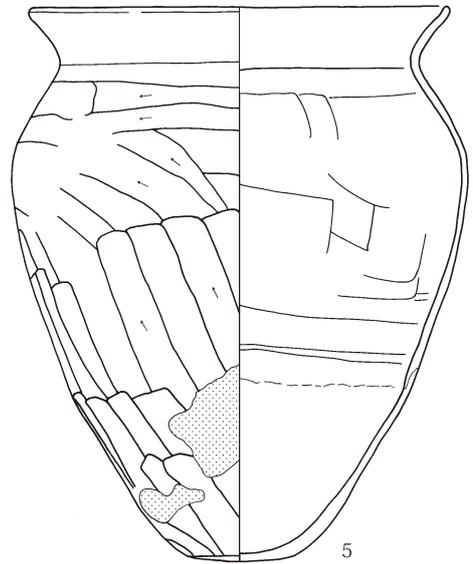
1・2区21号住居跡(旧称1・2区SJ-21)

位置：X=36379 Y=-39655 主軸方向：N-109°-E 規模：4.6m×3.9m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：34cm〜43cm 埋没土：白色軽石・黄褐色土粒などを含む黒褐色〜暗褐色土で埋没し、その堆積は自然堆積の様相を呈する。また、埋没の途上において人為的に礫が投げ込まれている。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり褐色土を用いて2〜4cmほど貼り床を敷設する。カマド：南東壁中央やや南寄りに位置する。両袖とも残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は50cm、長さは150cmほどを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。燃焼部は灰が厚く堆積しており、焼土と炭化物も多く認められる。袖は芯材を用いずに褐色粘質土をもって構築されており、焚き口付近は被熱で焼土化が著しい。出土遺物として2個体の土師器甕の破片が出土している。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：一部において幅14〜54cm、深さ1〜30cmの壁溝を検出した。重複遺構：3号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相から、本遺構の方が新しいと判断される。掘り方：全面にわたり2〜4cmほどのほぼ均質に掘り窪められ、西半部では地山礫層が露出する。出土遺物：全体的に出土量は少ないが、カマドの焚き口付近で土師器甕(No. 5・6)が出土し、床面直上からは須恵器杯(No. 2・3)が出土している。



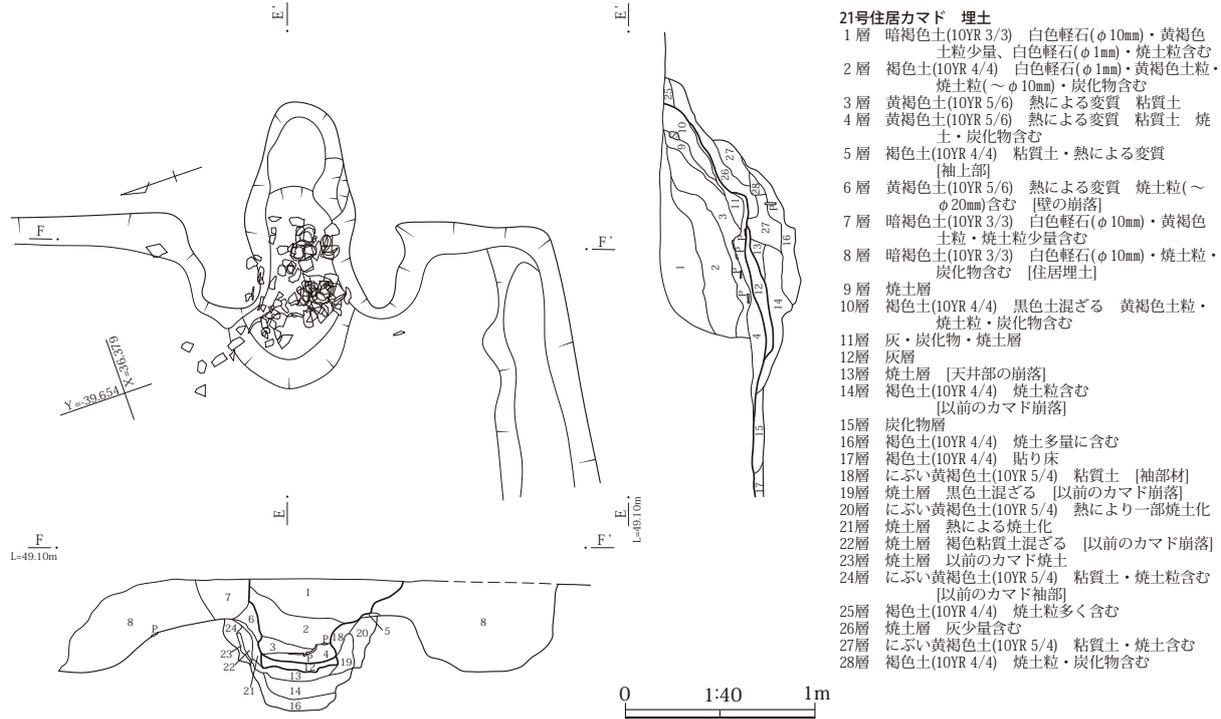
- 21号住居 埋土**
- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)少量・(φ1mm)・焼土粒・炭化物含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 黒色土ブロック・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 黒色土ブロック・黄褐色土粒・白色軽石(φ1mm)・焼土粒(φ30mm)含む
 - 4層 黒色土(10YR 2/1) 褐灰色土(10YR 5/1)・白色軽石(φ1mm)混ざる
 - 5層 黒色土(10YR 2/1) 黄褐色土粒少量・焼土粒・炭化物含む
 - 6層 黄褐色土(10YR 5/6) 礫多量に含む
 - 7層 褐色土(10YR 4/4) 熱による変質 [カマド上部の崩落]
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 壁面の崩落土
 - 9層 褐色土(10YR 4/4) 周溝埋土
 - 10層 褐色土(10YR 4/4) 貼り床
 - 11層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土との混ざり 焼土粒含む
 - 12層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土との混ざり
 - 13層 灰層
 - 14層 炭化物層
 - 15層 焼土層 [天井部の崩落]
 - 16層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒含む
 - 17層 褐色土(10YR 4/4) 焼土多量に含む



0 1:4 10cm

第82図 21号住居跡平・断面図、掘り方平・断面図、出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物



第83図 21号住居跡カマド平・断面図

1・2区21号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	壁際直下 口縁部～底部 1/2	口径 12.9 底径 7.4 器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 淡黄(5Y 8/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	須恵器 杯 (片口)	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 13.3 底径 7.2 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 2/3	口径 13.8 底径 8.9 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部上半回転ナデ。体部下半～底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
4	須恵器 杯	床面+29cm 口縁部～底部 破片	口径 14.7 底径 9.0 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 21.8 底径 6.0 器高 29.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部～上位横、中位・下位斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
6	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部 2/3	口径 22.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

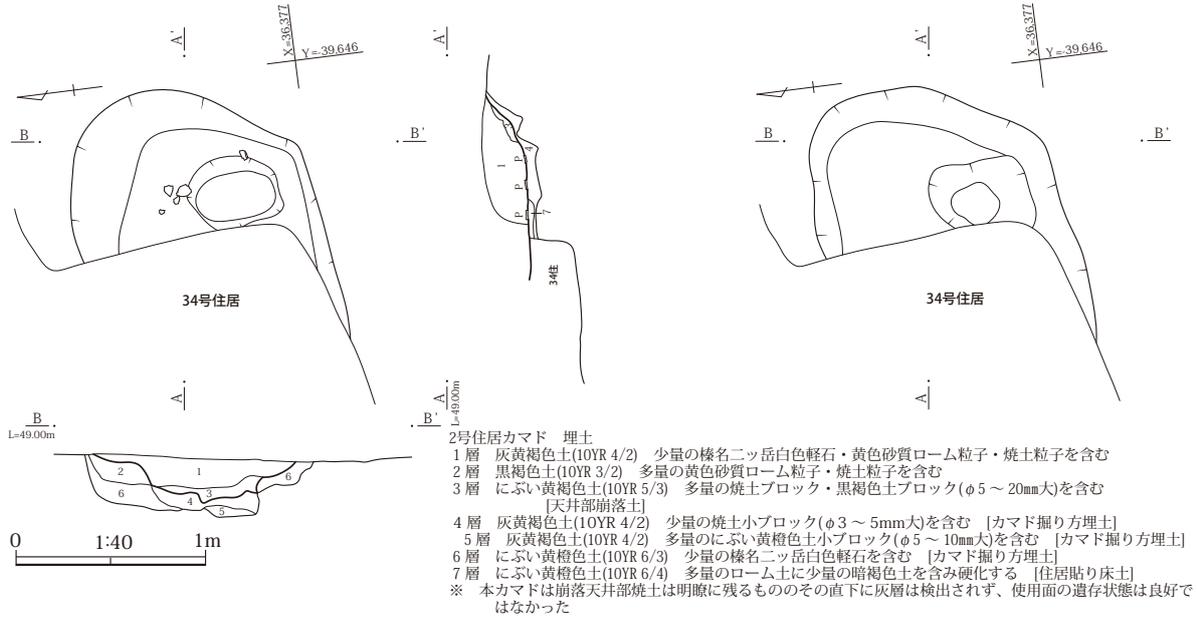
1・2区22号住居跡 (旧称1・2区SJ-22)

位置：X=36377 Y=-39646 主軸方向：不明。 規模：不明。 平面形状：不明。 残存深度：33cm。

埋没土：少量の白色軽石・黄色砂質ローム粒子を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：5～6cmほどの厚さで硬化した、にぶい黄褐色土を用いた貼り床を確認する。 カマド：不明。 柱穴：不明。

貯蔵穴：南東コーナー部において、径37～48cm深さ11cmを測る楕円形の掘り込みを検出するものの、貯蔵穴とは断定出来ない。 壁周溝：不明。 重複遺構：34号住居跡と重複し、34号住居跡のカマドの存在からこれより新しくない事は明らかである。 掘り方：不明。 出土遺物：埋土中より少量の遺物を出土するのみ。 所見：34号住居跡南東コーナー部に接して検出され、34号住居跡により壊された遺構との判断で調査を行ったものの、重複する住居跡である確証はつかめず、34号住居跡と南側壁を同じくすることから34号住居跡の張り出し状施設である可能性も高い。



第84図 22号住居跡カマド平・断面図、カマド掘り方平面図

1・2区23号住居跡(旧称1・2区SJ-23)

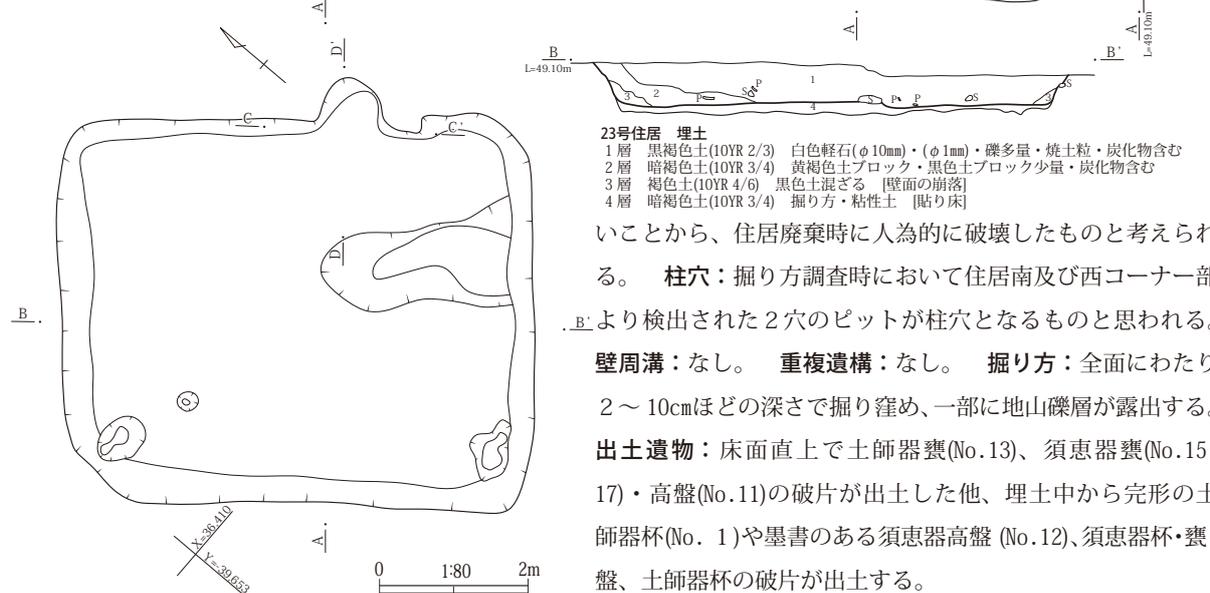
位置：X=36411 Y=-39650

主軸方向：N-50°-E 規模：4.1m×5.0m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：45cm~51cm

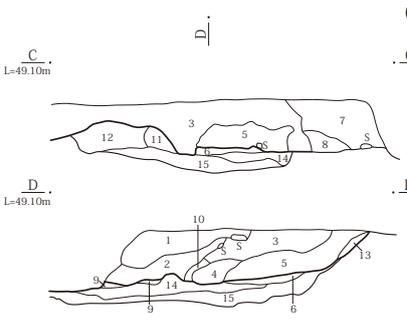
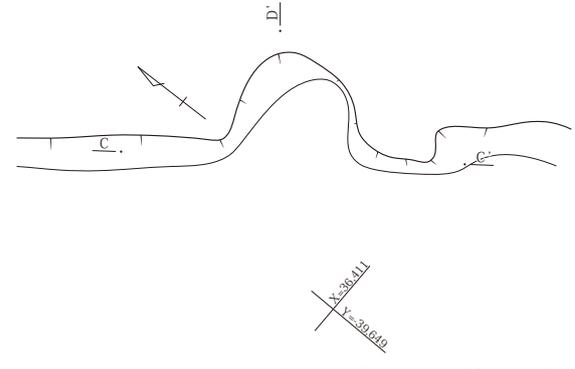
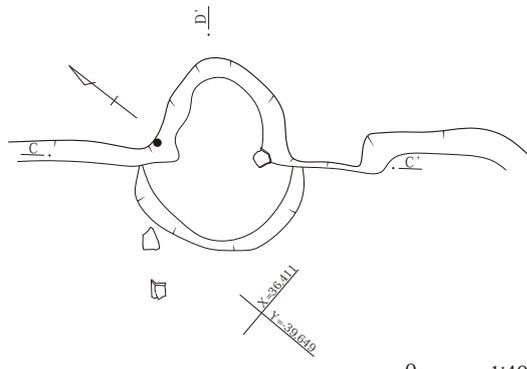
埋没土：白色軽石・焼土粒を含む黒褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。また、埋土中より出土の礫は、埋没途上において人為的に投げ込まれたものと思われる。床面：地山ローム面を掘り込んだ後、全面にわたり褐色粘質土を用いて2~10cmほどの貼り床を敷設する。

カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は悪く、灰層もなく使用面がはっきりしない



第85図 23号住居跡平・断面図、掘り方平面図

いことから、住居廃棄時に人為的に破壊したものと考えられる。柱穴：掘り方調査時において住居南及び西コーナー部より検出された2穴のピットが柱穴となるものと思われる。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：全面にわたり2~10cmほどの深さで掘り窪め、一部に地山礫層が露出する。出土遺物：床面直上で土師器甕(No.13)、須恵器甕(No.15・17)・高盤(No.11)の破片が出土した他、埋土中から完形の土師器杯(No.1)や墨書のある須恵器高盤(No.12)、須恵器杯・甕・盤、土師器杯の破片が出土する。



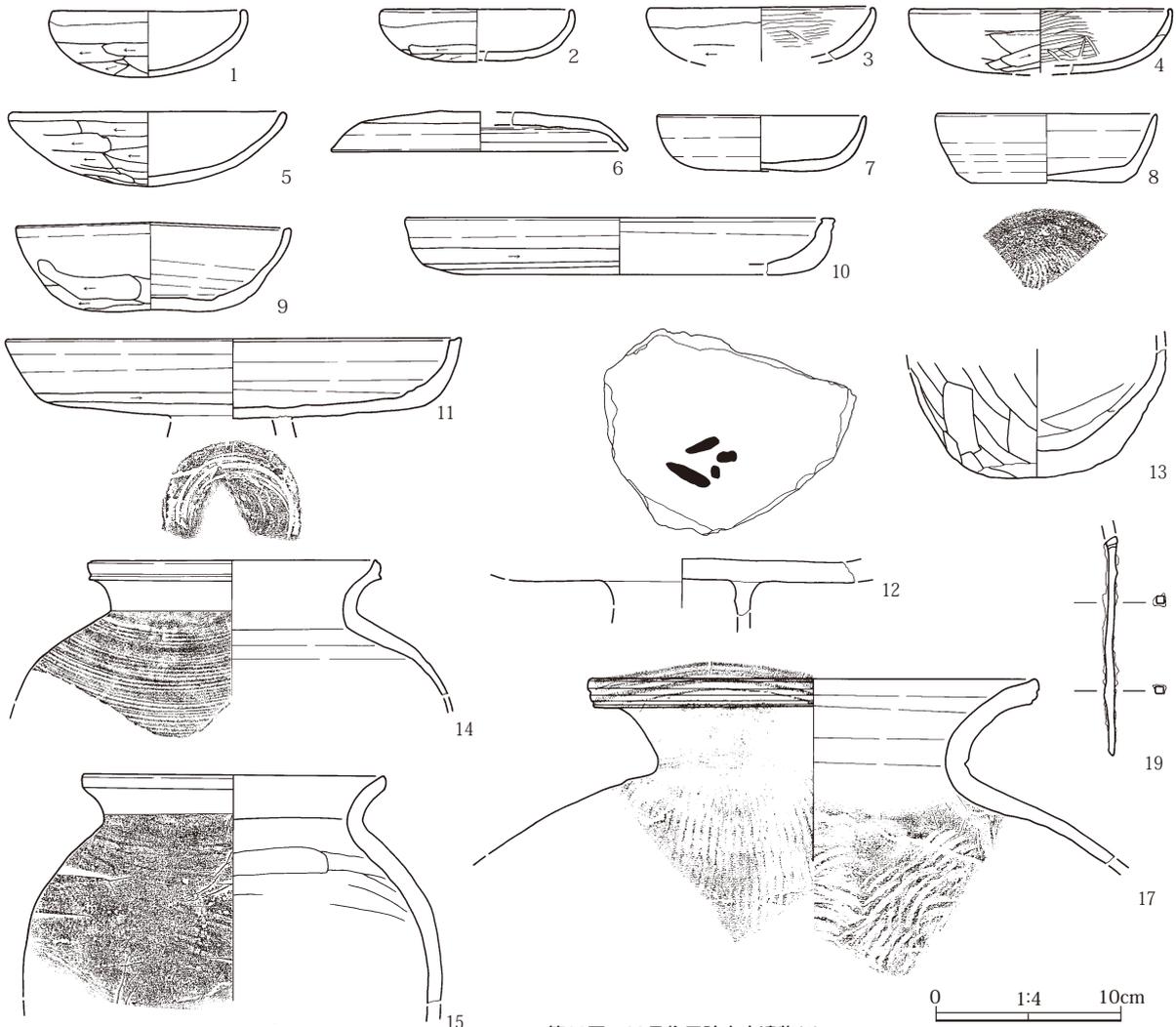
0 1:40 1m

0 1:40 1m

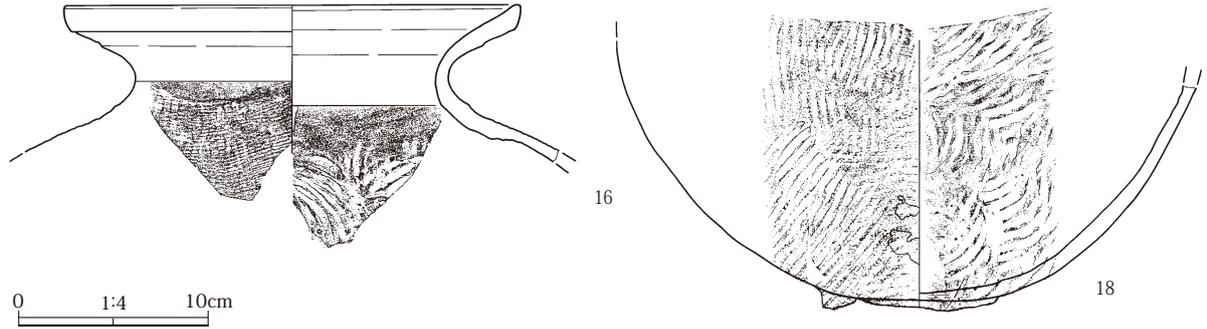
第87図 23号住居跡カマド掘り方

- 23号住居カマド 埋土**
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・礫・焼土粒含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・礫含む 焼土粒(〜φ10mm)大きくなる
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒多量・小石・焼土粒(〜φ5mm)含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒(〜φ20mm)・炭化物含む
 - 5層 黄褐色土(10YR 5/6) 熱による変質 焼土粒含む 黒色土混ざる [天井の崩落]
 - 6層 褐色土(10YR 4/4) 炭化物・焼土粒含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・礫多量に・焼土粒含む
 - 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm)・小石・焼土粒含む(1層に類似)
 - 9層 炭化物層
 - 10層 黄褐色土(10YR 5/6) ほとんど混ざりなし
 - 11層 黄褐色土(10YR 5/6) 熱による変質 [袖部] 焼土粒少量含む
 - 12層 褐色土(10YR 4/6) 黄褐色土混ざる
 - 13層 褐色土(10YR 4/6) 焼土粒含む 礫混ざり
 - 14層 褐色土(10YR 4/4) 少量の焼土粒を含む [掘り方埋土]
 - 15層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土 [掘り方埋土]

第86図 23号住居跡カマド平・断面図



第88図 23号住居跡出土遺物(1)



第89図 23号住居跡出土遺物(2)

1・2区23号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+5cm 完形 口縁部一部欠損	口径 10.0 底径 — 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面:口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半~底部手持ちへラ削り。口縁部内湾。 内面:口縁部横ナデ、体部~底部ナデ調整。	
2	土師器 杯	床面+10cm 口縁部~底部 1/2	口径 10.0 底径 — 器高 2.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR6/6)	口縁部やや内湾。 外面:口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちへラ削り。 内面:口縁部~底部横ナデ。	
3	土師器 杯	床面+5cm 口縁部~体部 破片	口径 12.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	外面:口縁部横ナデ、体部へラ削り。 内面:口縁部~体部横ナデ後、横と一部斜め方向のへラ磨き。	
4	土師器 杯	床面+9cm 口縁部~底部 破片	口径 13.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	外面:口縁部横ナデ、体部~底部へラ削り。 内面:口縁部~底部横ナデ後、横と一部斜め方向のへラ磨き。	No.5と同一個体。
5	土師器 杯	甕理土中 口縁部~底部 破片	口径 14.6 底径 — 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面:口唇部横ナデ、口縁部~底部手持ちへラ削り。 内面:口縁部横ナデ、体部~底部ナデ調整。	
6	須恵器 杯蓋	床面+23cm 口縁部~天井部 破片	口径 15.8 口径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	口クロ整形。 外面:天井部上半回転へラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 内面:天井部~口縁部回転ナデ。	
7	須恵器 杯or蓋	床面+8cm 口縁部~底部 2/3	口径 10.9 口径 — 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	口クロ整形。回転右回り。 外面:口縁部~体部横ナデ、底部回転へラ削り。 内面:口縁部~底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 杯	埋土中 口縁部~底部 破片	口径 11.8 口径 8.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	口クロ整形。 外面:口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転へラ削り。 内面:口縁部~底部回転ナデ調整。	
9	須恵器 杯	床面+3cm 口縁部~底部 4/5	口径 14.6 口径 — 器高 4.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 5/1)	口クロ整形。 外面:口縁部~体部上半回転ナデ。体部下半~底部手持ちへラ削り調整。 内面:口縁部~底部回転ナデ調整。	
10	須恵器 盤	床面+8cm 口縁部~底部 底部中心部欠損	口径 23.0 口径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 4/0)	口クロ整形。 外面:口縁部~体部上半横ナデ、体部下半~底部回転へラ削り。 内面:口縁部~体部回転ナデ調整、底部ナデ調整。	内・外面に自然釉付着。
11	須恵器 高盤	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 24.3 口径 — 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	口クロ整形。 外面:体部~底部回転へラ削り、脚部は貼付。 内面:底部ナデ調整、口縁部回転ナデ調整。	
12	須恵器 高盤	床面+42cm 口縁部~底部 破片	口径 — 口径 8.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	口クロ整形。回転右回り。 外面:底部へラ削り。脚部貼付。 内面:天井部ナデ調整。	内面に墨書。
13	土師器 甕	床面直上 胴部下半~底部 破片	口径 — 口径 6.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 赤(10R 5/6)	輪積み。 外面:胴部ナデ後、縦方向のへラ削り。底部へラ削り。 内面:胴部~底部ナデ調整。	
14	須恵器 甕	床面+8cm 口縁部~胴部 口縁部のみぼぼ完形	口径 15.2 口径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 浅黄橙(7.5YR 8/6)	口クロ整形。 外面:口縁部~頸部横ナデ、胴部カキメ。 内面:口縁部~胴部回転ナデ調整。	
15	須恵器 甕	床面直上 口縁部~胴部 口縁部ぼぼ完形	口径 16.1 口径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	口クロ整形。 外面:口縁部~頸部横ナデ、胴部横方向のナデ。 内面:口縁部回転ナデ、頸部~胴部ナデ調整。指頭痕あり。	
16	須恵器 甕	床面直上 口縁部~胴部上半 破片	口径 23.6 口径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	口クロ整形。 外面:口縁部~頸部横ナデ、胴部格子叩き目。 内面:口縁部~頸部回転ナデ調整。胴部アテ具痕。	
17	須恵器 甕	床面直上 口縁部~胴部 口縁部のみ完形	口径 23.9 口径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 淡黄(2.5Y 8/3)	口クロ整形。 外面:口縁部横ナデ、頸部縦方向のカキ目、横ナデ。胴部平行叩き痕。 内面:口縁部~頸部回転ナデ調整。胴部同心円状アテ具痕。	
18	須恵器 甕	床面直上 胴部~底部 1/3	口径 — 口径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黒(N 2/0)	口クロ整形。底部丸底。 外面:口縁部~頸部横ナデ、胴部平行叩き痕が残る。 内面:口縁部~頸部回転ナデ調整。胴部アテ具痕。	胴部外面に窯体の砂が付着。

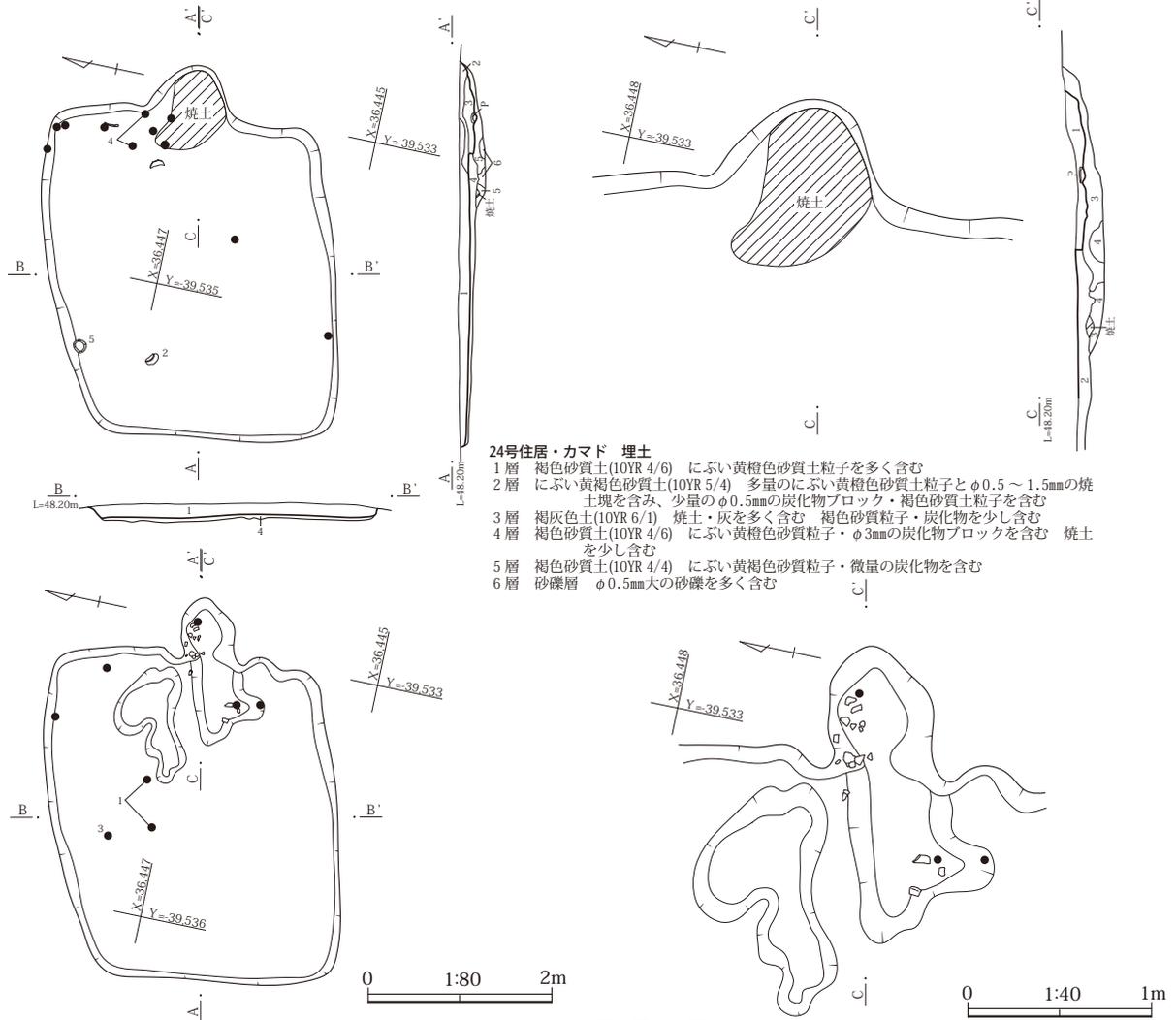
番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	摘要
19	鉄器	鍬	頸部~茎部片	11.9	8.5	0.7	7.0	

第3章 検出遺構と出土遺物

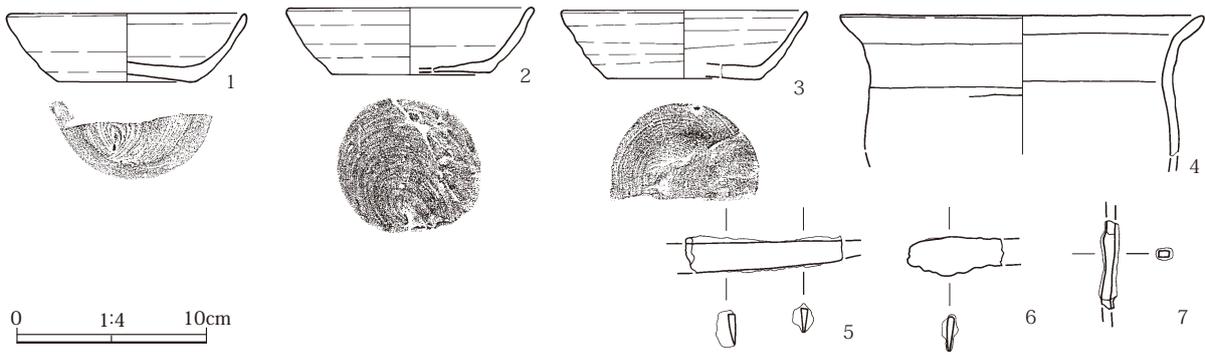
3区24号住居跡 (旧称3区SJ-24)

位置：X=36447 Y=-39535 主軸方向：N-74°-E 規模：3.6m×3.1m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：6～10 cm 埋没土：溝跡氾濫に由来するにぶい黄褐色砂質土が埋土中に堆積する。床面：地山をそのまま整形し床面としている。カマド：東壁の中央やや南寄りに位置する。遺存状態は不良。想定される焚き口の幅は40cmを測る。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：カマド前の一部に掘り方が認められる。出土遺物：埋土中から土師器甕(No. 4)、黒色土器杯の破片、磨石(台石) (No. 5)など少量の遺物が出土している。所見：本遺構は8号溝跡の氾濫決壊部付近に位置する。住居埋土中に氾濫由来土も多く混入するものの、氾濫の影響を直接的に受けたか否かは明らかではない。隣接する1・2区の東部に展開する一集落に属するものと思われる。



第90図 24号住居跡平・断面図



第91図 24号住居跡出土遺物

3区24号住居跡出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面-6cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.4 底径 7.4 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 淡黄(5Y 8/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	須恵器 杯	床面-6cm 口縁部~底部 1/2	口径 12.6 底径 8.3 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面-5cm 口縁部~底部 破片	口径 12.7 底径 8.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。口縁部外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	土師器 甕	床面+3cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 18.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
5	鉄器	刀子	刃部片	8.2	1.9	1.0	19.0	錆化激しい。
6	鉄器	刀子	刃部片	5.1	2.0	0.8	6.0	錆化、腐食激しい。
7	鉄器	鏃	頸部片	4.7	0.9	0.8	4.0	錆化、腐食激しい。

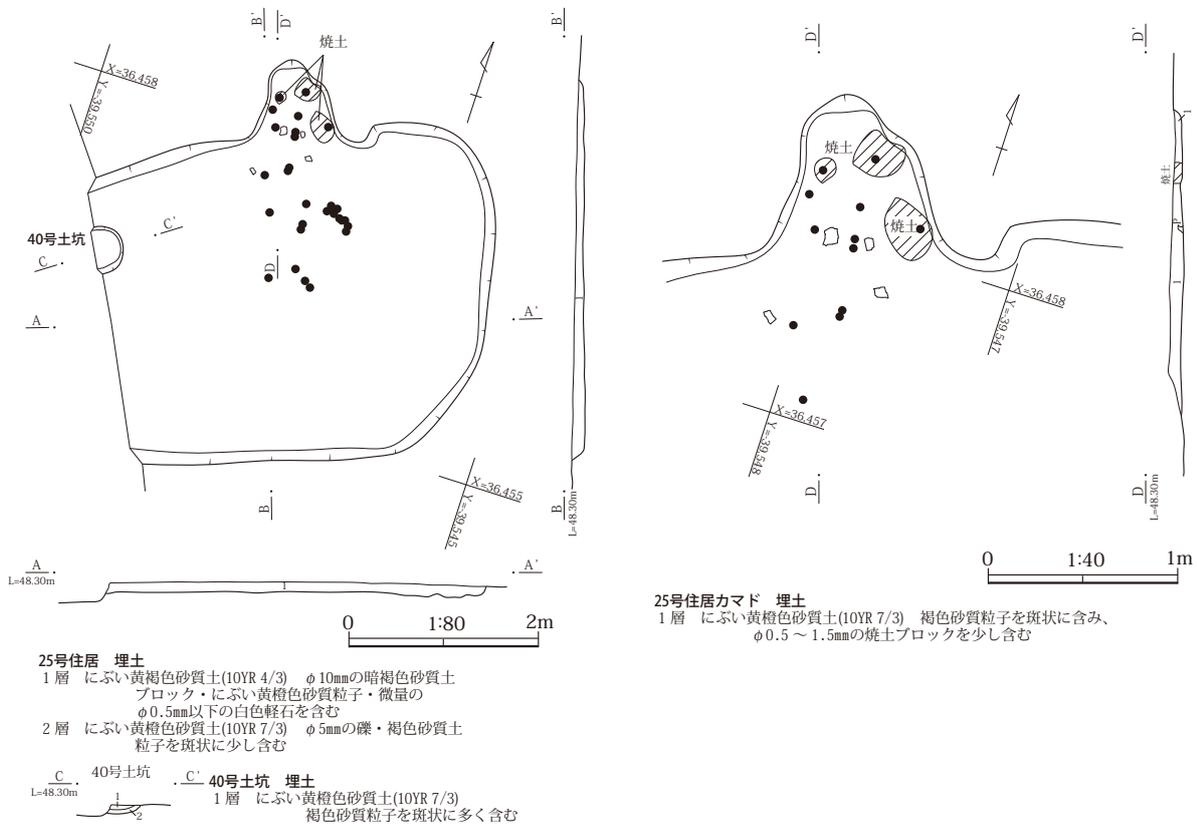
3区25号住居跡 (旧称 3区SJ-25)

位置：X=36456 Y=-39547 規模：3.4m×不明 主軸方向：N-20° -W 平面形状：隅丸長方形

残存深度：1~11cm 埋没土：8号溝跡の氾濫に由来するにぶい黄褐色砂質土が堆積する。

床面：地山を整形し、そのまま床面としている。カマド：北壁のほぼ中央に位置するものと思われる。遺存状態は不良のため規模・構造共に不明である。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：40号土坑跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：なし。

出土遺物：カマドのその前庭部で土師器杯・甕、須恵器甕の破片が数点出土したのみである。所見：本遺構は24号住居跡と同様に、8号溝跡の氾濫決壊部付近に位置する。住居埋土中に氾濫由来土も多く混入するものの、氾濫の影響を直接的に受けたか否かは明らかではない。隣接する1・2区の東部に展開する一集落に属するものと思われる。



第92図 25号住居跡平・断面図、カマド掘り方平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区26号住居跡 (旧称1・2区SJ-26)

位置：X=36356 Y=-39563

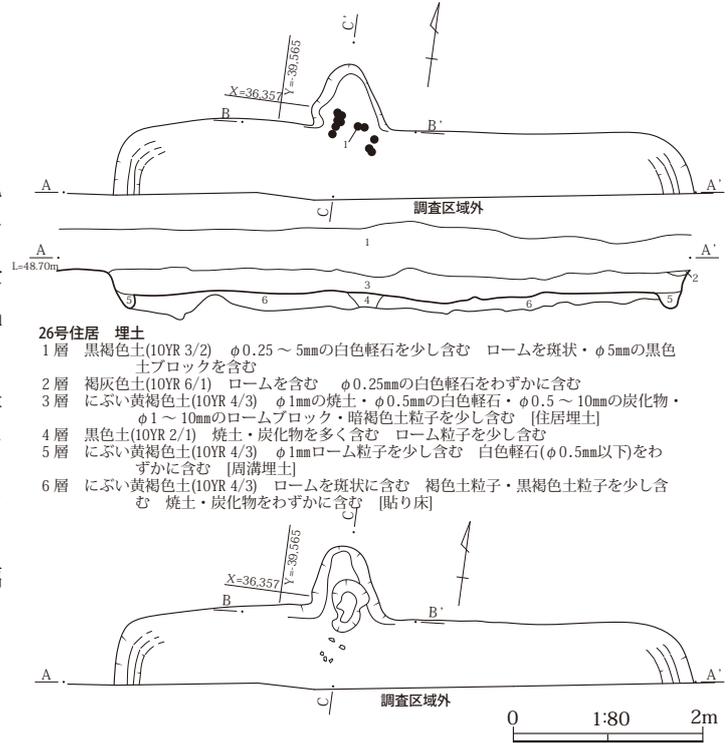
主軸方向：N-7° -W 規模：不明×6.1m

平面形状：不明。 残存深度：38cm～50cm

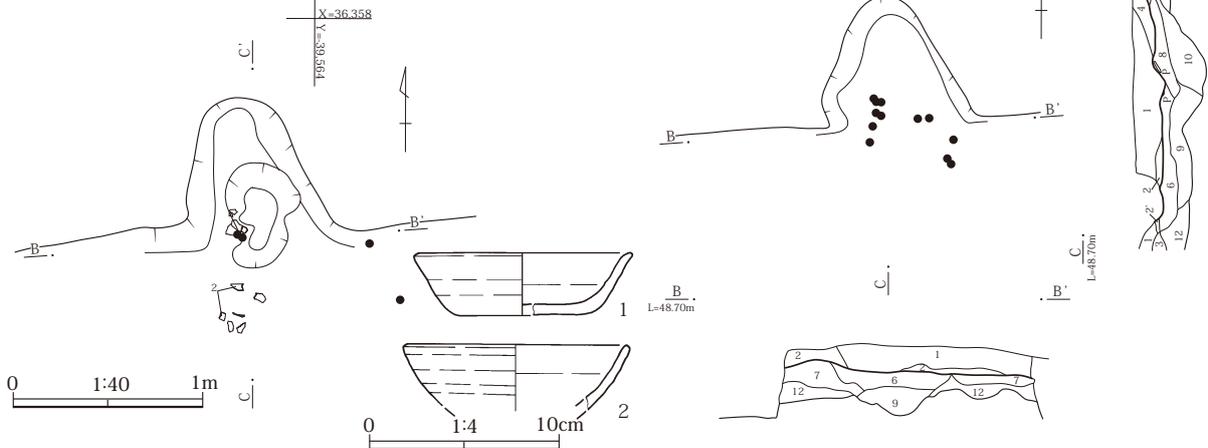
埋没土：白色軽石、焼土粒を含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたりにぶい黄褐色土を用いて5～15cmほどの貼り床を敷設している。

カマド：北壁中央やや西寄りに位置する。残存度は悪く。想定される焚き口の幅は50cmほどである。灰層面が一部残り、煙道部は緩やかに立ち上がる。柱穴：不明。貯蔵穴：不明。壁周溝：東および西壁部において検出され、幅15～18cm、深さ15～16cmを測る。

重複遺構：不明。掘り方：調査区壁面に残る住居跡断面から、5～15cmほどの深さの掘り方が認められる。出土遺物：掘り方埋土中から須恵器杯 (No. 2) の破片が出土する。所見：住居の大半は調査区域外になるため、検出できたのはカマドと住居のごく一部にとどまった。



第93図 26号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第94図 26号住居跡カマド、カマド掘り方平・断面図、出土遺物

26号住居カマド 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ0.5mmの白色軽石・φ0.25mmのローム粒子・炭化物をわずかに含む土を少し含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 炭化物・焼土・ローム粒子を多く含む
- 2'層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐灰色土粒子を少し含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ローム粒子をわずかに含む 褐灰色土粒子を少し含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ20mmの焼土を1つ含む φ1～2mmの焼土ブロックを多く含む 焼土粒子・炭化物を含む
- 5層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石をわずかに含む・φ0.5mmの焼土ブロック・黒褐色土粒子をわずかに含むにぶい黄褐色土粒子を少し含む
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ0.5～1mmの焼土ブロック・炭化物・ロームブロック(φ1～3mm)を少し含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・炭化物をわずかに含む ローム粒子を少し含む
- 8層 褐灰色土(10YR 4/1) 灰を多く含む・φ1～3mmの焼土ブロックを多く含む炭化物を含む
- 9層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1～5mmの焼土ブロック・灰を多く含む 炭化物を少し含む
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ1mmの焼土ブロック・炭化物・褐色土粒子・灰黄褐色土(10YR 4/2) にぶい黄褐色土粒子を少し含む
- 12層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ロームを多く含む [住居・掘り方埋土]

1・2区26号住居跡出土遺物観察表

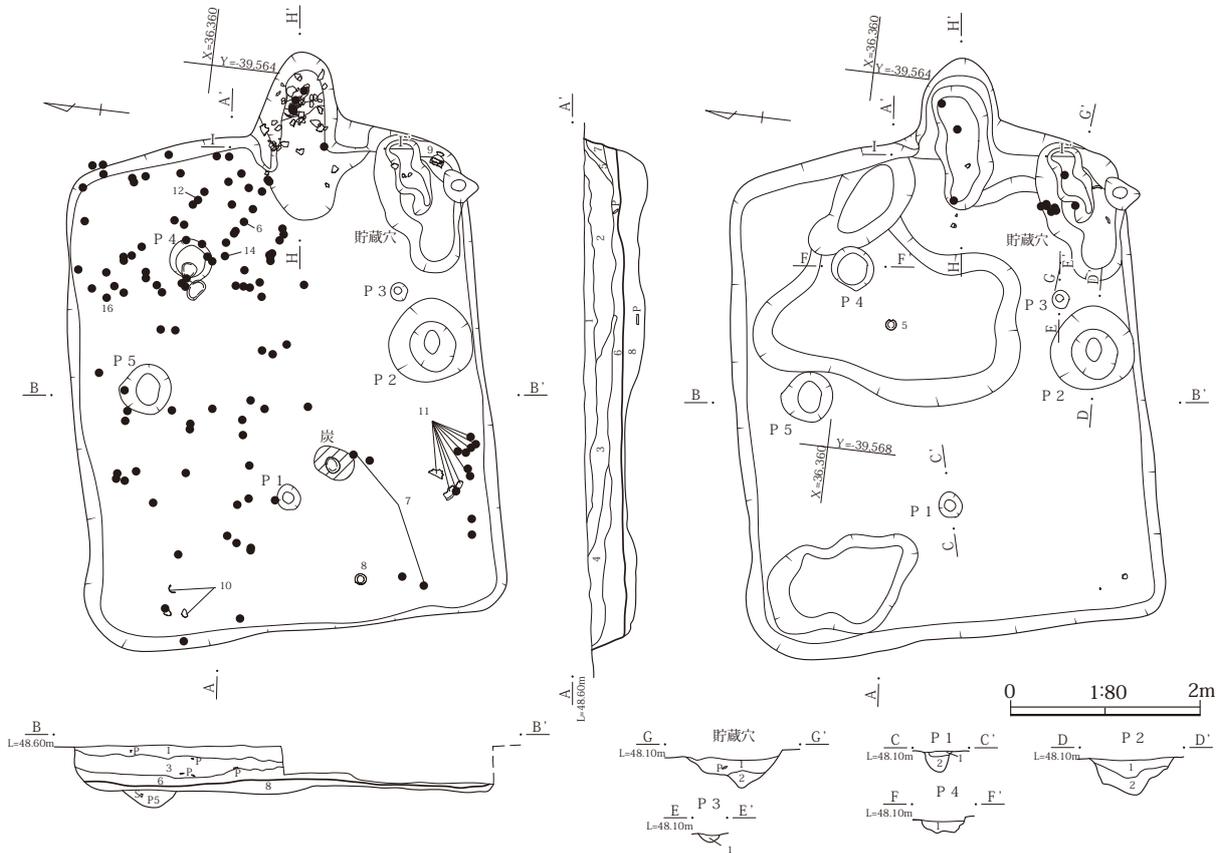
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 破片	口径 11.2 底径 6.8 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 不良 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面～6cm 口縁部～体部 破片	口径 11.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	

1・2区27号住居跡 (旧称1・2区SJ-27)

位置：X=36359 Y=-39567 主軸方向：N-78°-E 規模：5.3m×4.3m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：34cm～40cm 埋没土：白色軽石と黄焼土粒などを含むにぶい黄褐色～灰黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたりにぶい黄褐色土を用いて3～30cmほどの貼り床を敷設している。カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。焚き口幅は50cmを測り、煙道部は急峻に立ち上がる。焚き口部から煙道部に向かって灰が堆積しており、焼土と炭化物も多く認められる。袖は芯材を用いず褐灰粘質土で構築され、一部に焼土とローム粒子を含むことから、補修・再構築が想定される。

柱穴：掘り方調査の段階で径19～89cm、深さ10～41cmを測る5基のピットを検出した。また、住居外北側に住居壁と並行に等間隔で並ぶ4穴のピット(Pit301～304)を検出するが、対応する南側が調査区域外となるため、屋蓋柱穴とは断定し得ない。貯蔵穴：カマドの南側、住居南東コーナー部において検出。長軸155cm、短軸80cmの楕円形を呈し、深さは30cmを測る。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：カマド前庭部を除き3～30cmほどの深さで掘り窪める。出土遺物：全体的に出土量は多く、南東コーナーの壁直下にてほぼ完形の台付甕(No. 9)が出土したほか、床面直上で土師器台付甕(No.10)・甕(No.11)、須恵器杯(No. 6・7)・椀(No. 8)などが出土している。カマド埋土中からは、ほぼ完形の土師器杯(No. 2)などが出土。その他には土錘(No.12・13)や砥石(No.14)などが出土している。



27号住居 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ1mmの白色軽石・φ1～2mmの焼土ブロック・黒褐色土粒子・褐色土粒子(φ1mm大)を少し含む 炭化物をわずかに含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ0.5-10mmの焼土ブロックを多く含む φ0.5褐色土粒子を少し含む 炭化物をわずかに含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ0.5mmの焼土ブロック・φ0.5mmの白色軽石・炭化物・褐色土粒子を少し含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土(φ0.5mm大)・φ0.25mmの白色軽石をわずかに含む φ0.5mm黒褐色土粒子・褐色土粒子を少し含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐灰色土粒子を塊状に含む 褐色土粒子を少し含む 粘質性をもつ
- 6層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ0.5mmの焼土・黒褐色土粒子・φ0.25mmの白色軽石をわずかに含む ローム粒子・褐色土粒子を少し含む
- 7層 黒褐色土(10YR 3/1) 褐色土粒子を少し含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・ローム粒子・白色軽石を少し含む(貼り床)

27号住居貯蔵穴 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・炭化物・φ2mmのロームブロック・φ2mmの褐色土ブロックを少し含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ1mmの炭化物を少し含む・φ0.5mmのロームブロックをわずかに含む

27号住居 P1 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石・φ0.5mmの黒褐色土ブロックを少し含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ0.5mmのロームブロックを少し含む

27号住居 P2 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石・粘質性を少し持つ黒褐色土粒子を少し含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石を少し含む 焼土・炭化物をわずかに含む

27号住居 P3 埋土

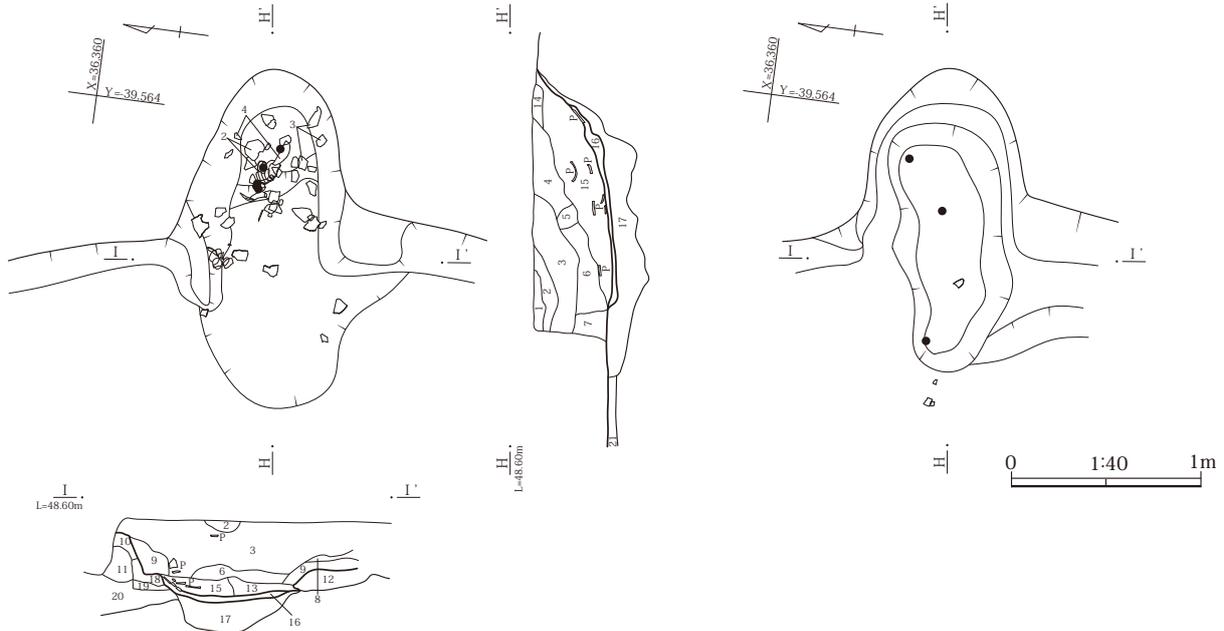
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土をわずかに含む

27号住居 P4 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/1) ローム粒子をわずかに含む

第95図 27号住居跡平・断面図、掘り方平・断面図

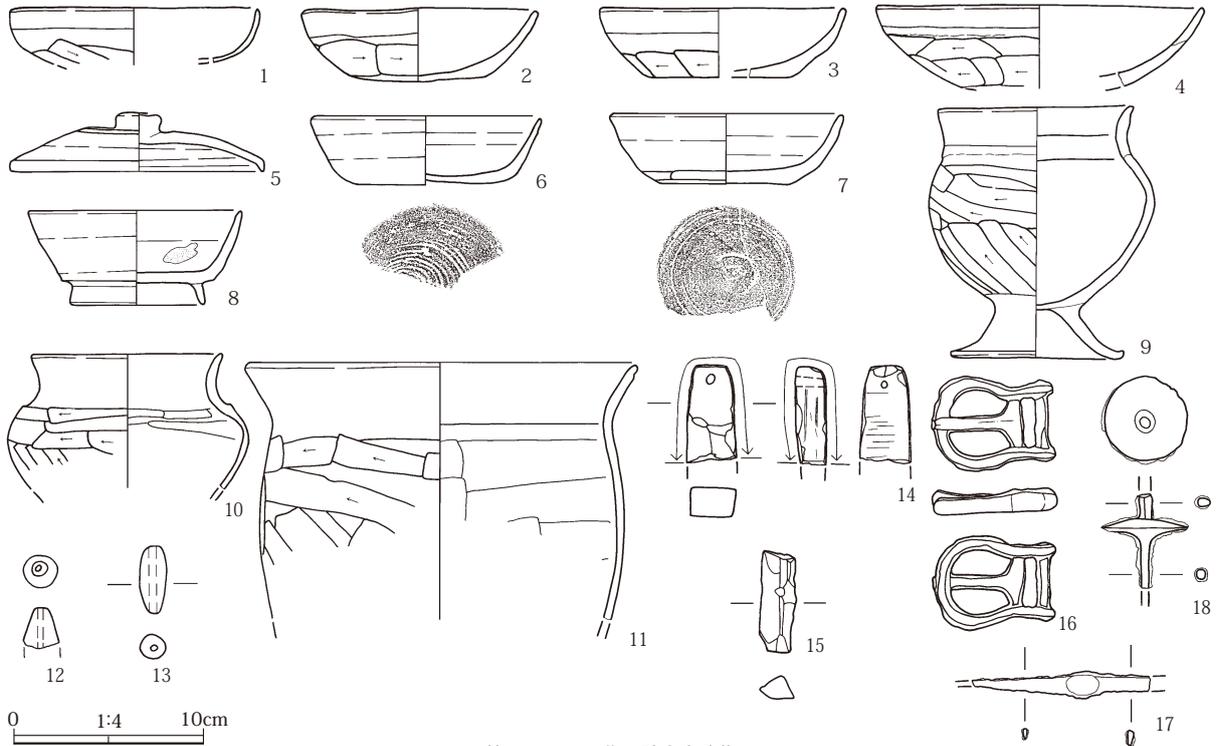
第3章 検出遺構と出土遺物



27号住居カマド 埋土

- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ0.5mmの白色軽石・φ0.5mmの焼土・φ0.5mmの礫をわずかに含む 黒褐色土粒子を少し含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/1) φ0.5mmの白色軽石・φ1mmの焼土・炭化物をわずかに含む ぶい黄褐色土 粒子を少し含む
- 3層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1~5mmの焼土・φ0.5mmの白色軽石を少し含む φ1mmの褐色土粒子を含むφ1mmの炭化物をわずかに含む
- 4層 褐灰色土(10YR 5/1) ローム粒子・φ1mmの褐色土粒子を少し含む 焼土・白色軽石をわずかに含む
- 5層 焼土粒子・白色軽石をわずかに含む
- 6層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1~5mmの焼土・ぶい黄褐色土粒子・褐色土粒子・φ0.25mmの黒褐色土ブロックをを少し含む φ0.5mmの白色軽石をわずかに含む
- 7層 褐灰色土(10YR 5/1) ぶい黄褐色土粒子・褐色土粒子を含むφ0.5mmの焼土・φ0.5mm以下の白色軽石をわずかに含む φ0.25mmの黒褐色土ブロックをを少し含む
- 8層 黒褐色土(10YR 3/1) ロームを少し含む 炭化物をわずかに含む
- 9層 褐灰色土(10YR 5/1) ロームを多く含む 焼土・φ0.25mmの黒褐色土ブロックをを少し含む
- 10層 褐灰色土(10YR 4/1) ロームを少し含む 焼土をわずかに含む
- 11層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子・ローム粒子をわずかに含む
- 12層 褐灰色土(10YR 5/1) ぶい黄褐色土粒子を含む φ0.5mmの焼土・φ1mmの褐色土粒子をわずかに含む φ5mmの焼土を1つ含む [カマド袖部]
- 13層 ぶい黄褐色土(10YR 7/4) ロームを多く含む φ1mmの焼土・炭化物・φ1mmの褐色土ブロックをを少し含む 褐灰色土ブロック(φ1~10mm)を斑状に含む
- 14層 ぶい黄褐色土(10YR 6/3) φ2mmの焼土を多く含む φ1mmの黒褐色土ブロックをを少し含む 白色軽石をわずかに含む
- 15層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・ローム粒子・褐色土粒子をわずかに含む 炭化物粒子を少し含む [カマド煙道部]
- 16層 黒褐色土(10YR 3/1) 灰を多く含む 炭化物を含む 焼土を少し含む [カマドの使用面]
- 17層 ぶい黄褐色土(10YR 3/3) φ1mmの焼土を多く含む 炭化物を少し含む ロームを含む
- 18層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・ロームを少し含む [カマドの袖]
- 19層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土をわずかに含む [カマドの袖]
- 20層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ0.5mmローム粒子・褐色土粒子を少し含む [27住居壁]
- 21層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・炭化物・ローム粒子を少し含む [住居の貼り床]

第96図 27号住居跡カマド平・断面図



第97図 27号住居跡出土遺物

1・2区27号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	貯蔵穴、P3埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明褐灰(7.5YR 7/2)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	土師器 杯	竈埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 12.0 底径 7.2 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部横、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
3	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 12.6 底径 8.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半横方向ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
4	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～体部 底部欠損	口径 17.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。	
5	須恵器 杯蓋	床面+15cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.1 摘径 2.0 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	口クロ整形。 外面：天井部上半回転ヘラ削り。天井部下半～口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	歪みあり。
6	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/4	口径 11.9 底径 8.2 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	口クロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口径 12.0 底径 6.7 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 6/1)	口クロ整形。回転左回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 椀	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 11.0 底径 8.0 器高 4.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 黄灰(2.5Y 4/1)	口クロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	漆付着土器か。
9	土師器 台付甕	壁際直下 ほぼ完形 一部欠損	口径 10.0 底径 8.9 器高 13.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰褐(7.5YR 4/2)	輪積み。台部貼付。 外面：口縁部と台部横ナデ。胴部上半横方向のヘラ削り、 胴部下半斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部と台部横ナデ、胴部ナデ。	
10	土師器 台付甕	床面直上 口縁部～胴部上半 胴部下半～台部欠損	口径 9.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 黒褐(7.5YR 3/1)	輪積み。台部貼付。 外面：口縁部と台部横ナデ。胴部上半横方向の下半縦方向 ヘラ削り。 内面：口縁部と台部横ナデ、胴部ナデ。	
11	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上半 1/3	口径 20.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向、中位斜方向のヘラ 削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
12	土製品 錘	床面+24cm 破片	長さ 2.1 径 1.8 孔 0.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	下3/4欠損、上端部平坦面あり。外面ナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：5g	
13	土製品 錘	埋土中 完形	長さ 3.55 径 1.4 孔 0.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	両端部とも擦減っている。外面ナデ。 中心部縦に径4mmの穿孔。 重量：5g	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
14	石製品	砥石	下部欠損	4.2	2.6	1.6	34	砥沢石	孔径 0.4cm表・裏、両側面、頂部とも使用されている。
15	石製品	砥石	完形	11.3	4.3	1.2	82	砥沢石	
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
16	鉄製品	絞具	完形	6.4	5.0	1.4	28.0	帯幅 2.7cmか、残存状態。	
17	鉄器	刀子	柄～刃部片	9.3	1.4	0.7	7.0	関部分の錆が激しい。	
18	鉄器	紡錘車	弾み車部	5.0	4.6	0.8	21.0	軸径 0.5cm	

1・2区28号住居跡 (旧称1・2区SJ-28)

位置：X=36376 Y=-39570 主軸方向：N-77°-E 規模：3.0m×3.3m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：27cm～35cm 埋没土：白色軽石などを含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

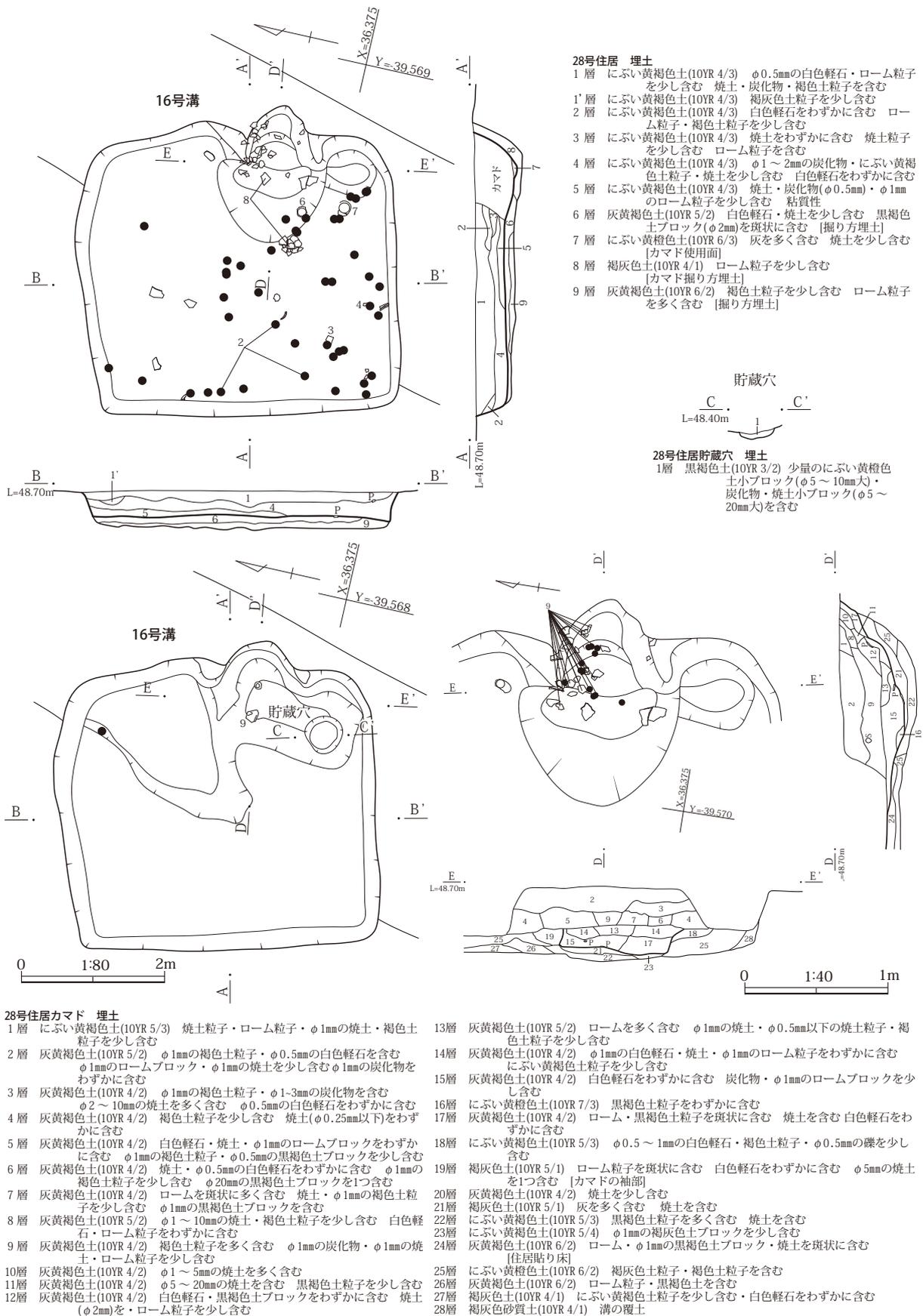
床面：地山ローム土を掘り込んだ後、全面にわたり灰黄褐色土を用いて5～14cmほどの貼り床を敷設している。

カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。焚き口幅は75cmを測り、焚き口部から煙道部に向かって灰が堆積し、焼土も多く認められる。袖は芯材を用いず褐灰色粘質土で構築され、一部に焼土とローム粒子を含むことから、補修・再構築が想定される。柱穴：なし。貯蔵穴：カマドの南側に検出され、円形を呈し、径40cm深さは12cmを測る。

壁周溝：なし。重複遺構：16号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相から、溝跡の方が古いものと判断される。

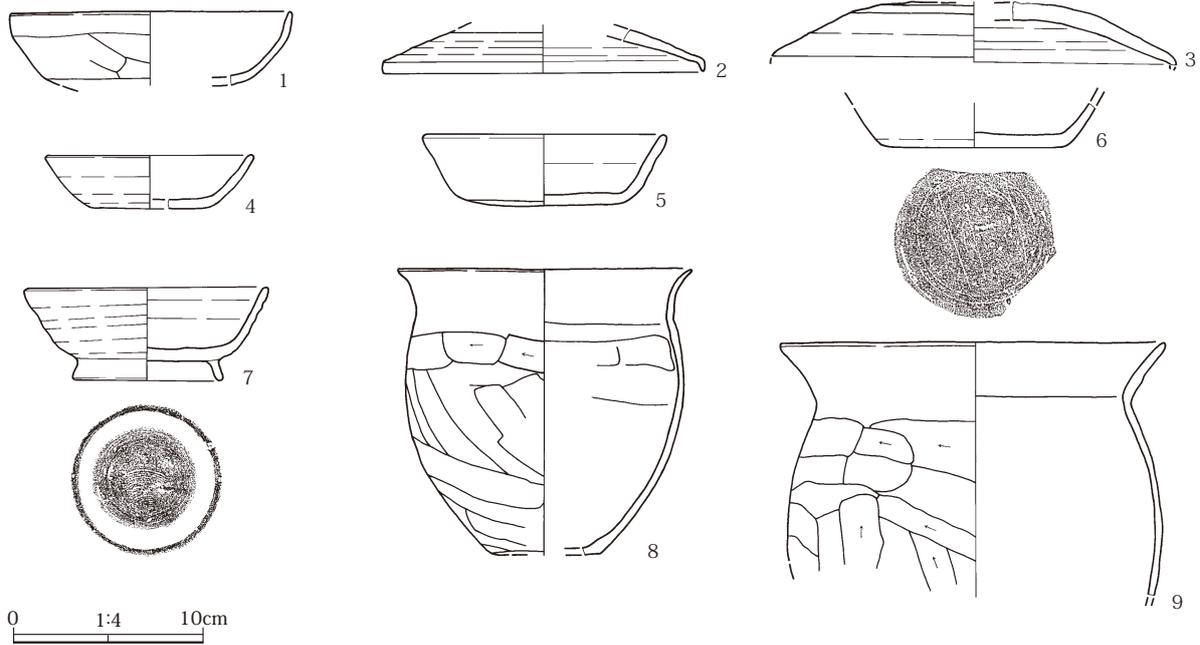
掘り方：全面にわたり5～14cmほどの深さで掘り窪められる。出土遺物：床面付近から土師器杯(No. 1)、須恵器杯(No. 5)が出土する。

第3章 検出遺構と出土遺物



第98図 28号住居跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第99図 28号住居跡出土遺物

1・2区28号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+2cm 口縁部~底部 破片	口径 14.4 底径 10.9 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、胴部~底部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	須恵器 杯蓋	床面+5cm 口縁部~天井部 破片	口径 16.7 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上位回転ヘラ削り、中~下位口縁部横ナデ。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
3	須恵器 杯蓋	床面+6cm 口縁部~天井部 破片	口径 — 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ灰(2.5GY 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半回転ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	床面+4cm 口縁部~底部 破片	口径 10.8 底径 6.0 器高 2.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰褐(5YR 4/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 12.4 底径 8.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
6	須恵器 杯	床面+12cm 底部 破片	口径 — 底径 9.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底部外面中央に ヘラ記号「二」
7	須恵器 椀	床面+7cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 12.6 底径 7.5 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。周辺部は ナデ。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	歪みあり。
8	土師器 甕	床面+7cm 口縁部~底部 1/2	口径 15.5 底径 5.8 器高 15.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦、下位斜め方向 ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部~底部ヘラナデ。	口縁部~胴部に 黒斑あり。
9	土師器 甕	竈埋土中、竈掘方埋 土中 口縁部~胴部上半 1/3	口径 20.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区29号住居跡 (旧称 1・2区SJ-29)

位置：X=36366 Y=-39568 主軸方向：N-77° - E 規模：3.4m×3.0m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：22cm~30cm 埋没土：白色軽石と黒色粘質土を少量含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム面を掘り込んだ後、粘性のあるにぶい黄褐色土みを用いて全面にわたり5~10cmほど貼り床を敷設している。カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。右側袖が残り、残存度は比較的良好。焚き口幅は77cmを測り、燃烧部は灰が厚く堆積しており、焼土と炭化物も多く認められる。特に煙道部先端部では地山の焼土化が

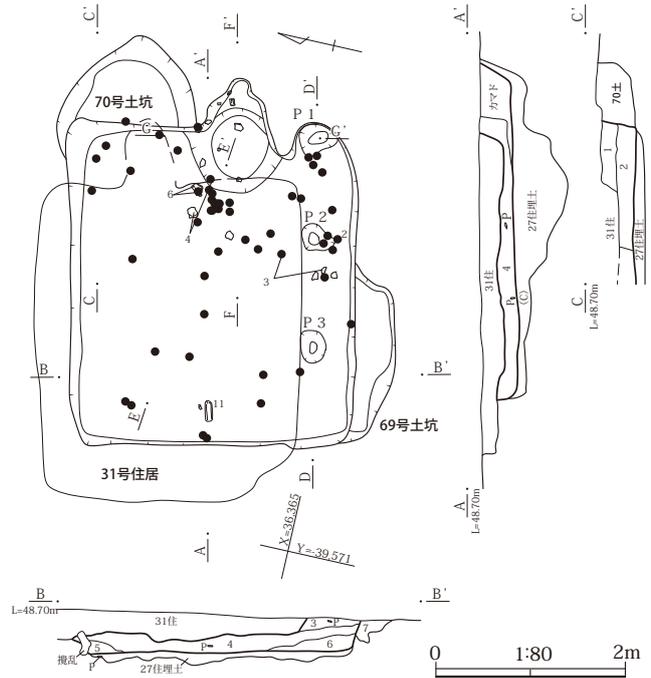
第3章 検出遺構と出土遺物

顕著に認められる。袖部は地山を掘り残す形で構築されている。**柱穴**：掘り方調査で、3基のピットを検出した。住居の南壁に沿って規則的に並んでおり、径26～36cm深さ15～20cmを測り、柱穴跡に相当するものと思われる。**貯蔵穴**：掘り方調査の段階で検出されたP1は、位置的に貯蔵穴となる可能性がある。

壁周溝：なし。**重複遺構**：16号溝跡および30・31号住居跡と重複する。それぞれ遺構確認時～掘削時における埋土の様相より、16号溝・30号住居跡および69・70号土坑跡は本遺構よりも古く、31号住居跡は本遺構より新しいものと判断される。

掘り方：全体に深さ5～10cmほどを掘り窪め、住居の中央部からやや北寄りの位置に220cm×160cm、深さ52cmを測る土坑状の掘り込みを有する。

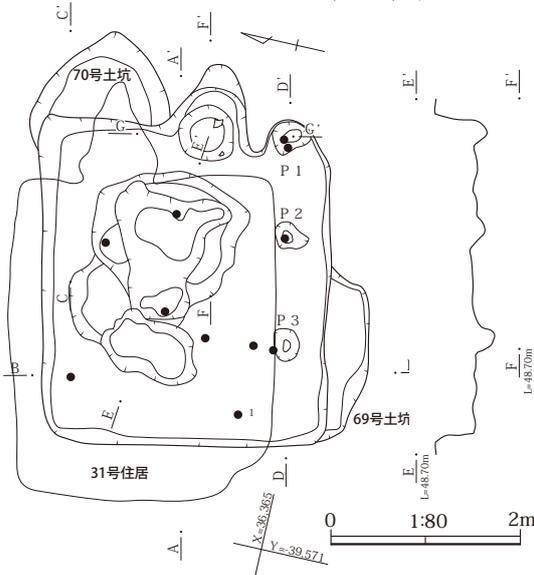
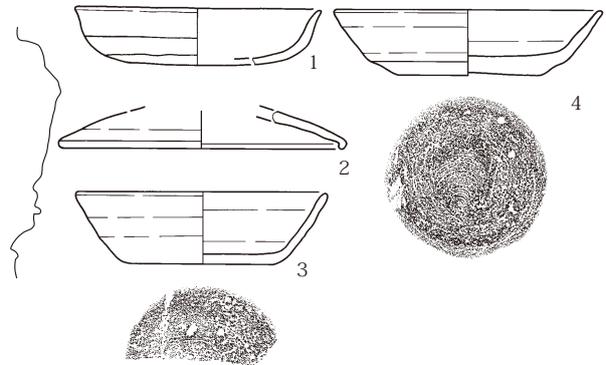
出土遺物：床面付近から土師器甕(No. 6)・須恵器杯(No. 4)などが出土する。



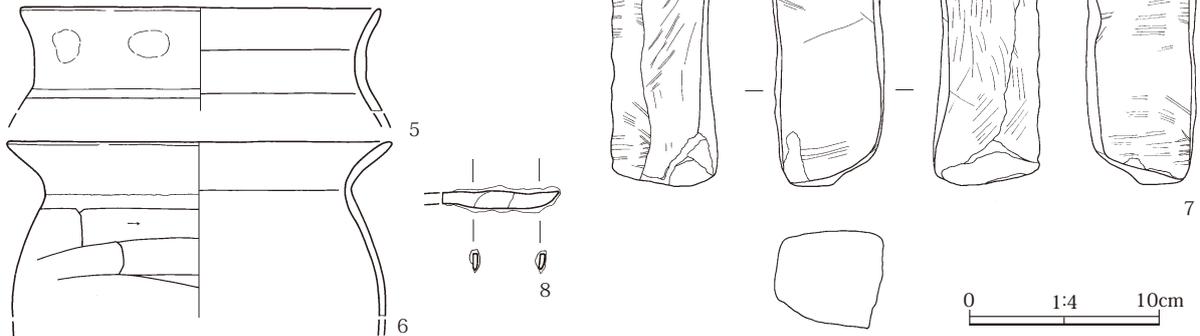
29号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりややあり φ1mm程のパミス・焼土粒・炭粒を微量含む 黒色土粒(φ10mm)程少量含む
- 2層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 1層よりやや灰味が強い 粘性なし しまりややあり オリーブ褐色土(2.5YR 4/3)ブロックφ20mm程少量含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり φ5mm以下の焼土粒・φ5mm以下のパミスを微量含む
- 4層 3層に地山の黒色土(2.5YR 2/1)粘質土粒φ10mm以下少量含む
- 5層 4層に地山の黄褐色土で全体にうすく汚れる
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ10mm以下の焼土粒・炭粒・地山の黄褐色土粒をやや多量含む
- 7層 黒褐色土(10YR 3/2) φ5mm以下の焼土粒・φ1mm程のパミス・φ10mm程の黒色粘質土粒を微量含む土坑埋没土

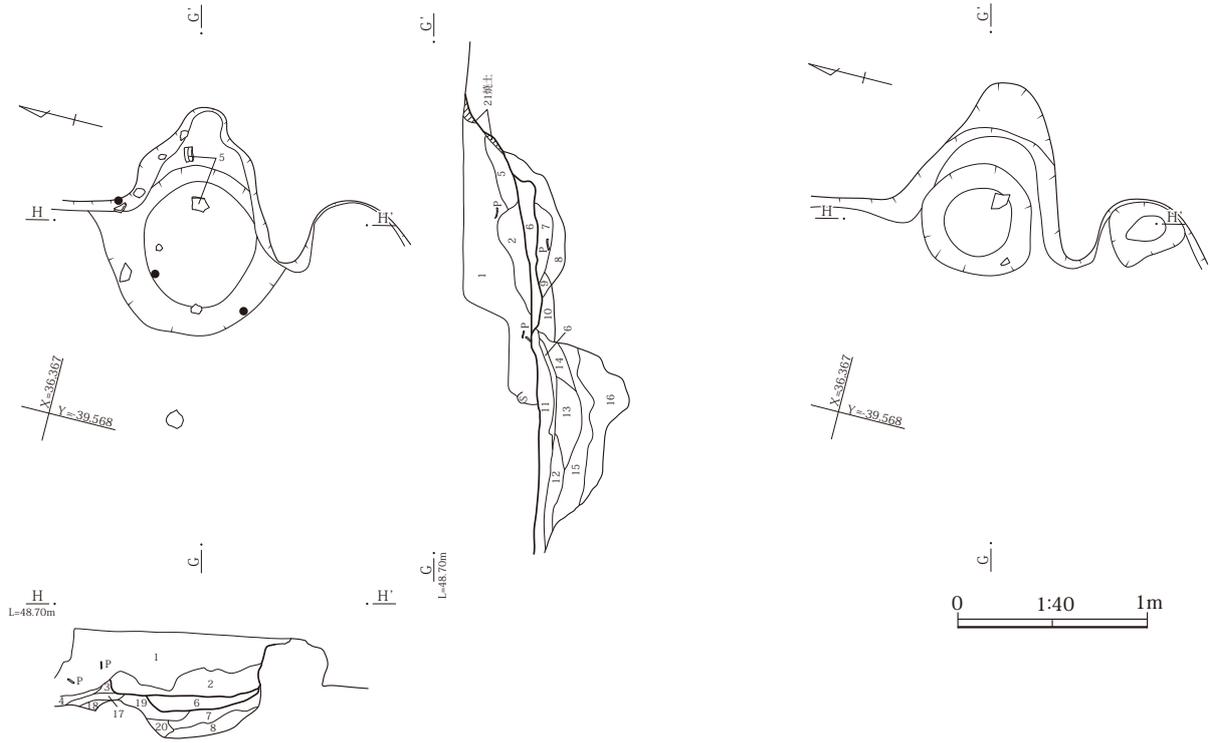
第100図 29号住居跡平・断面図



第101図 29号住居跡掘り方平・断面図



第102図 29号住居跡出土遺物



第103図 29号住居跡カマド平・断面図、カマド掘り方平面図

29号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりあり 礫(φ50mm程)・焼土粒(φ5mm程)・パミス(φ5mm程)を微量含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒を少量・φ5mm程のパミスを微量含む
- 3層 暗オリーブ褐色土(2.5YR 3/3) 粘性なし しまりややあり 暗褐色土焼土粒・炭粒(φ1mm程)を微量含む左袖残存部
- 4層 3層が壊れて流れた土
- 5層 1層より黒味が強く含有物が少ない 他同じ
- 6層 灰層 焼土粒(φ10mm程)を少量含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまり弱い焼土粒(φ10mm程)少量含む
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い焼土粒(φ10mm程)微量含む
- 9層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒(φ10mm程)・パミス(φ1mm)微量含む
- 10層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり 灰黄褐(10YR 4/2)・土粒(φ10mm程) 少量含む

- 11層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒(φ5mm)・パミス(φ1mm)微量含む
- 12層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒(φ5mm程)微量含む
- 13層 12層の土をベースに焼土粒(φ10mm程)・黒色粘質土(2.5YR 2/1)ブロック(φ5mm以下)やや多量含む
- 14層 黒褐色土(7.5YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い焼土粒・地山の黒色粘質土粒(φ10mm)を少量含む
- 15層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い焼土ブロック(φ20mm) 地山の黒色粘質土ブロック(φ10mm程)微量に含む
- 16層 黒色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりややあり 焼土粒(φ10mm程)少量 地山の黒色粘質土ブロック(φ20mm程)微量に含む
- 17層 黒褐色土(2.5YR 2/1) しまりあり 黄褐色土(2.5YR 5/4)ブロック(φ30mm以下)多量含む
- 18層 黄褐色土(2.5YR 5/4) 粘性なし しまりあり 17・18層は左袖の土台
- 19層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒(φ10mm以下)少量 黒色粘質土粒(φ10mm以下)微量に含む
- 20層 7・8層の中間の焼土量で色も中間
- 21層 地山黄褐色土(2.5YR 5/4) 粘性なし しまりあり 焼土化

1・2区29号住居跡出土遺物観察表

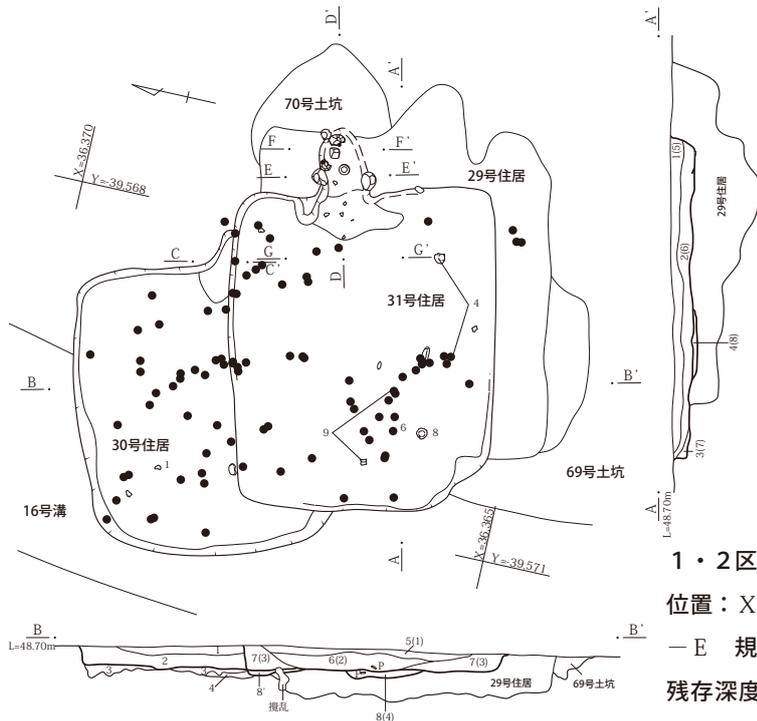
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
1	土師器 杯	床面-4cm 口縁部~底部 破片	口径 12.8 底径 - 器高 2.9	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	口縁部やや外反。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部~底部ナデ調整。				
2	須恵器 杯蓋	床面+6cm 口縁部~摘部 破片	口径 14.6 摘径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削りか。口縁部横ナデ。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。				
3	須恵器 杯	床面+5cm 口縁部~底部 1/3	口径 13.0 底径 7.6 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部を回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。				
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/3	口径 13.7 底径 7.3 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄(2.5Y 6/3)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部を回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。				
5	土師器 甕	竈埋土中 口縁部~頸部 破片	口径 18.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。	31号住居カマド埋土中出土破片と接合。			
6	土師器 甕	床面+2cm 口縁部~胴部上半 破片	口径 19.6 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
7	石製品	砥石	2/3残存	15.8	5.7	5.6	(700)	変質ダイサイト	床面直上
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
8	鉄器	刀子	刃部先端部片	6.2	1.2	0.5	9.0	錆化が激しい。	

1・2区30号住居跡（旧称1・2区SJ-30）

位置：X=36368 Y=-39570 主軸方向：N-77°-E 規模：3.1m×不明 平面形状：不明

残存深度：18cm～23cm 埋没土：白色軽石などを含む暗褐色土で埋没するが、重複住居による破壊のため、埋没状況は不明である。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、黒褐色土を用いて全面にわたり4～12cmほどの貼り床を敷設している。カマド：北東壁に位置するが、重複する31号住居跡によって半分以上が壊されているため、遺存状態は良くない。使用面に近いところには焼土が多く認められた。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：16号溝跡、29・31・56号住居跡と重複する。それぞれ遺構確認時～掘削時の埋土の様相より、16号溝跡と56号住居跡は本遺構よりも古く、29・31号住居跡は本遺構より新しいものと判断される。掘り方：全体に4～12cmほどの深さの掘り方を有する。出土遺物：埋土中からは須恵器蓋(No. 1)片の他、黒色土器杯片が出土する。



- 30号住居 埋土**
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒φ5mm以下・φ1mm程の白色パミスを微量含む [埋土]
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒φ10mm以下を微量だが1層より多くφ1mm程のパミスを微量含む [埋土]
 - 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒・φ1mm程のパミスを微量含む 黄褐色土粒φ10mm程を少量含む [掘り方]
 - 4層 黒褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり 含有物は3層に同じで他に炭粒φ5mm程微量含む 3層より赤味が強い [掘り方]
- 31号住居 埋土**
- 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の白色パミスと焼土粒を微量含む [埋土]
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒を少量 φ5mm以下のパミスを微量含む [埋土]
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 6層に赤味が強い29号埋土を掘り込んで平らに整え床面とする 部分的に8層の掘り方がある [埋土]
 - 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の焼土粒・炭粒・地山の黄褐色土粒をやや多量含む [掘り方]
 - 8'層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の焼土粒・炭粒・地山の黄褐色土粒を少量含む [掘り方]

1・2区31号住居跡（旧称1・2区SJ-31）

位置：X=36367 Y=-39568 主軸方向：N-77°

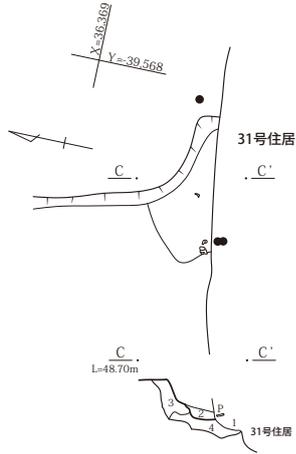
-E 規模：3.4m×2.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：16cm～24cm 埋没土：白色軽石などを含む暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：地山ローム土を掘り込んだ後、4～10cmほどの厚さで貼り床を敷設する。

カマド：北東壁中央やや北寄りに位置する。両袖部内には長さ20～25cm程の礫を芯材として据えて構築されており、また中心軸からやや北にずれた位置に支脚石を埋設している。焚き口幅は45cm程を測り、燃烧部には崩落焼土が多く認められる。柱穴：なし。

貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：16号溝跡、29・30号住居跡、70号土坑跡と重複する。それぞれ遺構確認時～掘削時における埋土の様相より、16号溝跡と70号土坑跡は本遺構よりも古く、29・30号住居跡は本遺構より新しいものと判断される。掘り方：深さ4～10cmを測る掘り方を有する。出土遺物：埋土中から須恵器杯(No. 1・2・3・5)・椀(No. 7)、黒色土器杯・椀の破片が出土する。

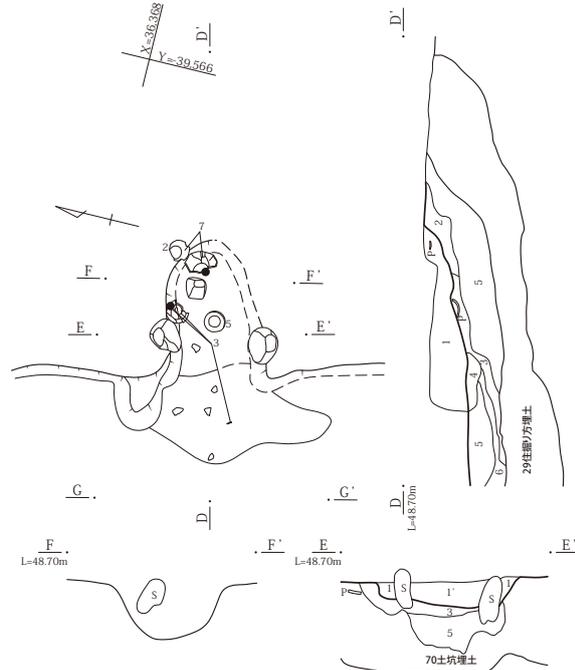
第104図 30・31号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第105図 30号住居跡 カマド平・断面図

30号住居カマド 埋土

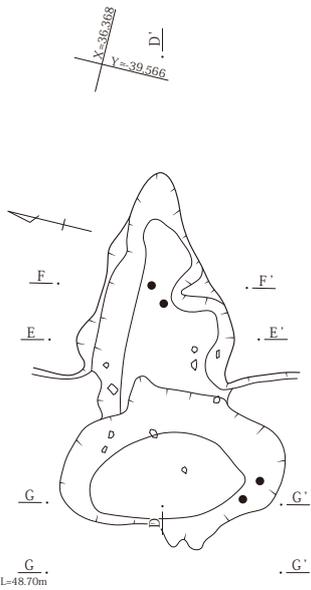
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土(φ1mm)を少量含む・褐色土粒子を含む [31住埋土]
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土を多量含む 褐色土粒子(φ1mm)を少量含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりあり 4層の混土 焼土粒(φ5mm程)少量含む [掘り方]
- 4層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり 焼土粒(φ5mm程)・炭粒を少量含む [掘り方]



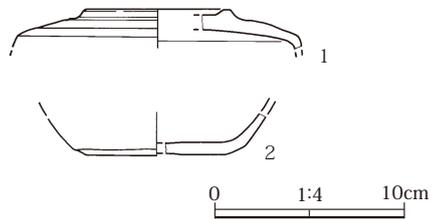
第106図 31号住居跡 カマド平・断面図

31号住居カマド 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石(φ1-2mm)・焼土(φ1.5mm)・褐色土粒子を少量含む
- 1'層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 含有物が多い
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土(φ1.5mm)を多く含む 褐色土粒子を少量含む [カマド燃焼部]
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土をやや多量含む ロームブロック(φ1mm)・炭化物を少量含む
- 4層 炭層 焼土粒(φ5mm程)・黄褐色土粒(φ5mm程)少量含む
- 5層 3層の焼土粒少量含む
- 6層 明黄褐色土(10YR 7/6) 粘性なし しまりやや有 3-5層の土で少し汚れるが焼土などはほとんど含まない 29住埋土を楕円状に掘り込んで土を入れた後に6層を敷きさらに土を入れて整える



第107図 31号住居跡カマド掘り方平・断面図



第108図 30号住居跡出土遺物

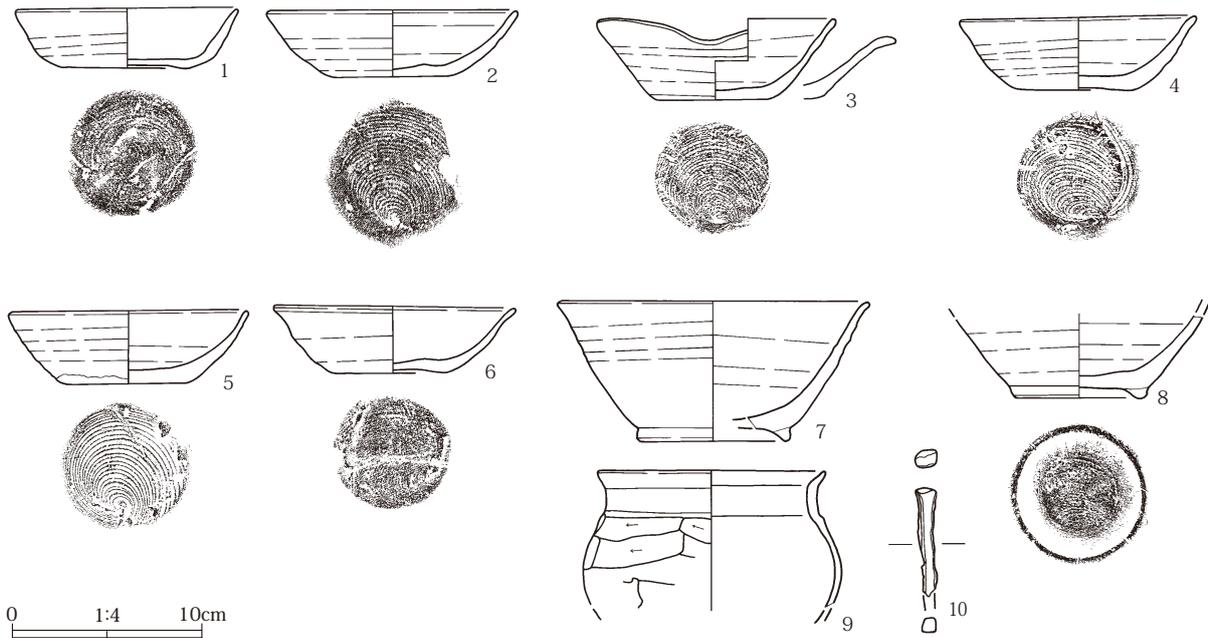
31号住居カマド掘り方 埋土(G-G')

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒・黄褐色土粒(φ10mm以下)・白色パミスφ2.5mm以下少量含む カマド周りを整えた土 [31住埋土]
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりややあり 焼土粒・白色軽石(φ5mm以下)少量含む [31住埋土]

1・2区30号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+12cm 口縁部～摘部 破片	口径 — 摘径 7.8 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	床面-10cm 胴部～底部 破片	口径 — 底径 7.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄褐(2.5Y 5/3)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	漆附着土器か。

第3章 検出遺構と出土遺物



第109図 31号住居跡出土遺物

1・2区31号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈掘方埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 11.4 底径 6.6 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 1/3	口径 12.9 底径 6.6 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(2.5Y 7/ 1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯 (片口)	竈埋土中 完形	口径 12.4 底径 6.0 器高 4.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(N 4/0)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部は外反し、一部は大きく外反する。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+16cm 口縁部～底部 4/5	口径 12.1 底径 5.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	竈埋土中 ほぼ完形 口縁部の一部欠損	口径 12.3 底径 6.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 杯	床面+5cm 口縁部～底部 2/3	口径 12.5 底径 6.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
7	須恵器 椀	竈埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 16.0 底径 8.0 器高 7.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 椀	床面+3cm 体部下半～底部 口縁部～体部上半欠損	口径 7.3 底径 7.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
9	土師器 小型甕	床面+3cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 11.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
10	鉄器	釘	1/2	5.7	1.1	0.8	7.0	錆化、腐食激しい。

1・2区32号住居跡 (旧称1・2区SJ-32)

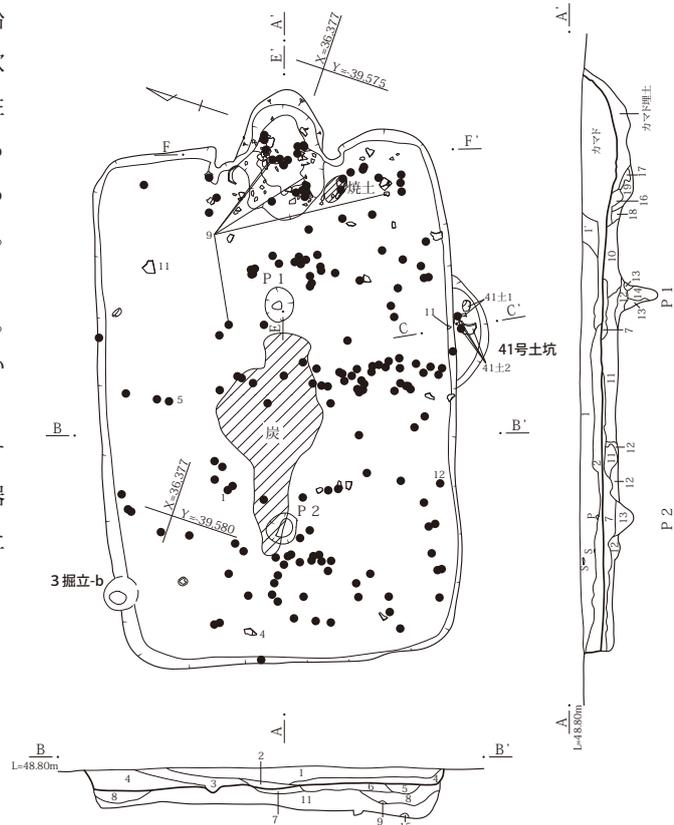
位置：X=36376 Y=-39578 主軸方向：N-71°-E 規模：5.5m×3.7m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：16cm～31cm 埋没土：白色軽石などを少量含むにぶい黄褐色土で埋没し、住居中央部付近の埋土下層には炭化物の堆積が認められることから、埋没途上の窪地にて焼き火を行ったものと推察される。

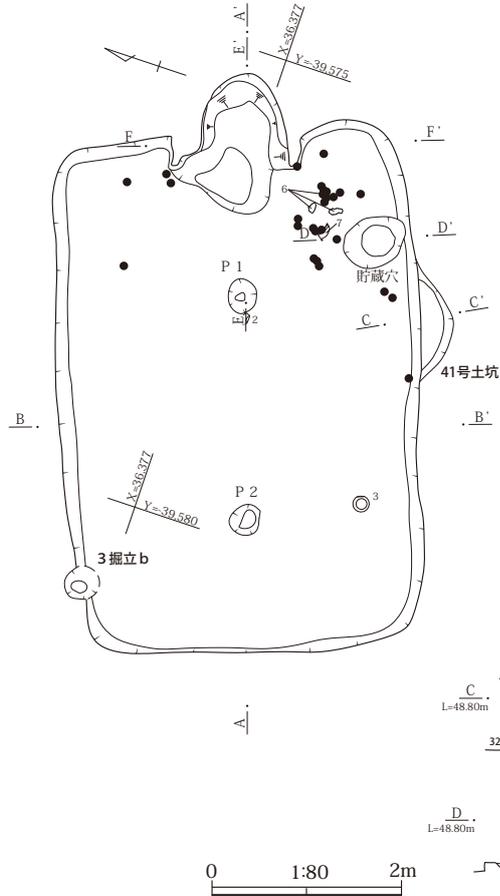
床面：地山ローム土を掘り込んだ後、15～30cmの厚さで貼り床を敷設する。

カマド：北東壁のほぼ中央に位置する。遺存状態は悪く、地山を掘り残した両袖部が辛うじて確認できた。焼き口幅は60cmほどを測り、焼き口部から煙道部にかけて焼土を含んだ灰層面と一部に天井部材の崩落も認められた。

柱穴：掘り方調査の段階で、住居中央長軸線上に沿うように、径31～36cm、深さ18～36cmを測る2穴が検出された。
貯蔵穴：カマドからやや離れた住居南壁付近で検出され、長軸70cm、短軸52cmを測る楕円形を呈する。埋土内に灰が帯状に堆積していることから、貯蔵目的の施設ではない可能性も有る。
壁周溝：確認できなかった。
重複遺構：41号土坑跡、3号掘立柱建物跡と重複する。いずれも遺構確認時～掘削時における埋土の様相から、本遺構が新しいものと判断される。
掘り方：全面にわたり15～30cmほどの掘り方を有する。
出土遺物：掘り方埋土中から略完形の須恵器杯(No. 3)、土師器甕(No. 6)が、床面直上で黒色土器杯(No. 1)が出土している。



第110図 32号住居跡平・断面図



第111図 32号住居跡掘り方平・断面図

32号住居 埋土

- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物・φ1mmの焼土をわずかに含むφ2mmの褐色土粒子を含むφ2mmの白色軽石を少量含む
- 1'層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ2～5mmの焼土・φ2mmの白色軽石を少量含む 炭化物をわずかに含む φ2mmの褐色土粒子を含む 2層にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物を帯状に含む 褐色土粒子(φ2mm)を少量含む
- 2'層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物を少量含む 焼土をわずかに含む
- 3層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物を帯状に含む 焼土・白色軽石をわずかに含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を少量含む 白色軽石・焼土をわずかに含む
- 5層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土をわずかに含む φ1.5～20mmのぶい黄褐色土ブロックを斑状に含む φ1mmの褐色土粒子を含む
- 6層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・炭化物・φ1mmの褐色土粒子・白色軽石を少量含む
- 7層 褐灰色土(10YR 4/1) 白色軽石・φ10mmの黒褐色土ブロック・φ1mmのロームブロックを少量含む
- 8層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石をわずかに含む φ1.5mmの黒褐色土ブロック・ローム粒子を少量含む
- 9層 ぶい黄褐色土(10YR 6/4) ブロック 褐灰色土粒子をわずかに含む
- 10層 褐灰色土(5TR 4/1) 褐色土粒子を少量含む
- 11層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を少量含む
- 12層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土・φ1.5mmのロームブロックを少量含む
- 13層 褐灰色土(10YR 4/1) ロームブロック(φ1mm)を少量含む
- 14層 褐灰色土(10YR 4/1) ローム粒子を多く含む
- 15層 黄色砂質ローム(ブロック) φ5mmのぶい黄褐色土ブロックを少量含む
- 16層 ぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ1～10mmの黒褐色土ブロックを含む 白色軽石を少量含む [カマド掘り方]
- 17層 ぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ2mmの黒褐色土ブロックを多く含む [カマド掘り方]
- 18層 ぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ0.5～15mmの黒褐色土ブロックを多く含む [カマド掘り方]
- 19層 黒褐色土(10YR 3/1) 微細なぶい黄褐色土粒子をわずかに含む [カマド掘り方]

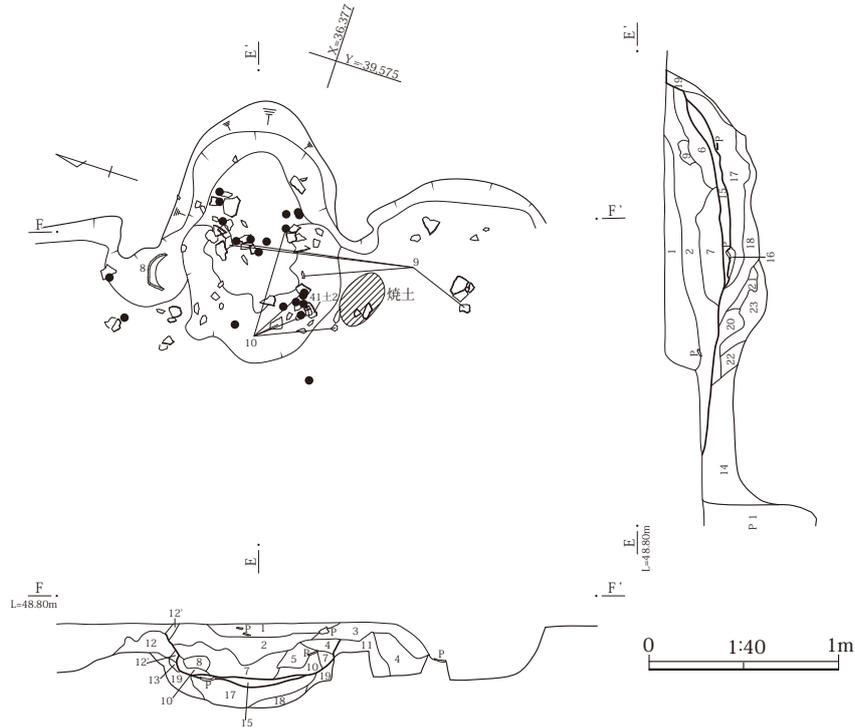
41号土坑 埋土

- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 6/3) 少量の白色軽石(浅間C軽石+榛名ニッ岳軽石) 焼土粒子を含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量のぶい黄褐色土ブロックと微量の白色軽石を含む 土シルト土小ブロックを含む
- 4層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石と焼土粒子を含む

32号住居貯蔵穴 埋土

- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 灰を帯状に含む
- 2層 灰層 暗青灰色(10BG 4/1) 焼土を少量含む
- 3層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・φ1mmのローム粒子を少量含む
- 4層 灰層 暗青灰色(10BG 4/1) 焼土をわずかに含む φ0.25mmのローム粒子を含む
- 5層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・φ3mmのぶい黄褐色土粒子を少量含む
- 6層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ10mmのぶい黄褐色土ブロックを少量含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) ローム粒子を少量含む

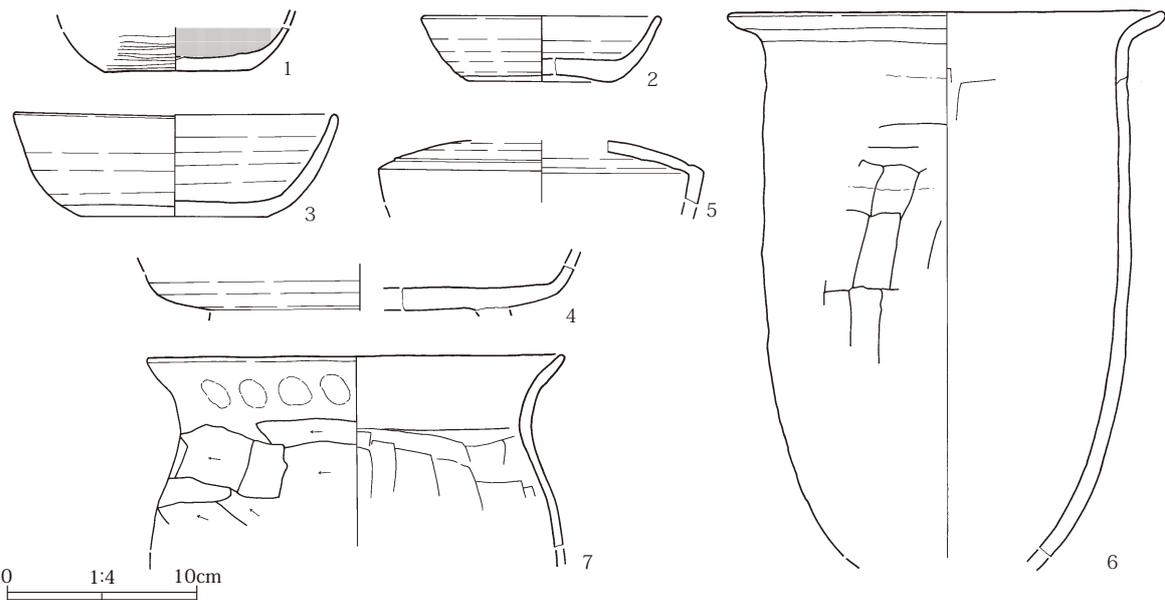
第3章 検出遺構と出土遺物



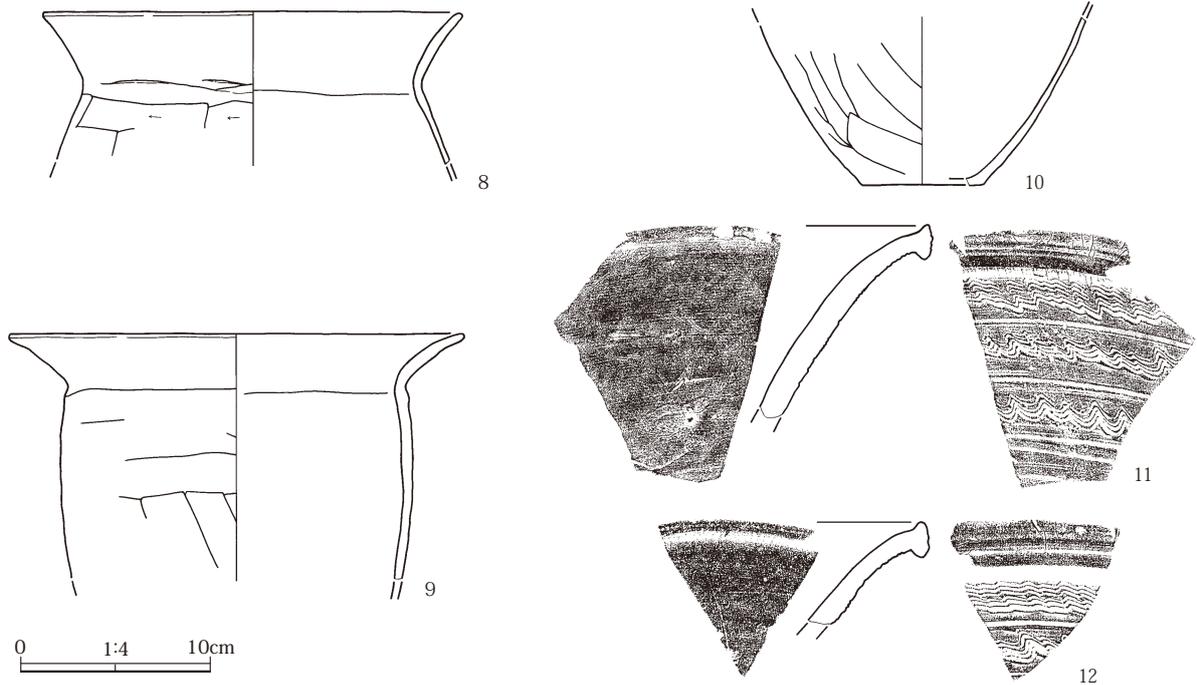
32号住居カマド 埋土

- | | |
|---|---|
| <p>1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ1~5mmの焼土・φ1mmの黒褐色ブロックを少量含む 白色軽石をわずかに含む</p> <p>2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ1~3mmの焼土・φ1~5mmの黒褐色ブロックを多く含む 褐色土粒子を含む</p> <p>3層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・白色軽石をわずかに含む褐色土粒子を含むローム粒子を少量含む</p> <p>4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土をわずかに含む 黒褐色土ブロック(φ20mm)を含む</p> <p>5層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土・褐色土粒子を少量含む</p> <p>6層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を多く含む 炭化物を含む [カマドの煙道部]</p> <p>7層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ10mmの焼土ブロックを多く含む φ1~2mm焼土を少量含む</p> <p>8層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土ブロックを多く含む [カマドの天井崩落部]</p> <p>9層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土を多く含む [カマドの天井崩落部]</p> <p>10層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ0.5mmの褐色土ブロックを少量含む</p> <p>11層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ1mmの褐色土粒子を少量含む 堅い「カマドの袖」</p> <p>12層 黒褐色土(10YR 3/1) カマドの袖</p> | <p>12'層 黒褐色土(10YR 3/1) ブロック・灰黄褐色土粒子を含む</p> <p>13層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 黒褐色土ブロック(φ20mm)を少量含む</p> <p>14層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 住居の床面</p> <p>15層 灰層(N5) 焼土を少量含む [カマド使用面]</p> <p>16層 にぶい黄褐色土(10YR 3/4) 灰を多く含む 焼土を少量含む</p> <p>17層 褐灰色土(10YR 4/1) 炭化物を少量含む 焼土を多く含む 灰を含むローム粒子をわずかに含む</p> <p>18層 灰黄褐色土(10YR 3/2) 焼土・φ1mmの褐灰色土ブロックを少量含む</p> <p>19層 褐灰色土(10YR 4/1) ローム粒子をわずかに含む 軽石を少量含む</p> <p>21層 にぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ2mmの黒褐色土ブロックを多く含む</p> <p>22層 にぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ0.5~15mmの黒褐色土ブロックを多く含む</p> <p>23層 黒褐色土(10YR 3/1) 微細なにぶい黄褐色土粒子をわずかに含む</p> |
|---|---|

第112図 32号住居跡カマド平・断面図



第113図 32号住居跡出土遺物(1)



第114図 32号住居跡出土遺物(2)

1・2区32号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 7.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内外面黒色処理 ③ 灰(5Y 4/1)	内・外面燻し。 外面：体部ナデ後ヘラ磨き。 内面：体部ナデ後ヘラ磨き。単位不鮮明。	
2	須恵器 杯	床面-6cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.4 底径 7.6 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面-6cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 16.8 底径 9.7 器高 5.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(7.5YR 6/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 高台付盤	床面+15cm 口縁部~底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 暗灰(N 3/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部上半横ナデ、体部下半~底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部~体部回転ナデ調整、底部ナデ調整。	
5	須恵器 長頸壺	床面+6cm 肩部 破片	口径 — 台径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。 外面：回転ナデ。 内面：横ナデ。	
6	土師器 甕	床面-13cm 口縁部~胴部 破片	口径 22.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤(10R 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
7	土師器 甕	床面-15cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 21.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。口縁部に指頭痕が残る。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
8	土師器 甕	竈埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(5YR 4/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	土師器 甕	竈埋土中 口縁部~胴部上半 破片	口径 23.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 甕	竈埋土中 胴部下半~底部 破片	口径 — 底径 6.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：胴部縦方向ヘラ削り~底部ヘラ削り。 内面：胴部~底部ヘラナデ。	
11	須恵器 甕	床面+15cm 口縁部 破片	口径 42.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 8/1)	ロクロ整形。 外面：凹線による区画、区画内に波状文を3段施文。 内面：口縁部~胴部横ナデ調整。指頭痕あり。	
12	須恵器 甕	床面+6cm 口縁部 破片	口径 35.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 8/1)	ロクロ整形。 外面：凹線による区画、区画内に波状文。 内面：口縁部~胴部横ナデ調整。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区33号住居跡 (旧称1・2区SJ-33)

位置：X=36368 Y=-39636 主軸方向：N-74°-E

規模：3.0m×2.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：48cm～56cm 埋没土：主に白色軽石を含む黒褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

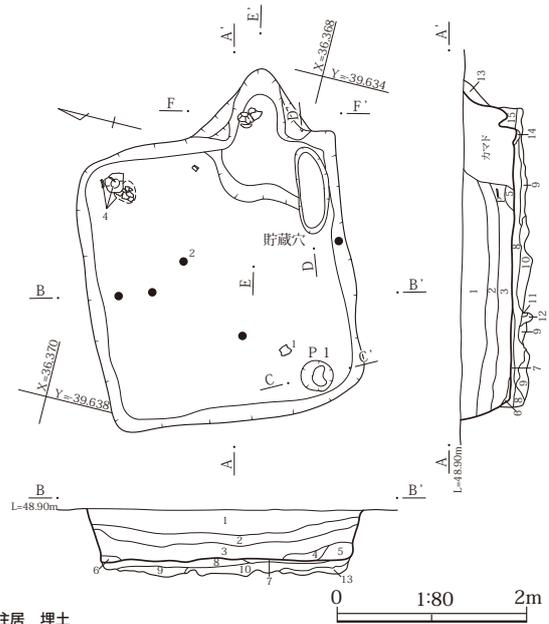
床面：掘り方をローム土を主体とした黄褐色土で埋め戻した後、上面の一部に厚さ3cmほどの粘質黒褐色土で貼り床が敷設されている。カマド：北東壁の南寄りに位置する。残存状況は不良。焚き口幅は50cmほどを測り、焚き口部から煙道部にかけて一部であるが灰層面が確認できた。

柱穴：南側コーナー付近の壁際で1基検出されるものの、深度17cmほどしかなく、柱穴には成り得ない。

貯蔵穴：カマド脇、住居東コーナー部において検出される。長軸93cm、短軸33cmの楕円形を呈し、埋土に焼土と炭化物が堆積している状況が伺え、廃絶時にカマド部材が混入したものと考えられる。壁周溝：なし。重複遺構：なし。

掘り方：全体に地山ローム土を9～20cmほど掘り窪める。

出土遺物：埋土中からは、土師器小型甕(No. 3)や須恵器杯(No. 2)・蓋(No. 1)の他、黒色土器杯の破片が出土している。

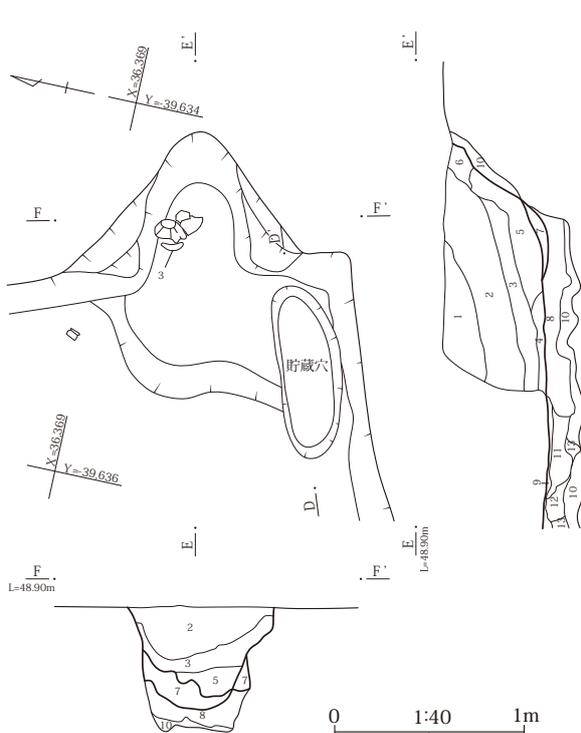


- 33号住居 埋土**
- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒混ざる 焼土粒含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)・黒色土・褐色土混ざる 焼土粒含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)・褐色土混ざる 焼土粒含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ1mm)・砂混ざる
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土混ざる
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)少量混ざる
 - 7層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘質土・白色軽石(φ1mm)混ざる 焼土粒含む [貼り床]
 - 8層 黒褐色土(10YR 3/2) 黄褐色土粒混ざる [掘り方埋土]
 - 9層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色土混ざる [掘り方埋土]
 - 10層 黄褐色土(10YR 5/6) 黒褐色土混ざる [掘り方埋土]
 - 11層 黒褐色土(10YR 2/2) 掘り方埋土]
 - 12層 黒褐色土(10YR 2/2) 黄褐色土混ざる [掘り方埋土]
 - 13層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色土混ざる [掘り方埋土]
 - 14層 灰層 焼土粒・炭化物含む [カマド7層土に同じ]
 - 15層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒混ざる 焼土粒含む

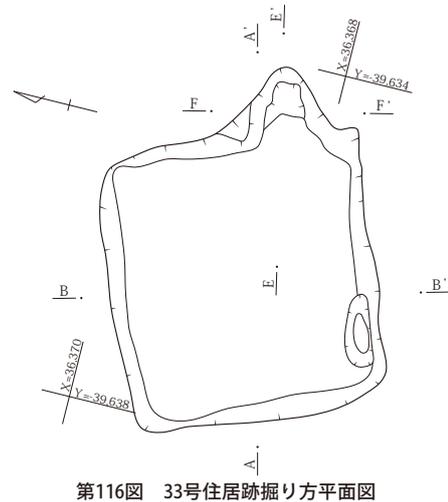
- 33号住居P1 埋土**
- 1層 褐色土(10YR 4/4)
 - 2層 焼土・炭化物層
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/4)
 - 4層 褐色土(10YR 4/4)

- 33号住居貯蔵穴 埋土**
- 1層 焼土・炭化物層
 - 2層 焼土・炭化物層 粘質土混ざる しまりあり
 - 3層 褐色土(10YR 4/4) 掘り方埋土

第115図 33号住居跡平・断面図

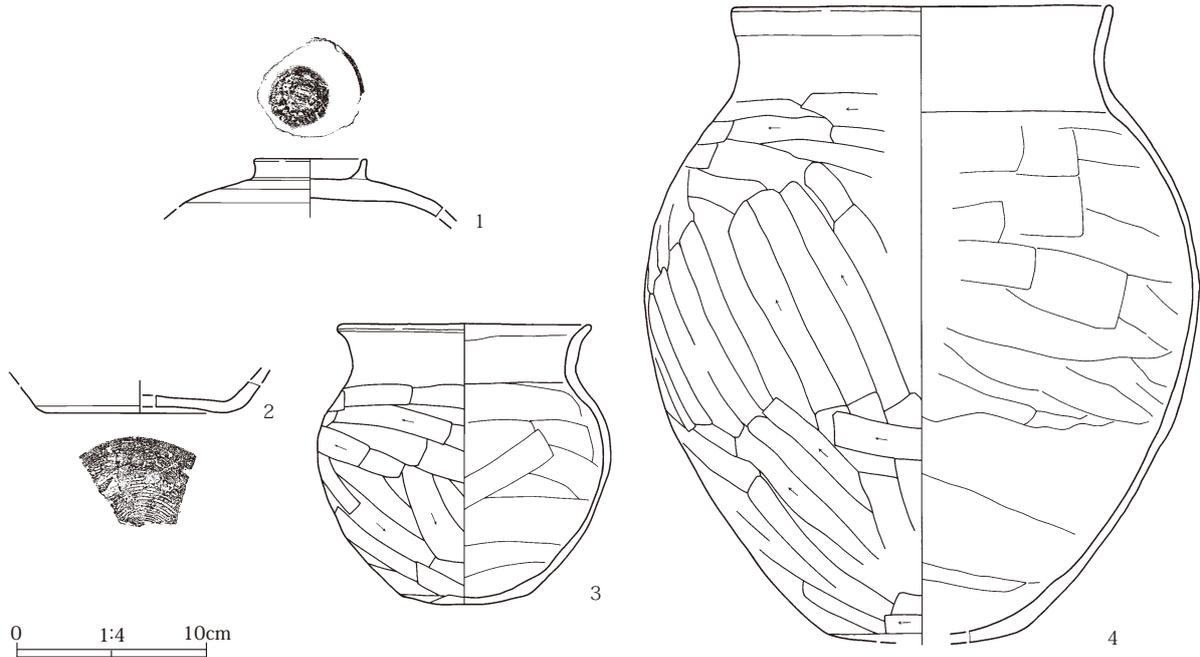


第117図 33号住居跡カマド平・断面図



第116図 33号住居跡掘り方平面図

- 33号住居カマド 埋土**
- 1層 褐色土(10YR 4/4) 軽石多量・焼土粒含む
 - 2層 褐色土(10YR 4/4) 軽石・焼土粒含む
 - 3層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒含む
 - 4層 明黄褐色土(10YR 6/8) カマド天井部の構築材か
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・灰含む しまり強い 褐色粘質土
 - 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)混ざる 焼土粒含む
 - 7層 灰層 焼土粒・炭化物含む
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) しまりなし
 - 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘質土・黄褐色土混ざる [貼り床]
 - 10層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色土混ざる
 - 11層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土混ざる 炭化物・焼土粒含む [掘り方埋土]
 - 12層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土混ざる [掘り方埋土]
 - 13層 褐色土(10YR 4/6) 黄褐色土混ざる [掘り方埋土]



第118図 33号住居跡出土遺物

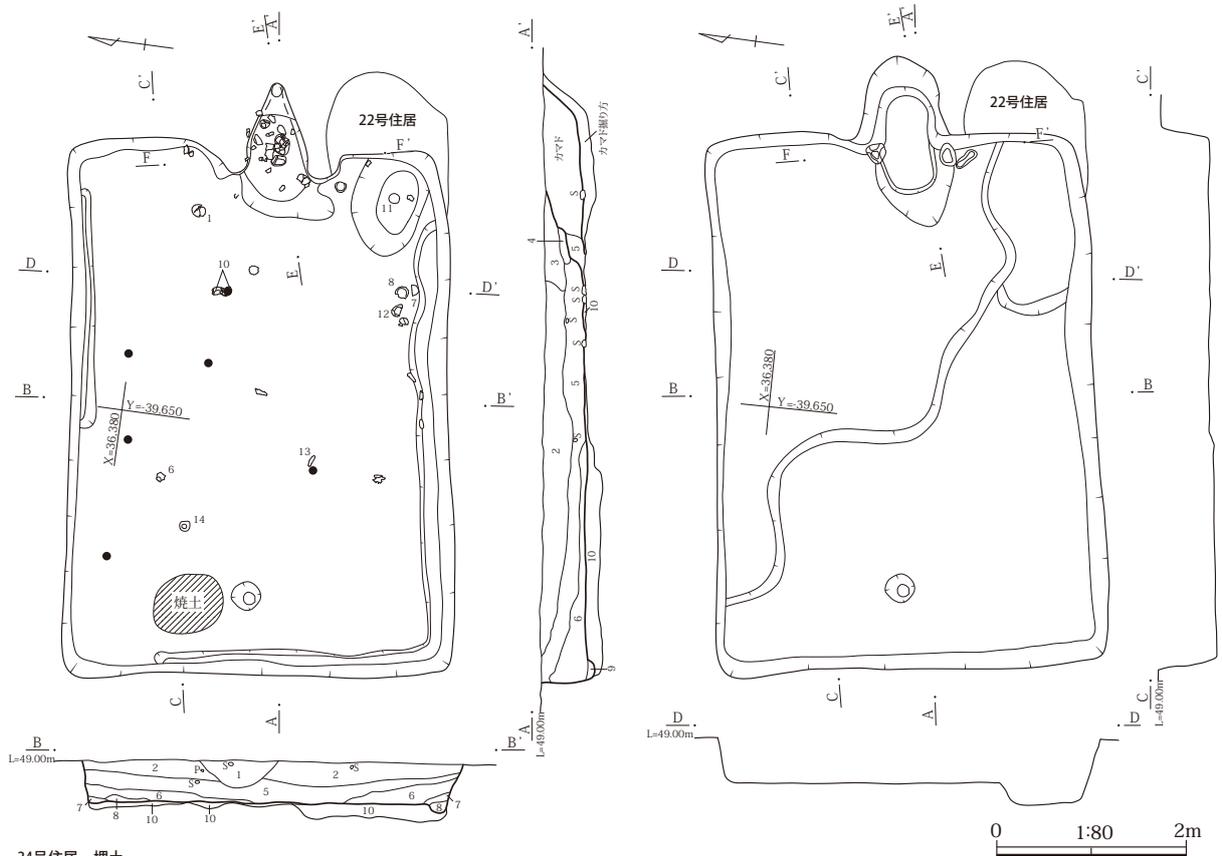
1・2区33号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+36cm 天井部～摘部 破片	口径 — 摘径 5.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	床面+52cm 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 9.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 5/1)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周辺部は回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
3	土師器 小型甕	竈埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 13.0 底径 6.8 器高 14.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横方向のヘラ削り、胴部下 半縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
4	土師器 甕	床面+17cm 口縁部～底部 1/3	口径 19.6 底径 10.0 器高 33.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部～上位横、中位・下位斜め方向 ヘラ削り。底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	

1・2区34号住居跡 (旧称 1・2区SJ-34)

位置：X=36378 Y=-39650 **主軸方向：**N-82° - E **規模：**5.7m×4.0m **平面形状：**隅丸長方形
残存深度：42cm～50cm **埋没土：**白色軽石と黄褐色土粒・礫を含む暗褐～黒褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。 **床面：**掘り方を黄褐色土で埋め戻した後、上面に薄く粘質土を用いた貼り床を敷設している。
カマド：東壁のほぼ中央に位置する。両袖部共に遺存状態は比較的良好。焚き口幅は60cmほどを測り、煙道部は長く緩やかに立ち上がる。煙道部先端は崩落焼土があり、煙突部をふさいだ状況で検出される。焚き口部から煙道部にかけて灰が厚く堆積しており、焼土と炭化物も多く認められる。両袖部には芯材として袖石を据え、その周囲を粘質褐色土で構築している。 **柱穴：**掘り方調査時において検出された住居中心軸西壁寄りの一穴が、位置的に柱穴と成るものと考えられる。 **貯蔵穴：**カマド脇の住居南東コーナー部に検出される。長軸103cm、短軸75cmの楕円形で、深さ8cmを測る。埋土中からは、ほぼ完形の墨書須恵器碗(No.11)が出土している。
壁周溝：カマドのある東壁と住居北西コーナー部を除く壁際において、幅20～40cm、深さ2～10cmを測る壁溝が検出される。 **重複遺構：**22号住居跡・7号溝跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相から、本遺構は22号住居跡より新しく、7号溝跡より古いものと判断される。 **掘り方：**やや起伏を持ち、全面にわたり2～15cmほどの深さで掘り窪める。 **出土遺物：**全体的に出土量は少ない。床面直上から土師器杯(No. 1)、ほぼ完形の須恵器杯(No. 7・10)・碗(No.13)、埋土中からは土師器杯(No. 2・3・4)、須恵器蓋(No. 6)、黒色土器杯(No. 5)の破片が出土している。

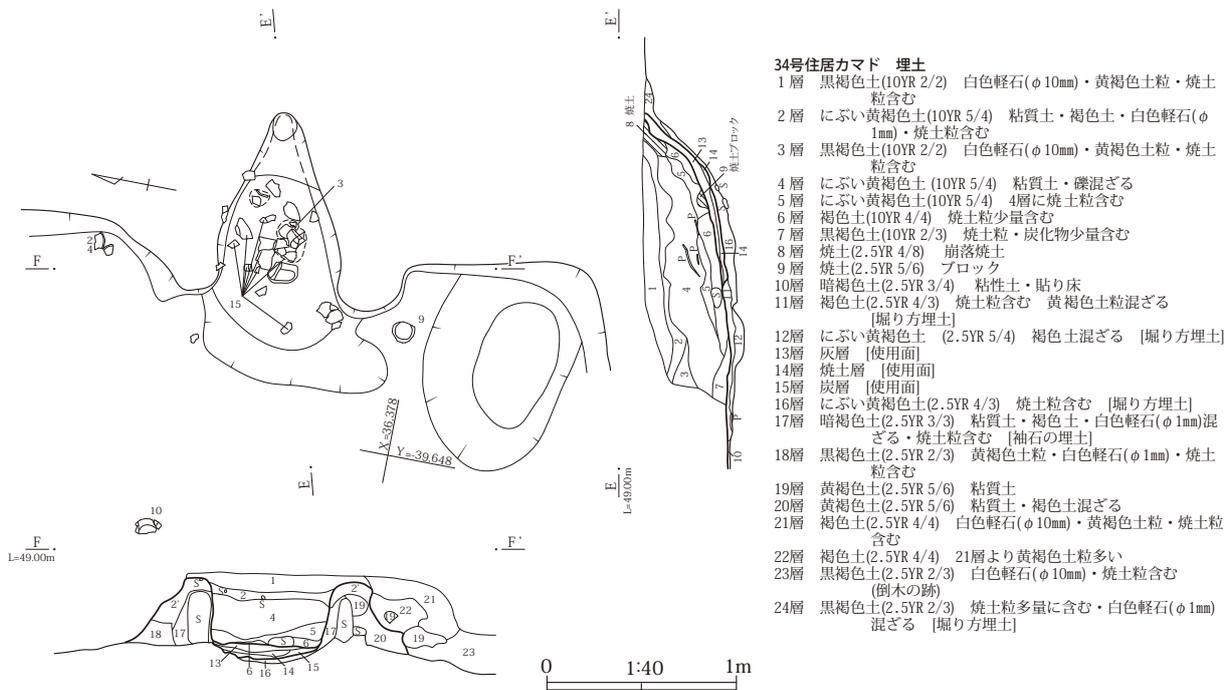
第3章 検出遺構と出土遺物



34号住居 埋土

- | | |
|---|--|
| 1層 暗色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒(〜φ30mm)・礫・焼土粒含む | 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 焼土粒含む |
| 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・礫・焼土粒含む | 8層 焼土・炭化物 |
| 3層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒・少量の炭化物含む | 9層 褐色土(10YR 4/4) 周溝埋土 |
| 4層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土(熱による変質)褐色土混ざる 焼土粒含む | 10層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土ブロック混ざる [掘り方埋土] 極薄の粘質土上部に残る [貼り床] |
| 5層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒含む | |
| 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)・黒色土ブロック・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む | |

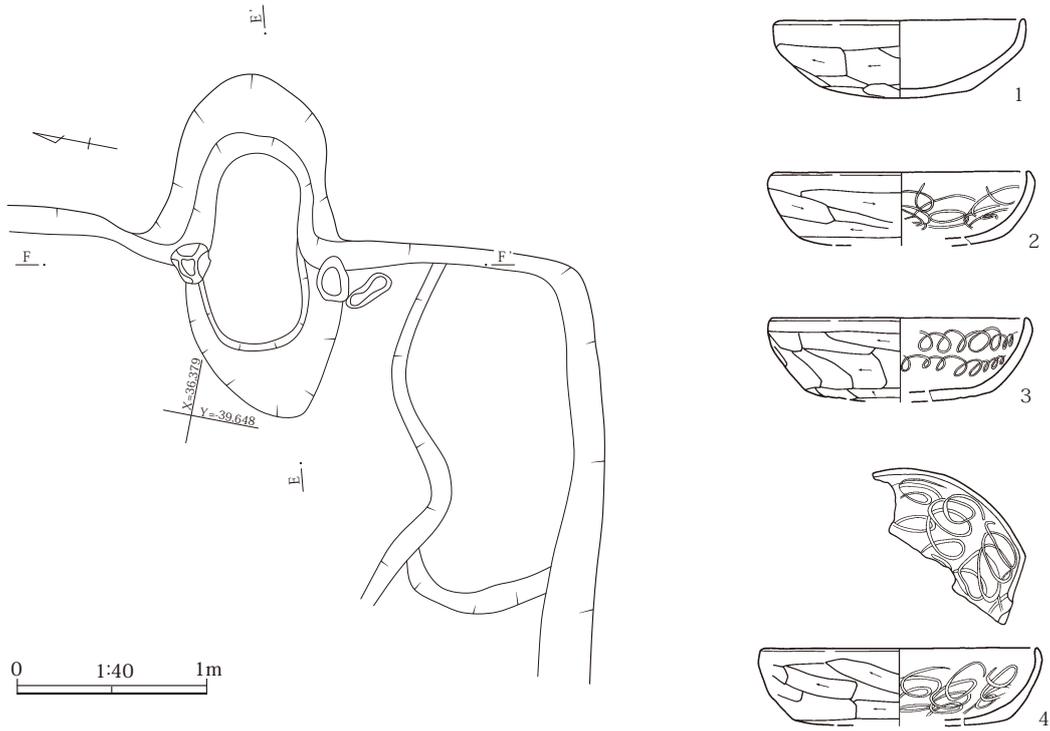
第119図 34号住居跡平・断面図、掘り方平・断面図



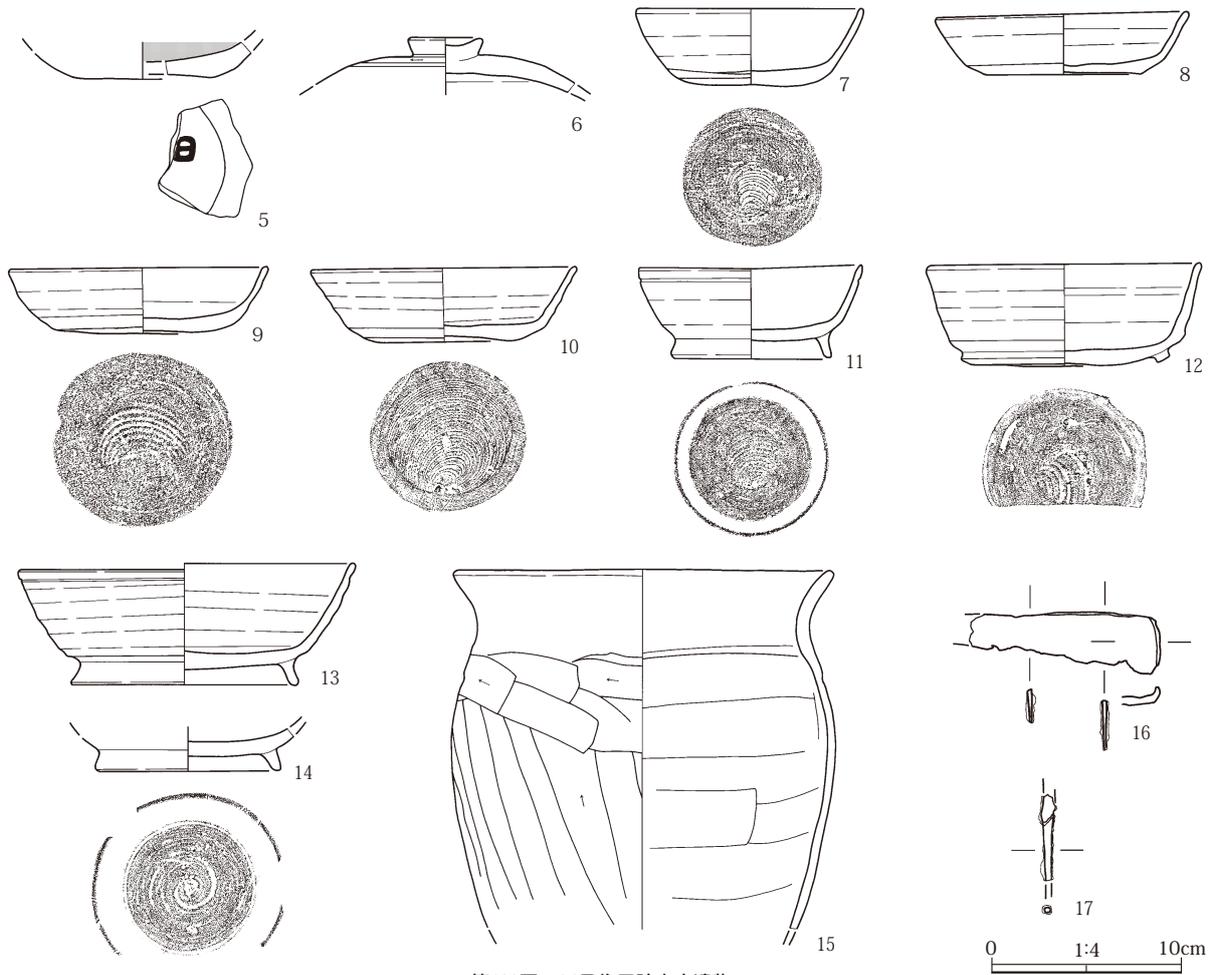
34号住居カマド 埋土

- | |
|---|
| 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・焼土粒含む |
| 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・褐色土・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む |
| 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・焼土粒含む |
| 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・礫混ざる |
| 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 4層に焼土粒含む |
| 6層 褐色土(10YR 4/4) 焼土粒少量含む |
| 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 焼土粒・炭化物少量含む |
| 8層 焼土(2.5YR 4/8) 崩落焼土 |
| 9層 焼土(2.5YR 5/6) ブロック |
| 10層 暗褐色土(2.5YR 3/4) 粘性土・貼り床 |
| 11層 褐色土(2.5YR 4/3) 焼土粒含む 黄褐色土粒混ざる [掘り方埋土] |
| 12層 にぶい黄褐色土 (2.5YR 5/4) 褐色土混ざる [掘り方埋土] |
| 13層 灰層 [使用面] |
| 14層 焼土層 [使用面] |
| 15層 炭層 [使用面] |
| 16層 にぶい黄褐色土(2.5YR 4/3) 焼土粒含む [掘り方埋土] |
| 17層 暗褐色土(2.5YR 3/3) 粘質土・褐色土・白色軽石(φ1mm)混ざる・焼土粒含む [袖石の埋土] |
| 18層 黒褐色土(2.5YR 2/3) 黄褐色土粒・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む |
| 19層 黄褐色土(2.5YR 5/6) 粘質土 |
| 20層 黄褐色土(2.5YR 5/6) 粘質土・褐色土混ざる |
| 21層 褐色土(2.5YR 4/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・焼土粒含む |
| 22層 褐色土(2.5YR 4/4) 21層より黄褐色土粒多い |
| 23層 黒褐色土(2.5YR 2/3) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む [倒木の跡] |
| 24層 黒褐色土(2.5YR 2/3) 焼土粒多量に含む・白色軽石(φ1mm)混ざる [掘り方埋土] |

第120図 34号住居跡カマド平・断面図



第121図 34号住居跡カマド掘り方平面図



第122図 34号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区34号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法		備考
				口径	底径	器高	外面	内面	
1	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 2/3	口径 13.0 底径 — 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部横方向、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。		
2	土師器 杯	床面+7cm 口縁部～底部 破片	口径 13.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。体部に螺旋状 暗文。	No.2・3と同一 個体か。	
3	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 1/3	口径 13.4 底径 8.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部横方向、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。口縁部に2段 の螺旋状暗文。	No.3・4と同一 個体か。	
4	土師器 杯	床面+7cm 口縁部～底部 破片	口径 14.4 底径 — 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。底部から口縁 部に向けて縦方向に螺旋状暗文。	No.2・4と同一 個体か。	
5	黒色土器 杯	埋土中 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 8.0 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい橙(7.5YR 7/3)	—	—	外面：口縁部横ナデ。底部ナデ調整。 内面：体部～底部ナデ後ヘラ磨き。	底部外面に 「田？」の墨書。	
6	須恵器 杯蓋	床面+7cm 天井部～摘部 破片	口径 — 摘部 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	—	—	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部回転上半ヘラ削り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。		
7	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 11.8 底径 7.3 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	—	—	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘ ラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内外面に火燻が 認められる。	
8	須恵器 杯	床面+4cm 口縁部～底部 4/5	口径 13.0 底径 8.1 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄橙(10YR 7/2)	—	—	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	歪みあり。	
9	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 13.2 底径 9.3 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	—	—	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘ ラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
10	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 一部欠損	口径 13.6 底径 6.6 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	—	—	ロクロ整形。回転左回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
11	須恵器 椀	貯蔵穴埋土中 ほぼ完形 一部欠損	口径 11.5 底径 8.0 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	—	—	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周辺部 を回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
12	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口径 14.0 底径 10.8 器高 5.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	—	—	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘ ラ削り調整。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
13	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 4/5	口径 17.3 底径 12.4 器高 6.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	—	—	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘ ラ削り調整。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	口縁部内面に油 煙と火燻が認め られる。	
14	須恵器 椀	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 9.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	—	—	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	転用碗の可能性 あり。	
15	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部 1/2	口径 19.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	—	—	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。		

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
16	鉄器	鎌	基部側 2/3	9.9	3.3	0.5	20.0	刃部の欠損が激しい
17	鉄器	鎌	頸部片	4.7	0.5	0.5	2.0	関の上位で折れたか。

1・2区35号住居跡 (旧称1・2区SJ-35)

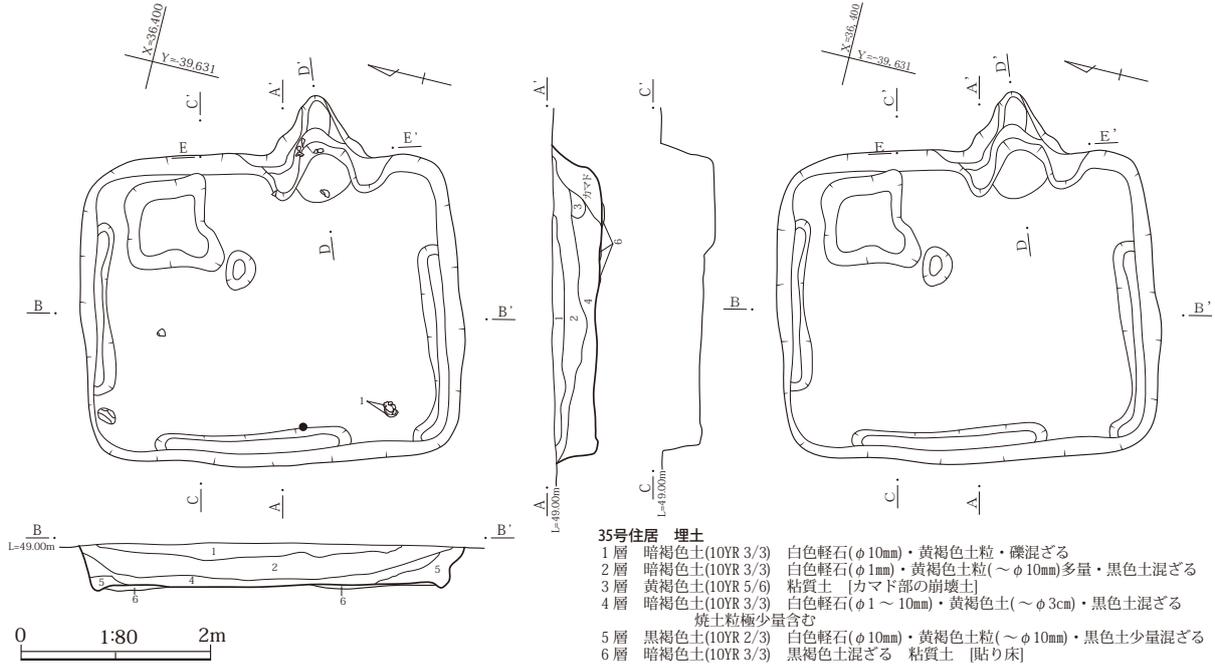
位置：X=36398 Y=-39633 主軸方向：N-72°-E 規模：3.3m×4.0m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：36cm～54cm 埋没土：白色軽石・礫をなど含む暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。

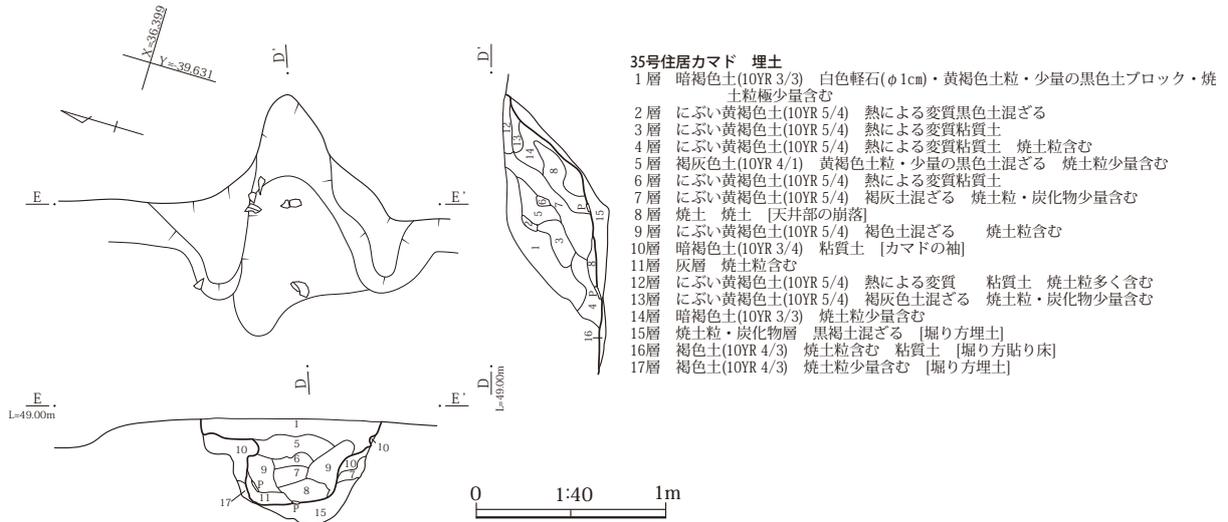
床面：地山ローム土を整形し床面とするが、一部に黄褐色土で埋め戻した上に、粘質暗褐色土を用いて貼り床が敷設されている。カマド：北東壁の南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。使用面直上にある焼土化した天井部崩落土が堆積し、直下に灰層も検出された。両袖部は礫等の芯材を用いずに暗褐色粘質土で構築される。

柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：カマドを有する東壁を除く各壁において、一部途切れながら幅28～40cm、深さ2～5cmを測る壁溝が検出される。重複遺構：なし。

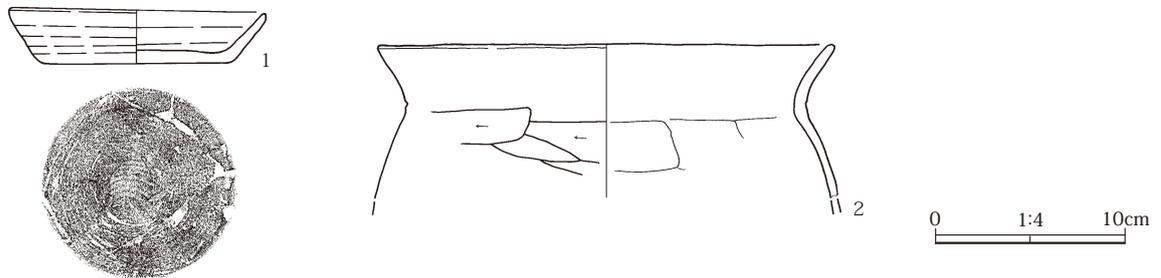
出土遺物：床面直上から略完形の須恵器杯(No.1)が出土する。



第123図 35号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第124図 35号住居跡カマド平・断面図



第125図 35号住居跡出土遺物

1・2区35号住居跡出土遺物観察表

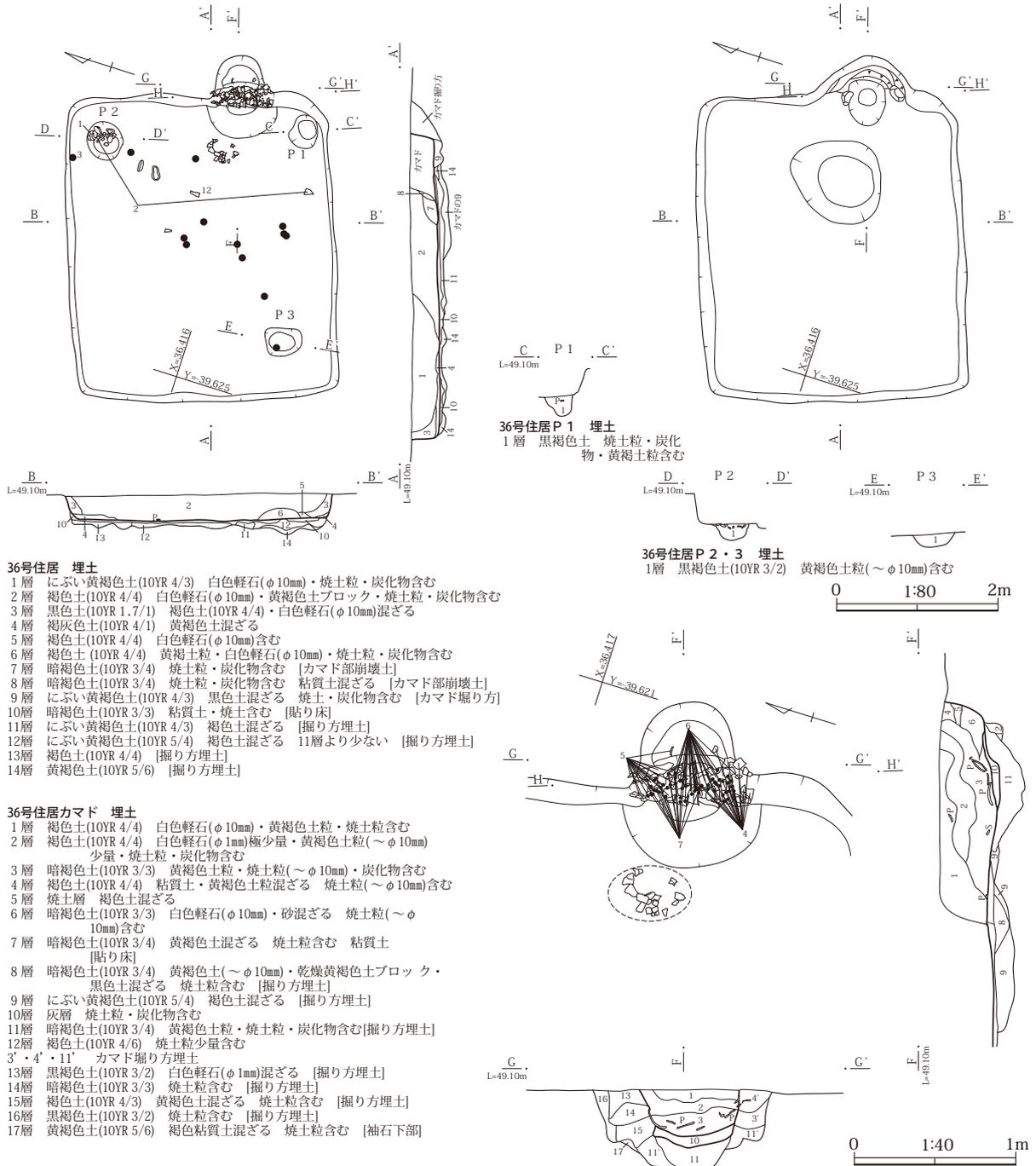
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.3 底径 10.0 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化燻 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。 内面：体部〜底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	土師器 甕	竈使用面直上 口縁部〜胴部上端 破片	口径 23.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化燻 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

第3章 検出遺構と出土遺物

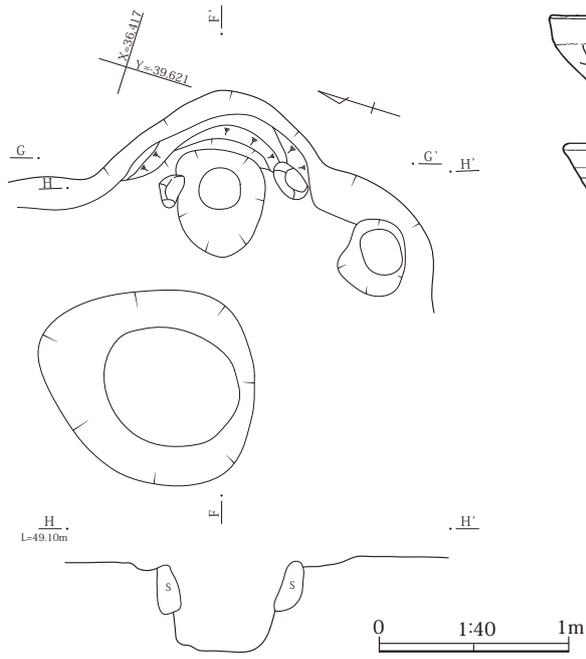
1・2区36号住居跡 (旧称1・2区SJ-36)

位置：X=36416 Y=-39623 主軸方向：N-73°-E 規模：3.8m×3.3m 平面形状：隅丸長方形

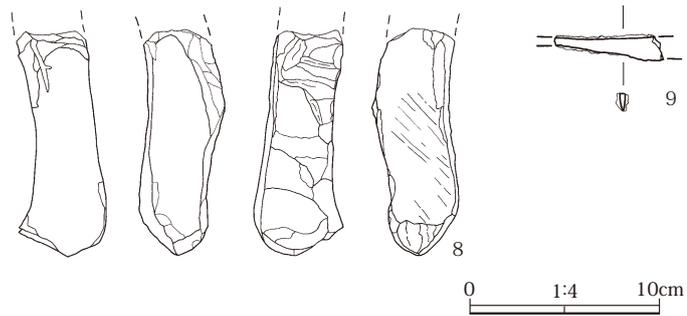
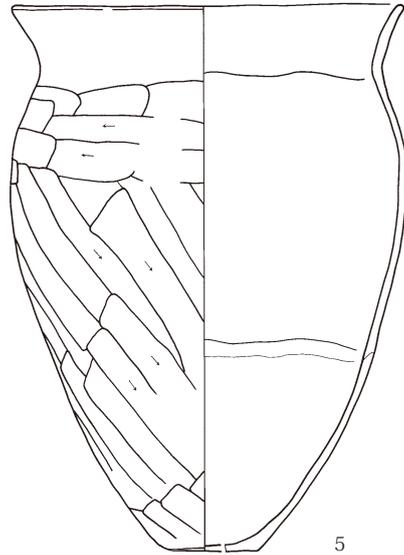
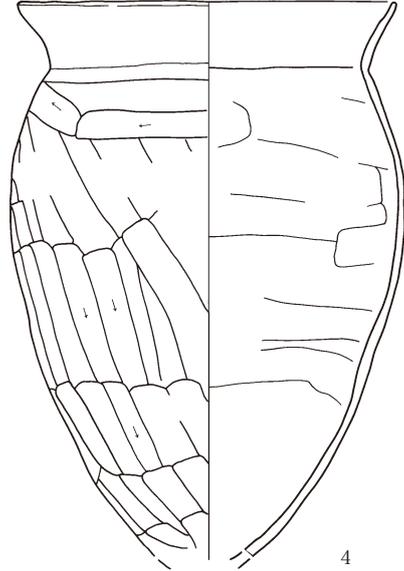
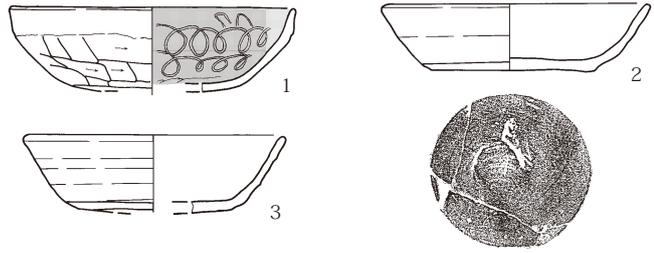
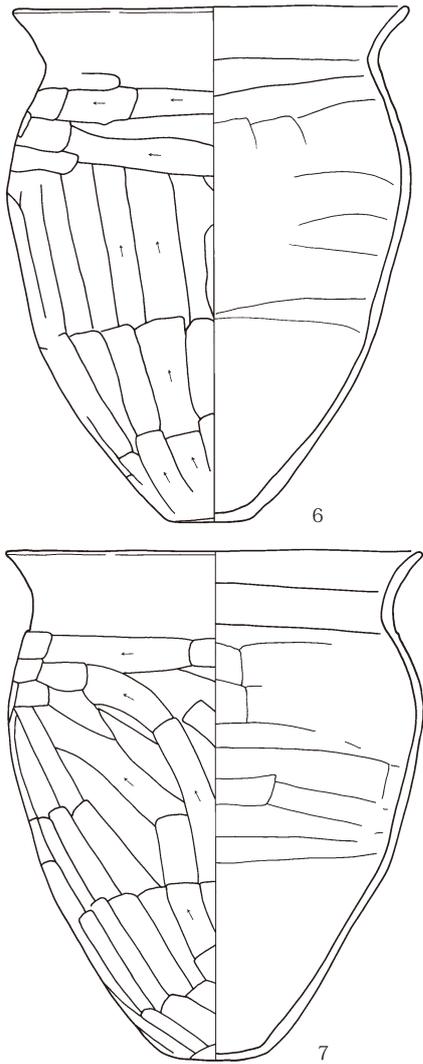
残存深度：28cm～34cm 埋没土：主に白色軽石・黄褐色土ブロックなど含む褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：薄く黄褐色土と暗褐色粘質土で貼り床が敷設される。カマド：北東壁の南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。両袖部には芯材として礫を埋設し、この礫にかかるように天井部芯材として4個体の土師器甕が横位に連ねた状態で検出された。また、崩落天井部の直下には灰層面が検出される。煙道部は短く、急峻に立ち上がる。柱穴：北西壁コーナー部を除く各住居のコーナー部付近より径32～48cm、深さ14～22cmを測る3基のピットを検出した。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：細かな凹凸を残し、地山ローム土を掘り窪める。出土遺物：カマド部構築材としての土師器甕(No. 4・5・6・7)のほか、床面直上から須恵器杯(No. 3)が出土する。



第126図 35号住居跡平・断面図



第127図 35号住居跡カマド掘り方平・断面図



第128図 36号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区36号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯	P1埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 14.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	口縁部下に輪積痕が残る。 外面：口縁部横ナデ、体部～底部はヘラ削り。 内面：口縁部～底部ナデ後体部に3段の螺旋状暗文。	
2	須恵器 杯	P2埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 13.5 底径 8.4 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロク口整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 13.5 底径 8.0 器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロク口整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部 底部欠損	口径 19.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中・下位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
5	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 20.2 底径 4.8 器高 28.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中・下位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
6	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形 一部欠損	口径 20.4 底径 4.3 器高 27.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中・下位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	胴部下半～底部に黒斑あり。
7	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 21.6 底径 5.7 器高 27.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中・下位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	底部外面に輪状削り痕あり。胴部下半～底部に黒斑あり。

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
8	石製品	砥石	完形	11.8	4.4	4.7	300	砥沢石	床面+1cm
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
9	鉄器	刀子	柄～刃基部片	5.6	1.2	0.7	5.0	錆、腐食が激しい。	

1・2区37号住居跡 (旧称1・2区SJ-37)

位置：X=36420 Y=-39615

主軸方向：N-70° - E 規模：5.4m×4.6m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：23cm～40cm

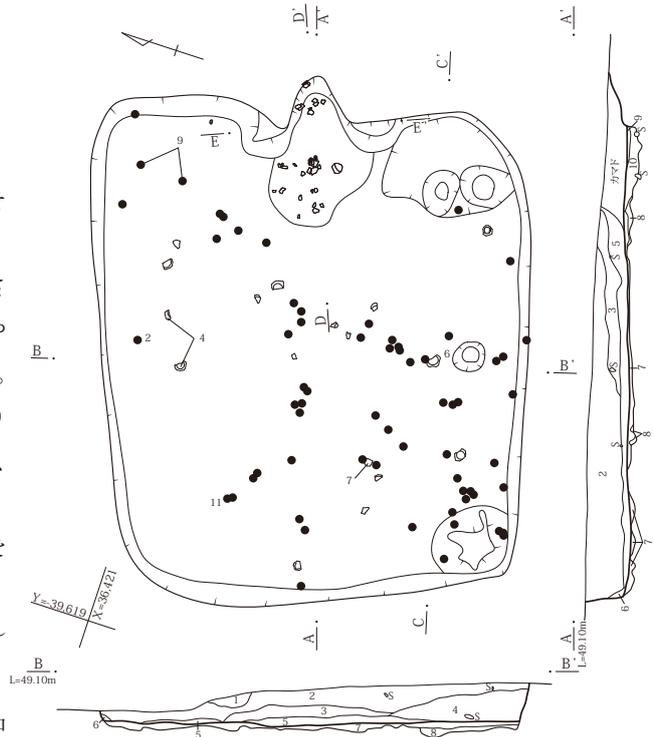
埋没土：主に白色軽石等を含む黒褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。

床面：浅い掘り方の上に、暗褐色粘質土を用いて厚さ4cmほどの貼り床を敷設する。カマド：北東壁のやや南寄りに位置する。煙道部は短く急峻に立ち上がる。天井部崩落焼土下の使用面灰層は顕著ではない。掘り方埋土内に焼土・炭化物が多く混在していることから、修復・作り直しがあったものと推察される。

柱穴：掘り方調査時において径30～36cm、深さ20cmを測る1穴を検出する。貯蔵穴：なし。

壁周溝：掘り方調査時において南東壁下のみに幅34～44cm、深さ6cmを測る壁溝を検出する。

重複遺構：なし。掘り方：地山ローム土を浅く凹凸に掘り窪める。また、カマド掘り方底面には地山礫層が露出する。出土遺物：床面直上からは須恵器杯(No. 6)・蓋(No. 2)の破片が、また、埋土中からは土師器杯(No. 1)・甕(No. 9・10・11)、須恵器杯(No. 4・5)・椀(No. 7)・蓋(No. 3)・短頸壺(No. 8)・甕(No. 12)、土錘(No. 13・14)などが出土している。

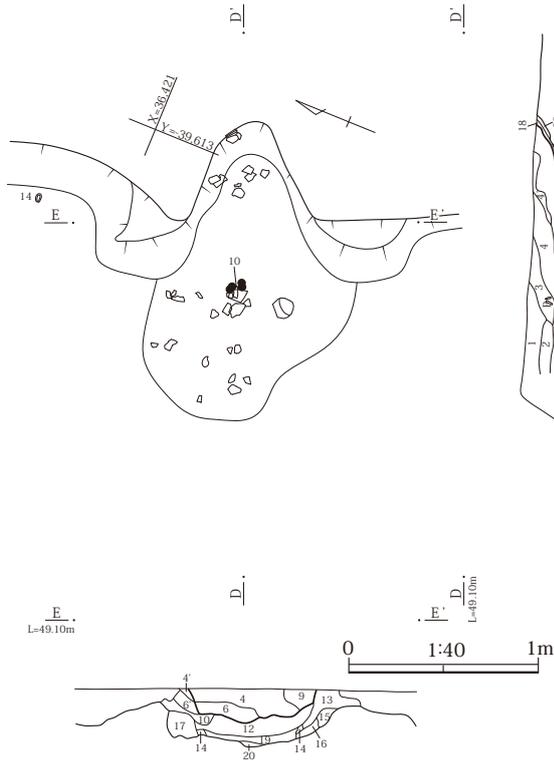


37号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・砂少量混ざる 焼土粒含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・黄褐色土ブロック混ざる 焼土粒(φ10mm)多量に含む
- 4層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石(φ10mm)少量・焼土粒含む
- 5層 炭化物・焼土粒層 黄褐色土少量混ざる
- 6層 黄褐色土(10YR 5/6) 壁の崩落
- 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘質土・黄褐色土混ざる [貼り床]
- 8層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄褐色土混ざる [掘り方埋土] [カマド掘り方]
- 9層 にぶい黄褐色土 粘質土混ざる 炭化物・焼土粒多量含む [カマド掘り方]
- 10層 暗褐色土(10YR 3/4) 焼土粒・炭化物多量に含む

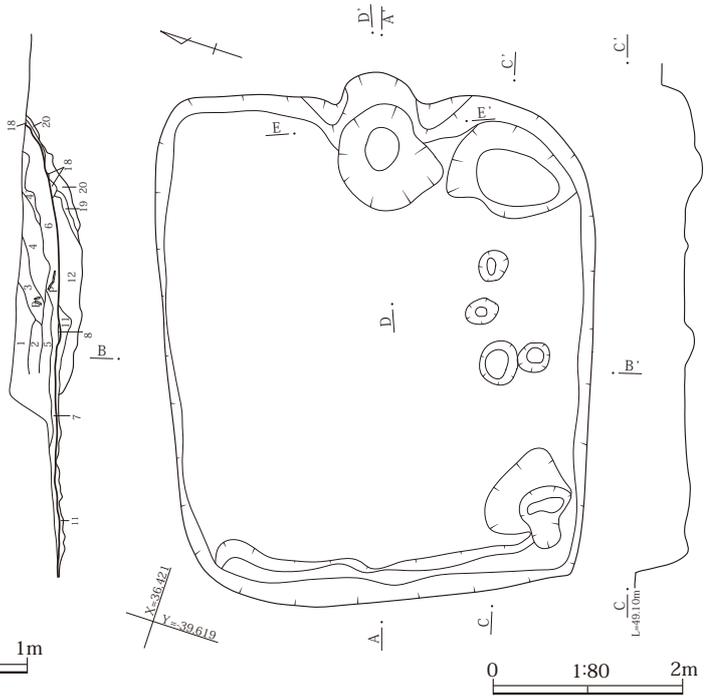
第129図 37号住居跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



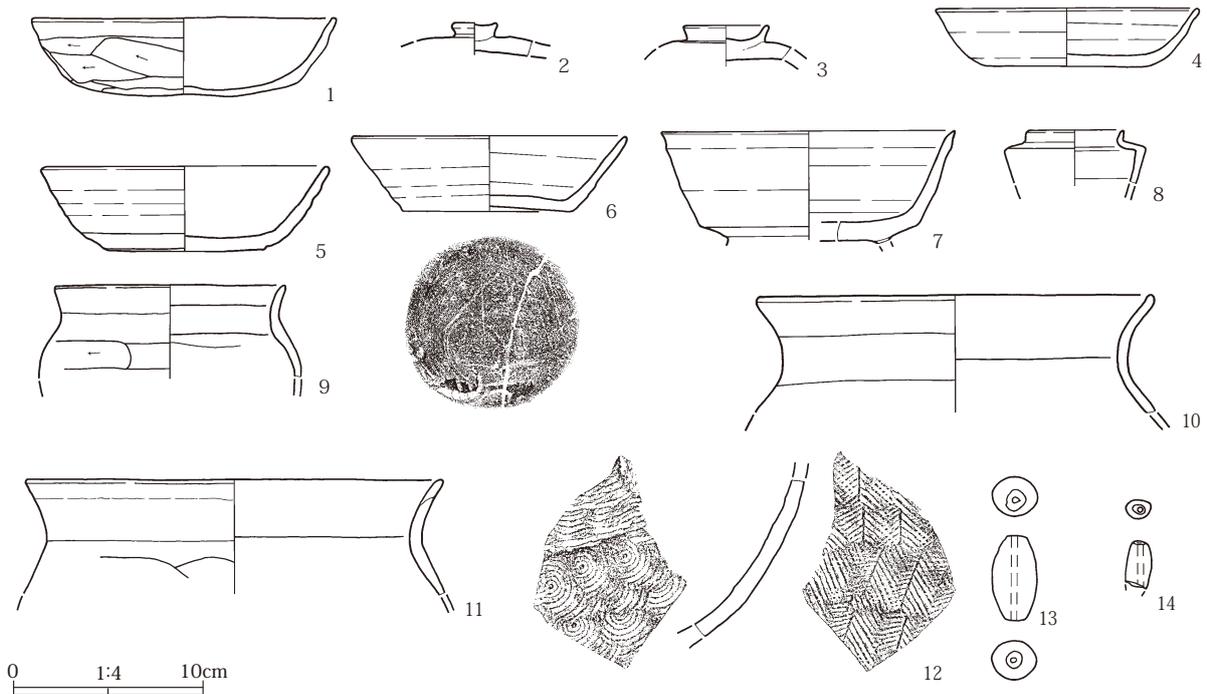
- 37号住居カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 4/4) 白色軽石(φ10mm)・黒色土・黄褐色土粒混ざる炭化物・焼土粒含む
 - 2層 黒色土(10YR 2/1) 粘質土・ブロック 白色軽石(φ1mm)混ざる
 - 3層 暗褐色土(10YR 4/4) 1層より黄褐色土粒多い
 - 4層 明黄褐色土(10YR 6/6) 白色軽石(φ1mm)・褐色土混ざる 焼土粒・炭化物含む 粘質土
 - 4'層 明黄褐色土(10YR 6/6) 4層より褐色土多量混ざる
 - 5層 明黄褐色土(10YR 6/6) 黒色土粒・白色軽石(φ1mm)・焼土粒(〜φ30mm)・炭化物含む
 - 6層 焼土層 [天井部崩落]
 - 6'層 焼土層 6層に黒色土混ざる

第130図 37号住居跡カマド平・断面図



- 7層 明黄褐色土(10YR 6/6) 粘質土 白色軽石(φ1mm)・黒色土混ざる 焼土粒・炭化物含む
- 8層 炭化物層
- 9層 明黄褐色土(10YR 6/6) 粘質土
- 10層 明黄褐色土(10YR 6/6) ブロック
- 11層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む貼り床
- 12層 褐色土(10YR 4/4) 13層より焼土多量含む[掘り方埋土]
- 13層 黒色土(10YR 2/3) 焼土粒含む
- 14層 黄褐色土(10YR 5/6) ブロック
- 15層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色粘質土混ざる
- 16層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色粘質土混ざる
- 17層 褐色土(10YR 4/3) 焼土多量に含む
- 18層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒含む
- 19層 黄褐色土(10YR 5/6) 焼土粒少量含む
- 20層 焼土粒 黄褐色土ブロック状に混ざる

第131図 37号住居跡掘り方平・断面図



第132図 37号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区37号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 15.8 底径 11.6 器高 4.1	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部横方向、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	須恵器 杯蓋	床面直上 摘部 破片	口径 — 摘径 2.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
3	須恵器 杯蓋	埋土中 摘部 破片	口径 — 摘径 4.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 青灰(10BG 5/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上位回転ヘラ削り、摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	床面+4cm 口縁部～底部 1/2	口径 13.6 底径 8.4 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	掘方埋土中 口縁部～底部 1/3	口径 13.5 底径 8.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部上半回転ナデ。体部下半～底部回転糸 切り後、回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 杯	床面直上、掘方埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 14.4 底径 9.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(2.5Y 8/2)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
7	須恵器 椀	床面+33cm 口縁部～底部 1/6	口径 15.3 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/1)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 短頸壺	埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 5.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。	
9	土師器 甗	床面+10cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 12.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 甗	竈埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 18.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
11	土師器 甗	床面+23cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
12	須恵器 甗	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	外面：胴部菱形状の叩き目。 内面：胴部同心円状アテ具痕。	
13	土製品 錘	床面+7cm 完形	長さ 4.5 径 2.3 孔 0.4	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	上端平面をつくる。外面側面ナデ。端部ヘラナデ。 中心部縦に径4mmの穿孔。 重量：22g	
14	土製品 錘	埋土中 破片	長さ 2.6 径 1.3 孔 0.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ。端部ヘラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：2g	

1・2区38号住居跡 (旧称 1・2区SJ-38)

位置：X=36414 Y=-39613

主軸方向：N-72° - E

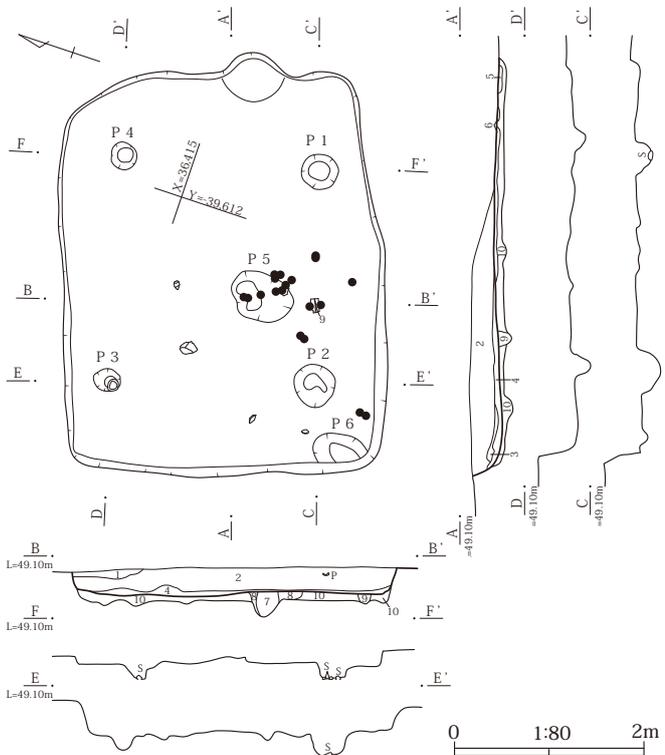
規模：4.3m×3.4m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：22cm～24cm 埋没土：主に白色軽石を含む暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：黄褐色土で埋め戻した上面に、厚さ3cmほどの褐色粘質土で貼り床を敷設する。カマド：北東壁のやや南寄りに位置するが、遺存状態は悪く、掘り方がわずかに確認できた程度である。

柱穴：掘り方調査時において6基のピットを検出

38号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 黒色土(1.7/1)・白色軽石(φ10mm)混ざる 焼土粒含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土粒・白色軽石(φ10mm)焼土粒・炭化物含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 黄褐色土粒・白色軽石(φ10mm)含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐色土混ざる
- 5層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む [カマド掘り方埋土]
- 6層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土 [貼り床]
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黄褐色土粒含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土・黄褐色土混ざる
- 9層 褐色土(10YR 4/4) 黄褐色土粒含む
- 10層 黄褐色土(10YR 5/6) 褐色土混ざる

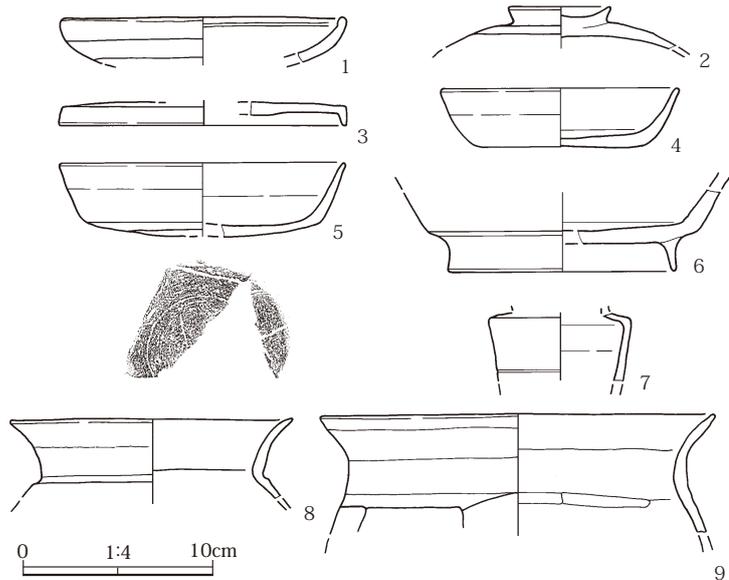


第133図 38号住居跡平・断面図

した。P 1からP 4の4基は径25～46cm、深さ24～27cmを測り、その位置関係より支柱穴と考えられる。

貯蔵穴：なし。 壁周溝：不明。

重複遺構：なし。 掘り方：地山ローム土を浅く掘り窪める。 出土遺物：床面直上からは須恵器蓋 (No. 2) の破片が出土しており、埋土中からは土師器杯 (No. 1)・甕 (No. 8・9)、須恵器杯 (No. 4・5)・椀 (No. 6)・短頸壺 (No. 7)、灰釉陶器蓋 (No. 3)、黒色土器杯の破片が数点出土している。



第134図 38号住居跡出土遺物

1・2区38号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～体部 破片	口径 14.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。	
2	須恵器 杯蓋	床面直上 天井部～摘部 破片	口径 — 摘径 5.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
3	灰釉陶器 蓋	埋土中 体部 破片	口径 14.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ灰(10Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部回転ナデ。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	床面+14cm 口縁部～底部 1/3	口径 12.3 底径 9.0 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 14.8 底径 9.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(N 8/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 椀	埋土中 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 12.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 短頸壺	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ調整。	
8	土師器 甕	埋土中 口縁部～頸部 破片	口径 14.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部～頸部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部～頸部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	土師器 甕	床面+14cm 口縁部～頸部 破片	口径 20.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区39号住居跡 (旧称1・2区5J-39)

位置：X=36387 Y=-39571 主軸方向：N-79° - E 規模：3.9m×3.5m 平面形状：隅丸長方形

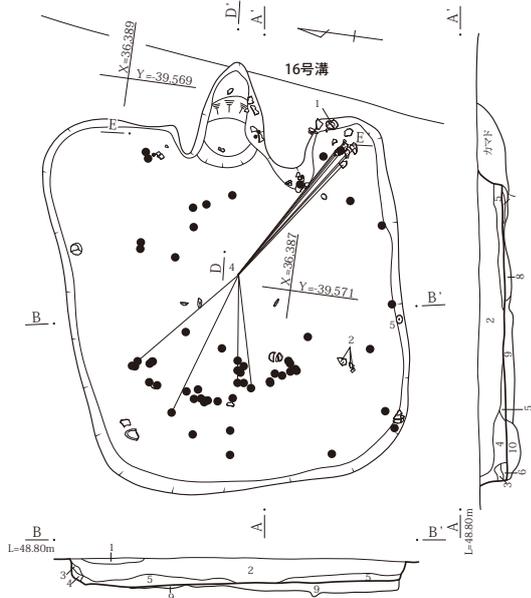
残存深度：22cm～28cm 埋没土：主に白色軽石を含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。 床面：掘り方埋土であるロームブロックを含む黒褐色土を固めて床面としている。

カマド：北東壁のやや南寄りに位置し、焚き口から煙道部にかけて灰を多く含んだ層が厚く堆積している。袖部は芯材を用いず黒褐色土で構築され、煙道部は緩やかに立ち上がる。 貯蔵穴：なし。 壁周溝：なし。

重複遺構：16号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より本住居跡の方が新しいものと判断される。

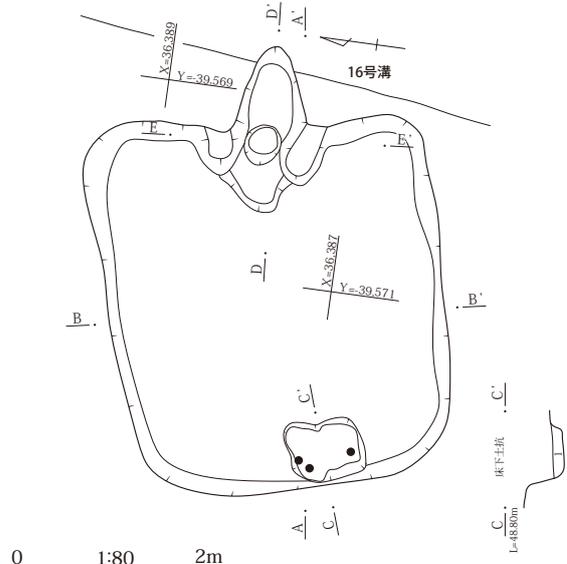
掘り方：地山ローム土を10cmほど掘り窪める。また、住居西壁際で長軸80cm、短軸60cm、深さ16cmを測る床下土坑を1基検出した。 出土遺物：南壁際では須恵器杯の底部を転用した紡錘車 (No. 5) が出土する。また、床面直上からは土師器甕 (No. 3)、須恵器杯 (No. 2) の破片が出土しており、埋土中からは須恵器甕 (No. 4) や黒色土器杯の破片が出土している。

第3章 検出遺構と出土遺物



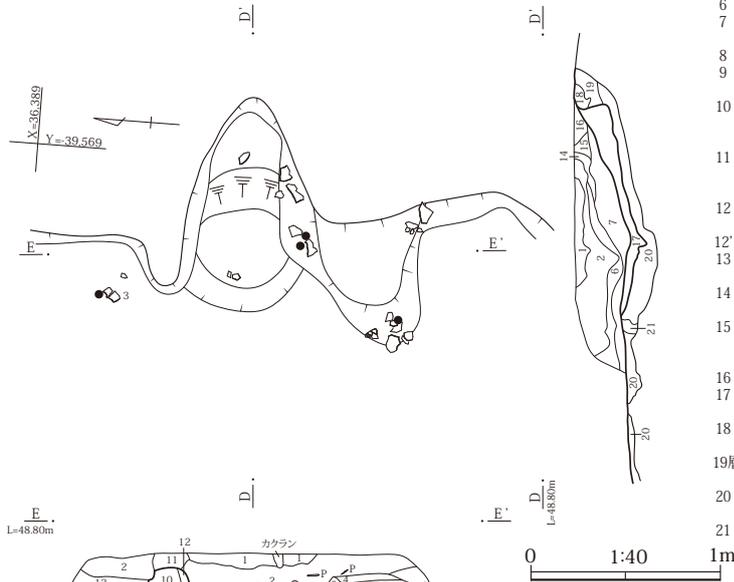
- 39号住居 埋土**
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少量の黄褐色砂質ローム土・白色軽石(浅間C+榛名二ツ岳)を含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 多量の黒褐色土小(φ5~10mm大)と少量の白色軽石・焼土小ブロックを含む
 - 3層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/4) 少量の白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少量の白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 多量の黒褐色土ブロック(φ5~30mm大)と少量の白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
 - 6層 褐色土(10YR 4/4) 少量の白色軽石を含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 3/1) φ10mmの褐灰色土ブロックを少し含む φ5mmのロームブロックを少し含む [掘り方]
 - 8層 黒褐色土(10YR 3/1) ロームを多く含む [掘り方]
 - 9層 黒褐色土(10YR 3/1) ロームを少し含む [掘り方]

第135図 39号住居跡平・断面図



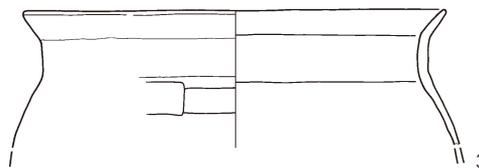
- 39号住居床下土坑 埋土**
- 1層 にぶい黄色粘土(2.5YR 8/2) しまりやや有 灰白色粘土ブロックφ50mm以下をやや多量, 灰50mm以下・焼土粒φ10mm以下を少量含む

第136図 39号住居跡掘り方平・断面図

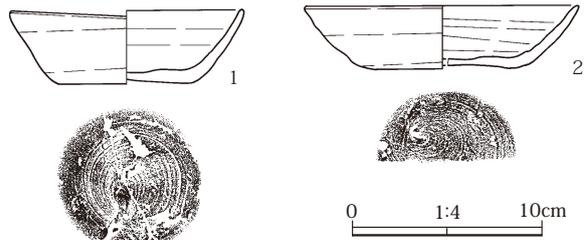


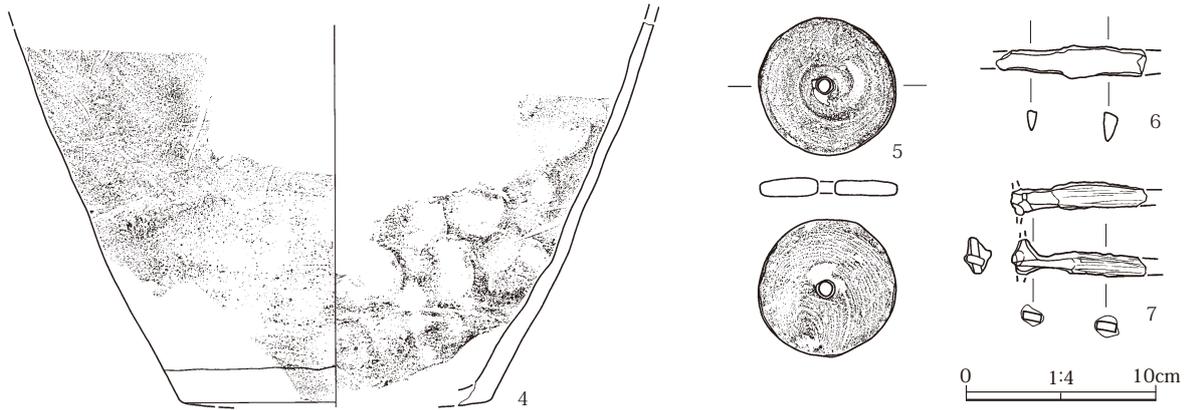
第137図 39号住居跡カマド平・断面図

- 39号住居カマド 埋土**
- 1層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒(10YR 7/6)φ5mm、焼土粒・バミスφ2mm程やや多量含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒・φ1mm程のバミス・明黄褐色土粒をやや多量、5層のブロックφ50mm以下を少量含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 2層土に類似し色調やや明るい
 - 4層 灰層 焼土粒・明黄褐色土粒φ5mm以下を少量含む
 - 5層 黒色土(2.5YR 2/1) 粘性なし しまりあり
 - 5層 焼土粒・明黄褐色土粒φ5mm以下を少量含む
 - 6層 明黄褐色土粒が2層で強く汚れる [天井崩落]
 - 7層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり 明黄褐色土粒φ10mmを少量含む この土でうすく汚れる φ2mm以下の焼土粒を少量含む
 - 8層 黒褐色土(10YR 3/2) 7層に焼土粒なし
 - 9層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ10mm以下を少量含む [天井部崩落]
 - 10層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ1mm程の焼土粒・バミスを微量 5層の土ブロックφ10~50mmを少量含む この黒色土は水平方向にのびており人為の盛土(袖)と考える
 - 11層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘性なし しまりややあり 全体に黒褐色土が混じり、焼土粒・白色バミスφ5mm以下微量を含む [袖上部]
 - 12層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒φ10mm以下を多量含む
 - 12'層 焼土なし どちらも袖内側
 - 13層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり 白色バミスφ1mm程を微量含む
 - 14層 明黄褐色土(10YR 6/6) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒を少量 φ1mm程の白色バミスを微量含む
 - 15層 明黄褐色土(10YR 6/6) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の黒色土粒(2.5YR 2/1)をやや多量に、φ10mm以下の焼土粒を少量・φ1mm程のバミスを微量含む
 - 16層 明黄褐色土(2.5YR 6/6) 含有物なし [天井崩落]
 - 17層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 灰を多く含む 焼土を含む [カマドの使用面]
 - 18層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐灰色土粒子を少し含む 焼土を含む [カマドの使用面]
 - 19層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土を含む・φ2mmの暗褐色土ブロックを少し含む [天井崩落]
 - 20層 褐灰色土(10YR 5/1) φ5mmのロームブロック・φ5~10mmの黒褐色土・炭化物を斑状に含む [カマド掘り方]
 - 21層 黒褐色土(10YR 2/1) φ1.5mmのローム粒子を含む



第138図 39号住居跡出土遺物(1)





第139図 39号住居跡出土遺物(2)

1・2区39号住居跡出土遺物観察表

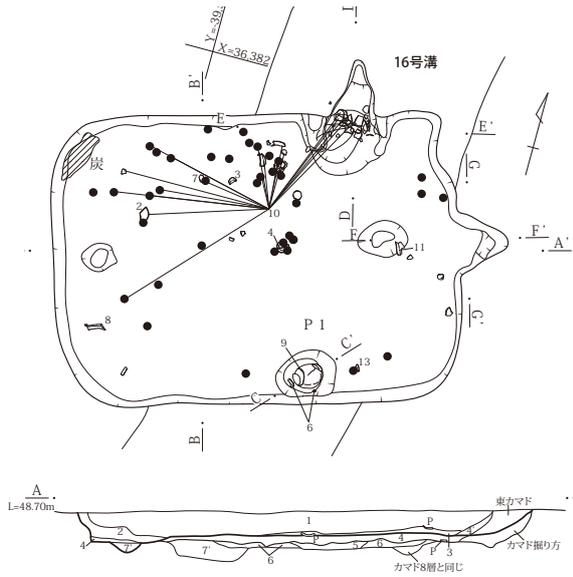
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面+14cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.0 底径 7.0 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 14.2 底径 7.0 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(7.5Y6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	土師器 甕	床面直上 口縁部~胴部上端 小破片	口径 22.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(5YR4/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
4	須恵器 甕	床面+6cm 胴部下半	口径 — 底径 16.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y4/1)	ロクロ整形。 外面：胴部ナデ調整。最下部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面：胴部横ナデ調整。アテ具痕が残る。	
5	須恵器 紡錘車	床面+8cm	長径 7.2 短径 7.1 厚さ 1.0	重量：60g ③ 明赤褐(5YR5/8)	裏面回転糸切り。 孔径0.8cm 周辺部丁寧に擦り込まれ、形を調整している。	須恵杯底部転用。

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
6	鉄器	刀子	柄~刃部片	8.0	1.8	0.8	20.0	刃部の錆化が激しい。
7	鉄製品	焼印	柄~焼印基部片	7.1	1.4	1.8	9.0	柄部分に木質が残る。

1・2区40号住居跡 (旧称 1・2区SJ-40)

位置：X=36380 Y=-39568 **主軸方向：**N-75° - E **規模** 4.3m×3.0m **平面形状：**隅丸長方形
残存深度：19 cm ~ 28cm **埋没土：**主に白色軽石を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。
床面：掘り方埋土である灰黄褐色土を固めて床面する。 **カマド：**北東壁中央やや北寄りに1基(東カマド)と、北西壁北寄りにもう1基(北カマド)が検出された。北カマドは良好な状態で残っているのに対し、東カマドは袖部も無く遺存状態が悪いことから、東カマドの廃棄後に北カマドに作り替え使用していた可能性が高い。東カマドの焚き口幅は40cmほどを測り、煙道端は急峻に立ち上がる。使用面の灰層は顕著ではない。北カマドは焚き口幅60cmほどを測り、焚き口から煙道部にかけて灰を多く含んだ層が厚く堆積している。袖は地山の土を掘り残すことで構築されている煙道端は緩やかに立ち上がる。
柱穴：掘り方調査時において検出された、住居長軸中心線上の2穴が、柱穴と考えられる。
貯蔵穴：南東壁際より長軸66cm、短軸50cmの楕円形で、深さ22cmを測る土坑が、完形の須恵器甕の下半部が露出した状態で検出された。埋土は住居埋没土と同じであることから、住居廃絶時には開口していたものと推察される。
壁周溝：なし。 **重複遺構：**16号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相から本住居跡の方が新しいものと判断される。
掘り方：地山ローム土を15cmほど掘り込み、西壁側および南東コーナー付近を土坑状に掘り窪める。
出土遺物：床面直上から土師器甕(No.11)や須恵器杯(No. 3・4・7)・蓋(No. 2)の破片、貯蔵穴と考えられる土坑内より須恵器広口壺(No. 9)・坏(No. 6)が出土している。

第3章 検出遺構と出土遺物



第140図 40号住居跡平・断面図

40号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(榛名ニッ岳+浅間C)・焼土粒子・炭化物を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微量の白色軽石・炭化物を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 5/1) 微量の白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の淡黄色シルトブロック(φ5~20mm大)・黒色泥炭土ブロック(φ5~20mm大)・焼土粒子・炭化物を含む

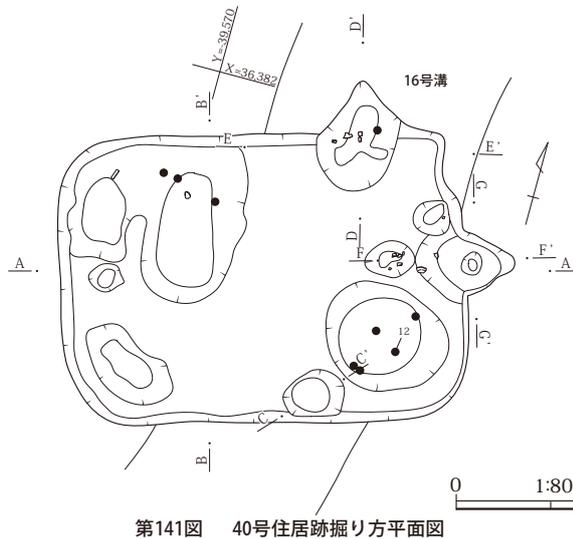
16号溝 埋土

- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の焼土粒子・炭化物を含む
- 5層 黒褐色土(10YR 3/1) 多量の淡黄色シルト小ブロック(φ2~5mm大)を含む
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の淡黄色シルト小ブロック(φ2~5mm大)を含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の黒褐色土大ブロック(φ10~50mm大)・淡黄色シルト小ブロックを含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の淡黄色小シルトブロック(φ2~5mm大)を含む

40号住居P1 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微量の白色軽石(榛名ニッ岳+浅間C)を含む

0 1:80 2m

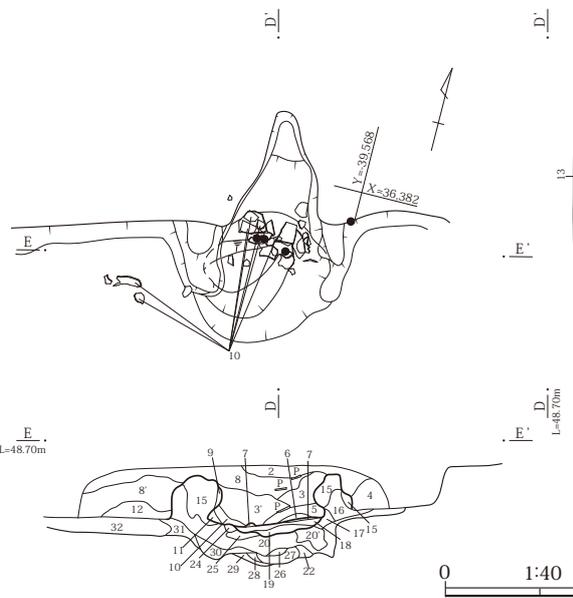


第141図 40号住居跡掘り方平面図

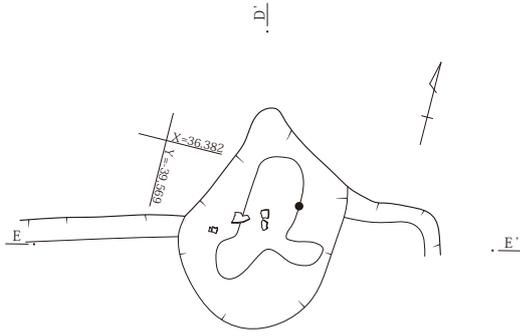
40号住居北カマド 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 微量の白色軽石(榛名ニッ岳)・焼土粒子を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微量の白色軽石(榛名ニッ岳)・焼土粒子を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 微量の白色軽石と少量の焼土小ブロック(φ5~10mm大)を含む [天井部崩落]
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 含有物が3層より少ない
- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 微量の白色軽石と少量の焼土小ブロック(φ5~10mm大)・炭化物を含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の焼土小ブロック(φ5~10mm大)を含む [天井部崩落土]
- 6層 赤色土(焼土) [天井部崩落焼土]
- 7層 灰層 微量の焼土粒子を含む [使用面]
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) φ5mm以下のパミス・φ10mm以下の焼土粒・炭粒を微量含む [天井崩落]
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 8層より含有物が少ない 黄味が強い
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし φ5mm程の焼土粒をやや多量含む [袖の内側]
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりなし φ5mm程の焼土粒をやや多量含む [袖の崩落]
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 焼土粒が少量 [袖の崩落]
- 12層 黒褐色土(10YR 3/1) 粘性なし しまりややあり 黄褐色土(カマド構築材)粒φ10mm程をやや多量含む
- 13層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒をやや多量含む [天井崩落]
- 14層 黒色粘質土(7.5YR 2/1) しまりややあり 焼土粒φ5mm程少量含む
- 15層 明黄褐色土(2.5YR 6/6) 粘性なし しまりややあり
- 16層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりややあり
- 17層 暗褐色土(10YR 3/4) 16層に焼土粒・黄褐色土粒φ5mm程をやや多量含む
- 18層 灰層 黒色土(2.5YR 2/1) 粘性なし しまりなし 焼土粒φ5mm以下を少量含む 7層より多い
- 19層 灰層 18層に焼土粒φ5mm以下をやや多量含む
- 20層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりややあり 黄褐色土粒φ10mm以下をやや多量焼土粒φ5mm以下を少量 パミスφ1mm程を微量含む
- 20層 暗褐色土(10YR 3/4) 20層に焼土で全体に強く汚れる
- 21層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりややあり 黄褐色土粒φ10mm以下をやや多量 黒色粘質土粒φ10mm以下少量(黄褐色土下のベース土)焼土粒φ5mm程を微量含む
- 22層 黒色土(10YR 7/1) 粘性なし しまりややあり 黄褐色土で全体に汚れる 焼土粒φ10mm以下少量含む
- 23層 暗褐色土(10YR 3/4) 20層に焼土粒微量で黒味が強い
- 24層 黒色粘質土(2.5Y 2/1) しまりやや弱い
- 25層 黒褐色土(2.5Y 3/1) 粘性なし しまりやや弱い 黄褐色土で全体にうすく汚れる 焼土粒φ5mm以下少量含む
- 26層 黒色土(2.5Y 2/1) 27層に黄褐色土で全体にうすく汚れる 焼土粒φ10mm程少量含む
- 27層 黒色土(2.5Y 2/1) 粘性ややあり しまりやや弱い 細砂やや多量含む φ1mm程のパミス少量含む
- 28層 オリーブ褐色土(2.5Y 4/3) 粘性なし しまりやや弱い
- 29層 28・27層の混土
- 30層 暗褐色土(10Y 3/4) 20層より黒味が強い
- 31層 暗オリーブ褐色土(2.5Y 3/3) 粘性なし しまりあり 黄褐色土と黒色土の混土と思われφ1mm程のパミス微量含む
- 32層 黒色粘質土(2.5Y 2/1) φ1mm程のパミス微量含む
- 33層 暗灰黄色土(2.5Y 4/2) 粘性なし しまりややあり 焼土ブロックφ30mm以下を多量含む [崩落]
- 34層 褐灰色土(地山)(10YR 4/1) 粘性なし しまりややあり 灰の混土に焼土粒φ10mm以下少量含む 炭粒φ10mm以下微量含む

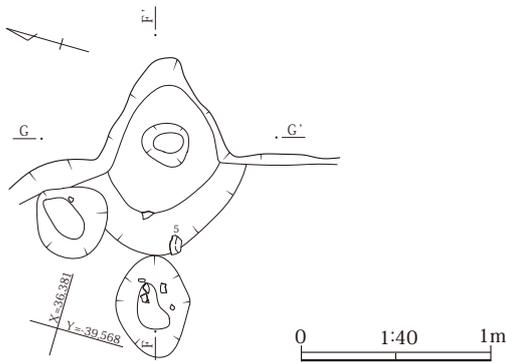
0 1:80 2m



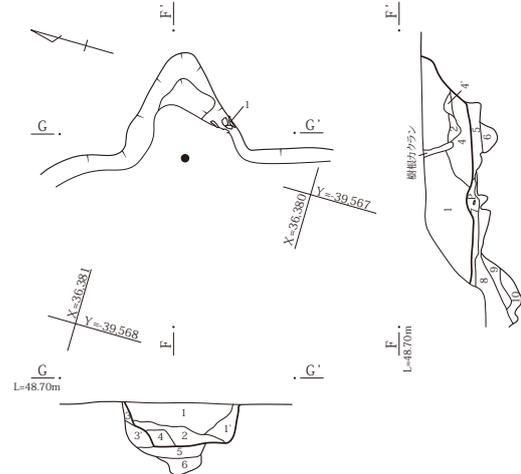
第142図 40号住居跡北カマド平・断面図



第143図 40号住居跡北カマド掘り方平面図



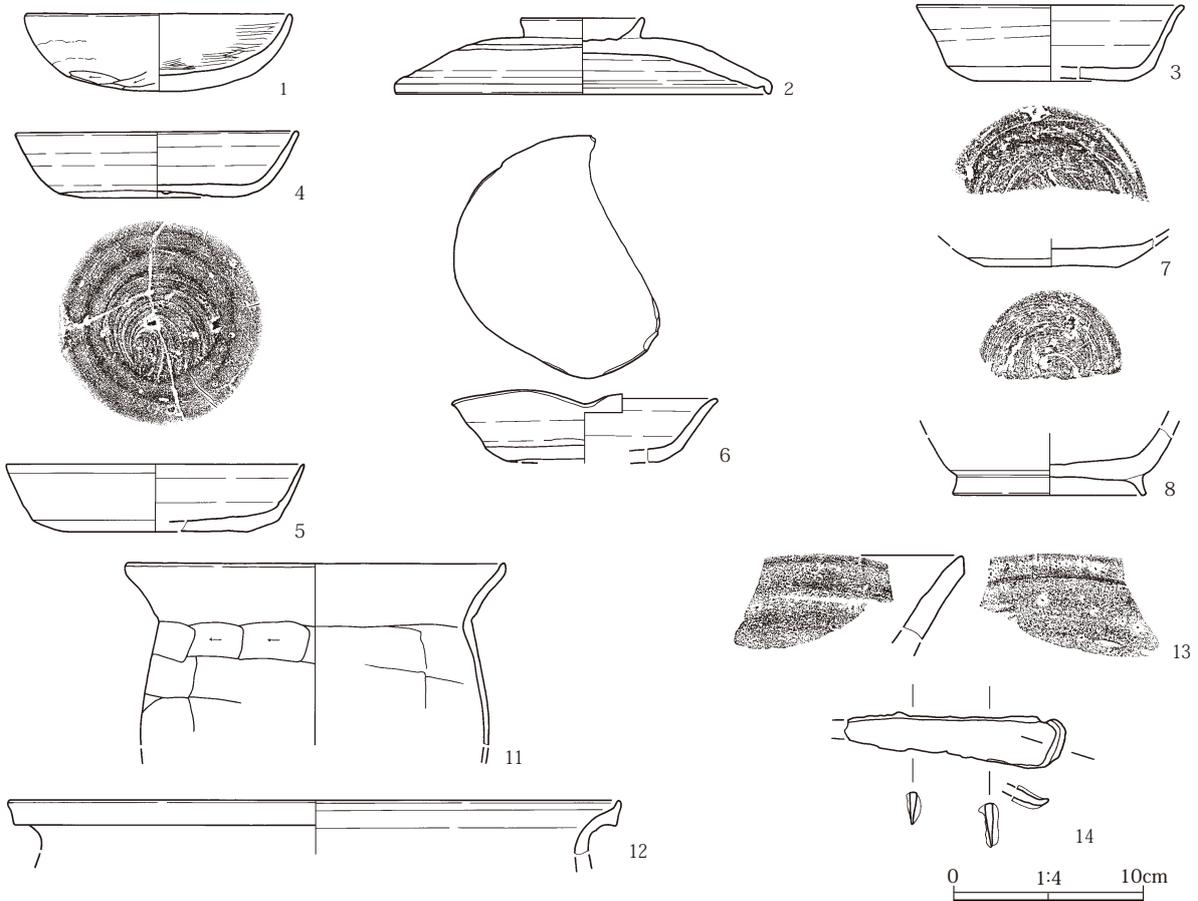
第144図 40号住居跡東カマド掘り方平面図



40号住居跡東カマド 埋土

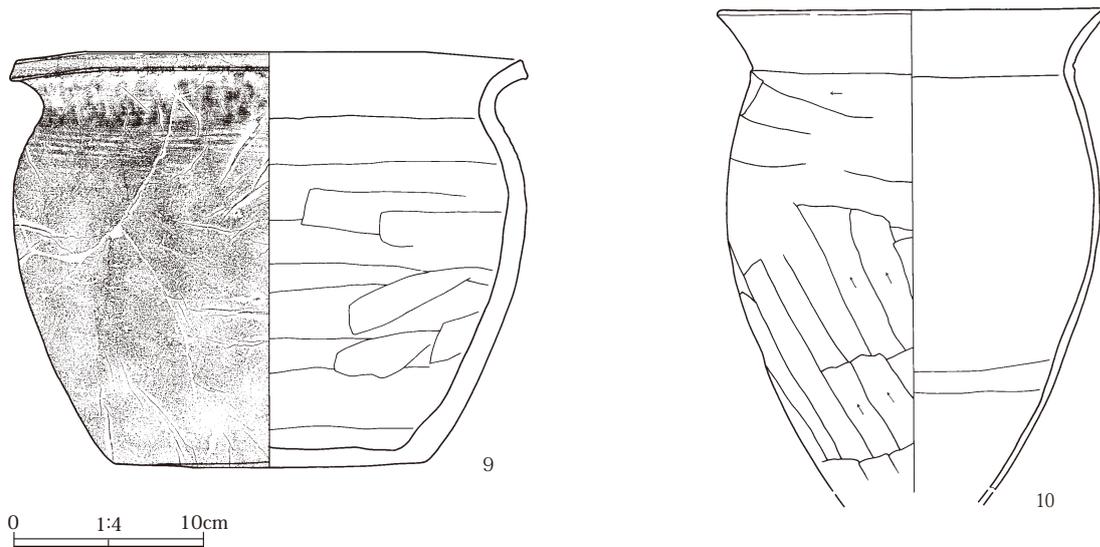
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石(椋名ニツ岳+浅間C)・焼土粒子を含む
- 1'層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微量の白色軽石・焼土粒子を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の焼土小ブロック(φ5~10mm大)・暗褐色土小ブロック(φ10-15mm大)を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微量の白色軽石を含む
- 3'層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の淡黄色砂質ローム粒子・焼土粒子を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の淡黄色砂質ローム粒子・暗褐色土ブロック(φ10~20mm大)・少量の焼土粒子を含む含有物が少ない
- 5層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性あり しまりややあり 焼土粒φ10mm以下をやや多量含む
- 6層 黒褐色土(10YR 2/2) 5層に焼土粒少量
- 7層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり 黒褐色粘質土ブロックφ30mm以下・焼土粒φ10mm以下少量 パミスφ1mm程の微量含む
- 9層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ10mm程少量 φ1mm程のパミスを微量含む
- 10層 黒褐色土(10YR 2/3) 9層より黒味が強い

第145図 40号住居跡東カマド平・断面図



第146図 40号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出遺構と出土遺物



第147図 40号住居跡出土遺物(2)

1・2区40号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考		
1	土師器 杯	東竈埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 13.8 底径 — 器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	外面に輪積痕が残る。 外面：口縁部～体部横ナデか。底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
2	須恵器 杯蓋	床面直上 口縁部～摘部 1/3	口径 19.6 摘径 6.1 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 5/1)	ロクロ整形。右回りか。 外面：天井部回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	内面2次使用か (転用硯)		
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口径 13.8 底径 8.2 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(10Y 8/2)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺をヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 口縁部と胴部の一部 欠損	口径 14.7 底径 8.2 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(10YR 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
5	須恵器 杯	北竈掘方埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 15.5 底径 9.8 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。		
6	須恵器 杯 (片口)	住居内土抗埋土中 口縁部～体部 破片	口径 13.8 底径 — 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。口縁部はやや外反、一部は大きく外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。最下位は、1段の回転ヘラ 削り。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	歪みあり。		
7	須恵器 杯	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。			
8	須恵器 碗	床面+8cm 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 9.7 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ灰(2.5GY 5/1)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：体部～底部回転ナデ調整。			
9	須恵器 広口壺	住居内土抗埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 26.4 底径 16.2 器高 22.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。頸部に叩き痕が残る。胴部は全面的 にナデ消されている。底部ヘラ削りか。 内面：口縁部～胴部横ナデ、底部ナデ調整。			
10	土師器 甗	住居埋土+北竈埋土 中 口縁部～胴部 1/3	口径 20.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横・中・下位は斜め方向ヘ ラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。			
11	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部上半 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。			
12	須恵器 甗	床面-6cm 口縁部 破片	口径 31.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ調整。	器面摩滅。		
13	須恵器 甗	床面+22cm 口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ調整。	外面に自然釉が 若干付着。		
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
14	鉄器	鎌	先端部欠損	11.5	2.8	1.0	31.0	

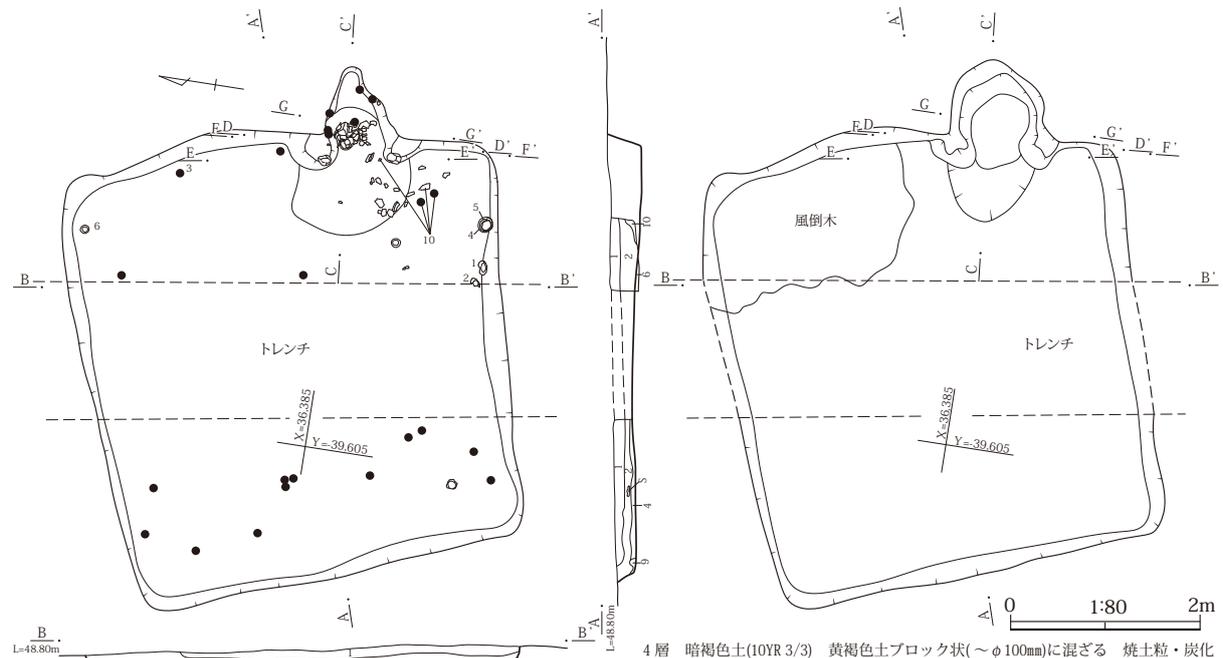
1・2区41号住居跡 (旧称1・2区SJ-41)

位置：X=36385 Y=-39604 主軸方向：N-78°-E 規模：4.8m×4.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：17cm～27cm 埋没土：主に白色軽石や黄褐色土粒焼土粒を含む暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるローム土を主体とした暗褐色土で埋め固め床面としている。

カマド：東壁の中央南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。焚き口幅は50cmを測り、煙道部緩やかに立ち上がる。燃烧部使用面には灰が厚く堆積し、中心線からやや左側にはずれた位置に支脚石が据えられている。両袖部には芯材として礫を使用し構築されており、礫のすぐ奥側には同じく芯材として土師器甕が逆位に埋設されていることから、手前側の礫を使用した部分の袖は、改修によるものとも考えられる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

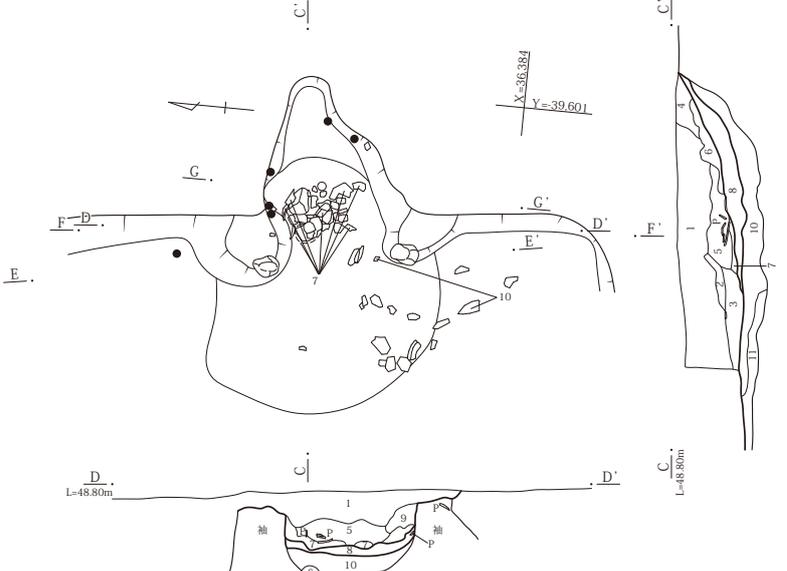
重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土浅く掘り窪める。出土遺物：壁際の床付近より完形の須恵器杯(No. 1・4・5)が出土したほか、埋土中から須恵器甕を転用した硯(No. 6)、提碁石(No. 11)などが出土している。



- 41号住居 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・砂混ざる 焼土粒・炭化物含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石(φ10mm・1mm混在)・黄褐色土粒(～φ30mm)・焼土粒(～φ30mm)・炭化物含む
 - 3層 明黄褐色土(10YR 6/6) 褐色粘質土少量混ざる ブロック

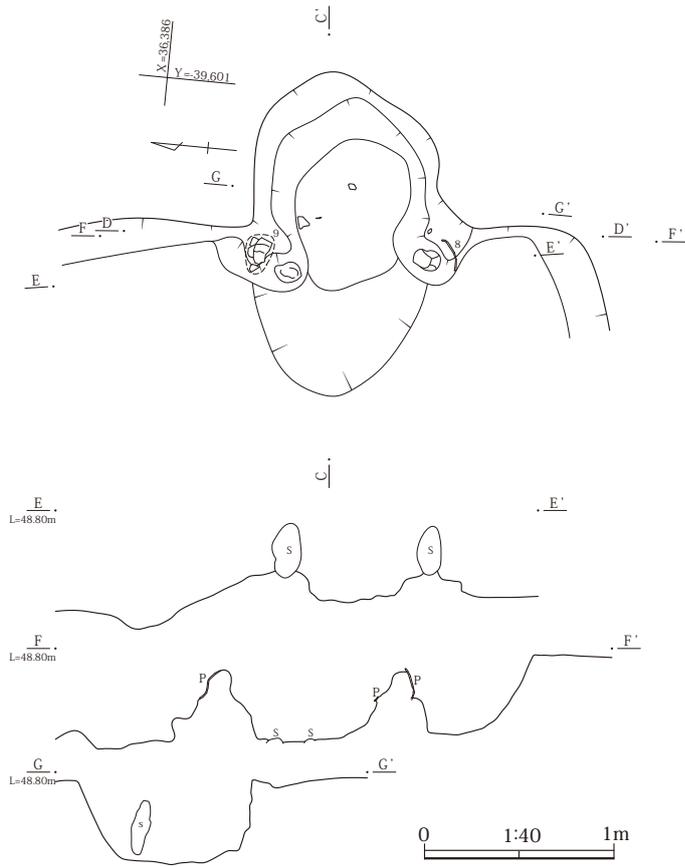
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土ブロック状(～φ100mm)に混ざる 焼土粒・炭化物含む
- 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘質土 [貼り床]
- 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土混ざる 焼土粒含む [掘り方埋土]
- 7層 黒色土(10YR 2/1) 白色軽石(φ1mm)混ざる
- 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土混ざる [掘り方埋土]
- 9層 明黄褐色土(10YR 6/6) ブロック状 [根カク乱]
- 10層 暗褐色土(10YR 3/3) 褐色粘質土・黄褐色土粒混ざる 焼土粒含む

- 41号住居カマド 埋土
- 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 白色軽石・焼土を・φ0.5mmのロームブロック・φ0.5mmの褐色土粒子・炭化物含む
 - 2層 褐灰色土(10YR 5/1) ロームブロックを多く含む 褐色土粒子を少し含む
 - 3層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・炭化物を少し含む φ0.25～1mmのロームブロックを含む
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・褐灰色土を含む φ2.5～5mmのロームブロックを少し含む
 - 5層 褐灰色土(10YR 5/1) 白色軽石をわずかに含む 焼土・炭化物・φ2.5～5mmのロームブロックを少し含む
 - 6層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を含む φ1mmのローム粒子・φ0.5mmの褐色土ブロックを少し含む
 - 7層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土を帯状に多く含む
 - 8層 褐灰色土(10YR 4/1) 灰を多く含む 炭化物・焼土を少し含む [灰層]
 - 9層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmのロームブロックを少し含む 焼土をわずかに含む [カマド構築材]
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 焼土・φ1.5mmの褐色土ブロック・下にロームブロック(φ5～10mm)を少し含む[カマド掘り方]
 - 11層 黄色砂質ローム 灰黄褐色土を少し含む

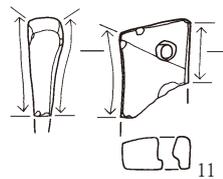
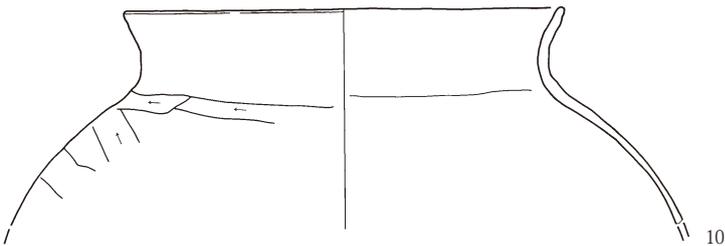
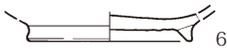
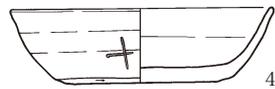
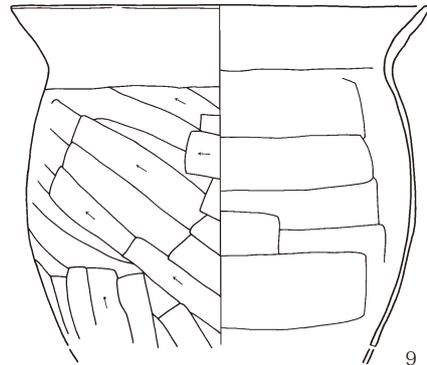
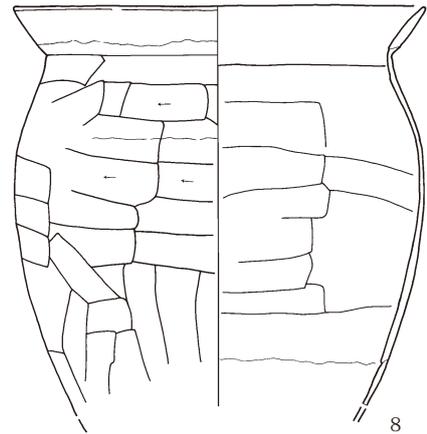
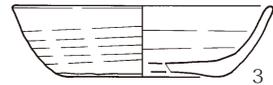
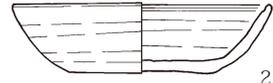
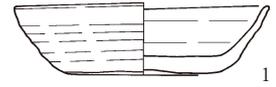


第148図 41号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第149図 41号住居跡カマド掘り方平・断面図



0 1:4 10cm

第150図 41号住居跡出土遺物

1・2区41号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面+7cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.2 底径 7.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面+5cm 口縁部～底部 1/3	口径 13.4 底径 7.6 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。底部ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+7cm 口縁部～底部 1/4	口径 13.4 底径 8.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+3cm 完形	口径 13.6 底径 7.8 器高 3.9	① ② 細砂粒・粗砂粒 ③ 還元焰 良好 オリープ黒(10Y 3/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	胴部外面にヘラ記号「+」、No.5と重なるようにして出土。
5	須恵器 杯	床面+4cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 14.0 底径 8.7 器高 4.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	No.4と重なるようにして出土。
6	須恵器 椀	床面+12cm 底部 底部のみ完形	口径 - 底径 8.6 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。硯使用によって擦れている。	
7	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 19.8 底径 4.5 器高 30.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
8	土師器 甕	竈右袖部中 口縁部～胴部 1/2	口径 21.5 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	土師器 甕	竈左袖部中 口縁部～胴部 1/4	口径 21.6 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 7/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半斜め、下半縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 甕	床面+10cm、竈埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 22.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
11	石製品	砥石	下半欠損	5.2	3.7	1.7	39	砥沢石	孔径 1.0cm表裏、両側面を使用している。穿孔は両面よりおこなっているためズレを生じている。

1・2区42号住居跡 (旧称1・2区SJ-42)

位置：X=36380 Y=-39600 主軸方向：N-73°-E

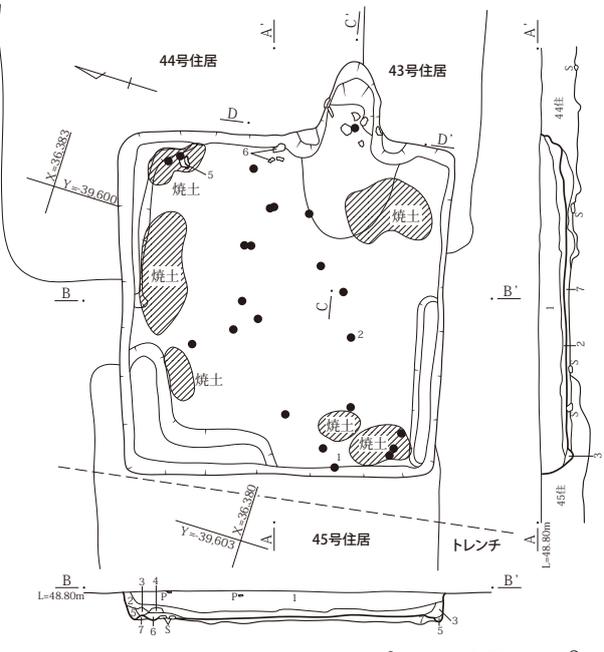
規模：3.6m×3.4m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：23 cm～34cm 埋没土：主に白色軽石を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。また、床面直上には多量の焼土を含むにぶい黄褐色土が点在する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした暗褐色土で埋め固めて床面としている。

カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。遺存状態は悪く、地山を掘り残した袖部が僅かに残る程度である。焚き口幅は55cmを測り、煙道部端は急峻に立ち上がる。燃焼部使用面には灰層があり、その上には天井部材が崩落した状態で堆積していた。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。

42号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ2mmの褐色土粒子を含む・白色軽石・焼土を含む φ1.5mmのロームブロックを少し含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土を含む φ1mmの褐色土粒子を少し含む [42住床面]
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ1mmの褐色土粒子を少し含む
- 4層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土を多く含む
- 5層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ロームを多く含む [溝埋土] 42住埋土
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を多く含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土・白色軽石・φ1.5mmのロームブロックを少し含む [42住掘り方]
- 8層 褐灰色土(10YR 4/1) φ5mmのロームブロックを含む 焼土・φ1.5mmの褐色土粒子を少し含む [44住埋土]
- 9層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ロームブロックを少し含む [49住掘り方]
- 10層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・φ5～10mmの黒褐色土ブロックを少し含む φ1～5mmのロームブロックを含む 焼土をわずかに含む [45住埋土]

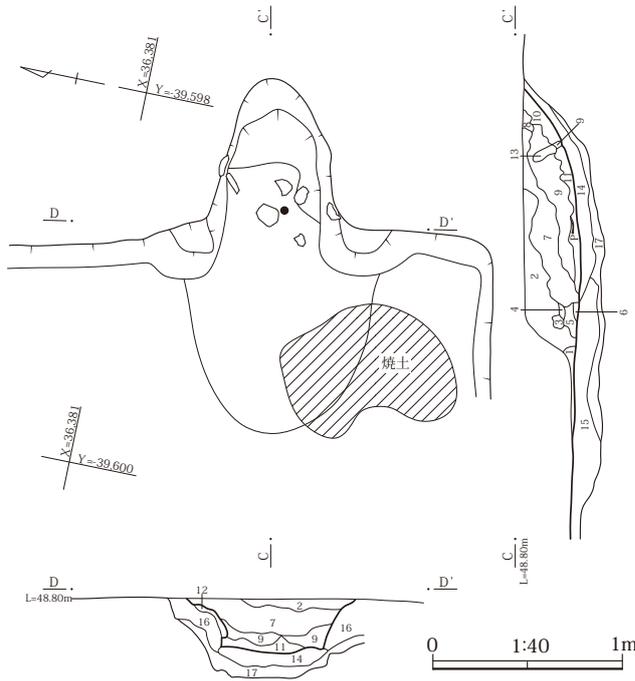


第151図 42号住居跡平・断面図

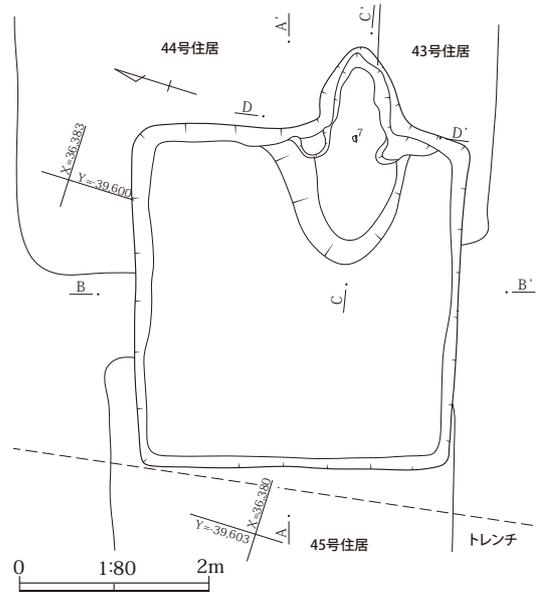
第3章 検出遺構と出土遺物

壁周溝：カマド周辺と西壁南半を除き、幅20～50cm、深さ2～10cmを測る壁溝が巡る。**重複遺構：**43・44・45号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相より、本遺構はいずれの住居跡よりも新しいものと判断される。

掘り方：深さは4～10cmと全体に地山ローム土を浅く掘り窪める。**出土遺物：**床面直上から甕(No. 5・6)、須恵器蓋(No. 2)が出土している。また、付近から土師器杯(No. 1)が出土する。



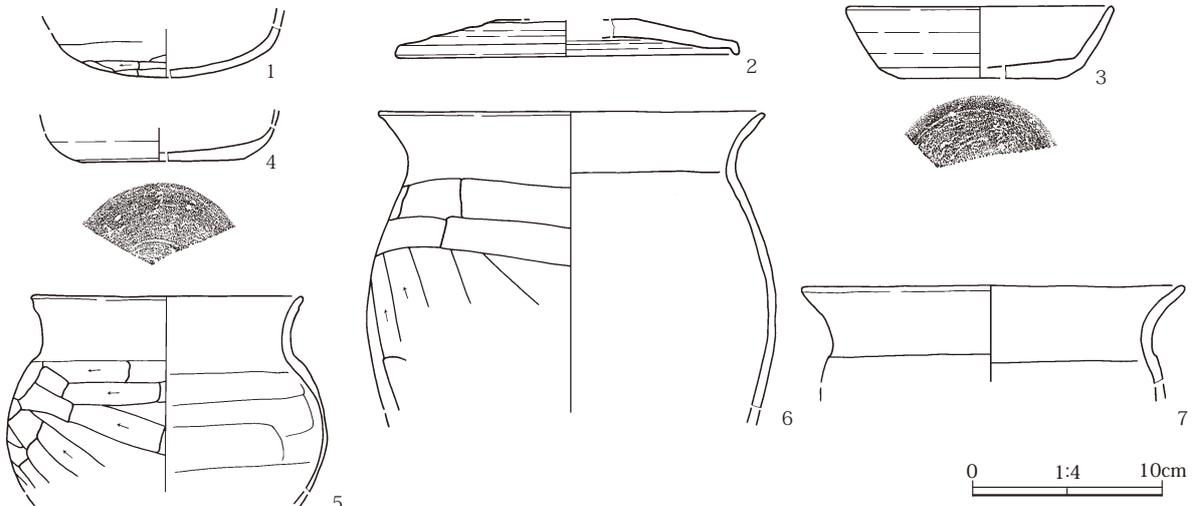
第152図 42号住居跡カマド平・断面図



第153図 42号住居跡掘り方平面図

42号住カマド 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を多く含む 炭化物・ロームを少し含む [住居埋土]
- 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・φ1.5mmの褐色土粒子・白色軽石・φ0.5mmのロームブロックを少し含む
- 3層 黄色砂質ロームブロック 褐色土ブロック(φ1mm)を少し含む
- 4層 にぶい橙色土(2.5YR 6/3) ブロックになっている 炭化物を少し含む 硬い
- 5層 黄色砂質ロームブロック φ1mmの褐色土ブロックを少し含む 硬い [カマド構築材]
- 6層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土・φ1mmのロームブロックを少し含む
- 7層 褐灰色土(10YR 5/1) ロームを多く含む 焼土を含む 炭化物を少し含む
- 8層 褐灰色土(10YR 4/2) ロームを多く含む 焼土を多く含む
- 9層 黄色砂質ローム土 焼土を少し含む φ1mmの褐色土ブロックを含む [カマド構築材]
- 10層 褐灰色土(10YR 4/2) 焼土を含む ローム・φ1mmの暗褐色土ブロックを少し含む[カマド天上部]
- 11層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 焼土・炭化物・ロームを含む [カマド天上部]
- 12層 黄色砂質ローム土 φ1mmの褐灰色土ブロックを少し含む 焼土をわずかに含む[カマド袖]
- 13層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ2mmのロームブロックを少し含む
- 14層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土・ロームを含む φ1mmの褐色土ブロックを少し含む 上面に灰層を含む [カマド使用面]
- 15層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土・白色軽石を少し含む [カマド掘り方] φ1.5～2.5mmのロームブロックを含む φ3mmの黒褐色土ブロックを少し含む [住居・掘り方]
- 17層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ロームを多く含む 焼土を少し含む右袖SJ-44・左袖SJ-43のフク土の上に袖を作っている
- 16層 にぶい黄褐色土(10YR 7/3) φ2mmの黄褐色土粒子を多く含むφ30mmの褐灰色土ブロックを1つ含む [カマド袖部]



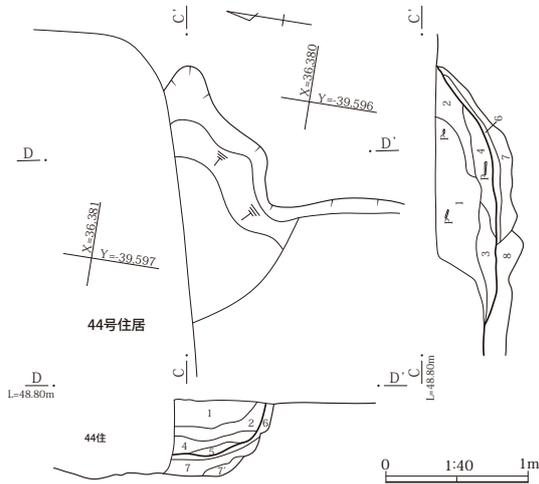
第154図 42号住居跡出土遺物

1・2区42号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+2cm 体部~底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：体部横ナデ。底部ナデ。	
2	須恵器 杯蓋	床面直上 口縁部~天井部 破片	口径 17.8 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ灰(2.5Y 5/1)	ロク口整形。 外面：天井部上半ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
3	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部~底部 破片	口径 13.8 底径 9.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロク口整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	埋土中 体部下端~底部 破片	口径 — 底径 7.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	ロク口整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	
5	土師器 小型甕	床面直上 口縁部~胴部 破片	口径 14.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	胴部に黒斑あり。
6	土師器 甕	床面直上 口縁部~胴部 破片	口径 20.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	器面摩滅。
7	土師器 甕	竈上方埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区43号住居跡 (旧称1・2区SJ-43)

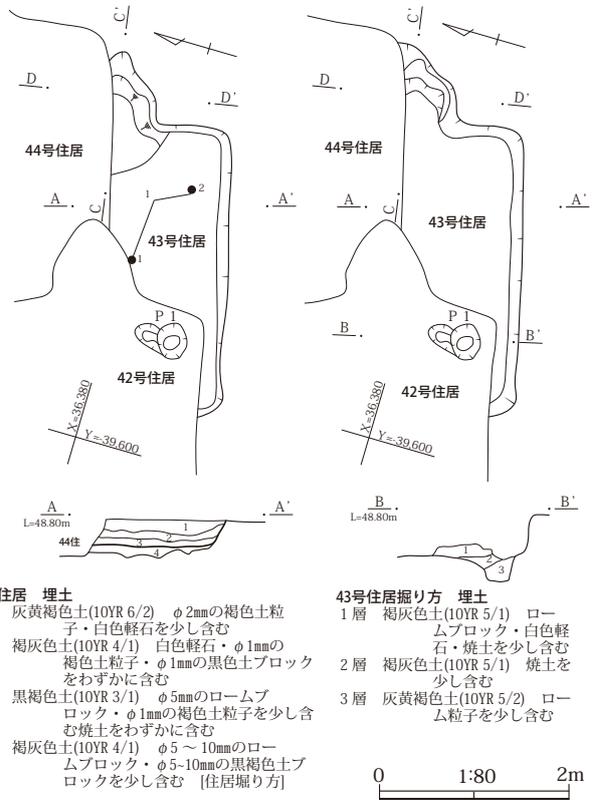
位置：X=36380 Y=-39598 主軸方向：N-78° - E
規模：3.1m×不明 平面形状：不明 残存深度：17cm ~ 23cm 埋没土：主に白色軽石と褐色土粒子を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。
床面：ロームを主体とした暗褐色土で埋め戻して床面として
いる。カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。カマドの
左半分が重複する44号住居跡によって壊されているため、遺
存状態は悪い。燃焼部使用面には灰と焼土を多く含んだ層が
広がり、煙道部は緩やかに立ち上がる。柱穴：重複する42



43号住居カマド 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石・焼土・褐灰色土粒子・φ1mmのローム粒子を少し含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を含む φ2mmの暗褐色土粒子・白色軽石を少し含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ5~10mmのロームブロック・褐色土粒子を少し含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を多く含む φ10mmのロームブロックを含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 灰を多く含む 焼土を含む
- 6層 にぶい褐色土(10YR 5/4) 焼土・ローム・灰を少し含む
- 7層 褐灰色土(10YR 4/1) 炭化物をφ1mmのロームブロックを少し含む
- 8層 褐灰色土(10YR 4/1) φ3~10mmのロームブロックを含む 焼土を少し含む
- 7層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmのロームブロックを含む

第156図 43号住居跡カマド平・断面図



43号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ2mmの褐色土粒子・白色軽石を少し含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 白色軽石・φ1mmの褐色土粒子・φ1mmの黒色土ブロックをわずかに含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/1) φ5mmのロームブロック・φ1mmの褐色土粒子を少し含む 焼土をわずかに含む
- 4層 褐灰色土(10YR 4/1) φ5~10mmのロームブロック・φ5-10mmの黒褐色土ブロックを少し含む [住居掘り方]

43号住居掘り方 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 5/1) ロームブロック・白色軽石・焼土を少し含む
- 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を少し含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) ローム粒子を少し含む

第155図 43号住居跡平・断面図・掘り方平・断面図

号住居跡に壊された部分より、径30~36cmの楕円形を呈し、深さ31cmを測るピット1基を検出し、その位置より本住居跡の柱穴と考えられる。貯蔵穴：不明。壁周溝：残存部分においてはなし。重複遺構：42・44号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本遺構はいずれの住居跡よりも古いものと判断される。掘り方：地山ローム土を深さ4~10cmほど浅く掘り窪める。出土遺物：床面直上で土師器甕(No. 1)の口縁部片が出土している。

第3章 検出遺構と出土遺物



第157図 43号住居跡出土遺物

1・2区43号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 甕	床面直上 口縁部 破片	口径 23.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	

1・2区44号住居跡 (旧称1・2区SJ-44)

位置：X = 36382 Y = -39598

主軸方向：N-72° - E

規模：4.7m × 3.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：25cm ~ 26cm 埋没土：主に少量の白色軽石を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

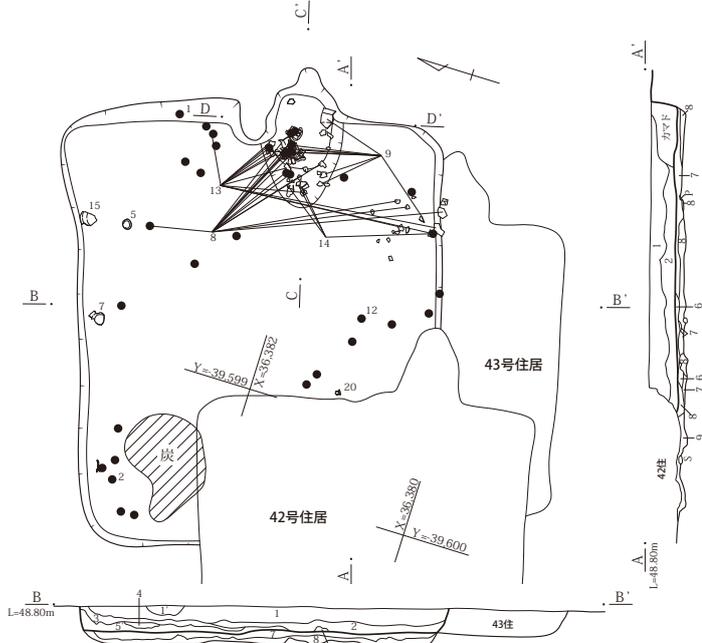
床面：掘り方埋土であるロームを主体とした暗褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。焚き口幅は55cmを測り、煙道部は短いが緩やかに立ち上がる。燃烧部使用面には焼土を含んだ灰が厚く堆積する。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。

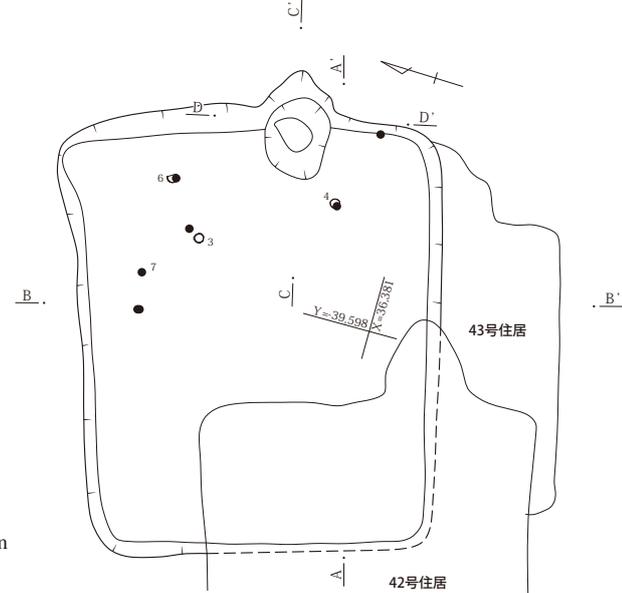
壁周溝：なし。重複遺構：42・43号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相より、本遺構は43号住居跡より新しく、42号住居跡よりも古いものと判断される。

掘り方：全体に地山ローム土を6~16cmほど掘り窪める。また、掘り方調査によって重複住居に壊された住居南西部コーナーの残存が僅かに確認された。

出土遺物：床面直上からは土師器杯 (No. 1) 台付甕 (No. 7) の他、埋土中からは須恵器甕 (No. 16)、土錘 (No. 17) が出土している。また、掘り方埋土内より須恵器椀 (No. 5・6) と転用硯と思われる円盤状須恵器片 (No. 3・4) が出土している。

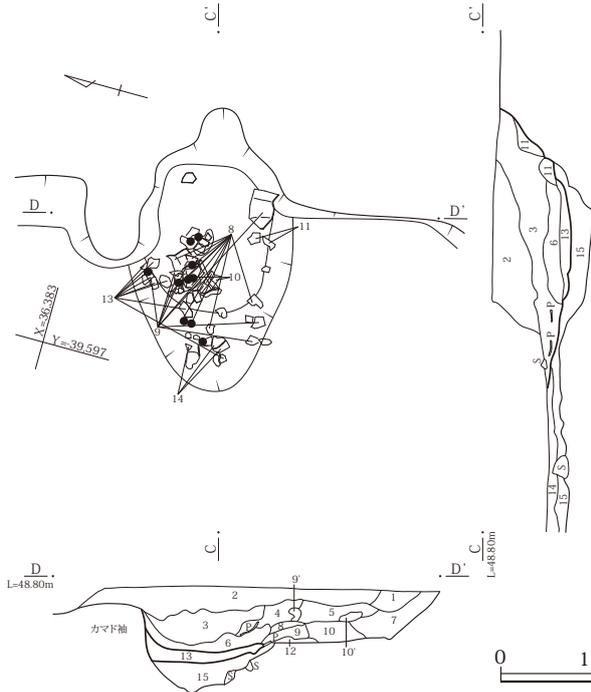


- 44号住居 埋土
- 1層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ2.5mmの褐色土粒子を多く含む 白色軽石・ロームブロック (φ1mm)・炭化物を少し含む
 - 1'層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 1層より焼土を多く含む
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ2.5mmの褐色土粒子・φ5mmの褐色土粒子・炭化物を少し含む焼土をわずかに含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 3/1) φ1~5mmのロームブロックを斑状に含む
 - 4層 黄褐色土(10YR 7/2) 褐色土粒子を少し含む 白色軽石をわずかに含む
 - 5層 褐色土(10YR 4/1) φ2mmのロームブロックを少し含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土・炭化物・褐色土粒子を少し含む
 - 7層 黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・白色軽石をわずかに含む φ5mmのロームブロックを少し含む
 - 8層 黄褐色土(10YR 5/3) ロームを多く含む



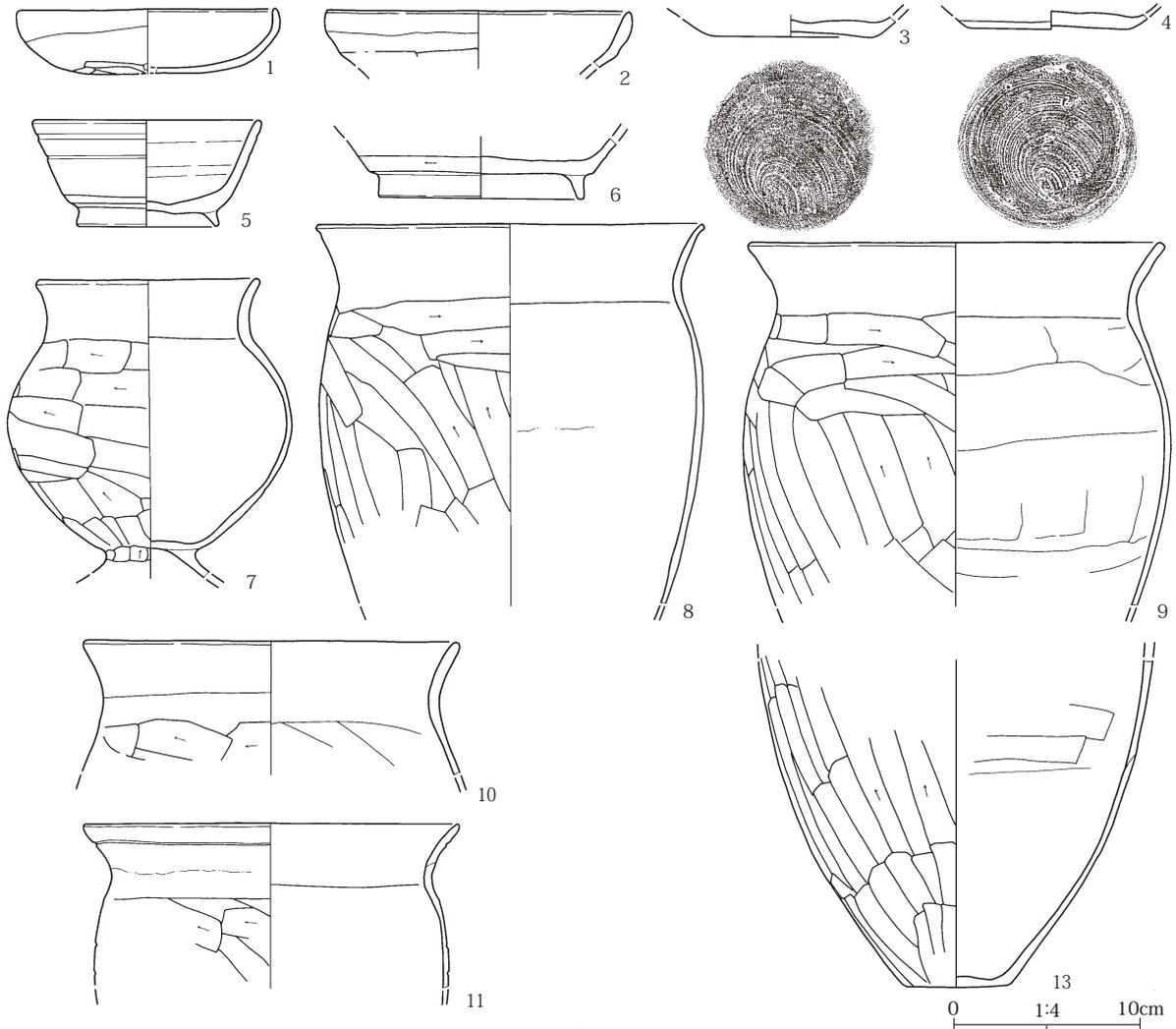
第158図 44号住居跡平・断面図、掘り方平面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



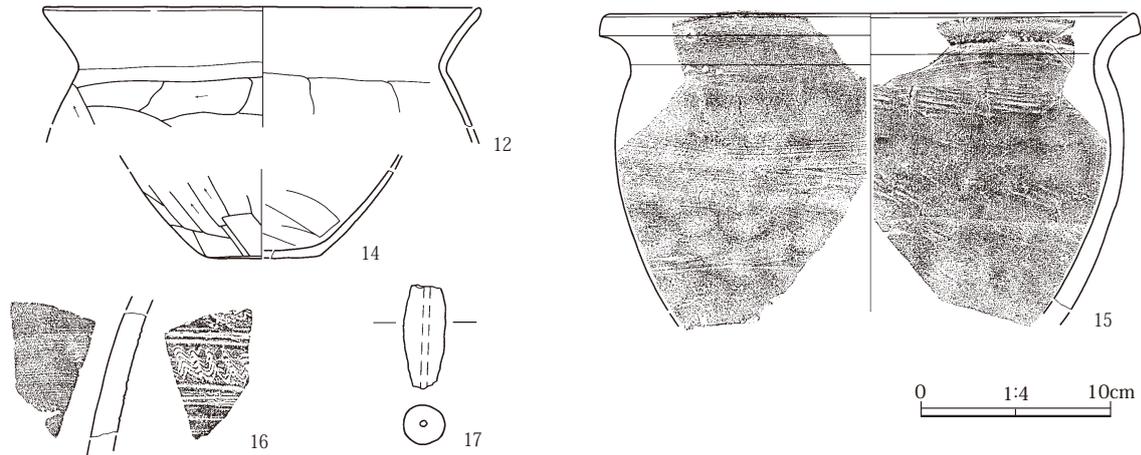
- 44号住居カマド 埋土**
- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石・焼土・φ0.25mmのロームブロックを少し含む
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ2mmの褐色土粒子を多く含む 焼土をわずかに含む 白色軽石を少し含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 7/3) φ1mmの暗褐色土ブロック・焼土を少し含む φ1.5mmのロームブロックを含む
 - 4層 褐灰色土(10YR 5/1) φ0.5mmのロームブロック・φ1.5mmの褐色土粒子を少し含む 焼土をわずかに含む
 - 5層 褐灰色土(10YR 5/1) φ0.5~2mmのロームブロックを含む φ1mmの褐色土粒子を少し含む
 - 6層 にぶい黄褐色土(10YR 7/3) 焼土を多く含む 灰・微細な褐色土粒子を少し含む
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石をわずかに含む
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) ロームをわずかに含む
 - 9層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を含む φ2~3mmのロームブロックを斑状に・灰を少し含む
 - 10層 褐灰色土(10YR 6/1) φ2mmのローム粒子を多く含む 褐色土粒子を少し含む [カマドの構築材]
 - 10'層 褐灰色土(10YR 6/1) ブロックになっている [カマドの構築材]
 - 11層 褐灰色土(10YR 4/1) 炭化物を・焼土・にぶい黄褐色土粒子を少し含む
 - 12層 黄色砂質ローム 褐灰色土粒子を少し含む [カマドの袖]
 - 13層 灰層 焼土を少し含む φ5mmの黒褐色土ブロックを帯状に少し含む [カマドの使用面]
 - 14層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土・炭化物・φ1mmの暗褐色土粒子を少し含む
 - 15層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・φ1mmの黒褐色土ブロック・ロームを少し含む

第159図 44号住居跡カマド平・断面図



第160図 44号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出遺構と出土遺物



第161図 44号住居跡出土遺物(2)

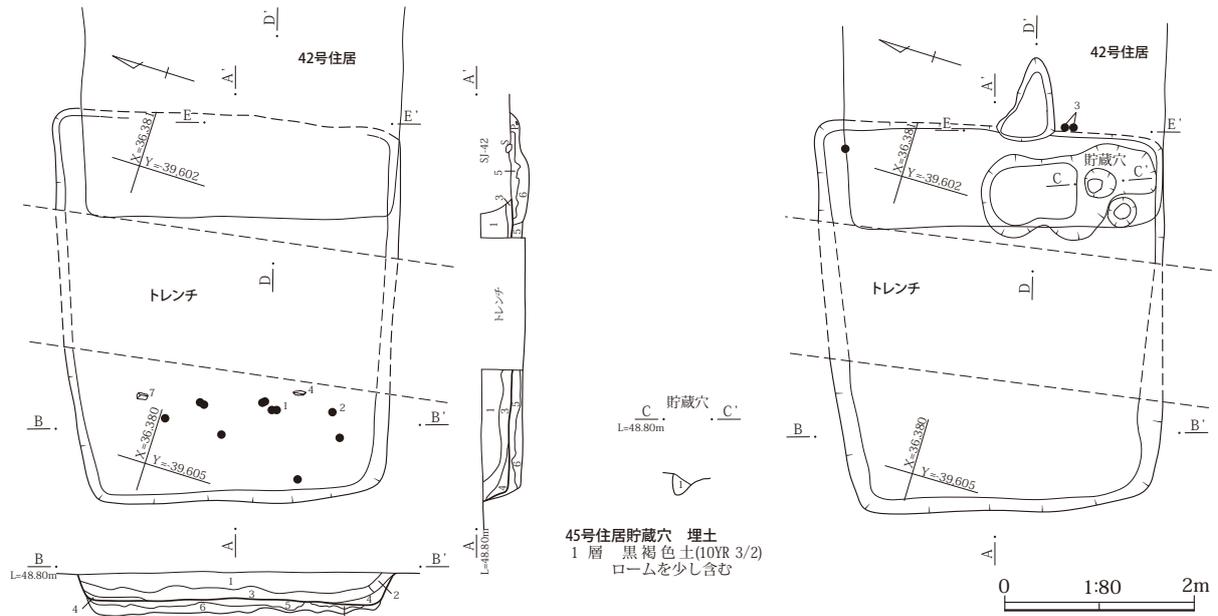
1・2区44号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+3cm 口縁部~底部 1/4	口径 13.6 底径 - 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 4/1)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	土師器 杯	床面+11cm 口縁部~体部 破片	口径 15.9 底径 - 器高 -	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。	
3	須恵器 転用硯か	床面-6cm 底部 底部のみ完形	口径 - 底径 8.6 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転系切り。 内面：底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 転用硯か	床面-5cm 底部 底部のみ完形	口径 - 底径 8.8 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：底部回転系切り。周辺部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面-6cm 口縁部~底部 1/3	口径 11.7 底径 7.3 器高 5.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	内外面に火傷が認められる。
6	須恵器 椀	床面-12cm 体部下端~底部 破片	口径 - 底径 10.8 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	
7	土師器 台付甃	床面直上、床面-4cm 口縁部~底部 1/2	口径 11.6 底径 5.2 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/4)	輪積み。台部貼付。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半縦方向ヘラ削り。 脚部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ、胴部~底部ナデ。	
8	土師器 甃	竈埋土中、床面直上 口縁部~胴部 2/3	口径 20.5 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横から斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	土師器 甃	竈埋土中 口縁部~胴部 2/3	口径 21.9 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中~下位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 甃	竈埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 19.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
11	土師器 甃	竈埋土中、竈掘方 埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 19.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横と斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
12	土師器 甃	竈埋土中、竈掘方 埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 22.6 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
13	土師器 甃	竈埋土中、竈掘方 埋土中 胴部下半~底部 口縁部~胴部上半 欠損	口径 - 底径 5.7 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
14	土師器 甃	竈埋土中、床面+7cm 胴部下端~底部 破片	口径 - 底径 6.0 器高 6.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(5YR 4/6)	輪積み。 外面：胴部縦方向、底部不定方向ヘラ削り。 内面：胴部~底部ヘラナデ。	
15	須恵器 甃	床面+14cm 口縁部~胴部 破片	口径 27.5 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 7/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部回転ナデ。胴部ナデ。平行叩き痕がかすかに残る。 内面：口縁部~胴部ヘラナデ調整。同心円アテ具痕がかすかに残る。	
16	須恵器 甃	埋土中 口縁部小片 破片	口径 - 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 8/1)	ロクロ整形。 外面：凹線区画と波状文。 内面：胴部回転ナデ調整。	
17	土製品 錘	床面+10cm 一部欠損	長さ 5.5 径 2.2 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 黒褐(10YR 3/1)	両端欠損、外面ナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量21g	

1・2区45号住居跡 (旧称1・2区SJ-45)

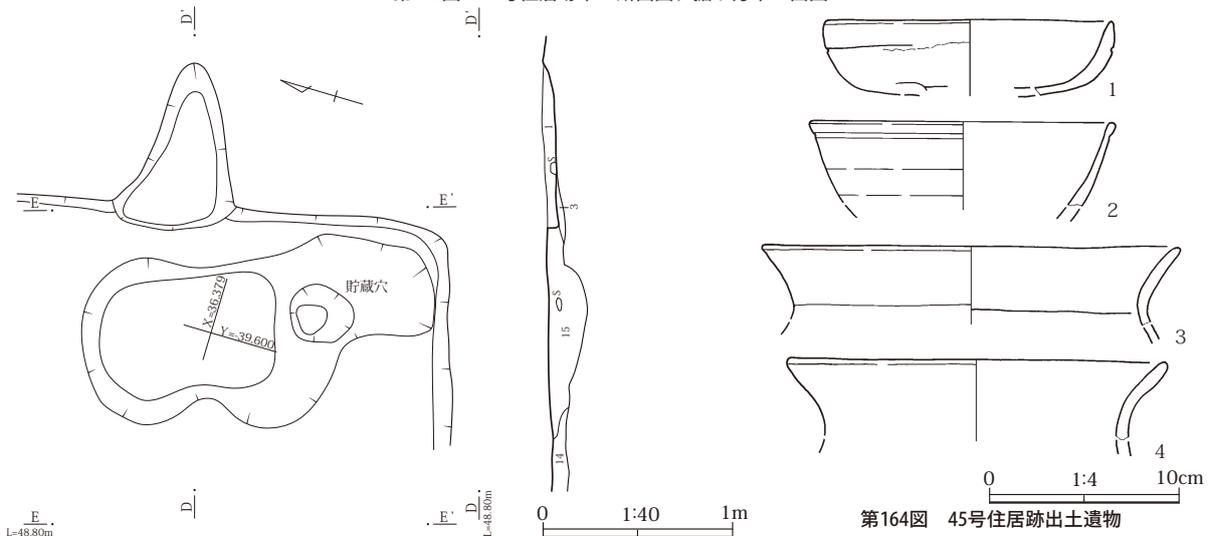
位置：X=36380 Y=-39603 主軸方向：N-72°-E 規模：4.1m×3.5m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：24cm～34cm 埋没土：主に白色軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：東壁の中央南寄りに位置する。重複する42号住居跡によって大部分が壊されており、遺存状態は悪く、下面に残る若干の焼土や灰、炭化物を確認できたのみである。柱穴：なし。貯蔵穴：カマドの右側の住居南東コーナー付近で径33cmの円形を呈し、深さ30cmを測る土坑が検出された。壁周溝：なし。重複遺構：42号住居跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：全体に地山ローム土を15cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上から磨石(No. 7)が出土する。



- 45号住居 埋土
- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・φ5～10mmの黒褐色土ブロックを少し含む φ1～5mmのロームブロックを含む 焼土をわずかに含む [45住埋土]
 - 2層 褐灰色土(10YR 6/1) φ1mmの褐色土粒子・にぶい黄褐色土粒子を斑状に多く含む
 - 3層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ2mmの褐色土粒子を含む φ2mmの黒褐色土ブロック・ローム粒子を少し含む [45住埋土]
 - 4層 褐灰色土(10YR 4/1) ロームブロック(φ5mm)・にぶい黄褐色土粒子を少し含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ロームを多く含む [45住掘り方]
 - 6層 黄色砂質ローム φ5mmのロームブロックを含む [45住掘り方]

第162図 45号住居跡平・断面図、掘り方平・面図



第163図 45号住居跡カマド平・断面図

- 45号住居カマド 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 3/1) φ10mmの黒色土ブロック・φ3mmのロームブロックを少し含む 焼土をわずかに含む
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) ローム粒子を少し含む
 - 3層 黄色砂質ローム φ2～6mmの褐灰色土ブロックを含む
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ロームを多く含む [45住掘り方]
 - 5層 黄色砂質ローム φ5mmのロームブロックを含む [45住掘り方]

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区45号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+16cm 口縁部~底部 破片	口径 14.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 暗灰黄(2.5Y 4/2)	外面に輪痕が残る。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面+10cm 口縁部~体部 破片	口径 15.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	口クロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。 内面：口縁部~体部回転ナデ調整。	
3	土師器 甕	床面-5cm 口縁部 破片	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	
4	土師器 甕	床面+12cm 口縁部 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	

1・2区46号住居跡 (旧称1・2区SJ-46)

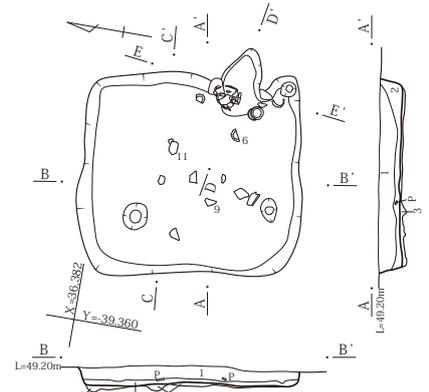
位置：X=36,381 Y=-396,88 主軸方向：N-80° - E

規模：2.1m×2.3m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：18cm～21cm 埋没土：主に白色軽石と少量のローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。遺存状態は比較的良い。焚き口幅は35cmを測り、煙道は短く急峻に立ち上がる。両袖部には芯材として礫が据えられている。

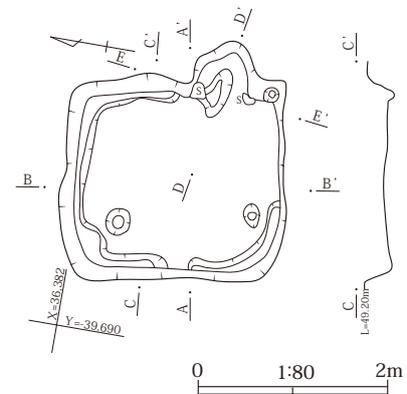
柱穴：掘り方調査で3基のピットが検出され、深度は浅いものの、その位置関係より柱穴跡と考えられる。貯蔵穴：なし。

壁周溝：南壁東半部を除き、幅18～30cm、深さ2～6cmを測る壁溝が巡る。重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土を2～5cmほど掘り窪める。出土遺物：カマド袖部付近でほぼ完形の土師器杯(No. 3)と須恵器杯(No. 7・8)が重なって出土している。そのうち土師器杯には漆が付着していた。また、同所付近から土師器甕(No. 10)も出土する。所見：一辺が2m程の極めて規模の小さい住居跡である。規模は小さいものの、カマドを含めて住居構造は他と同じく恒久的な建物の様相を呈するが、周囲に隣接する他の住居跡はなく、孤立して存在するため、集落内でも特別の存在である可能性が高い。

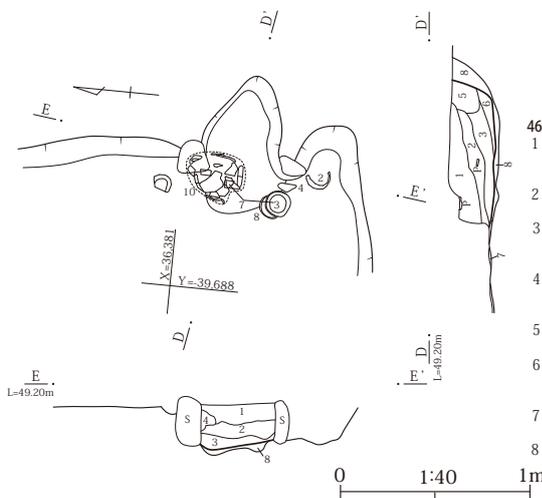


- 46号住居 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・褐色土粒子・φ1mmのローム粒子を少し含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) φ0.5～2mmのロームブロック・φ1mmの焼土・炭化物を少し含む
 - 3層 褐色土(10YR 4/3) [掘り方埋土]

第165図 46号住居跡平・断面図

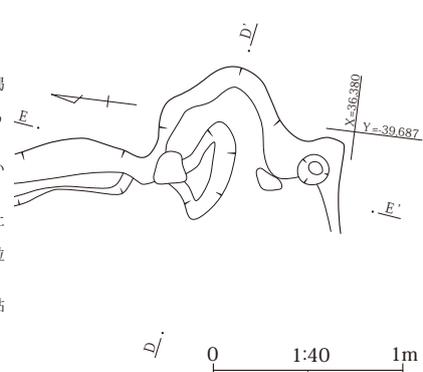


第166図 45号住居跡掘り方平・断面図



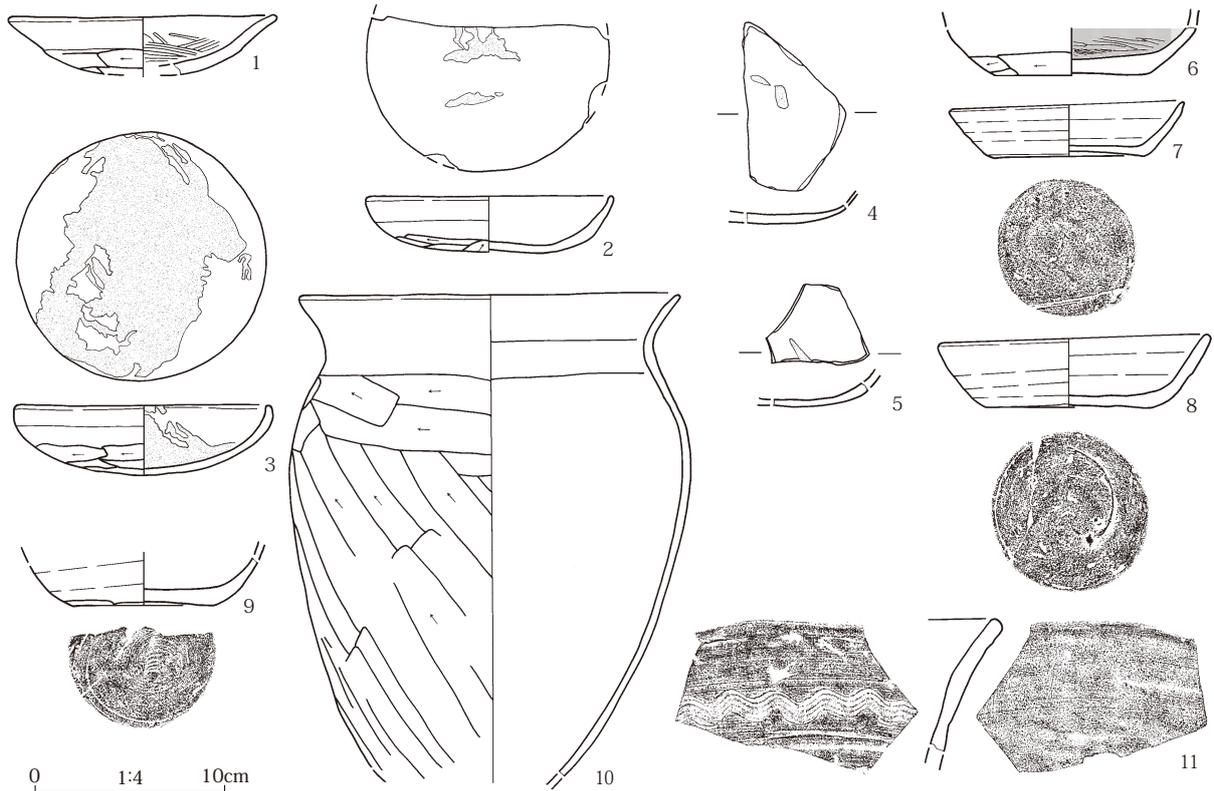
第167図 46号住居跡カマド平・断面図

- 46号住居カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ0mm)・黄褐色土粒(～φ30mm)・焼土粒含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層より黄褐色土粒多量に含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石(φ1mm)少量・黄褐色土粒少量・焼土粒含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層にふい黄褐色土(10YR 6/4)ブロック混ざる
 - 5層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 黄褐色土粒少量含む 焼土粒・炭化物含む
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘質土 [貼り床・掘り方埋土]
 - 8層 褐色土(10YR 4/3) [掘り方埋土]



第168図 46号住居跡カマド掘り方平面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第169図 46号住居跡出土遺物

1・2区46号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 高杯か	埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 13.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	外面：口縁部回転ナデ。胴部ナデ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ。底部ナデ後ヘラ磨き。	
2	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 12.7 底径 — 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	漆付着土器。
3	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.0 底径 — 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明褐(7.5YR 5/6)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部は手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部～底部ナデ。漆紙付着。	漆付着土器。 No. 7の遺物と重 なって出土
4	土師器 杯	床面+8cm 底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	外面：底部ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ。底部の一部に漆紙付着。	漆付着土器。
5	土師器 杯	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	外面：底部ヘラ削り。 内面：底部ナデ。底部の一部に漆紙付着。	漆付着土器。
6	黒色土器 椀	床面+6cm 体部下半～底部 1/2	口径 — 底径 8.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	回転右回り。 外面：体部下位回転ヘラ削り、底部は回転ヘラ切り。 内面：体部～底部ナデ、体部に3段の螺旋状暗文。	
7	須恵器 杯	床面+4cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 12.2 底径 7.5 器高 2.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、ヘラ 削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.8 底径 8.6 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転 ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	No.1の遺物と重 なって出土
9	須恵器 杯	床面+5cm 体部～底部 破片	口径 — 底径 7.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転 ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
10	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部 底部欠損	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中～下位斜めヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	胴部下黒斑あ り。器面剥落部分 が多い。
11	須恵器 甕	床面+16cm 口縁部～胴部上 端 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。口縁部凹線による区画、 区画内に波状文。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。	

第3章 検出遺構と出土遺物

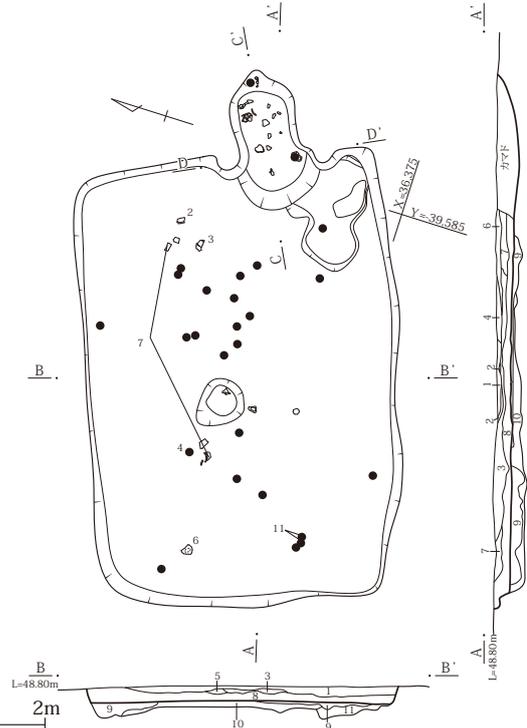
1・2区47号住居跡 (旧称1・2区SJ-47)

位置：X=36376 Y=-39587 主軸方向：N-68°-E

規模：4.7m×3.3m 平面形状：隅丸長方形

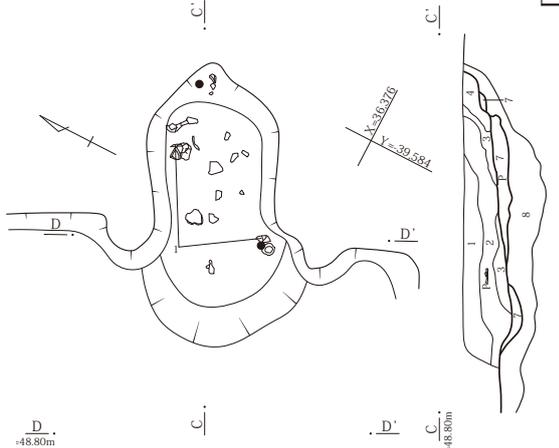
残存深度：13cm～27cm 埋没土：主に白色軽石を含む黒褐～黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面とする。カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。焚き口幅は50cmを測り、煙道部は緩やかに立ち上がる。袖は多少残存しており、地山を掘り残す形で構築される。燃烧部使用面に於いては焼土と炭化物を含んだ灰層面が確認された。柱穴：掘り方調査時において中央部に1穴のピットを検出し、その位置より柱穴跡と考えられる。貯蔵穴：掘り方調査時において、住居南東コーナー部に土坑を検出し、その位置より貯蔵穴と考えられる。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土を4～15cmほど掘り窪める。出土遺物：埋土中より土師器杯(No. 1)や須恵器杯(No. 5・6)・蓋(No. 3)・短頸壺(No. 7)、砥石(No. 8)などが出土している。



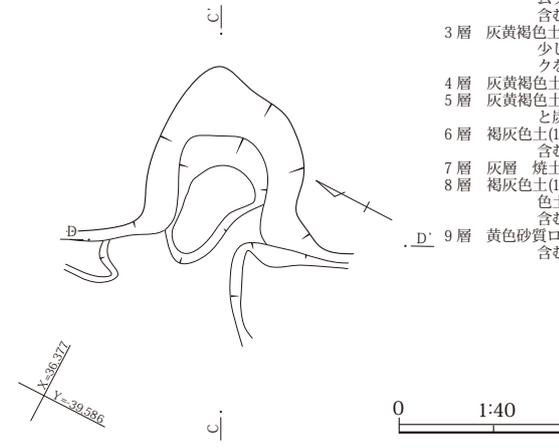
- 47号住居 埋土**
- 1層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ5mm程多量含む 炭層0.5～10mm程含む パミスφ1mm程微量含む
 - 2層 炭層 1層の土で汚れる φ5mm程の焼土粒・φ1mm程のパミスを微量含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりあり 焼土粒・パミスφ5mm以下少量含む
 - 4層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ10mm程微量含む 明黄褐色土粒(10YR 6/6)φ10mm以下・パミスφ1mm程少量含む
 - 5層 2層に近い1層の土の汚れが大きい
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり 全体にぶい黄褐色土(10YR 6/4)で汚れる 焼土粒φ10mm程・パミスφ1mm程微量含む
 - 7層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 粘性なし しまりあり φ10mm程の焼土粒・φ1mm程のパミス微量含む
 - 8層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりややあり ぶい黄褐色土(10YR 6/4)ブロックφ20mm程・黒褐色土(7.5YR 3/1)粘質土ブロックφ20mm程少量含む φ1mm程のパミス・焼土粒・炭粒微量含む
 - 9層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石をわずかに含む φ10mmの黒色土ブロックとφ5mmのロームブロックを斑状に含む [掘り方埋土]
 - 10層 ぶい黄褐色土(10YR 6/4) 褐色土粒子を少し含む [掘り方埋土]
 - 11層 褐灰色土(10YR 5/1) φ10～25mmのロームブロック・φ5mmの黒褐色土ブロック少し含む [掘り方埋土]

第170図 47号住居跡平・断面図

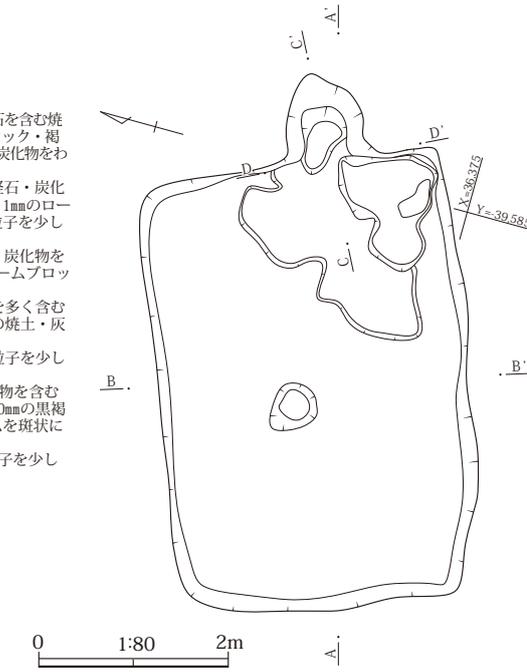


第171図 47号住居跡カマド平・断面図

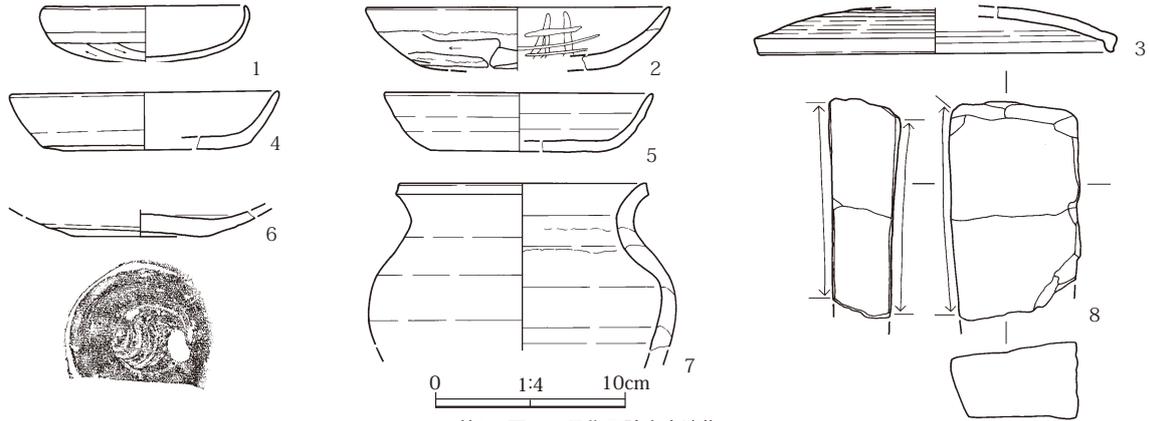
- 47号住居カマド 埋土**
- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石を含む焼土・φ1mmのロームブロック・褐色土粒子を少し含む 炭化物をわずかに含む
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・炭化物をわずかに含む φ1mmのロームブロックをわずかに含む
 - 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土・炭化物を少し含む φ1mmのロームブロックをわずかに含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土を多く含む
 - 5層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の焼土・灰と炭化物を含む
 - 6層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子を少し含む [カマドの袖]
 - 7層 灰層 焼土を少し含む、炭化物を含む
 - 8層 褐灰色土(10YR 5/1) φ5～10mmの黒褐色土ブロック・ロームを斑状に含む
 - 9層 黄色砂質ローム 褐灰色土粒子を少し含む [住居壁]



第172図 47号住居跡カマド掘り方平面図



第173図 47号住居跡掘り方平面図



第174図 47号住居跡出土遺物

1・2区47号住居跡出土遺物観察表

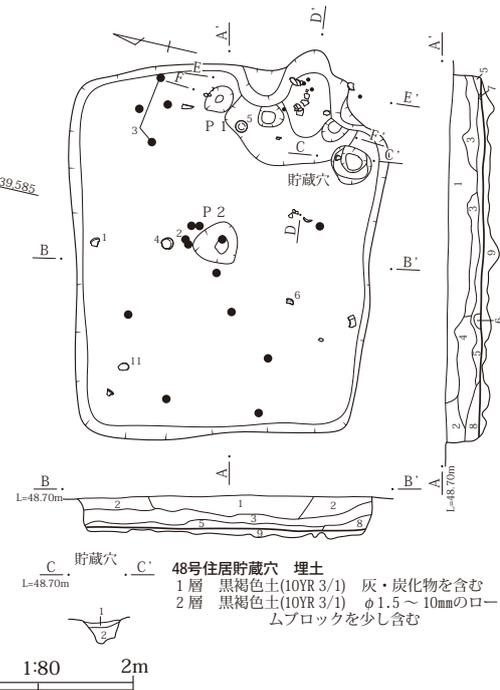
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法	備考	
				①胎土	②焼成	③色調			
1	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 1/5	口径 10.5 底径 — 器高 3.0	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	口縁部やや内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部縦方向、底部へら削り。 内面：口縁部～胴部横ナデ、底部ナデ調整。				
2	土師器 杯	床面+7cm 口縁部～底部 破片	口径 15.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	外面：口縁部～体部横方向、底部手持ちへら削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。		内面に格子状に雑なへら磨きによる記号。		
3	須恵器 杯蓋	床面+14cm 口縁部～天井部 破片	口径 18.4 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半へら削り。天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。				
4	須恵器 杯	床面+14cm 口縁部～底部 破片	口径 13.9 底径 8.0 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	ロクロ整形。 底部回転へら削り。				
5	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 13.9 底径 9.4 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。口縁部やや外反。回転方向不明。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転へら削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		全体的に摩滅。		
6	須恵器 杯	埋土中 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、へら削り調整。 内面：体部～底部回転ナデ調整。		底部外面中央に「-」の線刻あり。底部外面に指頭痕あり。		
7	須恵器 短頸壺	床面+10cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 12.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 4/0)	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
8	石製品	砥石	下部欠損	11.7	6.7	4.4	581	変質安山岩	表裏、左側面を使用している。頂部、右側面は加工時のままだ。

1・2区48号住居跡 (旧称 1・2区SJ-48)

位置：X=36367 Y=-39585 主軸方向：N-76° - E

規模：3.9m×3.2m 平面形状：隅丸長方形 残存深度：30cm

～38cm 埋没土：主に白色軽石と褐色土粒子を含む灰黄褐色～にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：北東壁の南東コーナー寄りに位置する。遺存状態は比較的良好で、袖部は地山を彫り残す形で構築される。両袖部先端には径16cmほどの窪みが検出され、袖石を据えていた痕跡と考えられる。燃烧部使用面には



第175図 48号住居跡平・断面図

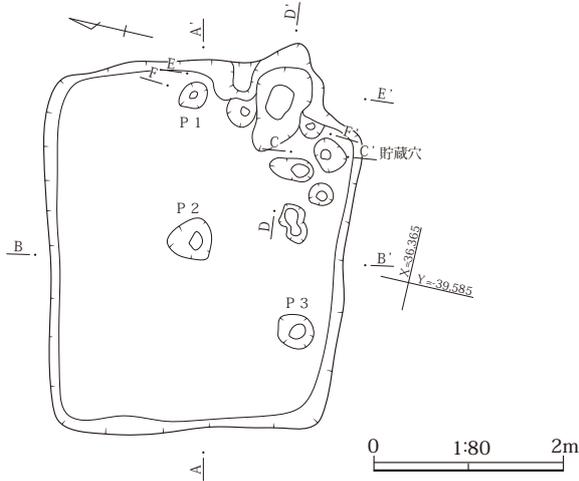
48号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・褐色土粒子・黒褐色土ブロック(φ2mm)を少し含む
φ0.5～5mmのロームブロックを含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・φ0.5mmのロームブロック・褐色土粒子を少し含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石をわずかに含む φ1～5mmのロームブロックを含む
黒褐色粒子・褐色土粒子を少し含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ5～10mmのロームブロック・φ5～15mmの黒褐色土ブロック
を含む 褐色土粒子を少し含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・炭化物・φ0.5mmのローム粒子・褐色土粒子を少し含む
- 6層 黒褐色土ブロック(10YR 2/2)
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土を多く含む
- 8層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1mmの褐色土粒子を多く含む やわらかい
- 9層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ5～10mmのロームブロックを少し含む [住居掘り方]

0 1:80 2m

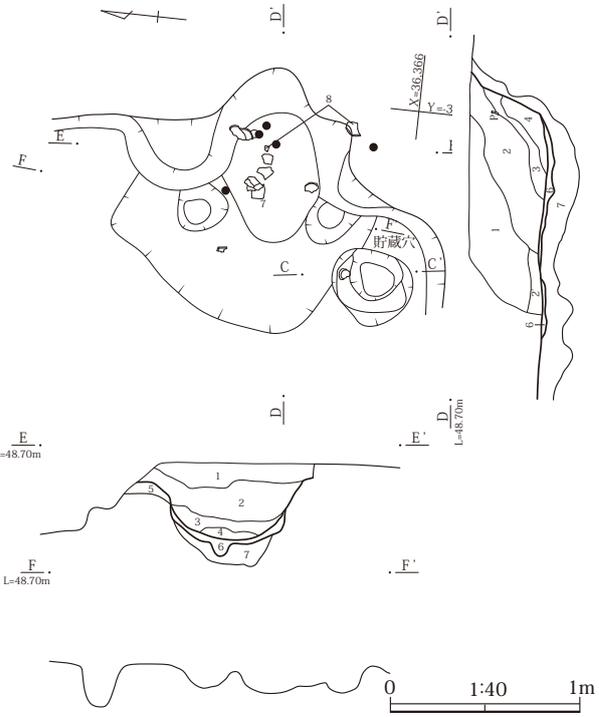
第3章 検出遺構と出土遺物

焼土を含んだ灰層面が確認され、灰層面直上には焼土化した天井部材の崩落も確認された。 柱穴：掘り方調査時において3穴のピットを検出し、そのうち位置関係より東壁際のP1および住居中央付近のP2が柱穴あたると考えられる 貯蔵穴：カマド右側で検出され、径43cm深さ27cmを測る。壁周溝：なし。 重複遺構：なし。 掘り方：全体に地山ローム土を4～10cmほど掘り窪める。 出土遺物：床面直上からは土師器杯(No. 1)や漆の付着した完形の須恵器杯(No. 5)が、また、埋土中からは砥石(No. 9)などが出土している。

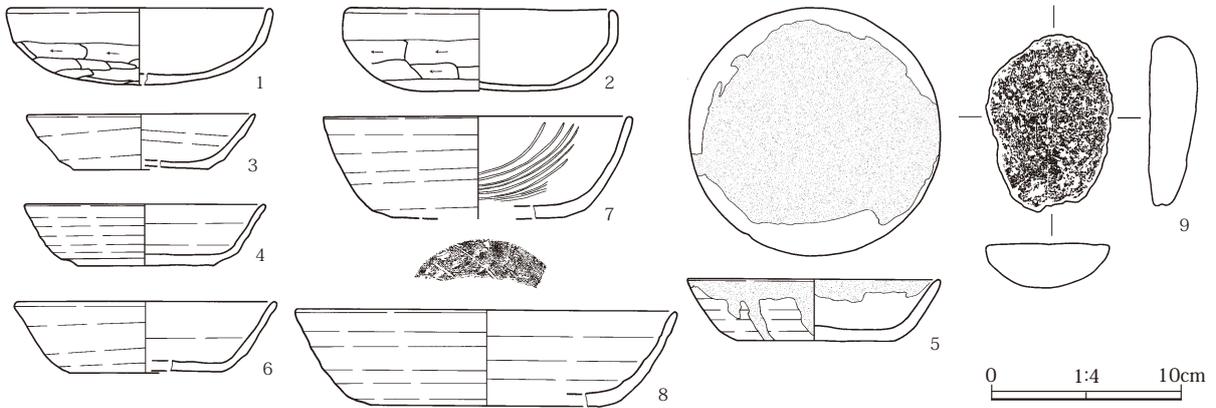


- 48号住居カマド 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・白色軽石・1mmの褐色土粒子を少し含む φ1～5mmのロームブロックを含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・φ2mmのロームブロックを・φ1mmの褐色土粒子をわずかに含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ1mmの褐色土粒子を少し含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を含む
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を多く含む [カマドの天井部]
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土粒子を少し含む [カマドの袖]
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 灰層(5BG 1.7/1) 灰を多く含む 焼土を少し含む [カマド使用面]
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) ロームを多く含む 黒褐色土を少し含む [カマド掘り方]

第176図 48号住居跡掘り方平面図



第177図 48号住居跡カマド平・断面図



第178図 48号住居跡出土遺物

1・2区48号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+3cm 口縁部～底部 1/4	口径 13.6 底径 — 器高 4.0	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	土師器 杯	床面+20cm 口縁部～底部 1/4	口径 13.7 底径 10.5 器高 4.3	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+25cm 口縁部～底部 1/4	口径 11.8 底径 7.0 器高 2.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+21cm 口縁部～底部 2/3	口径 12.3 底径 7.1 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	

1・2区48号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
5	須恵器 杯	床面直上 完形	口径 13.1 底径 8.3 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～胴部横ナデ、底部回転ヘラナデ調整。漆が漏れた痕跡あり。 内面：口縁部～底部横ナデ。漆紙付着。	漆付着土器。			
6	須恵器 杯	床面+2cm 口縁～底部 破片	口径 13.4 底径 8.0 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。口縁部やや外反。回転右回りか。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。				
7	須恵器 碗	竈埋土中 口縁部～底部 破片	口径 16.0 底径 9.2 器高 5.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ。斜め方向のヘラ磨き？	底部外面に線刻			
8	須恵器 碗	竈埋土中 口縁部～底部 破片	口径 19.7 底径 11.4 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内外面に火罨が認められる。			
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
9	石製品	砥石	完形	8.4	6.5	2.5	66	二ツ岳軽石	

1・2区49号住居跡 (旧称1・2区SJ-49)

位置：X=36393 Y=-39582 主軸方向：N-77°-E

規模：4.8m×3.8m 平面形状：隅丸長方形

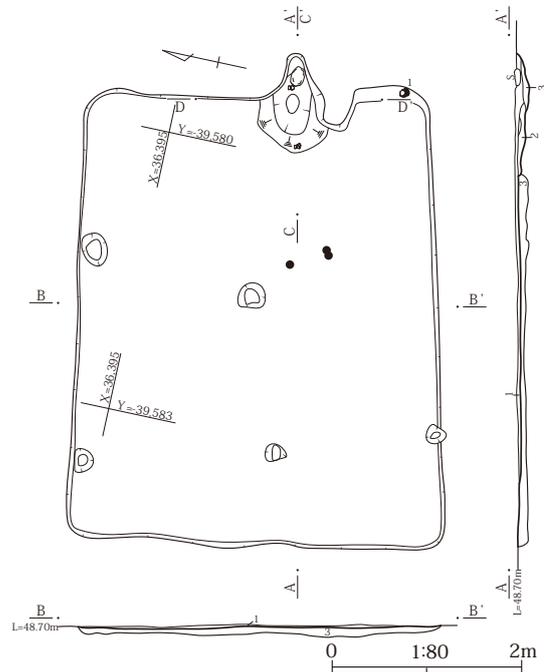
残存深度：3cm～4cm 埋没土：上面を削平された状態で、床面直上に堆積するロームを含む灰黄褐色土のみで、埋没の様相は明らかではない。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：北東壁の中央やや南寄りに位置する。遺存状態は悪く、僅かに残る右袖部から、袖部は地山を彫り残す形で構築されていたものと考えられる。煙道部は緩やかに立ち上がり、埋土中より礫が出土するが、カマド構築に伴うものか否かは不明である。柱穴：掘り方調査の段階ピットが数基検出され、住居壁際の3穴と住居中央部の2穴が柱穴と成るものと思われる。

貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。

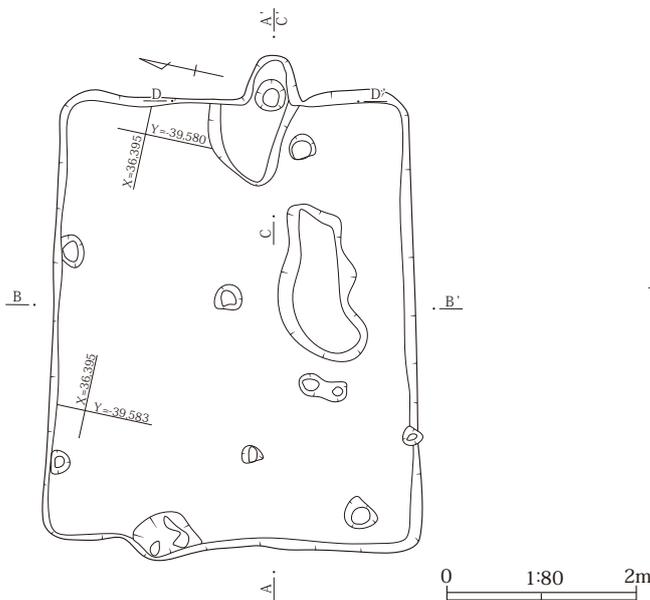
掘り方：全体に地山ローム土を4～8cmほど掘り窪める。

出土遺物：出土量はごく僅かである。床面直上で須恵器皿(No. 1)の底部片が出土している。

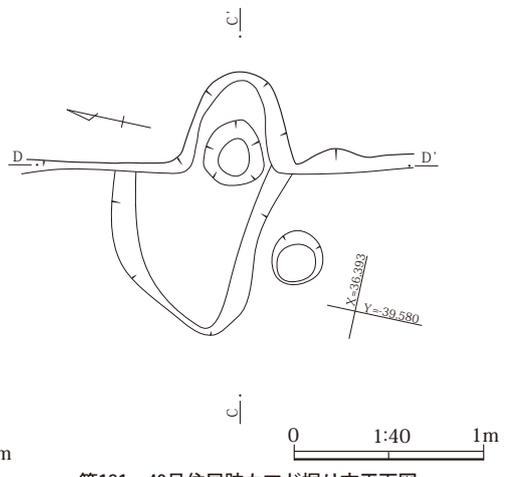


49号住居 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) ロームを多く含む 黒褐色土粒子を少し含む [住居使用面]
2層 黒褐色土(10YR 3/1) ロームを多く含む焼土を含む
3層 褐灰色土(10YR 4/1) ロームを多く含む [住居掘り方]

第179図 49号住居跡平・断面図

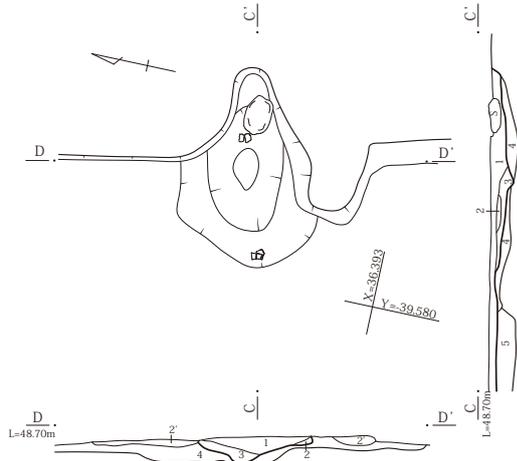


第180図 49号住居跡掘り方平面図



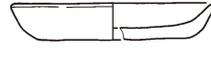
第181 49号住居跡カマド掘り方平面図

第3章 検出遺構と出土遺物



49号住居カマド 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・炭化物・φ0.5mmの暗褐色土ブロックを少し含む 白色軽石をわずかに含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ロームを多く含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 白色軽石を少し含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土を含む ローム粒子・白色軽石・φ1mmの褐色土ブロックを少し含む
- 4層 黒褐色土(10YR 3/2) ロームを多く含む
- 5層 黄色砂質ローム土 黒褐色土粒子を少し含む [住居貼り床]



0 1:4 10cm

第182図 49号住居跡カマド平・断面図、出土遺物

1・2区49号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 皿	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 10.4 底径 8.0 器高 1.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	外面：底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。 内面：底部ナデカ。	器面摩滅。

1・2区50号住居跡 (旧称1・2区SJ-50)

位置：X=36390 Y=-39586

主軸方向：N-68° - E 規模：4.9m×4.5m

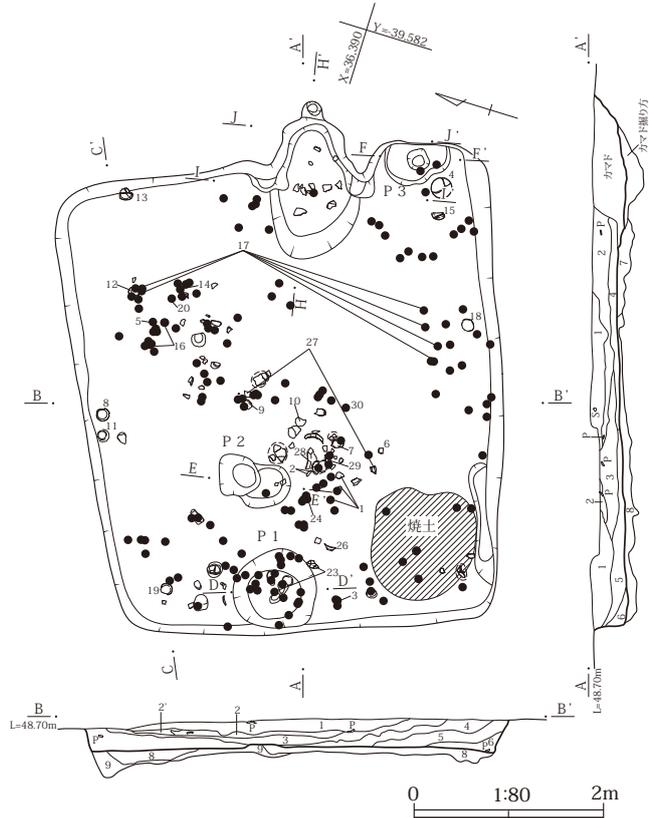
平面形状：隅丸長方形 残存深度：23cm～39cm

埋没土：主に少量の白色軽石を含む黒色～黒褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：北東壁の中央やや南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。焚き口幅は65cmを測り、燃焼部使用面には焼土を含んだ灰が堆積し、その上に崩落した天井部が認められる。袖は地山を掘り残す形で構築される。また、使用面下にも炭化物を含んだ灰層面が残り、古い段階での使用面と考えられる。柱穴：3基確認したが、柱穴に相当すると思われるものはP2の1穴であり、P3はその位置から貯蔵穴の可能性が高く、P1は掘り方段階で検出されたP4と同じく、掘り方に伴う土坑状の掘り込みと考えられる。貯蔵穴：P3は、68×40cm、深さ18cmで、焼土と炭化物を含んだにぶい黄褐色土で埋没する。壁周溝：南壁コーナー付近で幅22cm、深さ5cmを測る壁溝が一部検出されたのみである。

重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土を浅く掘り込み、一部を土坑状に掘り窪める。

出土遺物：埋土中よりの出土量は比較的多い。壁際の床面付近からは完形の須恵器杯(No.11)、土師器杯(No.1・2)、須恵器杯(No.8・12)・黒色土器蓋(No.4)、墨書土器(No.21)、などが出土する。

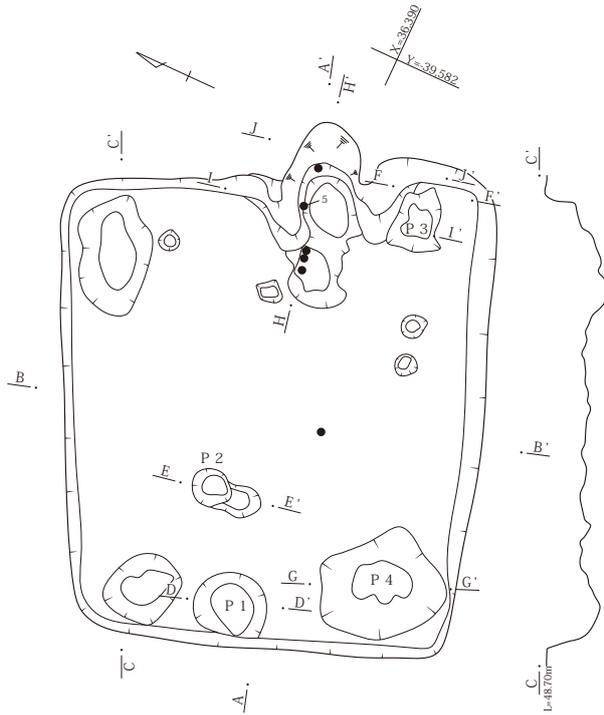


50号住居 埋土

- 1層 黒色土(10YR 2/1) 白色軽石・炭化物を少し含む φ1～2.5mmの焼土を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 7/3) 焼土を多く含む 炭化物を少し含む
- 2層 黒色土(10YR 2/1) φ5～15mmの焼土を含む 炭化物を少し含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土を含む φ1.5mmの褐灰色土ブロック・φ0.5mmの黒色土ブロックを少し含む
- 4層 褐灰色土(10YR 4/1) φ0.25mmの褐色土粒子・φ1.5mmのロームブロック・焼土を少し含む・φ0.25mmの黒色土ブロックを少し含む
- 5層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmの褐色土粒子を多く含む 白色軽石・焼土・炭化物を少し含む・φ1mmのロームブロックを少し含む
- 6層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmの褐色土粒子・白色軽石を少し含む 焼土・炭化物φ1mmのロームブロックをわずかに含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土・炭化物・φ5～20mmのロームブロックを含む [住居掘り方]
- 8層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ロームを多く含む [住居掘り方]
- 9層 明黄褐色土(10YR 7/6) φ2mmの褐色土粒子を含む [住居掘り方]

第183図 50号住居跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第184図 50号住居跡掘り方平・断面図

D . P 1 . D'
L=48.70m



50号住居 P 1 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 白色軽石をわずかに含む焼土を少し含む φ 5mmにぶい黄褐色土ブロックを帯状に含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/2) ロームを少し含む 白色軽石をわずかに含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/2) ローム・焼土を少し含む
- 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 帯状に焼土を含む
- 5層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ 1.5mmのローム粒子を含む
- 6層 黒褐色土(10YR 3/2) にぶい黄褐色土粒子を少し含む

E . P 2 . E'
L=48.70m



50号住居 P 2 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土をわずかに含む
- 2層 にぶい橙色土(5YR 6/4) 黒褐色土ブロックを帯状に含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土・炭化物・ロームブロック(φ1.5mm)を少し含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ 1mmのロームブロックをわずかに含む
- 5層 褐灰色土(10YR 4/1) 炭化物を多く含む
- 6層 黄色砂質ローム φ 3mmの褐灰色土ブロックを少し含む

F . P 3 . F'
L=48.70m



50号住居 P 3 埋土

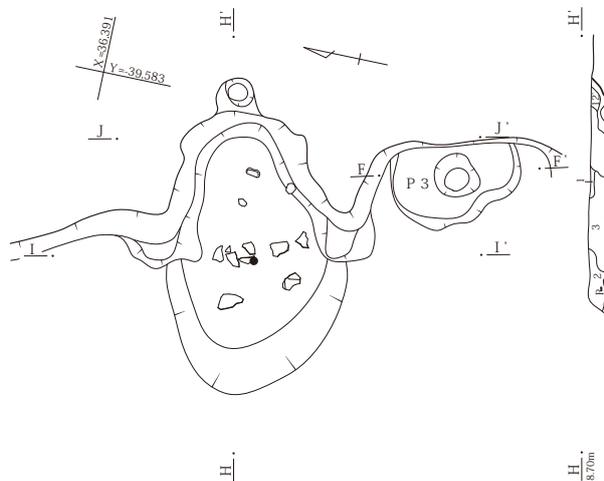
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 3/3) 焼土・φ 1mmの褐色土粒子を少し含む 炭化物をわずかに含む φ 1~10mmのロームブロックを含む (貯蔵穴)

G . P 4 . G'
L=48.70m



50号住居 P 4 埋土

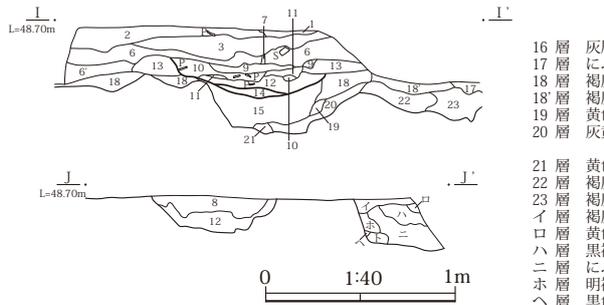
- 1層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土を多く含む φ 3mmのロームブロックを少し含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 5~30mmの黒褐色土ブロックを斑状に・ロームを多く含む



第185図 50号住居跡カマド平・断面図

50号住居カマド 埋土

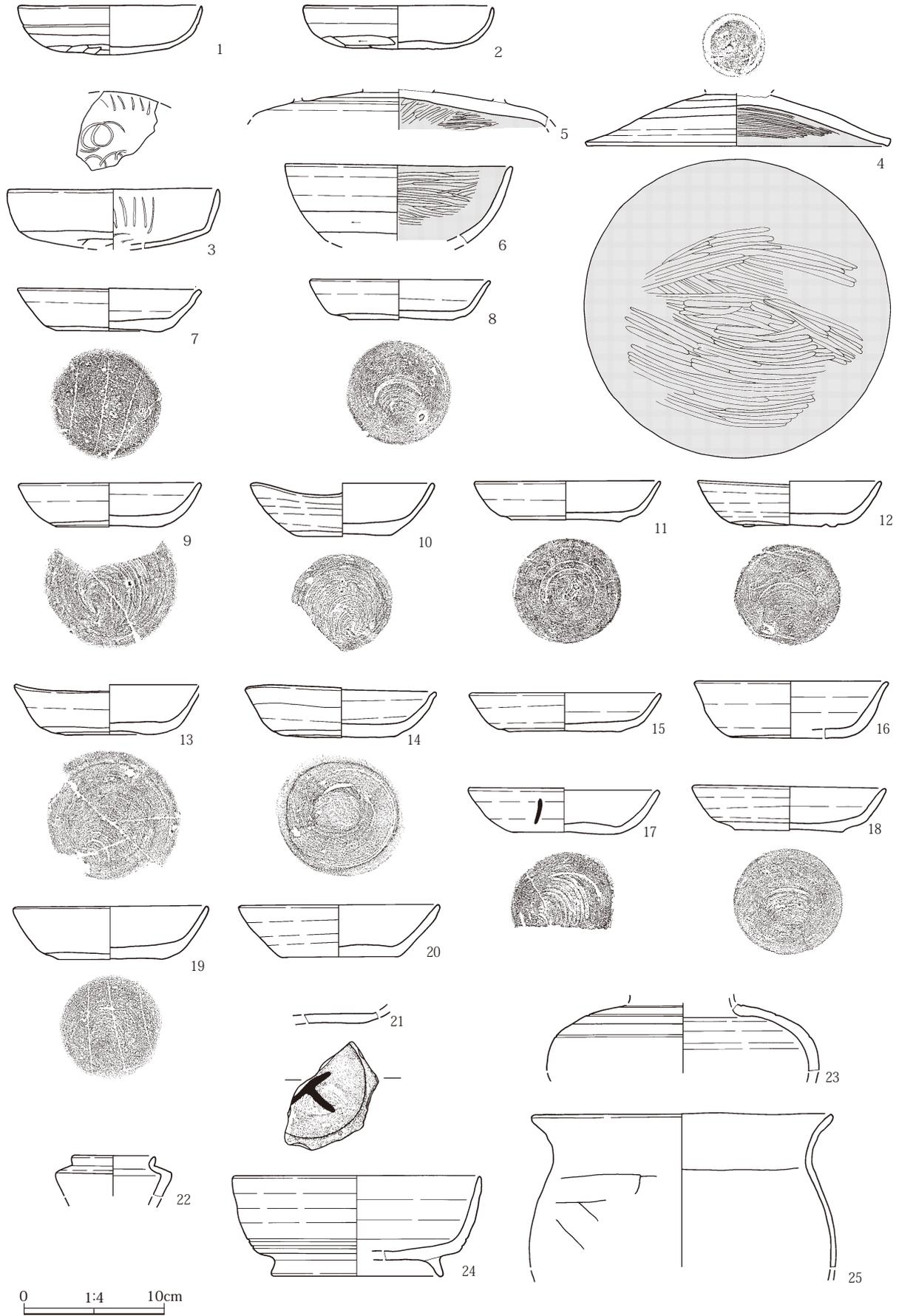
- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 白色軽石をわずかに含む φ 0.5mmの褐色土粒子を少し含む
- 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 白色軽石を・焼土・炭化物・φ 0.5mmのローム粒子を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土・炭化物・褐灰色土・ローム粒子(φ 0.25mm)・φ 0.25mmの褐色土ブロックを少し含む
- 4層 褐灰色土(10YR 5/1) 黒褐色土ブロック(φ 10mm)・白色軽石を含む 焼土を少し含む
- 5層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) φ 1mmの褐色土粒子・φ 1.5mmのロームブロックを少し含む
- 6層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 3-20mmの黒褐色土ブロックを多く含む 白色軽石・焼土をわずかに含む
- 6'層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 3-20mmの黒褐色土ブロックを多く含む 白色軽石・焼土をわずかに含むロームブロック(φ 1.5mm)を少し含む
- 7層 褐灰色砂質土(10YR 5/1) ブロック状に4層の間に含まれている
- 8層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 1mmの褐色土粒子・炭化物を含む焼土を多く含む
- 9層 褐灰色土(10YR 5/1) 焼土を多く含む
- 10層 黄色砂質ローム土 φ 2mmの褐色土粒子を少し含む [カマド天井崩落土]
- 11層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土を含む 灰を多く含む
- 12層 橙色土(5YR 7/6) 焼土層・φ 1mmの褐色土ブロックを少し含む
- 12層 煙道部の焼土ブロック
- 13層 黄色砂質ローム土 φ 0.5mmの暗褐色土粒子・褐灰色土(φ 0.5mm)ブロックを少し含む [カマド袖]
- 14層 灰層 焼土を少し含む・炭化物を少し含む [カマド使用面]
- 14'層 灰層 焼土を多く含む
- 14''層 焼土層 灰を少し含む
- 15層 にぶい赤褐色土(5YR 5/3) 焼土・φ 5mmのロームブロックを含む φ 2~5mmの黒褐色土ブロックを少し含む



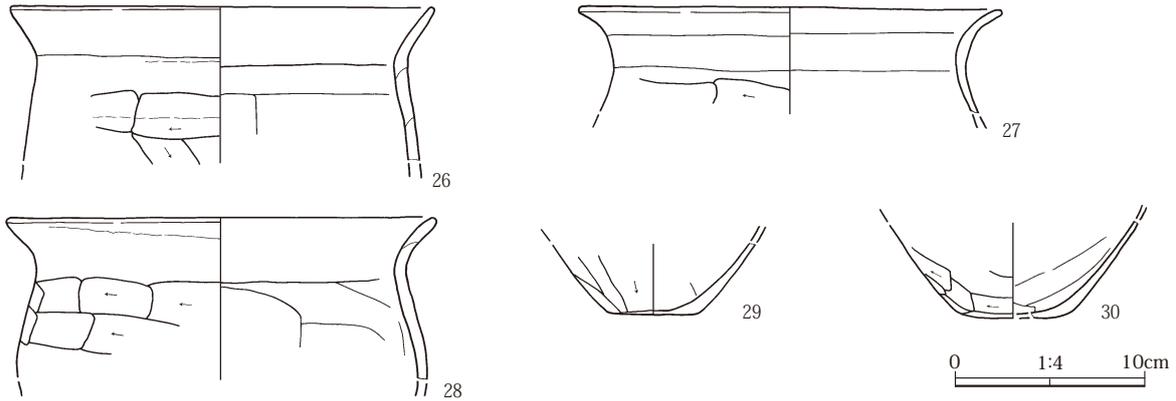
第185図 50号住居跡カマド平・断面図

- 16層 灰層 旧使用面の残り 炭化物を含む
- 17層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 焼土を少し含む 炭化物を帯状に含む ロームを斑状に含む
- 18層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 25mmのロームブロックを含む 焼土を少し含む
- 18'層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 5~10mmのロームブロック・焼土を少し含む
- 19層 黄色砂質ローム土 ブロック 堅い
- 20層 灰黄褐色土(10YR 6/2) φ 1mmの黒褐色土ブロック・焼土・ロームブロック(φ 2~5mm)を少し含む
- 21層 黄色砂質ローム土 褐灰色土粒子を少し含む
- 22層 褐灰色土(10YR 4/1) φ 1-10mmのロームブロックを含む 炭化物・焼土をわずかに含む
- 23層 褐灰色土(10YR 4/1) ロームを多く含む
- イ層 褐灰色土(10YR 5/1) 黒褐色土粒子・φ 1.5mmのロームブロック・焼土を少し含む
- ロ層 黄色砂質ローム土 褐灰色土粒子を少し含む
- ハ層 黒褐色土(10YR 3/1) 焼土・炭化物・φ 1.5mmのロームブロックを少し含む
- ニ層 にぶい黄褐色土(10YR 7/2) φ 0.5~1mmのロームブロックを含む 焼土・炭化物を少し含む
- ホ層 明褐灰色土(7.5YR 7/2) 褐色土粒子(φ 2mm)を少し含む
- ヘ層 黒色土(10YR 2/1) ブロック
- ト層 黄色砂質ローム土 褐灰色土粒子を少し含む

第3章 検出遺構と出土遺物



第186図 50号住居跡出土遺物(8)



第187図 50号住居跡出土遺物(2)

1・2区50号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+7cm 口縁部~底部 1/2	口径 12.8 底径 — 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	外面：口縁部横ナデ、底部は周辺部ナデ、中央部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部~底部回転ナデ調整。	
2	土師器 杯	床面+12cm 口縁部~底部 1/2	口径 13.4 底径 — 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部~底部回転ナデ調整。	
3	土師器 杯	床面+22cm 口縁部~底部 破片	口径 14.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	外面：口縁部~体部横ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ調整。	
4	黒色土器 杯蓋	床面直上 ほぼ完形 摘部欠損	口径 21.7 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 内面黒色処理 ③ 橙(7.5YR 7/6)	ロクロ整形。 外面：天井部上半ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	外面に火罨
5	黒色土器 杯蓋	床面+15cm 体部~天井部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 内面黒色処理 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部回転ヘラ削り。摘み、凸帯か貼付か。 内面：天井部ヘラ磨き調整。	
6	黒色土器 碗	床面直上 口縁部~体部下半 破片	口径 15.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。体部下位2段の回転ヘラ削り。 内面：口縁部~体部ナデ後ヘラ磨き。	
7	須恵器 杯	床面+12cm 口縁部~底部 1/2	口径 12.7 底径 7.6 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄(2.5Y 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。底部 外面にヘラ記号 「三」
8	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 一部欠損	口径 12.8 底径 7.3 器高 2.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
9	須恵器 杯	床面+20cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.8 底径 7.3 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。後周辺部 回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
10	須恵器 杯	床面+8cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.8 底径 6.8 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。体部最下位と底部回転系切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	内面底部中央部 に漆付着。
11	須恵器 杯	床面直上 完形	口径 13.0 底径 7.7 器高 2.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/6)	ロクロ整形。回転左回りか。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
12	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/3	口径 13.0 底径 8.8 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
13	須恵器 杯	床面+20cm 口縁部~底部 2/3	口径 13.2 底径 5.8 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
14	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 2/3	口径 13.3 底径 8.1 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
15	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 13.4 底径 7.8 器高 2.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	

第3章 検出遺構と出土遺物

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
16	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 13.4 底径 8.4 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回りか。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
17	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 13.5 底径 7.4 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周辺は 回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	胴部外面に 「ノ」の墨書。
18	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 2/3	口径 13.5 底径 7.6 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
19	須恵器 杯	床面+11cm 口縁部～底部 2/3	口径 13.6 底径 7.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(10YR 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。底部 外面にヘラ記号 「三」
20	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口径 14.0 底径 8.4 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
21	須恵器 杯	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：底部回転糸切り。後回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底部外面にの墨 書。
22	須恵器 短頸壺	埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 5.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。	
23	須恵器 長頸壺	床面+15cm 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ調整。	
24	須恵器 椀	床面+13cm 口縁部～底部 破片	口径 17.3 底径 11.5 器高 7.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
25	土師器 甕	竈掘方埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 21.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
26	土師器 甕	床面+9cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 22.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横～縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
27	土師器 甕	床面+6cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 22.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
28	土師器 甕	床面+11cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 22.3 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
29	土師器 甕	床面+11cm 胴部下端～底部 破片	口径 — 底径 4.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	輪積み。 外面：胴部～底部ヘラ削り。 内面：胴部～底部ヘラナデ。	
30	土師器 甕	床面+14cm 胴部下端～底部 破片	口径 — 底径 6.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 褐(7.5YR 4/3)	輪積み。 外面：胴部～底部ヘラ削り。 内面：胴部～底部ヘラナデ。	

1・2区51号住居跡(旧称1・2区SJ-51)

位置：X=36385 Y=-39587 主軸方向：N-74°-E 規模：3.2m×4.1m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：12cm～23cm 埋没土：上面が削平された状態であるため埋没過程は明らかではないが、僅かに残る埋土の堆積状態は、自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。

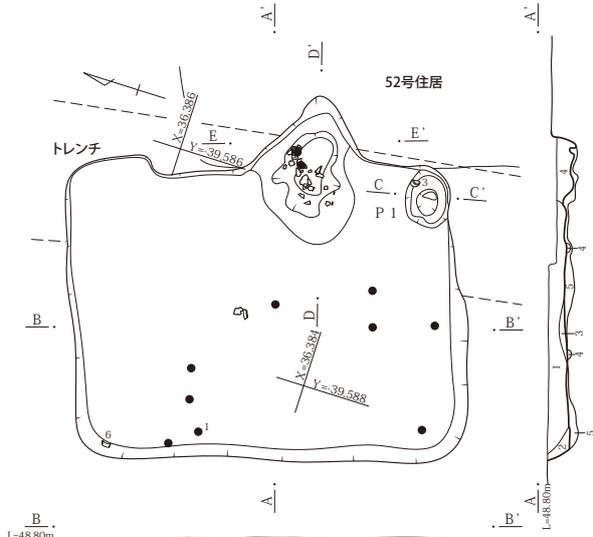
カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。袖部は試掘トレンチにより削平されているが、残存部より地山を掘り残す形で構築されていたものと考えられる。燃焼部使用面には焼土を含んだ灰の堆積が認められた。

柱穴・貯蔵穴：南東コーナー部において径60×44cm、深さ54cmを測る断面形状が柱穴状のピットを1基確認するが、位置的に貯蔵穴である可能性もある。 壁周溝：なし。

重複遺構：52号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相より、本遺構の方が新しいものと判断される。

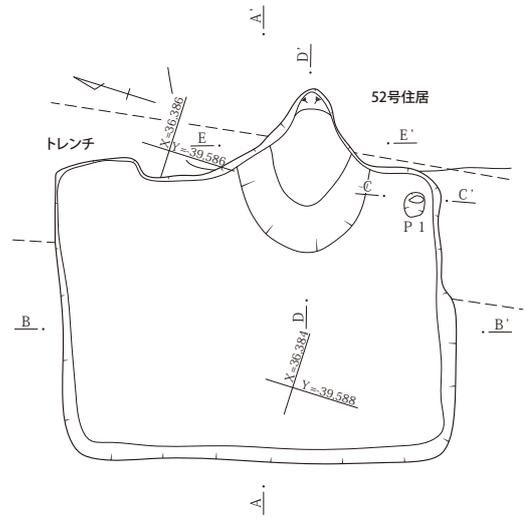
掘り方：主に住居壁際の地山ローム土を14cmほど掘り窪める。出土遺物：出土した遺物量はごく僅かではあるが、床面付近から三彩陶器の小型短頸壺(葉壺)片(No. 1)が出土している。

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



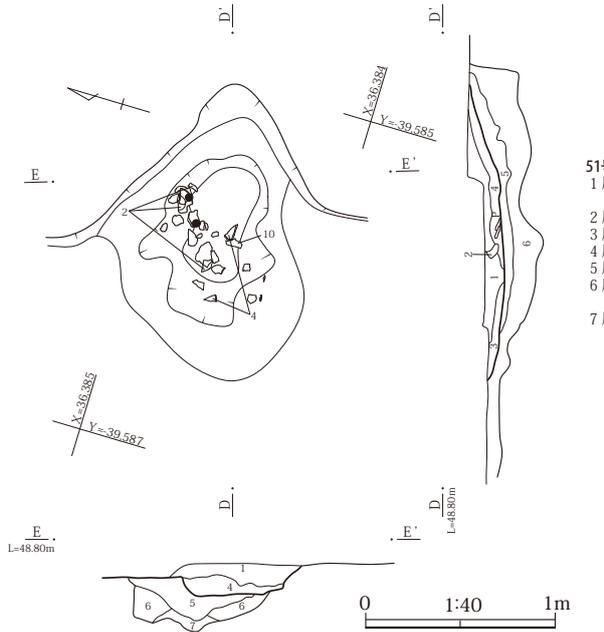
- 51号住居 埋土**
- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・焼土・炭化物・φ1mmの褐色土粒子を含むφ2mmのロームブロックを少し含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ5mmのロームブロックを含む
 - 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・焼土・炭化物をわずかに含む ローム粒子を少し含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土・ローム粒子を少し含む
 - 5層 黄色砂質ローム土 φ5mmの褐灰色土ブロックを少し含む

第188図 51号住居跡平・断面図



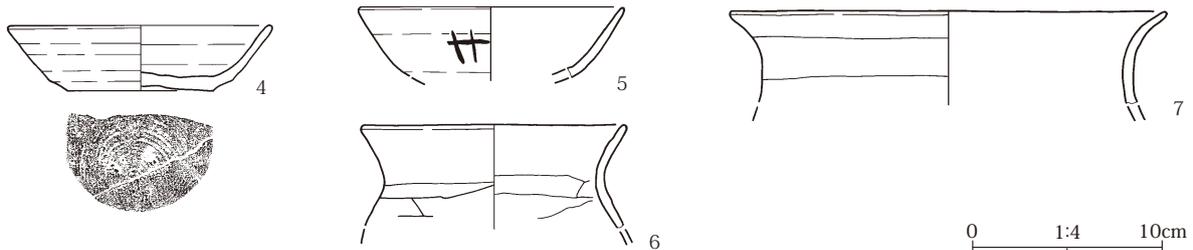
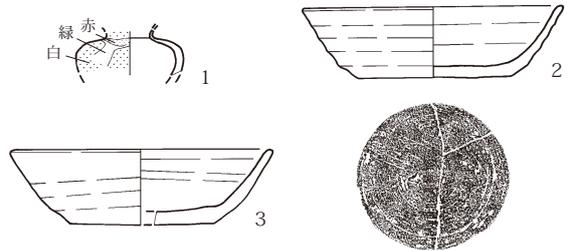
- 52号住居 P1 埋土**
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 白色軽石・φ1mmのロームブロックをわずかに含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) ロームを多く含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ1mmのロームブロックを少し含む

第189図 52号住居跡掘り方平面図



第190図 50号住居跡カマド平・断面図

- 51号住居カマド 埋土**
- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 白色軽石・焼土・φ1mmのロームブロック・φ1mmの褐色土粒子を少し含む
 - 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土を少し含む 灰を多く含む
 - 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土・φ1.5mmのロームブロックを少し含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 焼土を多く含む φ1mmの褐色土粒子を少し含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 灰を多く含む 焼土を少し含む [カマド使用面]
 - 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土を含む φ2.5mmのロームブロックを少し含む [カマド堀方]
 - 7層 黄色砂質ローム土 φ10mmのにぶい黄褐色土ブロックを含む



第191図 51号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区51号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	多彩陶器 小型短頸壺	床面+8cm 口縁部～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 やや軟質 ③ 淡黄(2.5Y 8/3)	ロクロ整形。 胴部に多彩の黄緑色・赤褐色透明釉の釉薬を施釉。	
2	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 13.4 底径 7.8 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(5Y 8/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	P1埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 13.6 底径 7.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	竈使用面直上 口縁部～底部 1/4	口径 13.7 底径 7.6 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 明褐灰(5YR 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
5	須恵器 杯	埋土中 体部 破片	口径 13.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	胴部外面に「サ = 20の漢字」 の墨書。
6	土師器 甕	床面+8cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 13.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
7	土師器 甕	竈使用面直上 口縁部～頸部 破片	口径 23.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区52号住居跡 (旧称1・2区SJ-52)

位置：X=36385 Y=-39583

主軸方向：N-70° - E 規模：5.6m×4.2m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：12cm～23cm

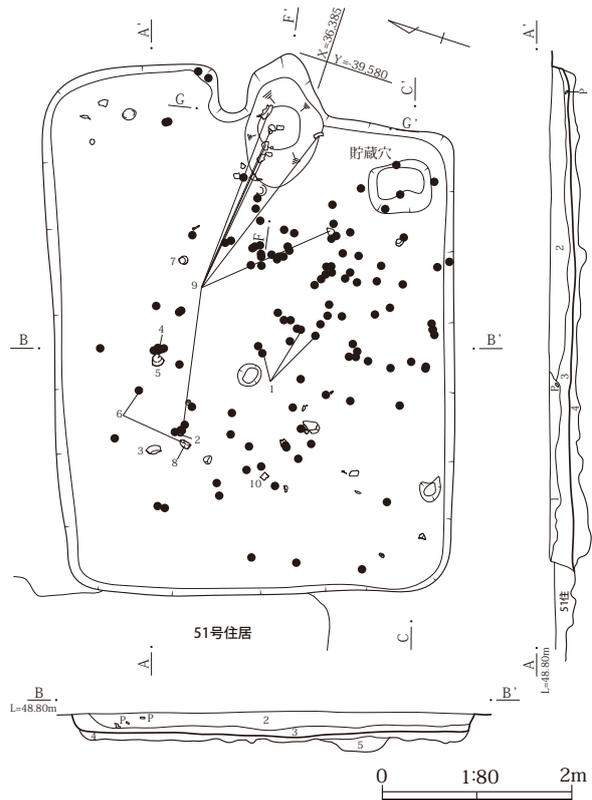
埋没土：主に褐色土粒子等を含む灰黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固めて、床面としている。

カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。袖部は地山を彫り残す形で構築され、右袖部に至っては袖部端～東壁～住居南東コーナーへと続くプランを呈する。そのため煙道部は壁ラインよりあまり突出せず、カマド燃焼部も住居内に入り込む。燃焼部使用面及びカマド前部にかけて灰層の堆積が認められた。

柱穴：掘り方調査の段階で検出された、住居中央部の一穴と南壁際南西コーナー寄りの一穴が、位置的に柱穴となる可能性をもつ。貯蔵穴：南東壁コーナー付近において、径70×52cmの隅丸方形形状を呈し、深さは38cmを測る土坑を検出し、貯蔵穴跡と考えられる。

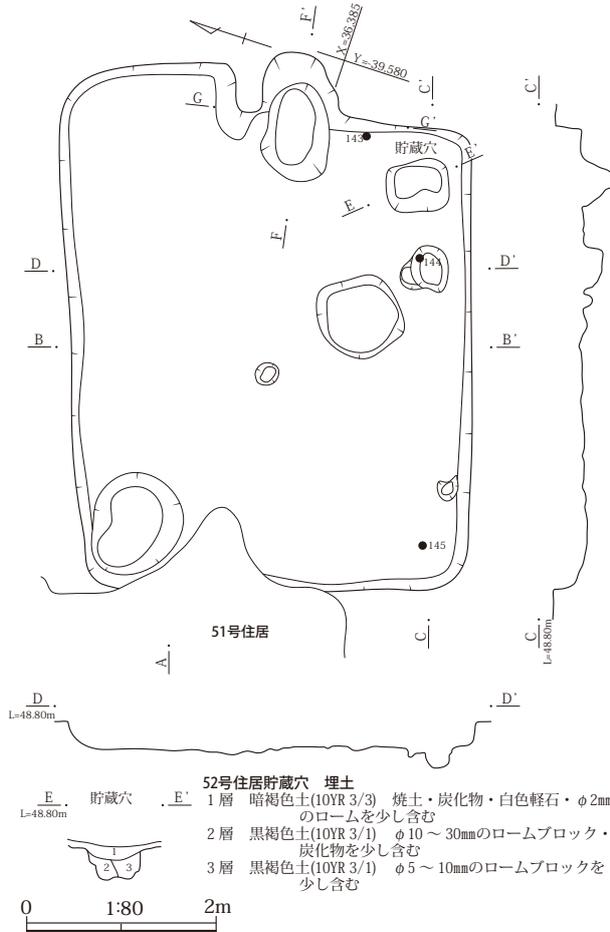
壁周溝：なし。重複遺構：51号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：全体に地山ローム土を4～10cmほど掘り窪める。出土遺物：出土量は比較的多く、埋土中から土師器甕 (No. 9・10)、須恵器杯 (No. 4・5・6)・椀 (No. 7)、灰釉陶器片、土錘 (No.11)、石製紡錘車 (No.12) などが出土している。



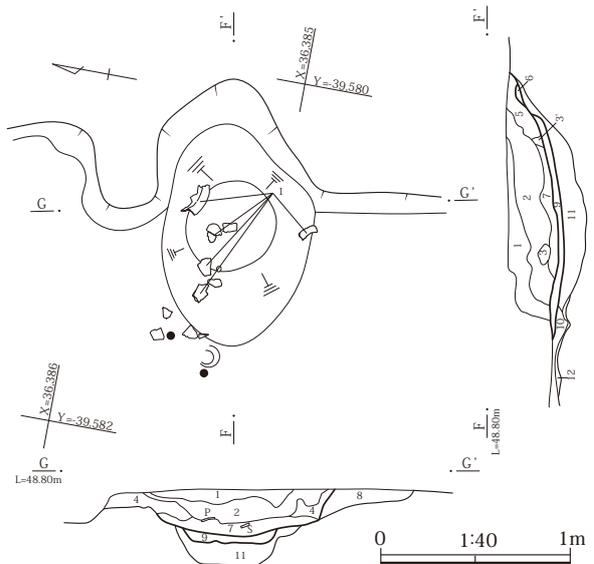
52号住居 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) φ2.5mmの褐色土粒子・炭化物を含む φ2mmのロームブロック・焼土・黒褐色土粒子を少し含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ2.5mmの褐色土粒子・炭化物を少し含む φ2mmのロームブロック・焼土を含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの褐色土粒子・焼土・炭化物を少し含む φ2mmのロームブロックを含む
- 4層 黒褐色土(10YR 3/2) φ10～30mmのロームブロックを多く含む 焼土を少し含む[住居掘り方]
- 5層 黄色砂質ローム土 φ5mmの褐色土ブロックを少し含む

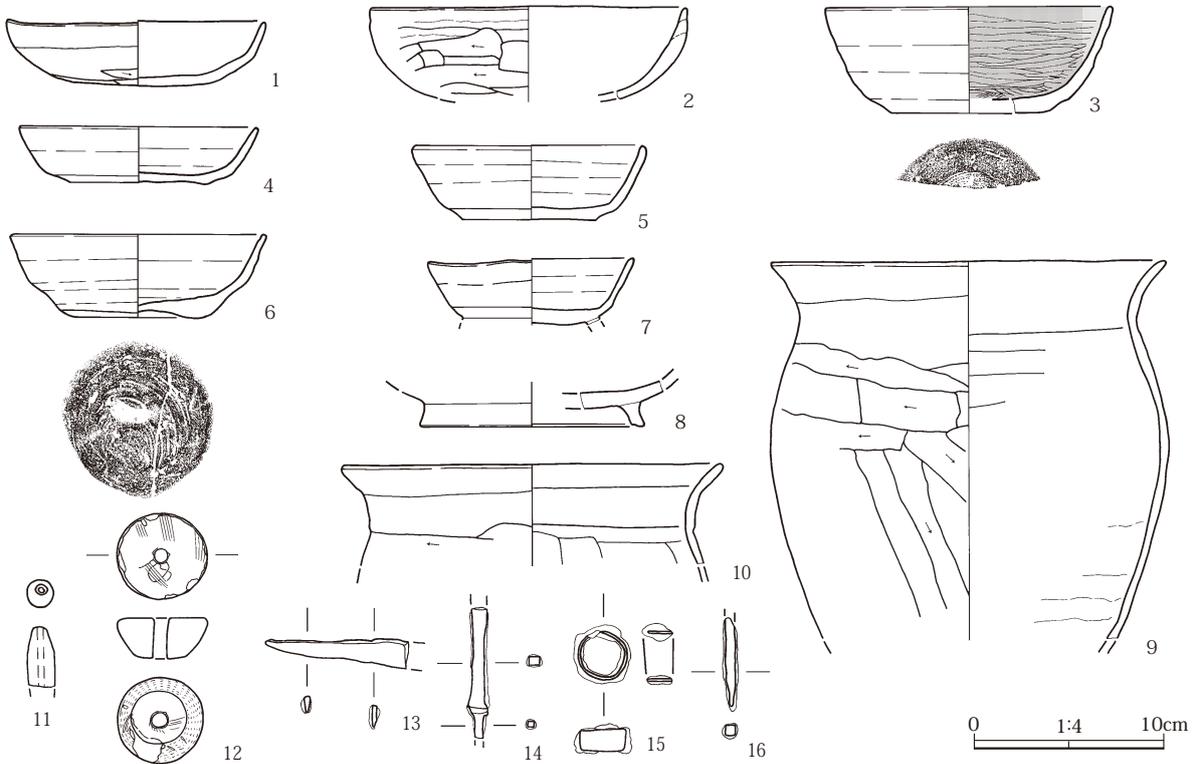
第192図 52号住居跡平・断面図



第193図 52号住居跡掘り方平・断面図



第194図 52号住居跡カマド平・断面図



第195図 52号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区52号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/2	口径 13.5 底径 — 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。	
2	土師器 杯	床面+22cm 口縁部～体部 破片	口径 16.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗灰黄(2.5Y 5/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。体部～底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	
3	黒色土器 杯	床面+17cm 口縁部～底部 1/3	口径 14.9 底径 8.5 器高 5.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～体部回転ナデ後ヘラ磨き。底部ナデ後ヘラ磨き。	
4	須恵器 杯	床面+7cm 口縁部～底部 1/2	口径 12.4 底径 7.3 器高 2.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 杯	床面+17cm 口縁部～底部 2/3	口径 11.9 底径 7.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 杯	床面+6cm 口縁部～底部 1/3	口径 13.2 底径 8.2 器高 4.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 椀	床面+4cm 口縁部～底部 1/3	口径 10.7 底径 7.1 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	須恵器 椀	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 11.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
9	土師器 甕	竈埋土中、竈掘方埋 土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 20.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 甕	床面+7cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
11	土製品 錘	床面+21cm 1/2	長さ 3.2 径 1.4 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	下半欠損、外面ナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：6 g	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
12	石製品	紡錘車	完形	4.6	4.7	2	72	蛇紋岩	孔径 0.7cm 側面に加工痕が残る。
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
13	鉄器	刀子	柄部	7.4	1.5	0.7	9.0	錆化が激しい。	
14	鉄器	鏃	頸部片	7.0	1.2	0.6	6.0	腐食が進んでいる。	
15	鉄製品	環状品	完形	3.1	2.9	0.9	9.0	腐食が激しい。	
16	鉄器	釘	先端部 1/2	4.9	0.7	0.8	4.0	錆化が激しい。	

1・2区53号住居跡 (旧称 1・2区SJ-53)

位置：X = 36381 Y = -39581 主軸方向：N-69° - E

規模：4.0m × 2.9m 平面形状：隅丸長方形

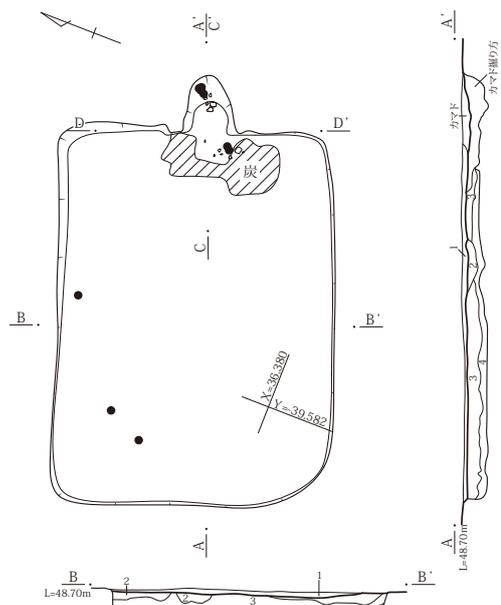
残存深度：3cm ~ 6cm 埋没土：上面を削平された状態での検出となり、埋土も床面直上に僅か残るだけで、埋没の過程も明らかではない。床面：掘り方埋土であるローム土を主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。焚き口幅は40cm程を測り、燃焼部使用面には焼土と炭化物を含んだ灰の堆積が認められた。また、カマド前面には5cmほど炭が広がっている。袖部の

53号住居 埋土

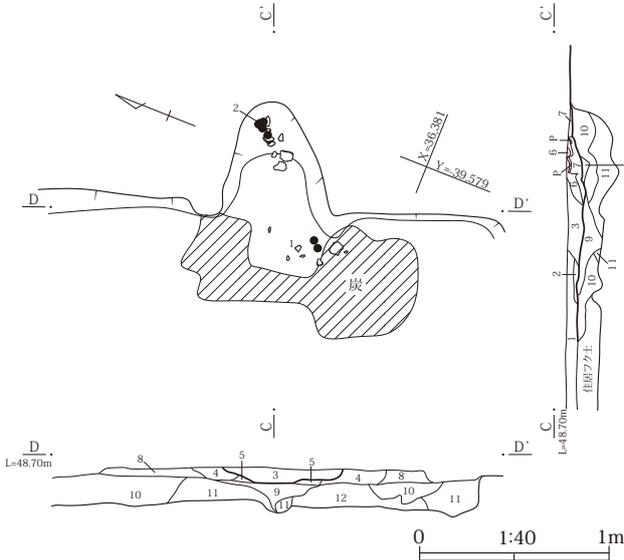
- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ3~40mmの黒褐色土ブロック・φ2mmの褐色土粒子を少し含む 白色軽石をわずかに含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を少し含む φ10mmの黒褐色土ブロックを斑状に含む [住居掘り方]
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微細~φ0.5mmの褐色土粒子を少し含む [住居掘り方]
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) φ0.5mmの褐色土粒子・ロームを少し含む [住居掘り方]
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) φ1.5mmの黒褐色土粒子を少し含む [住居掘り方]

0 1:80 2m

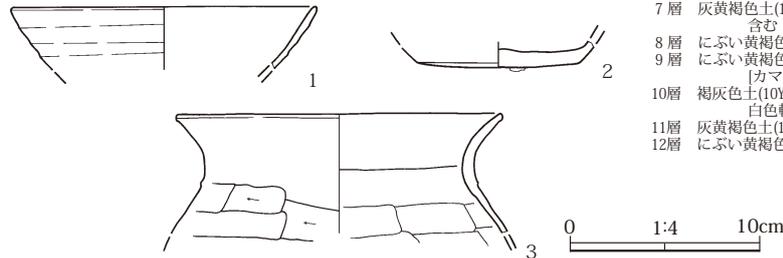


第196図 53号住居跡平・断面図

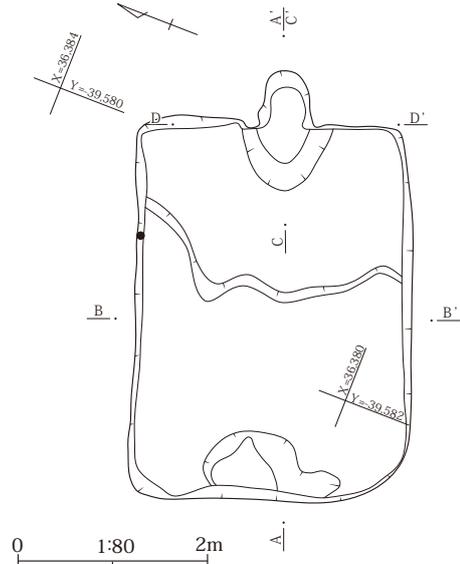
残りは悪いが、地山を掘り残す形で構築されたものと推察される。
 柱穴：なし。 貯蔵穴：なし。 壁周溝：なし。
 重複遺構：なし。 掘り方：全体に地山ローム土を20cmほど掘り窪める。
 出土遺物：出土量は僅かで、埋土中から土師器甕(No. 3)・須恵器杯(No. 1)の破片が出土している。



第197図 53号住居跡カマド平・断面図



第199図 53号住居跡出土遺物



第198図 53号住居跡掘り方平面図

53号住居カマド 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 3/1) 焼土をわずかに含む 白色軽石・φ0.5mmの褐色土粒子を少し含む φ1mmのロームブロックを含む
- 2層 褐灰色土(10YR 3/1) 黒褐色土ブロック(φ0.25-1mm)・φ1mmのロームブロックを少し含む
- 3層 褐灰色土(10YR 3/1) 焼土・φ2mmの黒褐色土ブロック・φ0.5mmの褐色土粒子を少し含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 白色軽石をわずかに含む φ0.5~10mmの褐灰色土ブロック・φ0.5mmの褐色土粒子を少し含む
- 5層 褐灰色土(10YR 4/1) 焼土・炭化物・灰を少し含む
- 6層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土を多く含む 炭化物・φ0.5mmの褐色土粒子を少し含む
- 7層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 焼土を少し含む φ2mmのロームブロックを1つ含む 灰を多く含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) にぶい黄褐色土粒子を少し含む
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土・炭化物を含む 灰を多く含む
- [カマド使用面]
- 10層 褐灰色土(10YR 5/1) にぶい黄褐色土粒子・φ2.5mmの黒褐色土ブロック・白色軽石を少し含む
- 11層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を少し含む
- 12層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) ローム・褐色土粒子を少し含む

1・2区53号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	埋土中 口縁部~体部 破片	口径 15.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロク口整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。 内面：口縁部~体部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	竈埋土中 底部 破片	口径 — 底径 8.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	ロク口整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
3	土師器 甕	埋土中 口縁部~胴部上端 破片	口径 17.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区54号住居跡 (旧称1・2区SJ-54)

位置：X=36364 Y=-39577 主軸方向：N-68°-E 規模：3.9m×3.2m 平面形状：隅丸長方形
 残存深度：28cm~47cm 埋没土：主に少量の白色軽石などを含む暗褐色土~黒色粘質土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としている。

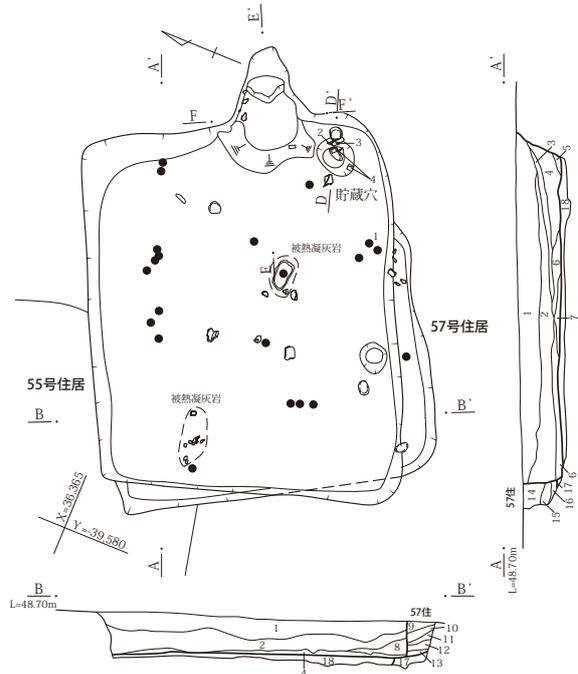
カマド：北東壁中央南寄りに位置する。焚き口幅は55cmほどを測り、燃烧部使用面には一面に灰の堆積が認められ、この灰層面直上には焼土化した天井部材の崩落が認められた。煙道部は燃烧部より段差を設け、緩やかに立ち上がる。袖部の遺存状態は悪いものの、右袖部端には袖手を据えた痕跡の窪みが認められ、隣接する貯蔵穴より礫の出土もあることから、芯材に礫を用いていたものと考えられる。

第3章 検出遺構と出土遺物

柱穴：掘り方調査で南壁際に径32～28cm深さは21cmを測る1穴と、南東コーナー部に1穴が検出され、共に柱穴跡と考えられる。
貯蔵穴：カマドの右側にあたる住居南東コーナー付近で長軸44cm、短軸35cmの楕円形を呈し、深さは15cmを測る。埋土中よりカマド袖部構築材と思われる細長い礫が出土する。
壁周溝：なし。

重複遺構：55号・57号住居跡と重複し、遺構確認～掘削時の埋土の様相より、いずれの住居よりも本遺構の方が新しいものと判断された。
掘り方：全体に地山ローム土を4～12cmほど掘り窪める。

出土遺物：床面直上より、ほぼ完形の須恵器杯(No. 2)、埋土中からは、須恵器蓋(No. 1)や土師器杯・蓋・盤の破片、砥石(No. 5)などが出土している。また、床面直上で被熱した凝灰岩が2箇所出土するものの、本住居跡のカマドに伴う構築材であるか否かは明らかではない。



1・2区57号住居跡 (旧称1・2区SJ-57)

位置：X = 36362 Y = -39577

主軸方向：N-62° - E **規模：**2.8m×3.4m

平面形状：隅丸長方形 **残存深度：**30cm

埋没土：重複する54号住居跡により、僅かに南壁と西壁の半分を残すのみであり、埋没過程の詳細は明らかではない。
床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面としているものと思われる。

カマド：重複により消失したものと考えられる。

柱穴：不明。**貯蔵穴：**不明。**壁周溝：**残存する壁際においては検出されなかった。

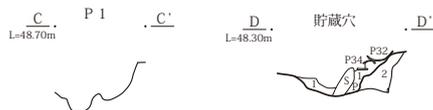
重複遺構：54・55号住居跡と重複し、遺構確認時～掘削時の埋土の様相から、本遺構は54号住居跡より古く、55号住居跡より新しいものと判断される。

掘り方：地山ローム土を6cmほど掘り窪める。

54・57号住居 埋土

[1～8層 54住]

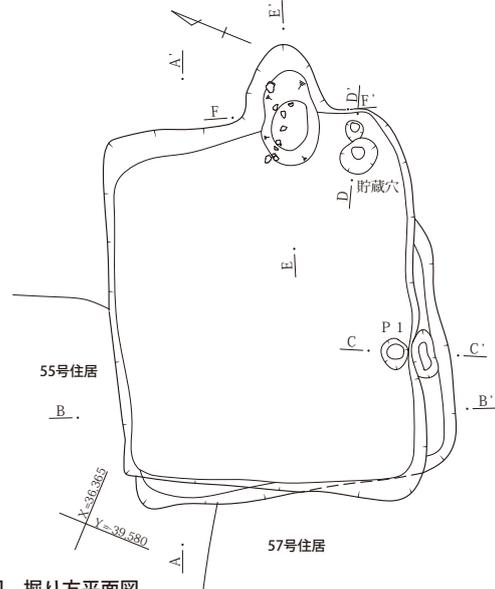
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり φ5mm程の焼土粒・パミス・黒色粘質土粒(2.5YR 2/1)φ10mm以下・にぶい黄褐色土粒(10YR 4/3)φ10mm以下を少量含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 1層のパミスのみ微量 他同じ
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 2層の土がにぶい黄褐色土で全体に弱く汚れる しまりやや弱い
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 2層の土に炭粒φ5mm以下微量含む しまりやや弱い
- 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 4層の土に炭粒φ5mm以下少量含む しまりやや弱い
- 6層 暗褐色土(10YR 3/3) 4層の土に黒褐色粘質土粒やや多量含む しまりややあり
- 7層 黒色粘質土(2.5YR 2/1) 黄褐色土ブロックφ20mm以下多量含む しまりややあり [床面]
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 含有物は2層に同じ
- [9～18層 57住]
- 9層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ1mm程のパミス・焼土粒微量含む にぶい黄褐色土粒φ10mm程黒色粘質土粒少量含む
- 10層 9層にパミス・焼土がより少ない
- 11層 10層ににぶい黄褐色土で全体に強く汚れる
- 12層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い パミスφ1mm程・黒色粘質土粒φ10mm以下微量含む
- 13層 黒色粘質土(2.5YR 2/1) 7層に同じ
- 14層 暗褐色土(10YR 3/3) 2層に似ているが黄味が強い
- 15層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりややあり パミス・焼土粒φ1mm程微量含む
- 16層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い パミス・炭粒φ1mm程微量含む
- 17層 黒色粘質土にその上層の黄褐色土ブロックφ30mm以下少量含む φ1mm程のパミスを微量含む [57住掘り方]
- 18層 黒色粘質土にその上層の黄褐色土ブロックφ30mm以下をやや多量含む φ1mm程のパミス・焼土粒を微量含む [57住掘り方]



54号住居貯蔵穴 埋土

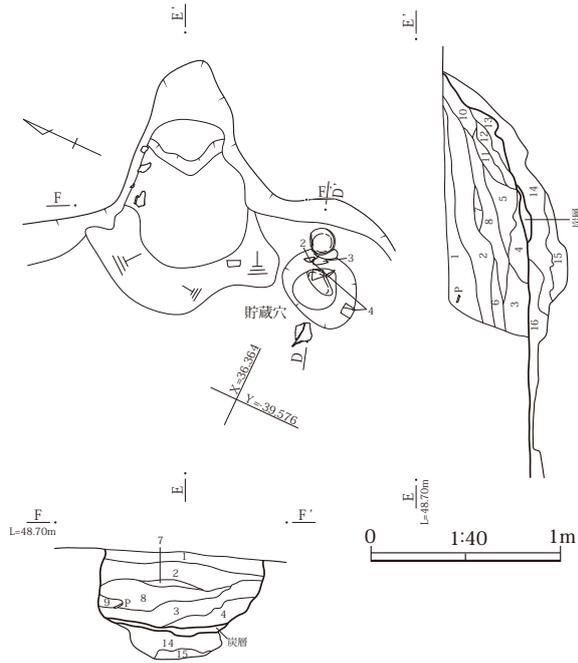
- 1層 黒褐色土(2.5YR 3/1) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒・炭粒を少量含む
- 2層 黄褐色土(10YR 4/3) 黒色粘質土のブロック混土 [住居掘り方]

0 1:80 2m

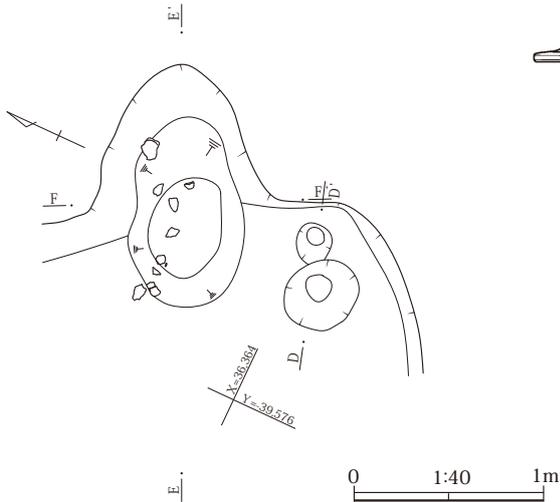


第200図 54・57号住居跡平・断面図、掘り方平面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



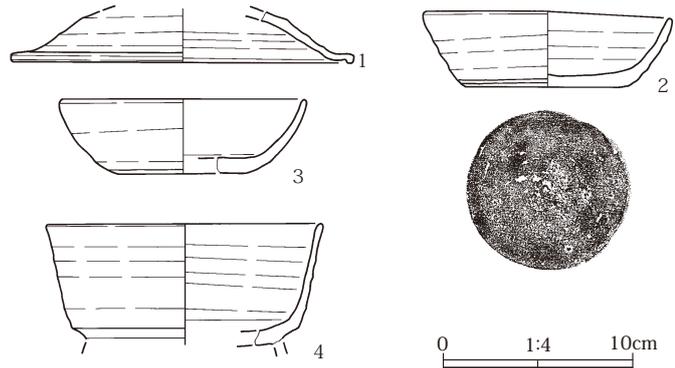
第201図 54号住居跡カマド平・断面図



第202図 54号住居跡カマド掘り方平面図

54号住居カマド 埋土

- 1層 黒褐色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりあり φ1mm程のパミス・焼土・炭を微量含む
- 2層 黒褐色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりあり φ5mm以下のパミス・焼土・炭を少量含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の焼土・炭・にぶい黄褐色土粒(10YR 4/3)を少量含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/3) 3層の含有物やや多量含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりあり φ5mm前後の焼土粒少量含む φ1mm程のパミスを微量含む
- 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりややあり φ10mm程のパミス・焼土粒を微量含む
- 7層 黒褐色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりやや弱い φ5mm程の焼土粒少量含む 黒褐色土(10YR 2/2)を下層に10mm厚の層状に含む
- 8層 黒褐色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒・パミス微量含む にぶい黄褐色土粒 (10YR 4/3)を少量含む
- 9層 黒褐色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまりやや弱い φ10mm程の焼土粒を多量含む
- 10層 黒褐色土(7.5YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒を少量含む 全体に焼土でうすく汚れる φ1mm程のパミスを微量含む
- 11層 灰褐色土(7.5YR 3/2) 粘性なし しまりややあり 全体にうすく焼土で汚れる
- 12層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘性なし しまりややあり 上半を中心にφ5mm程の焼土を少量含む 全体にうすく焼土で汚れる[天井崩落]
- 13層 黄褐色土(10YR 5/6) 12層のカマド構築土がほぼ全体に焼土化
- 14層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりやや弱い 黒粘土粒・焼土粒φ10mm以下をやや多量含む
- 15層 黒色土を主体に褐色土粒・焼土粒を少量含む しまりやや弱い
- 16層 黒色土を主体に褐色土ブロックφ50mm以下をやや多量含む パミスφ1mmを微量含む しまりあり 上層5mm厚程に硬化



第203図 54号住居跡出土遺物

1・2区54号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法	備考
				①胎土	②焼成	③色調		
1	須恵器 杯蓋	床面+19cm 口縁部～天井部 破片	口径 17.7 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 還元焰 やや不良	③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：天井部上半ヘラ削り。天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 12.8 底径 8.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。体部最下位～底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	貯蔵穴埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 6.8 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒	② 還元焰 良好	③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内外面に火漉が認められる。
4	須恵器 碗	貯蔵穴埋土中 口縁部～底部 破片	口径 14.4 底径 — 器高 6.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回りか。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区55号住居跡 (旧称1・2区SJ-55)

位置：X=36366 Y=-39574

主軸方向：N-17° -W 規模：3.2m×3.7m

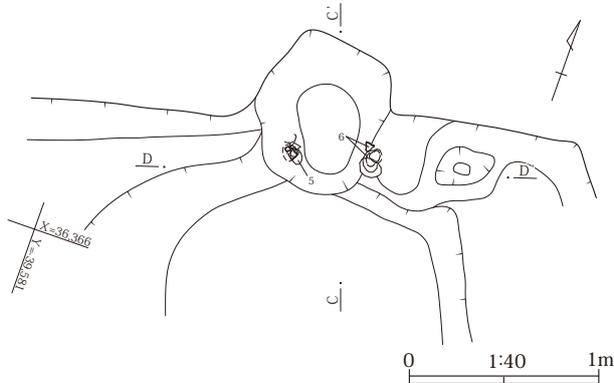
平面形状：隅丸長方形 残存深度：15cm～24cm

埋没土：主に白色軽石などを含む黒褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

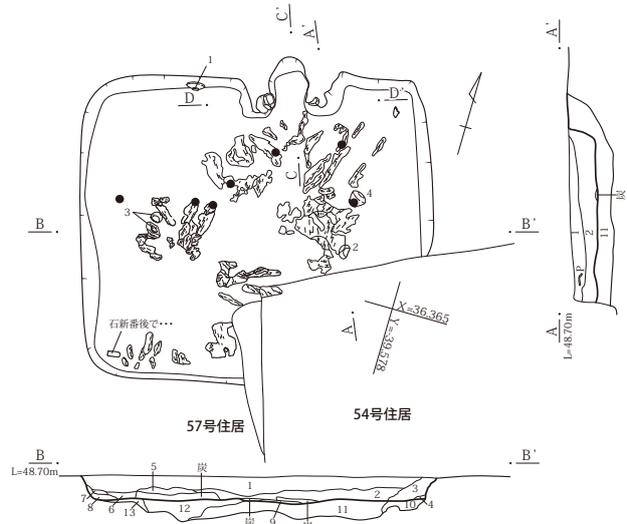
床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固めて床面とし、一部において黒色粘質土を用いて貼り床が敷設される。カマド：北西壁の中央やや北寄りに位置する。焚き口幅は30cmを測り、煙道部は短く急峻に立ち上がる。燃焼部使用面には一面に灰の堆積と灰層面直上に焼土化した天井部材の崩落が認められた。また、崩落天井部に伴い、袖部には両袖石間をつなぐ様に土師器甕が横位に2個体連なった状態で出土した。袖部は地山を掘り残し、先端部に礫を埋設しその上部に前記の土師器甕を橋上に架けて粘質土で覆い構築されたものと考えられる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。

壁周溝：なし。重複遺構：54・57号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相より本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：住居中央部を残し、壁際を20cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上で、ほぼ完形の須恵器椀 (No. 3) と高台付壺 (No. 4) が、埋土中からは完形の須恵器蓋 (No. 1) や杯 (No. 2)、砥石 (No. 8)、磨石 (台石) (No. 7) などが出土している。

所見：住居中央部に放射状に炭化した茅材が検出され、その遺存状態を見ると、中心部はほぼ床面に接するものの、周縁部は床面との間に埋土の堆積がみられることから、本住居廃絶後の浅く掘り鉢状に埋没した時点での焚き火跡と推察される。

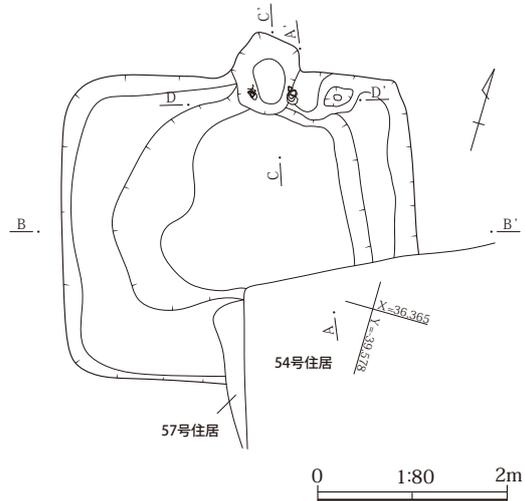


第205図 55号住居跡カマド掘り方平面図



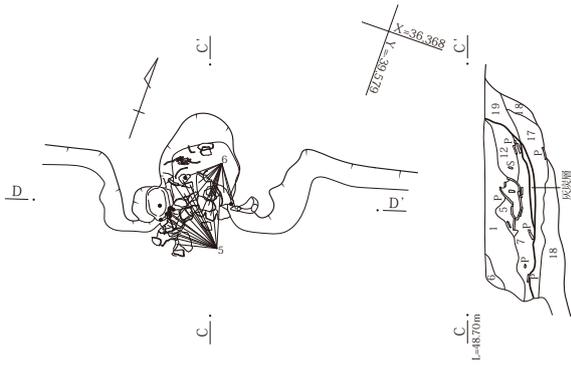
55号住居 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり φ5mm以下の焼土粒・パミス・φ2mm以下の黒色粘質土ブロック少量含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/2) 1層の含有物・炭粒φ5mm以下微量含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 2層の色味 暗褐(10YR 3/3)で炭なし
- 4層 黒色粘質土(2.5Y 2/1) 地山土の崩落
- 5層 黒褐色土(10YR 2/2) 1層で下層の炭粒φ10mm以下・焼土粒φ10mm以下をやや多量含む
- 6層 黒褐色土(10YR 2/2) 5層で焼土粒なし 炭粒φ20mm以下
- 7層 黒褐色土(2.5Y 3/2) 粘性なし しまりやや弱い、オリーブ褐色土(2.5Y 5/6)
- 8層 黒褐色土(2.5Y 3/2) 7層の含有物なし 7・8層は地山の崩落
- 9層 黒褐色土(2.5Y 3/2) 粘性なし しまりあり 黒色粘質土粒φ10mm以下多量含む オリーブ褐色土粒φ10mm以下多量含む 貼り床
- 10層 黒色土(2.5Y 2/1) 粘性あり しまりあり 黒色粘質土に黄褐色土ブロック(2.5Y 5/3)φ40mm以下多量含む 焼土粒・パミスφ5mm以下を少量含む
- 11層 黄褐色土(2.5Y 5/3) 粘性なし しまりあり φ50mm以下の黒粘ブロック・φ1mm以下のパミス・φ5mm以下の焼土粒をやや多量含む
- 12層 φ100mm以下の黒粘と黄褐色土ブロックの混土・φ1mm以下のパミス少量含む
- 13層 黄褐色土(2.5Y 5/3) 粘性なし しまりあり φ1mm以下のパミス微量含む

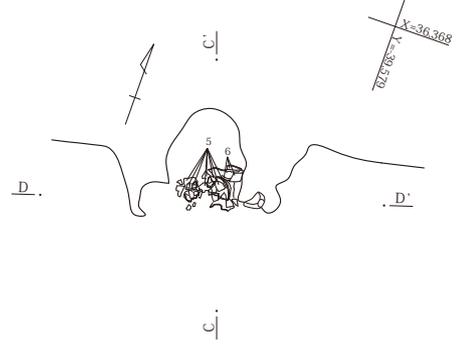


第204図 55号住居跡平・断面図、掘り方平面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



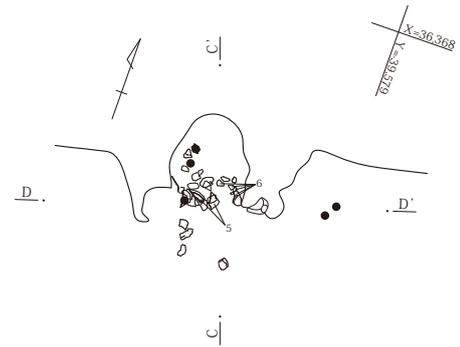
第206図 55号住居跡カマド平・断面図(1)



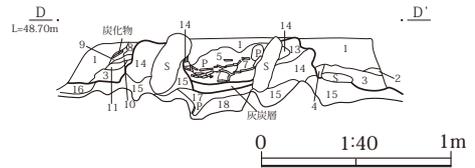
第207図 55号住居跡カマド平面図(2)

55号住居カマド 埋土

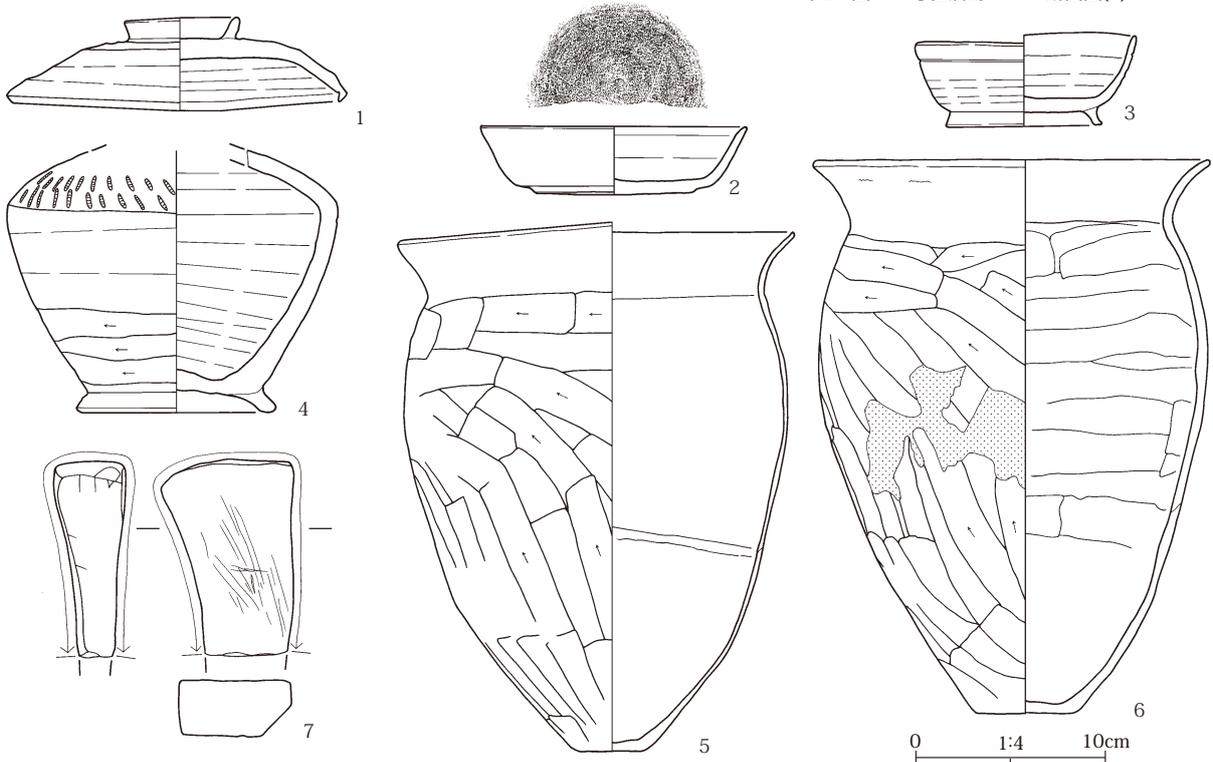
- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ5mm以下のパミス・焼土粒を少量含む φ5mm以下の炭粒を微量含む
- 2層 黒色粘質土ブロック
- 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ20mm以下の黄褐色土(2.5Y 5/4) (袖材)をやや多量含む φ5mm以下のパミス・φ5mm以下の黒色粘質土ブロックを多量含む
- 4層 袖材のブロックと黒褐色土(10YR 3/2)の混土
- 5層 オリーブ褐色土(2.5YR 4/3) 粘性なし しまりあり 焼土ブロックφ20mm以下をやや多量含む [カマド構築材の崩落]
- 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり 黄褐色土粒(2.5Y 5/4)φ10mm以下を多量 φ5mm以下パミスを微量含む
- 7層 暗灰黄色土(2.5Y 5/2) 粘性なし しまりややあり 地山の黒色粘質土粒を少量含む 焼土粒 φ10mm以下を多量含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりあり φ5mm以下の焼土粒を少量含む [袖材の崩落]
- 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 1層に炭化材を含む 厚10mm しまりややあり
- 10層 炭化材
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりややあり 1層の黒褐色土が袖材でうすく汚れる φ5mm以下の焼土粒・炭粒を微量含む
- 12層 黒褐色土(2.5Y 3/1) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の炭粒・焼土粒を少量含む
- 13層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ10mm以下をやや多量含む
- 14層 にぶい黄褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒を微量含む
- 15層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の焼土粒を微量含む
- 16層 黒褐色土(10YR 2/1) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の焼土粒を微量含む
- 17層 黄褐色土(10YR 5/6) しまりややあり φ10mm以下の焼土粒を少量含む
- 18層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 同レベル地山を掘削してそのまま埋戻した土φ20mm以下の焼土ブロック・17層の黄褐色土ブロック粒を少量含む



第208図 55号住居跡カマド平面図(3)



第209図 55号住居跡カマド断面図(4)



第210 55号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区55号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+6cm 完形	口径 17.1 摘径 5.9 器高 4.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部上半へラ削り。天井部下半～口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	床面+14cm 口縁部～底部 1/2	口径 13.7 底径 8.4 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 褐灰(7.5YR 4/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転へラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	底部内面に線刻あり。
3	須恵器 碗	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 11.4 底径 7.8 器高 4.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	炭化した茅材直上から出土。 内外面に火傷が認められる。
4	須恵器 長頸壺 (高台付)	床面+3cm 胴部～底部 口縁部～頸部欠損	口径 — 底径 9.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：胴部下半回転へラ削り、肩部に2段の刺突文が巡る。 高台貼付。 内面：横ナデ。	
5	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形 一部欠損	口径 20.7 底径 4.3 器高 28.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め、下位縦方向、 底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。	
6	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形 一部欠損	口径 20.7 底径 5.0 器高 29.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横・中位・下位斜め方向へ ラ削り、底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	摘要
7	石製品	砥石	下部欠損	10.4	7.0	3.7	287	砥沢石	表裏、両側面、頂部とも使用されている。頂部の使用は他の面より少ないようである。

1・2区56号住居跡 (旧称1・2区SJ-56)

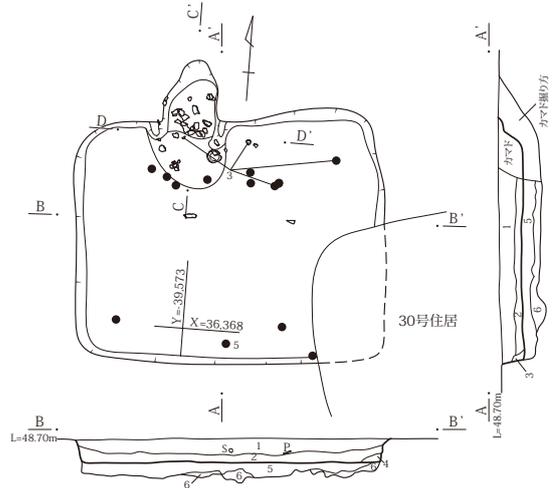
位置：X=36369 Y=-39572 主軸方向：N-5°-W

規模：2.6m×3.3m 平面形状：隅丸長方形 残存深度：21cm
～28cm 埋没土：主に白色軽石を含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

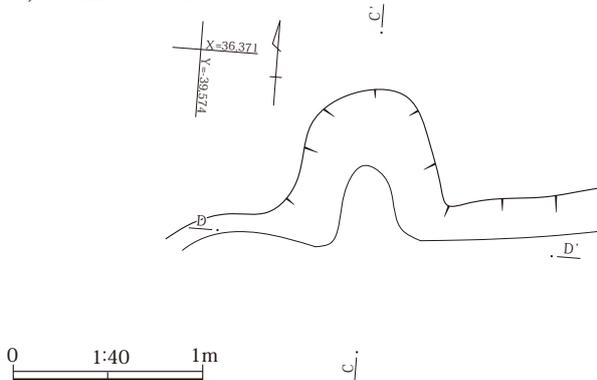
床面：掘り方埋土である黒褐色土で埋め固め、床面とする。

カマド：北壁中央やや西寄りに位置する。両袖とも残り、遺存状態は比較的良好。焚き口幅は48cmを測り、焚き口部から煙道部にかけての燃焼部使用面には、多量の焼土と灰が検出され、その直上には崩落した天井部材の厚い堆積が認められ、長期にわたり使用した状況が伺える。両袖部は褐色粘質土で構築されている。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

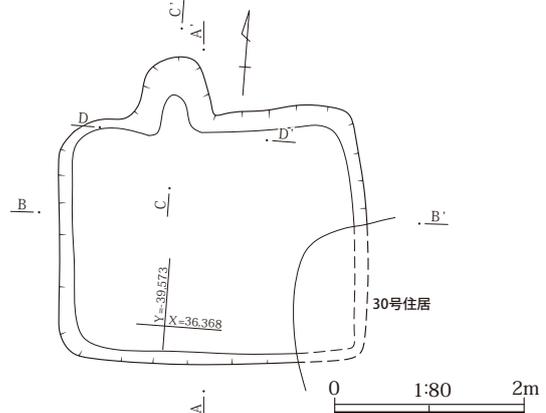
重複遺構：16号溝跡、30号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相より、本遺構は、30号住居跡より古く、16号溝跡より新しいものと判断される。掘り方：全体にローム土を7～24cmほど掘り窪める。出土遺物：埋土中から円盤状石製品(No. 8)が出土している。



- 56号住居 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまり有 砂質φ1mm以下バミス・焼土粒を微量含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 1層に黒色(2.5Y 2/1)粘質土ブロックφ3mm以下・炭粒φ10mm以下微量含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 1層に含有物バミスのみ
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 2層に砂礫を少量含む
 - 5層 黒褐色土(10YR 3/1) 粘性なし しまり有 黄褐色粘質土(2.5Y 5/4)ブロック・黒色粘質土ブロックを共にφ50mm以下をやや多量含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/1) 粘性なし しまり有 黄褐色粘質土で全体にうすく汚れる

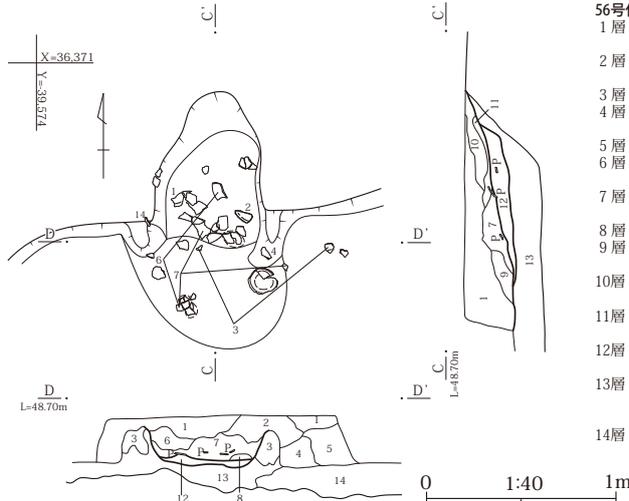


第212図 56号住居跡カマド掘り方平面図



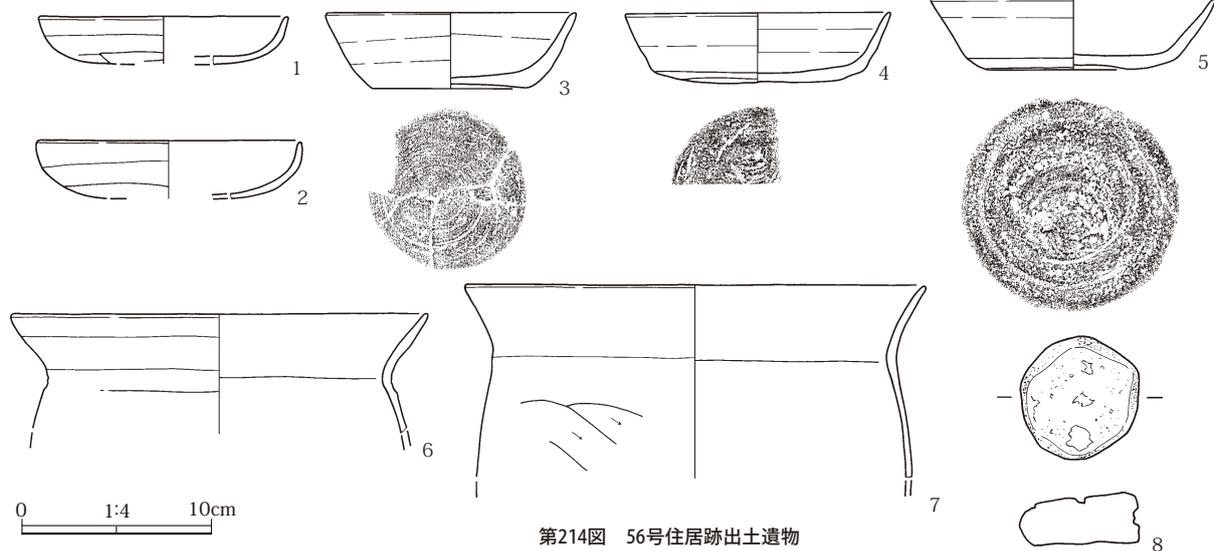
第211図 56号住居跡平・断面図、掘り方平面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第213図 56号住居跡カマド平・断面図

- 56号住居カマド掘り方 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ1mm程のバミス・焼土粒・φ5mm程の褐色土粒子を微量含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の褐色土粒をやや多量含む φ10mm以下の焼土粒を少量含む φ1mm程のバミスを微量含む
 - 3層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりあり [ロームを使った袖構築材]
 - 4層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ20～30mm程の褐色土粒を少量含む φ1mm程のバミスを微量含む
 - 5層 黒褐色土(10YR 3/2) 4層の褐色土粒・バミスを微量含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ30mm以下の焼土ブロック・φ10mm以下の褐色土粒をやや含む φ1mm程のバミスを微量含む
 - 7層 褐色土(10YR 4/4) 粘性なし しまりあり 黒褐(7.5YR 2/2)土粒φ10mm以下・φ10mm以下の焼土粒を少量含む φ10mm以下の炭粒を微量含む [天井の崩落土]
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 7層の焼土化したもの
 - 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土粒粘質土ブロックやや多量含む φ10mm以下の炭粒を微量含む
 - 10層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ10mm以下の焼土ブロックをやや多量含む
 - 11層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり φ20mm以下の焼土ブロックをやや多量含む
 - 12層 灰褐色土(7.5Y 4/2) 粘性なし しまりやや弱い φ30mm以下の焼土を多量含む 灰と崩落天井の土で全体に強く汚れる
 - 13層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 粘性なし しまりややあり φ1mm程のバミス・φ5mm程の焼土粒を微量含む φ50mm以下の黒色粘質土ブロックをやや多量含む [カマド掘り方]
 - 14層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 粘性なし しまりあり φ1mm程のバミス・13層のにぶい黄褐色土ブロックφ30mm以下・φ10mm以下の黒色粘質土粒を少量含む [住居掘り方]



第214図 56号住居跡出土遺物

1・2区56号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法		備考
				①胎土	②焼成	③色調			
1	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。		
2	土師器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 破片	口径 13.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒	② 酸化焰 良好	③ 橙(7.5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。		
3	須恵器 杯	床面直上、竈埋土中 口縁部～底部 1/5	口径 13.0 底径 8.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 酸化焰	③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	口コロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周辺をヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
4	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 13.7 底径 9.0 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰白(2.5Y 8/2)	口コロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り後、底部周辺をヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。		
5	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 口縁部一部欠損	口径 14.8 底径 10.1 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫	② 還元焰 良好	③ 灰白(10YR 7/1)	口コロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切後周辺部を回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。	
6	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 21.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。		
7	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 24.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。		
番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	摘要
8	石製品	円盤状石製品	一部欠	3.2	3.2	1.4	8	二ツ岳軽石	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区58号住居跡（旧称1・2区SJ-58）

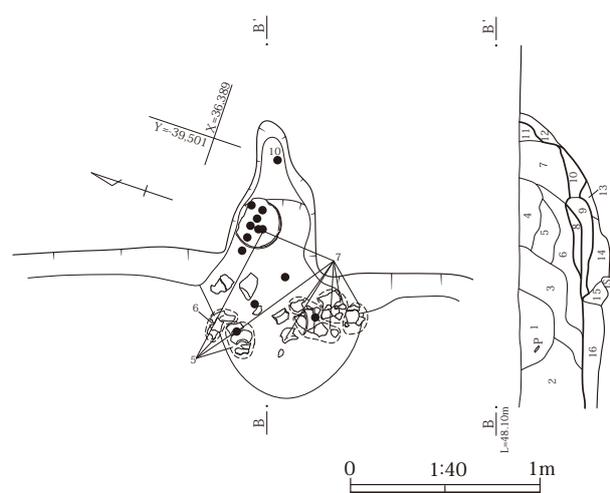
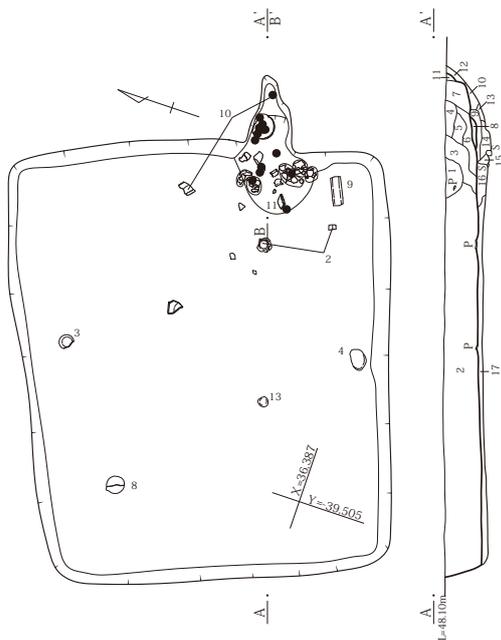
位置：X=36388 Y=-39503 主軸方向：N-66°-E 規模：4.7m×3.9m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：30～43cm 埋没土：白色軽石を含む単一の暗褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固めて床面としている。

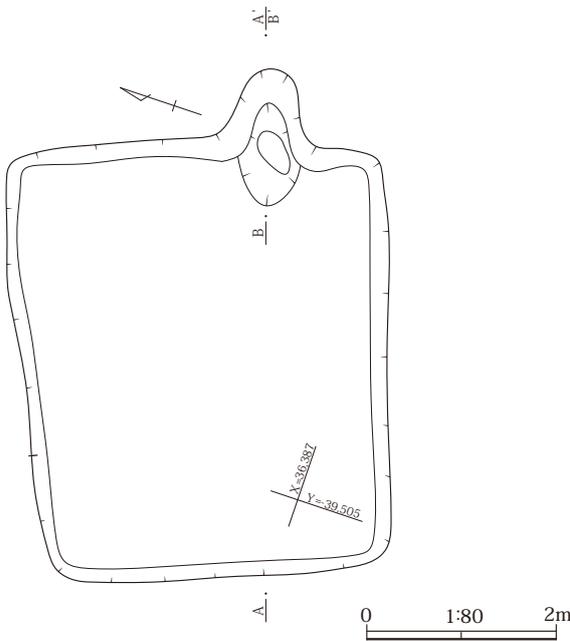
カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。遺存状態は悪く、袖部も失われている。燃烧部使用面において灰の良好な堆積が認められた。煙道部は燃烧峠段差をもち、緩やかに立ち上がる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土を3～8cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上でほぼ完形の平瓦（No. 9）、埋土中から完形の須恵器の高台付盤（No. 4）須恵器甕の底部を転用した硯（No. 8）などが出土した。

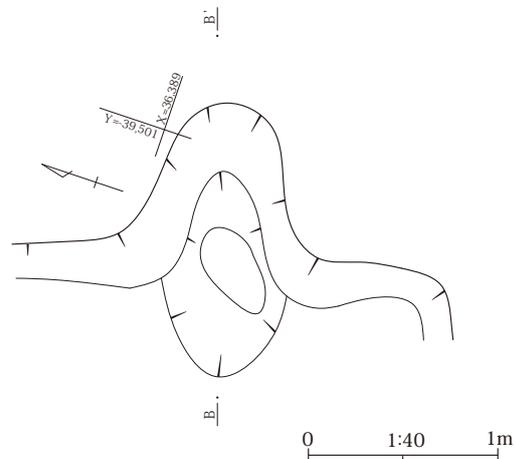


- 58号住居・カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・礫・白色軽石(φ1mm)・炭化物含む
 - 3層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
 - 4層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土・白色軽石(φ1mm)含む
 - 5層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒含む
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・褐色土混ざる 焼土粒含む
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む
 - 8層 灰層
 - 9層 炭化物・焼土層
 - 10層 炭化物・焼土層 暗褐色砂質土混ざる
 - 11層 焼土ブロック 暗褐色砂質土混ざる
 - 12層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む [掘り方]
 - 13層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 砂・焼土粒少量含む [掘り方]
 - 14層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・礫・焼土粒含む [掘り方]
 - 15層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 砂・焼土粒含む [掘り方]
 - 16層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む [掘り方]
 - 17層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・礫含む 少量の焼土粒含む [掘り方]

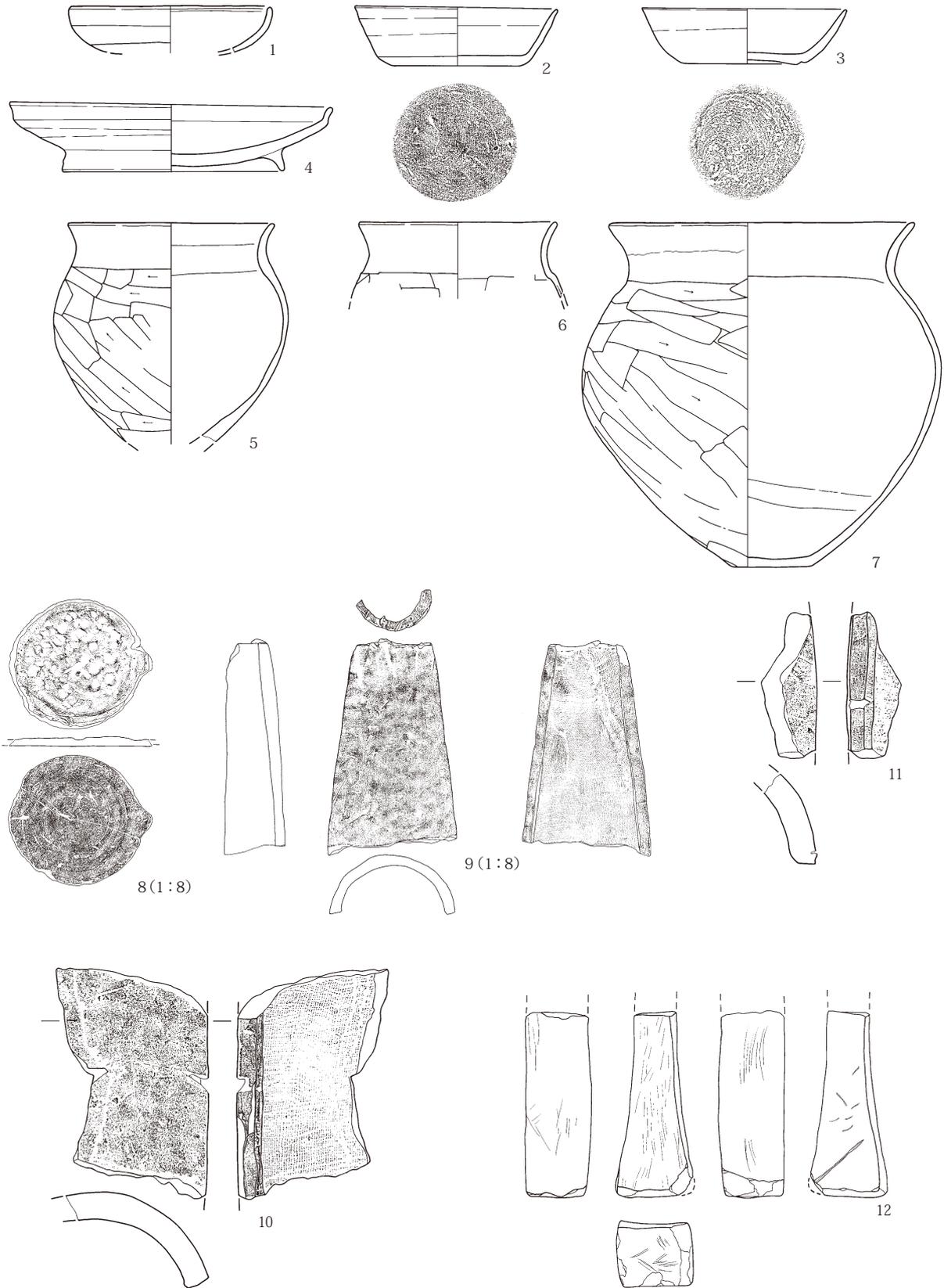
第216図 58号住居跡カマド平・断面図



第215図 58号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第217図 58号住居跡カマド掘り方平面図



第218図 58号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区58号住居跡出土遺物観察表

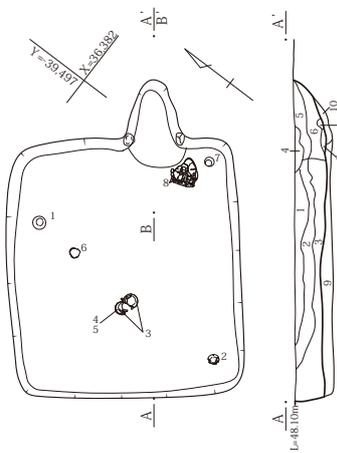
番号	種別	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～体部 破片	口径 13.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	口縁部内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。	
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 4/5	口径 13.4 底径 8.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+6cm 口縁部～底部 4/5	口径 13.7 底径 7.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(2.5Y 8/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
4	須恵器 高台付盤	竈埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 21.4 底径 14.6 器高 4.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
5	土師器 小型甕	竈埋土中 口縁部～胴部 底部欠損	口径 13.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中～下位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	底部は径3.8cmの孔がある。台部貼付か。
6	土師器 小型甕	竈埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 13.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
7	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～底部 1/2	口径 20.2 底径 5.3 器高 23.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 灰褐(7.5YR 4/2)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半斜め方向ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
8	須恵器 甕	床面+6cm 底部 底部完形	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ削り。擦れている。 内面：底部ナデ。指頭痕あり。	
9	土製品 丸瓦	床面直上 ほぼ完形 広端と狭端欠損あり	頭巾 17.8 尻巾 10.1 側面長 29.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 焼締 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	厚さ1.8cm 表面ヘラナデ。 裏面は布目と吊り紐あり。	
10	土製品 丸瓦	竈埋土中、床面+27cm 破片	頭巾 — 尻巾 — 側面長 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 硬質 ③ 灰(7.5Y 6/1)	桶巻作り。厚さ1.8cm 表面ヘラナデ。 裏面は布目あり。	
11	土製品 丸瓦	床面+19cm 破片	頭巾 — 尻巾 — 側面長 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 硬質 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	厚さ1.8cm 表面ヘラナデ。 裏面は布目と吊り紐あり。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
12	石製品	砥石	2/3残存	12.5	5.1	4.4	(400)	砥沢石	床面+1cm

1・2区59号住居跡 (旧称1・2区SJ-59)

位置：X=36380 Y=-39498 主軸方向：N-51°-E 規模：2.8m×2.4m 平面形状：隅丸長方形

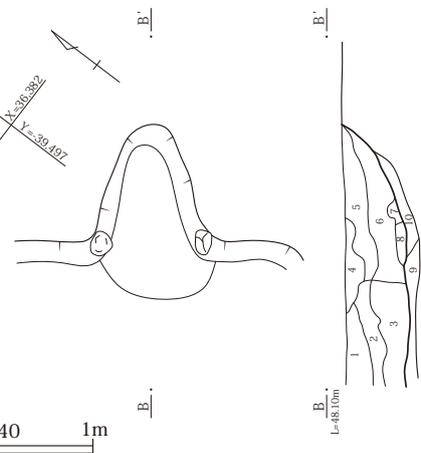
残存深度：25～32cm 埋没土：主に砂と礫を含む暗褐色～にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。なお、埋土中に含まれる砂礫は、遺構周辺の地山に見られるものである。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固めて床面としている。カマド：北東壁の中央南寄りに位置する。袖部は住居内に突出せず、両袖には壁に接して石が据えられている燃焼部使用面は煙道に向けて緩やかな傾斜をもち、煙道端は急峻に立ち上がる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。掘り方：全体に地山ローム土を4～12cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上で完形の須恵杯(墨書土器)(No. 5)や、高台付皿(No. 1)、埋土中からほぼ完形の須恵器杯(No. 3)や高台付短頸壺(No. 7)などが出土した。



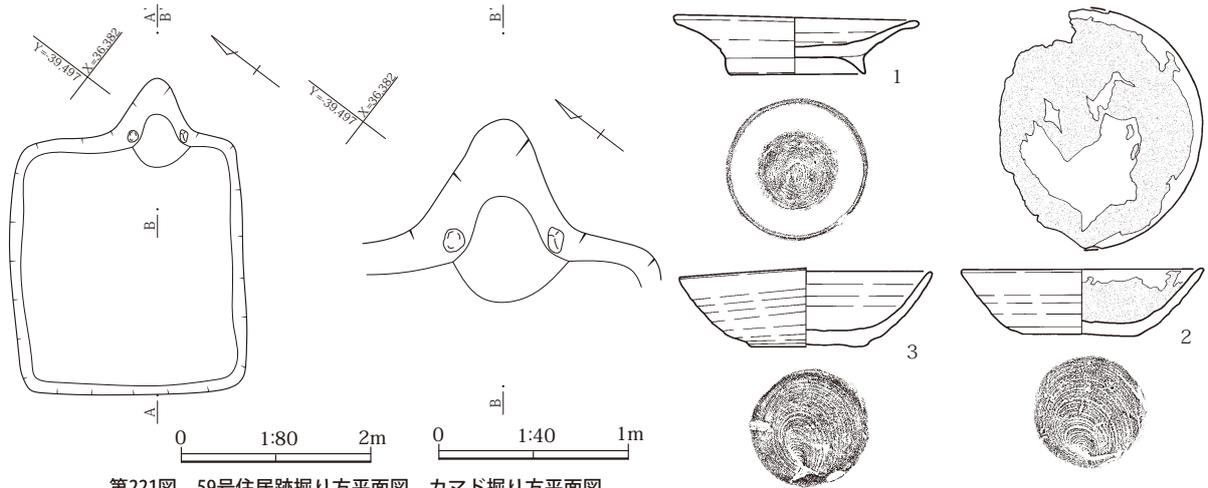
第219図 59号住居跡平・断面図

- 59号住居・カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・礫混ざる
 - 2層 黒褐色土(10YR 2/2) 砂・礫混ざる やや粘質
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物
含む
 - 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む
 - 6層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒含む
 - 7層 焼土ブロック
 - 8層 炭化物
 - 9層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・小石混ざる
[掘り方]
 - 10層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む

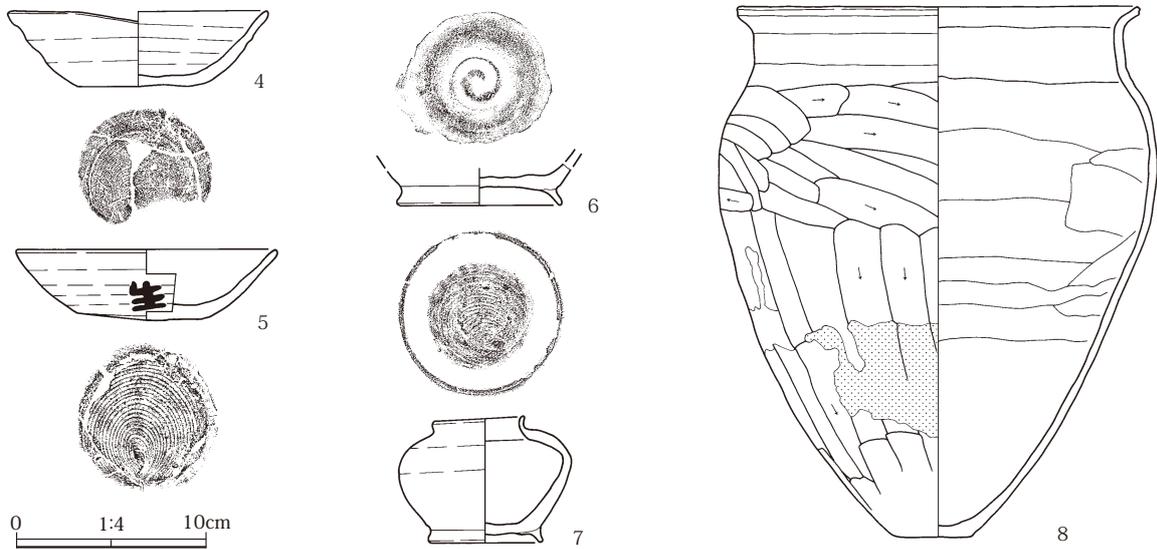
0 1:80 2m



第220図 59号住居跡カマド平・断面図



第221図 59号住居跡掘り方平面図、カマド掘り方平面図



第222図 59号住居跡出土遺物

1・2区59号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 高台付皿	床面直上 完形	口径 12.5 底径 7.2 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ナデ調整か。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内面に重焼き痕
2	須恵器 杯	床面+28cm 口縁部～底部 1/2	口径 12.6 底径 5.8 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	漆付着土器。
3	須恵器 杯	床面+6cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.2 底径 6.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	口縁部内面に油煙付着。
4	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 2/3	口径 13.5 底径 6.5 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
5	須恵器 杯	床面直上 完形	口径 13.6 底径 6.9 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	体部外面に「生」の墨書。
6	須恵器 椀	床面+20cm 底部 破片	口径 — 底径 8.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転糸切り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 短頸壺 (高台付)	床面+5cm ほぼ完形 台部一部欠損	口径 4.7 底径 5.7 器高 6.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	土師器 甕	床面+4cm 口縁部～底部 一部欠損	口径 20.9 底径 4.1 器高 28.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 4/2)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横～斜め方向のヘラ削り、 胴部下半縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区60号住居跡（旧称1・2区SJ-60）

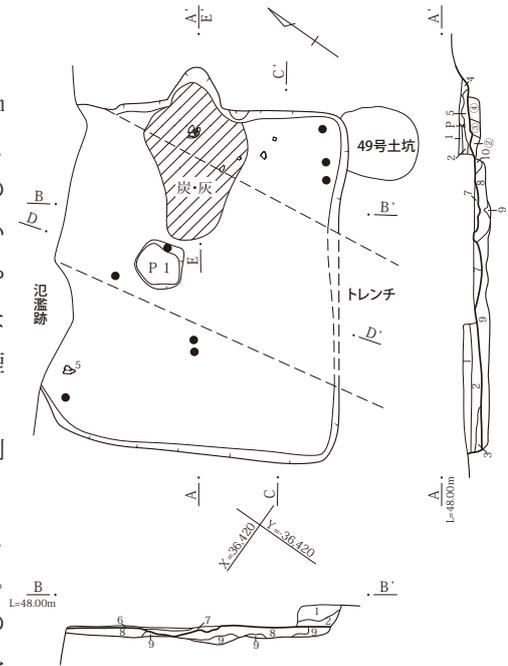
位置：X=36422 Y=-39541 主軸方向：N-57°-E

規模：3.7m×不明 平面形状：隅丸長方形か 残存深度：15～21cm

埋没土：試掘トレンチが横断し遺存状態も悪いが、僅かに残る埋土は、主に白色軽石と砂を含む褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：北東壁の中央やや南寄りに位置する。遺存状態は悪く、袖等の構築方法は明らかではないが、僅かに使用面の灰・炭化物が認められた。掘り方面において煙道部は、燃燒面と段差をもち、緩やかに立ち上がる。

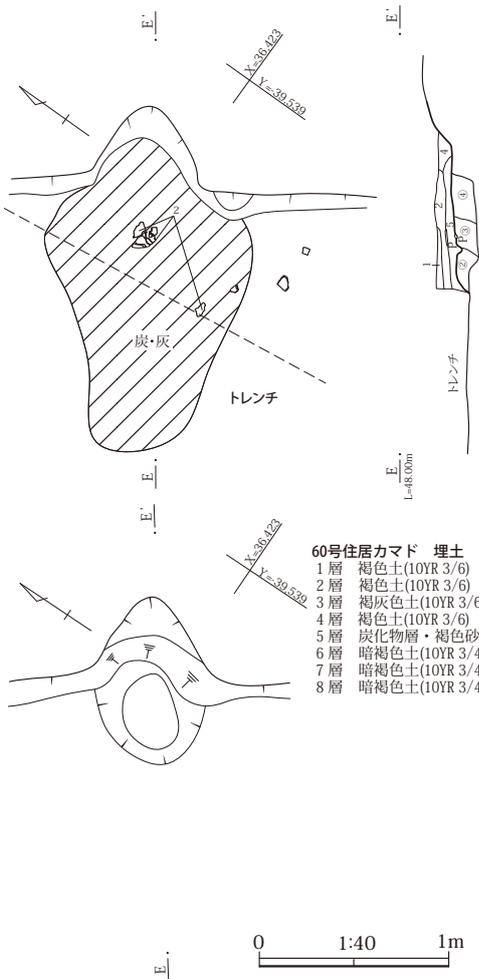
柱穴：掘り方調査の段階で、住居中央部付近に径52cm深さ30cmを測るピットが1穴検出され、柱穴に当たるものと考えられる。

貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：49号土坑と重複し、遺構確認時の埋土の様相から、本遺構の方が新しいと判断される。また、重複遺構ではないが、本住居跡の北西壁は、別記の8号溝跡の氾濫・決壊によって大きく挟られ欠失する掘り方：地山ローム土を4～15cmほど掘り窪める。出土遺物：少量であるが、埋土中から土師器甕（No. 5）、須恵器杯（No. 2）・甕の破片が出土している。



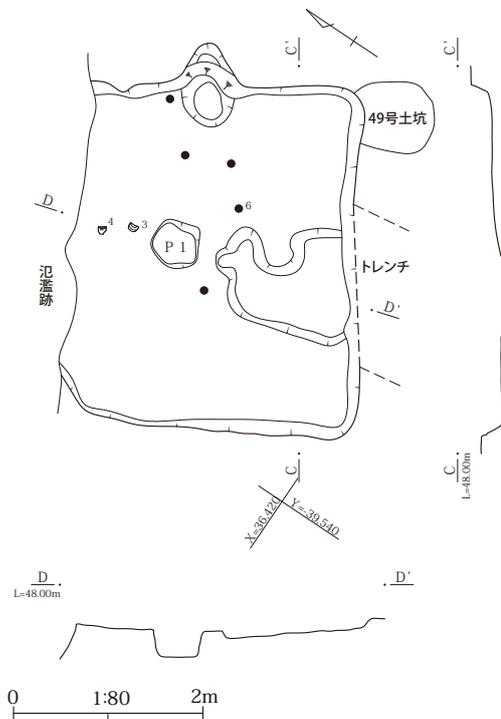
- 60号住居 埋土
- 1層 褐色土(10YR 3/6) 砂・白色軽石(φ1mm)を含む
 - 2層 褐色土(10YR 3/6) 砂を含む
 - 3層 褐灰色土(10YR 3/6) 砂を含む
 - 4層 褐色土(10YR 3/6) 砂・焼土粒・炭化物を含む
 - 5層 炭化物層 褐色砂混ざる・焼土粒を含む
 - 6層 にぶい黄褐色土 (10YR 5/3) 砂・焼土粒を含む
 - 7層 炭化物・焼土・粘質土の層状堆積
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒を含む
[掘り方埋土]
 - 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂 [掘り方埋土]
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・炭化物・焼土粒を含む
[カマド掘り方埋土]

第223図 60号住居跡平・断面図

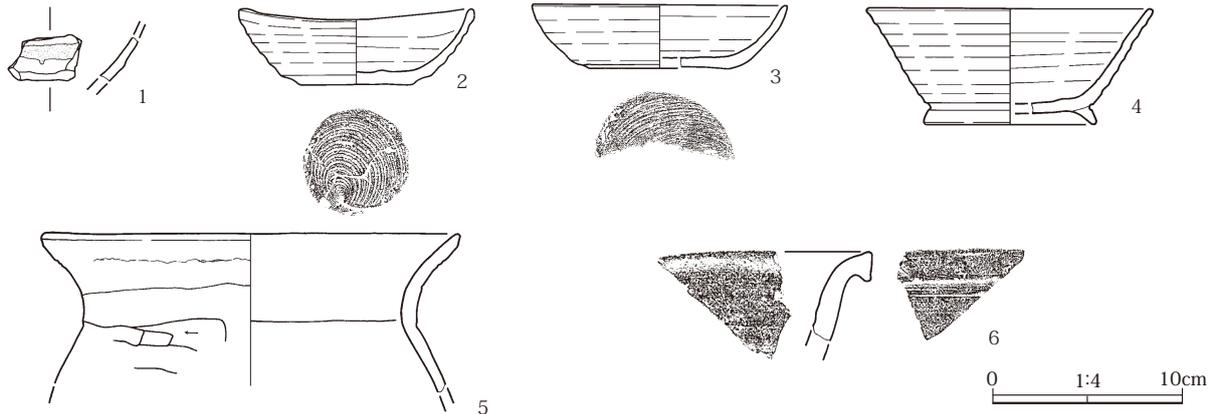


- 60号住居カマド 埋土
- 1層 褐色土(10YR 3/6) 砂・白色軽石(φ1mm)を含む
 - 2層 褐色土(10YR 3/6) 砂を含む
 - 3層 褐灰色土(10YR 3/6) 砂を含む
 - 4層 褐色土(10YR 3/6) 砂・焼土粒・炭化物を含む
 - 5層 炭化物層 褐色砂・焼土粒を含む
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒を含む
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・2層より焼土粒多量
 - 8層 暗褐色土(10YR 3/4) 焼土粒微量

第224図 60号住居跡カマド平・断面図、カマド掘り方平面図



第225図 60号住居跡掘り方平・断面図



第226図 60号住居跡出土遺物

1・2区60号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 体部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/4)	外面：不明 内面：体部ナデ調整。漆紙一部付着。	漆付着土器。
2	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面-4cm 口縁部～底部 破片	口径 13.2 底径 7.4 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。体部最下位回転ヘラ削り、 底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 碗	床面-5cm 口縁部～底部 破片	口径 13.3 底径 8.0 器高 5.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	土師器 甕	床面+3cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半斜め方向のヘラ削り、胴部 下半縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
6	須恵器 甕	床面+16cm 口縁部 破片	口径 14.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部回転ナデ。 内面：口縁部回転ナデ調整。	

1・2区61号住居跡 (旧称1・2区SJ-61)

位置：X=36423 Y=-39530 主軸方向：N-66°-E

規模：3.9m×3.0m 平面形状：隅丸長方形

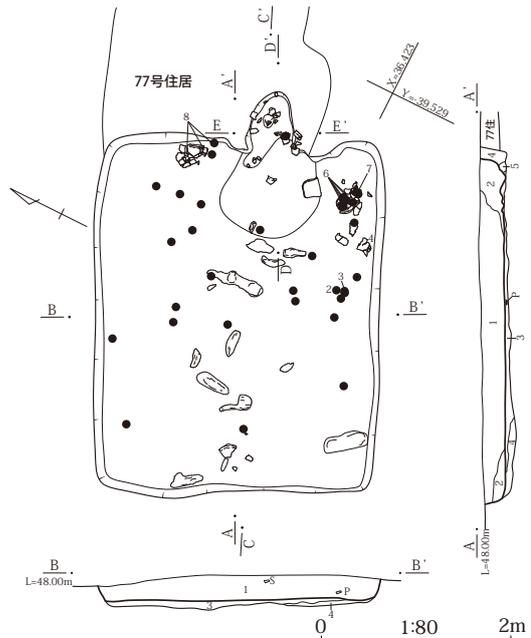
残存深度：10～20cm 埋没土：主に砂と焼土粒を含む褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土である粘性のある褐色土で埋め固め、床面とする。カマド：北東壁の中央やや南寄りに位置する。燃烧部使用面は緩やかな傾斜をもち、煙道へ続き、炭化物を含む灰層の堆積が認められる。また、燃烧部にはカマドの長軸からやや左にずれたところに支脚石が据えられている。柱穴：なし。

貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：77号住居跡と重複する。遺構確認時の埋土の様相から、本遺構の方が新しいものと判断される。掘り方：全体に地山ローム土を4～12cmほど浅く掘り窪める。掘り方底面の一部は地山砂礫層に達し、礫が露出する。

出土遺物：出土量は比較的多く、床面直上で土師器杯(No. 1)・甕(No. 8)・台付甕(No. 4)などが出土する。

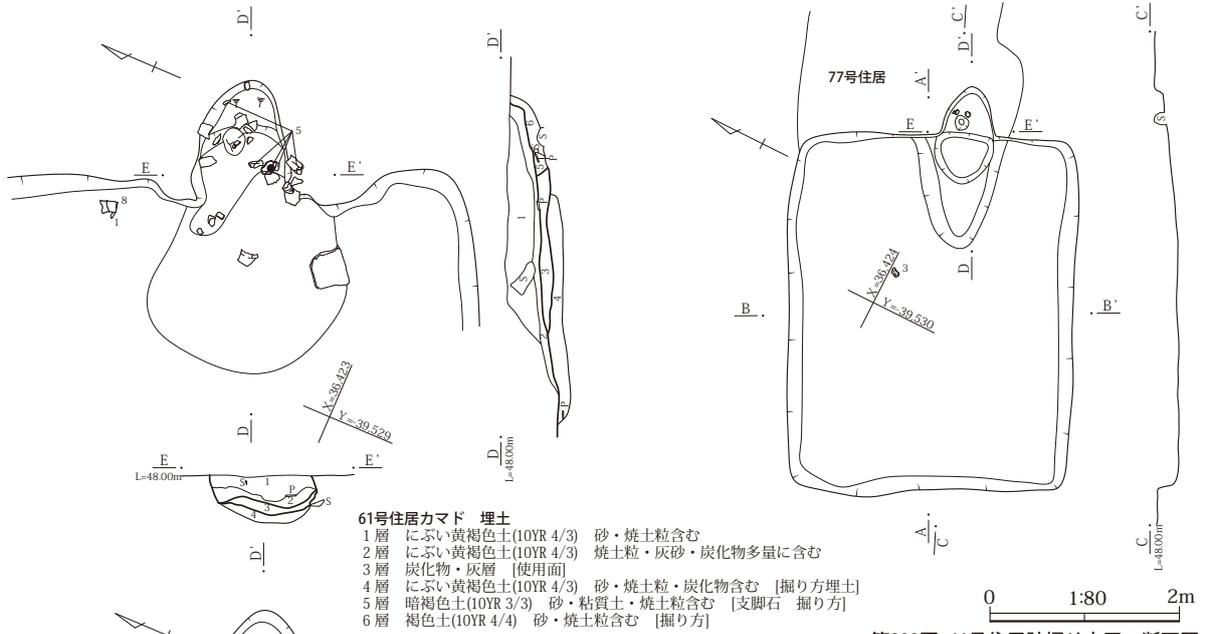


61号住居 埋土

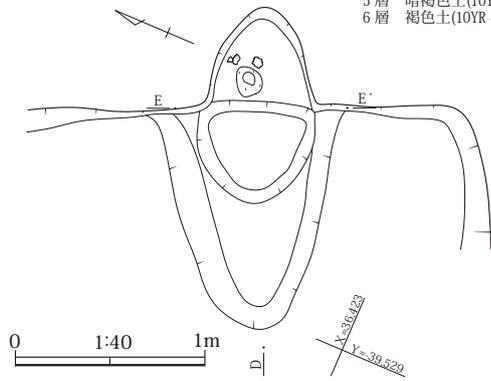
- 1層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒を含む
- 2層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒・炭化物を含む
- 3層 炭化物・褐色粘質土層 (貼り床)
- 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土を含む [掘り方埋土]
- 5層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒・礫を含む

第227図 61号住居跡平・断面図

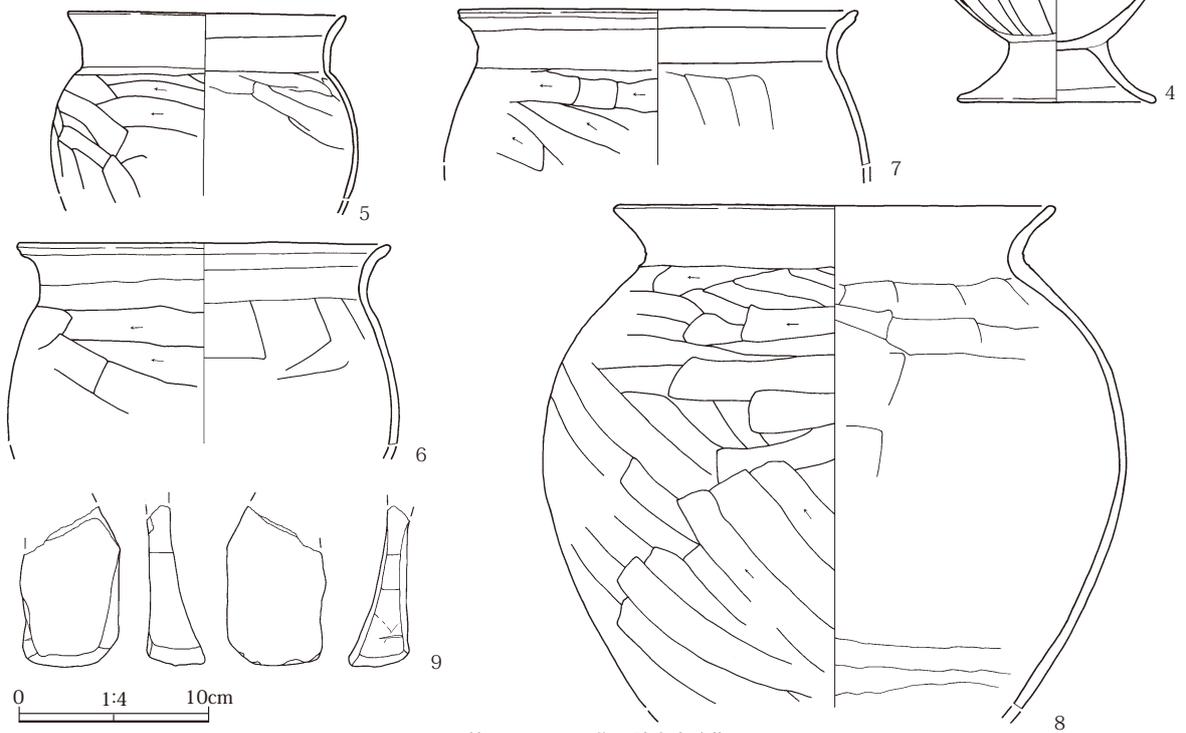
第3章 検出遺構と出土遺物



第228図 61号住居跡掘り方平・断面図



第229図 61号住居跡カマド平・断面図、カマド掘り方平面図



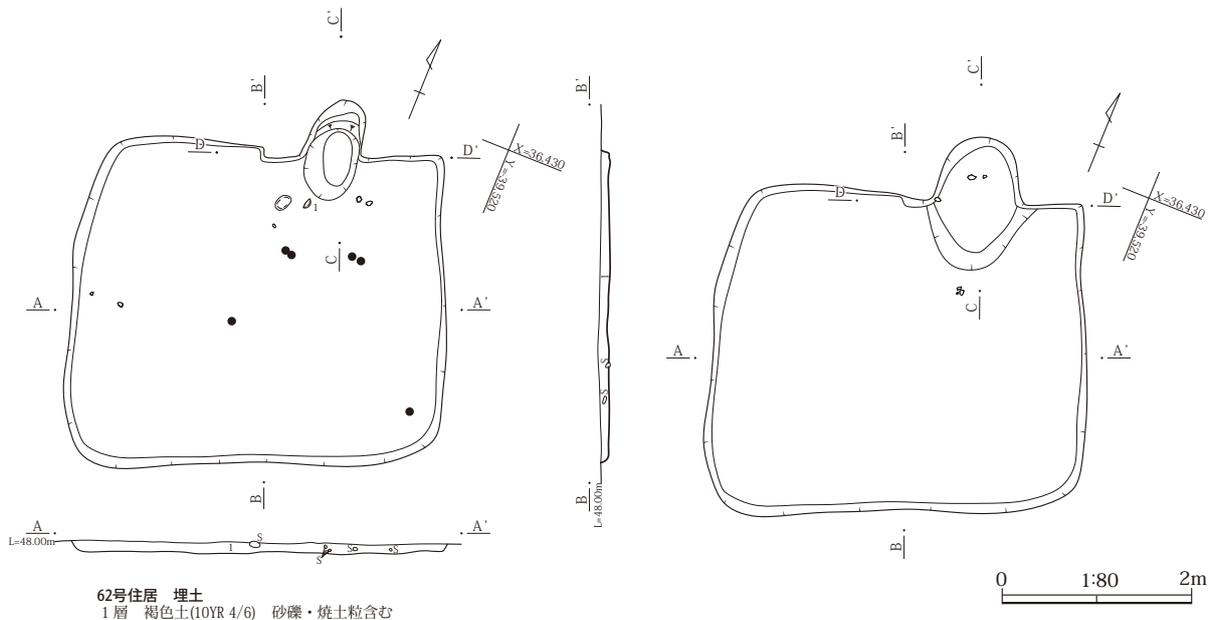
第230図 61号住居跡出土遺物

1・2区61号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法			備考
				①胎土	②焼成	③色調	成形手法	調整手法		
1	土師器 杯	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/2	口径 14.0 底径 7.2 器高 2.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤灰(2.5YR 5/1)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部～底部ナデ調整。					
2	須恵器 椀	床面+12cm 口縁部～底部 1/3	口径 10.4 底径 6.1 器高 2.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(10Y 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切りか。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。					
3	須恵器 杯	床面-3cm 口縁部～底部 1/3	口径 13.0 底径 6.0 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 黄灰(2.5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。					
4	土師器 台付甕	床面直上 口縁部～台部 2/3	口径 13.2 底径 5.2 器高 16.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 褐灰(7.5YR 4/1)	輪積み。台部貼付。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横ヘラ削り、胴部下半縦ヘラ削り。台部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ、胴部～底部ナデ。					
5	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 14.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。					
6	土師器 甕	床面+11cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 19.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 黒褐(7.5YR 3/2)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。					
7	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 20.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 4/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横～斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。					
8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 破片	口径 22.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 赤黒(2.5YR 2/1)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。					
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要	
9	石製品	砥石	1/2残存	8.5	5.1	3.0	(150)	砥沢石	床面+5cm	

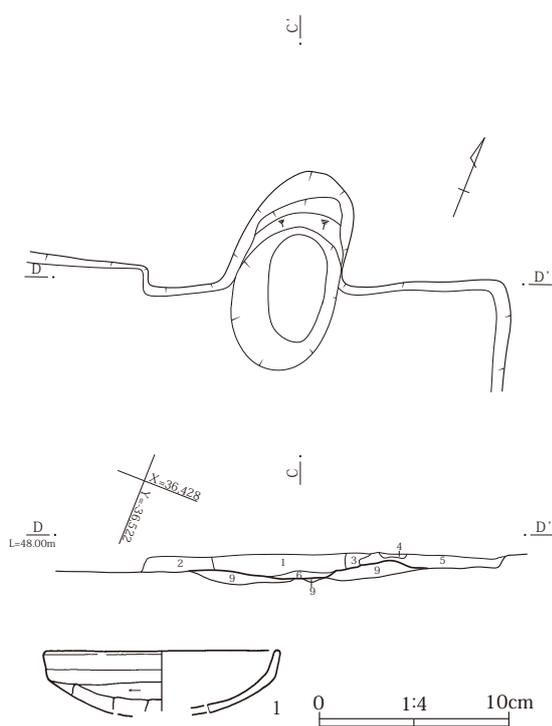
1・2区62号住居跡 (旧称1・2区SJ-62)

位置：X=36428 Y=-39522 主軸方向：N-10° -W 規模：3.4m×3.9m 平面形状：隅丸長方形
 残存深度：6～13cm 埋没土：上面を削平された状態での遺構検出となり、埋土も僅かに砂礫・焼土粒を含む褐色土が残るのみで、その堆積は自然埋没によるものと思われる。床面：掘り方を持たず、地山をそのまま床面とし、一部に地山礫層が露出する。カマド：北西壁中央北寄りに位置する。遺存状態は悪く、僅かに残る焼土粒により使用面が判明する程度である。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。
 掘り方：カマド部のみに掘り方を有する。出土遺物：微量の土師器杯(No. 1)片が出土するのみである。

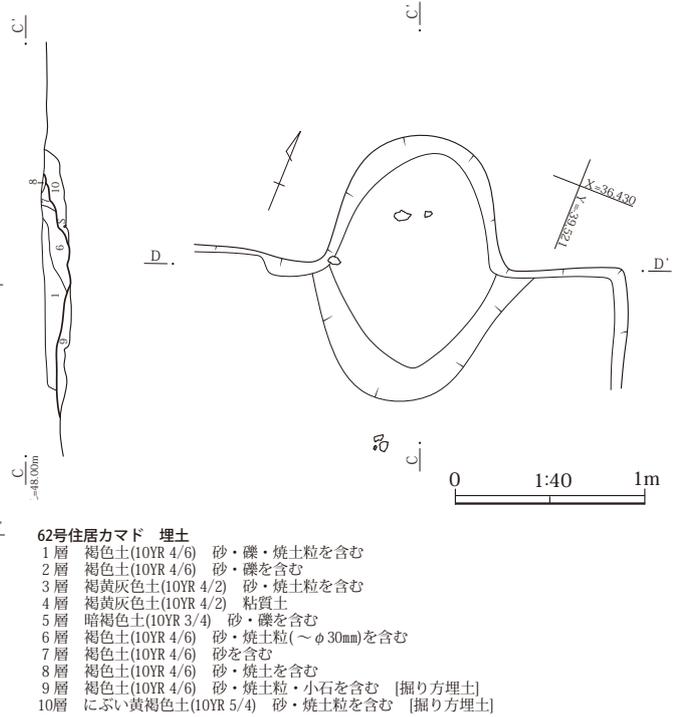


第231図 62号住居跡平・断面図、掘り方平面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第233図 62号住居跡出土遺物



62号住居カマド 埋土

- 1層 褐色土(10YR 4/6) 砂・礫・焼土粒を含む
- 2層 褐色土(10YR 4/6) 砂・礫を含む
- 3層 褐黄灰色土(10YR 4/2) 砂・焼土粒を含む
- 4層 褐黄灰色土(10YR 4/2) 粘質土
- 5層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・礫を含む
- 6層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒(～φ30mm)を含む
- 7層 褐色土(10YR 4/6) 砂を含む
- 8層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土を含む
- 9層 褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒・小石を含む [掘り方埋土]
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂・焼土粒を含む [掘り方埋土]

第232図 62号住居跡カマド平・断面図・カマド掘り方

1・2区62号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+2cm 口縁部～底部 1/3	口径 12.1 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焙 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ～底部手持へら削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	

1・2区63号住居跡 (旧称1・2区SJ-63)

位置：X=36422 Y=-39521

主軸方向：N-24° -W 規模：4.2m×5.2m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：0～24cm

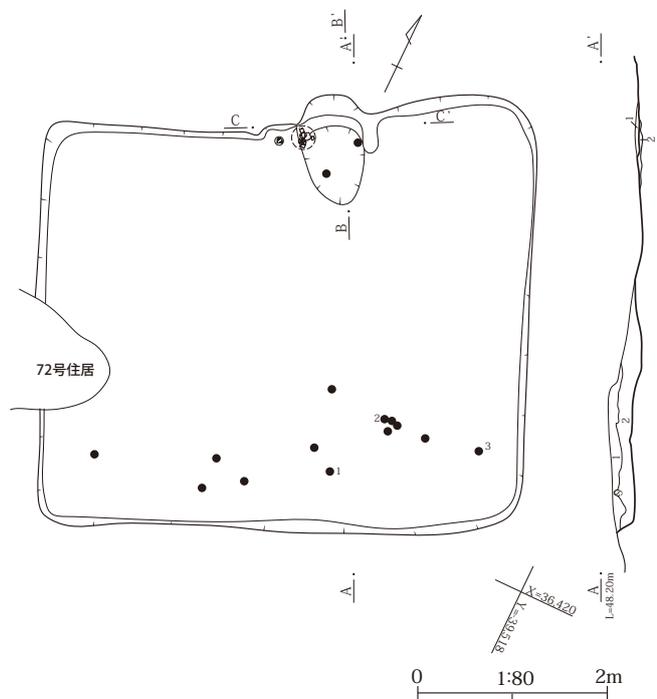
埋没土：上面を削平された状態、特に東半部は床面が露出する状態での遺構検出となり、埋土も西半部に僅かに砂礫・白色軽石・焼土粒を含むにぶい黄褐色土が残るのみで、その堆積は自然埋没によるものと思われる。

床面：掘り方を持たず、地山をそのまま床面とし、一部に地山礫層が露出する。カマド：北西壁中央やや北寄りに位置する。遺存状態は悪く、僅かに残る焼土粒により使用面が判明する程度である。

柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：72号住居跡のカマド部と重複し、遺構確認時の埋土の様相から、本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：なし。

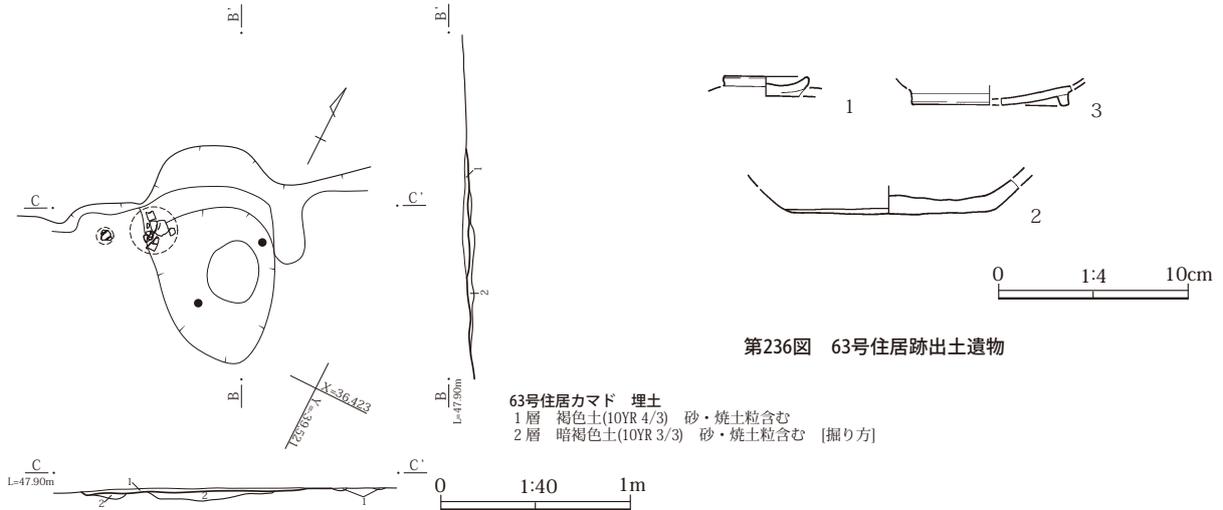
出土遺物：埋土中から少量の須恵器杯(No. 2)・椀(No. 3)・蓋(No. 1)の破片が出土している。



63号住居 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂礫・白色軽石(φ1mm)を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂礫・白色軽石(φ1mm)・焼土粒を含む

第234図 63号住居跡平・断面図



第236図 63号住居跡出土遺物

63号住居カマド 埋土
 1層 褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒含む [掘り方]

第235図 63号住居跡カマド掘り方平・断面図

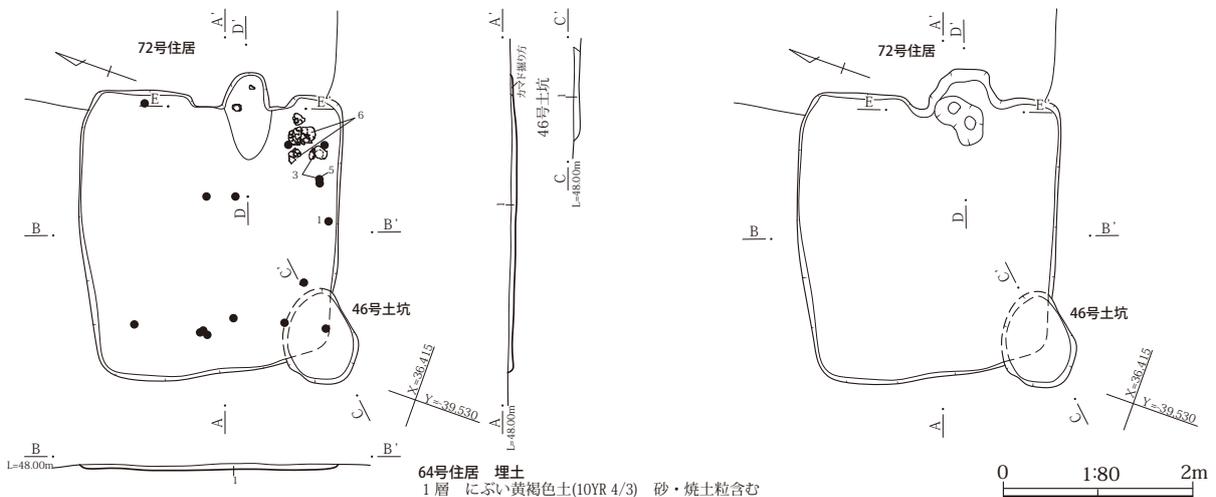
1・2区63号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+9cm 摘部 摘部のみ完形	口径 — 摘径 4.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：摘み貼付。	
2	須恵器 杯	床面+12cm 底部 破片	口径 — 底径 10.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底部外面中央に ヘラ記号「一」
3	須恵器 椀	床面+7cm 底部 破片	口径 — 底径 8.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	

1・2区64号住居跡 (旧称 1・2区SJ-64)

位置：X=36418 Y=-39529 主軸方向：N-71° - E 規模：3.0m×2.7m 平面形状：隅丸長方形

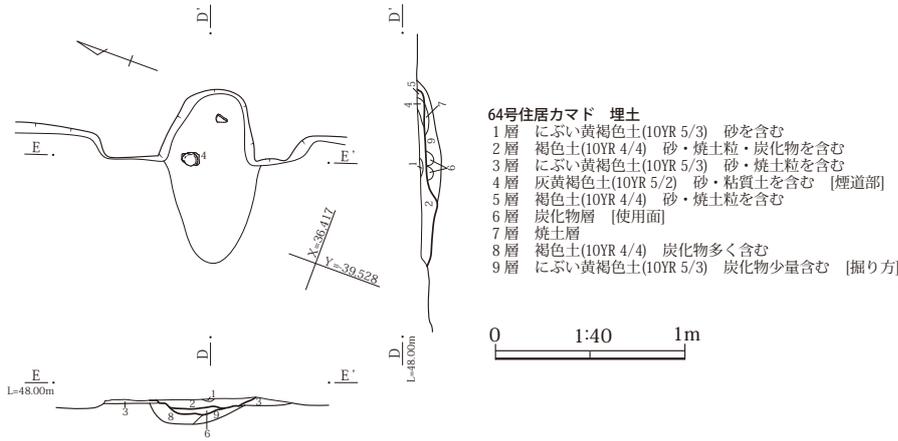
残存深度：1～5cm 埋没土：上面を削平された状態での遺構検出となり、埋土も僅かに砂と焼土粒を含むにぶい黄褐色土が残るのみで、その堆積は自然埋没によるものと思われる。床面：掘り方・貼り床を持たず、地山をそのまま床面とする。カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は悪く、僅かに残る焼土粒により使用面が判明する程度である。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：72号住居跡および46号土坑跡と重複する。72号住居跡との新旧関係は相互の埋土の様相より本遺構の方が新しいものと判断される。46号土坑跡の新旧関係については、埋土が近似し、深度も同じであることから、新旧関係は不明である。掘り方：カマド部のみ掘り方を持ち、深さ15cmほど地山ローム土を掘り込んでいる。出土遺物：出土量は少ないが、カマド脇の床面直上より土師器甕(No. 6)、内面に漆の付着がみられる須恵器椀(No. 3)などが出土している。



第237図 64号住居跡平・断面図、掘り方平面図

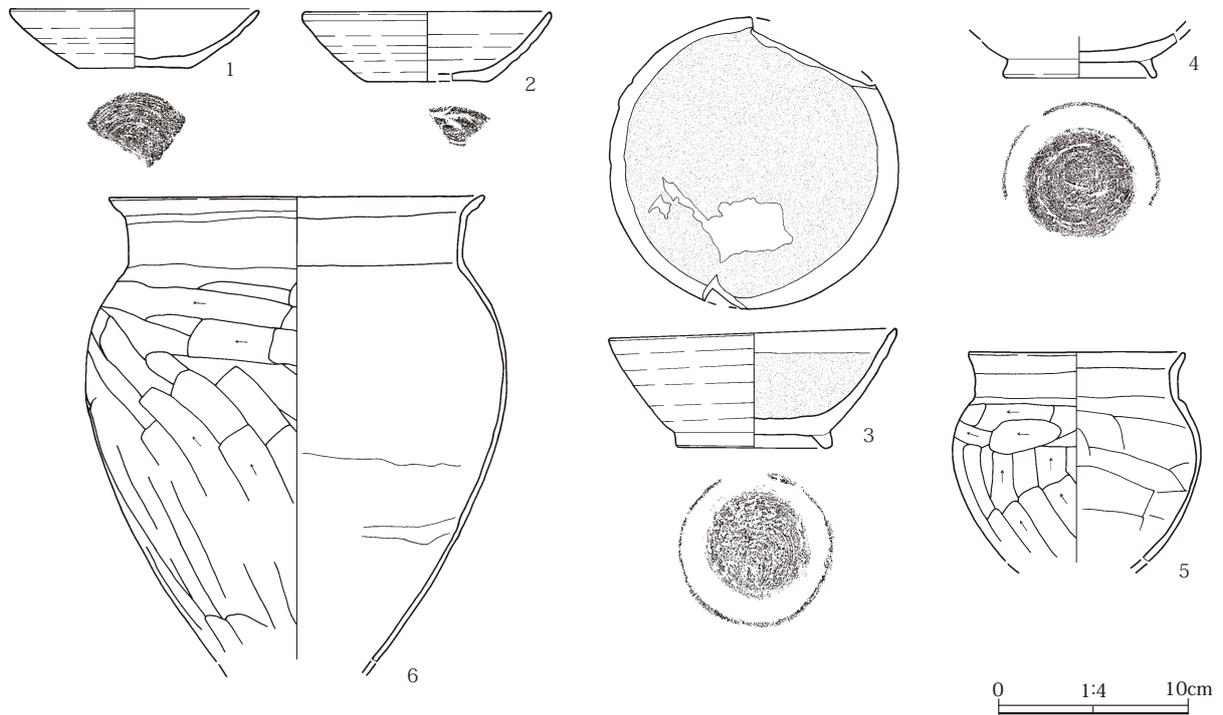
64号住居 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む

第3章 検出遺構と出土遺物



- 64号住居カマド 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂を含む
 - 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒・炭化物を含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒を含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・粘質土を含む [煙道部]
 - 5層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒を含む
 - 6層 炭化物層 [使用面]
 - 7層 焼土層
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 炭化物多く含む
 - 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物少量含む [掘り方]

第238図 64号住居跡カマド平・断面図



第239図 64号住居跡出土遺物

1・2区64号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/4	口径 13.0 底径 6.2 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄(2.5Y 6/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 12.9 底径 6.5 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 椀	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 15.0 底径 8.2 器高 6.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。漆紙附着。	漆附着土器。底部一部剥離。
4	須恵器 椀	竈埋土中 底部 破片	口径 — 底径 7.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部ナデ。	
5	土師器 小型甕	竈埋土中 口縁部～胴部 1/3	口径 11.1 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 暗褐(10YR 3/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦、下位斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 1/3	口径 19.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 褐(7.5YR 4/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上から横→斜め→縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区65号住居跡 (旧称1・2区SJ-65)

位置：X=36414 Y=-39522

主軸方向：N-76° - E 規模：3.0m×2.7m

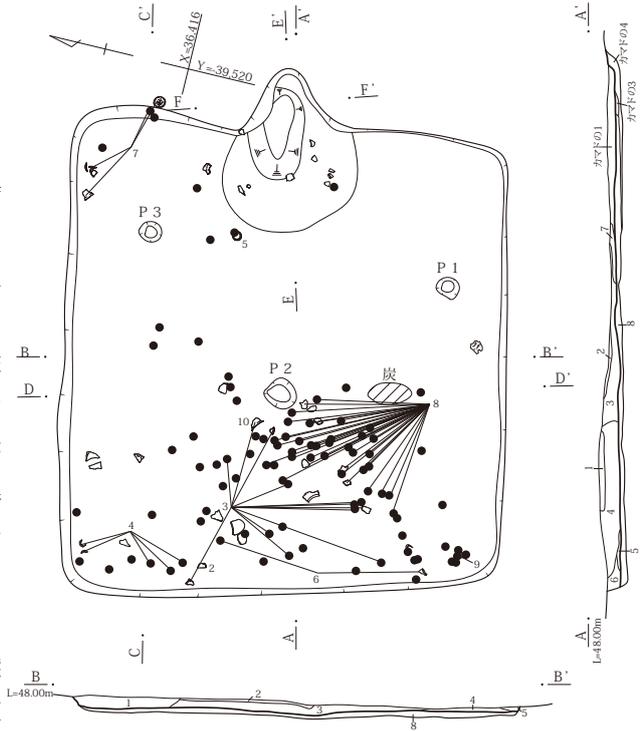
平面形状：隅丸長方形 残存深度：4~15cm

埋没土：上面を削平された状態での遺構検出となり、特に南東コーナー付近は埋土も僅しか残されていないが、主に白色軽石・砂・焼土粒を含む褐色~にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没によるものと思われる。

床面：掘り方埋土でもある黄褐色粘質土で埋め固め、床面を敷設している。カマド：北東壁ほぼ中央に位置する。遺存状態は悪く、僅かに残る焼土粒により使用面が判明する程度である。柱穴：掘り方調査の段階で3基のピットを検出した。P1、P2、P3は、確認面において径22cm~34cm、深さ11cm~13cmを測る。

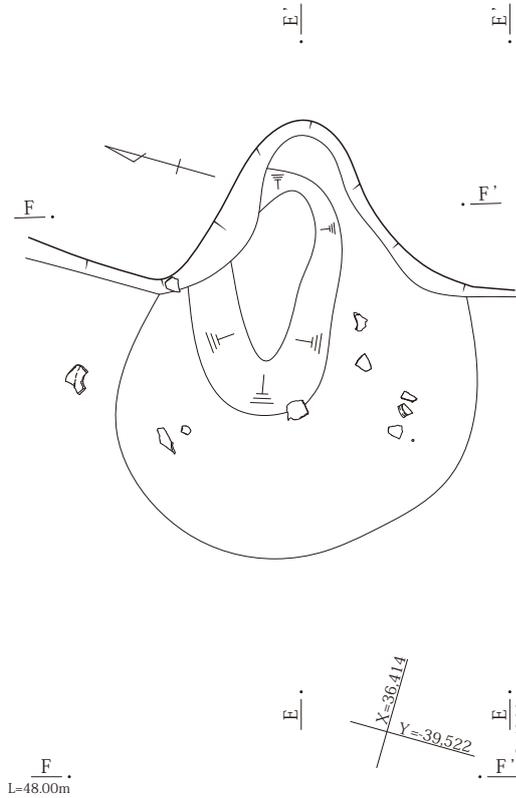
貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。

掘り方：全体に地山ローム土を3~7cmほど浅く掘り窪める。出土遺物：床面直上で土製紡錘車(No.11)・灰釉陶器(No.3)片が、埋土中から土師器甕(No.9・10)、須恵器杯(No.1・2)・壺(No.7・8)、灰釉陶器片(No.4)が出土している。



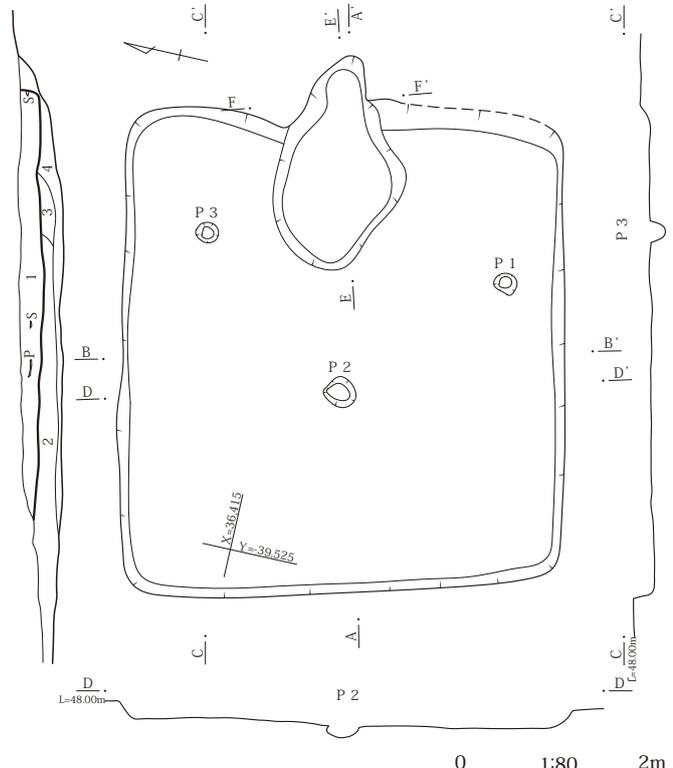
65号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・焼土粒・炭化物を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・多量の炭化物を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒を含む
- 5層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・少量の炭化物を含む
- 6層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・炭化物を含む
- 7層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・焼土粒(φ10mm)を含む
- 8層 黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・焼土粒を含む [貼り床]



F
L=48.00m

0 1:40 1m

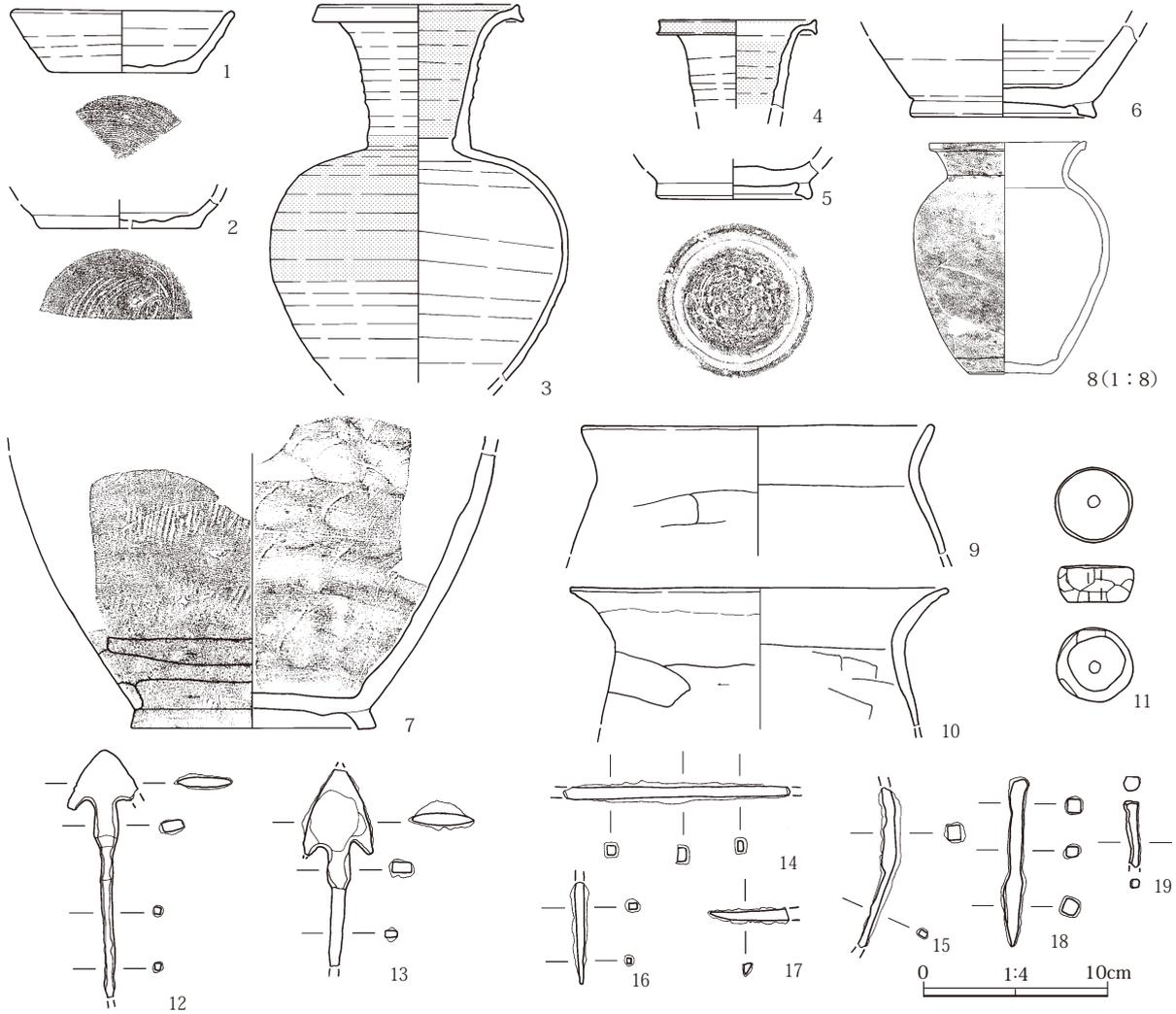


65号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・粘質土・焼土粒・炭化物を含む
- 2層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土・焼土粒・炭化物を含む [貼り床]
- 3層 炭化物層 褐色砂・焼土粒を含む [掘り方埋土]
- 4層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒を含む [掘り方埋土]

第240図 65号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第241図 65号住居跡出土遺物

1・2区65号住居跡出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 1/3	口径 11.6 底径 7.6 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後周辺部を回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面+19cm 底部 1/3	口径 — 底径 8.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転糸切り。 内面：底部回転ナデ調整。	
3	灰釉陶器 長頸壺	床面+2cm 口縁部～胴部 破片	口径 10.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～頸部回転ナデ。頸部貼付。胴部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ、胴部回転ナデ。	井ヶ谷 78号窯式期～里笹 14号窯式期。
4	灰釉陶器 長頸壺	床面+7cm 口縁部～頸部 破片	口径 8.3 底径 — 器高 —	① 微細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～頸部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ調整。	施釉方法不明。
5	須恵器 長頸壺	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 8.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付か。 内面：底部ナデ。	底部外面中央にヘラ記号「+」
6	須恵器 短頸壺or 長頸壺 (高台付)	床面+11cm 胴部下端～底部 破片	口径 — 底径 9.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：胴部回転ナデ。底部ヘラ削りか。高台貼付。 内面：胴部回転ナデ、底部ナデ。	底部外面にヘラ記号「-」
7	須恵器 壺か (高台付)	床面直上 胴部～底部 破片	口径 — 底径 12.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：胴部ナデ。胴部下端回転ヘラ削り。底部ナデ。高台貼付後、ナデ調整。胴部の一部に平行叩き目痕あり。 内面：胴部ヘラナデ、底部回転ナデ。	肩部外面に自然釉付着。
8	須恵器 壺	床面+4cm 口縁部～底部 1/3	口径 16.8 底径 8.7 器高 25.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・中礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。胴部平行叩き痕がかすかに残る。最下位に1段の回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ナデ。	

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
9	土師器 甕	床面+10cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 18.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へラナデ。	器面摩滅。 No.10 と同一個 体か。
10	土師器 甕	床面+9cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 20.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へラナデ。	No.9 と同一個 体か。
11	土製品 紡錘車	床面直上 完形	長径 3.7 短径 3.1 厚さ 2.0	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 褐灰(10YR 5/1)	側面はへラナデ。 孔径0.6cm 重量：43g	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
12	鉄器	鎌	ほぼ完形	13.5	3.8	0.9	19.0	有頸腸扶鎌、刃部の錆化が激しい。
13	鉄器	鎌	茎部の一部欠損	10.6	1.8	1.7	34.0	有頸腸扶鎌、刃部の錆化が激しい。
14	鉄器	棒状品	ほぼ完形	12.3	1.1	0.8	18.0	錆化、腐食激しい。
15	鉄器	鎌柄	頸部~茎部片	8.6	1.1	1.5	12.0	錆化が進んでいる。
16	鉄器	釘	先端部片	5.6	0.8	0.8	4.0	錆化が激しい。
17	鉄器	釘	柄部片	4.3	0.7	0.5	2.0	腐食が激しい。
18	鉄器	釘	完形	9.2	1.3	1.8	16.0	錆化が激しい。
19	鉄器	釘	先端部欠損	3.6	0.8	0.7	2.0	錆化、腐食が激しい。

1・2区66号住居跡(旧称1・2区SJ-66)

位置：X=36413 Y=-39532

主軸方向：N-58° - E 規模：4.5m×3.6m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：18~26cm

埋没土：主に白色軽石・細粒砂を含む暗褐色~にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：住居の中央部において炭化物を含むにぶい黄褐色粘質土を用いて4cmほどの貼り床を敷設する。

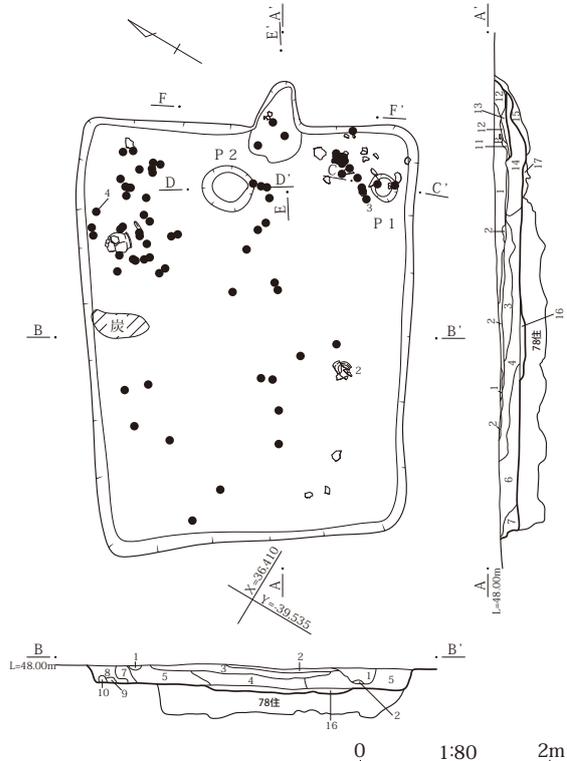
カマド：北東壁中央やや南よりに位置する。燃焼部使用面は、住居床面よりやや高い位置にあり、煙道部にかけて緩やかに傾斜し、煙道端は急峻に立ち上がる。

柱穴：2基のピットを検出し、P1は径26×28cm深さ18cm、P2は径49×55cm深さ36cmを測る。

貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：78号住居跡と重複する。本遺構は78号住居跡の直上に築かれており、本遺構の方が新しいものと判断される。また、78号住居跡とは南コーナー部と南東・南西壁の大半を共有しているため、本住居跡は78号住居跡の拡張である可能性があるが、単純な床面積拡張ではなく、78号住居跡を埋め戻し、床面のレベルを上げ、カマドを新設しての拡張に疑問も残る。掘り方：カマドのみ掘り方もち、掘り方埋土内にも灰や焼土が混入するため、使用用途における改修が推察される。

出土遺物：床面直上で土師器甕(No.4)の破片が、埋土中からほぼ完形の須恵器杯(No.2)などが出土している。

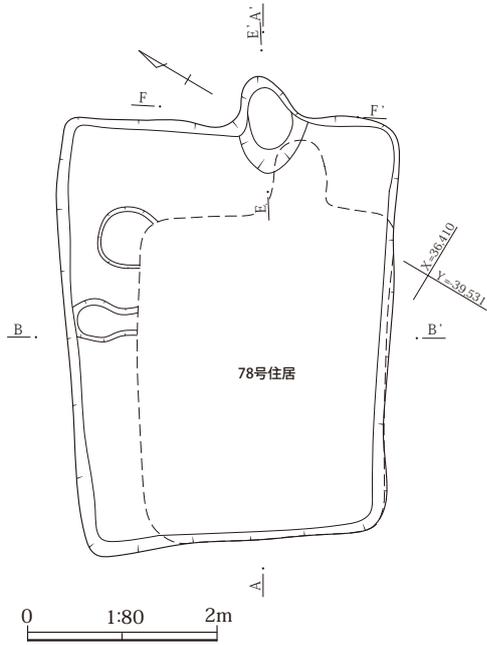


- 66号住居 埋土**
- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む
 - 2層 炭化物・灰層 砂・粘質土を含む [上部住居の床面]
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む 3層と4層の間に洪水砂入る
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・炭化物・焼土粒含む
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・白色軽石(φ10mm)・焼土粒・炭化物含む
 - 6層 暗褐色土(10YR 3/4) 5層に類似 焼土粒・炭化物少ない
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂を含む
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂を含む
 - 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・炭化物・焼土粒含む
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・炭化物含む
 - 12層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土含む
 - 13層 炭化物層
 - 14層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・砂・焼土粒・炭化物含む
 - 15層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒含む
 - 16層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物含む やや粘質土混ざる [66住貼り床]
 - 17層 にぶい黄褐色土(10YR 6/4) 粘質土・焼土粒・炭化物含む [78住埋土]

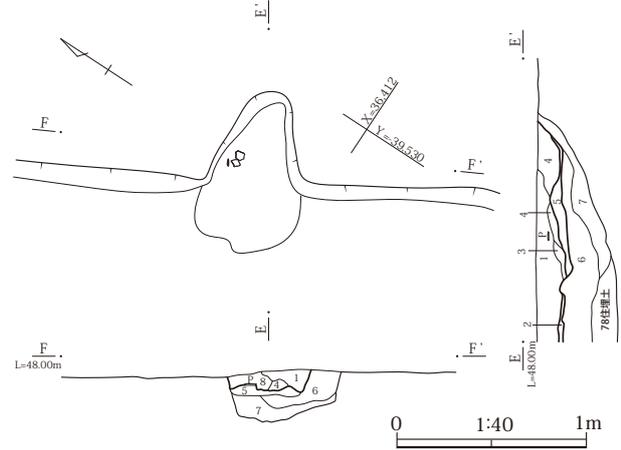
- 66号住居 P1 埋土**
- 1層 黒褐色土(2.5YR 3/1) しまり弱い砂を全体に含み砂質の灰層炭φ30mm以下・焼土粒φ20mm以下を少量含む
- 66号住居 P2 埋土**
- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・白色軽石(φ10mm)・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・白色軽石(φ10mm)・焼土粒・炭化物含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・白色軽石(φ10mm)・少量の焼土粒・炭化物含む
 - 4層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む

第242図 66号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



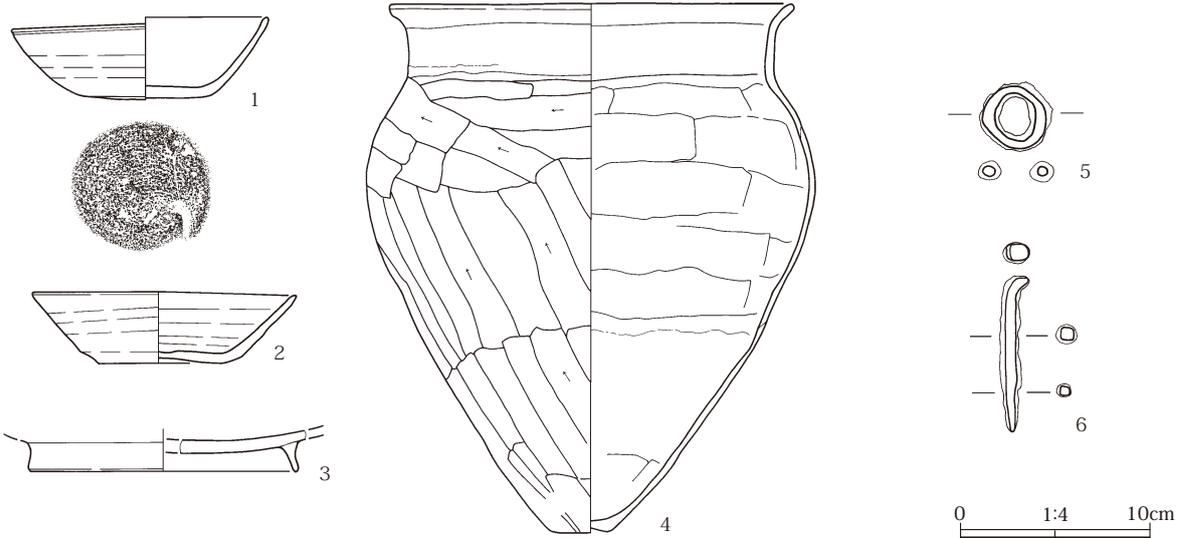
第243図 66号住居跡掘り方平面図



66号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物含む
- 2層 炭化物・灰層 砂・粘質土を含む [上部住居の床面]
- 3層 焼土
- 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土含む
- 5層 炭化物層
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・砂・焼土粒・炭化物含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒含む
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 砂と灰の混土φ10mm以下の焼土粒をやや多量 同炭粒を微量含む しまりやや弱い

第244図 66号住居跡カマド平・断面図



第245図 66号住居跡出土遺物

1・2区66号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	カマド掘方埋土中 口縁部～底部 3/4	口径 13.3 底径 7.1 器高 4.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面+16cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.6 底径 6.6 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 4/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	歪みあり。
3	須恵器 盤	床面+4cm 底部 破片	口径 — 台部径 14.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
4	土師器 甕	床面直上 口縁部～底部 1/4	口径 21.0 底径 3.1 器高 27.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向のヘラ削り、胴部中位・下位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
5	鉄製品	環状	完形	3.6	3.8	1.1	18.0	錆化が激しい。
6	鉄器	釘	完形	8.2	1.1	1.2	16.0	錆化が激しい。

1・2区67号住居跡 (旧称1・2区SJ-67)

位置：X=36409 Y=-39527

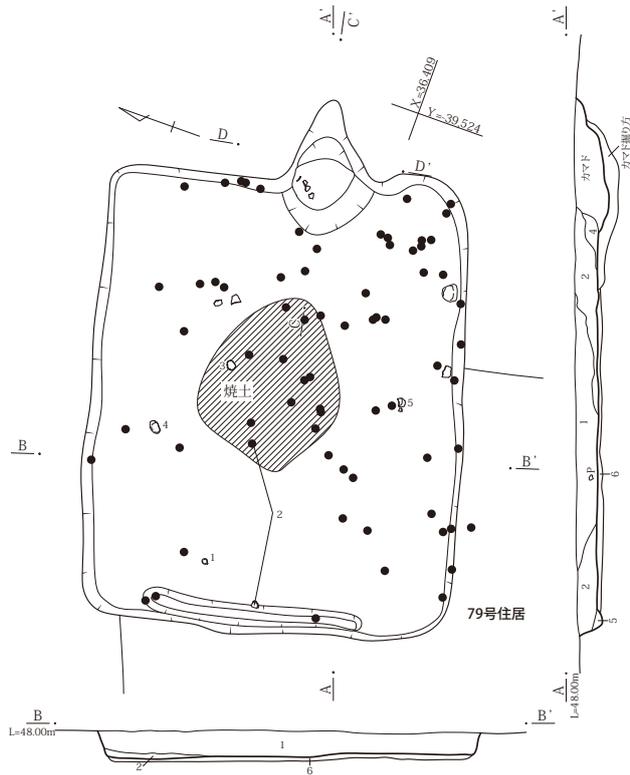
主軸方向：N-72° - E 規模：4.8m×3.9m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：17～29cm

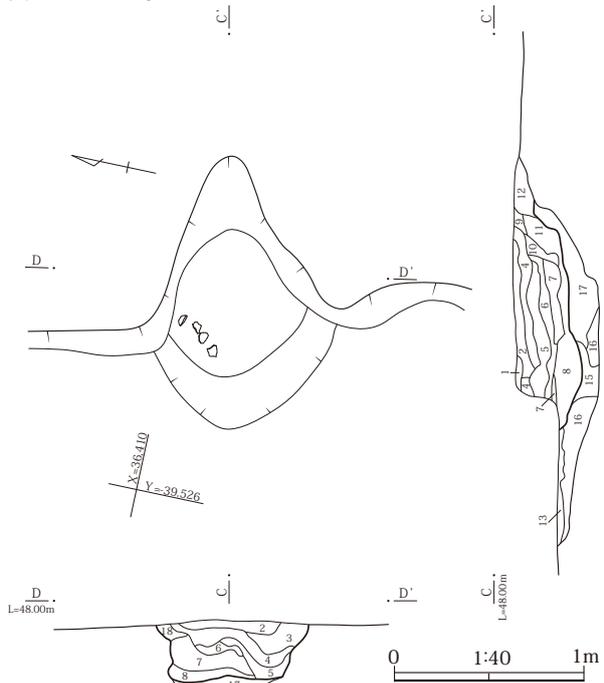
埋没土：白色軽石と細粒砂を含む褐色～にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：浅い掘り方をにぶい黄褐色粘質土を用いて埋め固め、床面とする。カマド：北東壁中央やや南寄りに位置する。遺存状況は比較的良好。燃烧部使用面には炭化物層が堆積し、その直上には焼土化した天井部材が崩落認められた。煙道部は燃烧部より一段高く、端部は緩やかに立ち上がる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。

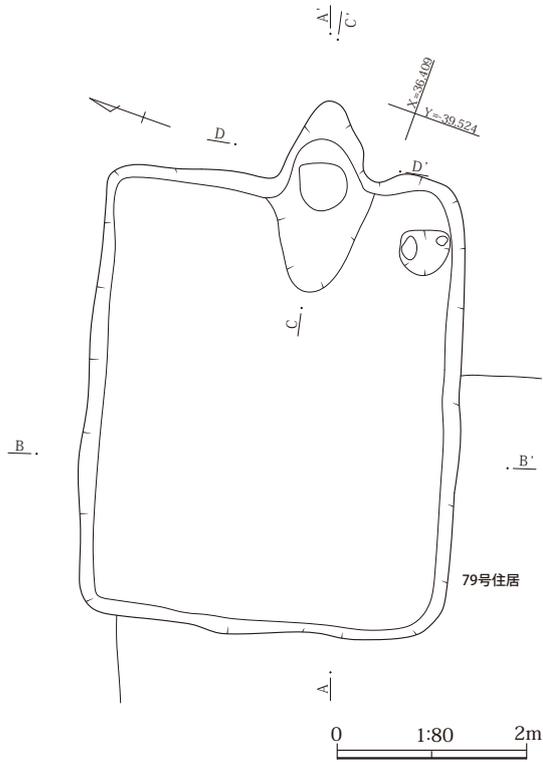
壁周溝：住居の南西壁の一部で、幅22cm、深さ4cmを測る壁溝を検出する。重複遺構：79号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より本遺構の方が新しいものと判断される。掘り方：全体に深さ4～6cmと浅く掘り窪める。出土遺物：床面直上で須恵器杯(No. 2)が出土している。



- 67号住居 埋土
- 1層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ10mm)・焼土粒(～φ10mm)・炭化物含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂・焼土粒・少量の炭化物含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂・黄褐色土粒・焼土粒含む
 - 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂・褐色粘質土・焼土粒(～φ50mm)・炭化物含む
 - 5層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・炭化物含む [周溝埋土]
 - 6層 にぶい黄褐色粘質土 [住居掘り方埋土]

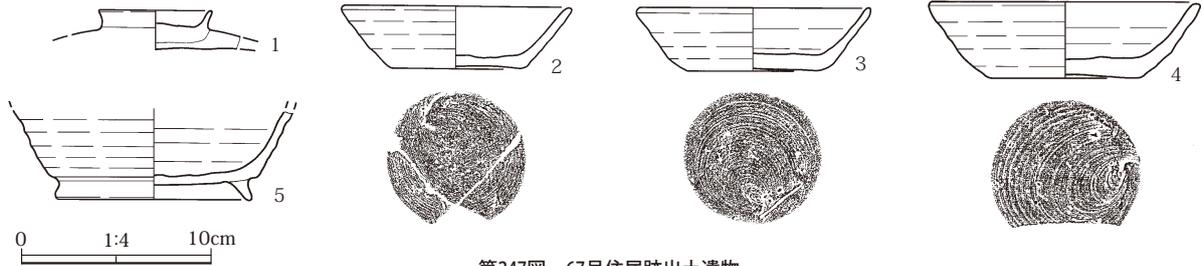


- 67号住居カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・礫含む
 - 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・炭化物含む
 - 4層 褐色土(10YR 4/6) 砂・黄褐色土・焼土粒・炭化物含む
 - 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒・炭化物含む
 - 6層 炭化物層 砂含む
 - 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土含む
 - 8層 炭化物層 [使用面]
 - 9層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・焼土粒含む
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒少量含む
 - 11層 焼土ブロック 褐色砂含む
 - 12層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒・炭化物含む
 - 13層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 粘質土・灰・焼土粒・炭化物含む [貼り床]
 - 14層 褐色土(10YR 4/4) 砂・黄褐色粘質土・焼土粒・炭化物含む [掘り方]
 - 15層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・炭化物含む [掘り方]
 - 16層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む [掘り方]
 - 17層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・乾燥焼土ブロック含む [掘り方]
 - 18層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 粘質土・焼土粒含む



第246図 67号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第247図 67号住居跡出土遺物

1・2区67号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+15cm 摘部~天井部 破片	口径 — 摘径 5.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部へラ削り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 2/3	口径 11.8 底径 7.0 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+8cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.0 底径 7.0 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+15cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.5 底径 7.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面+24cm 体部~底部 破片	口径 — 底径 9.1 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へラ削り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	

1・2区68号住居跡 (旧称1・2区SJ-68)

位置：X=36407 Y=-39520

主軸方向：N-75° - E 規模：5.5m×3.9m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：3~15cm

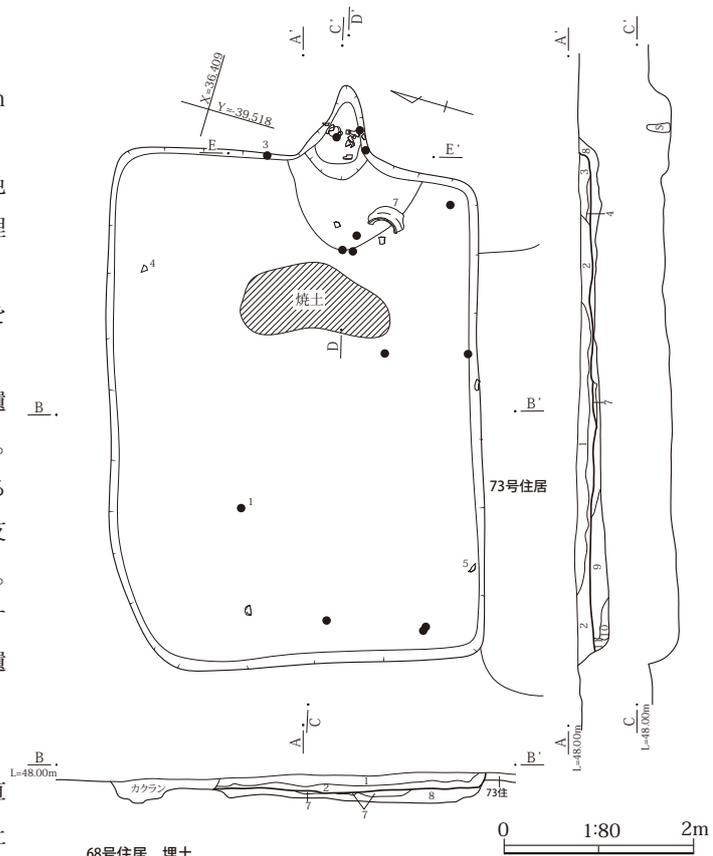
埋没土：主に白色軽石・砂・焼土粒を含む褐色~にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没によるものと思われる。

床面：掘り方埋土であるにぶい黄褐色粘質土を用いて、貼り床を敷設する。

カマド：北東壁中央東寄りに位置する。出土遺物も比較的多く出土し、遺存状態は比較的良好。焚き口幅は45cmを測り、煙道部端は急峻に立ち上がる。中心軸からやや左にずれたところに支脚石が残る。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：73号住居跡と重複する。遺構確認~掘削時の埋土の様相より、本遺構の方が新しい。

掘り方：地山砂質土を2~18cm掘り窪める。

出土遺物：全体的に出土量は少ないが、床面直上で土師器杯(No. 1)、須恵器椀(No. 4)が出土している。

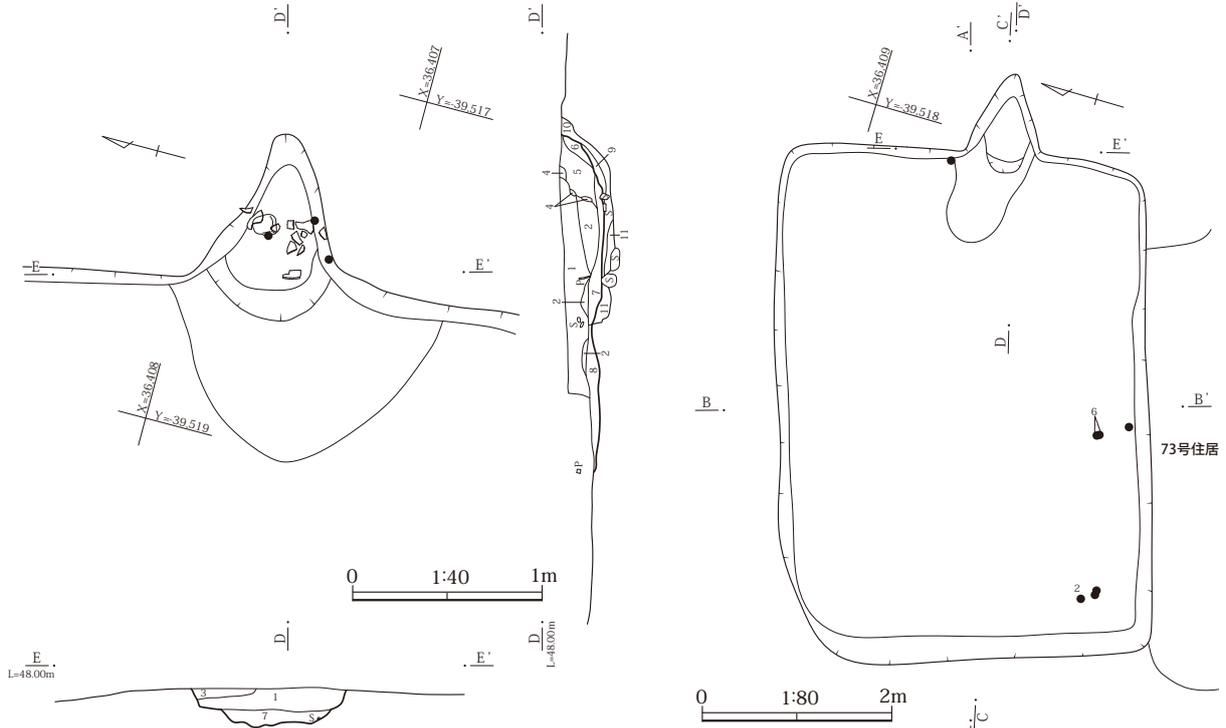


68号住居 埋土

- 1層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物・礫を含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒を含む
- 4層 炭化物層 粘質土混ざる
- 5層 砂層
- 6層 攪乱 礫を含む
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 粘質土・砂を含む [貼り床]
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 砂を含む
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・炭化物・焼土粒を含む
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂を含む
- 11層 灰白色土(10YR 7/1) 砂を含む

第248図 68号住居跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

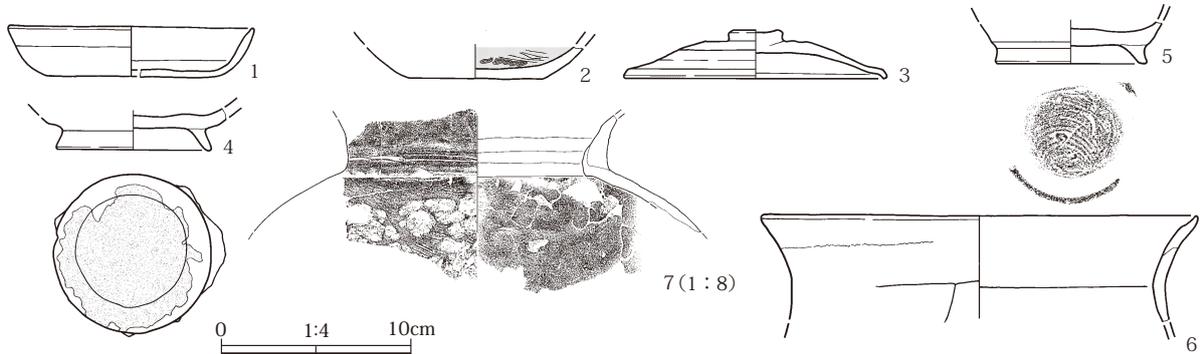


68号住居カマド 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒含む 粘質土
 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・炭化物含む 粘質土
 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む 粘質土
 4層 焼土 ブロックを含む
 5層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・炭化物含む 粘質土

6層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・褐色土・焼土粒含む
 7層 黒褐色土(7.5YR 2/2) しまりやや有 褐色灰色砂を主体とし 焼土粒φ5mm前後を少量含む
 8層 褐色灰色砂 焼土粒φ5mm前後を少量含む しまりが有
 9層 焼土層 黒褐色土を含む
 10層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒含む [掘り方埋土]
 11層 暗褐色土(10YR 3/4) 焼土粒含む [掘り方埋土]

第249図 68号住居跡カマド平・断面図

第250図 68号住居跡掘り方平面図



第251図 68号住居跡出土遺物

1・2区68号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 10.0 器高 2.6	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	黒色土器 杯	床面-17cm 体部下～底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	外面：体部回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。 内面：体部～底部ナデ後底部螺旋状暗文、体部ヘラ磨き。	
3	須恵器 杯蓋	床面+5cm 摘部～天井部～口縁部 1/4	口径 13.4 摘径 2.4 器高 2.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄(2.5Y 6/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ、天井部回転ヘラ削り。摘み貼付。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
4	須恵器 椀	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 7.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面直上 底部 破片	口径 — 底径 8.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 8/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転条切り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
6	土師器 甕	床面-13cm 口縁部～底部 1/4	口径 22.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
7	須恵器 大甕	床面+3cm 口縁部～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10YR 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ、胴部平行叩き痕が残る。 内面：口縁部回転ナデ調整。胴部アテ具痕がかすかに残る。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区69号住居跡

(旧称1・2区SJ-69)

位置：X=36402 Y=-39526

主軸方向：N-72° - E

規模：3.4m×3.6m

平面形状：隅丸長方形

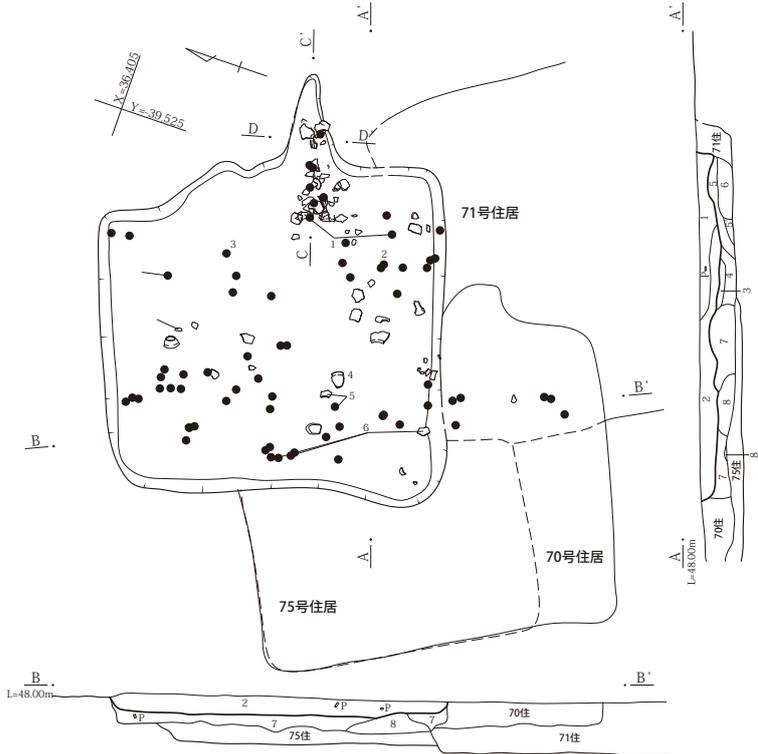
残存深度：17～18cm

埋没土：少量の白色軽石などを含む暗灰黄色砂質土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。**床面：**掘り方埋土である灰黄褐色砂質土で埋め固め、床面とする。**カマド：**北東壁中央寄り位置する。遺存状態は比較的良好。焚き口幅は40cmを測り、煙道部は緩やかに立ち上がる。燃焼部使用面には良好な灰層が認められた。

柱穴：なし。**貯蔵穴：**なし。**壁周溝：**なし。

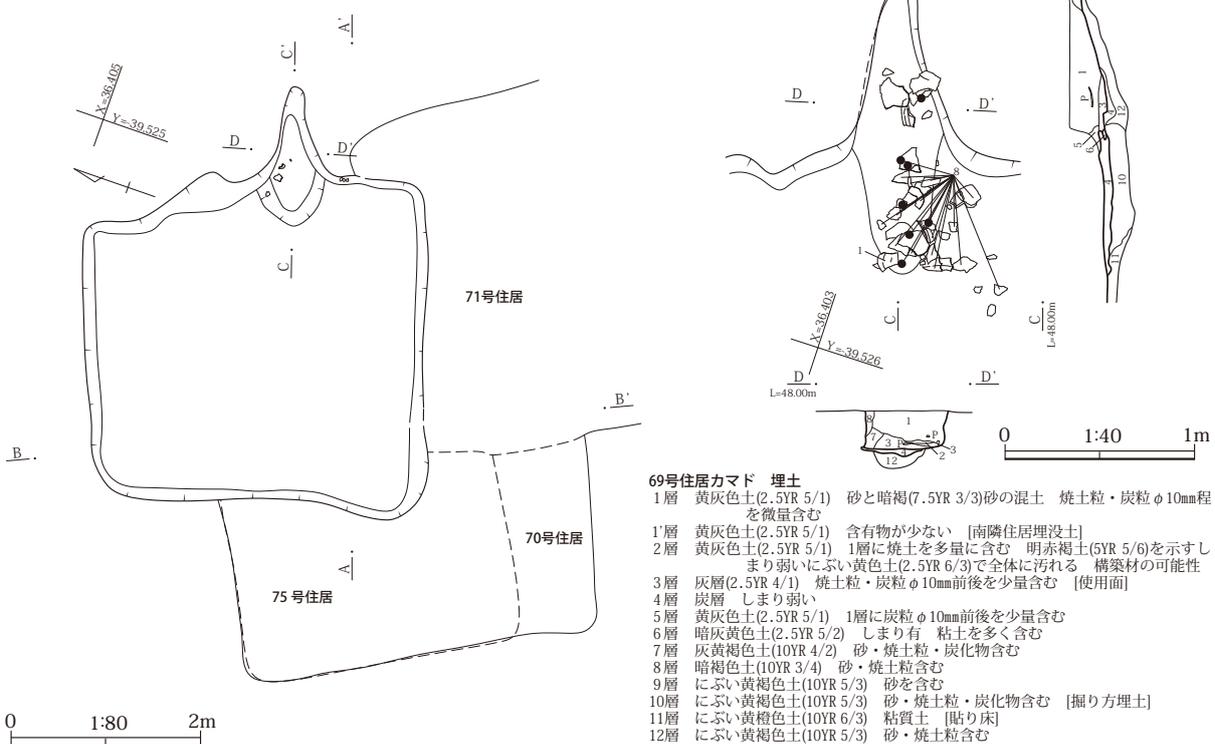
重複遺構：70・71・75号住居跡と重複する。

遺構確認～掘削時の埋土の様相から、本遺構がこれの中では最も新しいものと判断される。掘り方：地山の灰黄褐色砂質土を8～26cm掘り込める。**出土遺物：**床面直上で須恵器紡錘車(No. 9・10)が埋土中から土錘(No.11・12)出土した他、カマドより略完形の土師器甕(No. 8)が出土している。



69号住居 埋土

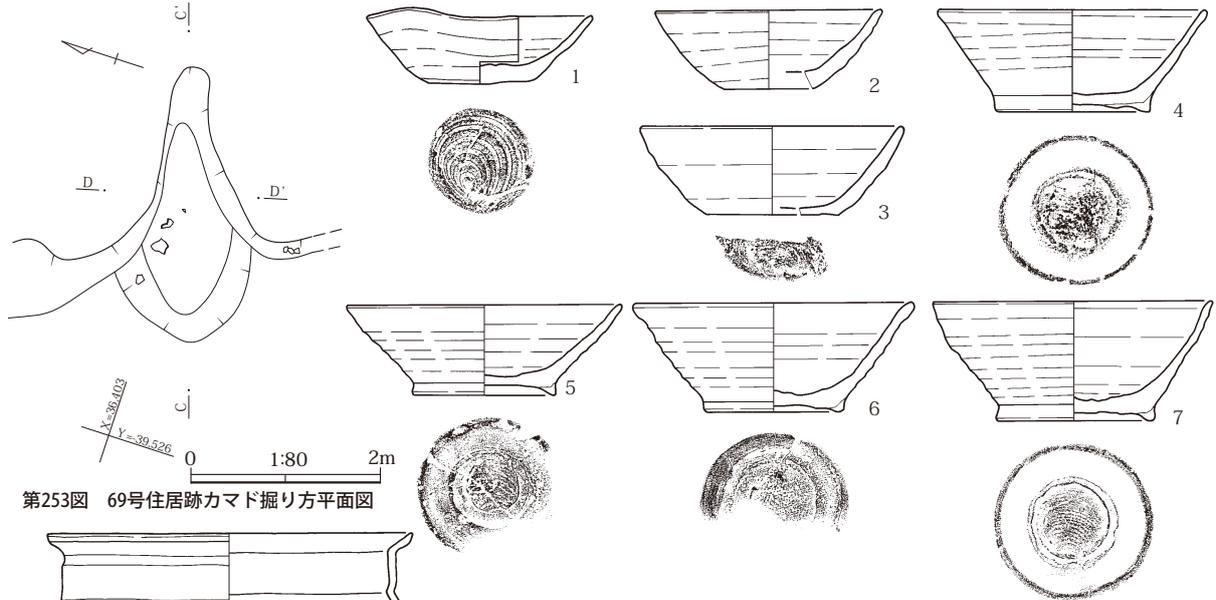
- 1層 黄褐色砂質土(2.5YR 5/3) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・微量の焼土粒子・炭化物を含む
- 2層 暗灰黄色砂質土(2.5YR 5/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
- 3層 暗灰黄色砂質土(2.5YR 5/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・焼土粒子・多量の炭化物(φ5～25mm大)を含む
- 4層 暗灰黄色砂質土(2.5YR 5/2) 2層に同じ
- 5層 暗灰黄色砂質土(2.5YR 5/2) 少量の焼土粒子・多量の炭化物(φ10～40mm大)を含む
- 6層 暗灰黄色砂質土(2.5YR 5/2) 少量の焼土粒子・炭化物(φ5～20mm大)を含む
- 7層 黄褐色砂質土(2.5YR 5/3) 微量の炭化物を含む
- 8層 灰黄褐色砂質土(2.5YR 6/2) 少量の焼土粒子・炭化物と多量の浅黄色砂質ロームブロック(φ5～50mm大)を含む
- 9層 浅黄色砂質土(2.5YR 7/4) 多量の焼土小ブロック(φ5～10mm大)を含む



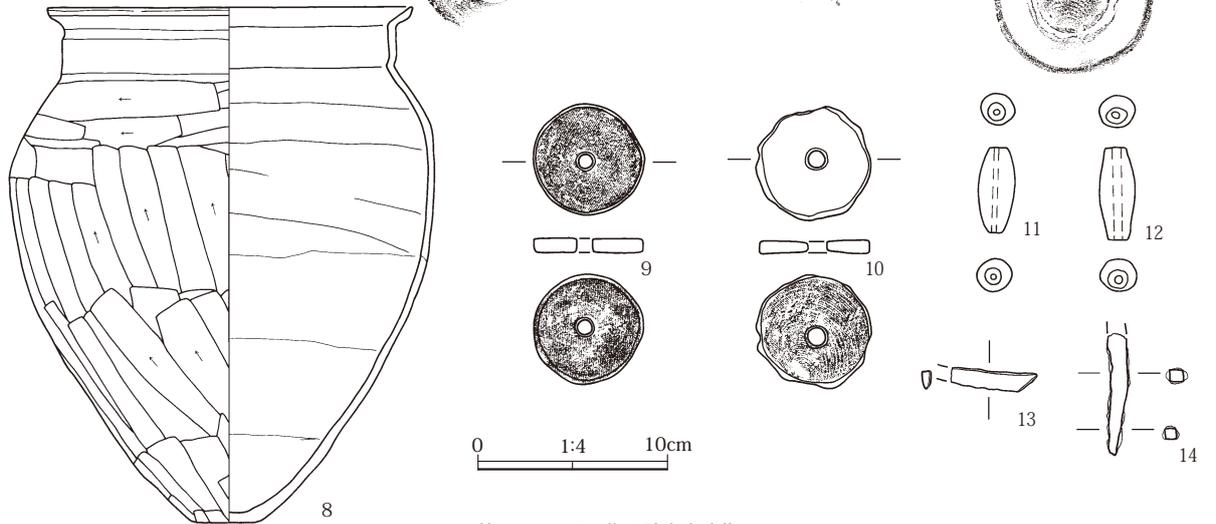
69号住居カマド 埋土

- 1層 黄灰色土(2.5YR 5/1) 砂と暗褐(7.5YR 3/3)砂の混土 焼土粒・炭粒φ10mm程を微量含む
- 1'層 黄灰色土(2.5YR 5/1) 含有物が少ない [南隣住居埋没土]
- 2層 黄灰色土(2.5YR 5/1) 1層に焼土を多量に含む 明赤褐土(5YR 5/6)を示すし、あまり弱にふい、黄色土(2.5YR 6/3)で全体に汚れる 構築材の可能性
- 3層 灰層(2.5YR 4/1) 焼土粒・炭粒φ10mm前後を少量含む [使用面]
- 4層 炭層 しまり弱い
- 5層 黄灰色土(2.5YR 5/1) 1層に炭粒φ10mm前後を少量含む
- 6層 暗灰黄色土(2.5YR 5/2) しまり有 粘土を多く含む
- 7層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 砂・焼土粒・炭化物含む
- 8層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む
- 9層 にふい黄褐色土(10YR 5/3) 砂を含む
- 10層 にふい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒・炭化物含む [掘り方埋土]
- 11層 にふい黄褐色土(10YR 6/3) 粘質土 [貼り床]
- 12層 にふい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒含む

第252図 69号住居跡平・断面図



第253図 69号住居跡カマド掘り方平面図



第254図 69号住居跡出土遺物

1・2区69号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯 (片口)	床面直上、竈埋土中 口縁部～底部 3/4	口径 11.7 底径 5.4 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面-14cm 口縁部～体部 破片	口径 11.7 底径 4.7 器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗青灰(5B 4/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+15cm 口縁部～底部 破片	口径 13.6 底径 7.0 器高 4.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 椀	床面+9cm 口縁部～底部 2/3	口径 13.9 底径 8.4 器高 5.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面+11cm 口縁部～底部 2/3	口径 14.3 底径 7.4 器高 4.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 椀	床面-8cm 口縁部～底部 3/4	口径 14.5 底径 7.5 器高 5.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	底部内面は剥離。
7	須恵器 椀	床面-7cm 口縁部～底部 3/4	口径 14.5 底径 8.0 器高 6.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
8	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 19.0 底径 3.7 器高 27.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙7.5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中～下位縦方向へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部へラナデ。	
9	須恵器 紡錘車	床面+7cm	長径 5.8 短径 5.8 厚さ 0.7	① 重量：33g ② 灰白(N 7/0)	表裏側面ともよく擦られている。 孔径0.8cm 重量：33g	須恵杯底部転用。
10	須恵器 紡錘車	床面直上	長径 6.0 短径 6.0 厚さ 0.7	① 重量：27g ② ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	周辺部打ち欠き、裏面回転糸切り。 孔径1.0cm 重量：27g	須恵杯底部転用。
11	土製品 錘	床面+15cm 完形	長さ 4.5 径 1.9 孔 0.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部へラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：14g	一部にスス附着。

第3章 検出遺構と出土遺物

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考		
12	土製品 錘	床面+13cm 完形	長さ 4.9 径 1.8 孔 0.4	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径4mmの穿孔。 重量：15g	一部にスス附着。		
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
13	鉄器	鍔	刃部片	4.5	1.0	0.6	4.0	錆化が激しい。
14	鉄器	釘	頭部欠損	6.4	1.1	0.8	9.0	錆化が激しい。

1・2区70号住居跡(旧称1・2区SJ-70)

位置：X=36401 Y=-39527

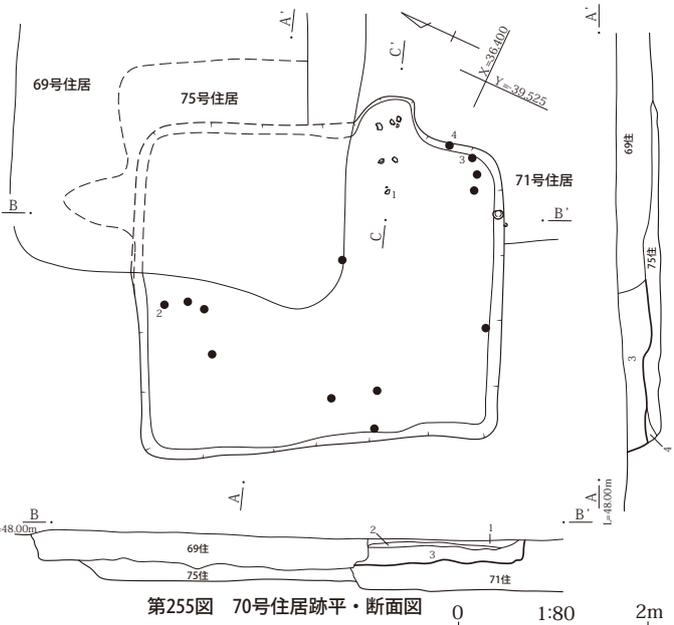
主軸方向：N-68° -E 規模：3.5m×3.8m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：15～25cm

埋没土：上位は厚さ3～5mm程の灰・ローム・焼土が互層堆積しており、下位は少量の焼土粒、炭化物、ロームブロックを含む灰黄褐色砂質土が堆積している。床面：下面にある重複住居の埋土をもって、床面とする カマド：北東壁中央東寄りに位置する。遺存状態は悪く、灰と焼土層が一部に確認されたのみである。柱穴・貯蔵穴・壁周溝：残存部分においては検出されていない。重複遺構：69・71・75号住居跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構は71・75号住居跡より新しく、69号住居跡よりも古いものと判断される

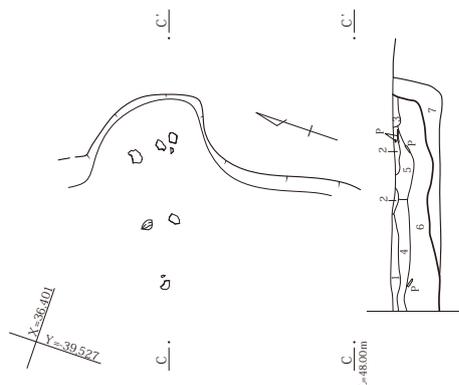
掘り方：カマド部分のみに掘り方を有する。

出土遺物：出土量はごく僅かであるが、床面直上から須恵器杯(No. 3)の破片が、埋土中から土鍾(No. 4)等が出土している。



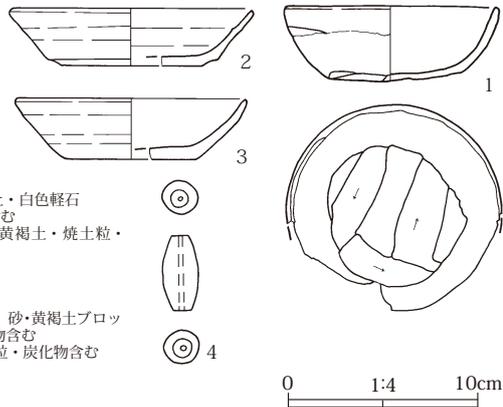
第255図 70号住居跡平・断面図

70号住居 埋土
1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の焼土粒子・多量の浅黄色砂質ロームブロック(φ10～30mm大)を含む
2層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 厚さ3～5mm程の灰層・黄色ローム土層・焼土層の互層堆積土
3層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の焼土粒子・炭化物・浅黄色砂質ロームブロック(φ10～20mm大)を含む
4層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 多量浅黄色砂質ローム粒子・同ブロック(φ5～30mm大)を含む(掘り方埋土)



第256図 70号住居跡カマド平・断面図

70号住居カマド 埋土
1層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土・白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む
2層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・黄褐色土・焼土粒・灰含む
3層 焼土 黒褐色砂を含む
4層 炭化物・焼土粒層
5層 灰・焼土粒層
6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物含む
7層 黒褐色土(10YR 2/2) 焼土粒・炭化物含む



第257図 70号住居跡出土遺物

1・2区70号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+15cm 口縁部～底部 3/4	口径 11.0 底径 7.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(2.5YR 4/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	須恵器 杯	甕使用面直上 口縁部～底部 破片	口径 12.0 底径 6.8 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 12.6 底径 7.4 器高 2.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
4	土製品 錘	床面+18cm 完形	長さ 3.9 径 1.9 孔 0.25	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、両端ヘラナデ。 中心部縦に径2.5mmの穿孔。 重量：13g	

1・2区71号住居跡

旧称1・2区5J-71)

位置：X=36400 Y=-39525

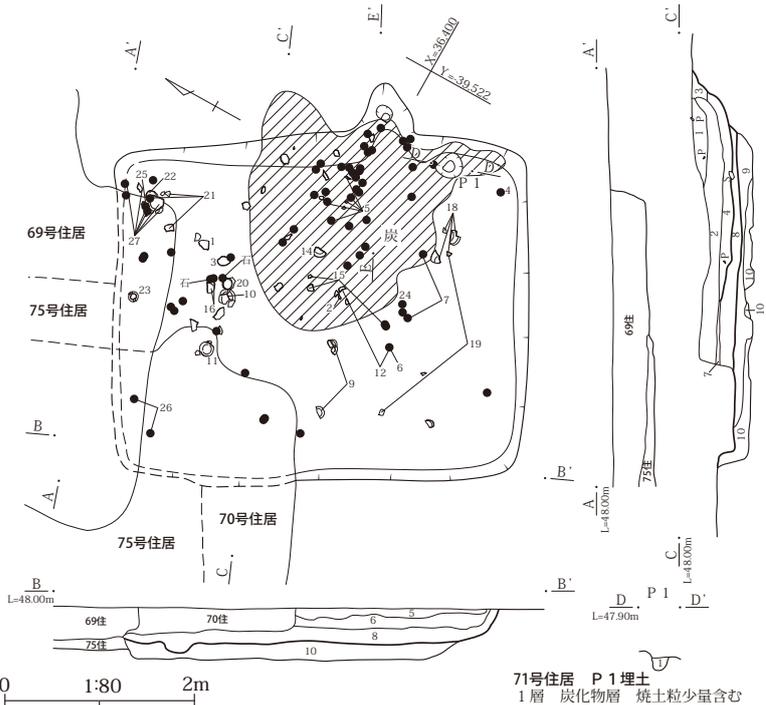
主軸方向：N-63° - E

規模：3.7m×4.3m 平面形状：隅丸長方形

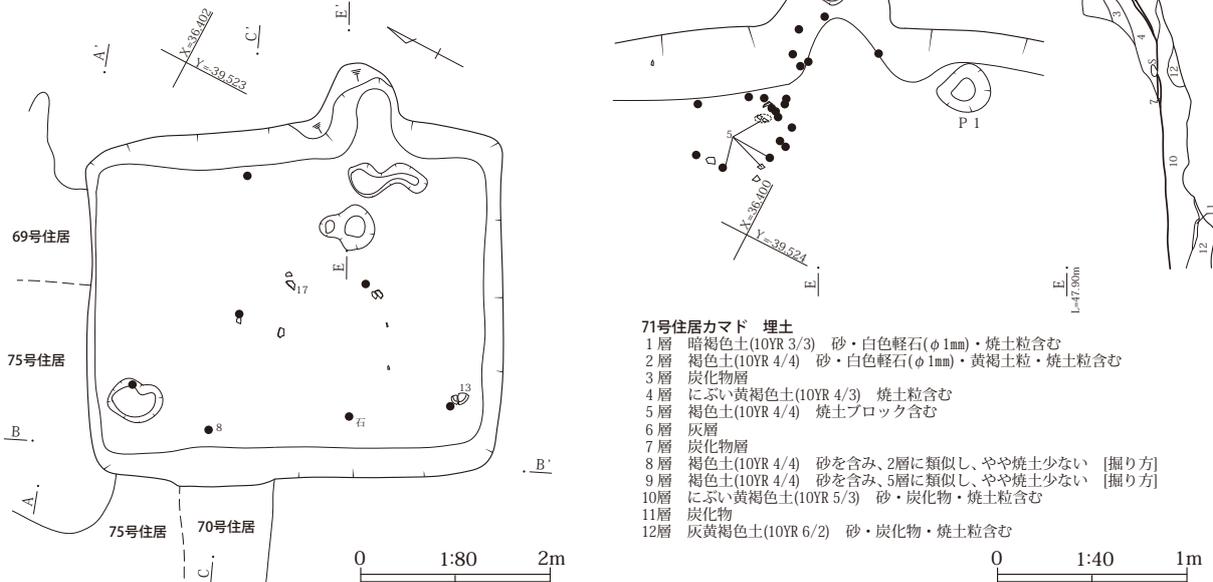
残存深度：35～45cm 埋没土：主に白色軽石などを含む灰黄褐色砂質土～にぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるにぶい黄褐色土で埋め固め、床面とする。カマド：北東壁中央東寄りに位置する。袖部はほとんど残らず、燃燒部の一部で灰層面が確認できた。焚き口幅は45cmを測り、煙道端部は緩やかに立ち上がる。柱穴・貯蔵穴：カマドの右側で径28cm深さ16cmを測る円形の土坑を1基検出した。位置的に貯蔵穴の可能性もある。

壁周溝：なし。重複遺構：69・70・75号住居跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相から、本遺構は69・70号住居跡より古く、75号住居跡よりも新しいものと判断される。掘り方：地山の砂質土を18cm

ほど掘り窪める。出土遺物：比較的多く出土している。床面直上で完形の須恵器杯(No. 9)・小型短頸壺(薬壺) (No.23)の他、土師器杯(No. 2・4)・甕(No.27)、須恵器杯(No.11)・椀(No.22)・黒色土器蓋(No. 5)・長頸壺(No.24)、土錘(No.28・29・30・31・32)、砥石(No.34)などが出土した。



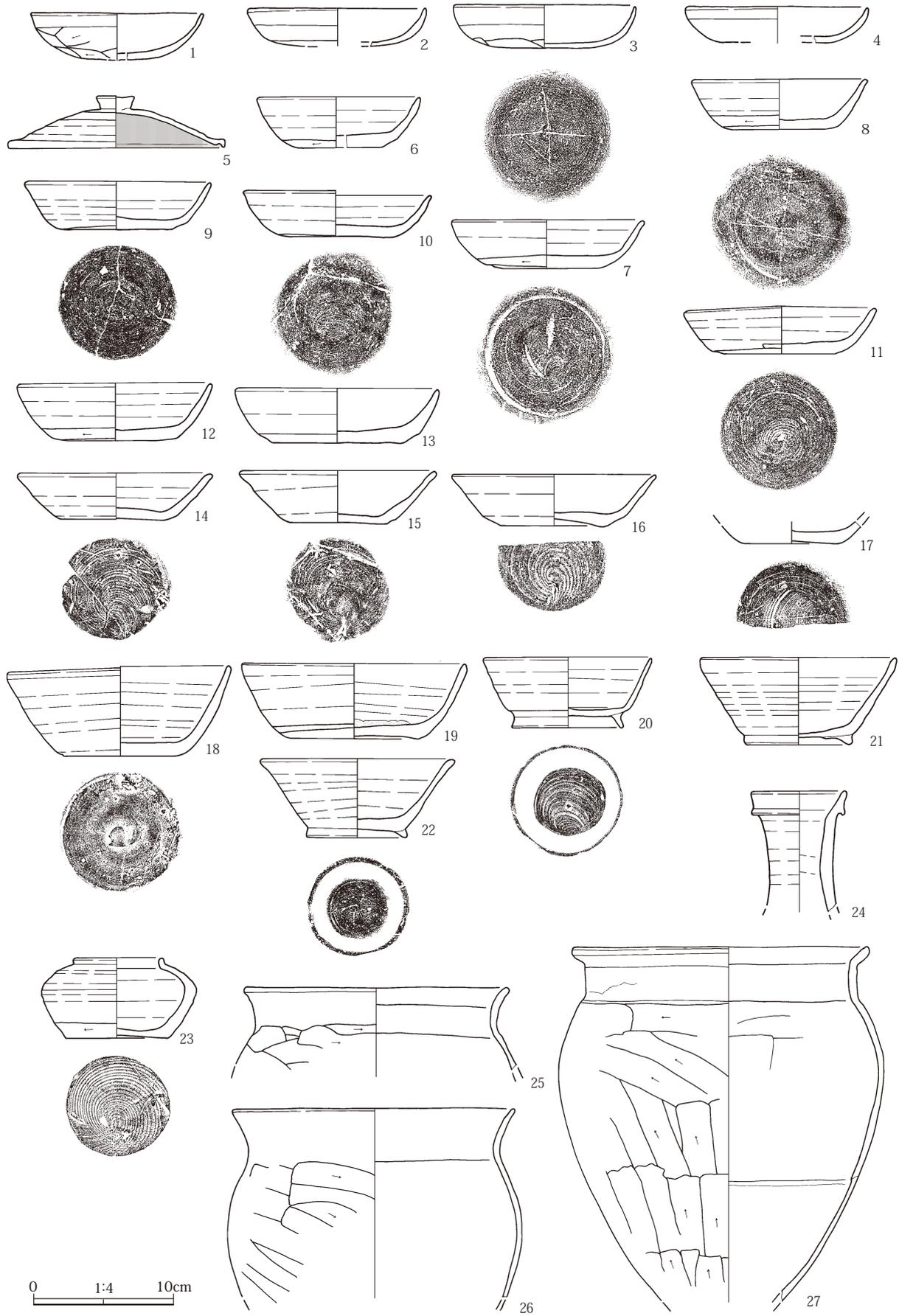
- 71号住居 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 砂・白色軽石(φ10mm)・黄褐色ブロック・焼土粒・炭化物含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂・焼土粒・炭化物含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒・炭化物含む
 - 4層 炭化物層 灰・焼土含む
 - 5層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の榛各ニツ岳白色軽石・微量の焼土粒子・炭化物を含む
 - 6層 灰黄褐色砂質土(10YR 6/2) 微量の焼土粒子・炭化物・浅黄色砂質ローム粒子を含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・炭化物含む
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物含む
 - 9層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物含む [掘り方]
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒・炭化物含む [掘り方]
- *1～6層攪乱 7～9層71住埋土



- 71号住居カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
 - 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・黄褐色土粒・焼土粒含む
 - 3層 炭化物層
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 焼土粒含む
 - 5層 褐色土(10YR 4/4) 焼土ブロック含む
 - 6層 灰層
 - 7層 炭化物層
 - 8層 褐色土(10YR 4/4) 砂を含み、2層に類似し、やや焼土少ない [掘り方]
 - 9層 褐色土(10YR 4/4) 砂を含み、5層に類似し、やや焼土少ない [掘り方]
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・炭化物・焼土粒含む
 - 11層 炭化物
 - 12層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 砂・炭化物・焼土粒含む

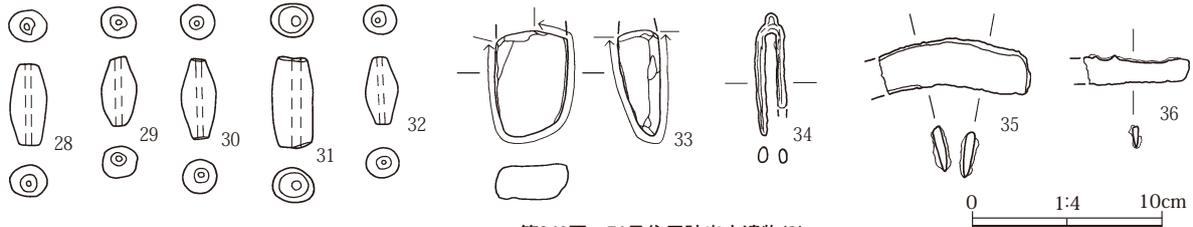
第258図 71号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第259図 71号住居跡出土遺物(1)

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第260図 71号住居跡出土遺物(2)

1・2区71号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+31cm 口縁部~底部 破片	口径 12.0 底径 4.2 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明褐(7.5YR 5/6)	外面：口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 杯	床面直上 口縁部~底部 破片	口径 12.4 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部~底部横ナデ。	
3	土師器 杯	床面+23cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.7 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 杯	床面+17cm 口縁部~底部 破片	口径 12.8 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
5	黒色土器 杯蓋	床面直上 口縁部~天井部 1/4	口径 15.2 摘径 2.6 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 内面黒色処理 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。 外面：天井部ヘラ削り。口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：天井部ヘラ磨き、単位不明。口縁部回転ナデ調整。	
6	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 破片	口径 11.3 底径 6.3 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部から体部下位は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
7	須恵器 杯	床面+29cm 口縁部~底部 4/5	口径 13.5 底径 7.6 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部内面中央にヘラ記号「+」
8	須恵器 杯	床面-19cm 口縁部~底部 3/4	口径 12.2 底径 8.4 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(N 4/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部上半回転ナデ。底部~体部下半回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
9	須恵器 杯	床面直上 完形	口径 13.2 底径 8.1 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、下半を回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
10	須恵器 杯	床面+15cm 口縁部~底部 4/5	口径 13.2 底径 8.2 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 赤褐(5YR 4/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺を回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
11	須恵器 杯	床面+10cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.5 底径 8.0 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部内面中央にヘラ記号「+」
12	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 2/3	口径 13.8 底径 8.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部上半回転ナデ。底部~体部下半回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部内面にスズ附着。
13	須恵器 杯	床面-9cm 口縁部~底部 2/3	口径 14.3 底径 9.1 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
14	須恵器 杯	床面+4cm 口縁部~底部 2/3	口径 13.5 底径 7.0 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや軟質 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
15	須恵器 杯	床面+10cm 口縁部~底部 1/3	口径 13.7 底径 7.0 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・中礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 淡黄(5Y 8/3)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
16	須恵器 杯	床面+25cm 口縁部~底部 1/3	口径 14.3 底径 7.7 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄橙(10YR 7/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部内面中央にヘラ記号「+」
17	須恵器 杯	床面-5cm 底部 破片	口径 - 底径 7.0 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転糸切り後、底部周辺を回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底面に「+」のヘラ磨き。
18	須恵器 椀	床面直上 口縁部~底部 4/5	口径 15.7 底径 8.2 器高 6.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	口縁部外面の一部に釉薬附着。

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区71号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
19	須恵器 杯	床面+4cm 口縁部～底部 2/3	口径 15.8 底径 9.2 器高 5.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。体部最下位と底部回転ヘラ 削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	漆付着土器か。
20	須恵器 椀	床面+2cm 口縁部～底部 2/3	口径 11.7 底径 7.6 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 8/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
21	須恵器 椀	床面+3cm 口縁部～底部 1/3	口径 13.8 底径 7.6 器高 6.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
22	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 2/3	口径 13.4 底径 6.9 器高 5.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 8/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
23	須恵器 小型短頸壺	床面直上 ほぼ完形 胴部一部欠損	口径 6.1 底径 7.3 器高 5.7	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：胴部～胴部回転ナデ。最下位に1段の回転ヘラ削り、 底部回転糸切り。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。	最大径11cm。
24	須恵器 長頸壺	床面直上 口縁部～頸部 胴部下欠損	口径 6.7 頸径 4.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～頸部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ調整。	
25	土師器 甕	床面+4cm 口縁部 破片	口径 18.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
26	土師器 甕	床面+12cm 口縁部～胴部 破片	口径 20.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部横～斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
27	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 破片	口径 20.5 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明褐(7.5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部上位上半横、下半斜め、中位・ 下位縦方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
28	土製品 錘	床面直上 完形	長さ 4.4 径 2.0 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/8)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：15g	縦方向の線刻が あり。
29	土製品 錘	床面+7cm 完形	長さ 3.6 径 1.8 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 7/4)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：9g	縦方向の線刻が 複数あり。
30	土製品 錘	床面直上 完形	長さ 4.2 径 1.8 孔 0.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：12g	一部にスス付着。
31	土製品 錘	床面+10cm 完形	長さ 4.7 径 2.1 孔 0.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径5mmの穿孔。 重量：22g	
32	土製品 錘	床面-16cm 完形	長さ 3.6 径 1.8 孔 0.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/6)	両端平坦面をつくる。外面側面ナデ、端部ヘラナデ。 中心部縦に径3mmの穿孔。 重量：8g	

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
33	石製品	砥石	不明	5.6	3.8	2.2	60	砥沢石	表裏、両側面ともよく使用されている。 欠損部も一部使用。
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
34	鉄器	毛ヌキ	右 1/5 欠	6.5	1.7	0.5	6.0	錆、腐食が進んでいる。	
35	鉄器	鎌	1/2	7.8	2.4	0.8	23.0	錆化が激しく、詳細不明。	
36	鉄器	刀子	刃部片	5.5	1.6	0.5	7.0	錆化が激しい。	

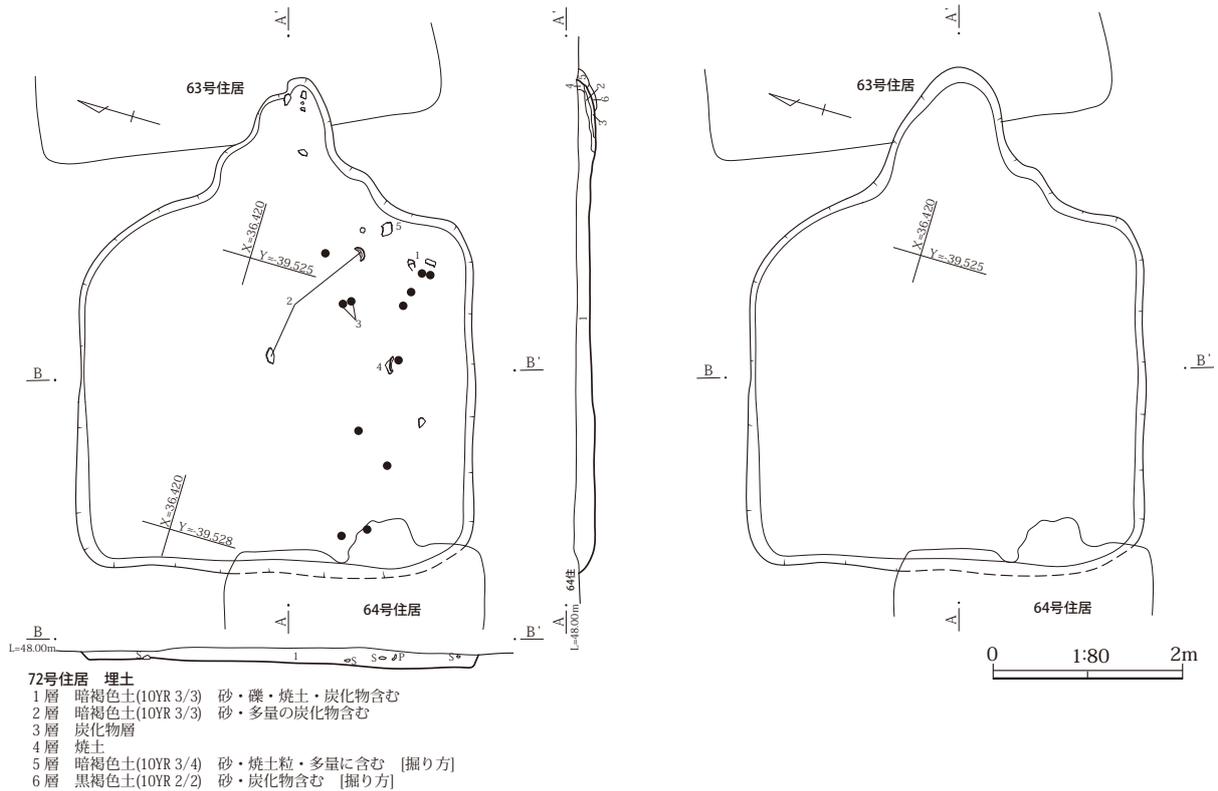
1・2区72号住居跡 (旧称1・2区SJ-72)

位置：X=36420 Y=-39526 主軸方向：N-75° - E 規模：3.9m×4.1m 平面形状：隅丸長方形

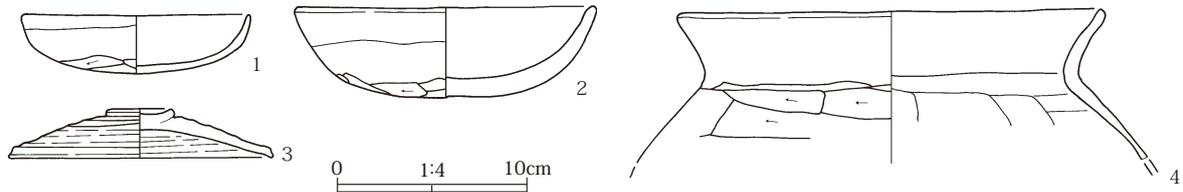
残存深度：4～16cm 埋没土：砂礫・焼土粒・炭化物を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方・貼り床を持たず、地山をそのまま床面とする。カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は悪く、形状・構築方法は不明であるが、燃焼部と思われる場所には、多量の炭化物が認められた。

柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：63・64号住居跡と重複し、遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構は63号住居跡より新しく、64号住居跡より古いものと判断される。掘り方：カマド部分のみ掘り方を有する。出土遺物：出土遺物はごく僅かで、埋土中から土師器杯(No. 1・2)・甕(No. 4)、須恵器蓋(No. 3)の破片が出土するのみである。



第261図 72号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第262図 72号住居跡出土遺物

1・2区72号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+16cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.0 底径 - 器高 3.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 杯	床面+10cm 口縁部~底部 3/4	口径 15.6 底径 - 器高 4.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 橙(5YR 6/8)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器 杯蓋	床面+8cm 摘部~口縁部 1/4	口径 13.7 摘径 3.5 器高 2.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
4	土師器 甕	床面+8cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 22.0 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

1・2区73号住居跡 (旧称1・2区SJ-73)

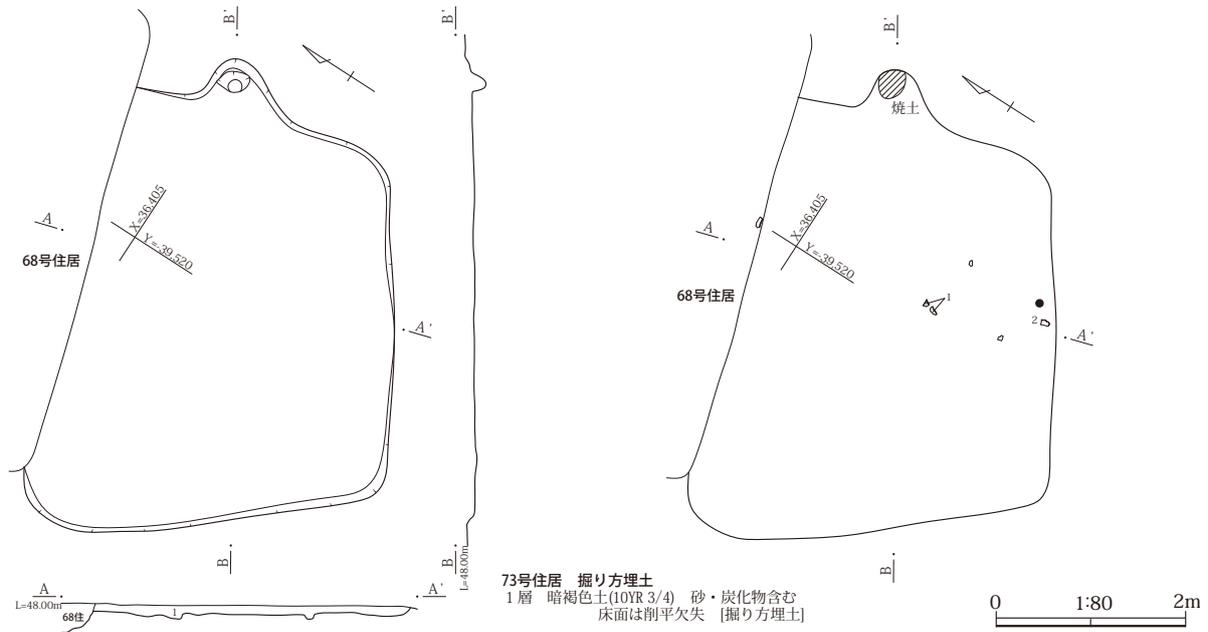
位置：X=36404 Y=-39520 主軸方向：N-57°-E 規模：4.7m×約3.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：7~14cm 埋没土：上面を削平された状態での遺構検出となり、住居掘り方を残すのみである。

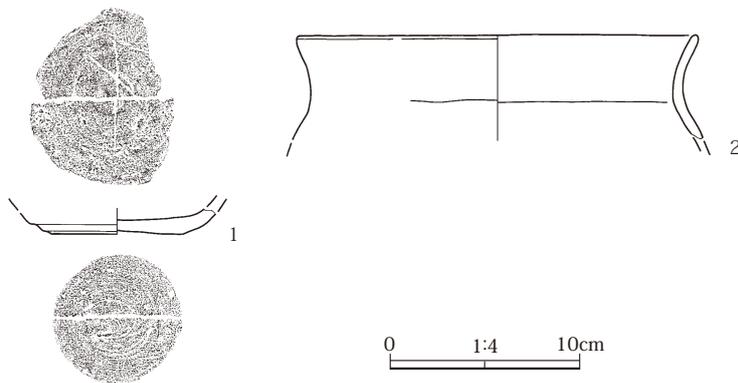
床面：削平により消失。カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は悪く、焼土と掘り方が確認できたのみである。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：不明。重複遺構：68号住居跡と重複し、遺構確認~掘削時の埋土の様相から本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：全体を7~14cmほど掘り窪める。

出土遺物：ごく少量の土師器甕(No. 2)、須恵器杯(No. 1)の破片が掘り方埋土中から出土するのみである。

第3章 検出遺構と出土遺物



第263図 73号住居跡平・断面図、掘り方平面図



第264図 73号住居跡出土遺物

1・2区73号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	掘方埋土中 底部 破片	口径 — 底径 6.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクコ整形。回転左回り。 外面：底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底部内面に焼成後のヘラ記号「×」
2	土師器 甕	掘方埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 20.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	内面に炭付着。

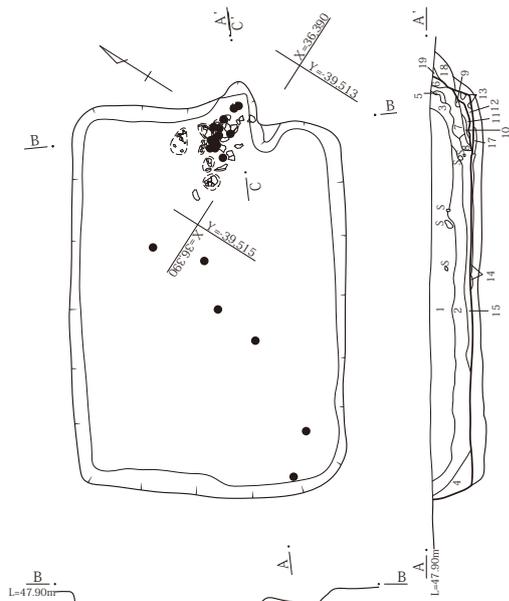
1・2区74号住居跡 (旧称1・2区SJ-74)

位置：X=36390 Y=-39515 主軸方向：N-55° - E 規模：4.1m×約3.0m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：40～45cm 埋没土：砂礫・焼土粒・炭化物を含んだにぶい黄褐色～暗褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：一部において、にぶい黄褐色粘質土を用いた貼り床の敷設が確認された。

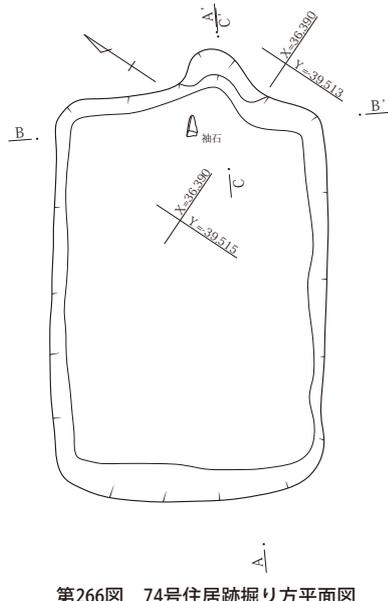
カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。燃焼部使用面には灰の厚い堆積が認められ、その直上には焼土化した天井部の崩落が認められた。袖部は右側のみ残り、左側には埋設された袖石のみが残る。燃焼部は緩やかな傾斜をもち、煙道部端は急峻に立ち上がる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：なし。掘り方：深さは8～16cmである。出土遺物：カマド内よりほぼ完形の土師器甕 (No. 1) が出土している。

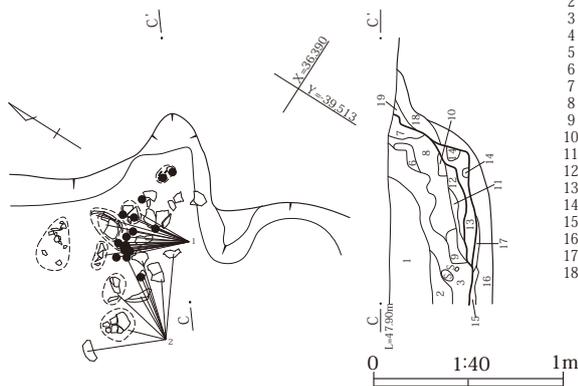


第265図 74号住居跡平・断面図

0 1:80 2m



第266図 74号住居跡掘り方平面図

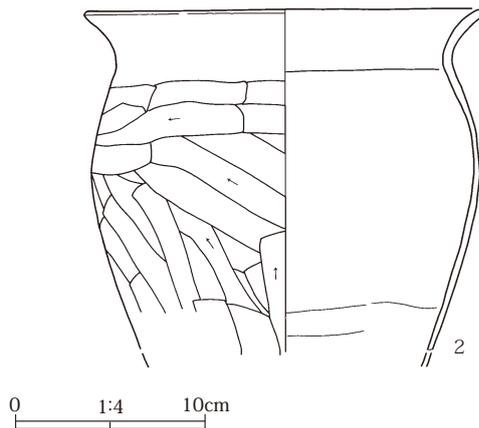


第267図 74号住居跡カマド平・断面図

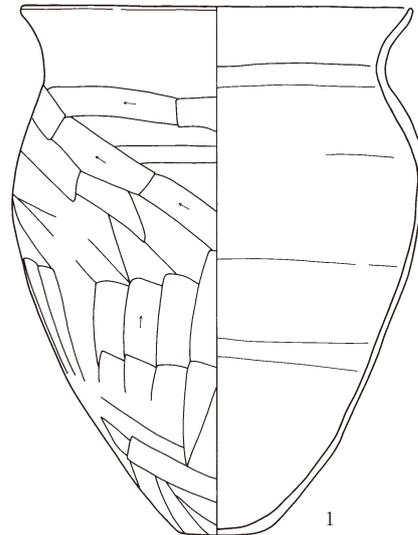
0 1:40 1m

74号住居・カマド 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・礫含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3)砂・焼土粒・炭化物含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・シルト質
- 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂・鉄分ま含む
- 5層 黄褐色土(10YR 5/6) 砂に黄褐粘質土混ざる焼土粒含む
- 6層 焼土 褐色砂混ざる
- 7層 黒褐色土(10YR 2/3) 砂・焼土粒・炭化物含む
- 8層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む
- 9層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒含む
- 10層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む
- 11層 焼土層 [煙道上部の崩落]
- 12層 灰層 炭化物含む
- 13層 焼土ブロック [煙道上部の崩落]
- 14層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・粘質土混ざる [貼り床]
- 15層 にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 砂 [掘り方埋土]
- 16層 炭化物層
- 17層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む
- 18層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土を17層より多く含む



0 1:4 10cm



第268図 74号住居跡出土遺物

1・2区74号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形 一部欠損	口径 20.2 底径 4.6 器高 28.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半斜め方向のヘラ削り、胴部下半縦方向のヘラ削り。底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
2	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部 1/4	口径 20.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 7/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上半横、下半斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区75号住居跡 (旧称1・2区SJ-75)

位置：X=36401 Y=-39528

主軸方向：N-30° -W 規模：2.9m×4.2m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：30～42cm

埋没土：上面を重複する複数の遺構により削平され、掘り方を残すのみである。

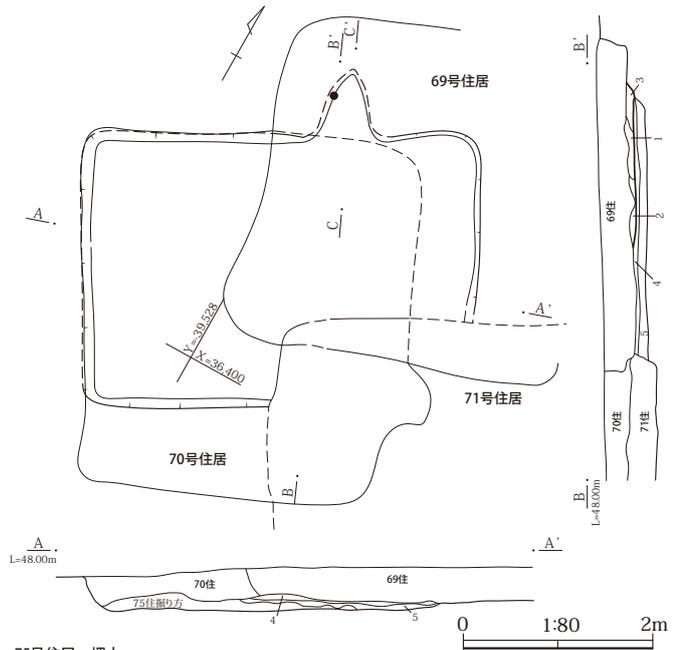
床面：不明。カマド：北西壁の中央北寄りに位置する。重複する69号住居跡によってカマドの1/3が壊され、灰層面がわずかに確認できたものの詳細は不明である。柱穴：なし。

壁周溝：確認できなかった。

重複遺構：69・70・71号住居跡と重複し、埋土の様相から本遺構は重複するいずれの住居跡よりも古いものと判断される。

掘り方：全体に地山の砂層面を14cmほど掘り窪める。

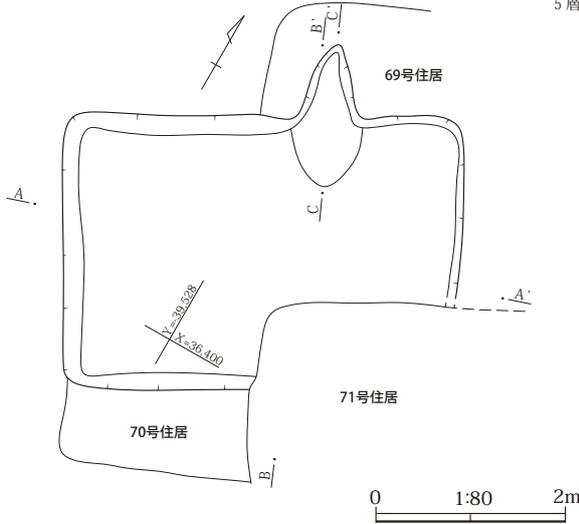
出土遺物：ごく僅かな出土状況である。



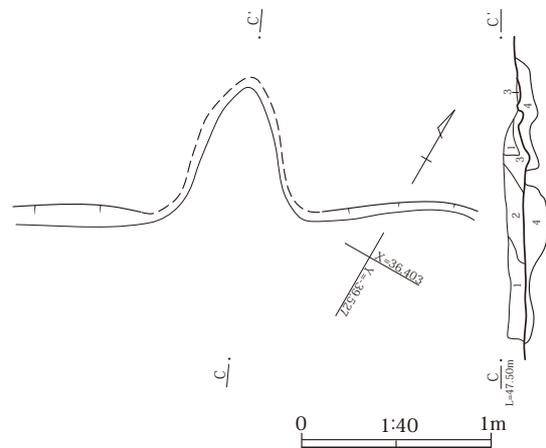
75号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 6/2) 多量の灰・焼土粒子・焼土ブロック(φ5～15mm大)を含む [カマド埋土]
- 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 6/2) 少量の浅黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)と焼土小ブロック(φ5～15mm大)を含む
- 3層 灰層 [カマド使用面]
- 4層 浅黄色砂質土(2.5YR 7/4) 浅黄色砂質ローム土に少量の灰黄褐色砂質土を混入 [掘り方]
- 5層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂・焼土粒 微量含む [掘り方]

第269図 75号住居跡平・断面図



第270図 75号住居跡掘り方平面図



75号住居カマド 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・黄褐粘質土・白色軽石(φ1mm)・焼土粒含む
- 2層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土・焼土粒・炭化物含む
- 3層 灰層
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 砂・白色軽石(φ10mm)・焼土粒含む

第271図 75号住居跡カマド平・断面図

1・2区76号住居跡 (旧称1・2区SJ-76)

位置：X=36387 Y=-39511 主軸方向：N-30° -W 規模：4.0m×2.9m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：49～55cm 埋没土：主に白色軽石・焼土粒を含んだにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：北東壁中央やや東寄りに位置する。袖は一部が残存し、地山を掘り残した上に粘質土を盛って造られているものと思われる。煙道部は短く、急峻に立ち上がる。柱穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：なし。

掘り方：全体に地山砂質土を8cmほど掘り窪める。出土遺物：カマド内での遺物出土が多く、カマド掘り方内よりほぼ完形の須恵器杯(No. 1)が出土している。また、床面直上で土師器甕(No. 3)、須恵器杯(No. 2)の破片の出土がみられる。



第272図 76号住居跡平・断面図、掘り方平面図、カマド平・断面図、出土遺物

1・2区76号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面-4cm、竈掘方 埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 12.4 底径 7.3 器高 3.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 緑灰(10GY 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	歪みあり。
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 破片	口径 13.2 底径 7.5 器高 3.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	歪みあり。
3	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 1/2	口径 18.3 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位・下位斜め方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
4	土師器 甕	竈埋土中 胴部 破片	口径 - 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：胴部斜め方向ヘラ削り。 内面：胴部ヘラナデ。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区77号住居跡 (旧称1・2区SJ-77)

位置：X=36425 Y=-395228 主軸方向：N-68° - E

規模：不明×2.3m 平面形状：隅丸長方形か

残存深度：14～20cm 埋没土：住居南西部を重複住居により欠失した状態での検出で、埋土も僅かに細粒砂・焼土粒を含む黒褐色土が残るのみであるが、その堆積は自然埋没によるものと思われる。

床面：掘り方埋土である暗褐色土で埋め固め、床面としている。

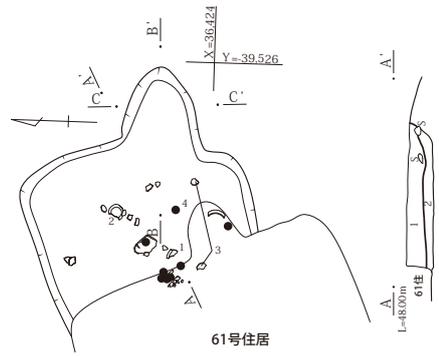
カマド：北東壁中央南寄りに位置する。遺存状態は悪く、袖部が残らない。焚き口幅は約50cmを測り、煙道部は緩やかに立ち上がる。

柱穴：残存部においては検出されていない。

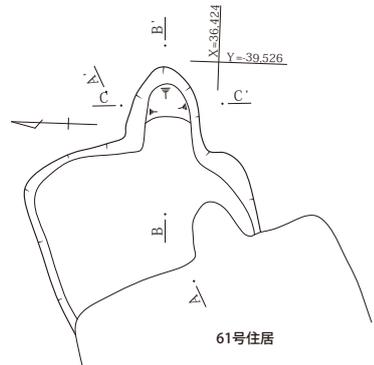
貯蔵穴：なし。 壁周溝：残存部においては検出されていない。

重複遺構：61号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相や重複住居のカマド跡の遺存状態から、本遺構の方が古いものと判断される。

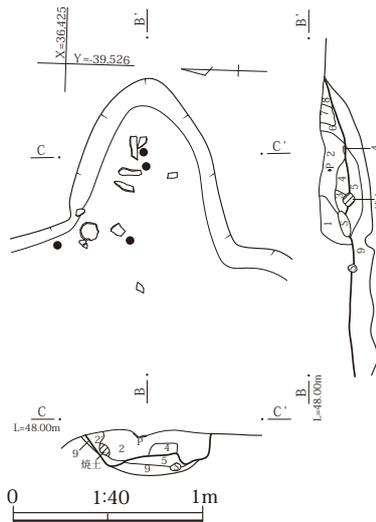
掘り方：地山砂質土を12cmほど掘り窪め、底面には地山砂礫層が露出する。 出土遺物：床面直上で須恵器の小型壺(No. 3)の破片が、また埋土中から土師器杯(No. 1・2)や須恵器壺(No. 4)の破片が出土するのみである。



77号住居 埋土
1層 黒褐色土(10YR 4/6) 砂・焼土粒・礫混ざる
2層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・礫・焼土粒含む [カマド掘り方]

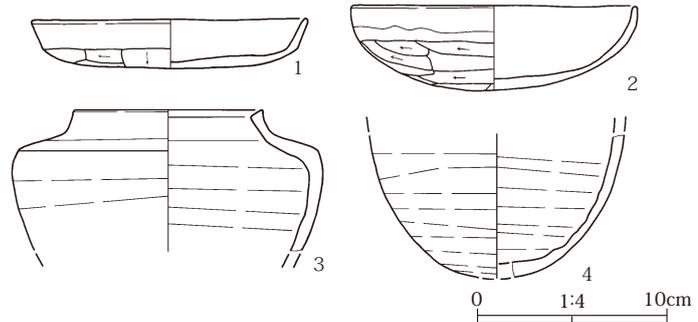


第273図 77号住居跡平・断面図・掘り方平面図



77号住居カマド 埋土
1層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・焼土粒・炭化物含む
2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土に砂・白色軽石(φ10mm)少量含む
3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 2層よりも焼土粒少量含む
4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・粘質土・焼土粒含む
5層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・礫・焼土粒含む
6層 黒褐色土(10YR 3/2) 焼土粒含む
7層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・礫・焼土含む
8層 焼土
9層 褐色土(10YR 4/4) 粘質土・焼土粒含む
10層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・礫・焼土粒含む [カマド掘り方]

第274図 77号住居跡カマド平・断面図



第275図 77号住居跡出土遺物

1・2区77号住居跡出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法	備考
				①胎土	②焼成	③色調		
1	土師器 杯	床面+4cm 口縁部～底部 1/2	口径 14.4 底径 — 器高 2.6	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ 橙(7.5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。	
2	土師器 杯	床面+5cm 口縁部～底部 一部欠損	口径 14.8 底径 — 器高 4.5	① 細砂粒・粗砂粒	② 酸化焰 良好	③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半～底部手持ちへラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器 短頸壺	床面直上 口縁部～胴部 破片	口径 9.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒	② 還元焰 良好	③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 壺	床面+5cm 胴部～底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒	② 還元焰	③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 胴部下半～底部は回転へラ削り。	

1・2区78号住居跡 (旧称1・2区SJ-78)

位置：X=36411 Y=-39532 主軸方向：N-60°-E

規模：3.4m×2.6m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：18～44cm 埋没土：主に白色軽石・細粒砂を含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は人為的な埋め戻しの可能性もあるが、埋土は周辺の他住居跡のそれと変わりが無い。

床面：掘り方埋土である褐色粘質土で埋め固め、床面とする。

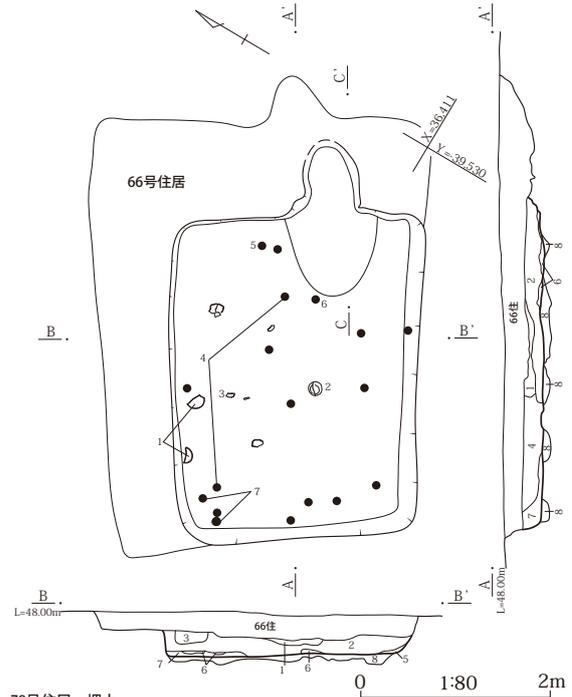
カマド：北東壁中央南寄りに位置する。遺存状態は悪く、特に煙道端部は重複する66号住居跡により壊されて欠失する。

柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：66号住居跡と重複し、本遺構は66号住居跡床面上において検出されているため、本遺構の方が古いものと判断される。また、66号住居跡との関係については、南コーナー部および南東・南西壁の大半を共有していることから、66号住居跡は本住居跡の拡張である可能性が高いものと考えられる。

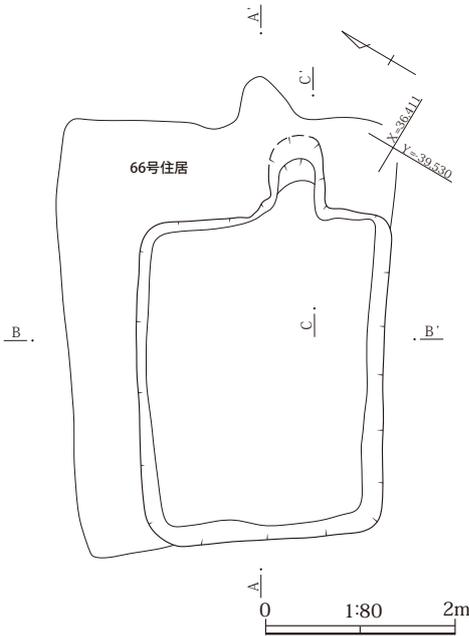
掘り方：全体に地山ローム土を4～8cmほど掘り窪める。

出土遺物：出土量は全体的に少ないが、床面直上で土師器の台付甕(No. 7)と小型甕(No. 6)の破片が出土した他、床面近くでほぼ完形の須恵器杯(No. 2)などが出土している。

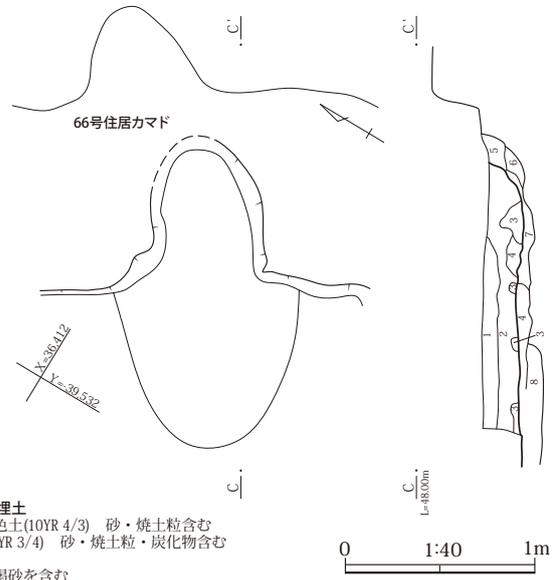


- 78号住居 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土(褐色)多く含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒・炭化物含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂を含む
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・炭化物含む
 - 5層 砂層 水性堆積(洪水)砂
 - 6層 炭化物
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・白色軽石(φ1mm)・黄褐粘質土含む
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・少量の粘質土 (掘り床)

第276図 78号住居跡平・断面図

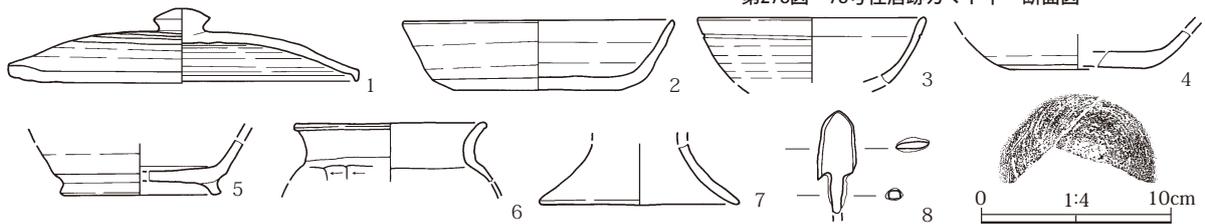


第277図 78号住居跡掘り方平面図



- 78号住居カマド 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 砂・焼土粒含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒・炭化物含む
 - 3層 炭化物層
 - 4層 焼土層 暗褐色砂を含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘質土・焼土粒含む [66住掘り方]
 - 6層 砂層 [66住掘り方]
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 粘質土・焼土粒含む [掘り方埋土]
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 砂・焼土粒少量含む [掘り方埋土]

第278図 78号住居跡カマド平・断面図



第279図 78号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区78号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+4cm ぼぼ完形 一部欠損	口径 18.3 摘径 3.0 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部上半へラ削り。天井部下半～口縁部横ナデ。摘み貼付。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	外面に火漉が認められる。
2	須恵器 杯	床面+3cm ぼぼ完形 一部欠損	口径 14.0 底径 8.8 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部へラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～体部 破片	口径 11.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	外面に火漉が認められる。
4	須恵器 杯	床面+3cm 底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 不良(生焼け) ③ にぶい褐(7.5YR 5/4)	ロクロ整形。 外面：底部回転系切り後、回転へラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 椀	床面直上 体部下端～底部 破片	口径 — 底径 8.1 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部上端 破片	口径 9.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へラナデ。	
7	土師器 台付甕	床面直上 台部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	台部貼付か。 外面：台部横ナデ。 内面：台部横ナデ。	

番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	摘要
8	鉄器	鎌	刃部	5.3	2.0	0.7	9.0	長頸、腸袂三角形鎌。

1・2区79号住居跡

(旧称1・2区SJ-79)

位置：X=36407 Y=-39529

主軸方向：N-67°-E

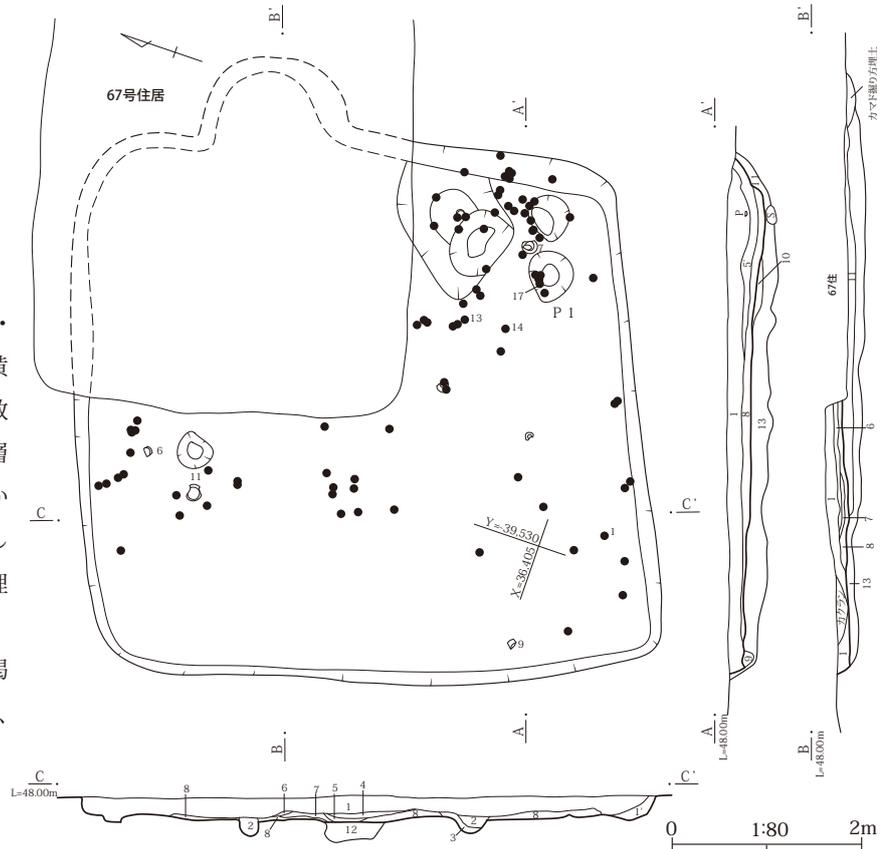
規模：5.6m×5.9m

平面形状：隅丸長方形

残存深度：18～39cm

埋没土：上位は白色軽石・焼土粒・ロームブロックなどを含む灰黄褐色砂質土で埋没し、下位は数層にわたり焼土・灰・炭化物層が互層状に堆積していることから、埋没途上において繰り返し焚火がなされ、その後は自然埋没したものと考えられる。

床面：掘り方埋土である灰黄褐色砂質土を固め、床面とするが、一部において凹凸が見られる。



79号住居 埋土

- | | |
|--|--|
| 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の榛名二ヶ岳白色軽石・黄色砂質ロームブロック(φ10～20mm大)・焼土粒子・炭化物を含む | 6層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の炭化物・焼土粒子を含む |
| 1'層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の榛名二ヶ岳白色軽石・炭化物を含む | 7層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の焼土粒子を含む |
| 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)と炭化物を含む | 8層 褐灰色砂質土(10YR 4/1) 多量の炭化物・焼土粒子を含み 所々灰が層状に堆積する |
| 3層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の黄色砂質ロームブロック(φ10～30mm大)と少量の炭化物を含む | 9層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の焼土粒子を含む |
| 4層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の炭化物を含む | 10層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の灰・炭化物・淡黄色砂質ローム土が相互に層状堆積 [掘り方] |
| 5層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の灰・焼土粒子・淡黄色砂質ローム 小ブロック(φ5～10mm大)が相互に層状堆積 | 11層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の炭化物を含む [掘り方] |
| 5'層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の焼土ブロック(φ5～20mm大)と少量の炭化物を含む | 12層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の黄色砂質ロームブロック(φ10～30mm大)・炭化物と少量の焼土粒子を含む [掘り方] |
| | 13層 灰黄褐色砂質土(10YR 6/2) 少量の細～粗砂と少量の炭化物・焼土粒子を含む [掘り方] |

第280図 79号住居跡平・断面図

カマド：北東壁中央北寄りに位置するものと思われるが、重複する67号住居跡により欠失し、掘り方の一部を検出したのみである。

柱穴：掘り方調査時に検出された数基のピットのうち、P 1がその形状・規模より柱穴となるものと思われる。

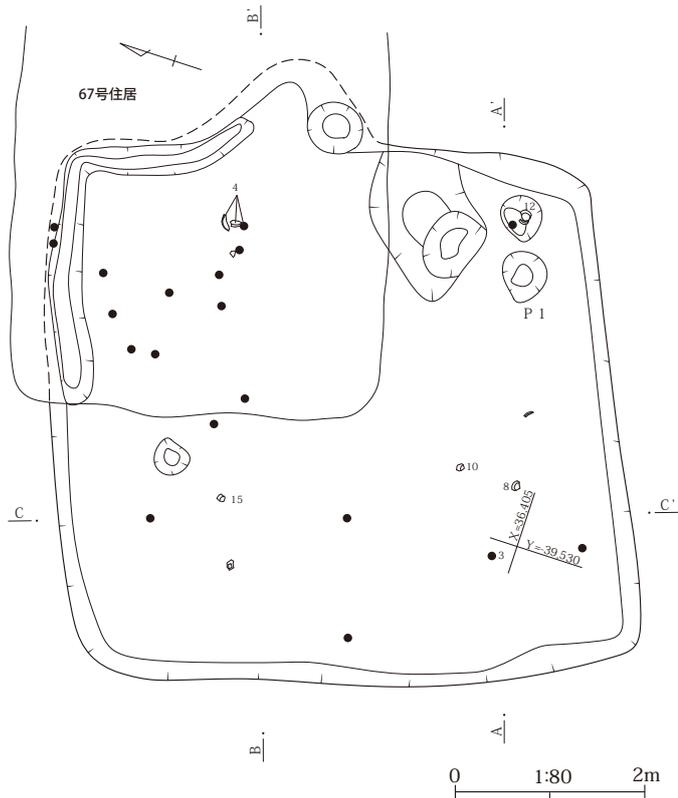
貯蔵穴：掘り方調査時にカマド右脇で検出された土坑が貯蔵穴となる可能性がある。

壁周溝：掘り方調査時に、住居の北東コーナー付近で一部を確認し、幅23～37cm、深さ1～7cmを測る。

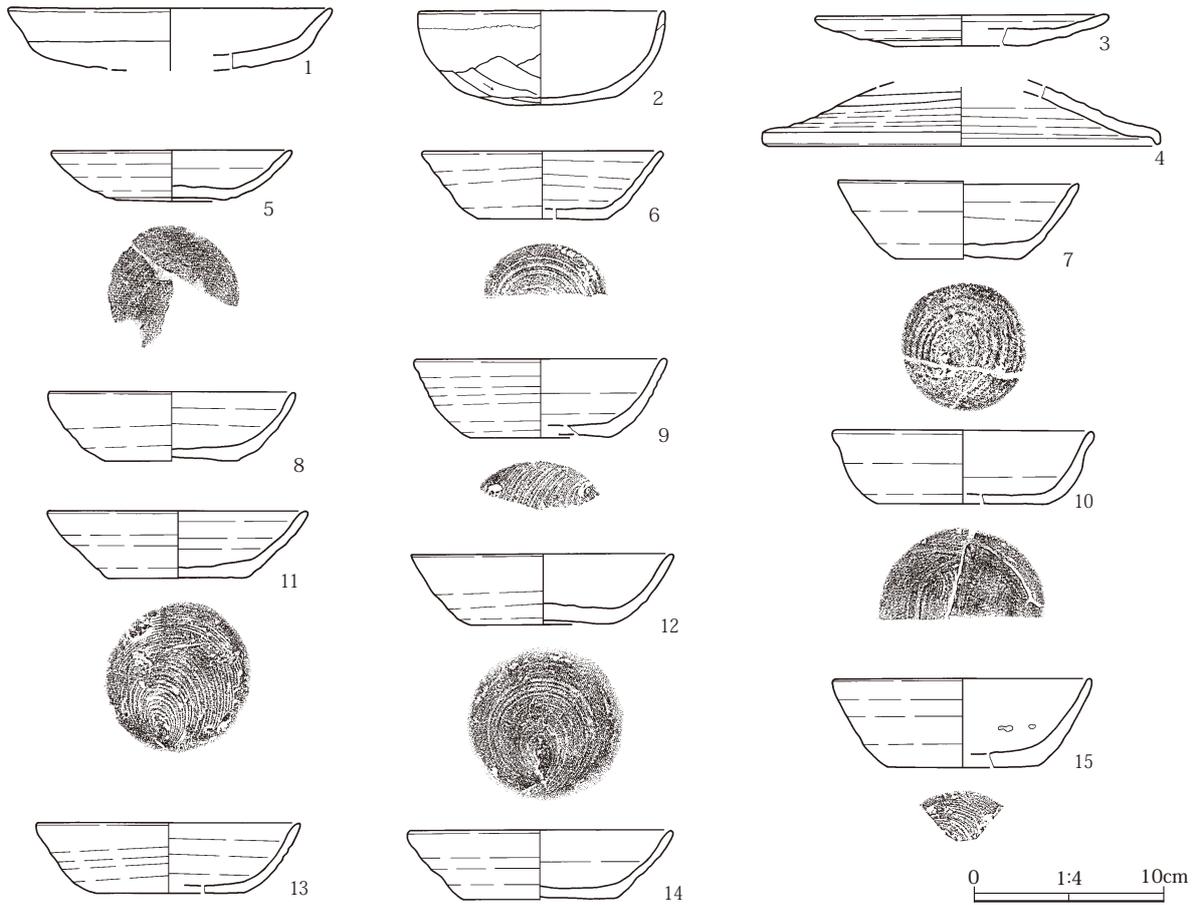
重複遺構：67号住居跡と重複し、これにより本住居の北東コーナー部分が欠失していることから、本遺構の方が古いものと判断される。

掘り方：全体に地山砂質土を20cmほど掘り窪める

出土遺物：床面直上でほぼ完形の須恵器杯(No. 7)のほか、埋土中からは須恵器双耳杯(No.16)片などが出土している。

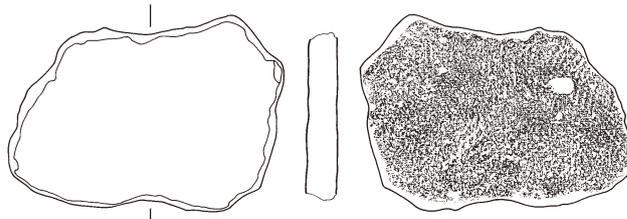
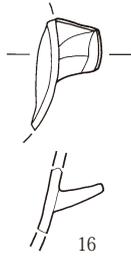


第281図 79号住居跡掘り方平面図



第282図 79号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出遺構と出土遺物



0 1:4 10cm

第283図 79号住居跡出土遺物(2)

1・2区79号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+19cm 口縁部~底部 破片	口径 16.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、底部へラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ。底部ナデ。	器面摩滅
2	土師器 杯	床面+10cm ほぼ完形 一部欠損	口径 12.8 底径 — 器高 4.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 灰褐(5Y 4/2)	外面：口縁部横ナデ、胴部~底部へラ削り。口唇部横ナデ、 口縁部~体部上半ナデ、下半~底部手持ちへラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ。	内面摩滅。 外面全体にスス 附着。
3	須恵器 皿	床面-10cm 口縁部~底部 破片	口径 15.2 底径 7.0 器高 1.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯蓋	床面-9cm 天井部~口縁部 破片	口径 20.6 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：天井部上半回転へラ削り、下半~口縁部横ナデ。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
5	須恵器 杯	埋土中、掘方埋土中 口縁部~底部 1/3	口径 12.4 底径 7.0 器高 2.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	重複する67住か ら出土した破片 と接合。
6	須恵器 杯	床面+12cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.4 底径 6.6 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 一部欠損	口径 12.5 底径 6.5 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
8	須恵器 杯	床面-6cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.8 底径 7.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
9	須恵器 杯	床面+3cm 口縁部~底部 破片	口径 13.0 底径 8.0 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
10	須恵器 杯	床面-3cm 口縁部~底部 破片	口径 13.4 底径 9.0 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り？。口縁部外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺を回転へラ削りか。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
11	須恵器 杯	床面+12cm 口縁部~底部 2/3	口径 13.4 底径 7.4 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
12	須恵器 杯	床下土抗埋土中 口縁部~底部 2/3	口径 13.5 底径 7.4 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
13	須恵器 杯	床面+2cm 口縁部~底部 破片	口径 13.6 底径 8.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部周辺を回転へラ削りか。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
14	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 破片	口径 13.7 底径 8.4 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺を回転へラ削り調整。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
15	須恵器 杯	床面-12cm 口縁部~底部 破片	口径 13.3 底径 8.0 器高 4.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	漆附着土器か。
16	須恵器 双耳杯	埋土中 耳部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：胴部回転ナデ。耳部貼付。耳部はへラ削り。 内面：胴部回転ナデ調整。	
17	須恵器 甕	床面+3cm 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	外面：胴部叩き目痕あり。 内面：胴部ナデ。	内外面とも擦痕 がみられる。砥 石に転用か。

3 掘立柱建物跡

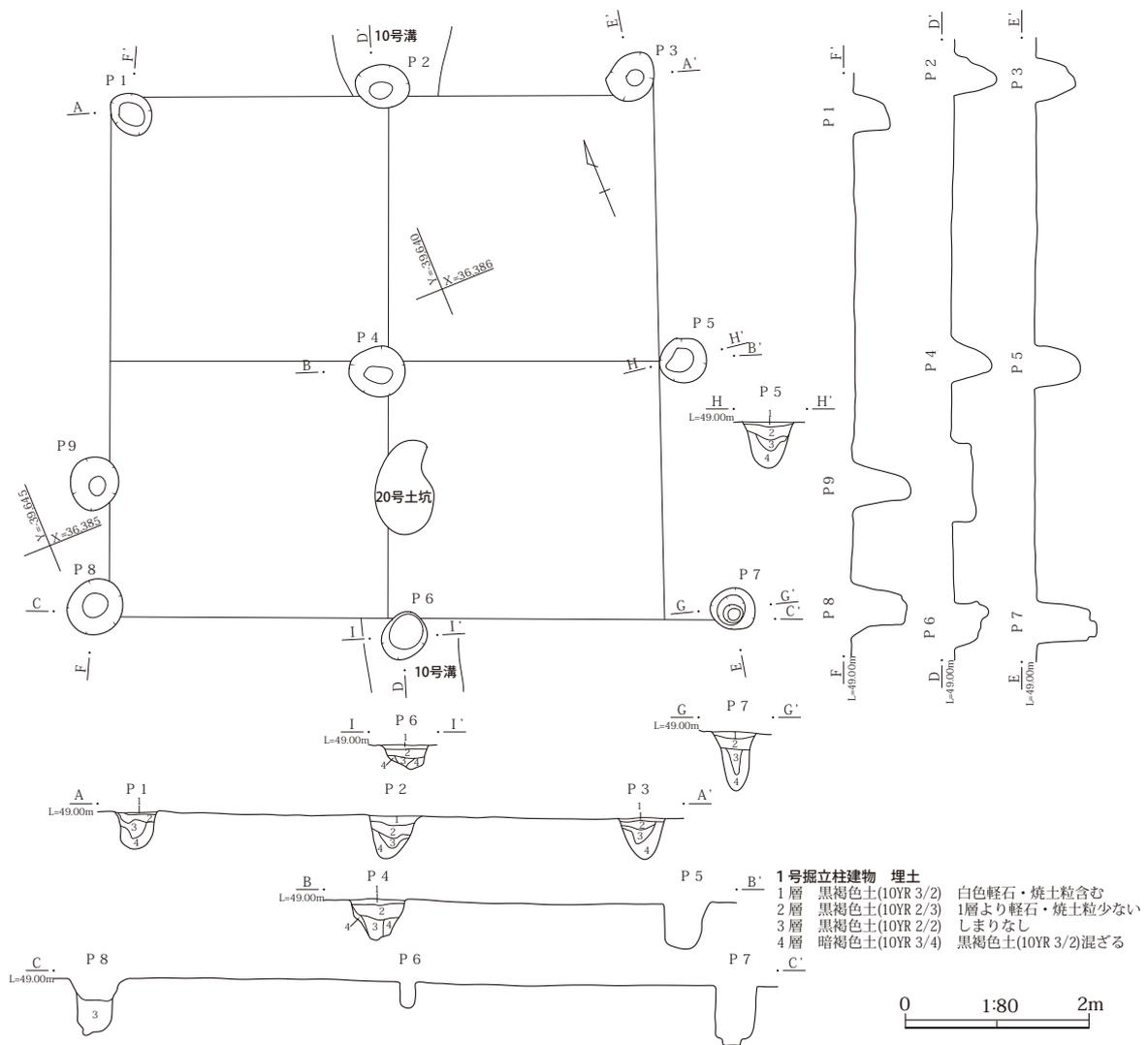
1・2区1号掘立柱建物跡 (旧称1・2区SB-1)

位置：X=36385 Y=-39640 主軸方向：N-108° - E (北辺) 規模：2間×2間 総柱建物。

北辺5.9m、南辺6.0m、東辺5.8m、西辺 5.6m 面積：33.92㎡ 柱穴径・深度：P 1 = 径25×22cm 深度48cm、P 2 = 径28×24cm 深度48cm、P 3 = 径29×25cm 深度43cm、P 4 = 径30×28cm 深度45cm、P 5 = 径26×25cm 深度51cm、P 6 = 径28×23cm 深度28cm、P 7 = 径25×23cm 深度66cm、P 8 = 径32×29cm 深度58cm

重複遺構：10号溝跡重複し、埋土の様相から本建物跡の方が新しいものと判断される。また、20号土坑跡と重複するが、直接的な切り合いがないため、新旧関係は不明である。

出土遺物：P 2 と P 4 の埋土中から土師甕の破片が出土している。



第 284 図 1・2区1号掘立柱建物跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

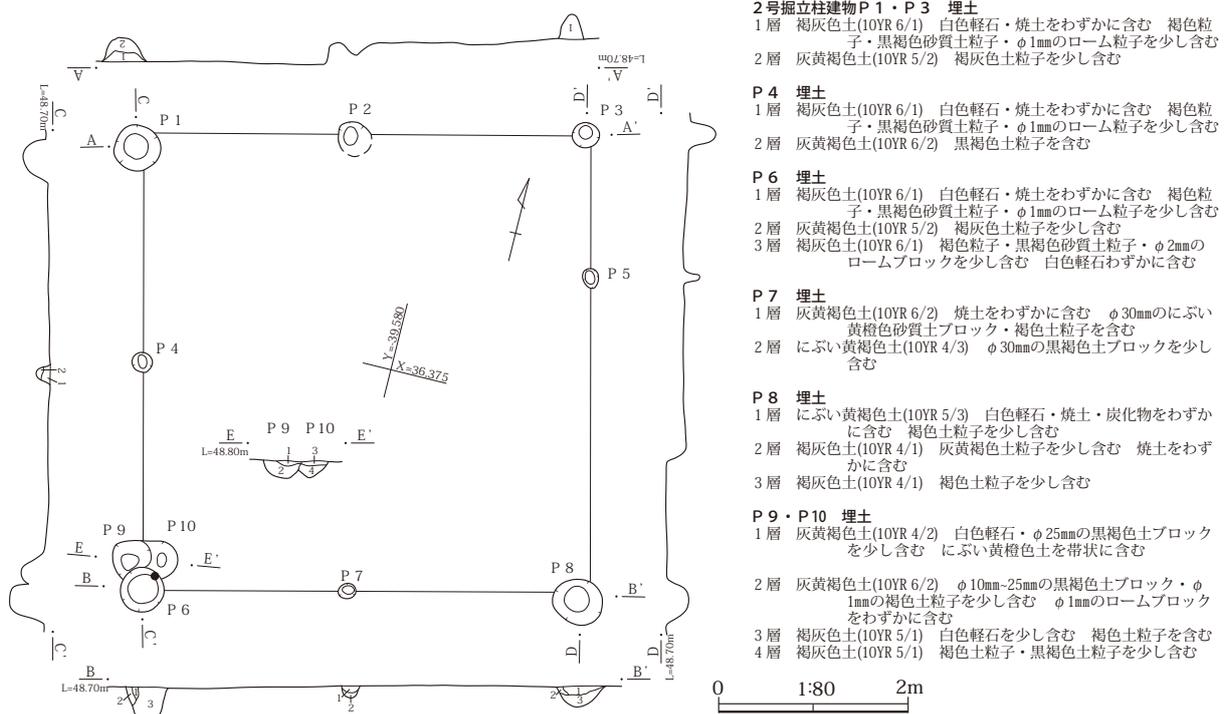
1・2区3号掘立柱建物跡 (旧称1・2区SB-3)

位置: X=36375 Y=-39580 主軸方向: 北辺がN-104°-W 規模: 2間×2間、北辺 (P3、P2、P1) 4.7m、南辺 (P6、P7、P8) 4.7m、東辺 (P8、P5、P3) 4.8m、西辺 (P1、P4、P9、P6) 4.8m

面積: 22.56㎡ 柱穴径・深度: P1 = 径48×47cm 深さ24cm、P2 = 径38×34cm 深さ22cm、P3 = 径28×27cm 深さ28cm、P4 = 径21×21cm 深さ13cm、P5 = 径21×17cm 深さ16cm、P6 = 径48×45cm 深さ38cm、P7 = 径19×16cm 深さ13cm、P8 = 径53×47cm 深さ23cm、P9 = 径40×不明 深さ26cm、P10 = 径不明 深さ32cm

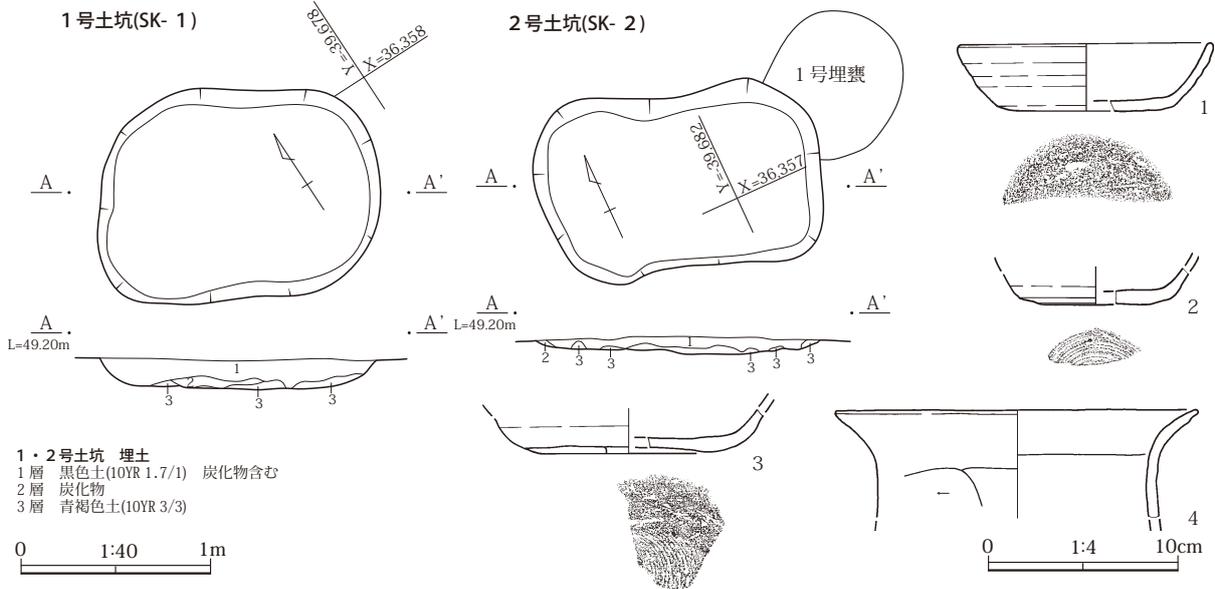
重複遺構: 32号住居跡と重複し、相互の埋土の様相より、本井戸跡の方が古いものと判断される。

出土遺物: P6の埋土中より土師甕の破片が出土している。



第285図 1・2区3号掘立柱建物跡平・断面図

4 土坑跡・Pit 跡

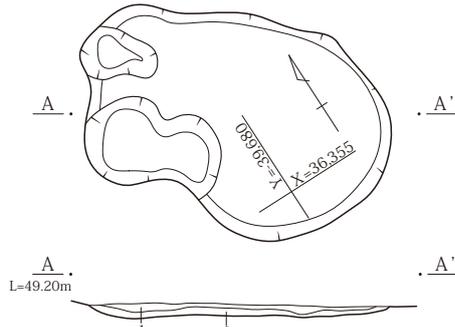


第286図 1・2区1・2号土坑跡平・断面図、2号土坑跡出土遺物

1・2区2号土坑跡出土遺物観察表

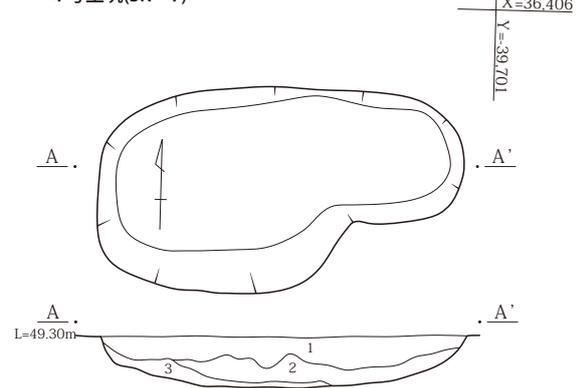
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 2/3	口径 13.1 底径 8.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し技法不鮮明。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
2	須恵器 杯	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 6.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 9.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
4	土師器 甕	埋土中 口縁部 口縁部のみ残存	口径 19.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄褐(10YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。	

3号土坑(SK- 3)

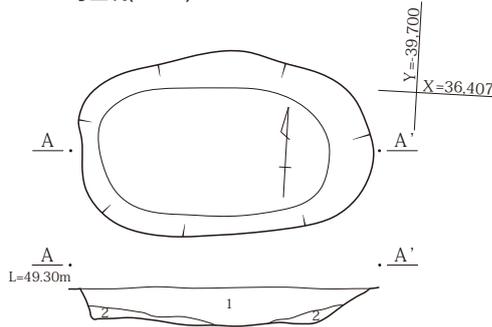


3号土坑 埋土
1層 黒色土(10YR 1.7/1) 炭化物含む
2層 炭化物
3層 青褐色土(10YR 3/3)

4号土坑(SK- 4)

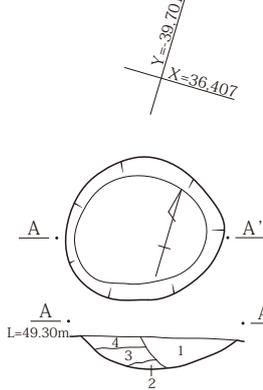


5号土坑(SK- 5)

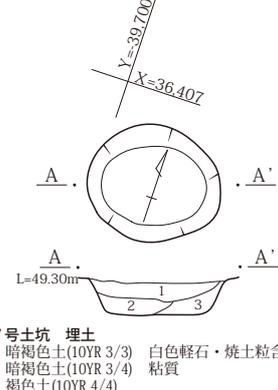


4・5号土坑 埋土
1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・焼土粒含む
2層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘質
3層 褐色土(10YR 4/4)
4層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石含む

6号土坑(SK- 6)

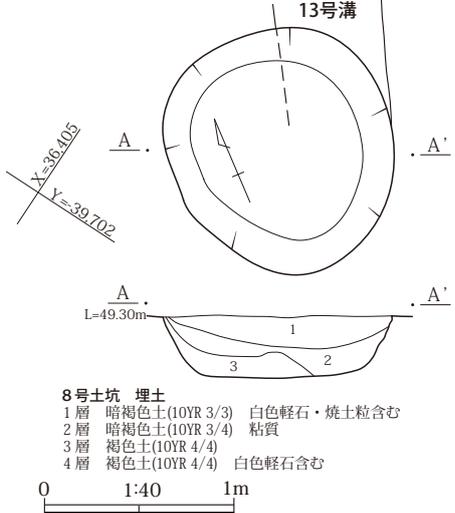


7号土坑(SK- 7)



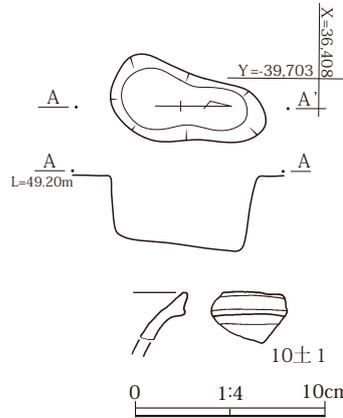
6・7号土坑 埋土
1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・焼土粒含む
2層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘質
3層 褐色土(10YR 4/4)
4層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石含む

8号土坑(SK- 8)



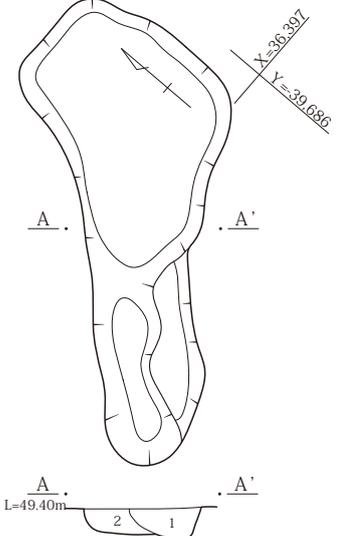
8号土坑 埋土
1層 暗褐色土(10YR 3/3) 白色軽石・焼土粒含む
2層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘質
3層 褐色土(10YR 4/4)
4層 褐色土(10YR 4/4) 白色軽石含む

9号土坑(SK- 9)



10号土坑 埋土
1層 黒褐色土(10YR 2/3) 白色軽石含む
2層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量の白色軽石含む

10号土坑(SK-10)

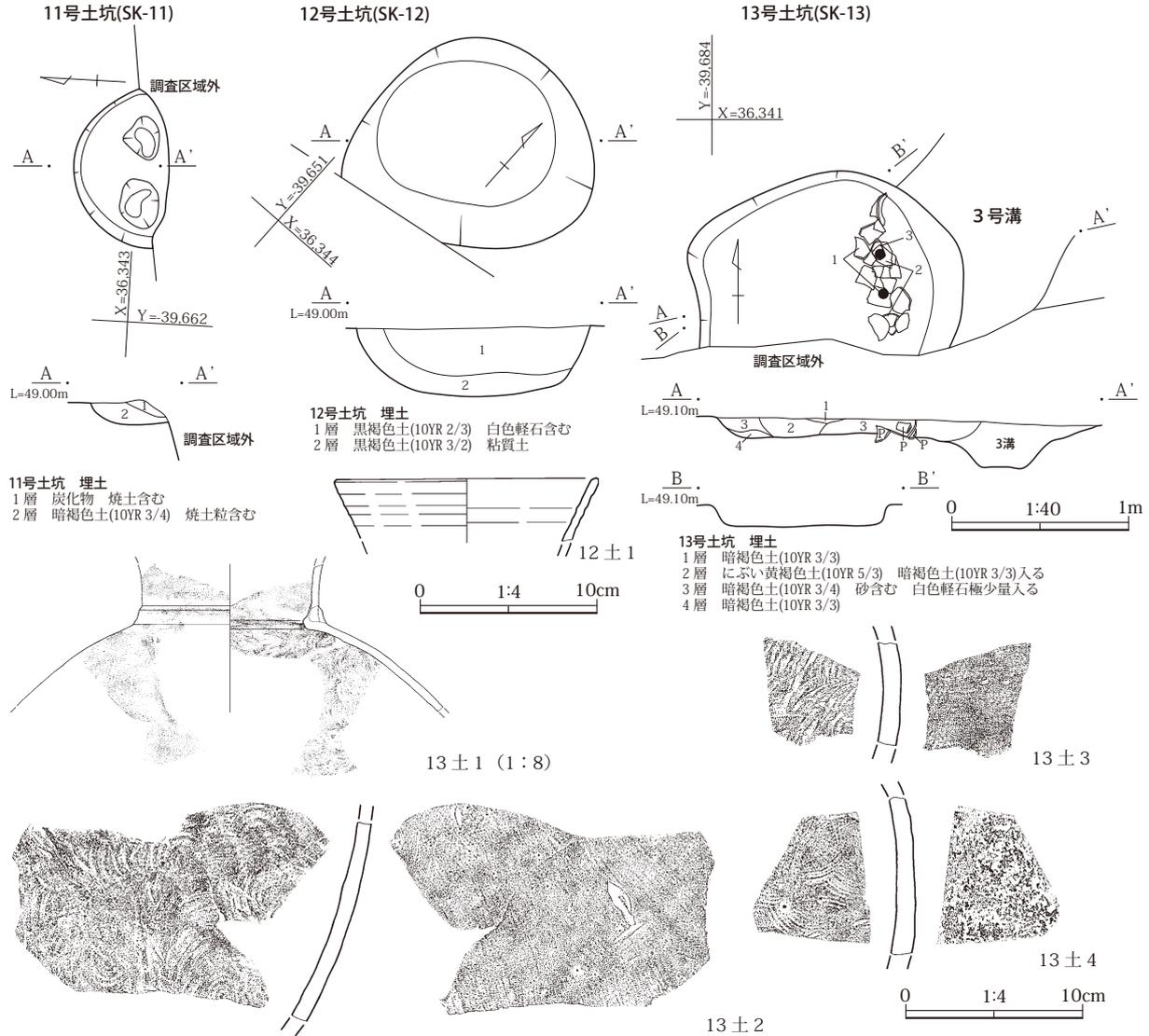


第287図 1・2区3～10号土坑跡平・断面図、10号土坑跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区 10号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 甕	埋土中 口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	



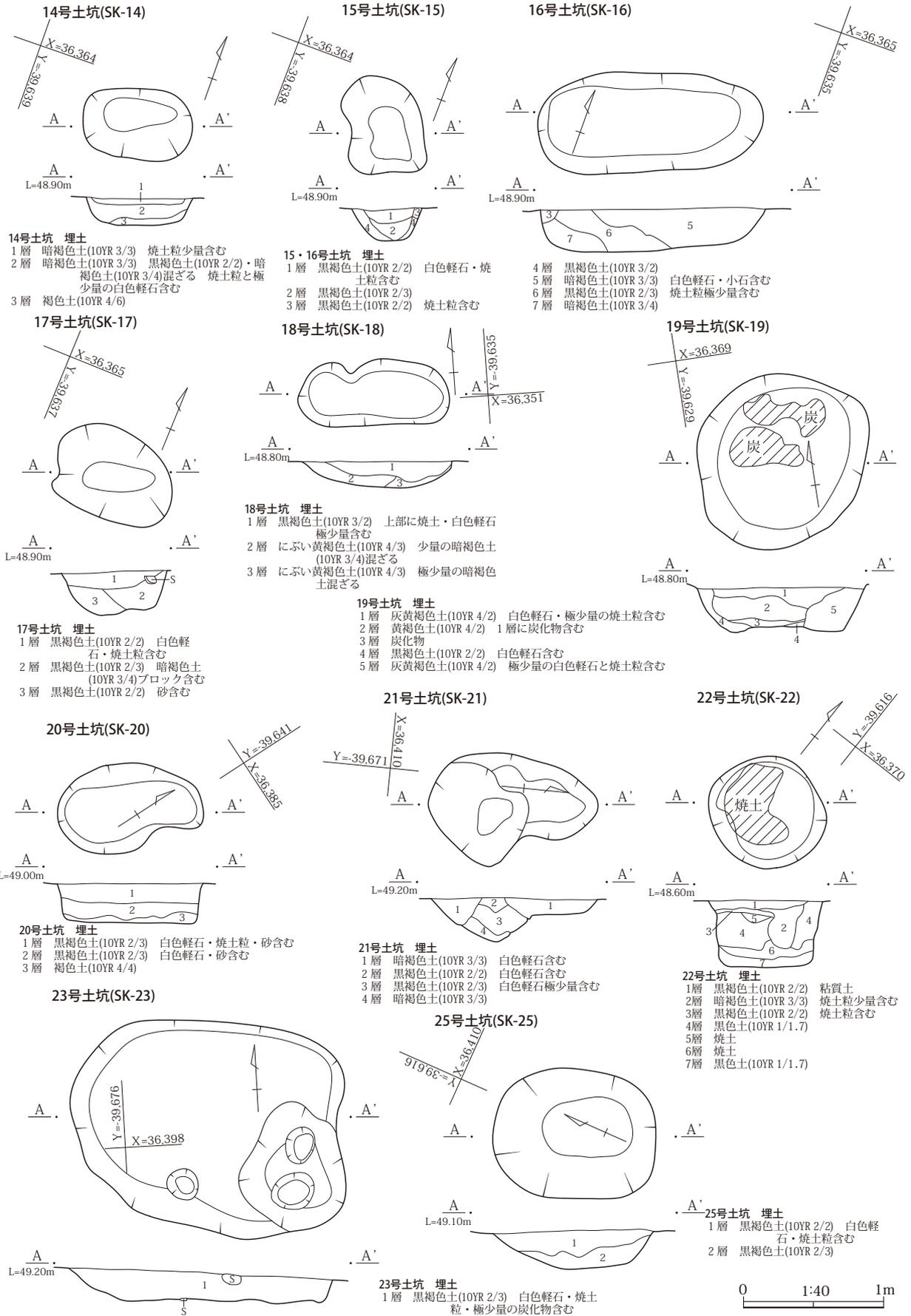
第288図 1・2区 11～13号土坑跡平・断面図、12・13号土坑跡出土遺物

1・2区 12号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	埋土中 口縁部～体部 破片	口径 14.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	

1・2区 13号土坑跡出土遺物観察表

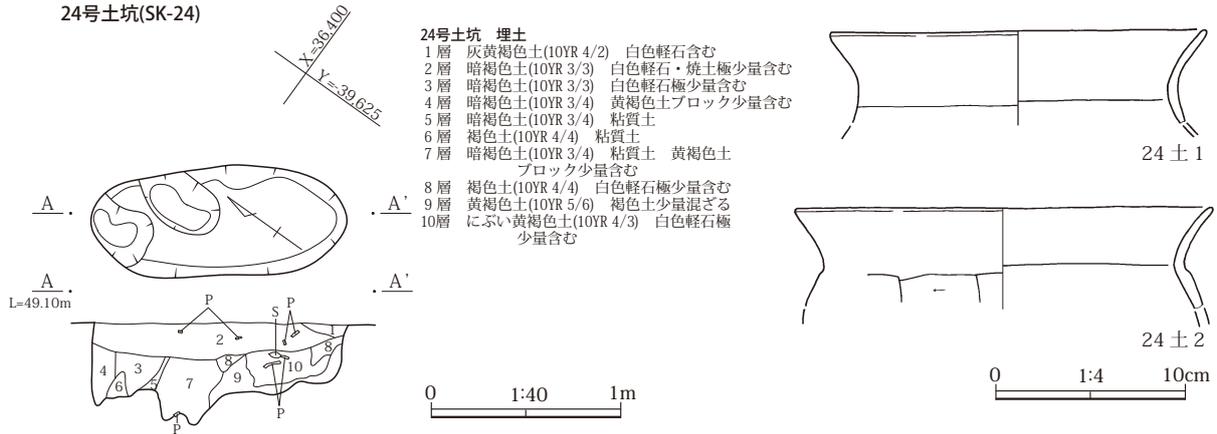
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 甕	埋土中 頸部～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：頸部横ナデ、胴部ヘラナデ。頸部に補強帯貼付されているが、角が押しつぶされている。 内面：胴部同心円状アテ具痕。	
2	須恵器 甕	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 4/0)	ロクロ整形。 外面：胴部平行叩き目。 内面：胴部アテ具痕。	
3	須恵器 甕	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。 外面：胴部平行叩き目。 内面：胴部同心円状アテ具痕。	
4	須恵器 甕	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗オリーブ(5Y 4/4)	ロクロ整形。 外面：胴部自然釉付着。 内面：胴部同心円状アテ具痕。	



第289図 1・2区14～23・25号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

24号土坑(SK-24)

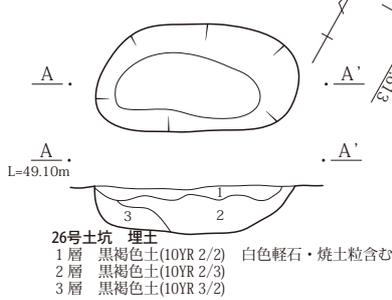


第290図 1・2区24号土坑跡平・断面図、出土遺物

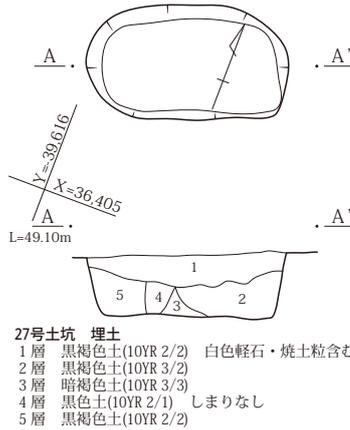
1・2区24号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 甕	埋土中 口縁部～胴部上端	口径 19.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焙 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	
2	土師器 甕	埋土中 口縁部～胴部上端 破片	口径 23.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焙 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	

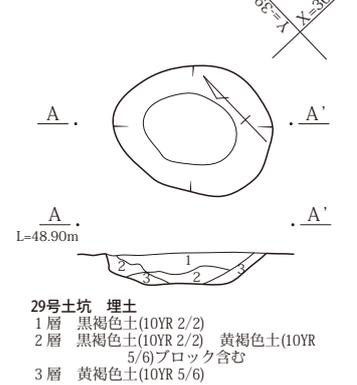
26号土坑(SK-26)



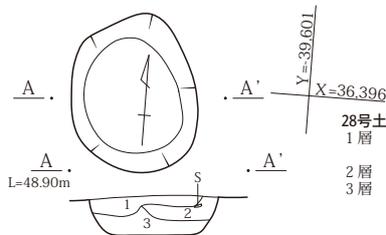
27号土坑(SK-27)



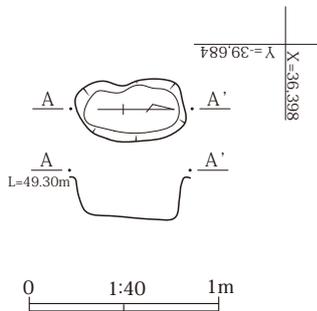
29号土坑(SK-29)



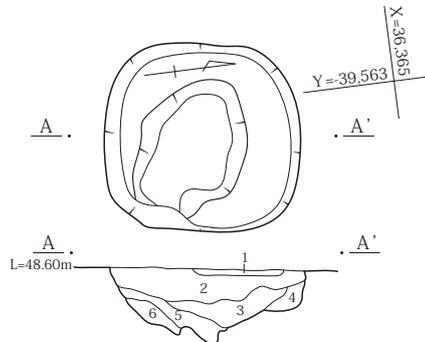
28号土坑(SK-28)



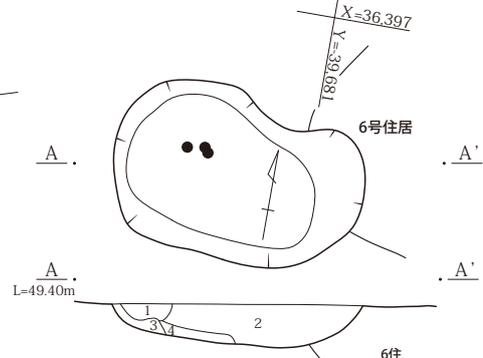
30号土坑(SK-30)



32号土坑(SK-32)



34号土坑(SK-34)



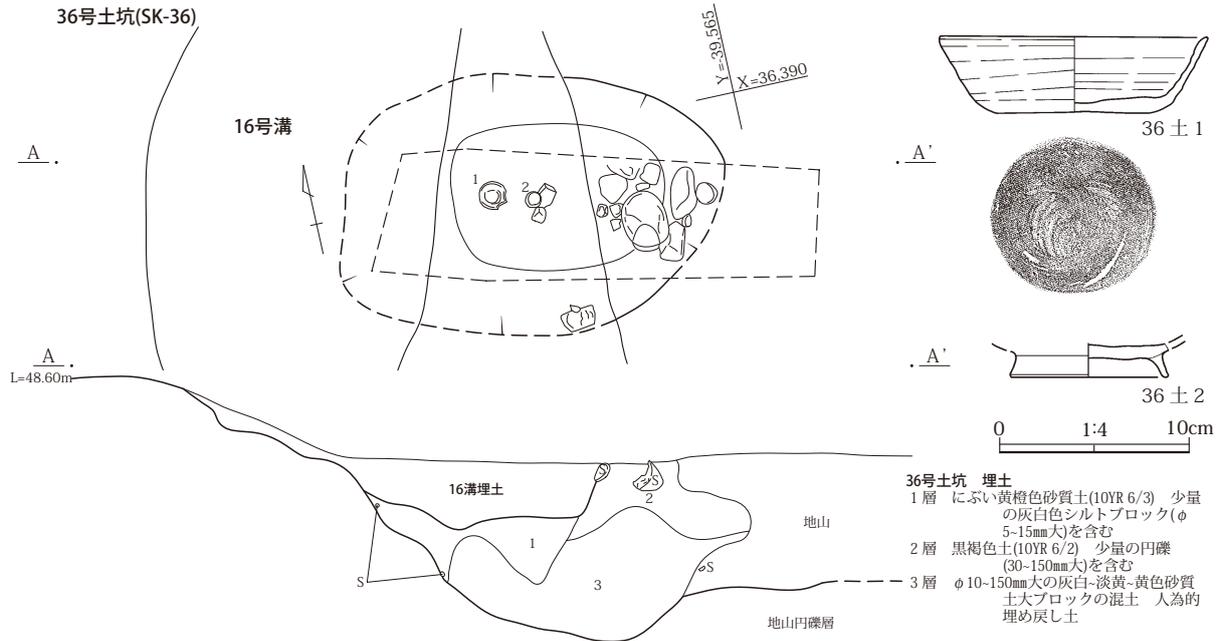
32号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土粒子を少量含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石を含む にぶい黄褐色土粒子を斑状に含む
φ2mm程度の褐灰色土ブロックを含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ2mm程度の褐灰色土ブロック・にぶい黄褐色土粒子を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ2mm程度の褐灰色土ブロックを少量含む
- 5層 黄色砂質ローム 褐灰色土粒子を含む
- 6層 褐灰色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム粒子・φ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを少量含む

34号土坑 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石・焼土粒含む
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒極少量含む
- 4層 暗褐色土(10YR 3/4)

第291図 1・2区26～30・32・34号土坑跡平・断面図

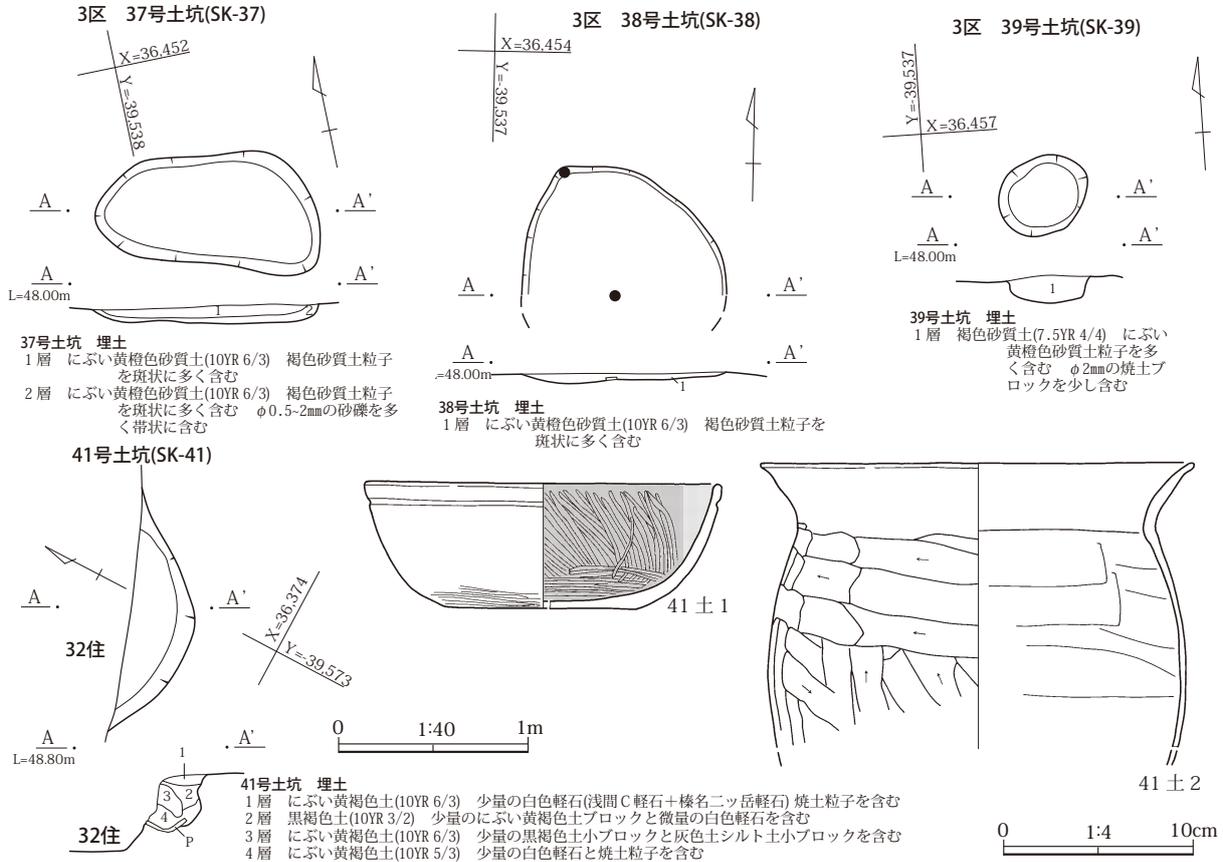


36号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) 少量の灰白色シルトブロック(φ 5-15mm大)を含む
 2層 黒褐色土(10YR 6/2) 少量の円礫(30-150mm大)を含む
 3層 φ10-150mm大の灰白-淡黄-黄色砂質土大ブロックの混土 人為的埋め戻し土

第292図 1・2区36号土坑跡平・断面図、出土遺物

1・2区36号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	底面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.8 底径 8.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	外面に鉄片付着。
2	須恵器 椀	底面+10cm 底部 底部のみ完形	口径 - 底径 7.6 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	



37号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) 褐色砂質土粒子を斑状に多く含む
 2層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) 褐色砂質土粒子を斑状に多く含む φ0.5-2mmの砂礫を多く帯状に含む

38号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) 褐色砂質土粒子を斑状に多く含む

39号土坑 埋土
 1層 褐色砂質土(7.5YR 4/4) にぶい黄褐色砂質土粒子を多く含む φ2mmの焼土ブロックを少し含む

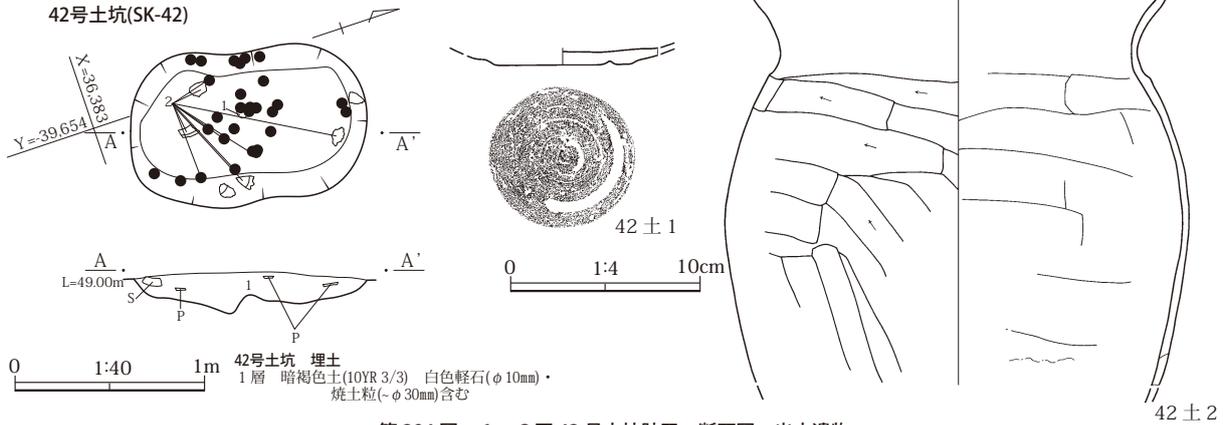
41号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 少量の白色軽石(浅間C軽石+榛名ニッ岳軽石) 焼土粒子を含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量のにぶい黄褐色土ブロックと微量の白色軽石を含む
 3層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 少量の黒褐色土小ブロックと灰色シルト土小ブロックを含む
 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石と焼土粒子を含む

第293図 1・2区37～39・41号土坑跡平・断面図、41号土坑跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区 41号土坑跡出土遺物観察表

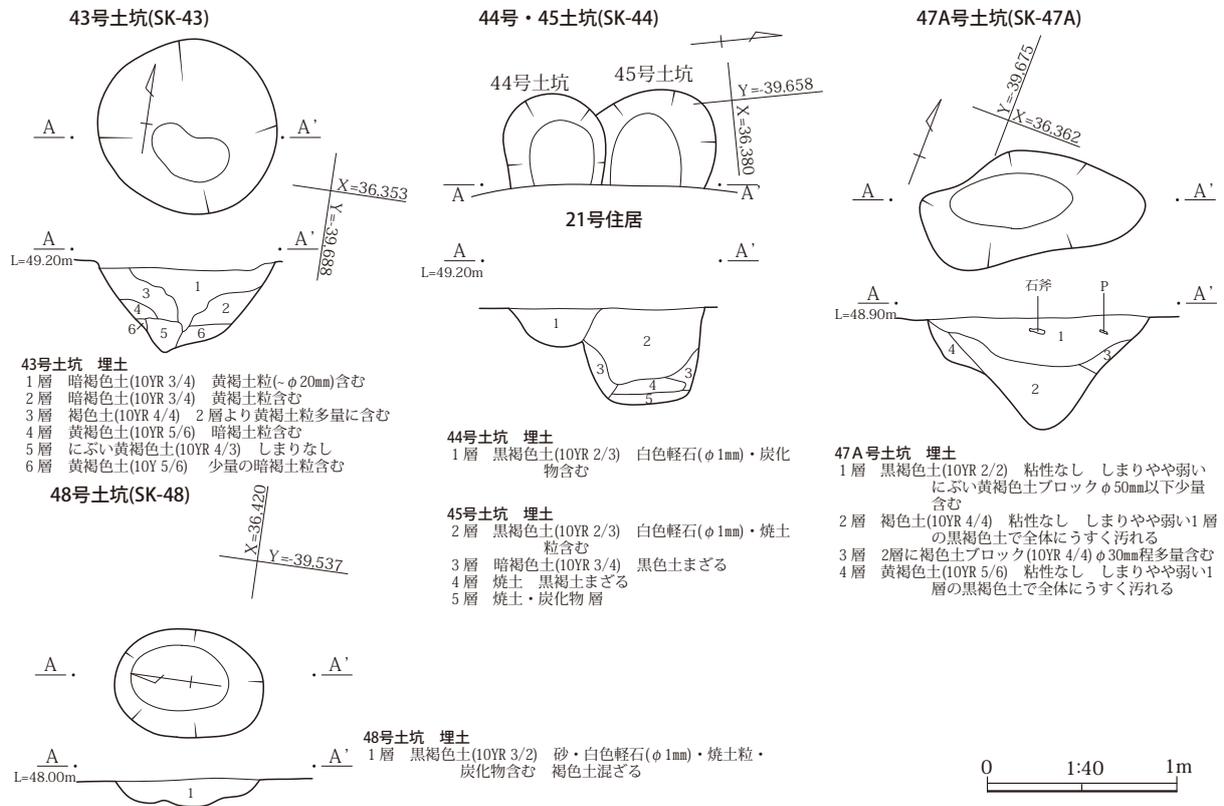
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯	底面直上 口縁部～底部 1/4	口径 18.4 底径 9.8 器高 6.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ 橙(5YR 6/6)	口クロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ヘラ調整。全面ヘラ磨きか。器面剥離のため不鮮明。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。底部ナデ調整。口～体部斜放射状、底部横方向ヘラ磨き。	重複する32号住居埋土の土器と接合。口縁部に太さ2.5mmの条線が巡る。
2	土師器 甕	底面+4cm、32号住居カマド埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 22.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(5YR 4/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	32号住居カマド埋土中の土器と接合。



第294図 1・2区 42号土坑跡平・断面図、出土遺物

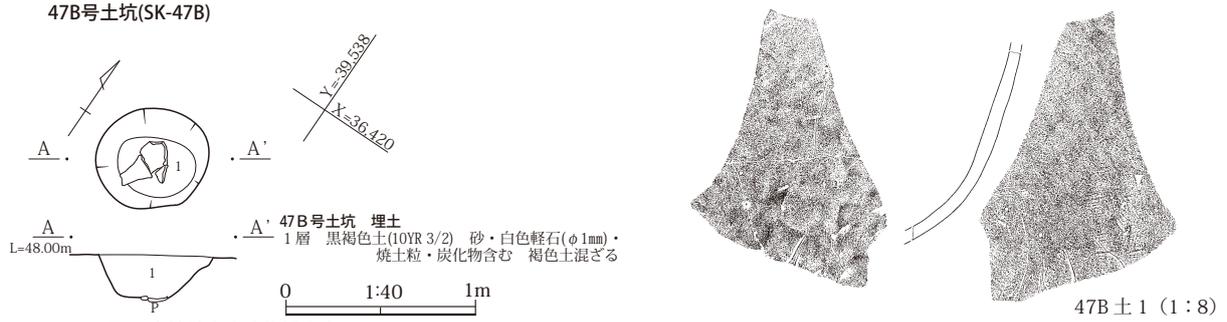
1・2区 42号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 転用碗	底面+9cm 底部 底部のみ残存	口径 — 底径 7.2 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(10Y 4/1)	口クロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	須恵器杯底部を転用。。底部内面は一部擦れている。
2	土師器 甕	底面+10cm 口縁部～胴部 破片	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部上位横、中位斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	



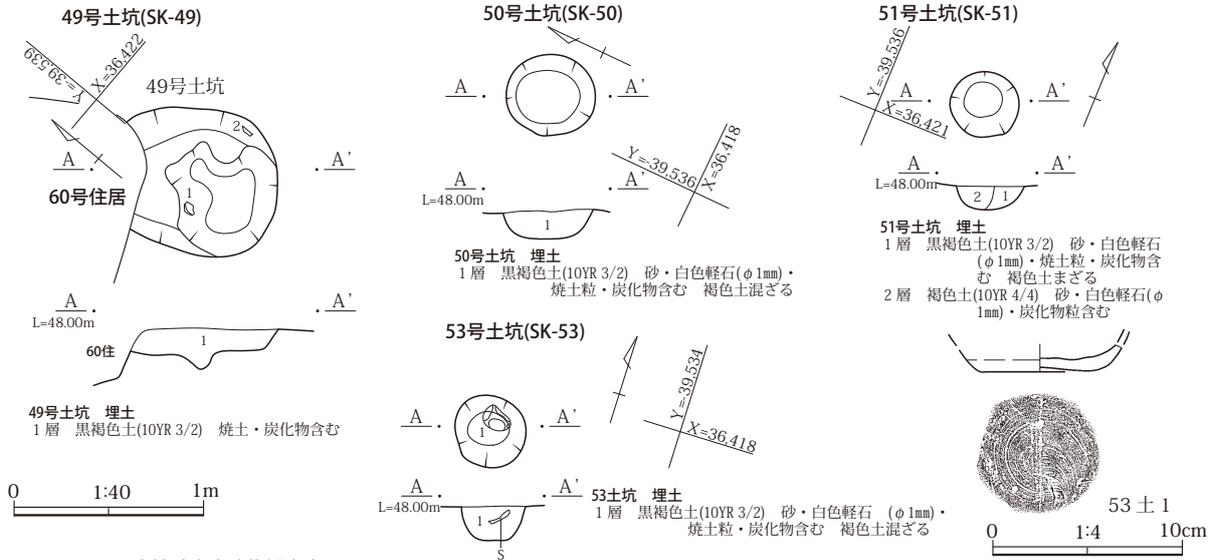
第295図 1・2区 43～45・47A・48号土坑跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



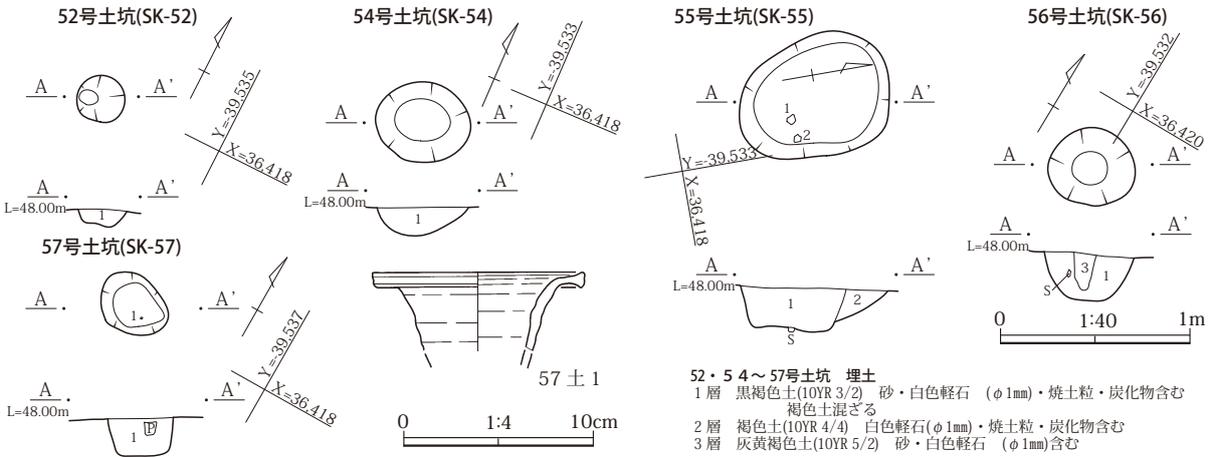
1・2区47号-B土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 甕	底面直上 胴部～底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 青灰(10BG 5/1)	ロクロ整形。 外面：胴部ヘラナデ。平行叩き痕がかすかに残る。 内面：胴部ナデ。	



1・2区53号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	底面+13cm 底部 底部のみ残存	口径 — 底径 6.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転糸切り。 内面：底部回転ナデ。	

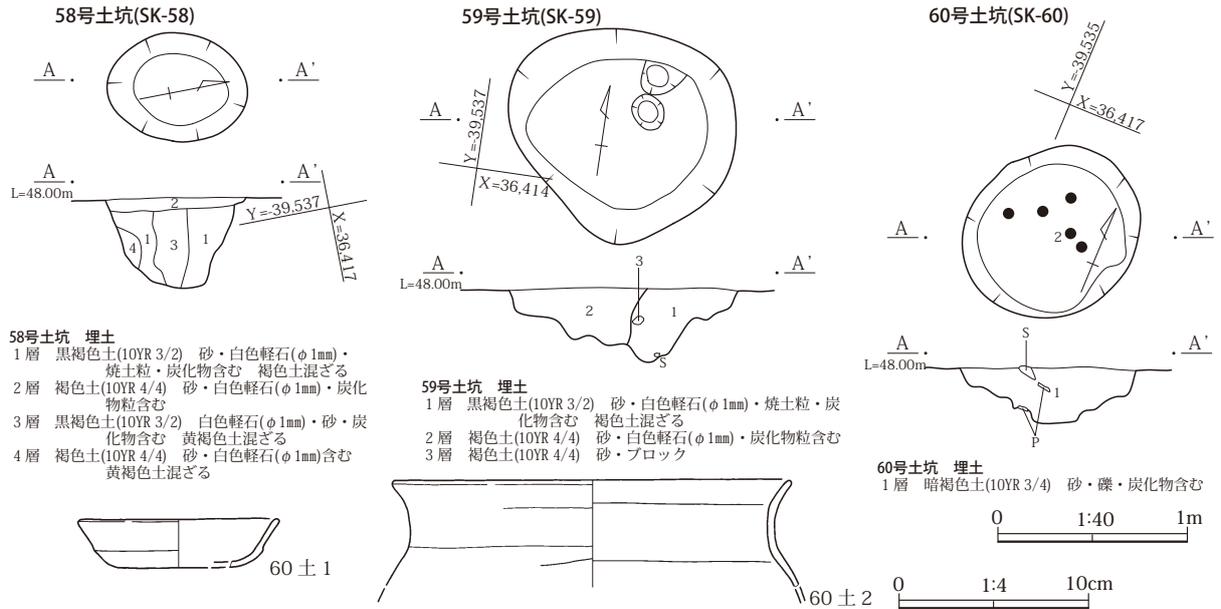


第296図 1・2区47B・49～57号土坑跡平・断面図、47B・53・57号土坑跡出土遺物

1・2区57号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 長頸壺	底面+14cm 口縁部～頸部 破片	口径 10.9 頸径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 7/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～頸部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ調整。	外面に自然釉付着。

第3章 検出遺構と出土遺物



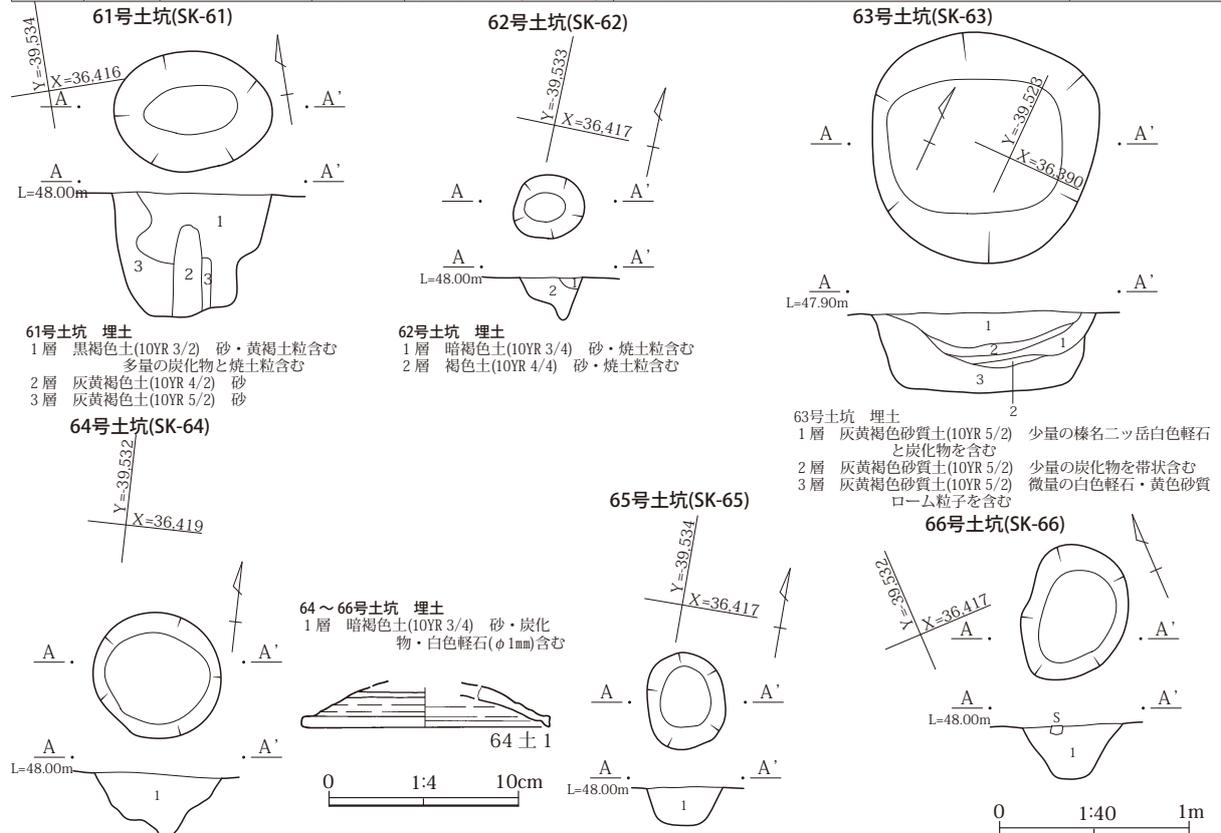
58号土坑 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒・炭化物含む 褐色土混ざる
 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・炭化物粒含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 白色軽石(φ1mm)・砂・炭化物含む 黄褐色土混ざる
 4層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)含む 黄褐色土混ざる

59号土坑 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・白色軽石(φ1mm)・焼土粒・炭化物含む 褐色土混ざる
 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・白色軽石(φ1mm)・炭化物粒含む
 3層 褐色土(10YR 4/4) 砂・ブロック

60号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・礫・炭化物含む

1・2区 60号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～体部 破片	口径 10.4 底径 — 器高 2.5	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ。 内面：口縁部～体部横ナデ。	
2	土師器 甕	底面+5cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 20.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(2.5YR 4/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	

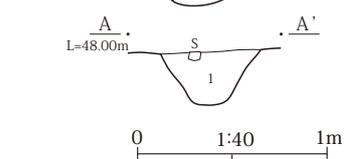
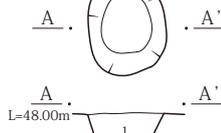
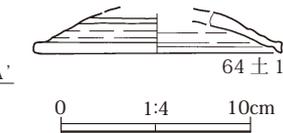


61号土坑 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 砂・黄褐色土粒含む 多量の炭化物と焼土粒含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 砂
 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂

62号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒含む
 2層 褐色土(10YR 4/4) 砂・焼土粒含む

63号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の礫と二岳白色軽石と炭化物を含む
 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の炭化物を帯状含む
 3層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 微量の白色軽石・黄色砂質ローム粒子を含む

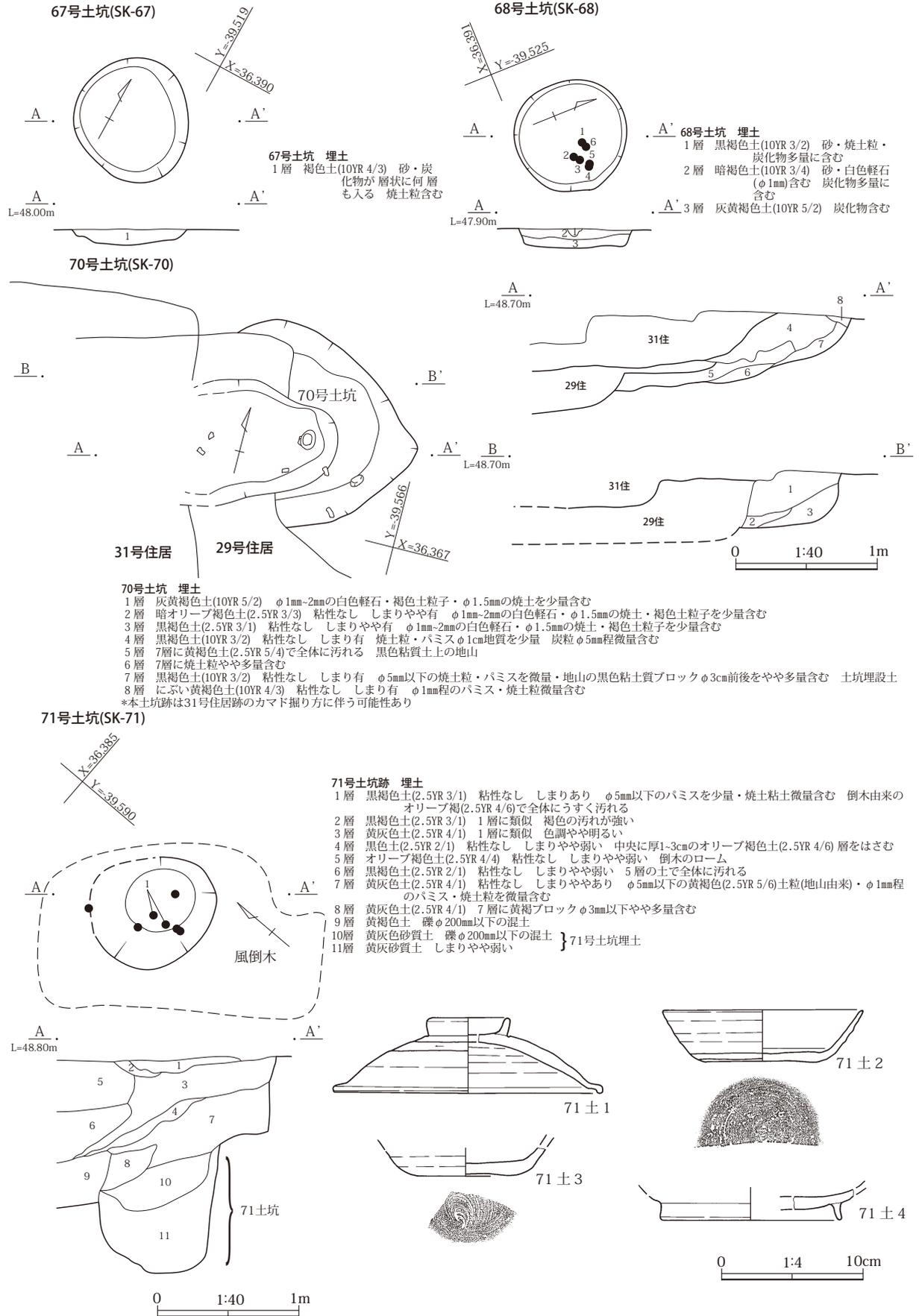
64～66号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・炭化物・白色軽石(φ1mm)含む



第297図 1・2区 58～66号土坑跡平・断面図、60・64号土坑跡出土遺物

1・2区 64号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	埋土中 天井部～口縁部 破片	口径 12.9 口径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り、口縁部横ナデ。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	



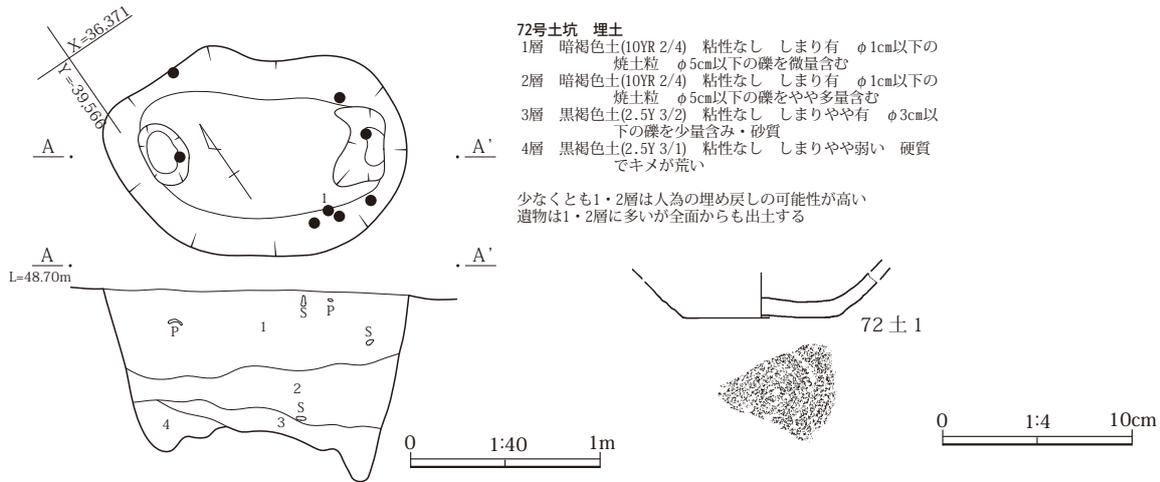
第298図 1・2区67・68・70・71号土坑跡平・断面図、71号土坑跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区71号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 c m	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	底面+6cm 天井部~口縁部 1/2	口径 18.7 摘径 5.6 器高 5.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y7/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：天井部上半はへら削り、口縁部横ナデ。摘みは貼付。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
2	須恵器 杯	底面+66cm 口縁部~底部 1/3	口径 13.9 底径 8.0 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(10Y7/1)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部~体部上半回転ナデ。底部・体部下半回転へら削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	底部外面中央にへら記号「+」
3	須恵器 杯	底面+61cm 体部下端~底部 破片	口径 — 底径 6.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り、周辺部回転へら削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 椀	底面+49cm 底部 破片	口径 — 底径 12.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y7/1)	ロクロ整形。 外面：底部回転へら削り。高台貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	

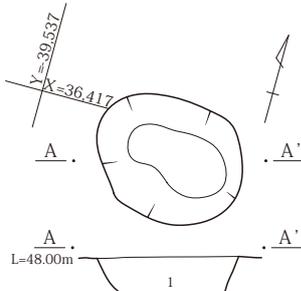
72号土坑(SK-73)



1・2区72号土坑跡出土遺物観察表

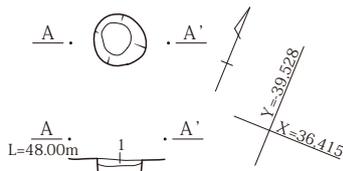
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 c m	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	底面+21cm 体部下端~底部 破片	口径 — 底径 8.1 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰オリーブ(5Y6/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転へら削りか。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。

73号土坑(SK-73)



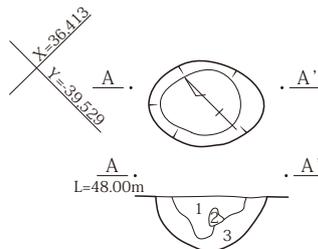
73号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・炭化物・白色軽石(φ1mm)含む

77号土坑(SK-77)



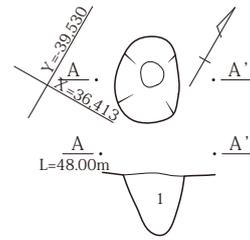
77号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・炭化物含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒・炭化物含む

75号土坑(SK-75)



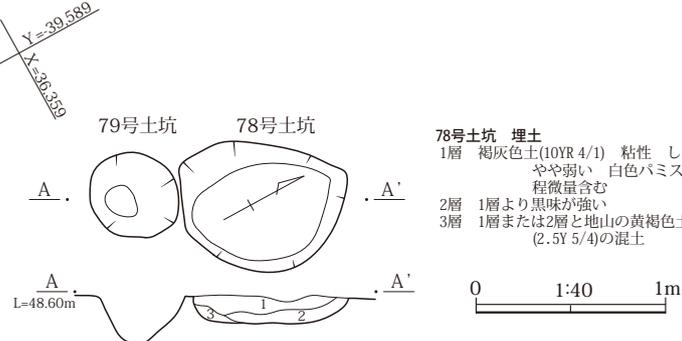
75号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・炭化物含む
 2層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘質土ブロック
 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 砂・焼土粒・炭化物含む

76号土坑(SK-76)



76号土坑 埋土
 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 砂・焼土粒・炭化物含む

78・79号土坑(SK-P10、SK-1P11)



78号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 粘性 しまりやや弱い 白色バミスφ1mm程微量含む
 2層 1層より黒味が強い
 3層 1層または2層と地山の黄褐色土(2.5Y 5/4)の混土

第299図 1・2区72・73・75~79号土坑跡平・断面図、72号土坑跡出土遺物

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1・2区 土抗跡一覧表

注) 計測値の()は、推定値を示す

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	備考
1号土抗跡	X=36,358 Y=-39,679	150×110cm	17cm	隅丸長方形	逆台形	土師器甕	炭化物を含む黒色土。	
2号土抗跡	X=36,357 Y=-39,682	150×90cm	7cm	隅丸長方形	逆台形	土師器甕、須恵器杯・蓋	炭化物を含む黒色土。	1号埋土と重複するが直接切り合っていない。
3号土抗跡	X=36,355 Y=-39,680	160×110cm	8cm	隅丸長方形	逆台形	なし	炭化物を含む黒色土。	
4号土抗跡	X=36,405 Y=-39,702	195×110cm	29cm	隅丸長方形	逆台形	土師器甕、須恵器杯、須恵器杯(黒色土器)	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	
5号土抗跡	X=36,408 Y=-39,701	150×95cm	23cm	隅丸長方形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	
6号土抗跡	X=36,406 Y=-39,701	82×75cm	20cm	楕円形	半円形	なし	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	
7号土抗跡	X=36,406 Y=-39,700	70×60cm	19cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	
8号土抗跡	X=36,404 Y=-39,701	130×120cm	35cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	13号溝よりも古い。
9号土抗跡	X=36,407 Y=-39,703	80×40cm	39cm	楕円形	逆台形	土師器甕	埋土不明。	
10号土抗跡	X=36,397 Y=-39,687	250×60cm	20cm	不定形	逆台形	須恵器甕	白色軽石を含む黒褐色土。	
11号土抗跡	X=36,343 Y=-39,661	不明	30cm	不明	逆台形	なし	焼土粒を含む暗褐色土。	南側が調査区域外。
12号土抗跡	X=36,345 Y=-39,650	140×120cm	40cm	楕円形	逆台形	須恵器杯	白色軽石を含む黒褐色土。	
13号土抗跡	X=36,340 Y=-39,683	150cm×不明	14cm	不定形	逆台形	須恵器甕	白色軽石を含む暗褐色土。	3号溝より新しい。
14号土抗跡	X=36,364 Y=-39,638	80×50cm	30cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石を含む暗褐色土。	
15号土抗跡	X=36,364 Y=-39,637	70×50cm	29cm	不定形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
16号土抗跡	X=36,364 Y=-39,636	160×70cm	30cm	隅丸長方形	逆台形	なし	焼土粒を含む黒褐色土。	風倒木の影響を大きく受ける。
17号土抗跡	X=36,363 Y=-39,636	90×60cm	33cm	不定形	逆台形	土師器甕口縁部、土師器破片	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
18号土抗跡	X=36,351 Y=-39,636	110×45cm	15cm	不定形	逆台形	なし	少量の白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
19号土抗跡	X=36,368 Y=-39,628	140×120cm	35cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。底面に炭化物あり。	
20号土抗跡	X=36,384 Y=-39,641	103×62cm	25cm	不定形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	10号溝と重複。1号掘立柱建物とは不明。
21号土抗跡	X=36,411 Y=-39,671	120×80cm	33cm	不定形	U字形	なし	白色軽石を含む黒褐色土。	
22号土抗跡	X=36,369 Y=-39,616	85×80cm	48cm	円形	逆台形	なし	焼土を多く含む黒褐色土。	
23号土抗跡	X=36,398 Y=-39,675	210×150cm	26cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
24号土抗跡	X=36,400 Y=-39,626	135×60cm	42cm	楕円形	逆台形	土師器杯・甕、須恵器杯	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	
25号土抗跡	X=36,409 Y=-39,616	115×95cm	28cm	楕円形	半円形	土師器甕	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
26号土抗跡	X=36,409 Y=-39,614	105×55cm	21cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
27号土抗跡	X=36,406 Y=-39,615	105×60cm	18cm	隅丸長方形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
28号土抗跡	X=36,396 Y=-39,602	80×65cm	20cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	
29号土抗跡	X=36,396 Y=-39,602	85×70cm	16cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石なしの黒色土。	
30号土抗跡	X=36,397 Y=-39,684	60×30cm	22cm	楕円形	逆台形	なし	埋土は不明。	
32号土抗跡	X=36,364 Y=-39,563	100×100cm	39cm	隅丸方形	逆台形	なし	白色軽石と、にぶい黄褐色土粒子を含むにぶい黄褐色土。	
34号土抗跡	X=36,396 Y=-39,681	140×80cm	25cm	不定形	逆台形	土師器杯・甕、須恵器甕	白色軽石と焼土粒を含むにぶい黄褐色土。	6号住居と重複。
36号土抗跡	X=36,392 Y=-39,566	200×140cm	97cm	不定形	逆台形	須恵器杯・椀	灰白、淡黄、黄色砂質大ブロックの混土。	16号溝と重複。
41号土抗跡	X=36,375 Y=-39,577	不明	28cm	楕円形	不明	土師器杯(黒色土器)・甕	少量の白色軽石と焼土粒を含むにぶい黄褐色土。	32号住居と重複。
42号土抗跡	X=36,384 Y=-39,654	123×80cm	20cm	隅丸長方形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒を含む暗褐色土。	3号溝と重複。
43号土抗跡	X=36,353 Y=-39,689	95×90cm	50cm	円形	U字形	なし	黄褐色土粒を含む暗褐色土。	21号住居、45号土抗と重複。
44号土抗跡	X=36,379 Y=-39,658	不明	19cm	不明	逆台形	土師器甕	白色軽石と炭化物を含む黒褐色土。	
45号土抗跡	X=36,379 Y=-39,658	不明	50cm	不明	逆台形	なし	白色軽石と炭化物を含む黒褐色土。底面に焼土と炭化物層が認められる。	21号住居・44号土抗と重複。
46号土抗跡	X=36,416 Y=-39,530	100×75cm	9cm	楕円形	逆台形	土師器甕	砂と焼土粒を含むにぶい黄褐色土。	64号住居との新旧関係は不明。
47号-A土抗跡	X=36,362 Y=-39,675	120×55cm	60cm	不整楕円形	半円形	打製石斧、土師器破片	褐色土ブロックの入った黒褐色土。	風倒木の影響を受ける。
47号-B土抗跡	X=36,420 Y=-39,539	60×54cm	28cm	楕円形	半円形	須恵器大甕胴部片。	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	

第3章 検出遺構と出土遺物

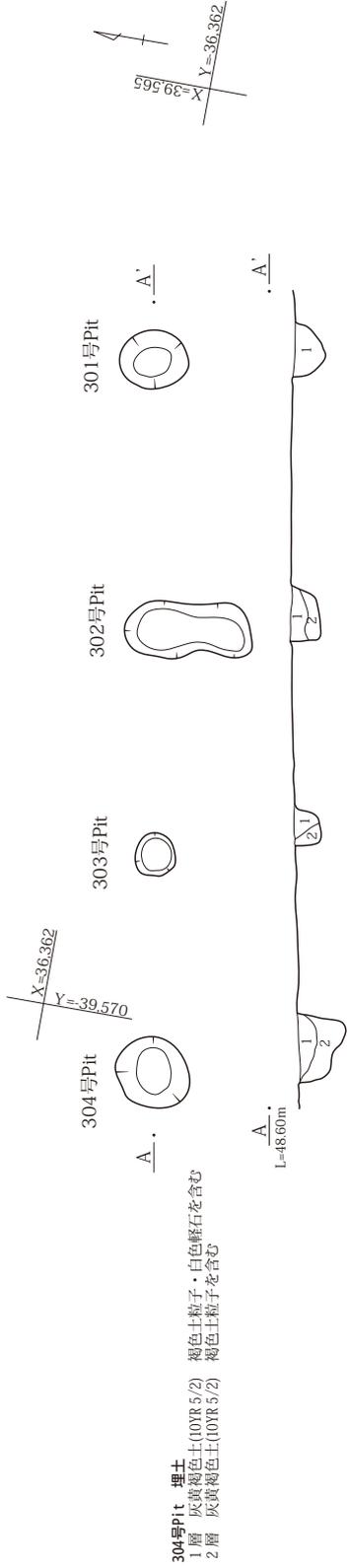
遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	備考
48号土抗跡	X = 36,420 Y = - 39,537	径 80 × 60cm	15cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
49号土抗跡	X = 36,420 Y = - 39,538	不明 × 75cm	24cm	楕円形	逆台形	土師器甕、須恵器杯	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	60号住居と重複。
50号土抗跡	X = 36,419 Y = - 39,536	46 × 43cm	15cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
51号土抗跡	X = 36,421 Y = - 39,535	35 × 35cm	16cm	円形	半円形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
52号土抗跡	X = 36,418 Y = - 39,536	25 × 25cm	11cm	円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
53号土抗跡	X = 36,418 Y = - 39,535	40 × 40cm	20cm	円形	逆台形	須恵器杯	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
54号土抗跡	X = 36,418 Y = - 39,533	50 × 42cm	18cm	楕円形	半円形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
55号土抗跡	X = 36,419 Y = - 39,533	84 × 53cm	25cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
56号土抗跡	X = 36,420 Y = - 39,532	45 × 40cm	28cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
57号土抗跡	X = 36,418 Y = - 39,538	40 × 30cm	21cm	不定形	逆台形	須恵器長頸壺口縁部	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
58号土抗跡	X = 36,416 Y = - 39,538	75 × 57cm	47cm	楕円形	逆台形	土師器甕	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
59号土抗跡	X = 36,414 Y = - 39,536	125 × 105cm	50cm	不定形	逆台形	土師器杯、須恵器甕	白色軽石と焼土粒、炭化物を含む黒褐色土。	
60号土抗跡	X = 36,415 Y = - 39,534	100 × 85cm	30cm	楕円形	逆台形	土師器杯・甕	砂、礫、炭化物を含む暗褐色土。	
61号土抗跡	X = 36,416 Y = - 39,533	85 × 60cm	66cm	楕円形	逆台形	なし	多量の炭化物と焼土粒を含む黒褐色土。	
62号土抗跡	X = 36,417 Y = - 39,533	38 × 34cm	20cm	楕円形	U字形	なし	砂と焼土粒を含む暗褐色土。	
63号土抗跡	X = 36,390 Y = - 39,523	120 × 120cm	44cm	隅丸正方形	逆台形	土師器杯・甕	少量の白色軽石と炭化物を含む灰黄褐色砂質土。中間に炭化物の層が帯状に認められる。	
64号土抗跡	X = 36,418 Y = - 39,532	65 × 65cm	40cm	円形	U字形	土師器杯・甕、須恵器蓋・甕	砂、炭化物、白色軽石を含む暗褐色土。	
65号土抗跡	X = 36,417 Y = - 39,534	50 × 40cm	18cm	楕円形	逆台形	なし	砂、炭化物、白色軽石を含む暗褐色土。	
66号土抗跡	X = 36,417 Y = - 39,531	75 × 60cm	30cm	不定形	U字形	土師器杯・甕、須恵器蓋	砂、炭化物、白色軽石を含む暗褐色土。	
67号土抗跡	X = 36,389 Y = - 39,519	90 × 80cm	13cm	楕円形	逆台形	土師器杯・甕	砂と炭化物が層状に堆積する。	
68号土抗跡	X = 36,391 Y = - 39,524	80 × 80cm	13cm	円形	逆台形	土師器甕	砂と白色軽石と多量の炭化物を含む暗褐色土。	
69号土抗跡	X = 36,365 Y = - 39,569	不明	23cm	不明	不明	土師器甕、須恵器杯	白色軽石と焼土粒を含む黒褐色土。	29号住居と重複。
70号土抗跡	X = 36,368 Y = - 39,567	不明	40cm	不明	逆台形	土師器杯・甕	白色軽石と少量の焼土粒と炭化物を含む黒褐色土。	出土した縄文土器は遺構外。
71号土抗跡	X = 36,383 Y = - 39,590	不明	154cm	円形	U字形	土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・椀	下層は礫を含む黄灰色砂質土。	井戸と思われる。風倒木によって上面が攪乱を受けている。
72号土抗跡	X = 36,370 Y = - 39,565	160 × 105cm	84cm	楕円形	逆台形	土師器杯・甕、須恵器杯	焼土粒と礫を含む暗褐色土。	
73号土抗跡	X = 36,417 Y = - 39,536	80 × 65cm	31cm	楕円形	逆台形	土師器杯	砂と炭化物、白色軽石を含む暗褐色土。	
75号土抗跡	X = 36,412 Y = - 39,528	60 × 45cm	30cm	楕円形	逆台形	なし	砂と焼土粒、炭化物を含む暗褐色土。	
76号土抗跡	X = 36,413 Y = - 39,529	45 × 40cm	35cm	楕円形	U字形	土師器甕	砂と焼土粒、炭化物を含む暗褐色土。	
77号土抗跡	X = 36,415 Y = - 39,529	30 × 27cm	26cm	楕円形	U字形	なし	砂と炭化物、白色軽石を含む暗褐色土。	
78号土抗跡	X = 36,360 Y = - 39,588	85 × 68cm	14cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石を含む褐色土。	1号不明遺構と重複。
79号土抗跡	X = 36,359 Y = - 39,588	50 × 46cm	26cm	楕円形	U字形	なし	埋土は不明。	1号不明遺構と重複。

3区 土抗跡一覧表

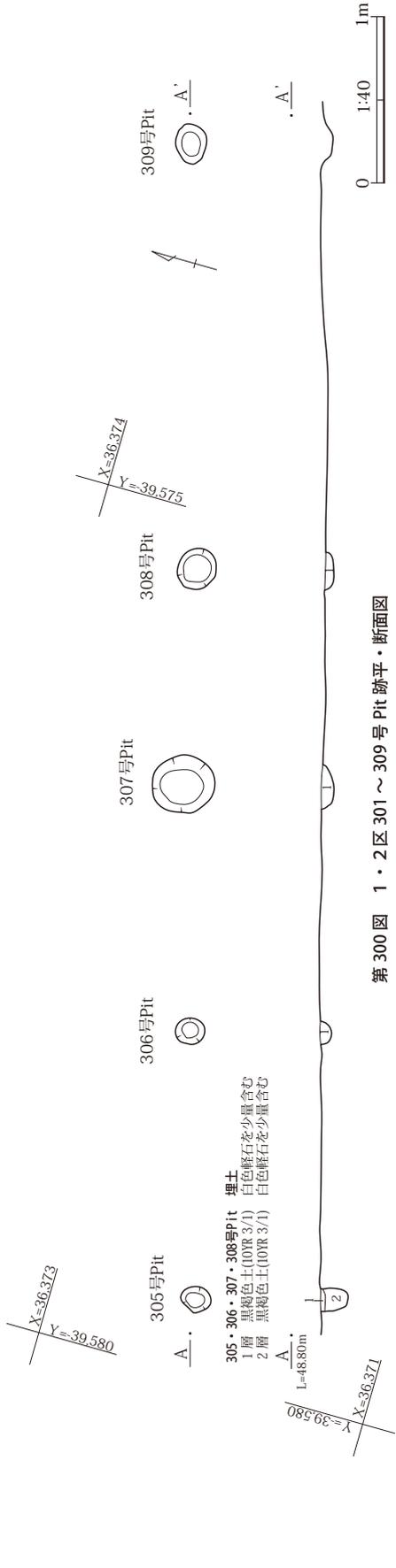
注) 計測値の()は、推定値を示す

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	備考
37号土抗跡	X = 36,451 Y = - 39,538	120 × 60cm	11cm	不定形	逆台形	なし	砂礫を帯状に含むにぶい黄褐色砂質土。	河川の氾濫の影響を受けて壁高が低くなっている。
38号土抗跡	X = 36,453 Y = - 39,536	不明	7cm	不明	逆台形	土師器甕	砂礫を帯状に含むにぶい黄褐色砂質土。	河川の氾濫の影響を受けて壁高が低くなっている。
39号土抗跡	X = 36,457 Y = - 39,536	50 × 40cm	16cm	楕円形	逆台形	なし	にぶい黄褐色砂質土粒子と礫を少量含む褐色砂質土。	河川の氾濫の影響を受けて壁高が低くなっている。
40号土抗跡	X = 36,456 Y = - 39,549	不明	10cm	不明	逆台形	なし	少量の礫と褐色砂質土粒子を含むにぶい黄褐色砂質土。	河川の氾濫の影響を受けて壁高が低くなっている。

301~304号Pit



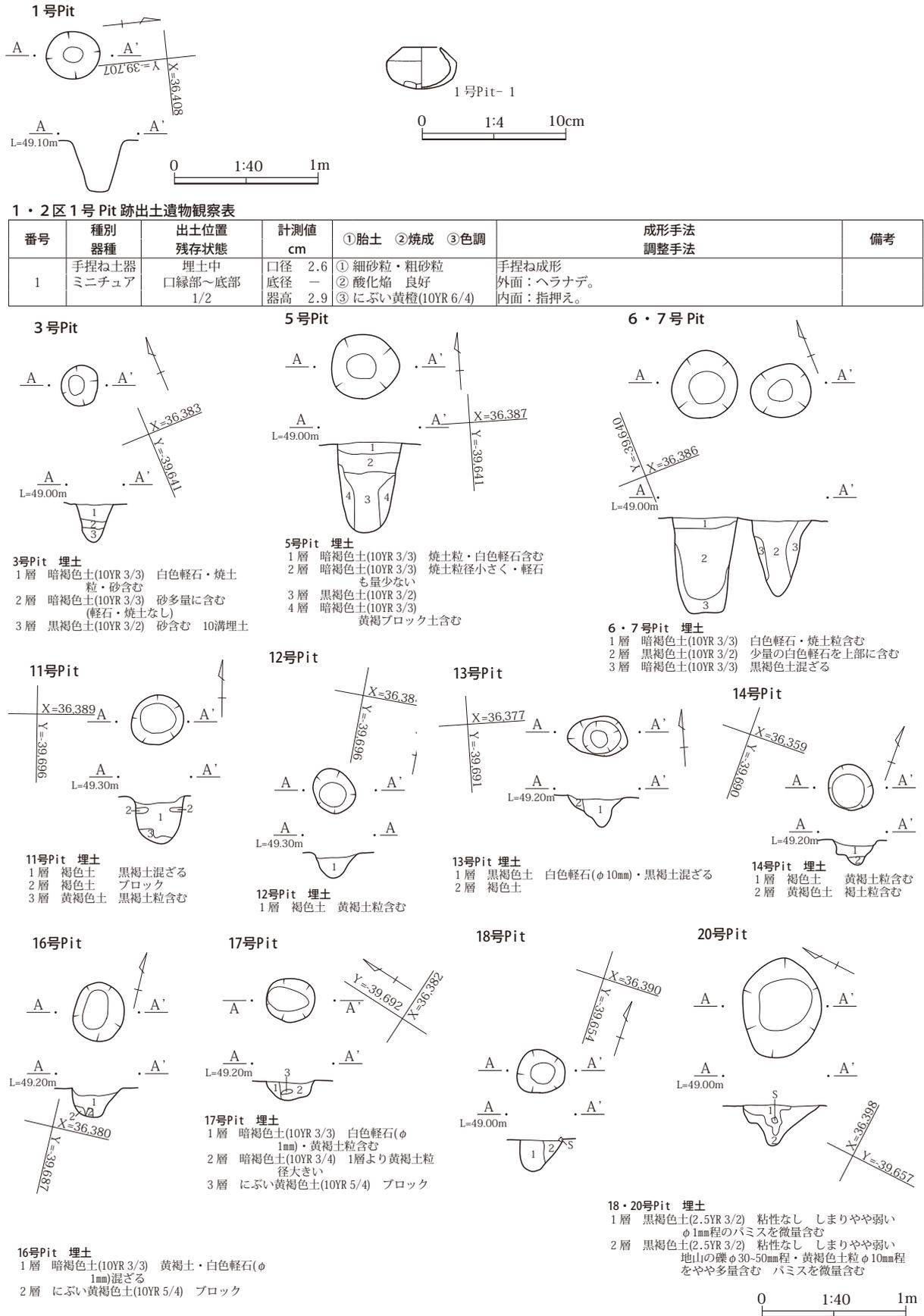
305~309号Pit



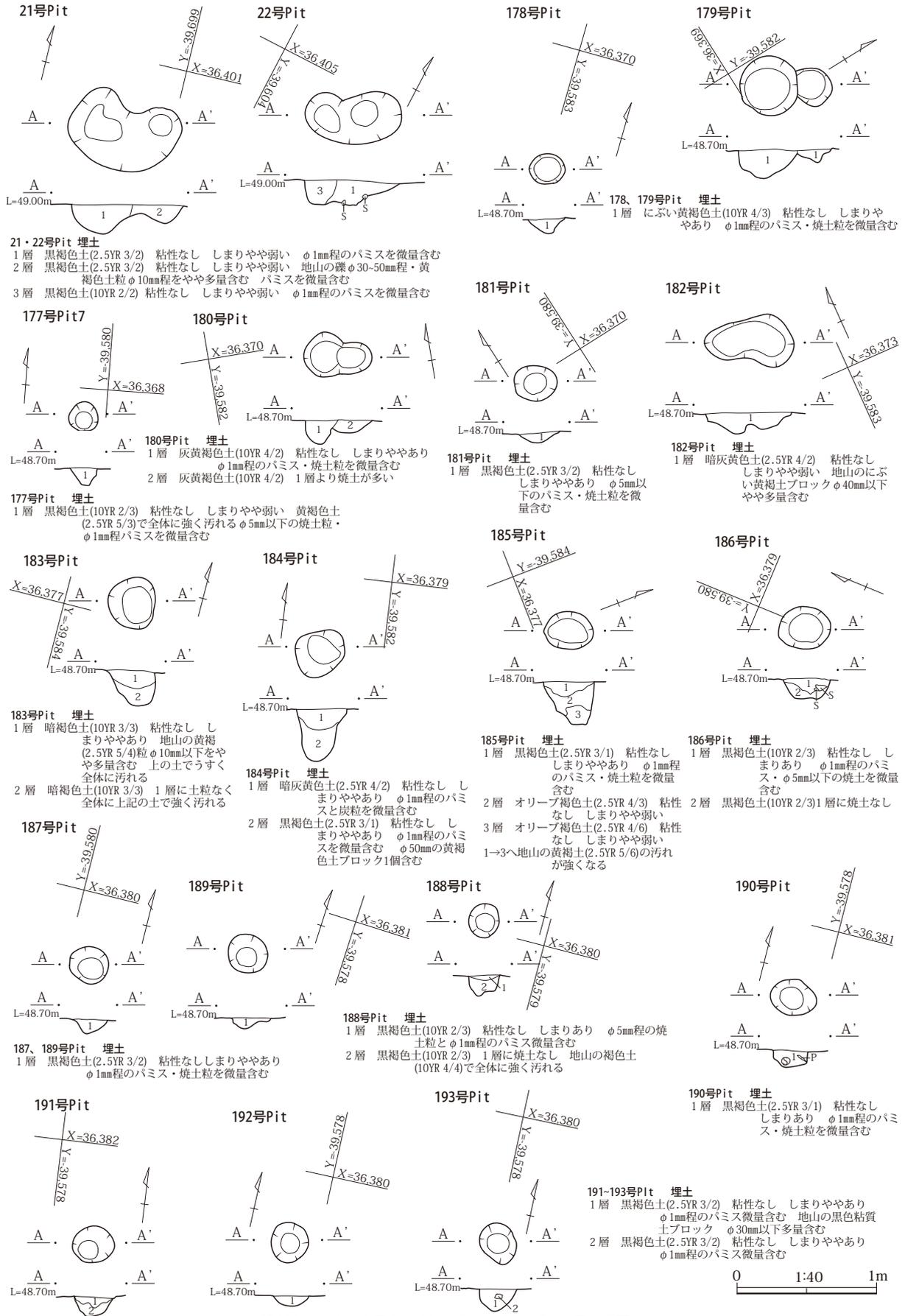
- 304号Pit 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子・白色軽石を含む
2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む
- 303号Pit 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・雑土・ローム粒子を少量含む
2層 にぶい黄褐色土(10YR 7/2) 褐色土粒子を少量含む
- 302号Pit 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・雑土・ローム粒子を少量含む
2層 にぶい黄褐色土(10YR 7/2) 褐色土粒子を少量含む
- 301号Pit 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石・ローム粒子を少量含む
- 305号Pit 埋土
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石を少量含む
2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐灰色土粒子を少量含む
- 305・306・307・308号Pit 埋土
1層 黒褐色土(10YR 3/1) 白色軽石を少量含む
2層 黒褐色土(10YR 3/1) 白色軽石を少量含む

第300図 1・2区301~309号Pit跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

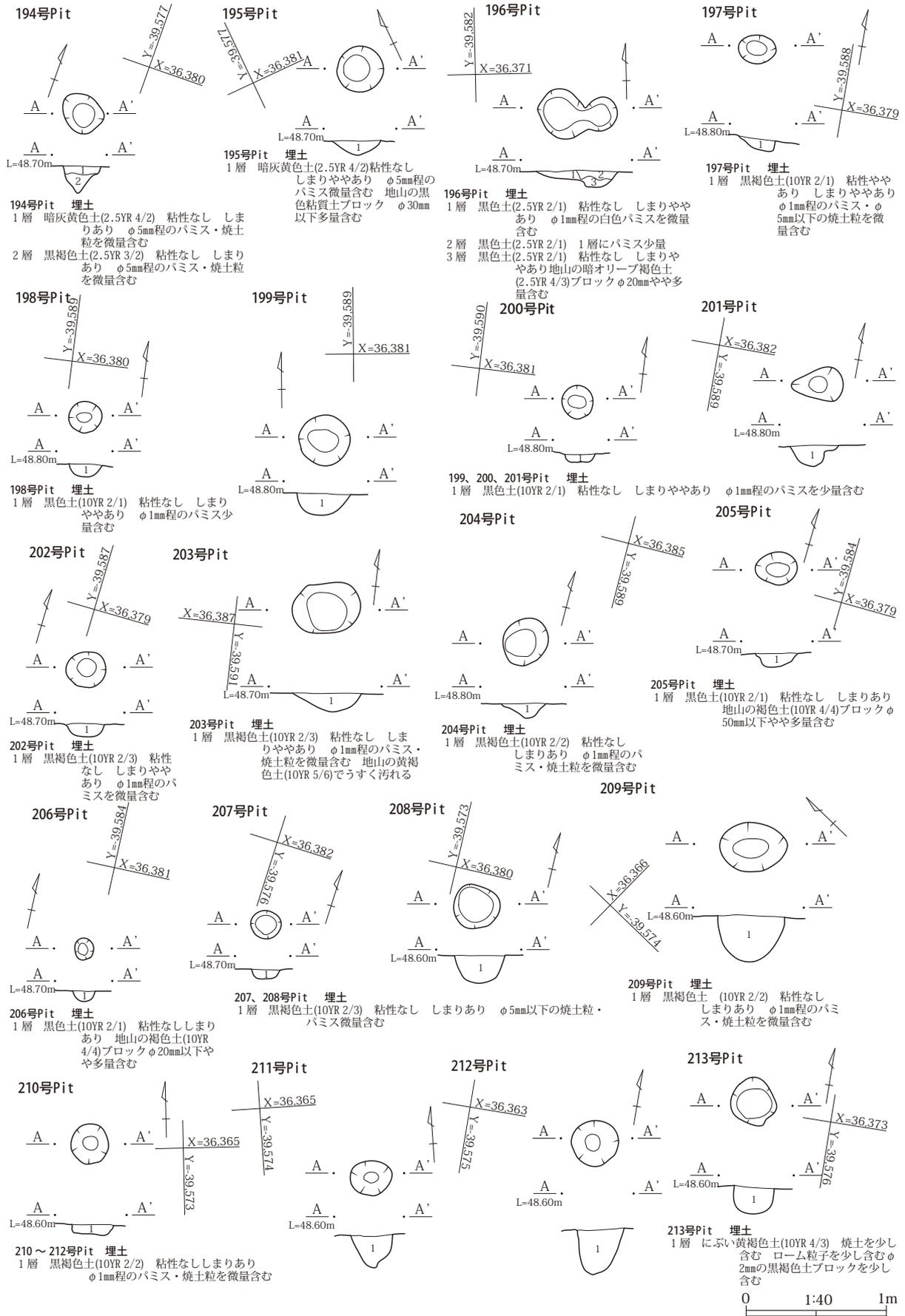


第301図 1・2区1・3・5~7・11~14・16~18・20号 Pit 跡平・断面図、1号 Pit 跡出土遺物



第302図 1・2区21・22・178～193号Pit跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第303図 1・2区 194～213号 Pit 跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1・2区 Pit跡一覧表

注) 計測値の () は、推定値を示す

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	出土遺物	埋土	備考
1号 Pit 跡	X = 36407 Y = -39707	37 × 34cm	35cm	ほぼ円形	土師器甕、ミニチュア土器、こも編み石	埋土は不明。	
3号 Pit 跡	X = 36383 Y = -39641	30 × 26cm	28cm	円形	土師器甕、灰釉陶器椀	白色軽石を含む。	1号掘立柱建物の中にある。
5号 Pit 跡	X = 36387 Y = -39642	52 × 43cm	64cm	円形	なし	白色軽石を含む。	1号掘立柱建物の中にある。
6号 Pit 跡	X = 36386 Y = -39639	48 × 43cm	70cm	円形	なし	白色軽石を含む。	1号掘立柱建物の中にある。
7号 Pit 跡	X = 36386 Y = -39639	43 × 36cm	55cm	円形	土師器甕	白色軽石を含む。	1号掘立柱建物の中にある。
11号 Pit 跡	X = 36389 Y = -39695	38 × 34cm	38cm	円形	なし		
12号 Pit 跡	X = 36383 Y = -39696	32 × 26cm	20cm	楕円形	なし		
13号 Pit 跡	X = 36377 Y = -39690	42 × 28cm	30cm	楕円形	なし		
14号 Pit 跡	X = 36359 Y = -39689	33 × 32cm	18cm	円形	なし		
16号 Pit 跡	X = 36382 Y = -39687	42 × 35cm	25cm	楕円形	なし	白色軽石を含む。	
17号 Pit 跡	X = 36383 Y = -39688	34 × 30cm	19cm	楕円形	なし	白色軽石を含む。	
18号 Pit 跡	X = 36389 Y = -39654	33 × 31cm	23cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
20号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39656	70 × 52cm	30cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
21号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39699	83 × 55cm	23cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
22号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39683	69 × 36cm	22cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
23号 Pit 跡	X = 36382 Y = -39660	54 × 42cm	23cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
24号 Pit 跡	X = 36383 Y = -39661	39 × 31cm	36cm	ほぼ円形	須恵器の杯	埋土は不明。	
25号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39658	34 × 30cm	25cm	楕円形	土師器の甕	埋土は不明。	
26号 Pit 跡	X = 36404 Y = -39658	42 × 42cm	20cm	円形	土師器の甕	埋土は不明。	
27号 Pit 跡	X = 36408 Y = -39661	45 × 40cm	19cm	楕円形	土師器の甕	埋土は不明。	
28号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39682	30 × 30cm	19cm	円形	土師器の甕、須恵器の杯	埋土は不明。	
29号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39685	47 × 33cm	16cm	楕円形	縄文土器の小片	埋土は不明。	
30号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39685	22 × 22cm	7cm	円形	土師器の甕	埋土は不明。	
31号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39686	31 × 29cm	16cm	ほぼ円形	土師器の甕	埋土は不明。	
32号 Pit 跡	X = 36402 Y = -39685	120 × 77cm	17cm	隅丸長方形	縄文土器の小片	埋土は不明。	
33号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39695	42 × 30cm	21cm	不定形	なし	埋土は不明。	
34号 Pit 跡	X = 36409 Y = -39694	26 × 24cm	13cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
35号 Pit 跡	X = 36402 Y = -39700	24 × 20cm	24cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
36号 Pit 跡	X = 36401 Y = -39699	30 × 24cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
37号 Pit 跡	X = 36403 Y = -39697	57 × 30cm	30cm	不定形	なし	埋土は不明。	
38号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39700	50 × 40cm	30cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
39号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39699	23 × 23cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
40号 Pit 跡	X = 36400 Y = -3970 1	34 × 33cm	21cm	円形	なし	埋土は不明。	
41号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39701	34 × 20cm	25cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
42号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39702	31 × 25cm	16cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
43号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39696	23 × 23cm	16cm	円形	なし	埋土は不明。	
44号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39696	27 × 23cm	31cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
45号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39697	18 × 17cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
46号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39696	23 × 22cm	11cm	円形	なし	埋土は不明。	
47号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39696	19 × 16cm	11cm	円形	なし	埋土は不明。	
48号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39695	(24) × 23cm	9cm	円形	なし	埋土は不明。	
49号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39696	31 × 30cm	17cm	円形	なし	埋土は不明。	
50号 Pit 跡	X = 36388 Y = -39696	28 × 23cm	20cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
51号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39693	50 × 42cm	25cm	不定形	なし	埋土は不明。	
52号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39693	(不明) × 34cm	28cm	楕円形か	なし	埋土は不明。	

第3章 検出遺構と出土遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	出土遺物	埋土	備考
53号 Pit 跡	X = 36389 Y = -39694	25 × 25cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
54号 Pit 跡	X = 36389 Y = -39693	32 × 28cm	24cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
55号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39690	30 × 28cm	17cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
56号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39688	25 × 23cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
57号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39686	40 × 32cm	22cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
58号 Pit 跡	X = 36393 Y = -39689	30 × 27cm	23cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
59号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39693	23 × 23cm	18cm	円形	なし	埋土は不明。	
60号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39694	32 × 27cm	12cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
61号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39691	29 × 23cm	25cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
62号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39691	25 × 20cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
63号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39690	27 × 25cm	12cm	円形	なし	埋土は不明。	
64号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39690	27 × 22cm	12cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
65号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39689	27 × 23cm	16cm	円形	なし	埋土は不明。	
66号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39688	19 × 19cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
67号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39689	29 × 26cm	19cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
68号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39687	26 × 23cm	26cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
69号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39688	25 × 25cm	13cm	円形	なし	埋土は不明。	
70号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39688	23 × 20cm	13cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
71号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39687	38 × 35cm	16cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
72号 Pit 跡	X = 36403 Y = -39688	30 × 25cm	17cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
73号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39688	30 × 27cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
74号 Pit 跡	X = 36407 Y = -39686	30 × 29cm	16cm	円形	なし	埋土は不明。	
75号 Pit 跡	X = 36407 Y = -39686	30 × 24cm	21cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
76号 Pit 跡	X = 36406 Y = -39685	34 × 27cm	16cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
77号 Pit 跡	X = 36406 Y = -39683	63 × 42cm	12cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
78号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39685	37 × 30cm	18cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
79号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39685	53 × 39cm	30cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
80号 Pit 跡	X = 36403 Y = -39683	61 × 40cm	24cm	不定形	なし	埋土は不明。	
81号 Pit 跡	X = 36411 Y = -39681	30 × 27cm	15cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
82号 Pit 跡	X = 36411 Y = -39677	30 × 30cm	18cm	円形	なし	埋土は不明。	
83号 Pit 跡	X = 36410 Y = -39679	130 × 89cm	16cm	隅丸長方形	なし	埋土は不明。	
84号 Pit 跡	X = 36409 Y = -39680	35 × 31cm	14cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
85号 Pit 跡	X = 36409 Y = -39671	25 × 22cm	19cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
86号 Pit 跡	X = 36402 Y = -39679	33 × 32cm	18cm	円形	なし	埋土は不明。	
87号 Pit 跡	X = 36402 Y = -39678	40 × 27cm	17cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
88号 Pit 跡	X = 36401 Y = -39679	32 × 26cm	16cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
89号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39682	17 × 17cm	10cm	円形	なし	埋土は不明。	
90号 Pit 跡	X = 36398 Y = -39682	24 × 22cm	24cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
91号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39680	28 × 24cm	25cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
92号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39684	33 × 28cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
93号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39681	32 × 30cm	26cm	不定形	なし	埋土は不明。	
94号 Pit 跡	X = 36393 Y = -39684	24 × 19cm	14cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
95号 Pit 跡	X = 36392 Y = -39681	27 × 24cm	15cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
96号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39678	60 × 44cm	21cm	不定形	なし	埋土は不明。	
97号 Pit 跡	X = 36385 Y = -39686	25 × 23cm	12cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
98号 Pit 跡	X = 36384 Y = -39682	35 × 35cm	18cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	出土遺物	埋土	備考
99号 Pit 跡	X = 36381 Y = -39686	45 × 40cm	21cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
100号 Pit 跡	X = 36386 Y = -39669	41 × 30cm	21cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
101号 Pit 跡	X = 36387 Y = -39665	32 × 26cm	17cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
102号 Pit 跡	X = 36386 Y = -39664	50 × 45cm	23cm	不定形	なし	埋土は不明。	
103号 Pit 跡	X = 36385 Y = -39663	48 × 48cm	24cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
104号 Pit 跡	X = 36385 Y = -39659	33 × 26cm	20cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
105号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39667	27 × 24cm	32cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
106号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39667	26 × 24cm	19cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
107号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39665	30 × 27cm	17cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
108号 Pit 跡	X = 36392 Y = -39667	22 × 18cm	14cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
109号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39665	25 × 17cm	12cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
110号 Pit 跡	X = 36392 Y = -39675	19 × 16cm	10cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
111号 Pit 跡	X = 36394 Y = -39676	29 × 26cm	19cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
112号 Pit 跡	X = 36394 Y = -39676	33 × 30cm	19cm	隅丸正方形	なし	埋土は不明。	
113号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39679	31 × 27cm	25cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
114号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39676	30 × 30cm	21cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
115号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39675	34 × 32cm	20cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
116号 Pit 跡	X = 36398 Y = -39677	48 × 34cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
117号 Pit 跡	X = 36398 Y = -39676	49 × 30cm	15cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
118号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39672	29 × 27cm	14cm	円形	なし	埋土は不明。	
119号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39667	23 × 23cm	10cm	円形	なし	埋土は不明。	
120号 Pit 跡	X = 36414 Y = -39665	35 × 33cm	19cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
121号 Pit 跡	X = 36414 Y = -39660	45 × 40cm	21cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
122号 Pit 跡	X = 36407 Y = -39657	30 × 28cm	17cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
123号 Pit 跡	X = 36407 Y = -39656	39 × 37cm	53cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
124号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39649	51 × 39cm	23cm	不定形	なし	埋土は不明。	
125号 Pit 跡	X = 36405 Y = -39651	39 × 32cm	17cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
126号 Pit 跡	X = 36403 Y = -39658	39 × 38cm	18cm	不定形	なし	埋土は不明。	
127号 Pit 跡	X = 36403 Y = -39664	67 × 52cm	15cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
128号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39668	28 × 19cm	18cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
129号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39667	31 × 26cm	13cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
130号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39666	43 × 32cm	17cm	不定形	なし	埋土は不明。	
131号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39664	34 × 34cm	15cm	不定形	なし	埋土は不明。	
132号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39662	54 × 46cm	17cm	不定形	なし	埋土は不明。	
133号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39662	40 × 35cm	22cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
134号 Pit 跡	X = 36398 Y = -39660	58 × 38cm	30cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
135号 Pit 跡	X = 36400 Y = -39658	40 × 37cm	25cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
136号 Pit 跡	X = 36401 Y = -39650	33 × 30cm	26cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
137号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39649	36 × 36cm	30cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
138号 Pit 跡	X = 36399 Y = -39652	48 × 42cm	10cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
139号 Pit 跡	X = 36397 Y = -39652	36 × 32cm	18cm	不定形	なし	埋土は不明。	
140号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39651	43 × 36cm	14cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
141号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39652	33 × 30cm	24cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
142号 Pit 跡	X = 36394 Y = -39652	29 × 27cm	17cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
143号 Pit 跡	X = 36396 Y = -39658	38 × 35cm	26cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	

第3章 検出遺構と出土遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	出土遺物	埋土	備考
144号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39659	43 × 41cm	39cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
145号 Pit 跡	X = 36394 Y = -39659	48 × 43cm	40cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
146号 Pit 跡	X = 36395 Y = -39657	38 × 34cm	27cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
147号 Pit 跡	X = 36394 Y = -39656	27 × 26cm	25cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
148号 Pit 跡	X = 36393 Y = -39656	36 × 32cm	24cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
149号 Pit 跡	X = 36392 Y = -39655	40 × 37cm	26cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
150号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39661	25 × 20cm	19cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
151号 Pit 跡	X = 36391 Y = -39659	38 × 32cm	24cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
152号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39659	23 × 20cm	20cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
153号 Pit 跡	X = 36390 Y = -39656	34 × 30cm	18cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
154号 Pit 跡	X = 36388 Y = -39655	36 × 33cm	18cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
155号 Pit 跡	X = 36388 Y = -39654	39 × 33cm	19cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
156号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39658	35 × 27cm	23cm	不定形	なし	埋土は不明。	
157号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39659	37 × 34cm	23cm	不定形	なし	埋土は不明。	
158号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39678	32 × 27cm	20cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
159号 Pit 跡	X = 36375 Y = -39669	50 × 46cm	28cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
160号 Pit 跡	X = 36372 Y = -39674	21 × 19cm	13cm	円形	なし	埋土は不明。	
161号 Pit 跡	X = 36370 Y = -39674	19 × 17cm	20cm	円形	なし	埋土は不明。	
162号 Pit 跡	X = 36369 Y = -39684	20 × 18cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
163号 Pit 跡	X = 36366 Y = -39676	37 × 33cm	18cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
164号 Pit 跡	X = 36365 Y = -39680	28 × 23cm	16cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
165号 Pit 跡	X = 36363 Y = -39679	29 × 22cm	19cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
166号 Pit 跡	X = 36363 Y = -39676	55 × 43cm	22cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
167号 Pit 跡	X = 36361 Y = -39681	22 × 19cm	18cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
168号 Pit 跡	X = 36360 Y = -39680	35 × 35cm	26cm	円形	なし	埋土は不明。	
169号 Pit 跡	X = 36360 Y = -39677	23 × 21cm	17cm	円形	なし	埋土は不明。	
170号 Pit 跡	X = 36360 Y = -39676	36 × 29cm	23cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
171号 Pit 跡	X = 36360 Y = -39676	24 × 19cm	25cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
172号 Pit 跡	X = 36359 Y = -39677	21 × 20cm	15cm	円形	なし	埋土は不明。	
173号 Pit 跡	X = 36356 Y = -39679	25 × 23cm	22cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	
174号 Pit 跡	X = 36353 Y = -39680	35 × 27cm	24cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
175号 Pit 跡	X = 36350 Y = -39678	27 × 27cm	21cm	不定形	須恵器の杯	埋土は不明。	
176号 Pit 跡	X = 36350 Y = -39677	22 × 22cm	18cm	円形	なし	埋土は不明。	
177号 Pit 跡	X = 36368 Y = -39580	22 × 21cm	11cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
178号 Pit 跡	X = 36369 Y = -39583	26 × 23cm	15cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
179号 Pit 跡	X = 36369 Y = -39582	43 × 41cm	21cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
180号 Pit 跡	X = 36370 Y = -39581	50 × 30cm	17cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
181号 Pit 跡	X = 36370 Y = -39580	30 × 26cm	9cm	円形	土師器の糞	微量の白色軽石を含む。	
182号 Pit 跡	X = 36373 Y = -39583	65 × 35cm	16cm	不定形	なし		
183号 Pit 跡	X = 36377 Y = -39583	35 × 35cm	25cm	円形	なし		
184号 Pit 跡	X = 36378 Y = -39582	36 × 34cm	39cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
185号 Pit 跡	X = 36378 Y = -39582	36 × 28cm	30cm	楕円形	縄文土器の小片	微量の白色軽石を含む。	
186号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39580	38 × 30cm	15cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
187号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39580	30 × 25cm	9cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
188号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39579	30 × 28cm	20cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
189号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39579	30 × 28cm	20cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	出土遺物	埋土	備考
190号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39578	33 × 26cm	14cm	楕円形	須恵器の甕	微量の白色軽石を含む。	
191号 Pit 跡	X = 36381 Y = -39577	30 × 26cm	15cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
192号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39578	29 × 28cm	9cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
193号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39578	30 × 26cm	17cm	楕円形	縄文土器の小片	微量の白色軽石を含む。	
194号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39577	32 × 26cm	21cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
195号 Pit 跡	X = 36381 Y = -39576	34 × 33cm	12cm	円形	剥片 (チャート)	微量の白色軽石を含む。	
196号 Pit 跡	X = 36371 Y = -39582	57 × 35cm	12cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
197号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39589	28 × 21cm	9cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
198号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39590	24 × 24cm	10cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	
199号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39589	38 × 35cm	16cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	
200号 Pit 跡	X = 36381 Y = -39589	24 × 22cm	12cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	
201号 Pit 跡	X = 36382 Y = -39588	43 × 24cm	16cm	不定形	なし	少量の白色軽石を含む。	
202号 Pit 跡	X = 36379 Y = -39587	30 × 26cm	9cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
203号 Pit 跡	X = 36387 Y = -39590	50 × 38cm	13cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
204号 Pit 跡	X = 36384 Y = -39590	35 × 31cm	12cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
205号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39584	30 × 23cm	12cm	楕円形	なし		
206号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39589	15 × 14cm	9cm	円形	なし		
207号 Pit 跡	X = 36381 Y = -39576	23 × 20cm	7cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
208号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39573	35 × 32cm	20cm	不定形	なし	微量の白色軽石を含む。	
209号 Pit 跡	X = 36365 Y = -39573	48 × 36cm	32cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
210号 Pit 跡	X = 36365 Y = -39574	28 × 27cm	10cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
211号 Pit 跡	X = 36364 Y = -39573	31 × 25cm	26cm	楕円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
212号 Pit 跡	X = 36363 Y = -39574	34 × 33cm	32cm	円形	なし	微量の白色軽石を含む。	
213号 Pit 跡	X = 36373 Y = -39576	33 × 32cm	21cm	円形	土師器の甕、須恵器の甕		
214 ~ 300号 Pit まで欠番							
301号 Pit 跡	X = 36362 Y = -39566	37 × 35cm	23cm	楕円形	なし	少量の白色軽石を含む。	27号住居に伴う屋外柱穴の可能性が ある。
302号 Pit 跡	X = 36362 Y = -39568	70 × 35cm	24cm	不定形	なし	少量の白色軽石を含む。	27号住居に伴う屋外柱穴の可能性が ある。
303号 Pit 跡	X = 36362 Y = -39569	36 × 35cm	15cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	27号住居に伴う屋外柱穴の可能性が ある。
304号 Pit 跡	X = 36361 Y = -39570	42 × 39cm	23cm	円形	なし	白色軽石を含む。	27号住居に伴う屋外柱穴の可能性が ある。
305号 Pit 跡	X = 36372 Y = -39580	18 × 16cm	17cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	柱穴列の可能性が ある。
306号 Pit 跡	X = 36373 Y = -39578	18 × 16cm	8cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	柱穴列の可能性が ある。
307号 Pit 跡	X = 36373 Y = -39577	38 × 35cm	7cm	楕円形	なし	少量の白色軽石を含む。	柱穴列の可能性が ある。
308号 Pit 跡	X = 36373 Y = -39575	25 × 24cm	6cm	円形	なし	少量の白色軽石を含む。	柱穴列の可能性が ある。
309号 Pit 跡	X = 36374 Y = -39573	25 × 19cm	8cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
310 ~ 400号 Pit まで欠番							
401号 Pit 跡	X = 36402 Y = -39696	27 × 22cm	23cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
402号 Pit 跡	X = 36380 Y = -39695	39 × 33cm	47cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
403号 Pit 跡	X = 36375 Y = -39693	31 × 23cm	14cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
404号 Pit 跡	X = 36361 Y = -39687	30 × 23cm	21cm	不定形	なし	埋土は不明。	
405号 Pit 跡	X = 36358 Y = -39688	71 × 48cm	28cm	不定形	なし	埋土は不明。	
406号 Pit 跡	X = 36352 Y = -39686	25 × 24cm	20cm	円形	なし	埋土は不明。	
407号 Pit 跡	X = 36352 Y = -39685	40 × 32cm	18cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
408号 Pit 跡	X = 36350 Y = -39688	31 × 25cm	18cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
409号 Pit 跡	X = 36349 Y = -39685	20 × 17cm	24cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
410号 Pit 跡	X = 36349 Y = -39685	43 × 31cm	30cm	楕円形	なし	埋土は不明。	
411号 Pit 跡	X = 36357 Y = -39659	29 × 26cm	37cm	ほぼ円形	なし	埋土は不明。	

第3章 検出遺構と出土遺物

5 井戸跡

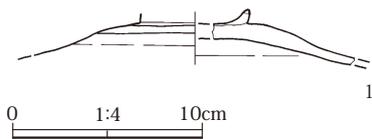
1・2区1号井戸跡(旧称1・2区SE-1)

位置: X=36378 Y=-39642 規模: 105×102cm 深度: 113cm

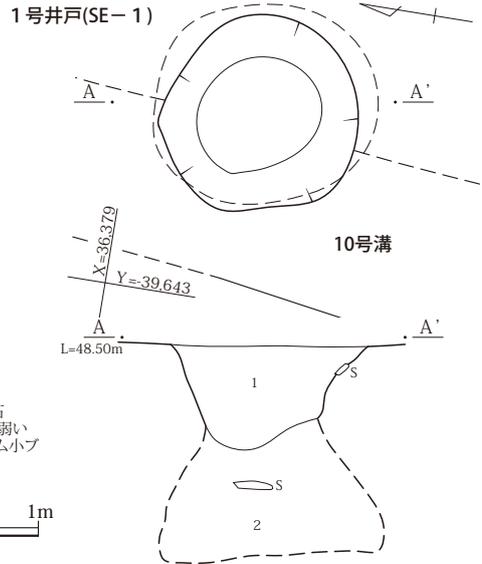
形状: 平面形は円形、断面形状はフラスコ状を呈する。

重複遺構: 10号溝跡と重複し、相互の埋土の様相より溝跡の方が古いものと判断される。 出土遺物: 埋土中より須恵器蓋の小片、須恵器甕の小片、須恵器杯の小片、土師器杯の小片が出土している。

所見: 断面形状から察して、井戸枠を持たない素掘り井戸と考えられる。



1号井戸 埋土
1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石
(椽名ニッ岳・浅間C)を含みしまり弱い
2層 暗褐色土(10YR 3/3) 少量の黄色砂質ローム小ブ
ロック(φ5~15mm)を含む



第304図 1・2区1号井戸跡平・断面図、出土遺物

1・2区1号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	埋土中 天井部 破片	口径 - 摘径 5.5 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面: 天井部上半ヘラ削り、天井部下半横ナデ。摘み貼付。 内面: 天井部回転ナデ。	

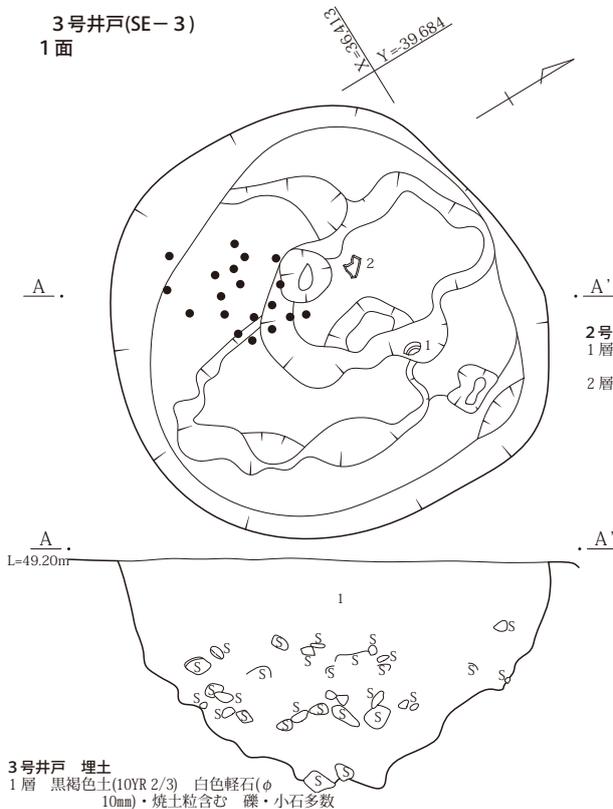
1・2区2号井戸跡(旧称1・2区SE-2)

位置: X=36362 Y=-39633 規模: 158×141cm

深度: 113cm 形状: 平面形状は隅丸方形、断面形状は筒状を呈する。 重複遺構: なし 出土遺物: なし

所見: 平面形状が方形を呈し、断面にも抉れがみられないことから、木組みの井戸枠が設置されていた可能性が高い。

3号井戸(SE-3)
1面



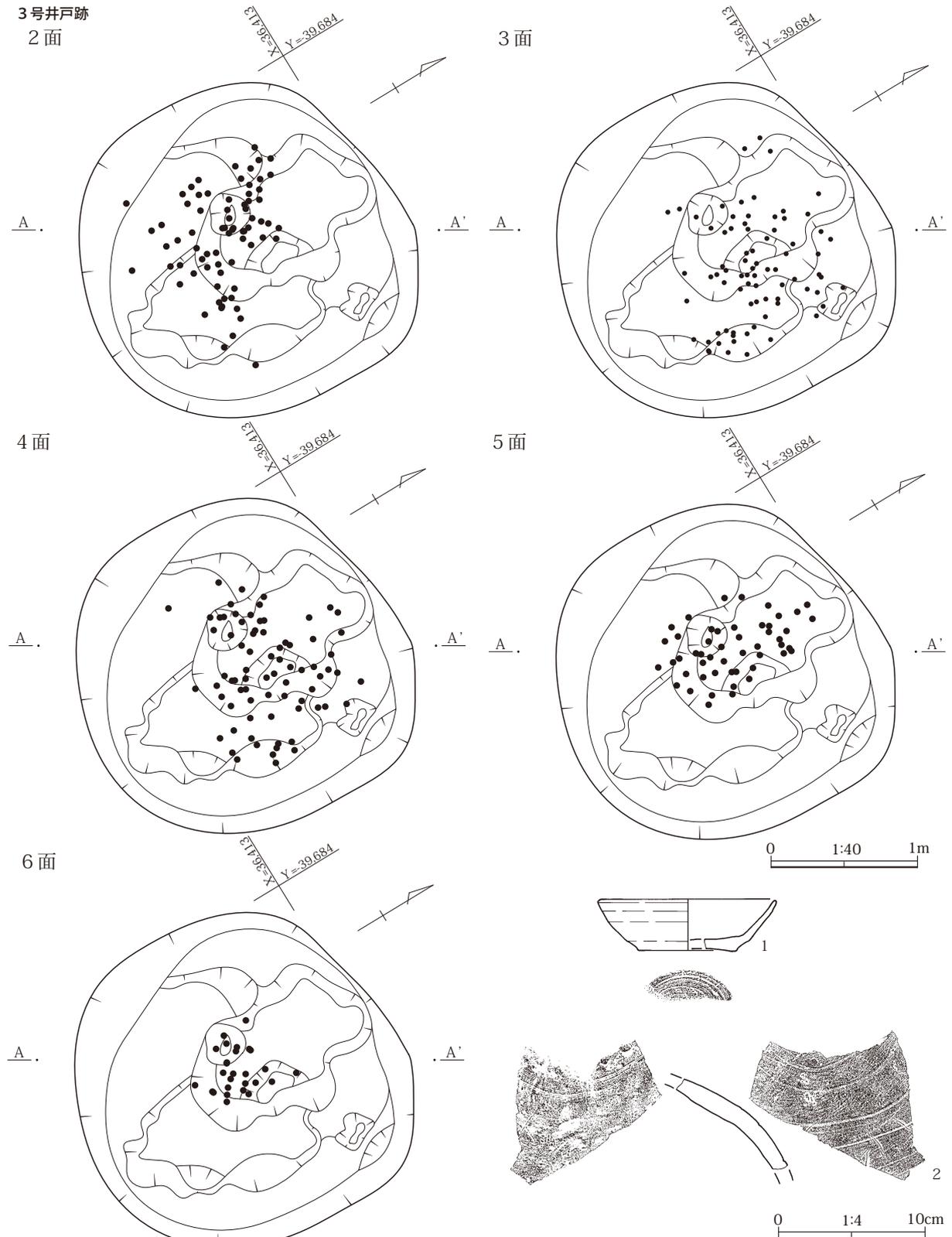
2号井戸 埋土
1層 暗褐色土(10YR 3/4) 白色軽石(φ
50mm)・黄褐色土粒含む
2層 暗褐色土(10YR 3/3) 黄褐色土粒
(φ50mm)ブロック状・礫含
む 東側上部より1m黄褐
土まざり込む

1・2区3号井戸跡(旧称1・2区SE-3)

位置: X=36412 Y=-39683 規模: 242×230cm

深度: 136cm 形状: 平面形状は円形、断面形状は掘り鉢状を呈する。 重複遺構: なし 出土遺物: 須恵器杯と須恵器瓶の小片が出土している。 所見: 埋土中には多量の円礫が含まれていることから、崩落が著しく形状の復元が難しいが、石組みの井戸枠が存在していた可能性が高い。

第305図 1・2区2・3号井戸跡平・断面図



第306図 1・2区3号井戸跡平面図、出土遺物

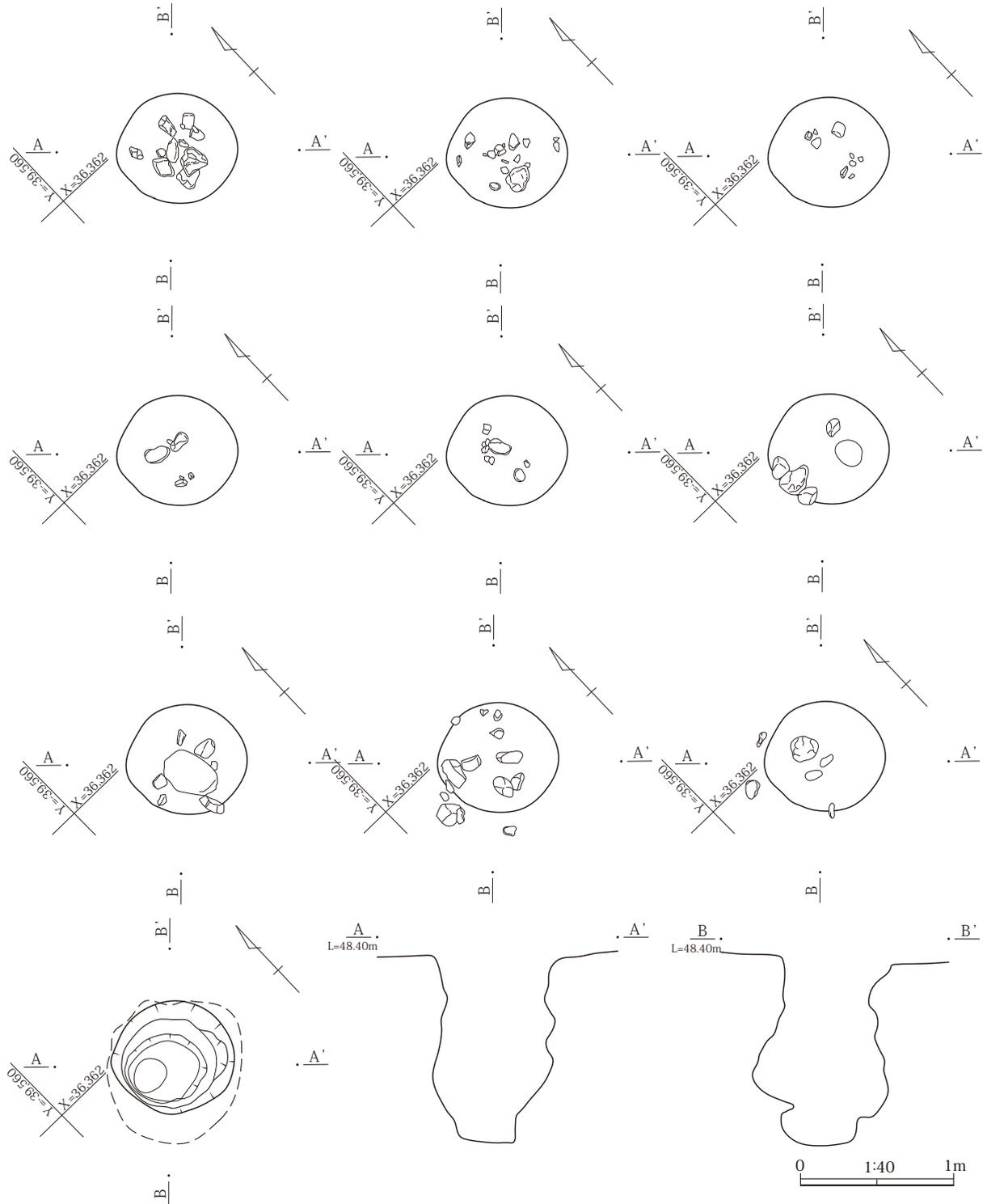
1・2区3号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	底面+85cm 口縁部~底部 破片	口径 11.8 底径 6.5 器高 3.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 瓶	底面+73cm 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 4/0)	外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ調整。	

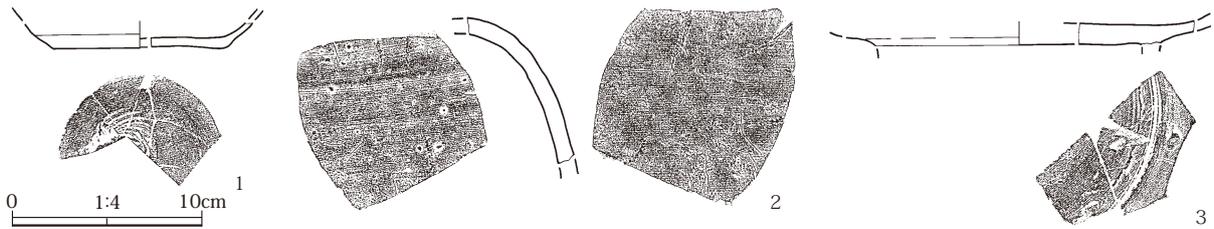
第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区4号井戸跡 (旧称1・2区SK-31)

位置：X=36362 Y=-39559 規模：80×73.5cm 深度：126cm 形状：平面形状は円形、断面形状は不定形を呈する。
 重複遺構：なし 出土遺物：埋土中より須恵器杯・甕片が出土している。また、黒色土器盤は付近にある27号住居跡カマドから出土した破片と接合する。 所見：埋土中に小円礫が含まれ石組みの井戸枠も想定されるが、礫の量が少なく、井戸断面の各所が抉れていることから、素掘り井戸であったと考えられる。



第307図 1・2区4号井戸跡平・断面図



第308図 1・2区4号井戸跡出土遺物

1・2区4号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 9.0 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰オリーブ(5Y 5/2)	ロクロ整形。 外面：底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 長頸壺	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗灰(N 3/0)	ロクロ整形。 外面：胴部回転ナデ。 内面：胴部回転ナデ調整。	
3	黒色土器 盤	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 ③ にぶい橙(7.5Y 7/3)	外面：底部回転ナデ。高台貼付。 内面：底部ナデ調整。ヘラ磨き。内面燻し。	27号住カマド埋土の土器と接合。

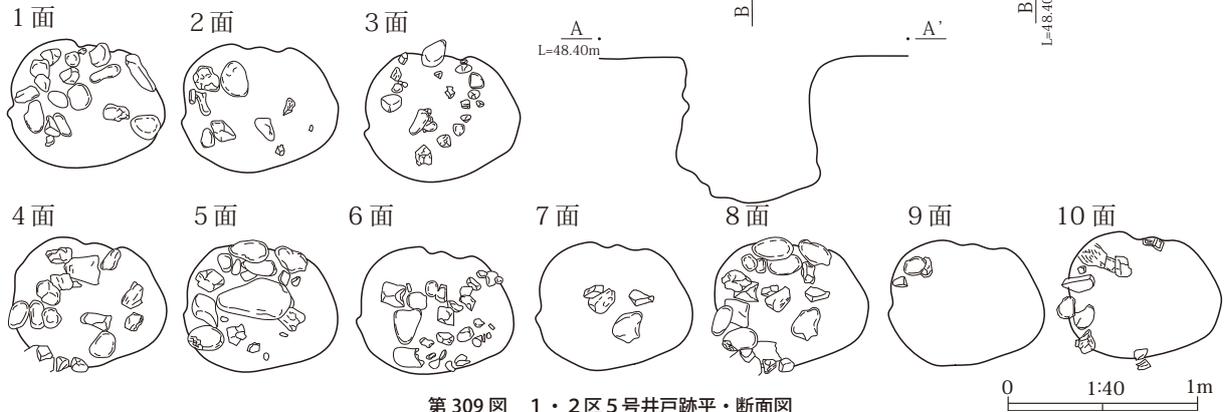
1・2区5号井戸跡 (旧称1・2区SK-33)

位置：X=36362 Y=-39554

規模：87×66cm 深度：79cm 形状：平面形状は円形、断面形状は不定形を呈する。重複遺構：なし

出土遺物：土師器甕の小片が出土している。

所見：埋土中には多量の円礫が含まれていることから、崩落が著しく形状の復元が難しいが、石組みの井戸枠が存在していた可能性が高い。



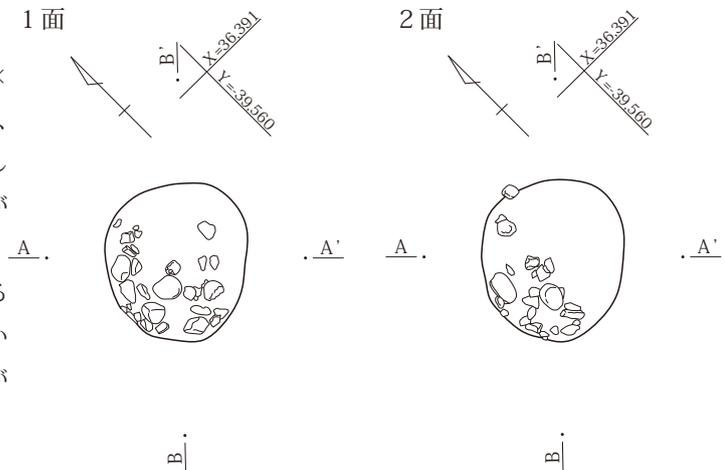
第309図 1・2区5号井戸跡平・断面図

1・2区6号井戸跡 (旧称1・2区SK-35)

位置：X=36390 Y=-39561 規模：80×75cm 深度：143cm 形状：平面形状は楕円形、断面形状は不定形を呈する。重複遺構：なし

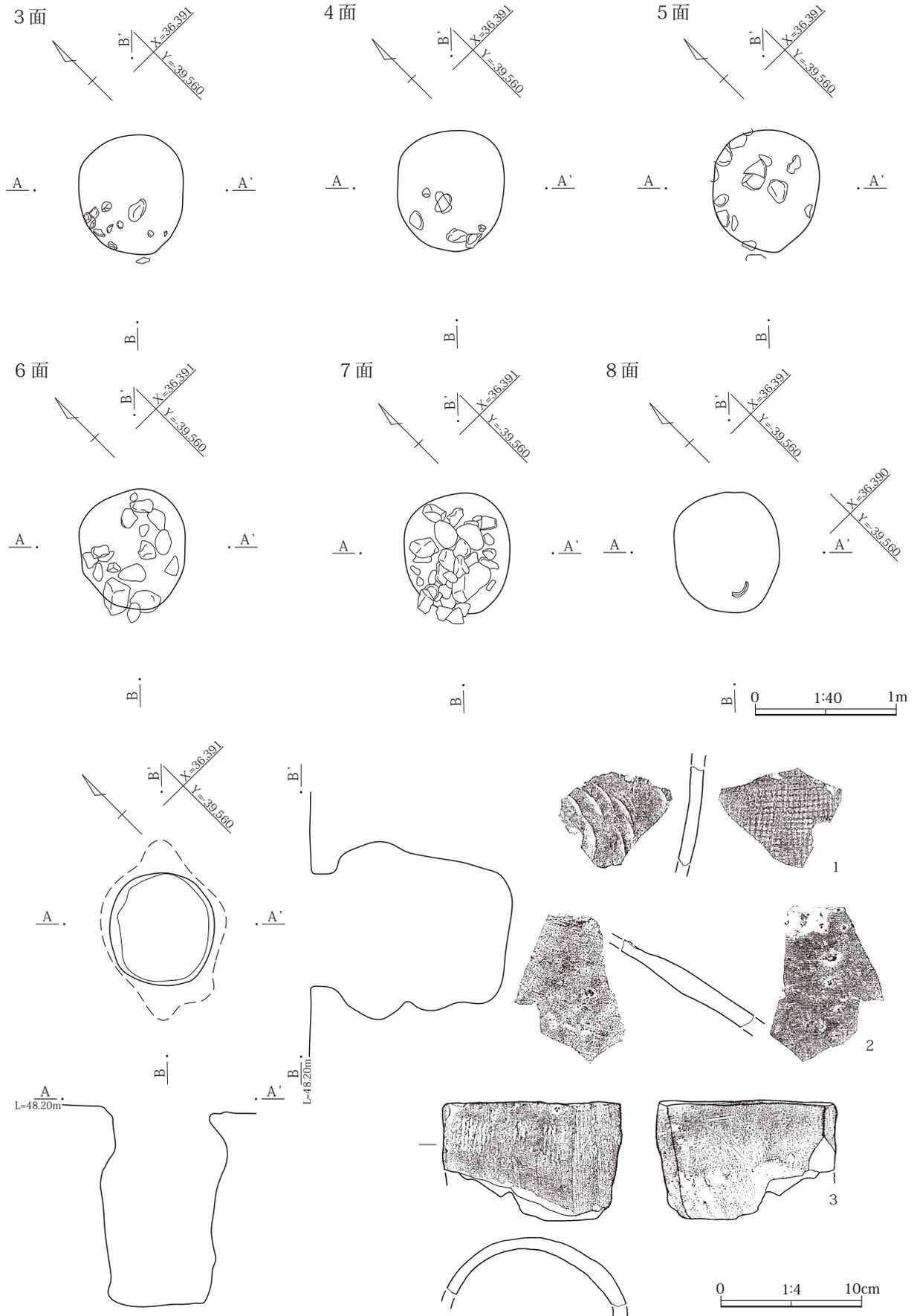
出土遺物：平瓦、須恵器甕片、土師器小片が出土している。

所見：埋土中には多量の円礫が含まれていることから、崩落が著しく形状の復元が難しいが、石組みの井戸枠が存在していた可能性が高い。



第310図 1・2区6号井戸跡平面図(1)

第3章 検出遺構と出土遺物



第311図 1・2区6号井戸跡平・断面図(2)、出土遺物

1・2区6号井戸跡出土遺物観察表

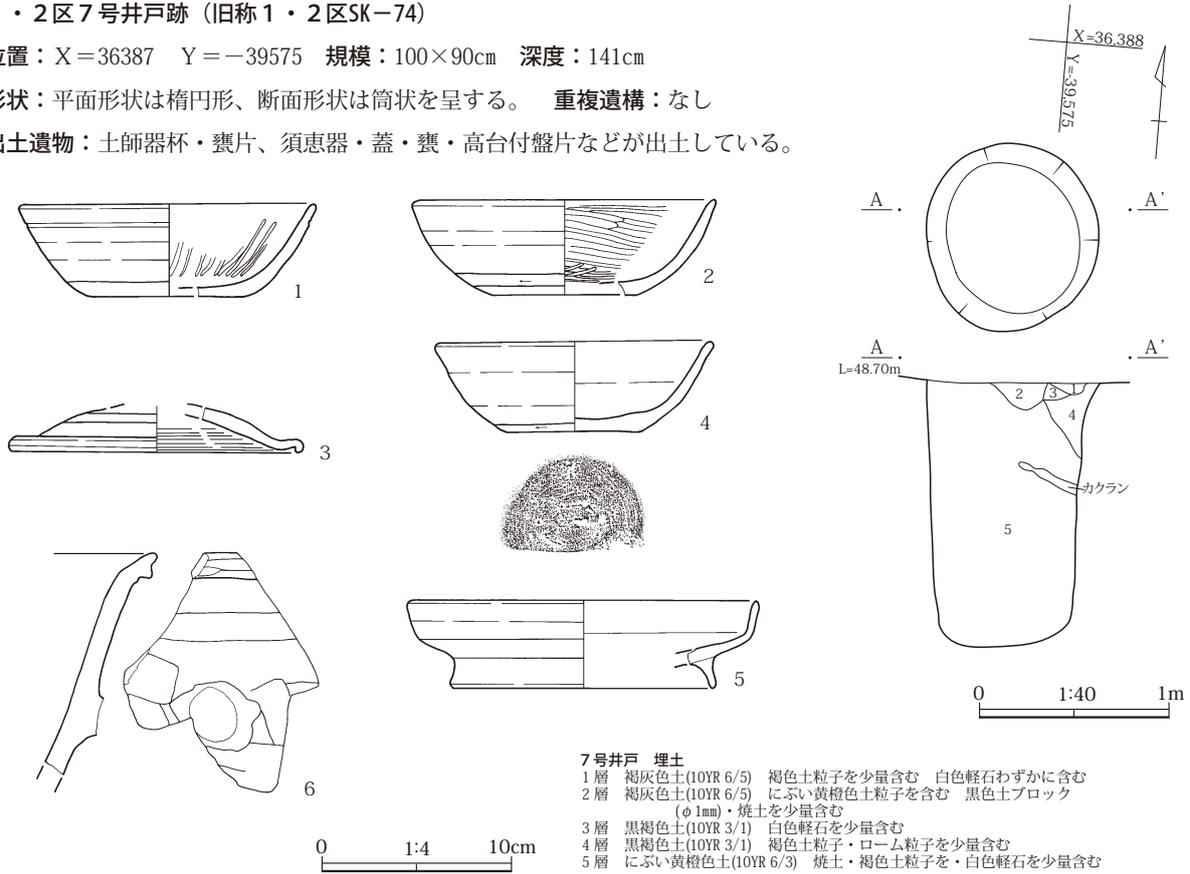
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 甕	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 5/1)	ロクロ整形。 外面：胴部格子叩き目。 内面：胴部アテ具痕。	
2	須恵器 甕	埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ黄(5Y 6/3)	ロクロ整形。 外面：胴部自然釉付着。 内面：アテ具痕がかすかに残る。	胴部外面に自然 釉付着。
3	土製品 丸瓦	底面直上 破片	頭巾 尻巾 — 側面長 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・中礫 ② 焼締 ③ 黒(2.5Y 2/1)	内外面へラ削り。 厚さ1.7cm	

1・2区7号井戸跡(旧称1・2区SK-74)

位置：X=36387 Y=-39575 規模：100×90cm 深度：141cm

形状：平面形状は楕円形、断面形状は筒状を呈する。 重複遺構：なし

出土遺物：土師器杯・甕片、須恵器・蓋・甕・高台付盤片などが出土している。



第312図 1・2区7号井戸跡平・断面図、出土遺物

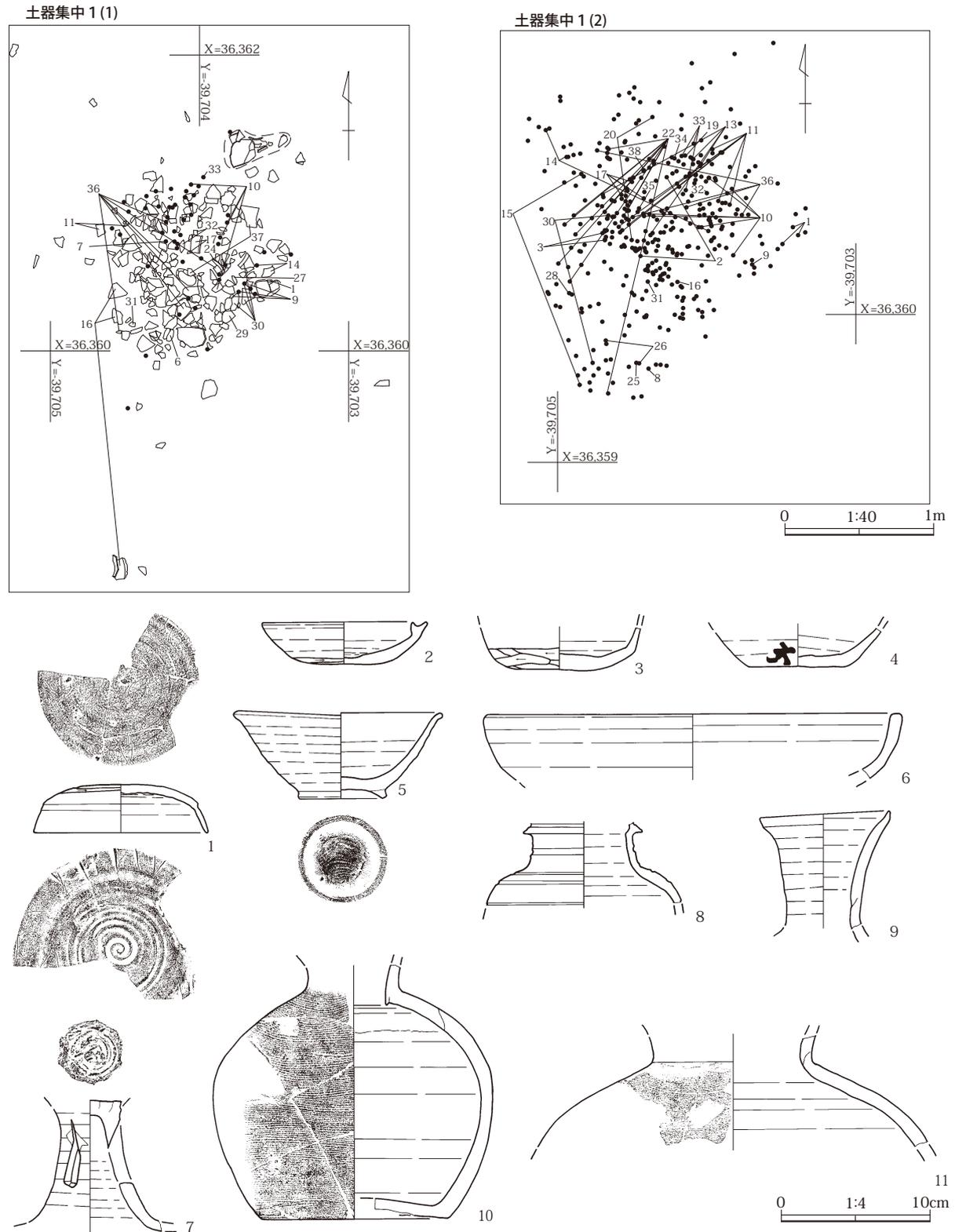
1・2区7号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 15.4 底径 8.0 器高 4.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下位と底部回転へラ切り。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整、底部ナデ調整後、へラ磨き。後体部に斜放射状暗文。	
2	黒色土器 椀	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 15.7 底径 7.4 器高 5.0	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下位に2段の回転へラ削り。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整後、へラ磨き。内面焼し。	
3	須恵器 杯蓋	埋土中 口縁部～天井部 破片	口径 15.0 摘径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：天井部上半へラ削り、天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	
4	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 1/3	口径 14.2 底径 7.0 器高 4.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転へラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 高台付盤	埋土中 口縁部～底部 破片	口径 18.2 底径 13.7 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	
6	須恵器 甕	埋土中 口縁部～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～胴部回転ナデ。胴部に把手貼付。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。	把手貼付。

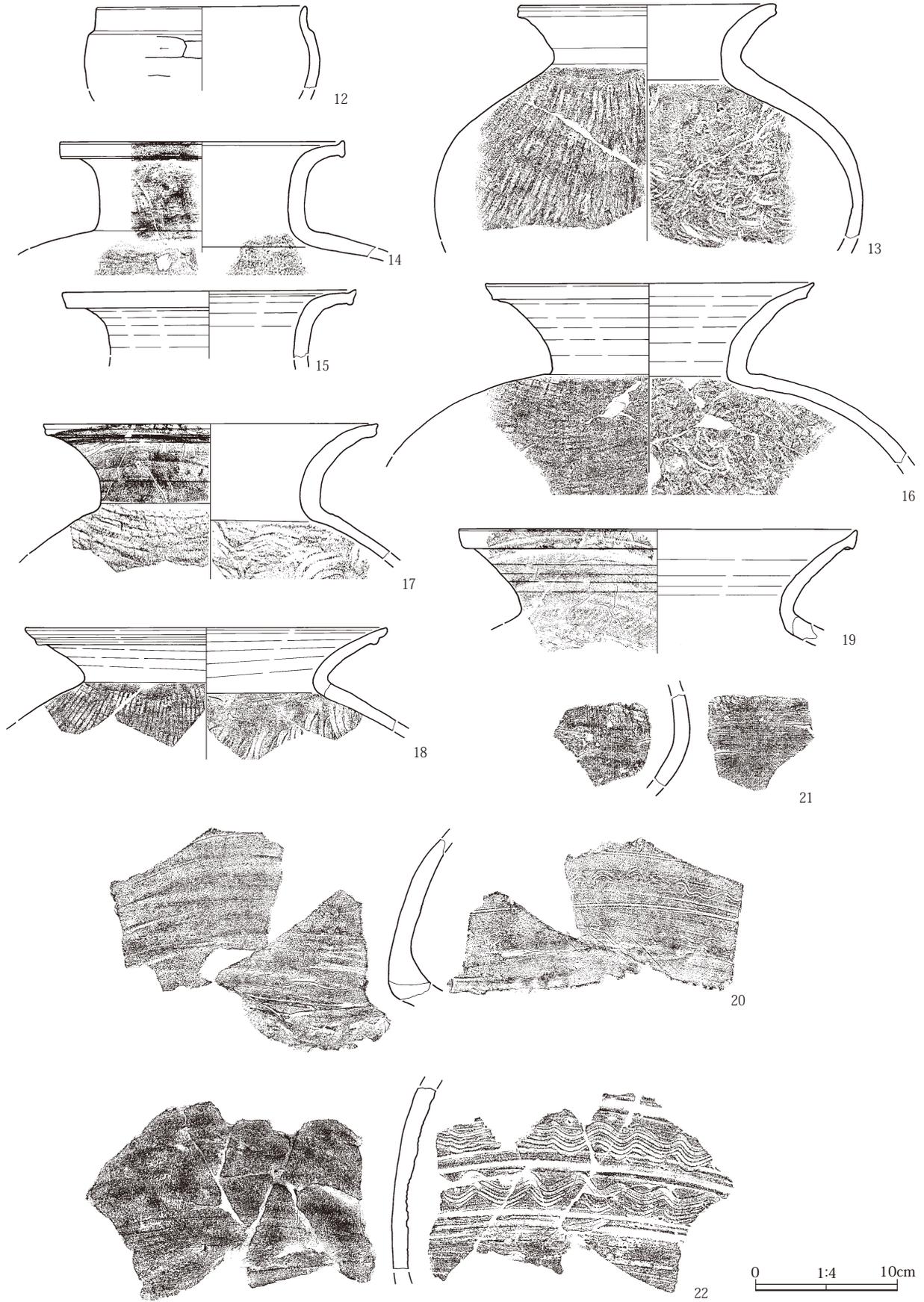
第3章 検出遺構と出土遺物

6 その他の遺構

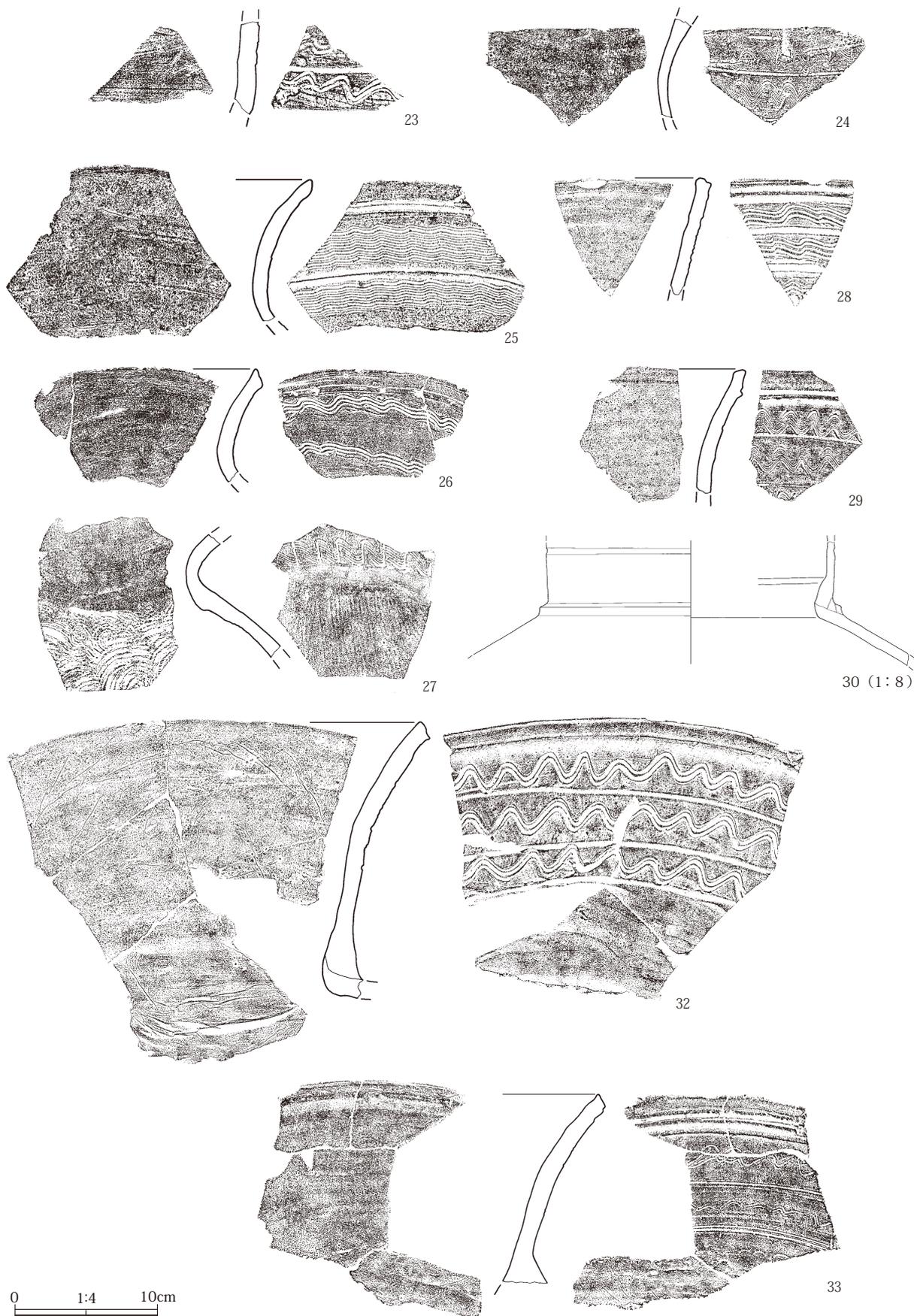
1・2区1号土器集中 位置：X = 36360 Y = -39704 重複遺構：なし 出土遺物・所見：掘り込みを伴わず、他の遺構確認面よりやや高い標高約49.50mの面の1.5m四方ほどの範囲で、659点の遺物が集中して出土する。出土遺物の中には窯内で溶着し歪んだ須恵器大甕片も多く含まれ、祭祀献上遺物とは考えにくい。



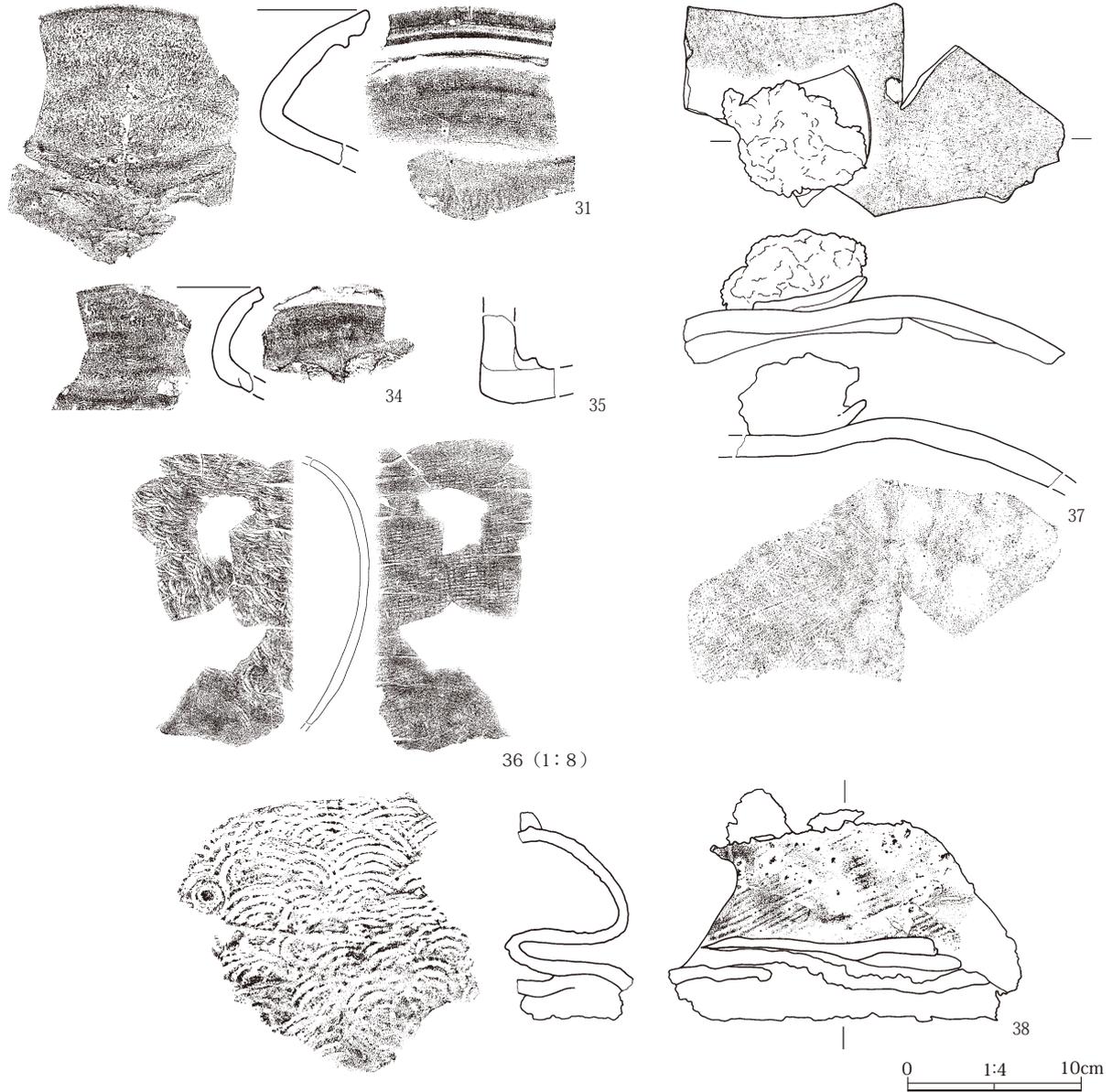
第313図 1・2区1号土器集中平面図、出土遺物(1)



第314図 1・2区1号土器集中出土遺物(2)



第315図 1・2区1号土器集中出土遺物(3)



第316図 1・2区1号土器集中出土遺物(4)

1・2区1号土器集中出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	口縁部～天井部 2/3	口径 11.5 底径 — 器高 3.25	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(10Y 6/1)	ロクロ整形、回転右回り。 外面：天井部上半は回転ヘラ削り。天井部周辺部に凹線が1条巡る。 内面：天井部から口縁部はナデ。	
2	須恵器 杯身	口縁部～底部 1/4	口径 11.0 底径 — 器高 2.7	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 灰白(N 8/0)	ロクロ整形、回転右回り。 外面：口縁部から体部はナデ、底部は回転ヘラ削り。 内面：ナデ、口縁部に蓋受けが貼付。	
3	須恵器 杯	底部 3/4	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(10Y 6/1)	ロクロ整形、回転右回りか。 外面：体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：体部・底部ともナデ。	
4	須恵器 杯	体部下端～底部 破片	口径 — 底径 6.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	胴部外面に墨書。
5	須恵器 椀	口縁部～底部 1/2	口径 13.6 底径 5.8 器高 5.9	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 盤	口縁部 破片	口径 27.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黒褐(2.5Y 3/1)	ロクロ整形、内面に降灰付着 外面：脚部ナデ 内面：脚部ナデ	
7	須恵器 高杯	脚部 上半	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形、杯身は貼付。脚部上半に3面透かし 外面：脚部ナデ 内面：脚部ナデ	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区1号土器集中出土遺物観察表

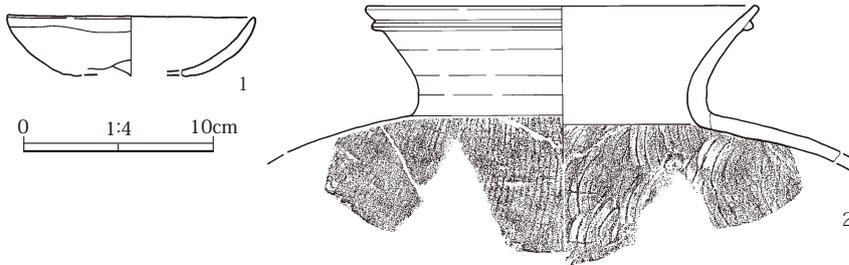
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
8	須恵器 瓶	頸部～胴部上半 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 青黒(5B 2/1)	ロクロ整形、回転方向不明確。 外面：口縁部に小凸帯、口縁部から胴部に5条の凹線が巡る。 内面：口縁部から胴部ナデ。	
9	須恵器 長頸壺	口縁部～頸部 破片	口径 8.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 青黒(5BG 1.7/1)	ロクロ整形、内面に降灰付着 外面：脚部ナデ 内面：脚部ナデ	
10	須恵器 長頸壺	頸部上欠損、 胴部～底部1/2	口径 — 底径 12.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形、回転右回りか。内面に輪積み痕が残る。頸部 で口縁部を貼付。 外面：胴部は最下部は回転ヘラ削り、その上位から頸部ま ではカキ目。底部は器面剥離。 内面：胴部はナデ。	
11	須恵器 壺	頸部～胴部上位 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：胴部はカキ目。 内面：胴部はナデ。	
12	土師器 壺か	口縁部～胴部 破片	口径 14.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面：口縁部～胴部横ナデ。	
13	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 17.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 明赤褐(5YR 3/2)	胴部輪積み、口縁部ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ、胴部平行叩き。 内面：口縁部横ナデ、胴部同心円状アテ具痕が残る。	
14	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 19.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 浅黄(2.5Y 7/3)	口縁部ロクロ整形 外面：口縁部ナデ、胴部は回転によるカキ目か 内面：口縁部ナデ、胴部は縦方向カキ目か	
15	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 20.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形。 外面：口縁部下半に縦方向カキ目が残る。カキ目後ナデ。 内面：口縁部ナデ。	
16	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 23.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(7.5Y 6/1)	口縁部ロクロ整形、胴部輪積み 外面：口縁部ナデ、胴部は平行叩き痕後ナデ。 内面：口縁部ナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
17	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 23.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 1/6)	口縁部ロクロ整形、胴部輪積み 外面：口縁部ナデ、胴部は格子目状叩き後、ナデ、叩き痕 はかすかに残る。 内面：口縁部ナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
18	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 25.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形、胴部は輪積みか、頸部で口縁部と胴部を貼付。 外面：口縁部ナデ、胴部は平行叩き痕が残る。 内面：口縁部はナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
19	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 27.9 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 黄褐(10YR 5/6)	ロクロ整形、頸部で胴部と貼付。 外面：口縁部下半に縦方向カキ目が残る。カキ目後ナデ。 内面：口縁部ナデ。	
20	須恵器 甗	頸部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄(2.5Y 6/3)	ロクロ整形、頸部で胴部と貼付。 外面：凹線区画内に2段の波状文。 内面：	
21	須恵器 壺	胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。 外面：カキ目。 内面：胴部ナデ。	
22	須恵器 甗	頸部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰褐(5YR 4/2)	ロクロ整形 外面：口縁部上半凹線による区画、区画内に波状文 内面：口縁部ナデ。	
23	須恵器 甗	胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗灰(N 3/0)	ロクロ整形。 外面：凹線による区画とその間に波状文を施文。 内面：胴部ナデ。	
24	須恵器 甗	頸部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 青黒(5BG 1.7/1)	ロクロ整形 外面：口縁部上半凹線による区画、区画内に波状文 内面：口縁部ナデ。	
25	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 暗青灰(5BG 3/1)	口縁部ロクロ整形 外面：凹線と小凸帯による区画、区画内に波状文 内面：口縁部ナデ。	
26	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形 外面：口縁部に2段の波状文 内面：口縁部ナデ。	
27	須恵器 甗	頸部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 5/0)	口縁部ロクロ整形、胴部輪積み 外面：口縁部には波状文、胴部は降灰が付着し、整形不明。 内面：口縁部はナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
28	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 青灰(5PB 5/1)	ロクロ整形、胴部とは頸部で貼付。 外面：口縁部凹線によって区画され、3段の波状文。 内面：口縁部はナデ。	
29	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 暗灰(N 3/0)	ロクロ整形、胴部とは頸部で貼付。 外面：口縁部凹線によって区画され、3段の波状文。 内面：口縁部はナデ。	
30	須恵器 甗	頸部～胴部上位 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 暗赤灰(2.5YR 3/1)	口縁部と胴部は頸部で貼付後補強帯を巡らす。 外面：口縁部はナデ。胴部は平行叩き痕がかすかに残る。 内面：口縁部・胴部ともナデ。	
31	須恵器 甗	口縁部～胴部上位 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 暗灰(N 3/0)	口縁部ロクロ整形 外面：口縁部ナデ、胴部は降灰が付着のため整形不明。 内面：口縁部ナデ、胴部はアテ具痕が残る。	
32	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 暗灰(N 3/0)	ロクロ整形、胴部とは頸部で貼付。 外面：口縁部上半は3条の凹線によって区画され、3段の 波状文、下半はナデ。 内面：口縁部はナデ。	
33	須恵器 甗	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄(2.5Y 6/3)	ロクロ整形、口縁部と胴部は頸部で貼付。 外面：上半は凹線による区画、区画内に難な波状文。 内面：口縁部はナデ。	

1・2区1号土器集中出土遺物観察表

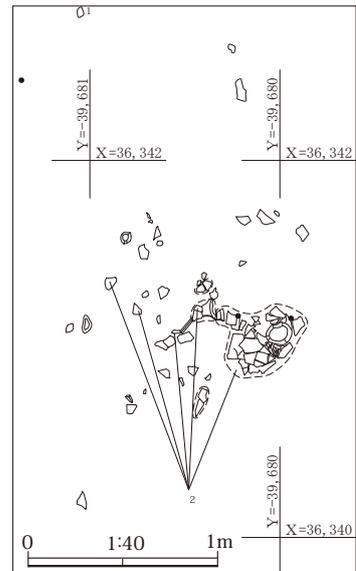
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
34	須恵器 甕	口縁部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰白(N 8/0)	ロクロ整形 外面：口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ	
35	須恵器 甕	頸部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 ③ オリーブ黒(5GY 2/1)	胴部と口縁部は頸部で接合後補強帯を貼付。 外面：降灰が厚く付着。 内面：口・胴部ともナデ	
36	須恵器 甕	胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 5/0)		
37	須恵器 甕	胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 5/0)		
38	須恵器 甕	胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 粗砂粒 ② 還元焰 ③ 灰(N 6/0)		

1・2区2号土器集中

位置：X=36341 Y=-39680 重複遺構：3号溝跡と重複するが、遺構確認時の様相から溝跡の方が古いものと判断される。出土遺物・所見：土師器杯3点、須恵器杯1点、須恵器甕53点、土師器甕10点などが1.5m四方の範囲で出土しており、1号土器集中と同時期のものと考えられる。



第317図 1・2区2号土器集中平面図、出土遺物

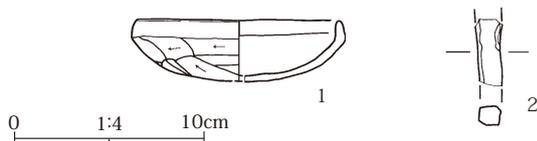


1・2区2号土器集中出土遺物観察表

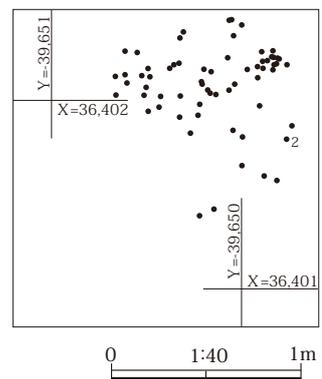
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	口縁部～底部 破片	口径 12.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 7/6)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	須恵器 甕	口縁部～胴部上位 破片	口径 20.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/4)	口縁部はロクロ整形、胴部とは頸部で貼付。 外面：口縁部はナデ、胴部は平行叩き痕が残る。 内面：口縁部はナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	

1・2区4号土器集中

位置：X=36402 Y=-39650 重複遺構：なし。出土遺物・所見：土師器杯16点、土師器甕267点、須恵器杯4点、須恵器甕11点が出土している。他の遺構確認面よりやや高い標高約49.20mの面よりの出土で、1・2号土器集中と同時期のものと考えられる。



第318図 1・2区4号土器集中平面図、出土遺物



1・2区4号土器集中出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	口径 10.6 底径 — 器高 3.2	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部手持ちナデ。	
2	須恵器 不明	台部の一部のみ残存	口径 — 脚径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黄灰2.5Y 6/2)	表面：縦方向のヘラ削り。	

第3章 検出遺構と出土遺物

1・2区1号不明遺構(旧称=1・2区SX-01)

位置：X=36362 Y=-39591 主軸方向：N-24° -W 規模：7.6m×7.6m 形状：隅丸正方形

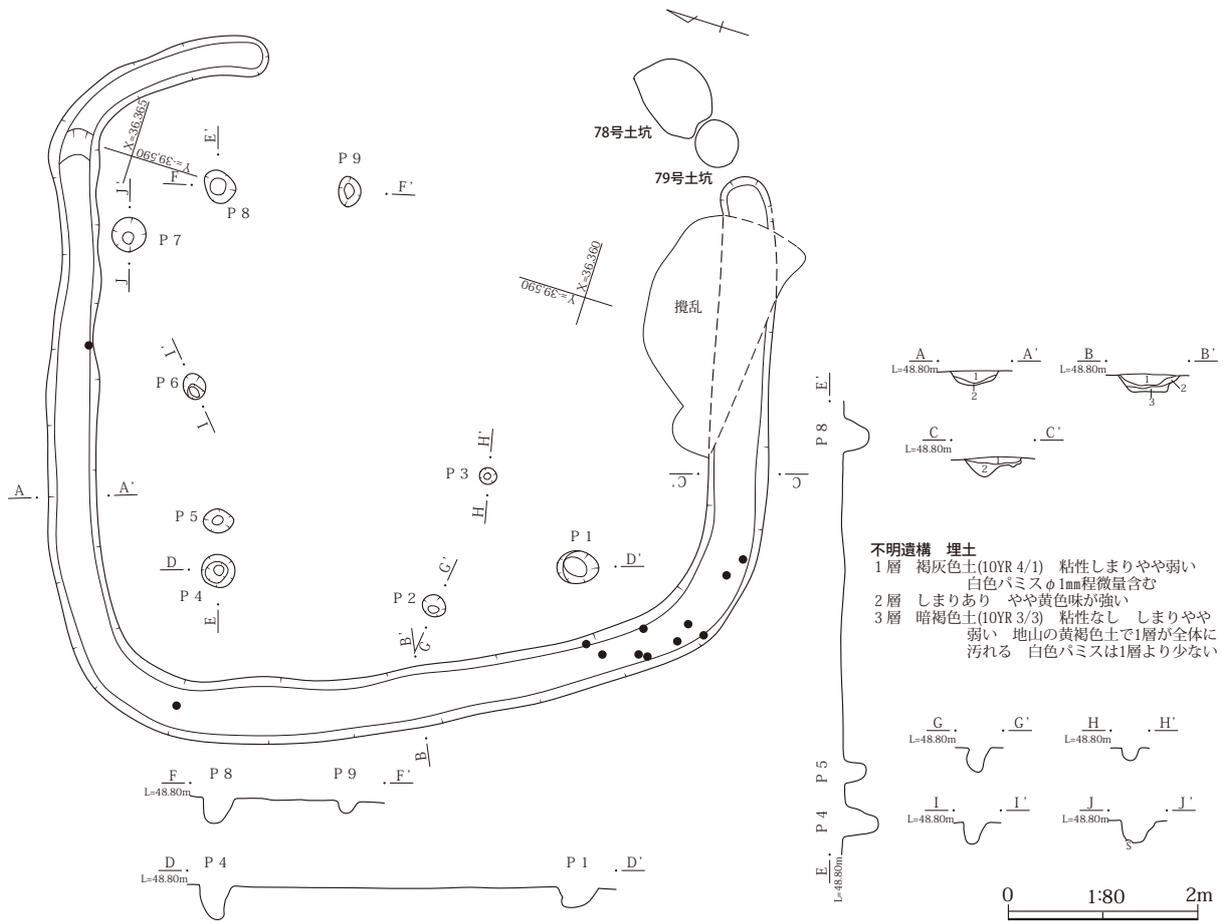
柱穴：溝に沿って並ぶ9基のピットが検出され、径は18cm～43cm、深さは15cm～40cmを測る。P1、P4、P8がL字状等間隔に並ぶ。

周溝：東面を除き幅40cm～70cm、深さ13cm～19cmを測る溝が方形に巡る。

重複遺構：78・79号土坑跡と重複はするものの、直接的な切合い関係はない。単独土坑ではなく本遺構周溝の一部である可能性が高い。

出土遺物：須恵器碗片。

所見：調査区中央部の南寄りに位置する。周辺の住居跡群や3号掘立柱建物跡と軸をほぼ同じくし、また、周溝・柱穴の埋土がそれらと類似することから、周辺集落に付随する施設跡と考えられる。遺構の性格としては、周囲を溝で囲まれた1間×1間の掘立柱建物跡で東正面を入口とする小堂宇・小社が推定され、溝・柱穴の深度より考えて、上面が削平された状態での検出で、旧態は周囲よりやや高い盛り土状に作られていた可能性が高い。



第319図 1・2区1号不明遺構平・断面図

第2項 4区の遺構と遺物

1、調査区の概要

4区は遺跡の中央に位置し、農道を境に北は1・2区、東は5区に接し、用水路を境に南は6区に接する。調査工程は、南西隣接水田への用水確保のため、西半部のみ収穫季後まで調査を待たねばならず、2工程に分けての調査となった。

以下に調査区の特徴を記す。

〈道路状遺構〉 調査区南西端部において、東山道駅路跡と推察される道路状遺構の北側側溝の一部(14・15号溝跡)が検出された。道路状遺構についての詳細は、第4項にて記す。

〈溝跡〉 調査区東側において、隣接の1・2区より延長の8・9号溝跡がほぼ並行して検出された。1・2区概要でも触れたように、溝跡は遺跡全体を420mほどにわたり縦走する。溝跡は渡良瀬川取水の古代基幹用水路と考えられ、先行する9号溝跡が河川氾濫の影響を受けて埋没後、復旧困難との判断か、隣接して同規模の8号溝が新設されるが、8号溝跡も同様の河川氾濫の直撃に合い埋没する。溝跡の側～底面はこの時のものか水流によるポッド状の窪みが随所に見られる。1号溝跡は、9号溝跡に接続する形で検出され、この接続部分において何らかの方法で水嵩を上げて1号溝跡に分水したのと考えられる。10号溝跡は、用途は不明なれど、北に1・2区12号溝跡に接続するものと考えられる。4・6・11号溝跡は、北の1・2区16号溝跡に接続し、重複関係から集落に先行する水路跡と考えられる。

(溝跡については、「第6項 溝跡」に記載)

〈住居跡〉 検出された竪穴住居跡は、その位置関係より大きくは三分される。まずは、調査区中央北半の一群で、8・9号溝跡と一定距離を開けてきれいに並列する。この一群は北の1・2区中央の一群へと連なる。これとは距離を置いて、東端5区寄りに1軒、西端部に1軒の竪穴住居跡が検出され、それぞれ東・南方向に集落が展開するものと思われるが、調査区外の様相がつかめず、明らかではない。また、1・2区でも見られたように、住居群からやや離れた位置に孤立する小規模住居跡(16号住居跡)が検出されている。

〈特殊な遺構〉 調査区中央北寄りにおいて、2基の集石遺構が検出された。両遺構からは祭祀を性格付ける遺物の出土はないが、1号集石遺構からは青銅製帯金具(陀尾)が出土している。



2、 竪穴住居跡

4区 1号住居跡(旧称 4区SJ-1)

位置：X=36309 Y=-39524 主軸方向：N-63° -E

規模：3.0m×3.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：0cm～5cm 埋没土：上面を削平され、ほぼ床面が露出した状態での検出であり、埋没の状況については明らかではない。

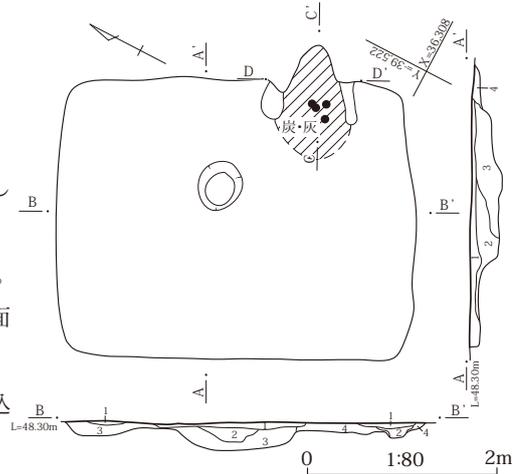
床面：黒褐色粘質土を用いて3～10cmほどの貼り床を敷設している。

カマド：北東壁南東寄りに位置する。遺存状態は悪く、燃烧部使用面に炭化物・灰が僅かに認められる程度である。

柱穴：掘り方調査時において、住居中央より検出された円形の落ち込みが、その位置より柱穴となる可能性がある。

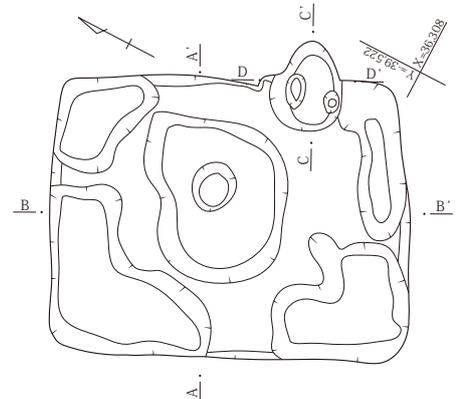
貯蔵穴：なし。 壁周溝：不明。 重複遺構：なし。

掘り方：住居中央部および各コーナー部付近の地山ローム土を10～32cmほど土坑状に掘り窪める。 遺物：カマド埋土内で土器片が僅かに出土したのみである。 所見：調査区の東端に、他の竪穴住居跡の一群とは溝跡を隔てて単独で位置し、平面形状などもやや異なることから、別群に属するものと推察される。

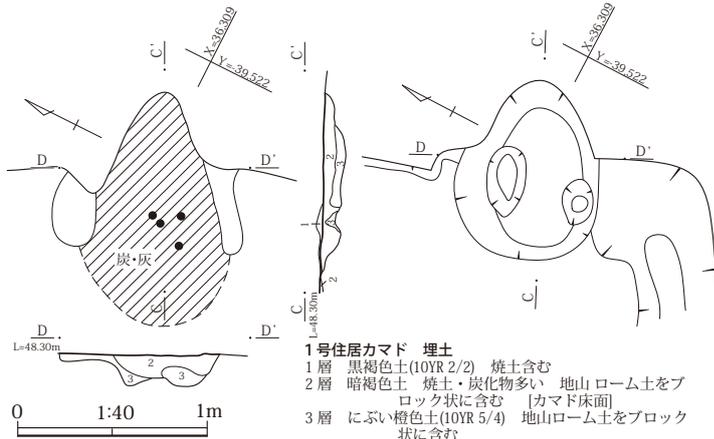


- 1号住居 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘質土・白色軽石・焼土粒含む [張り床]
 - 2層 黒褐色土(10YR 2/2) 褐色土(10YR 4/6)ブロック・白色軽石含む
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 2層より褐色土混入多い 白色軽石少量
 - 4層 褐色土(10YR 4/6) 少量の黒褐色土(10YR 2/2)を含む 白色軽石なし

第321図 4区1号住居跡平・断面図



第322図 4区1号住居跡掘り方平面図



- 1号住居カマド 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 焼土含む
 - 2層 暗褐色土 焼土・炭化物多い 地山ローム土をブロック状に含む [カマド床面]
 - 3層 にぶい橙色土(10YR 5/4) 地山ローム土をブロック状に含む

第323図 4区1号住居跡カマド平・断面図

4区 3号住居跡(旧称 4区SJ-3)

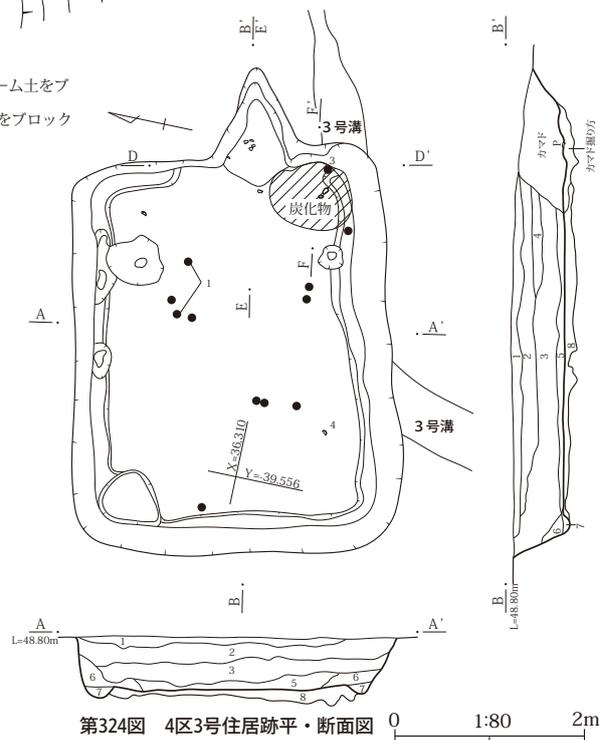
位置：X=36310 Y=-39555 主軸方向：N-77° -E

規模：4.2m×3.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：32cm～54cm 埋没土：少量の白色軽石とローム粒を含む灰黄褐色～にぶい黄褐色砂質土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。 床面：掘り方埋土であるローム土を含む黒褐色土で埋め固め、床面とする。

カマド：北東壁中央やや南東寄りに位置する。燃烧部使用

- 3号住居 埋土
- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(浅間C1+榛名二ツ岳)を含む
 - 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石とローム粒子を含む
 - 3層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石とローム粒子・ローム小ブロック(φ5～10mm大)を石と多量のロームブロック(φ5～20mm大)を含む
 - 5層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の白色軽石と多量のローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
 - 6層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の白色軽石と多量の黒褐色土ブロック(φ10～30mm大)を含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い ローム粒φ20mm以下をやや多量含む 全体にロームで汚れる 8層より黒味が強い
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまりが強く ローム粒φ20mmを多く含む



第324図 4区3号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

面の一部で灰層が認められた。遺存状態は悪く、袖部は殆ど残らない。煙道部は緩やかに立ち上がる

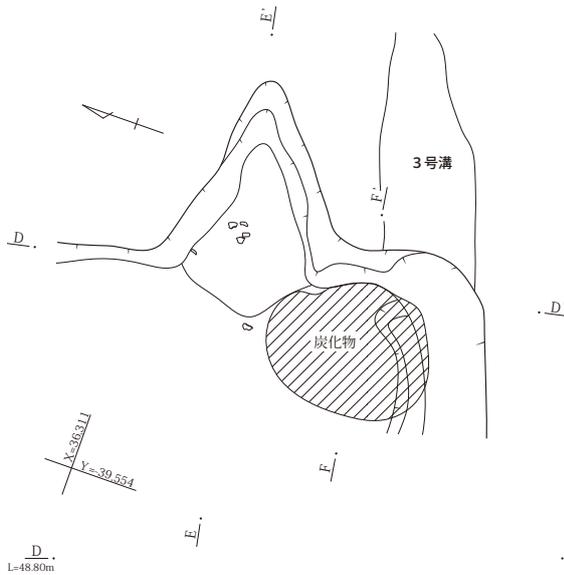
柱穴：掘り方調査で5穴が検出された。 **貯蔵穴：**なし。

壁周溝：幅32～58cm、深3～9cmを測る溝が、ほぼ全周する。

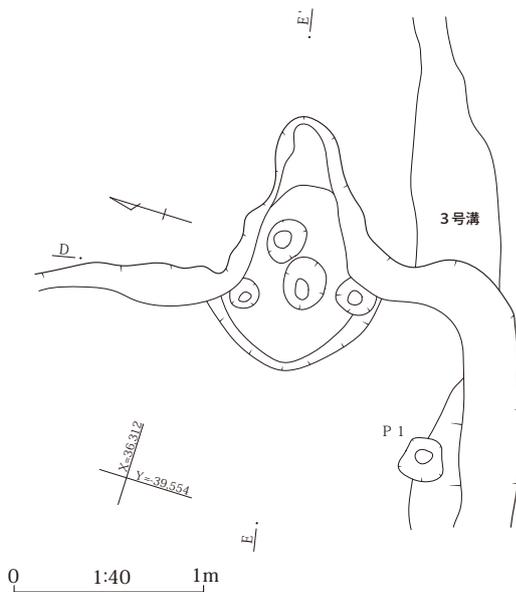
重複遺構：1号土坑跡及び3号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より本遺構は1号土坑よりも古く、3号溝より新しいものと判断された。

掘り方：地山ローム土を全体に4～20cmほど掘り窪める。

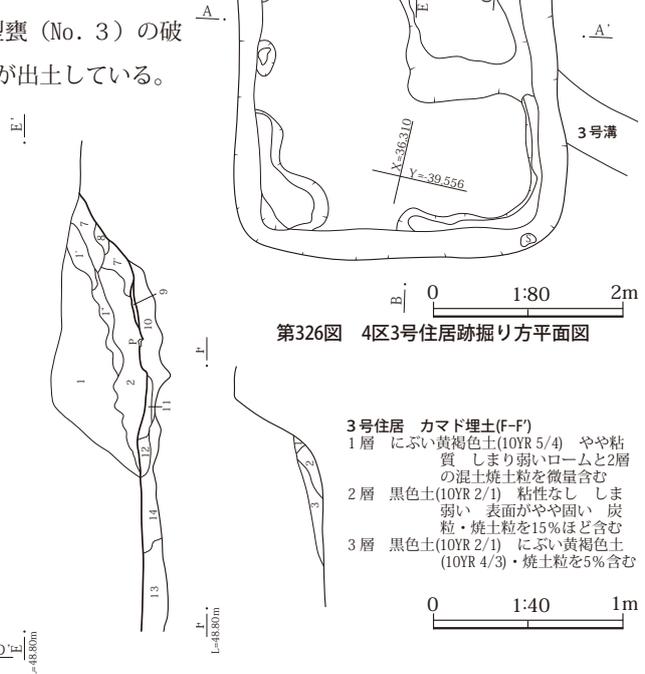
出土遺物：出土量はわずかであるが、壁際で土師器小型甕（No. 3）の破片が出土した他、埋土中から石製紡錘車（No. 4）などが出土している。



第325図 4区3号住居跡カマド平・断面図



第327図 4区3号住居跡カマド掘り方平面図



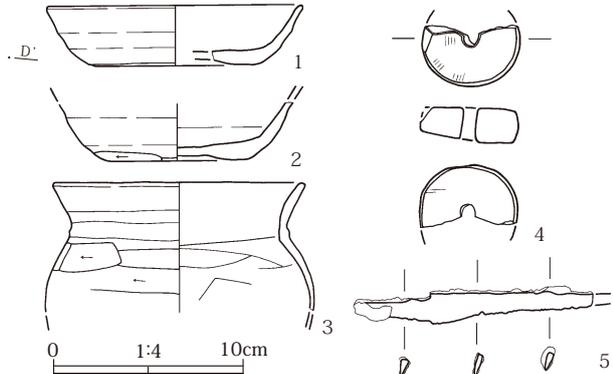
第326図 4区3号住居跡掘り方平面図

3号住居 カマド埋土(F-F')

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) やや粘質 しまり弱いロームと2層の混土焼土粒を微量含む
- 2層 黒色土(10YR 2/1) 粘性なし しまり弱い 表面がやや固い 炭粒・焼土粒を15%ほど含む
- 3層 黒色土(10YR 2/1) にぶい黄褐色土(10YR 4/3)・焼土粒を5%含む

3号住居 カマド埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の白色軽石(浅間C+榛名二ツ岳)を含む 砂質ローム粒子を含む
- 1'層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の白色軽石と砂質ローム粒子を含む
- 1''層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の明黄褐色砂質ローム小ブロックを含む
- 2層 明黄褐色土(10YR 6/6) 明黄褐色砂質ローム土に少量の1層土ブロックを含む [カマド天井部崩落土]
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) ロームブロックφ20mm程30%含むバミスなし 1・2層よりやや粘質
- 4層 ローム地山
- 5層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 1層土ブロックとロームブロックφ30mm程の混土 袖又は砂の崩落か 焼土は含まない
- 6層 灰色(7.5YR 5/1) ロームにφ20mm程の粘土を20%含む
- 7層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の明黄褐色砂質ローム小ブロックと少量の焼土小ブロックを含む
- 7'層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 7層にくらべローム小ブロックの混入少
- 8層 明黄褐色砂質ローム土(10YR 6/6)
- 9層 灰層 少量の焼土ブロック・明黄褐色砂質ローム小ブロックを含む
- 10層 暗オリーブ褐色土(2.5YR 4/3) ロームと黒褐色土の粘性あり しまりやや弱い
- 11層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い φ20mm以下のロームブロック 微量含む φ5mm以下の焼土粒を少量含む
- 12層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の砂質ローム粒子と少量の焼土粒を含む [カマド掘り方埋土]
- 13層 黒褐色土(10YR 3/2) より黒味が強い周溝埋土だがしまりがやや強く黄味も強い
- 14層 黒褐色土(10YR 3/2) 13層にφ5mm以下の焼土粒を少量含む



第328図 4区3号住居跡出土遺物

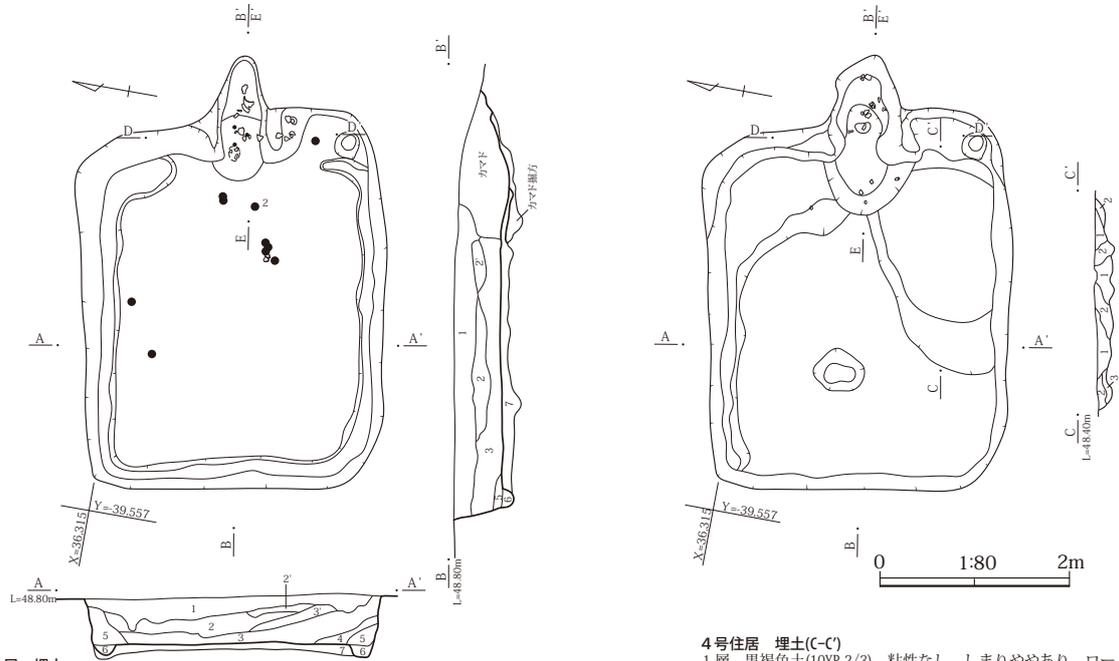
4区3号住居跡遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
1	須恵器 杯	床面+6cm 口縁部～底部 破片	口径 13.2 底径 8.2 器高 3.1	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10YR 5/1)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
2	須恵器 杯	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 7.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5YR 5/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：体部～底部回転ナデ調整。				
3	土師器 小型甕	壁際直下 口縁部～胴部上端 破片	口径 13.0 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
4	石製品	紡錘車	1/2	5	2.5	1.8	38	砥沢石	孔径0.8cm表面はやや擦れている。
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
5	鉄器	刀子	刃部先端欠損	12.6	1.7	0.7	12.0	刃部よく使いこまれている。	

4区4号住居跡(旧称4区SJ-4)

位置：X=36314 Y=-39554 主軸方向：N-77° -E 規模：3.8m×3.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：44cm～49cm 埋没土：上位は少量の白色軽石とローム粒を含む灰黄褐色砂質土が自然堆積するが、中位に堆積するにぶい黄褐色砂質土は、20mm大のロームブロック・黒褐色土ブロックを多量に含み、その堆積状態が住居南側から流入したような様相を呈することから、埋没途上に人為的に投げ込まれた可能性がある。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固め、床面とする。カマド：北東壁中央やや南東寄りに位置する。両袖とも残り、遺存状況は比較的良好。柱穴：住居南東コーナー部の壁溝と壁との間で、径28cm深さ28cmを測るピットを検出し、位置的に柱穴の一穴と考えられる。貯蔵穴：なし。壁周溝：カマド付近を除いて幅24～44cm、深さ3～18cmを測る溝が巡る。重複遺構：なし。掘り方：深度は6～10cmを測り、住居中央部を高く、壁際を深く掘り窪める。また、中央部には径45～55cm深さ15cmを測る土坑状の窪みを有する。出土遺物：出土量が少なく、床面直上で土師器の台付甕(No. 4)、埋土中から土師器杯(No.1・2)・須恵器杯(No. 3)の破片が出土するのみである。



4号住居 埋土

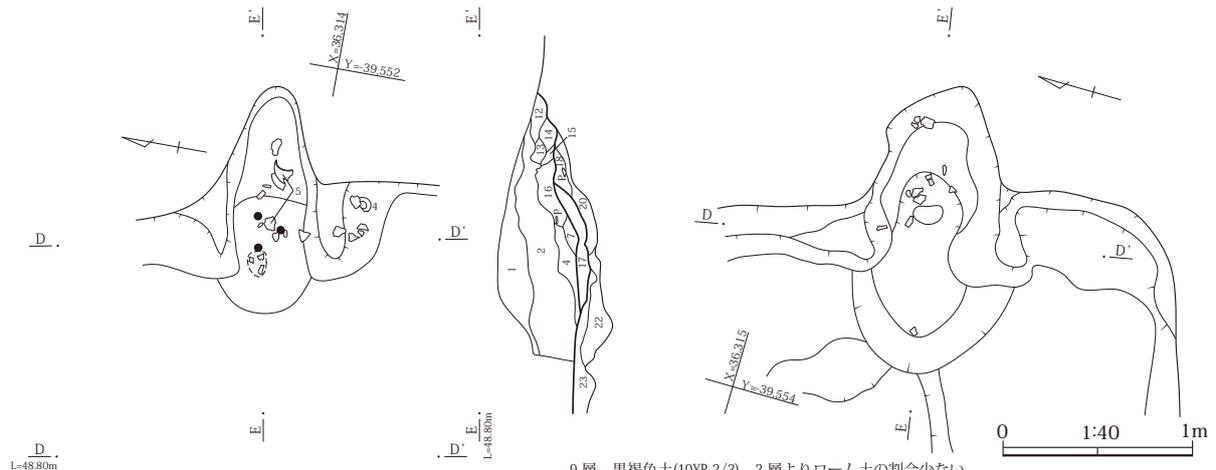
- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 多量の白色軽石(浅間C+榛名二岳)を含む
- 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の白色軽石と少量のローム粒子を含む
- 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 微量の白色軽石と多量のローム粒子を含む
- 3層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 微量の白色軽石と多量のロームブロック(φ5～20mm大)・黒褐色土ブロック(φ5～20mm大)を含む
- 3層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 微量の白色軽石と少量のロームブロック(φ5～20mm大)を含む
- 4層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量のロームブロック(φ5～20mm大)を含む
- 5層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 少量のロームブロック(φ5～20mm大)を含む
- 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱いローム粒φ20mm以下をやや多量含む 全体にロームで汚れる
- 7層 黒褐色土(10YR 3/2) より黒味が強い周溝埋土だがしまりが6層よりやや強く黄味も強い

4号住居 埋土(C-C')

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり ローム粒φ20mm以下を少量・焼土粒φ10mm以下を微量含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ50mm以下をやや多量含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや 3層は1層よりも多量で2層より少量含む [人為埋没土]

第329図 4区4号住居跡平・断面図、掘り方平面図

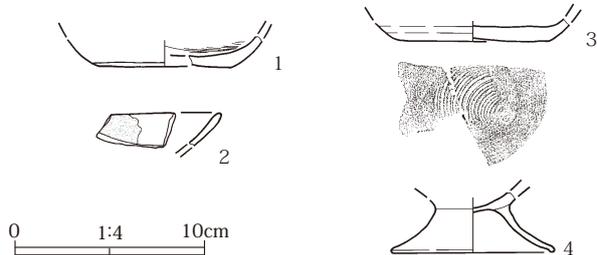
第3章 検出遺構と出土遺物



4号住居カマド 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) ローム粒φ10mm以下を10%含む パミスを少量含む 粘性なししまりややあり
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 1層と同じ土色でパミスなく ロームブロックφ30mm以下2%含む 焼土粒微量含む1・2層埋土
- 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒φ10mm以下20%含む ローム粒で全体がやや汚れる
- 4層 黒褐色土(10YR 2/2) 3層の土色にローム粒で全体に強く汚れる ロームブロックφ30mm・焼土粒φ10mm以下20%・炭粒φ10mmを2粒含む [天井崩落]
- 5層 ローム 粘性ややあり しまり弱い
- 6層 ローム 粘性あり しまりなし カマド床面を整えた土 5層の土色に焼土粒φ0.5cm以下10%含む
- 7層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまり弱い 焼土粒φ10mm以下40%含む
- 8層 ロームブロック・黒褐色土(10YR 2/2)ブロックφ30mm以下の混土 [住居壁の崩落土]

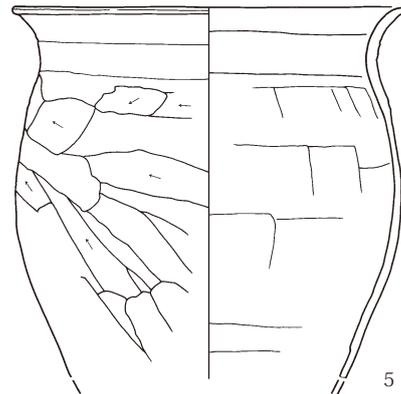
第330図 4区4号住居跡カマド平・断面図



0 1:4 10cm

- 9層 黒褐色土(10YR 2/3) 2層よりローム土の割合少ない
- 10層 黒褐色土(10YR 2/3) 黒褐色土に微量のローム粒含む
- 11層 黒褐色土(10YR 2/3) 黒褐色土にφ1mmのローム粒含む
- 12層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒を10%含む
- 13層 黒褐色土(10YR 2/1) 粘性なし しまりあり 焼土粒を微量含む
- 14層 黒褐色土(10YR 2/1) 12層に焼土粒20% 炭粒微量含む
- 15層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒を60%含む
- 16層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒を20%含む [天井の崩落]
- 17層 黒褐色土(6YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土φ5mm程やや多量含む灰を含む
- 18層 黒褐色土(6YR 2/2) 17層+焼土ブロック(φ5~30mm大)を含む
- 19層 黒褐色土(6YR 2/2) 灰を含まず多量の砂質ローム粒子を含む
- 20層 黒褐色土(7.5YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い ローム粒子φ10mm以下少量含む焼土粒φ5mm以下微量含む
- 21層 黒褐色土(7.5YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い ロームブロックφ5mm以下やや多量含む
- 22層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い ロームブロックφ30mm以下やや多量含む
- 23層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ローム粒φ20mmを多く含む [周溝埋土]

第331図 4区4号住居跡カマド掘り方平面図



4区4号住居跡遺物観察表

第332図 4区4号住居跡出土遺物

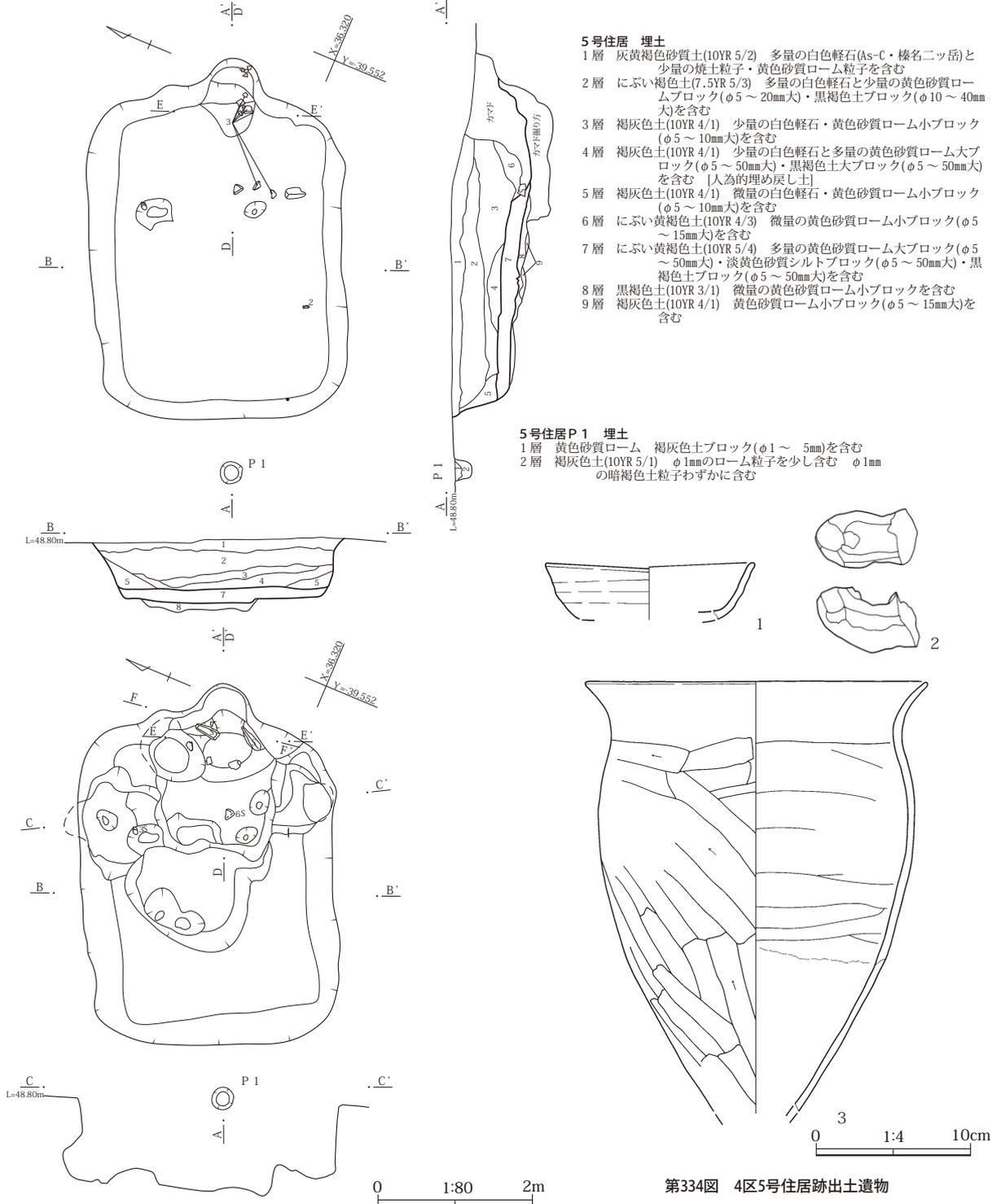
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 杯	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 7.0 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色処理 ③ 橙(7.5YR 6/6)	ロクロ整形か。 外面：底部回転ヘラ削り。 内面：底部ナデ後ヘラ磨き。	
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～体部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 褐灰(10YR 4/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。漆附着。	漆附着土器。
3	須恵器 杯	埋土中 底部 破片	口径 — 底径 8.0 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
4	土師器 台付費	床面直上 台部 破片	口径 — 底径 8.4 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	台部貼付。 外面：台部横ナデ。 内面：台部横ナデ。	
5	土師器 費	カマド埋土中 口縁部～胴部 破片	口径 20.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中・下位斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

4区5号住居跡(旧称4区SJ-5)

位置：X=36320 Y=-39555 主軸方向：N-67°-E 規模：4.2m×3.2m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：62cm～65cm 埋没土：多量の白色軽石などを含む灰黄褐色砂質土～多量のローム・黒褐色土ブロックを含む褐灰色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：埋土の状況から7層上を床面として調査を行ったが、カマド使用面との比高差が生じるなどの違和感があり、15cmほど下の7層下を床面とした場合はカマドとの比

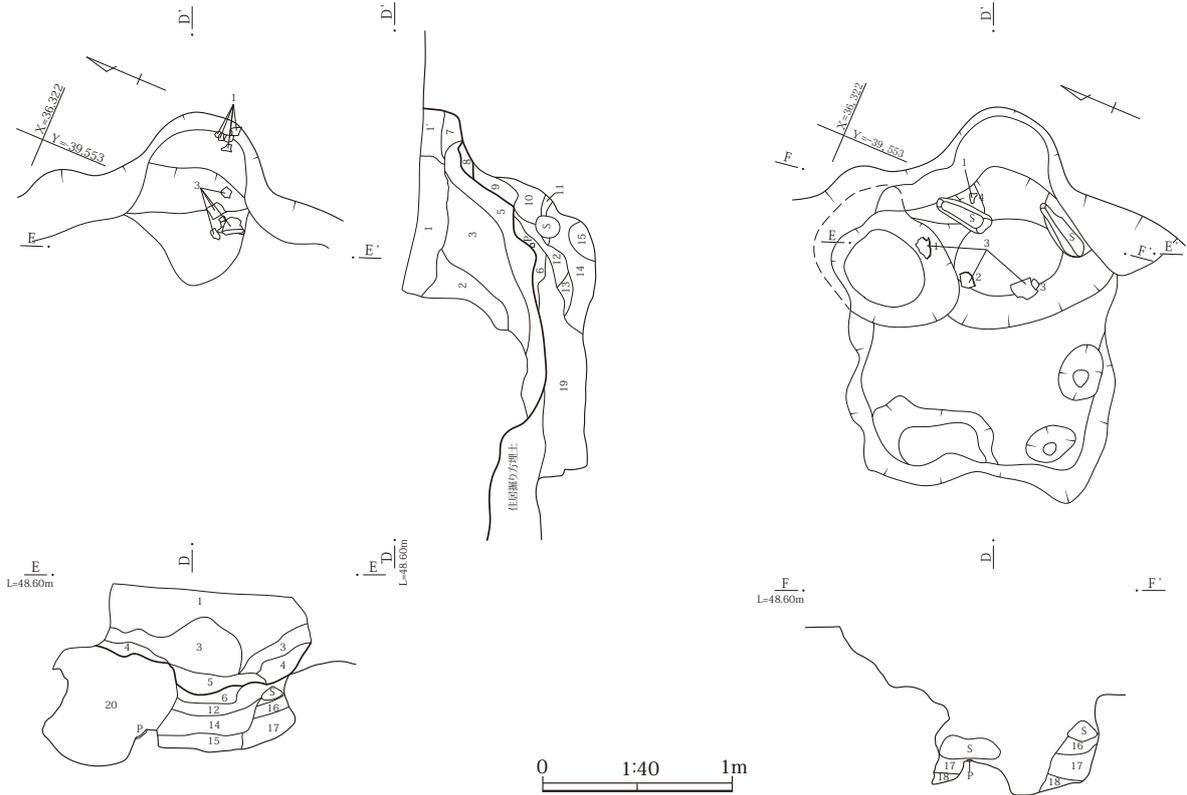
高差はなくなるため、本住居跡は新旧2面の床面をもつものと考えられる。 **カマド**：北東壁中央やや南東寄りに位置する。使用面灰層はごく一部でしか確認できず、遺存状態は悪い。掘り方調査時に袖石が2個倒れた状態で確認された。右袖部に有ったと思われる袖石は、一部に被熱による変色が見られるため、使用時に露出に近い状態であったものと思われる。 **柱穴**：床面上においては検出し得なかったが、掘り方調査時に検出されたピットの内の2穴が柱穴となる可能性がある。 **貯蔵穴**：不明。 **壁周溝**：なし。 **重複遺構**：なし。 **掘り方**：住居北東半のカマド周辺に31cmほどを測る深い掘り方を有する。 **出土遺物**：カマドの他は出土量が少ない。 **所見**：本住居跡は、床面およびカマド使用面が不明瞭で、使用痕跡が顕著にみられないため、改修直後の廃絶が想定される。



第333図 4区5号住居跡平・断面図、掘り方平・断面図

第334図 4区5号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物



5号住居 カマド埋土

- 1 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石(As-C・榛名二ツ岳)と多量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 1' 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 1層土に少量の焼土粒子を含む [煙道埋土]
- 2 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の黄色砂質ロームブロック(φ10～40mm大)・黒色土ブロック(φ10～40mm大)を含む
- 3 層 褐色土(10YR 4/4) 少量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5～15mm大)・多量の黒色土ブロック(φ10～40mm大)を含む
- 4 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の黄色砂質ローム粒子を含む
- 5 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5～15mm大)を含む [天井部 崩落土]
- 6 層 灰褐色土(10YR 5/2) 多量の黄色砂質ローム粒子と焼土小ブロックを含む
- 7 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の焼土粒子と少量の炭化物を含む
- 8 層 灰層 少量の焼土小ブロック(φ5～10mm大)と多量のローム粒子を含む
- 9 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量のローム粒子と少量の焼土小ブロックを含む [カマド掘り方埋土]
- 10 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の焼土を含む 褐色の粒子を少し含む [カマド掘り方埋土]
- 11 層 褐色土(10YR 4/1) 微量の明黄褐色の粒子を含む [カマド掘り方埋土]
- 12 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 微量の焼土を含む 褐色の小ブロックを含む [カマド掘り方埋土]

第336図 4区5号住居跡カマド掘り方平・断面図

- 13 層 黒褐色土(10YR 2/2) 少量の黄色砂質ロームを含む [カマド掘り方埋土]
- 14 層 黒褐色土(10YR 2/2) 少量の焼土を含む 黄色砂質ローム粒子を少し含む
- 15 層 にぶい黄褐色粘質土(10YR 5/4) 少量の黄色砂質ローム小ブロックを含む
- 16 層 灰褐色土(10YR 5/2) 多量の黄色砂質ローム粒子・小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 17 層 黒褐色土(10YR 2/2) 少量の黄色砂質ローム粒子・小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 18 層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少量の白色軽石を含む
- 21 層 黒褐色土(10YR 2/2) 少量の黄色砂質ロームブロック(φ10～20mm大)を含む
- 19 層 黒褐色土(10YR 2/2) 少量の黄色砂質ロームブロック(φ10～30mm大)・焼土・炭化物を含む
- 20 層 褐色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム小ブロック(φ5～15mm大)を含む

第335図 4区5号住居跡カマド平・断面図

4区5号住居跡遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈埋土中、竈掘方埋土中 口縁部～体部 底部のみ欠損	口径 13.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。	歪みあり。
2	須恵器 不明	床面+3cm 把手部か	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 5/1)	把手貼付。把手の長さ7.0cm、巾3.6cm、高さ3.1cm。 把手部ナデ。	把手貼付か。 觥か。
3	土師器 甕	床面直上、竈埋土中、 竈掘方埋土中 口縁部～胴部 1/4	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 7/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部最上位横、その他斜め方向ヘラ 削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

4区6号住居跡(旧称4区SJ-6)

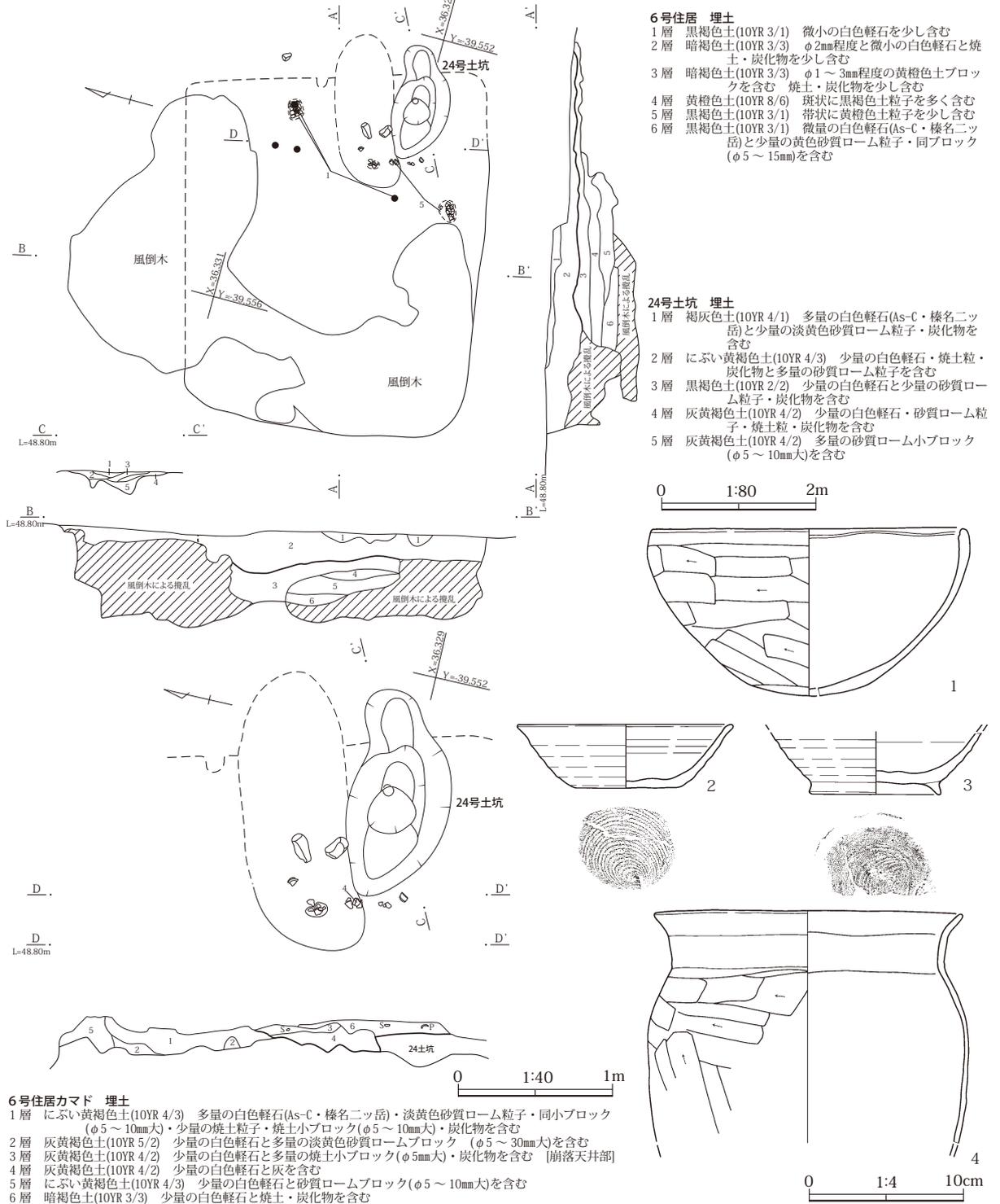
位置：X=36330 Y=-39555 主軸方向：N-75° - E 規模：4.6m×3.8m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：4cm～52cm 埋没土：白色軽石などを含む黒褐色～暗褐色土が埋没し、遺存状態がわるいもののその堆積自然埋没の様相を呈するものと思われる。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした黒褐色土で埋め戻り、床面としている。カマド：北東壁の中央南東寄りに位置する。住居北東壁は遺存状況が悪いものの、灰を含む使用面直上に天井部が崩落している状況は確認できた。袖石は2個出土したが、埋土中において現位置を留めていない。

柱穴：確認できなかった。

貯蔵穴：調査時に24号土坑として検出した遺構が、埋土に焼土粒と炭化物を含んでおり、位置的に本住居の貯蔵穴となるものと思われる。**壁周溝：**確認できなかった。**重複遺構：**なし。**掘り方：**住居中央の残存部分において深度25～48cmを測る掘り方が確認された。**出土遺物：**全体に遺存状態が悪く、出土量も少ないが、床面直上で土師器器鉢（No. 1）の破片が出土した他、埋土中から須恵器杯（No. 2）・椀（No. 3）の破片が数点出土している。また、隣接する15号住居跡P 1埋土中から出土の土師器杯（漆付着）と、本住居埋土中のものと接合された。

所見：倒木による攪乱によって住居の多くが壊されており、住居南東部からカマドおよび北西部が残っているのみである。住居中央部の一部に床面が確認されるものの、その下部にも樹木痕が入り込んでおり、床面も隆起した状態である。



第337図 4区6号住居跡・カマド・平・断面図

第338図 4区6号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

4区6号住居跡遺物観察表

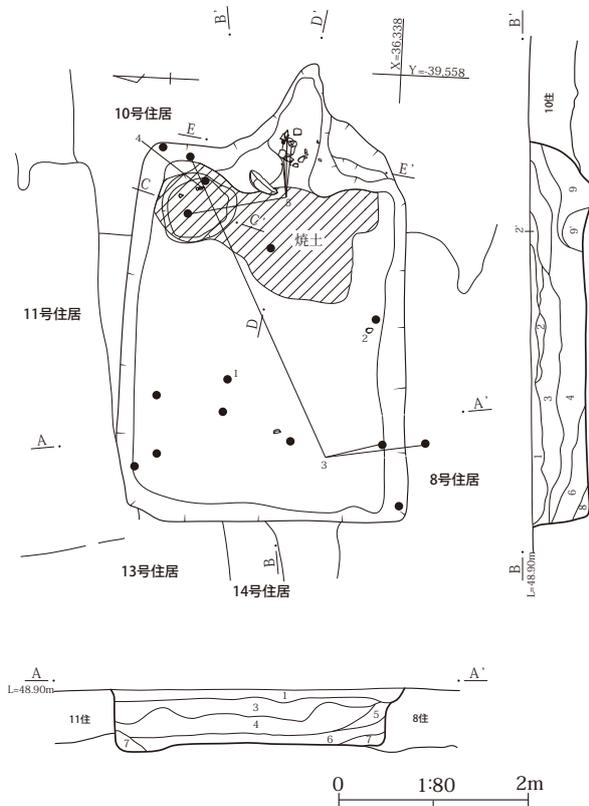
番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 鉢	床面直上 口縁部～底部 1/4	口径 20.0 底径 — 器高 10.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(2.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。体部上半横方向の下半斜め方向ヘラ 削り。底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。体部～底部ヘラナデ。	鉄鉢状。
2	須恵器 杯	埋土中 口縁部～底部 1/6	口径 13.6 底径 6.6 器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 碗	埋土中 体部～底部 破片	口径 — 底径 8.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：体部～底部回転ナデ調整。	
4	土師器 甕	床面直上、竈埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 19.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5Y 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

4区7号住居跡(旧称4区SJ-7)

位置：X=36339 Y=-39561 主軸方向：N-95° - E 規模：4.0m×3.0m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：46cm～60cm 埋没土：白色軽石とロームブロックを含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方を持たず、地山ローム土をそのまま床面とする。カマド：南東壁の中央やや南寄りに位置する。両袖部は残らず、燃烧部使用面から煙道部にかけて薄い灰層面が確認できた。この灰層面直上には焼土化した天井部の崩落が認められる。カマドの中心軸よりやや左にずれた所に支脚石が据えられ、最大幅19cm高さ19cmの自然石で使用面より12cm程埋め込まれている。煙道部は緩やかに立ち上がる 柱穴：なし。貯蔵穴：住居北東コーナー部に80×72cmの楕円形で、深さ7cmを測る浅い土坑が1基検出され、貯蔵穴となる可能性もある。壁周溝：なし。重複遺構：8号・10号・11号・13号14号住居跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構はいずれの重複住居跡よりも新しいものと判断された。

掘り方：カマドのみに掘り方を有する。出土遺物：埋土中から須恵器杯 (No. 3・4)・蓋 (No. 1・2) などの破片が出土している。



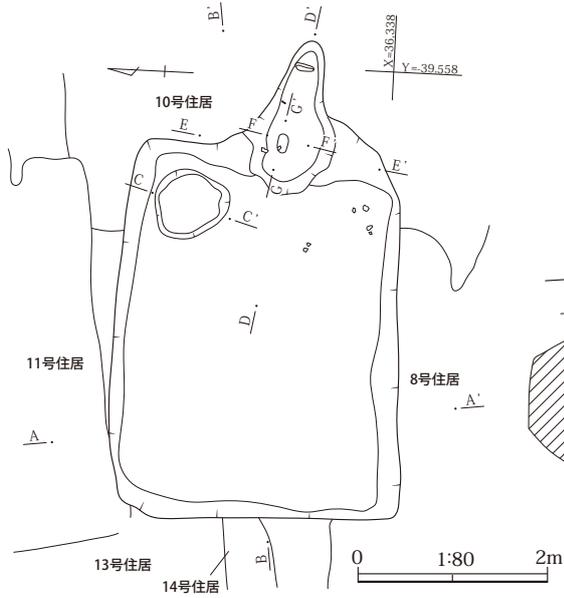
焼土
L=48.30m

焼土
1層 黒褐色土(5YR 2/2) 粘性なし しまりややあり 焼土小ブロックφ20mm以下・ロームブロックφ30mm以下を少量含む 焼土で全体が汚れ 赤味がかり住居北東部に円形に広がり掘りこみをもつ 固くしまり、上面は周囲の床面に一致し、床として機能したと考えられる

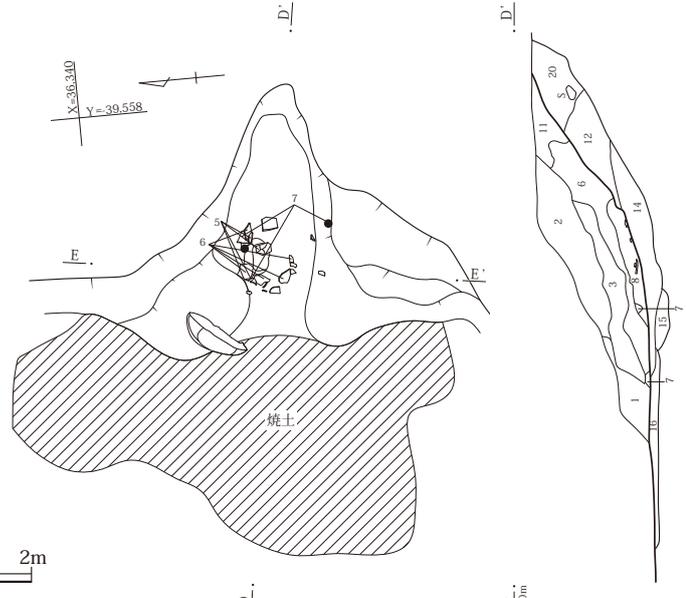
7号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 少量の白色軽石(As-C・榛名二ッ岳)と淡黄色砂質ローム粒子・炭化物を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 多量の淡黄色砂質ロームブロック(φ5～20mm大)を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少量の淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の白色軽石・淡黄色砂質ローム粒子・同小ブロック(φ5～10mm大)・炭化物を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の白色軽石・淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石と多量の淡黄色砂質ローム粒子・少量の同小ロームブロック(φ5～20mm大)を含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石・炭化物と少量の淡黄色砂質ローム粒子を含む
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石・淡黄色砂質ローム粒子・同小ブロック(φ5～10mm大)・炭化物・焼土粒子を含む
- 7層 暗褐色土(10YR 3/3) 微量の淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
- 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 少量の淡黄色砂質ロームブロック(φ5～30mm大)を含む
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石と多量の淡黄色砂質ローム粒子・同ブロック(φ5～20mm大)を含む

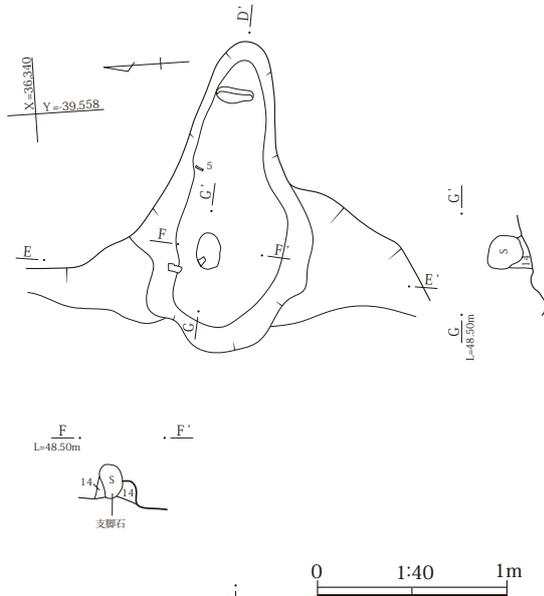
第339図 4区7号住居跡平・断面図



第340図 4区7号住居跡掘り方平面図

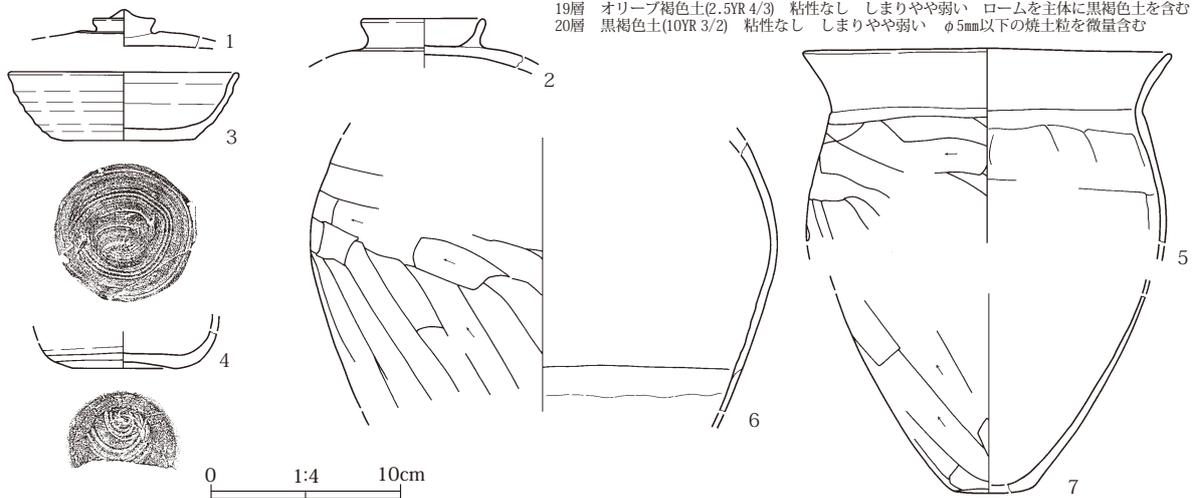


第341図 4区7号住居跡カマド平・断面図



第342図 4区7号住居跡カマド掘り方平・断面図

- 7号住居カマド 埋土
- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりあり ローム粒φ30mm程・焼土粒φ10mm程微量含む
 - 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりあり ローム粒φ2cm以下を少量・焼土粒φ5mm程微量含む 1層よりロームが多いため明るい
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり ローム粒φ30mm以下をやや多量・焼土粒・炭粒φ5mm程を微量含む
 - 4層 黒色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり ローム粒φ50mm程少量含む
 - 5層 黒色土(10YR 2/2) ロームブロック
 - 6層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり ローム粒φ10mm 7層 灰色砂(10YR 4/1) 焼土等含まない 他の層には含まれない
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) ローム土 粘性なし しまり弱い底面に部分的に焼土粒φ10mm程含む
 - 9層 黒色土(7.5YR 2/1) 粘性なし しまり弱い ローム粒φ10mm以下少量含む
 - 10層 黄褐色土(10YR 5/6) 粘性なし しまり弱い
 - 11層 にぶい黄褐色土(10YR 6/4) 粘性なし しまりややあり 黒褐色土でうすく全体に含む ローム土 [カマド構築材の崩落]
 - 12層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ5mm以下少量含む [掘り方]
 - 13層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 多量の淡黄色砂質ローム粒子を含む 下方に多量の焼土ブロック(φ5~30mm大)を含む [天井部崩落土]
 - 14層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 上面に薄く灰層 多量の焼土粒子・炭化物・淡黄色砂質ローム粒子を含む [使用面]
 - 15層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 多量の淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)を含む [カマド掘り方埋土]
 - 16層 暗褐色土(10YR 3/4) 少量の焼土粒子・炭化物・ローム小ブロックを含む [住居床面]
 - 17層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ2mm微量含む
 - 18層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ10mm以下微量含む
 - 19層 オリブ褐色土(2.5YR 4/3) 粘性なし しまりやや弱い ロームを主体に黒褐色土を含む
 - 20層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い φ5mm以下の焼土粒を微量含む



4第343図 4区7号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

4区7号住居跡遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	底面+9cm 摘部~天井部 破片	口径 — 摘径 3.3 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部回転ヘラ削り。摘み貼付。 内面：天井部回転ナデ。	
2	須恵器 杯蓋	床面+13cm 底部 破片	口径 — 摘径 6.2 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ にぶい黄橙(10YR 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：底部回転ヘラ削りか。摘み貼付。 内面：底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 杯	床面+17cm 口縁部~底部 1/2	口径 11.8 底径 7.6 器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(10Y 6/1)	ロクロ整形。回転左回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。後、底部 周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+15cm 体部下端~底部 破片	口径 — 底径 5.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺~体部 下位にかけて回転ヘラ削り。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	
5	土師器 甕	竈埋土中、竈掘方埋 土中 口縁部~胴部上半 破片	口径 19.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 7/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	No.6、7と同一 個体。
6	土師器 甕	竈埋土中 胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	輪積み。 外面：胴部上位横、中位斜め方向ヘラ削り。 内面：胴部ヘラナデ。	No.5、7と同一 個体。
7	土師器 甕	竈埋土中 胴部下半~底部 破片	口径 — 底径 4.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：胴部~底部ヘラ削り。 内面：胴部~底部ヘラナデ。	No.5、6と同一 個体。

4区8号住居跡(旧称4区SJ-8)

位置：X=36336 Y=-39562 主軸方向：N-82° -E

規模：4.6m×3.4m 平面形状：隅丸長方形

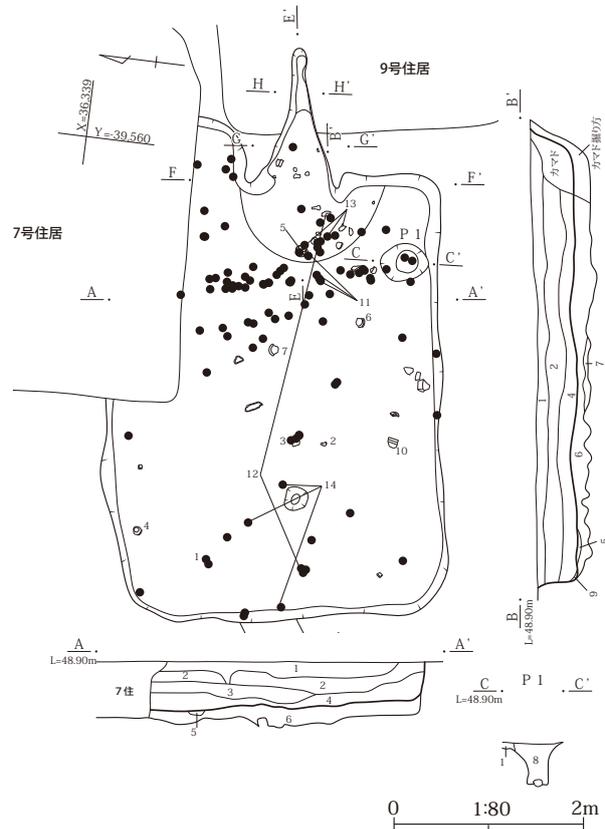
残存深度：40cm~52cm 埋没土：少量の白色軽石、焼土粒、炭化物、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。

床面：床の大半を掘り方埋土であるロームを主体とした褐色土で埋め固めて床面とし、一部に4cm程の厚さでにぶい黄褐色土を用いた貼り床が敷設されている。

カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。両袖部共に残り、地山を掘り残す形で構築されている。燃焼部使用面には広く灰が堆積し、焚き口中央部には径15cm深さ10cmを測る灰落しピットも検出された。煙道部は長く緩やかに立ち上がる。柱穴：住居中央西寄りと南東部壁際に検出され、南東部壁際の柱穴は、径52×38cm、深さ44cmを測り、底面には径9cm程の円礫が据えられていた。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：7号・9号住居跡と重複し、遺構確認~掘削時の埋土の様相より、本遺構は7号住居跡より古く、9号住居跡より新しいものと判断される。([新] 7号住-8号住-9号住 [旧]) また、掘り方調査時に中央北西寄りに検出された土坑(158号土坑)については、埋土が住居掘り方埋土とは異質であることから、住居よりも古い遺構と判断される。掘り方：全体に地山ローム土を15cm程掘り窪め、一部を土坑状に掘り窪める。

出土遺物：埋土中からは土師器の小型甕 (No.11・13)、墨須恵器杯 (No.6・8)・蓋 (No.2)・椀 (No.7) の他、漆の付着した須恵器杯の破片も出土している。

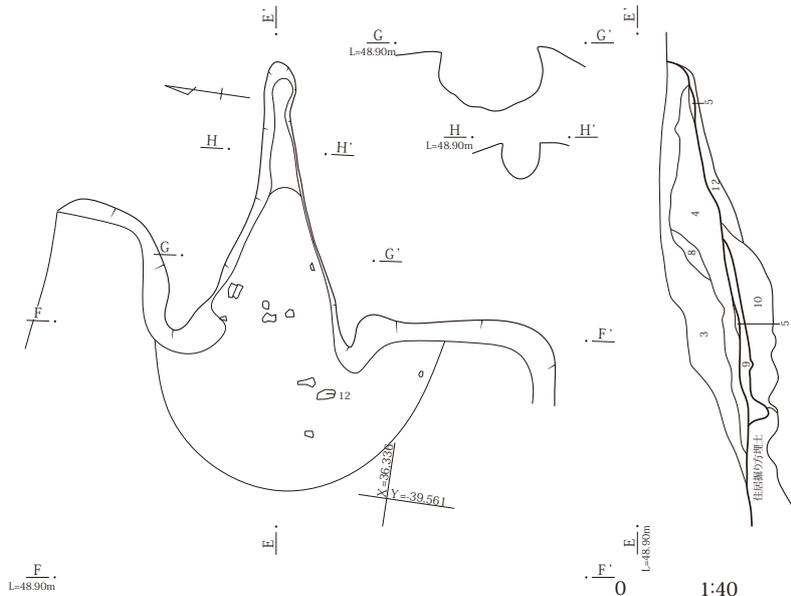


8号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 多量の白色軽石(As-C+榛名二ツ岳)と少量の炭化物・焼土粒を含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 多量の白色軽石と少量の炭化物・焼土粒子を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の白色軽石・炭化物・焼土粒子・淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の炭化物・焼土粒子・淡黄色砂質ロームブロック(φ5~20mm大)を含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 淡黄色砂質ローム粒子を含む [貼り床]
- 6層 褐色土(10YR 4/4) 多量の淡黄色砂質ロームブロック(φ5~20mm大)と少量の炭化物を含む [住居掘り方埋土]
- 7層 褐色土(10YR 4/4) 多量の炭化物と少量の焼土小ブロック(φ3~5mm大)を含む
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の淡黄色砂質ロームブロック(φ10~30mm大)を含む
- ※ 住居掘り方埋土を切っている為 床面上から掘り込まれたPitで形状や底面に円礫が置かれていることから貯蔵穴と考えられるが対応する他の柱穴が無く 位置的にカマド右脇にあることから貯蔵穴の可能性もある
- 9層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり φ10mm以下の白色バミスとφ10mm以下のローム粒を少量含む

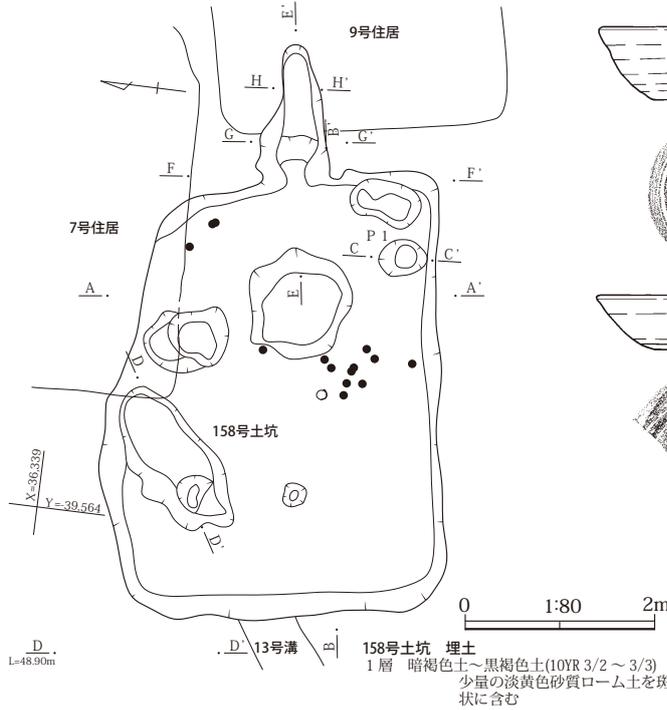
第344図 4区8号住居跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

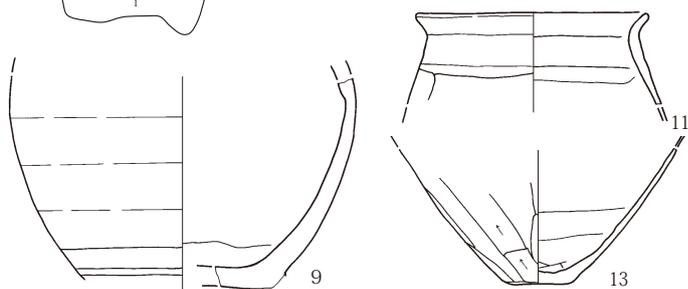


- 8号住居 カマド埋土**
- 1層 黒色土(10YR 2/1) 粘性なし しまりややあり 白色パミスφ0.5mm以下・外側を中心にローム粒φ10mm以下少量・焼土粒φ5mm以下微量含む
 - 1'層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 砂質 白色パミスφ5mm以下少量含む
 - 1''層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり 白色パミス微量含む 下層1/4はローム漸移層土袖は一部地山掘り残しを中心に形成
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりあり 焼土粒φ10mm以下微量・パミスφ5mm以下少量含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり 焼土粒φ10mm以下・パミスφ5mm以下少量含む
 - 4層 暗褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや弱いφ3mm以下のパミス微量・φ10mm以下の焼土粒少量で3層より多く含む
 - 5層 暗褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや弱い 6層の灰を全体にやや多量・焼土粒φ10mm以下を少量含む
 - 6層 灰層(10YR 2/1) しまり弱い
 - 7層 暗褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや弱い焼土・ローム粒φ10mm以下を少量を含む [袖の一部]
 - 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 粘性なし しまりあり 下層1~3cmは暗赤褐色土(2.5YR 3/3)で全体が焼土化 [カマド天井部]
 - 9層 灰層 多量の炭化物・焼土小ブロック(φ5~15mm大)を含む
 - 10層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)・微量の焼土粒子を含む [カマド掘り方埋土]
 - 11層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の黄色砂質ロームブロック(φ5~30mm大)を含む
 - 12層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の黄色砂質ローム粒子と微量の白色軽石を含む[カマド掘り方埋土]

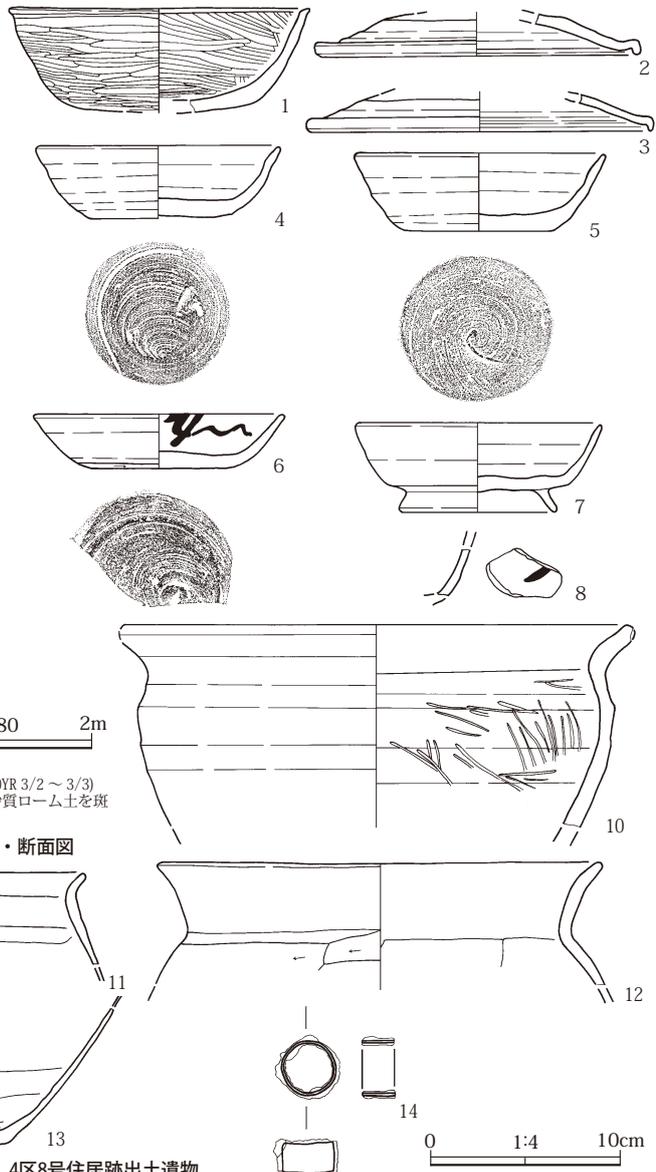
第345図 4区8号住居跡カマド平・断面図



第346図 4区8号住居跡掘り方平・断面図



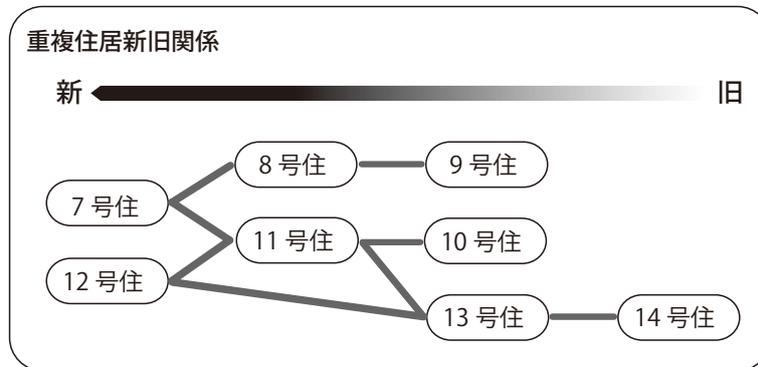
第347図 4区8号住居跡出土遺物



第3章 検出遺構と出土遺物

4区8号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調			成形手法 調整手法		備考
				長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
1	黒色土器 杯	床面+34cm 体部~底部 1/2	口径 15.3 底径 - 器高 5.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	ロクロ整形か。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部ナデ後口縁部、体部、 底部とも全面へら磨き。 内面：口縁部~底部ナデ後全面へら磨き。				
2	須恵器 杯蓋	床面直上 天井部~口縁部 破片	口径 16.6 摘径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半回転へら削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。				
3	須恵器 杯蓋	床面+13cm 口縁部~天井部 破片	口径 17.8 摘径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	ロクロ整形。 外面：天井部回転へら削り、周辺部ナデ。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。				
4	須恵器 杯	床面+18cm 口縁部~底部 1/5	口径 12.7 底径 7.6 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄褐(10YR 5/2)	ロクロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後周辺部を 回転へら削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。				
5	須恵器 杯	床面+18cm 口縁部~底部 1/3	口径 12.9 底径 7.8 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へら削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。				
6	須恵器 杯	床面+5cm 口縁部~底部 1/4	口径 13.1 底径 6.5 器高 2.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り後周辺部を 回転へら削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。		口縁部内面に 「夕」の墨書。		
7	須恵器 椀	床面+18cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.8 底径 9.4 器高 4.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転へら削り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。				
8	土師器 杯	埋土中 体部 破片	口径 - 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	ロクロ整形。 口縁部横ナデ、体部ナデ。 内面：体部回転ナデ調整。		胴部外面に墨 書。		
9	須恵器 短頸壺	床面+8cm 胴部下半~底部 破片	口径 - 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部~胴部回転ナデ。下位に2段の回転へら削り。 底部回転へら削り。高台剥落。 内面：口縁部~底部回転ナデ。				
10	黒色土器 鉢	口縁部~体部 破片	口径 26.6 摘径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 内面黒色処理 ③ にぶい橙(7.5YR 7/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部ナデ。 内面：口縁部ナデ、体部ナデ後、雑なへら磨き。				
11	土師器 小型甕	床面+19cm 口縁部~胴部上端 破片	口径 12.0 底径 - 器高 -	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。回転右回り。 外面：口縁部横ナデ。胴部へら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。		No.12と同一個 体。		
12	土師器 甕	床面+13cm、竈埋土 中 口縁部~胴部上端 破片	口径 23.2 底径 - 器高 -	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位は横方向へら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。				
13	土師器 小型甕	床面+19cm 胴部~底部 破片	口径 - 底径 3.2 器高 -	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 黒褐(7.5YR 3/1)	輪積み。 外面：胴部下位は縦方向へら削り、底部へら削り。 内面：胴部~底部へらナデ。		No.11と同一個 体。		
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
14	鉄製品	環状	完形	3.3	3.4	0.5	9.0	比較的良好。	



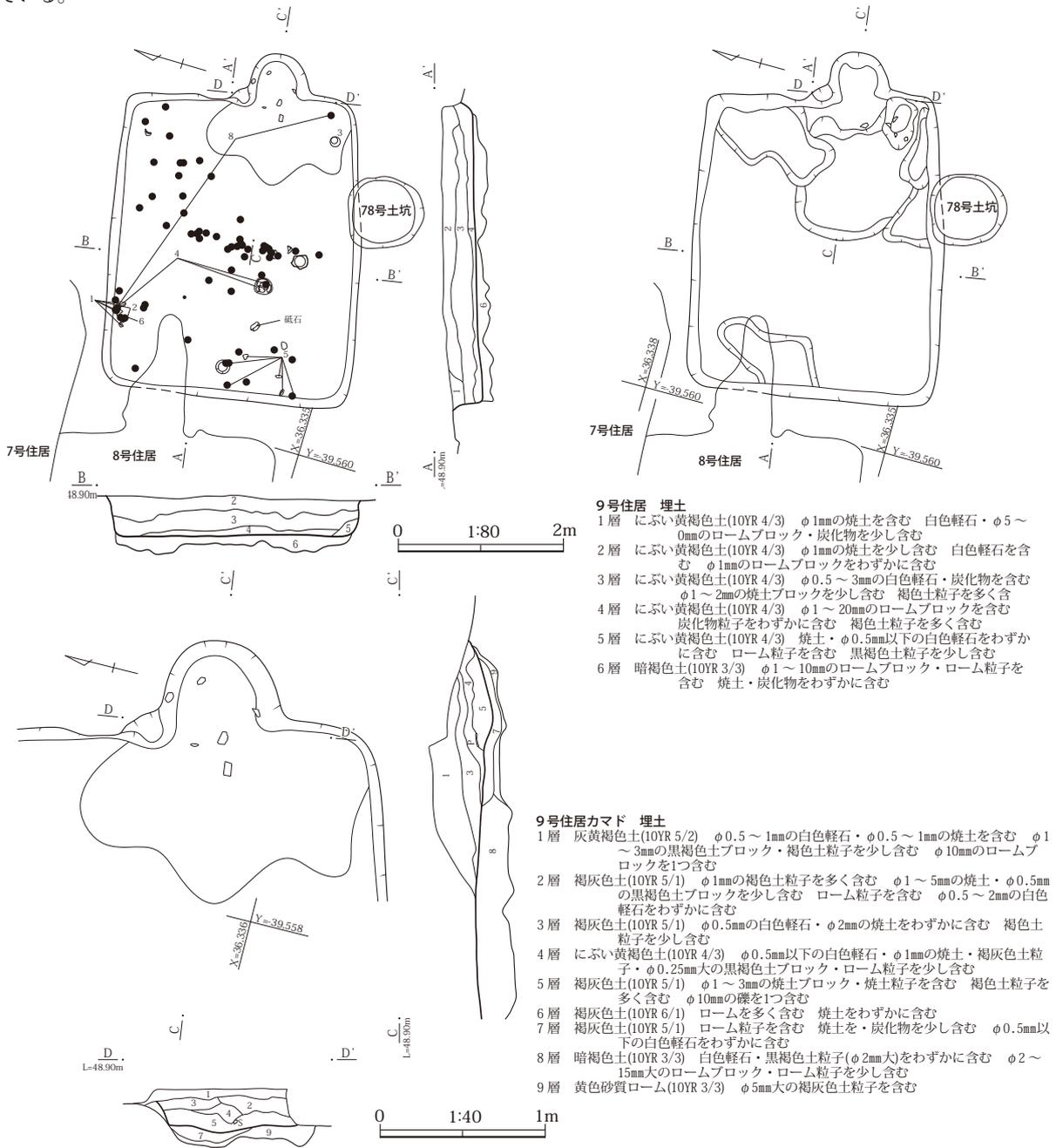
348図 7~14号住居跡新旧関係

4区9号住居跡(旧称4区SJ-9)

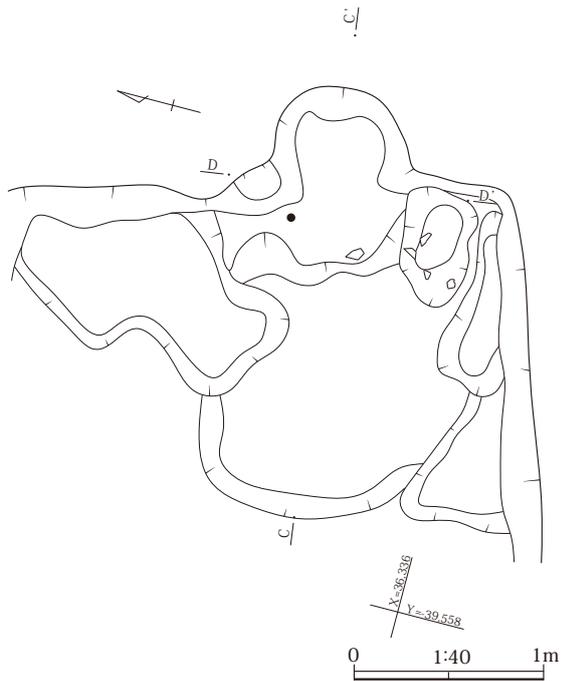
位置：X=36336 Y=-39557 主軸方向：N-78°-E 規模：3.7m×3.0m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：14cm～46cm 埋没土：主に白色軽石、焼土粒、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした暗褐色土で埋め固めて床面としている。

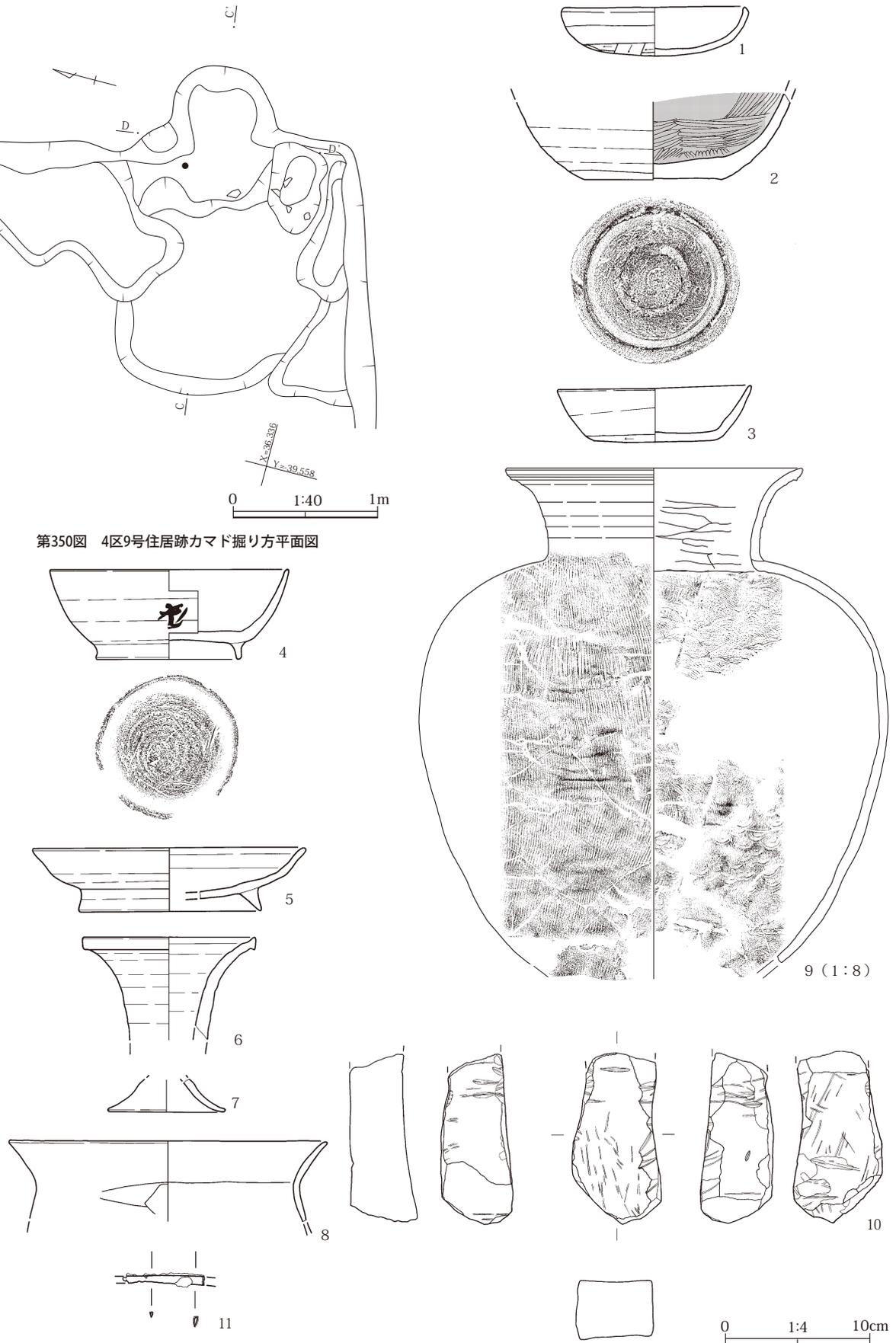
カマド：北東壁の中央南東寄りに位置する。遺存状態は悪く、袖部は残らず灰層面の確認もできなかった。煙道部は緩やかに立ち上がる。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。重複遺構：8号住居跡および78号土坑跡と重複する。本遺構は8号住居跡カマド部によって西壁の一部が壊されている点など遺構確認時の埋土の様相により、両重複遺構よりも本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：住居壁際及びカマド周辺を深度2～17cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上でほぼ完形の須恵器杯(No. 3)が、埋土中からはほぼ完形の土師器杯(No. 1)などが出土している。また、埋土中から出土の須恵器大型甕(No. 9)片が、6区の7号・9号溝から出土の破片と接合されている。



第349図 4区9号住居跡平・断面図、カマド平・断面図



第350図 4区9号住居跡カマド掘り方平面図



第351図 4区9号住居跡出土遺物

4区9号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+4cm ほぼ完形 一部欠損	口径 12.5 摘径 — 器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部は手持ちヘラ削り。 内面：口縁部～底部横ナデ。	
2	黒色土器 椀	床面+12cm 体部下半～底部 1/3	口径 — 底径 9.6 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい橙(7.5YR 7/3)	ロクロ整形。回転右回り、体部最下部は高台剥落後擦っているのか。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り。 内面：体部～底部ナデ後ヘラ磨き。内面燻し。	
3	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.1 底径 8.4 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	内面摩滅。
4	須恵器 椀	床面+7cm 口縁部～底部 一部欠損	口径 16.4 底径 10.3 器高 6.2	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 中礫 ③ 還元焰 やや不良 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	体部外面に墨書。
5	須恵器 高台付盤	床面+8cm 口縁部～底部 破片	口径 18.6 底径 12.5 器高 4.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部横ナデ、底部回転ヘラ削りか。高台貼付。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整、底部ナデ調整。	
6	須恵器 長頸壺	床面+29cm 口縁部～頸部 破片	口径 11.7 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	外面：口縁部～頸部回転ナデ。 内面：口縁部～頸部横ナデ。	
7	土師器 台付甕	床面+29cm 台部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 褐(7.5YR 4/4)	外面：台部横ナデ。 内面：台部横ナデ。	
8	土師器 甕	床面+20cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 21.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(7.5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部横方向のヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	須恵器 大型甕	埋土中 口縁部～胴部 1/4	口径 40.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ 浅黄橙(10YR 8/4)	粘土紐巻き上げ叩き成形。 外面：口縁部横ナデ、胴部平行叩き目。 内面：口縁部横ナデ調整、胴部同心円当て具痕。	6区7号・9号溝 出土遺物と接合。 胴部最大径62cm

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
10	石製品	砥石	一部欠損	11.8	6.1	4.5	426.9	砥沢石	
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要	
11	鉄器	刀子	柄片	5.6	0.6	0.6	2.0	腐食が進んでいる。	

4区10号住居跡(旧称4区5J-10)

位置：X=36340 Y=-39558

主軸方向：N-84°-E 規模：不明×2.7m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：24cm～41cm

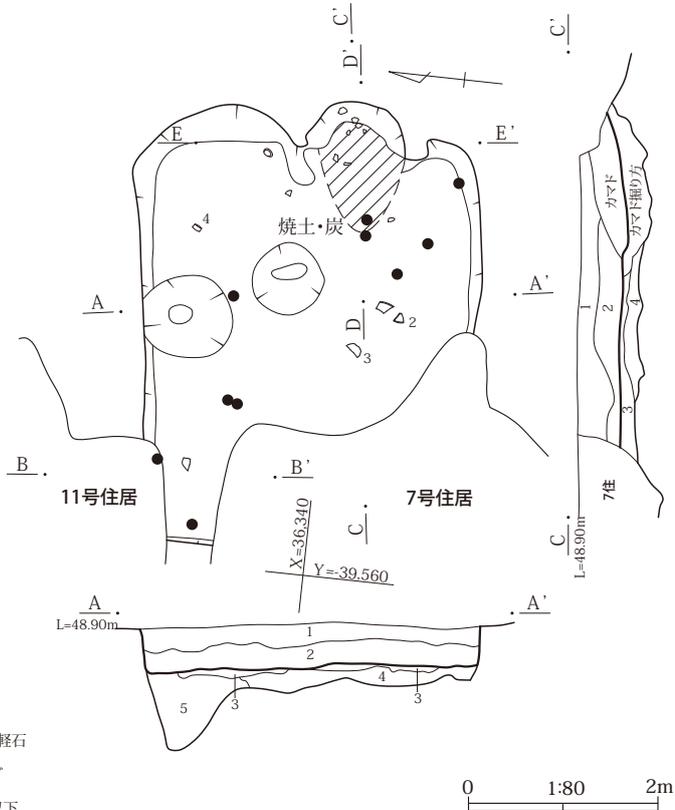
埋没土：微量の白色軽石、焼土粒を含む暗褐色土で埋没し、その堆積は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体とした暗褐色土で埋め固め、一部に黒褐色土を用いた貼り床を敷設する。カマド：東壁の中央南寄りに位置する。遺存状態はあまり良くないが、地山を掘り残す形の両袖部を一部検出した。また、燃焼部使用面には若干灰層も残る。



10号住居 埋土

- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ5mm以下の焼土粒・軽石を微量含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりややあり φ30mm以下のロームブロックを微量含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし 部分的にややしまる ローム粒φ30mm以下をやや多量含むφ5mm程のバリスを微量含む
- 4層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりがやや弱い ロームブロックφ300×100mm・φ100mm程のロームを多量含む φ5mm程のバリスを微量含む
- 5層 黒色土(10YR 2/1) 粘性なし しまり弱い 倒木痕か



第352図 4区10号住居跡平・断面図

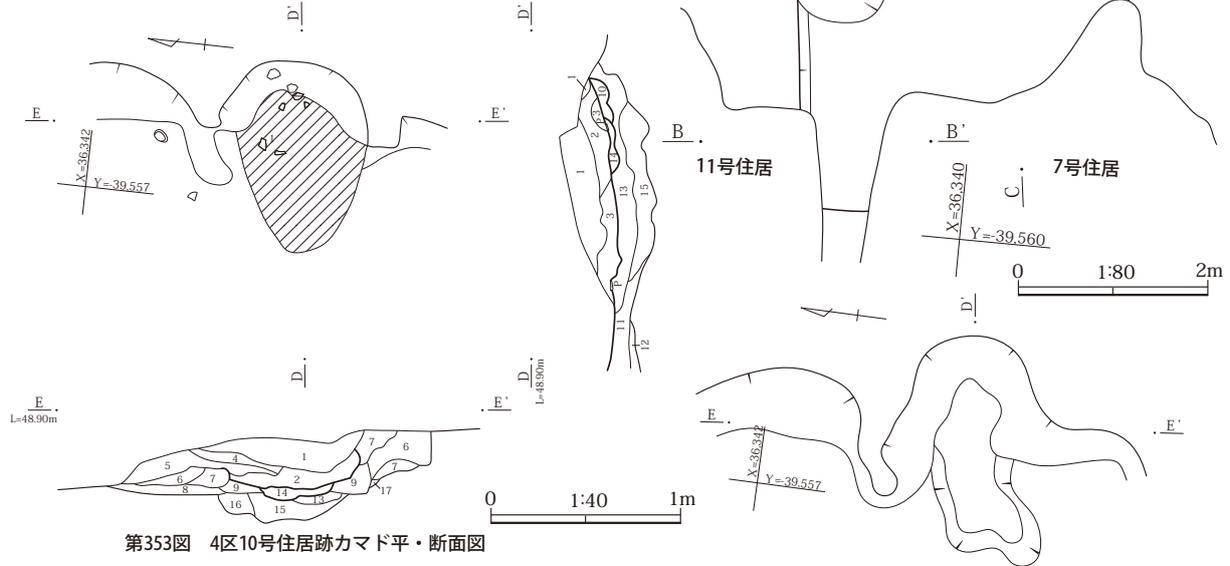
第3章 検出遺構と出土遺物

柱穴：掘り方調査段階において検出された

貯蔵穴・壁周溝：残存部分においては確認できなかった。

重複遺構：7号・11号住居跡と重複し、遺構確認時～掘削時の埋土の様相より、両住居跡より本遺構の方が古いものと判断される。掘り方：全体に8～20cm程を掘り窪める。

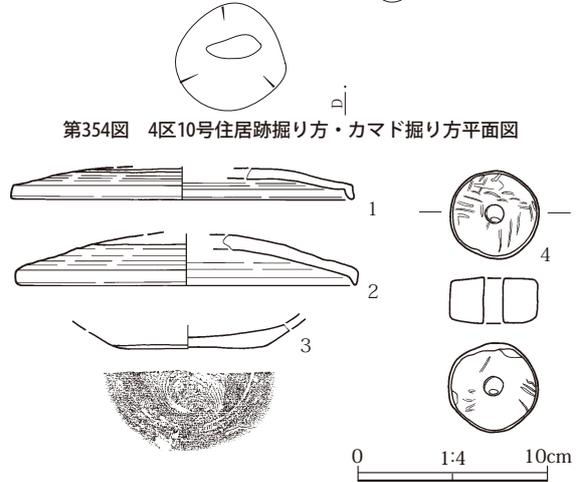
出土遺物：床面直上で須恵器杯(No. 3)・蓋(No.1・2)の他、石製紡錘車(No. 4)が出土している。



第353図 4区10号住居跡カマド平・断面図

10号住居カマド 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし φ30mm以下のローム粒・φ10mm以下の焼土を少量含む φ1mm以下のバミスを微量含む
- 2層 黒褐色土(7.5YR 3/2) 粘性なし カマドに構築土ロームで全体が汚れφ30mm以下の焼土粒やや多量含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 3/4) 粘性なし 下層を中心に焼土粒φ10mm以下少量含む
- 4層 褐色土(10YR 4/1) 粘質土・ローム 微小～φ1mmの白色軽石を微量・φ1mmの褐色土ブロックを少し含む
- 5層 褐色土(10YR 4/1) 粘質土・微小～φ2mmのローム粒子・微小の白色軽石を微量・φ1mm程度の焼土をわずかに含む
- 6層 褐色土(10YR 4/1) 粘質土・ロームをわずかに・φ1mm程度の黒褐色土ブロックを少し・微小の焼土をわずかに含む
- 7層 褐色土(10YR 4/1) 粘質土・ローム・φ2mmの黒褐色土ブロックを多く含む 微小の白色軽石を微量含む [カマドの袖]
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を含む
- 9層 灰黄褐色土(10YR 4/2) ローム・φ1mm程度の焼土と炭化物をわずかに含む
- 10層 褐色土(10YR 4/1) φ1mm程度のローム粒子・灰・φ2mm程度の焼土・φ2mm程度の炭化物を含む
- 11層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや有 ロームブロックφ50mm以下を多量含む
- 12層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまり弱い ロームブロックφ20mm以下をやや多量含む
- 13層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし ややしまり弱い ローム・焼土粒φ10mm以下を微量含む
- 14層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまり弱い 焼土粒φ10mm以下・炭φ30mm以下をやや多量含む
- 15層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし ややしまり弱い ロームφ100mm以下をやや多量含む
- 16層 褐色土(10YR 4/1) ローム主体で黒褐色土(10YR 2/3)φ20mm以下をやや多量含む
- 17層 褐色土(10YR 4/1) 7層に焼土粒φ10mm以下を少量含む



第354図 4区10号住居跡掘り方・カマド掘り方平面図

第355図 4区10号住居跡出土遺物

4区10号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	床面+15cm 口縁部～天井部 破片	口径 17.8 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半ヘラ削り、天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。	
2	須恵器 杯蓋	床面直上 口縁部～天井部 破片	口径 17.6 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半ヘラ削り、天井部下半～口縁部横ナデ。 内面：天井部～口縁部回転ナデ。	
3	須恵器 杯	床面+3cm 底部 破片	口径 — 底径 6.6 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(2.5Y 8/2)	ロクロ整形。 外面：底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	
4	石製品 紡錘車	床面直上 完形	上径 4.5 底径 4.5 高さ 2.5	石材：滑石 重量：85g	孔径0.75cm	

4区11号住居跡(旧称4区SJ-11)

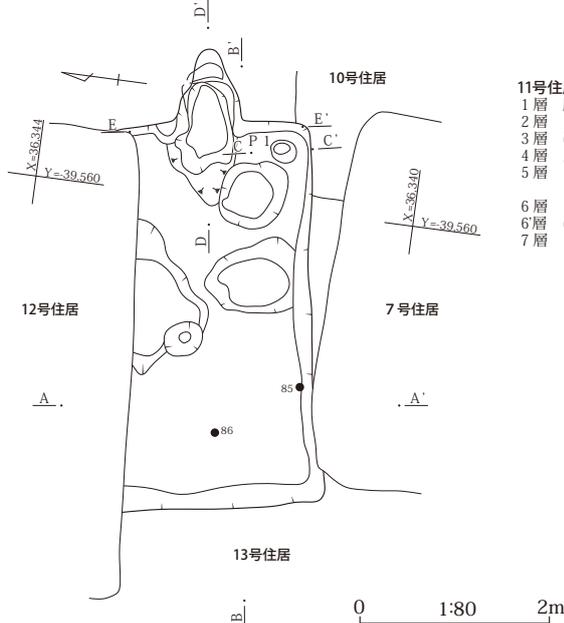
位置：X=36342 Y=-39568

主軸方向：N-82°-E 規模：4.0m×不明

平面形状：隅丸長方形 残存深度：26cm～36cm

埋没土：主に少量の白色軽石と多量のロームブロックを含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：東壁の中央南寄りに位置するものと思われる。両袖とも残り、遺存状況は比較的良好。燃烧部使用面には炭化物と焼土を含んだ灰が厚く堆積し、この灰層面直上には焼土化した天井部が崩落している。煙道は緩やかに傾斜し、煙道端は急峻に立ち上がる 柱穴：南東コーナー部において1基検出した。径29×24cm、深さ34cmを測り、位置的には貯蔵穴の可能性もある 貯蔵穴：残存範囲内には存在しない。壁周溝：残存部分においては検出されていない。重複遺構：7号・10号・12号・13号住居跡と重複する。遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構は7号住居跡及び12号住居跡より古く、10号住居跡及び13号住居跡

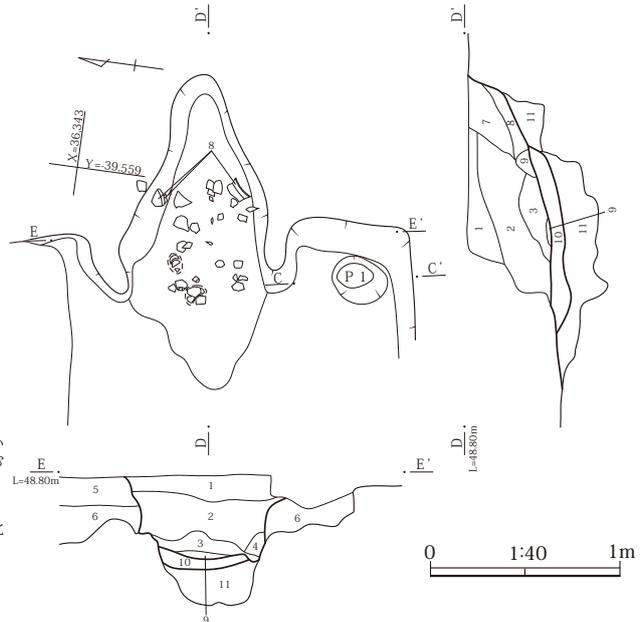


第357図 4区11号住居跡掘り方平面図

- 11号住居カマド 埋土
- 1層 暗褐色土(10YR 3/4) 粘性なし しまりあり ロームで全体が汚れ 焼土粒φ5mm以下・白色バミスφ1mm程を微量含む
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層に焼土粒φ5mm以下を少量含む 袖の構築に使用した赤黒(2.5YR 2/1)・粘質土粒φ10mm以下微量含む
 - 3層 暗褐色土(10YR 3/4) 1層に焼土粒φ10mm以下をやや多量含む しまりやや弱い
 - 4層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ20mm以下を少量含む
 - 5層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり 粗砂を全体に含む 砂質φ1mm程の白色バミスをやや多量含む
 - 6層 黒褐色土(10YR 2/2) 5層の砂とバミスなし 下層1cm程はローム漸移層
 - 7層 灰褐色土(10YR 4/2) 2層土より色調明るく 微量の白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む
 - 8層 灰褐色土(10YR 4/2) 微量の白色軽石・ローム粒子を含む
 - 9層 灰褐色土(10YR 4/2) 多量の焼土小ブロック(φ5～10mm大)を含む [天井部崩落土]
 - 10層 灰層 多量の炭化物と少量の焼土小ブロック(φ3～5mm大)を含む [天井部崩落土]
 - 11層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の黄色砂質ローム粒子・同ブロック(φ5～40mm大)を含む [カマド掘り方埋土]

- 11号住居 埋土
- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 多量の白色軽石(As-C+榛名ニッ岳)と少量の焼土粒子・炭化物を含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石と多量の黒褐色土ブロック・炭化物を含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 少量の白色軽石と多量の淡黄色ロームブロック(φ5～40mm大)を含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石・砂質ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 微量の白色軽石・炭化物と少量の淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大)を含む
 - 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の淡黄色砂質ロームブロックを含む
 - 6'層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の淡黄色砂質ロームブロック・少量の焼土・炭化物を含む
 - 7層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ロームブロックを多く・微量の焼土と炭化物を含む

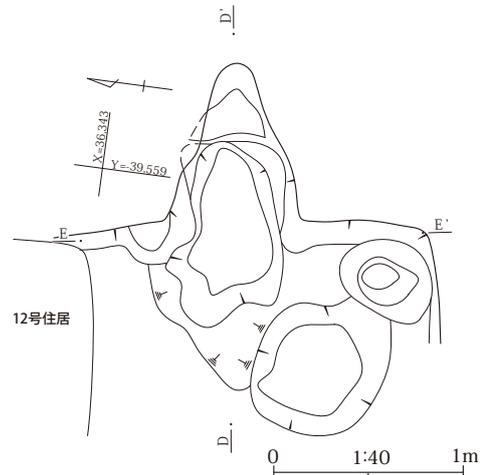
第356図 4区11号住居跡平・断面図



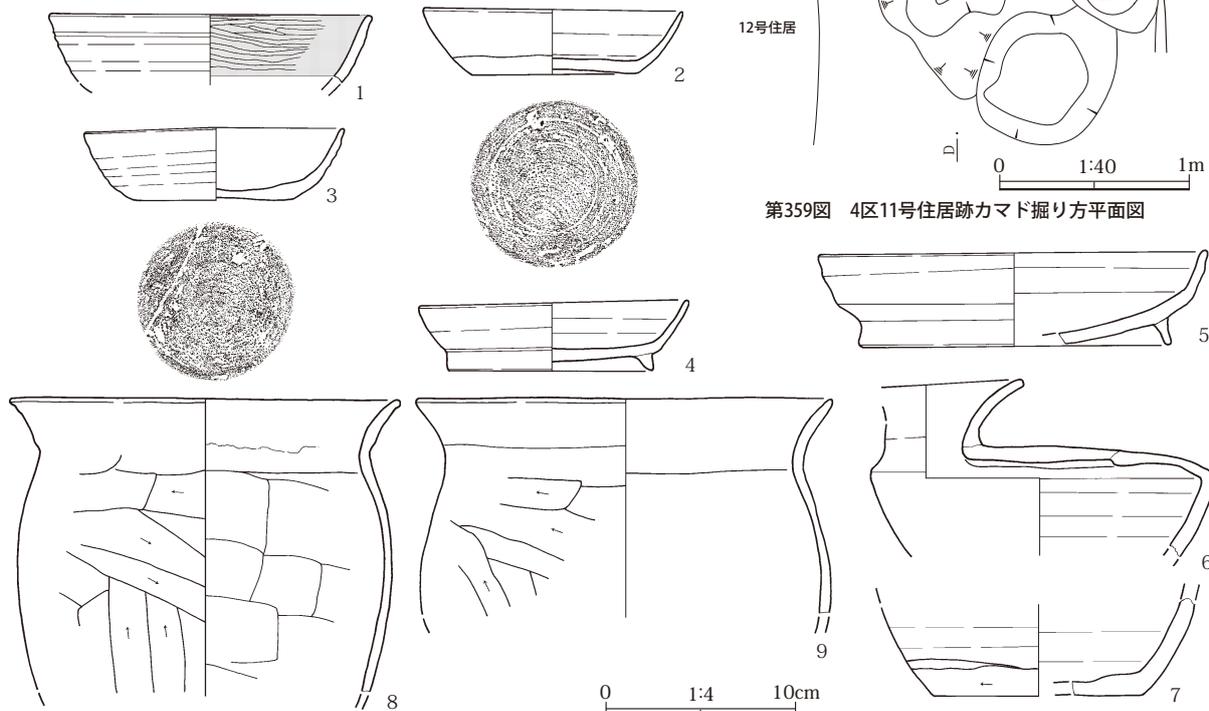
第358図 4区11号住居跡カマド平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

より新しいものと判断される。掘り方：住居中央部を残し、壁際を2～14cm程掘り窪める。カマドについては、燃烧部に当たる部分を皿状に浅く掘り窪める。出土遺物：埋土中からほぼ完形の須恵器杯（No. 2・3）が2個体出土した他、土師器杯（No. 1）・甕（No. 8・9）、須恵器・椀（No. 4）・平瓶（No. 6・7）・高台杯盤（No. 5）の破片、鉄滓などが出土している。



第359図 4区11号住居跡カマド掘り方平面図



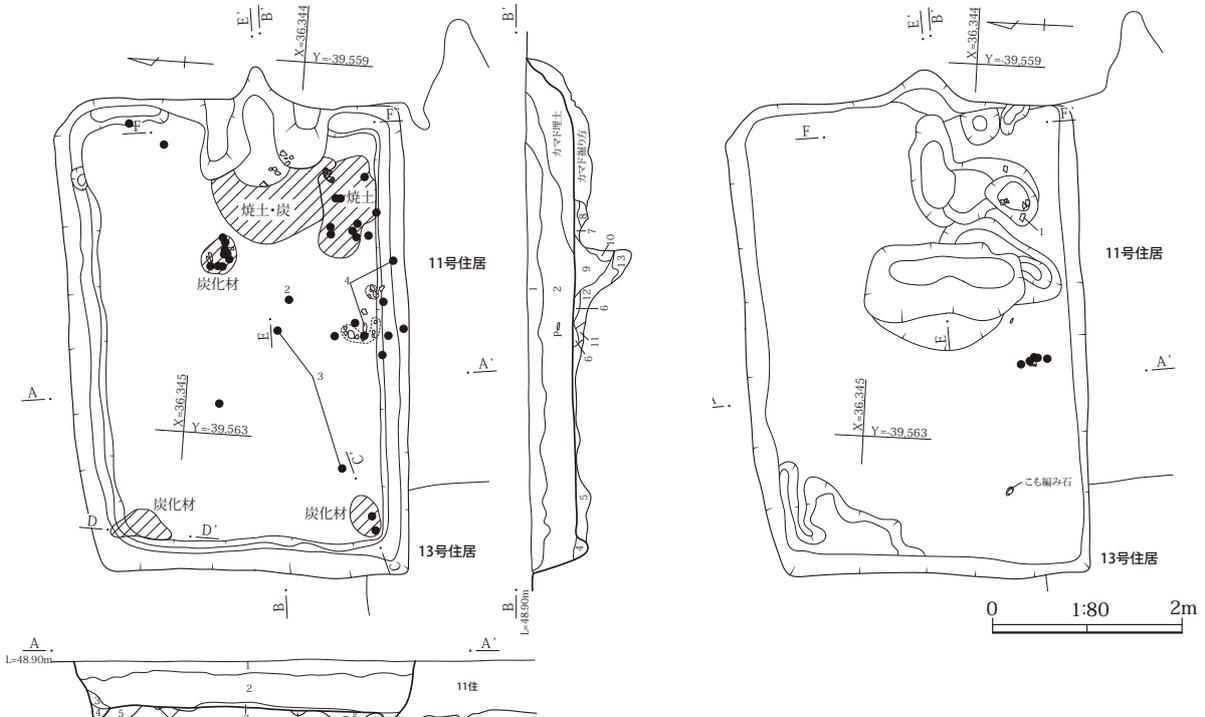
第360図 4区11号住居跡出土遺物

4区11号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	黒色土器 椀	床面+15cm 口縁部～体部 破片	口径 16.6 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部～体部回転ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ後、ヘラ磨き。内面燻し。	
2	須恵器 杯	床面+33cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.5 底径 8.7 器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面やや摩滅。
3	須恵器 杯	床面+25cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.5 底径 8.1 器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫・ 中礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	器面やや摩滅。
4	須恵器 椀	床面+19cm 口縁部～底部 1/2	口径 14.0 底径 10.7 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 やや不良 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
5	須恵器 高台付盤	床面+38cm 口縁部～底部 1/3	口径 20.1 底径 16.1 器高 4.9	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。高台貼付。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。	
6	須恵器 平瓶	床面+18cm、9号溝 埋土中 頸部～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 紫灰(5RP 6/1)	ロクロ整形。天井部で胴部閉塞、口縁部は貼付。 外面：胴部回転ナデ。頸部は水挽き後、貼付。 内面：胴部回転ナデ調整。	
7	須恵器 瓶	床面+23cm、8号住 居床面+22cm 胴部～底部 破片	口径 — 底径 11.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 紫灰(5RP 6/1)	ロクロ整形。 外面：胴部上半回転ナデ、胴部下半～底部ヘラ削り。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。	
8	土師器 甕	竈埋土中 口縁部～胴部上半 破片	口径 20.4 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	
9	土師器 甕	床面+10cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 21.8 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい赤褐(5YR 5/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	

4区12号住居跡(旧称4区SJ-12)

位置: X=36344 Y=-39562 主軸方向: N-85° - E **規模:** 5.0m×3.6m **平面形状:** 隅丸長方形
残存深度: 46cm~55cm **埋没土:** 主に微量の白色軽石・ローム粒・ロームブロックなどを含む灰黄褐色砂質土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。また、住居北西・南西のコーナー部埋土中より炭化材が検出され、埋没の初期段階において投げ込まれたものと思われる。**床面:** 掘り方埋土であるロームを主体とした黒褐色土で埋め固め、床面としている。**カマド:** 東壁中央やや南寄りに位置する。両袖とも残り、遺存状況は比較的良好。燃焼部使用面には多量の炭化物と焼土粒を含んだ灰が堆積する。袖は締まりのある黒褐色弱粘質土で構築されている。カマド前面には焼土と炭が床面上に広がる。**柱穴:** なし。**貯蔵穴:** 掘り方調査段階において、カマド右脇部より土坑状の掘り込みが検出され、貯蔵穴となる可能性がある。**壁周溝:** カマド部を除いて全周する。**重複遺構:** 11号・13号住居跡と重複し、遺構確認掘削時の埋土の様相より、いずれの重複住居跡より本遺構の方が新しいものと判断される。
掘り方: 住居中央部を残し壁際を2~15cm程掘り窪め、住居中央部には土坑状の深い掘り込みを有する。
出土遺物: 床面直上で須恵器杯(No. 3)の破片が、埋土中からはほぼ完形の須恵器杯(No. 4)が出土している。また、掘り方埋土中からはこも編み石が出土している。



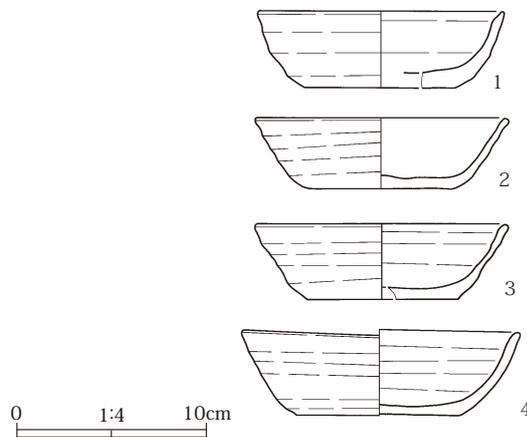
第361図 4区21号住居跡平・断面図、掘り方平面図

12号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 微量の白色軽石(As-C+榛名ニツ岳)を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石・淡黄色砂質ローム粒子・同小ブロック(φ5~10mm大)・焼土粒子・炭化物を含む
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の砂質ロームブロック(φ5~30mm大)を含む
- 4層 暗褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりややあり ローム土で全体に汚れる
溝埋没土
- 5層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ10mm以下多量 焼土粒φ20mm程を微量含む

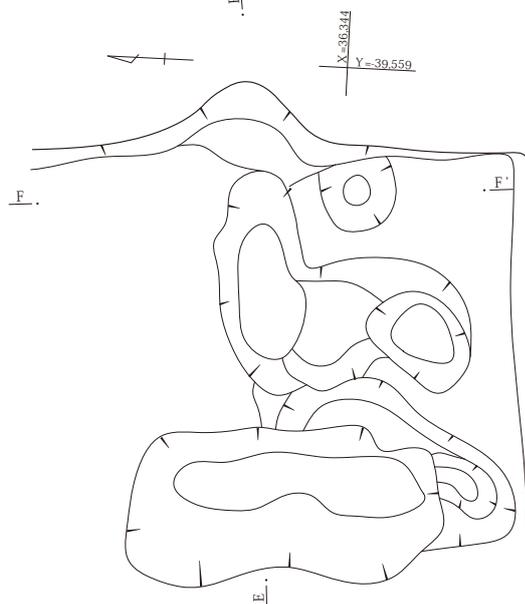
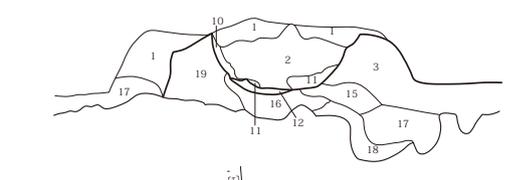
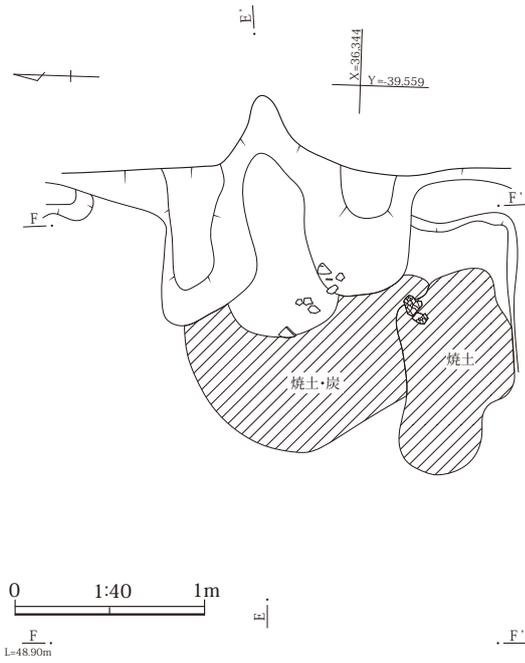
12号住居風倒木 埋土

- 6層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり ローム粒φ10mm以下を少量含む
- 7層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ30mm以下・焼土粒φ10mm以下を少量含む 炭粒φ5mm程を微量含む
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ50mm程の混土
- 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い ロームブロックφ30mm以下を少量含む ロームで全体にうすく汚れる
- 10層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりやや弱い ローム・黒褐色土で全体にうすく汚れる
- 11層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ30mm以下をやや多量含む
- 12層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまり弱い 下層を中心にロームブロックφ20mm以下を少量含む
- 13層 黒褐色土(10YR 2/2) 7層にロームブロックφ150mm以下をやや多量含む
4・5層は植物によるカク乱か

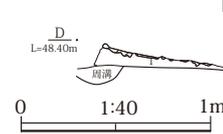
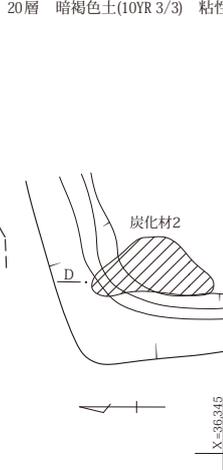
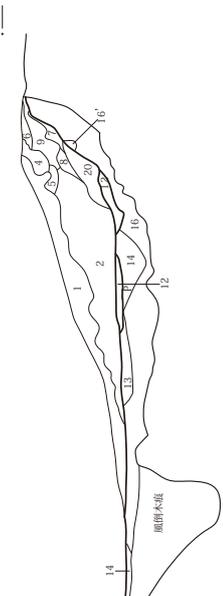


第362図 4区12号住居跡出土遺物

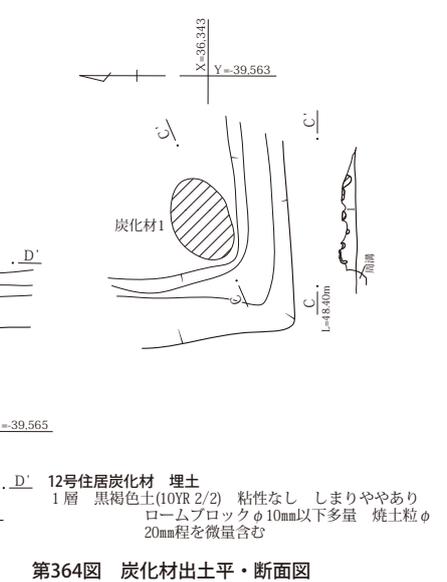
第3章 検出遺構と出土遺物



第363図 4区12号住居跡カマド平・断面図・掘り方平面図



- 12号住居カマド 埋土**
- 1層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりあり ロームブロックφ50mm程やや多量に含む 焼土粒φ5mm程を微量含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 粘性なし しまりあり カマド構築材と思われるロームに焼土粒φ30mm以下をやや多量含む 炭粒φ10mm程を微量含む 炭はカマド付近の床面に多量に分布
 - 3層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりややあり 焼土粒・炭粒・ローム粒φ10mm以下を微量含む 形状と位置から 南袖の可能性あり
 - 4層 にぶい黄褐色(10YR 6/4) 粘性なし しまりあり カマド構築材と思われるロームに黒褐色土(10YR 3/2)ブロックφ30mm程を25%程含む 上層に多い 下層は一部焼土粒で汚れる
 - 5層 黒褐色土(7.5YR 3/1) 粘性なし しまりややあり 全体に焼土とローム粒で汚れる
 - 6層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり ロームブロックφ50mmを1つ含む 焼土粒φ5mm程を少量含む
 - 7層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ3mm程を少量含む
 - 8層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ10mm以下をやや多量含むローム土で全体に汚れる
 - 9層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりややあり 下層は焼土粒φ10mm以下を少量含む 微量の焼土粒とロームで全体に汚れる
 - 10層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土粒φ5mm程を微量含む [袖部崩落土]
 - 11層 黄褐色土(2.5YR 4/6) 粘性なし しまり弱い 焼土層 [天井部崩落土]
 - 12層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の炭化物(φ3~10mm大)と焼土粒子を含む [使用面]
 - 13層 褐色土(10YR 4/4) 少量の白色軽石と多量の砂質ローム粒子
 - 14層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)と焼土ブロック(φ5~20mm大)を含む
 - 15層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)・砂質ローム粒子・少量の焼土ブロック(φ5~15mm大)を含む [カマド掘り方埋土]
 - 16層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ロームブロックφ50mm以下やや多量に含む 焼土粒φ10mm以下を少量含む しまりやや弱い 粘性なし
 - 16層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 16層が焼土化
 - 17層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 粘性なし しまりややあり ロームブロックφ50mm以下やや多量に含む
 - 18層 褐色ローム(10YR 4/4) 粘性なし しまりやや弱い 繰り返したロームを埋め戻した土やや全体に黒褐色土で汚れる
 - 19層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 粘性なし しまりやや弱い 3層のような黒褐色土とロームの混土でロームブロックφ50mm以下少量含む [左袖]
 - 20層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりやや弱い φ20mm以下の焼土粒やや多量含む



第364図 炭化材出土平・断面図

4区 12号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	床面-7cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.8 底径 8.0 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 良好 ③ 黄灰(2.5Y 5/1)	ロクロ整形。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削りか。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	内面に油煙付着。
2	須恵器 杯	床面+11cm 口縁部~底部 1/2	口径 13.0 底径 7.8 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焼 やや不良 ③ にぶい黄褐色(10YR 6/4)	ロクロ整形。回転右回りか。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部ヘラ削り調整。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	器面摩滅。
3	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/3	口径 13.0 底径 8.0 器高 3.9	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焼 ③ にぶい赤褐(2.5YR 5/4)	ロクロ整形。回転右回りか。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
4	須恵器 杯	床面+7cm ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 14.3 底径 8.7 器高 4.5	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焼 ③ 褐灰(5YR 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	

4区13号住居跡(旧称4区SJ-13)

位置：X=36341 Y=-39565

主軸方向：N-84°-E 規模：4.0m×3.4m

平面形状：隅丸長方形 残存深度：43cm～55cm

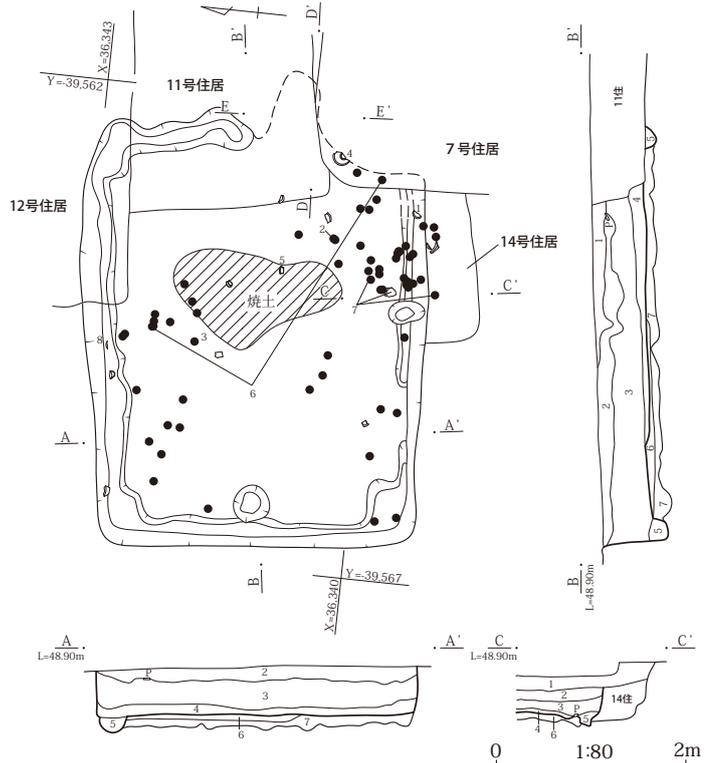
埋没土：微量の白色軽石・焼土粒・炭化物を含む暗灰黄色～灰黄褐色砂質土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。

床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固めて床面とし、一部に2～8cmほどの貼り床が敷設されている。

カマド：東壁の中央南寄りに位置する。重複する住居跡によって壊され、掘り方の一部が残るのみである。柱穴：掘り方調査時において、西壁と南壁の中央部より柱穴跡と思われるピットが2穴検出された。貯蔵穴：なし。

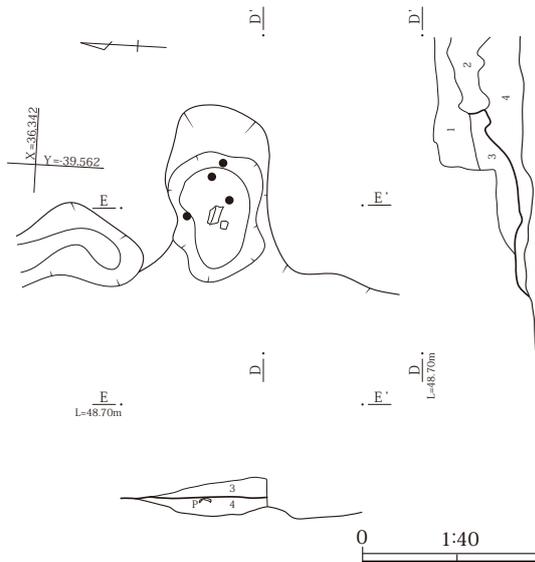
壁周溝：南東コーナー部の重複による欠失を除き、幅26～40cm、深さ2～7cmを測る壁溝が、ほぼ全周する。重複遺構：7号・11号・12号・14号住居跡と重複し、遺構確認～掘削時の埋土の様相より、本遺構は14号住居跡より新しく、他の住居跡より古いものと判断された。

掘り方：全体に地山ローム土を6～20cmほど掘り窪める。出土遺物：住居南東部コーナー付近でややまとまって出土した。壁際直下で土師器杯(No. 1)の破片が、埋土中から黒色土器杯(No. 3)、須恵器杯(No. 6・7・8)・蓋(No. 4・5)片などが出土している。

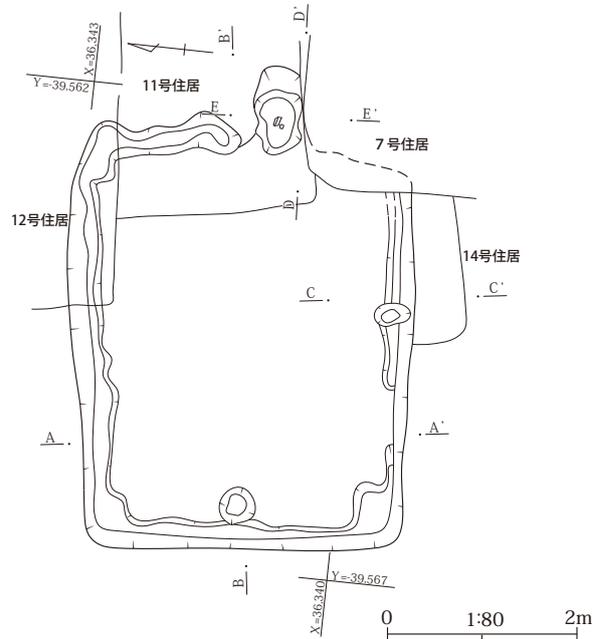


- 13号住居 埋土
- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(榛名二ツ岳)を含む
 - 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(榛名二ツ岳・浅間C)と微量の焼土粒子を含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石(榛名二ツ岳・浅間C)と少量の焼土粒子・炭化物を含む
 - 4層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石と多量の炭化物を含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の淡黄色砂質ローム小ブロック(φ5～10mm大程)と焼土粒子を含む [壁周溝埋土]
 - 6層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 多量の淡黄色砂質ロームブロック(φ10～30mm大)を含み硬化する [掘り方埋土 貼り床]
 - 7層 [掘り方埋土]

第365図 4区13号住居跡平・断面図



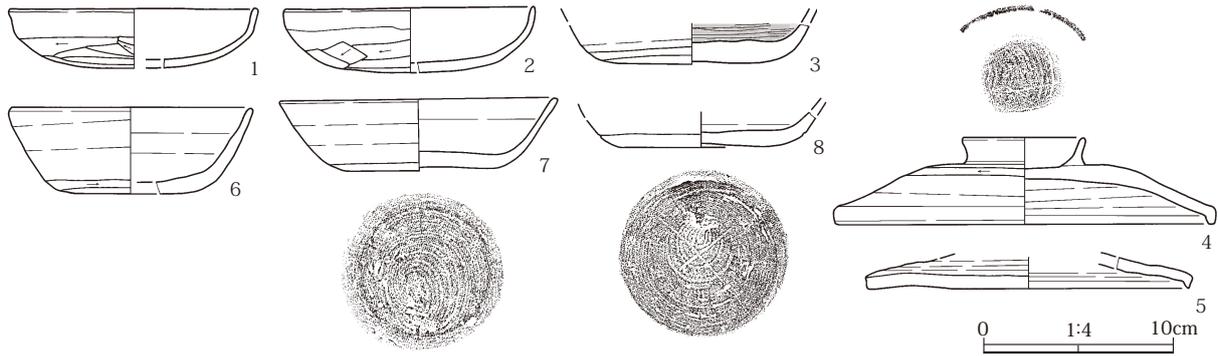
第366図 4区13号住居跡カマド平・断面図



第367図 4区13号住居跡掘り方平面図

- 13号住居カマド 埋土
- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ0.5mm～1mmのロームブロックを含む φ5mmの白色軽石・φ0.5mmの黒褐色土ブロック・褐色土粒子を少し含む
 - 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 白色軽石をわずかに含む 黒褐色土粒子を多く含む褐色土粒子を少し含む
 - 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 炭化物・φ0.5mm～1.5mmの焼土を含む ローム粒子を少し含む 褐色土粒子をわずかに含む [煙道部]
 - 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 黒褐色土粒子を含む ロームを多く含む 焼土・白色軽石をわずかに含む

第3章 検出遺構と出土遺物



第368図 4区13号住居跡出土遺物

4区13号住居跡出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	壁際直下 口縁部~底部 1/2	口径 12.8 底径 — 器高 3.1	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	外面：口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部~底部ナデ調整。掻き傷痕が無 数にあり。	
2	土師器 杯	床面+20cm 口縁部~底部 1/4	口径 13.0 底径 — 器高 3.3	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 赤褐(2.5YR 4/6)	外面：口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半~底部手持ちヘ ラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ調整。	
3	黒色土器 杯	床面+41cm 底部 破片	口径 — 底径 8.5 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい黄橙(10YR 5/3)	ロクロ整形。 外面：底部回転ヘラ切り。 内面：底部ナデ後ヘラ磨き。内面燻し。	
4	須恵器 杯蓋	床面+5cm 口縁部~摘部 1/3	口径 19.4 摘径 6.2 器高 4.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。摘み内側に回転糸切りが残る。 外面：天井部上半回転ヘラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。	
5	須恵器 杯蓋	床面+21cm 口縁部~天井部 破片	口径 16.7 摘径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(N 7/0)	ロクロ整形。 外面：天井部~口縁部横ナデ。 内面：口縁部~天井部回転ナデ。	
6	須恵器 杯	床面+10cm 口縁部~底部 1/4	口径 12.5 底径 6.0 器高 4.5	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ オリーブ灰(2.5GY 5/1)	ロクロ整形。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
7	須恵器 杯	床面+7cm、14号住 居床面+15cm 口縁部~底部 2/3	口径 14.3 底径 8.0 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 7/2)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転糸切り。周辺部を わずかに回転ヘラ削り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	14号住居遺物と接 合。
8	須恵器 杯	床面+25cm 底部 底部のみ残存	口径 — 底径 8.4 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。回転左回り。 外面：底部回転糸切り。後大部分を回転ヘラ削り。 内面：底部回転ナデ調整。	底部外面中央に ヘラ記号「十」

4区14号住居跡(旧称4区SJ-14)

位置：X=36339 Y=-39563 主軸方向：N-78°-E

規模：不明 平面形状：不明 残存深度：40cm~47cm

埋没土：主に少量の白色軽石・微量の焼土粒を含む灰黄色砂質土~
多量の焼土粒と炭化物を含むにぶい黄褐色土で埋没し、その堆積状
況から自然埋没と推察される。床面：掘り方埋土であるロームを
主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド・柱穴・貯蔵穴：残存部においては検出されていない。

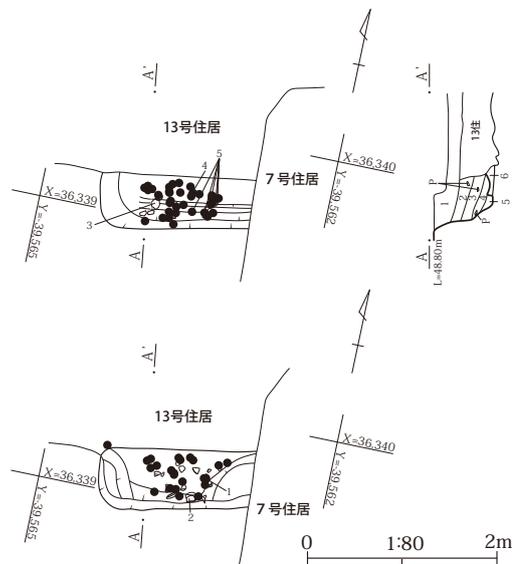
壁周溝：西壁部で幅14cm、深さ6cmを測る壁溝が検出された。

重複遺構：7号・13号住居跡と重複する。遺構確認~掘削時の埋土
の様相から、本遺構は両住居跡より古いものと判断される。

掘り方：地山ローム土を3~8cmほど掘り窪める。

出土遺物：床面直上で土師器甕(No. 3・4)、須恵器杯(No. 2)・
蓋(No. 1)の破片、砥石(No. 6)などが出土し

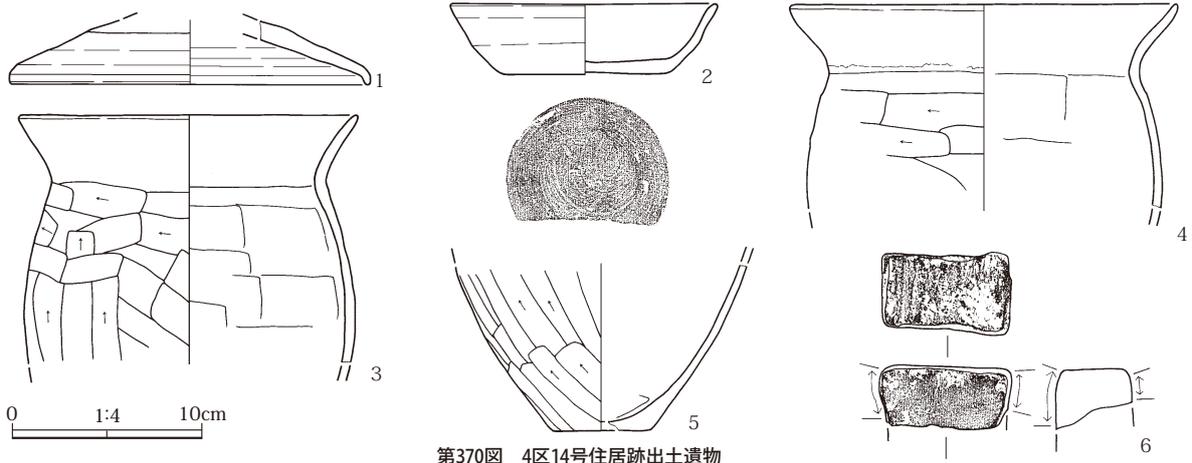
ている。



第369図 4区1号住居跡平・断面図、掘り方平面図

14号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(椋名ニツ岳)を含む
- 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 少量の白色軽石(椋名ニツ岳+浅間C)と微量の焼土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の焼土粒子・炭化物を含む
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の焼土粒子・焼土小ブロック(φ5~10mm大)・炭化物を含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の淡黄色砂質ローム粒子を含む [壁周溝埋土]
- 6層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の淡黄色砂質ロームブロック(φ5~30mm大)を含む [掘り方埋土]



第370図 4区14号住居跡出土遺物

4区14号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考			
1	須恵器 杯蓋	床面直上 口縁部～天井部 破片	口径 18.6 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 6/1)	ロクロ整形。 外面：天井部上半回転ヘラ削り、下半～口縁部横ナデ。 内面：口縁部～天井部回転ナデ。				
2	須恵器 杯	壁際直下 口縁部～底部 1/2	口径 13.9 底径 8.6 器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(7.5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：口縁部～体部回転ナデ調整。底部ナデ調整。				
3	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上半 破片	口径 17.6 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。				
4	土師器 甕	床面+2cm 口縁部～胴部上端 破片	口径 20.2 — 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 橙(5YR 6/8)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。				
5	土師器 甕	床面+11cm 胴部下半～底部 破片	口径 — 底径 5.2 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 黒褐(5YR 3/1)	輪積み。 外面：胴部～底部ヘラ削り。 内面：胴部～底部ヘラナデ。				
番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	摘要
6	石製品	砥石	大半欠損	6.3	3.0	4.2	121	砥沢石	表裏、両側面とも使用されている。頂部は若干使用されている。加工痕が残る。

4区15号住居跡(旧称4区SJ-15)

位置：X=36329 Y=-39562 主軸方向：N-90° - E

規模：4.1m×3.3m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：41cm～48cm 埋没土：主に白色軽石と少量の焼土粒などを含む灰黄色～灰黄褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体とした暗褐色土で埋め固め、床面としている。

カマド：東壁の中央やや南寄りに位置する。両袖は地山ロームを掘り残す形で形成される。煙道部は緩やかに傾斜し、煙



15号住居 P1 埋土

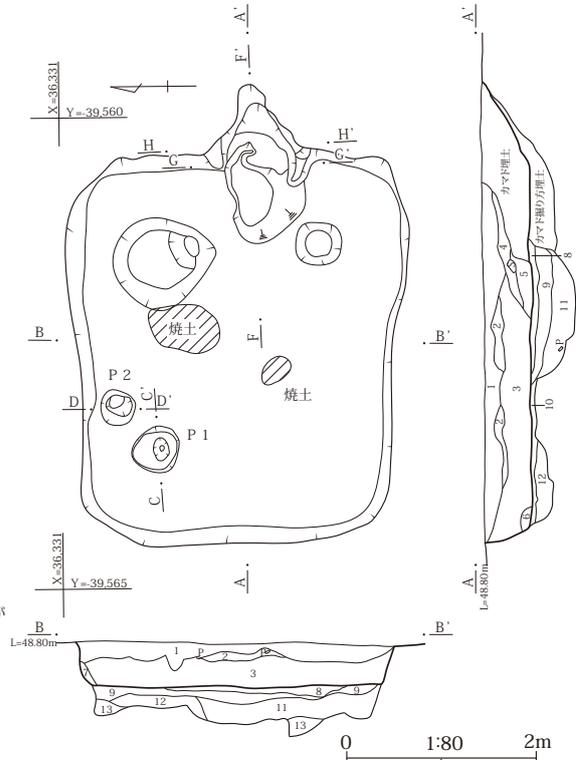
- 1層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い ローム粒φ10mm以下を少量含む
- 2層 黒褐色土(2.5YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い ロームで全体が強く汚れる 周囲も1層に色相は近いがしまりがピット内が弱い

15号住居 P2 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや有 φ20mm以下のロームブロック少量含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 1層のロームブロック微量 北側層はローム 南側は1層に近いがピット内はしまりが弱い

15号住居 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 白色軽石・焼土を少し含む φ30mm程度の礫を含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 白色軽石を含む 焼土・炭化物を少し含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 白色軽石・炭化物・少量のと多量の褐色土粒子を含む
- 4層 黒褐色土(10YR 3/1) 白色軽石・焼土・炭化物・φ1～3mm程度の黄褐色土ブロックを含む
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黄褐色土粒子を少し含む
- 6層 灰黄褐色土(10YR 4/2) φ30mm程度の黄褐色土ブロックを含む
- 7層 褐灰色土(10YR 4/1) 黒色土粒子を含む
- 8層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまり有 φ10mm以下の焼土・φ1mm程の白色バミスを微量含む (貼り床)
- 9層 黒褐色土(10YR 2/2) 8層に類似するが しまりやや弱い
- 10層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりやや弱い 白色バミスφ1mm程を微量含む 全体にロームで汚れる 8層より黄味が強い



- 11層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 多量のロームブロックφ10mm前後と白色バミスφ1mm程を微量含む
- 12層 暗褐色土(10YR 3/3) 粘性なし しまりやや弱い φ2～3cm以下のロームブロック粒をやや多量含む
- 13層 黒褐色土(10YR 3/1) 粘性なし しまりやや弱い 砂質土

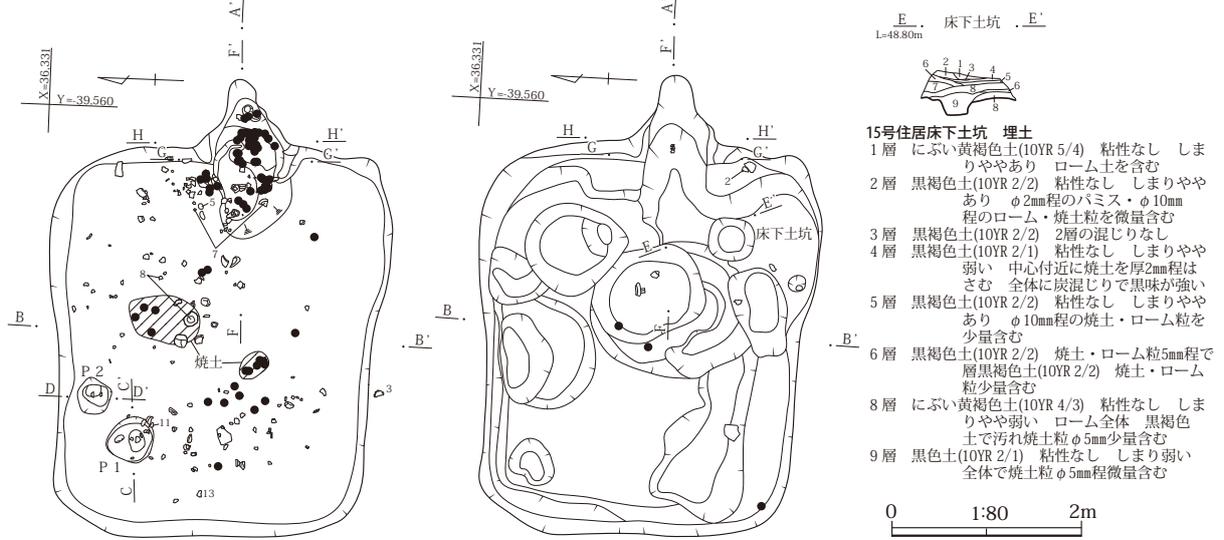
第371図 4区15号住居跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

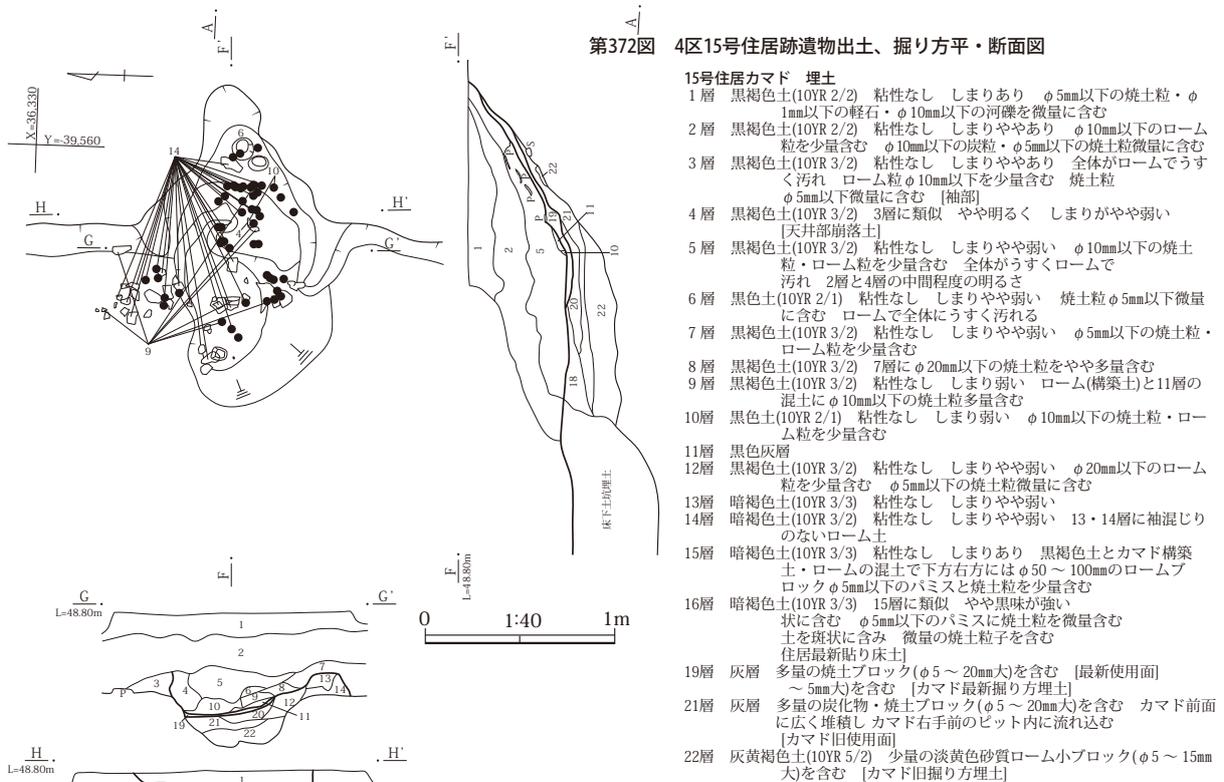
道端は急峻に立ち上がる。このカマドは最終使用面下に間層をはさんで多量の炭化物と焼土ブロックを含んだ灰が厚く堆積した旧使用面が検出された。しかも、この灰層は燃焼部から煙道部にかけて広く堆積していることから、使用期間が長かったものと思われる。 柱穴:床面上に径36~53cm 深さ23~38cmを測る2基の柱穴と考えられるピット(P1・P2)を検出した。また、掘り方調査段階で、柱穴状の掘り込みを2ヶ所検出した。 貯蔵穴:なし。壁周溝:なし。

重複遺構:なし。 掘り方:住居中央西側を除く各所に、深度4~40cmを測る土坑状の掘り込みを多数有する。

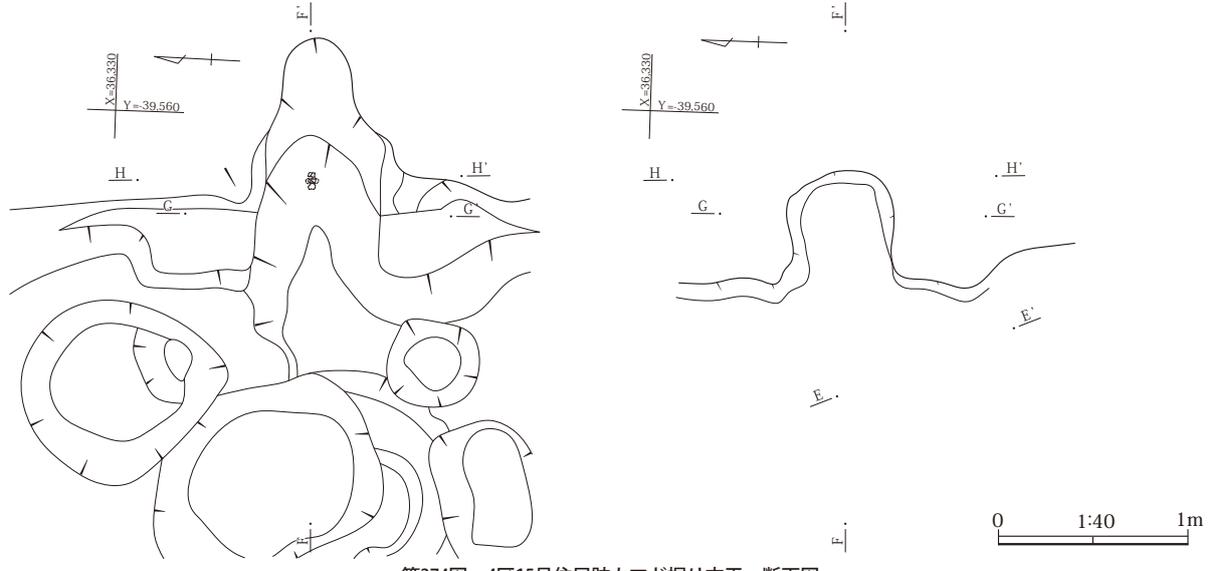
出土遺物:床面直上でほぼ完形の須恵器杯(No.8)が出土した他、埋土中から土錘(No.15)が、カマド内からは完形の土師器甕(No.14)と須恵器杯(No.4・6・9)・灰釉陶器(No.11)片が出土している。また、P1埋土中からは土師器杯(漆付着)が出土し、隣接する6号住居跡埋土中のものと接合され、住居掘り方埋土中から出土の灰釉陶器(No.11)は、隣接する8号住居跡と1号集石跡から出土したものと接合される等、出土遺物の遺構間接合が際立つ。



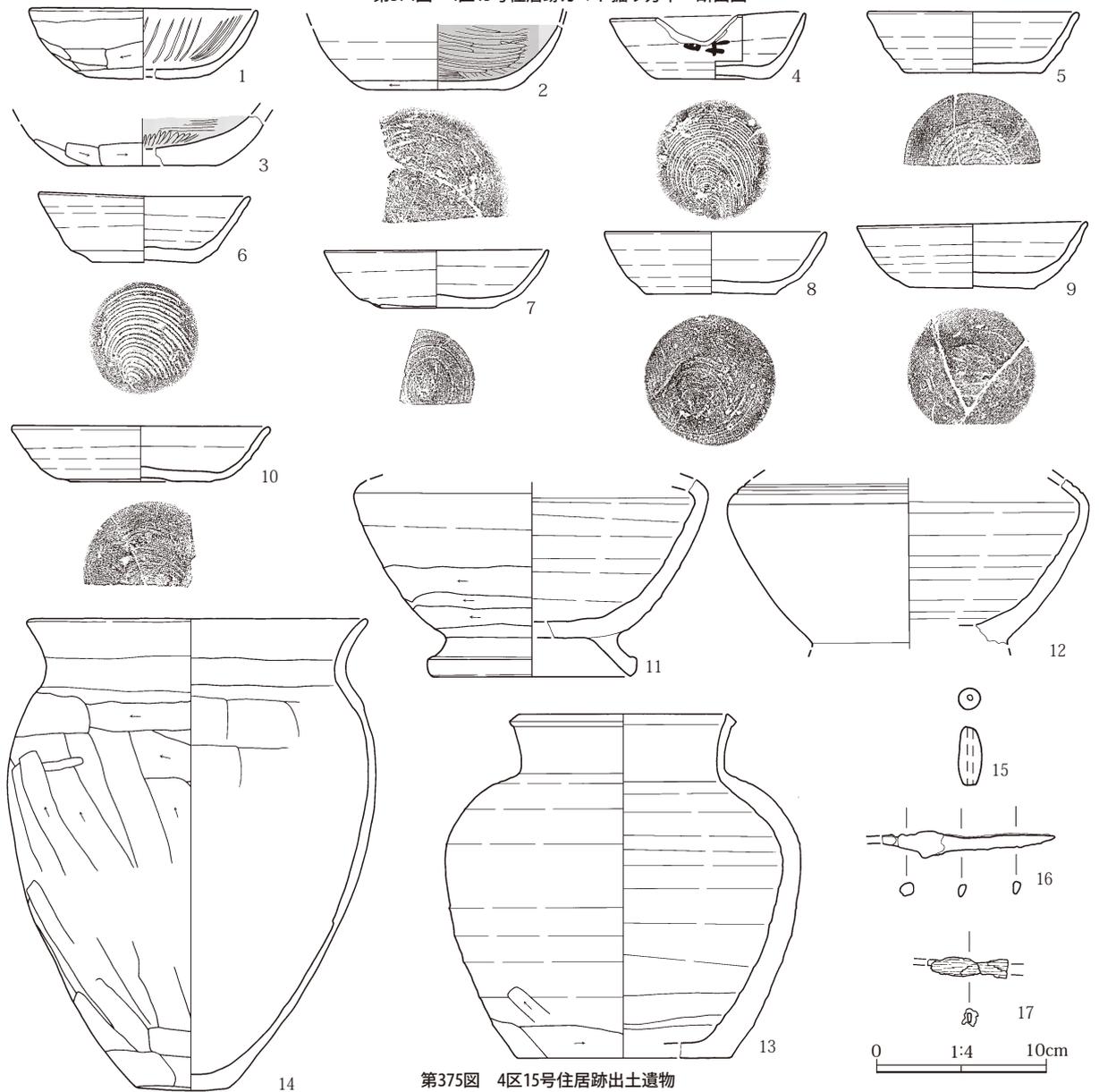
第372図 4区15号住居跡遺物出土、掘り方平・断面図



第373図 4区15号住居跡カマド平・断面図



第374図 4区15号住居跡カマド掘り方平・断面図



第375図 4区15号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

4区15号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	出土位置 残存状態	計測値		①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法				備考
			口径	器高		口径	器高	調整手法	調整手法	
1	土師器 杯	埋土中 口縁部～底部 1/4	口径 13.1	器高 4.1	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(2.5YR 5/8)	外面：口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面：口縁部～体部横ナデ、底部ナデ調整。斜放射状暗文。				器面摩滅。
2	黒色土器 椀	床面～5cm 体部～底部 1/4	口径 8.4	器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：体部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。 内面：体部、底部ともヘラ磨き。				底部外面中央 にヘラ記号 「×」
3	黒色土器 杯	住居付近 体部～底部 破片	口径 8.8	器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 やや不良 内面 黒色処理 ③ 浅黄橙(7.5YR 8/4)	外面：体部～底部ヘラ削り。 内面：ヘラ磨き。				
4	須恵器 杯	竈埋土中 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 11.4	器高 3.8	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(10Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				胴部外面にの 墨書。口縁部 歪みあり。
5	須恵器 杯	床面+22cm 口縁部～底部 1/6	口径 12.2	器高 3.6	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 5/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
6	須恵器 杯	竈埋土中 完形	口径 12.2	器高 4.1	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 ③ 橙(7.5YR 7/6)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
7	須恵器 杯	床面+23cm 口縁部～底部 1/5	口径 13.0	器高 3.4	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい橙(7.5YR 6/4)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
8	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形 口縁部一部欠損	口径 13.0	器高 3.7	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ 黄灰(2.5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
9	須恵器 杯	竈埋土中 完形	口径 13.4	器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後回転ヘラ 削りか。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				器面摩滅。
10	須恵器 杯	竈埋土中、竈掘方 埋土中 口縁部～底部 1/5	口径 15.0	器高 3.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 やや不良 ③ にぶい黄褐(10YR 4/3)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、底部周 辺は回転ヘラ削り。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。				
11	須恵器 長頸壺(台付)	床面+4cm、掘方 埋土中 胴部～台部 破片	口径 10.2	器高 —	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(7.5Y 7/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：胴部横ナデ。胴部下半、底部回転ヘラ削り。 内面：胴部～底部回転ナデ調整。				8号住と1号集 石出土土器片 と接合。
12	須恵器 長頸壺	胴部片	口径 —	器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 ③ 灰オリーブ(7.5Y 6/2)	ロクロ整形。 外面：胴部下半は回転ヘラ削りであるが、降灰着により単 位不明、高台貼付。 内面：胴部ナデ。				
13	須恵器 壺	床面+20cm 口縁部～底部 1/4	口径 12.3	器高 20.3	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 6/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部横ナデ。胴部ナデ。最下位に1段回転ヘラ削り、 底部ヘラナデ。 内面：口縁部～胴部横ナデ。底部ナデ。				1号集石出土土 器片と接合。
14	土師器 甕	竈埋土中 ほぼ完形	口径 19.7	器高 27.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部～頸部下と底部上に1～2段の 横方向ヘラ削り。その間は縦方向ヘラ削り。底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部～底部ヘラナデ。				
15	土製品 錘	埋土中 完形	長さ 3.4	径 1.3	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	外面ナデ。 中心部縦に径4mmの穿孔。 重量：4g				

番号	種別	器種	状態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	摘要
16	鉄器	刀子	柄 1/3 欠損	10.1	1.6	0.9	9.0	錆化が激しい。
17	鉄器	刀子	柄の一部	4.6	1.1	1.0	5.0	木質部が残る。

4区16号住居跡(旧称4区SJ-16)

位置：X=36322 Y=-39582 主軸方向：N-55°-E 規模：2.3m×2.6m 平面形状：隅丸長方形

残存深度：15～35cm 埋没土：主に白色軽石・焼土粒・ローム粒などを含むにぶい黄褐色～暗褐色土で埋没し、その堆積状況は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土であるロームを主体としたにぶい黄褐色土で埋め固め、床面としている。カマド：北東壁のほぼ中央に位置する。遺存状態はあまり良くなく、明瞭な使用面も検出し得なかった。両袖部は地山を掘り残す形で形成される。柱穴：なし。貯蔵穴：住居南東コーナー部において130～140cmを測る楕円形を呈する貯蔵穴と考えられる土坑が検出され、東コーナーには完形の土師器小型甕(No. 4)が正位で据えられていた。壁周溝：なし。重複遺構：4号・11号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本住居の方が新しいものと判断される。掘り方：全体に8～14cmほど掘り窪める。出土遺物：出土量は全体的に少なく、土師器杯(No. 1)

の破片が出土している。 所見：一辺2m強と規模も小さく、検出当初は土坑(SK-110)として番号付けをした。他の竪穴住居跡群とはやや離れた位置に単独で存在しカマドを有する小型竪穴住居跡という点では、1・2区46号住居跡に近似する。集落内での特別(特殊)な存在が推察される。

16号住居 埋土

- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) ぶい黄褐色土粒子を斑状に含む
- 2層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ2mm程度の白色軽石・φ2mm程度の暗褐色土ブロック・褐色土粒子を含む φ1mm以下の焼土・φ2mm程度のローム粒子をわずかに含む 圧縮されて固い
- 3層 暗褐色土(10YR 3/3) φ2mm程度の褐色土ブロックを含む φ1mm程度のローム粒子をわずかに含む
- 4層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土粒子を少し含む φ1mm以下のローム粒子・φ1mm程度の白色軽石をわずかに含む
- 5層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微小の白色軽石をわずかに含む 褐色土粒子を含む
- 6層 暗褐色土(10YR 3/3) φ2mm程度の褐色土ブロック・ローム粒子を少し含む
- 6層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土ブロック(φ1mm)をわずかに含む
- 7層 ぶい黄褐色土(10YR 7/2) 褐色土粒子を多く含む 褐色土粒子をわずかに含む 粘質性をもつ

イ層 灰褐色土(7.5YR 4/2) 多量の黄褐色砂質ロームブロック(φ10～20mm大)・少量の白色軽石(椋名ニッ岳+浅間C)を含む

ロ層 暗褐色土(7.5YR 3/3) 多量の粗粒砂と少量の白色軽石・炭化物を含む

ハ層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) 少量の白色軽石・黄色スコリアを含む

ニ層 暗褐色土(10YR 3/3) 黒褐色土を斑状に含み 少量の白色軽石・炭化物を含む

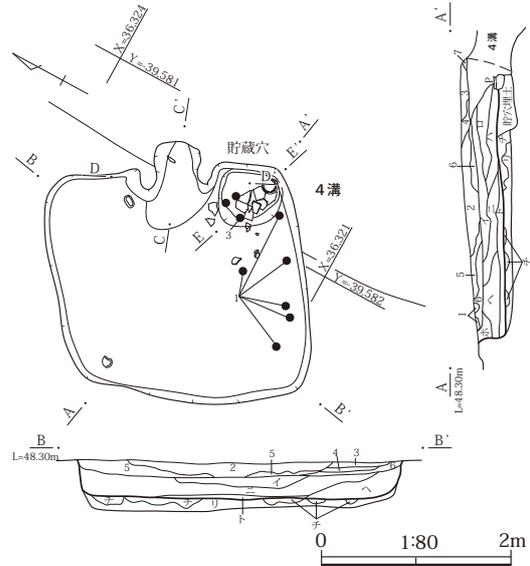
ホ層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の黒色土小ブロック(φ5～10mm大)と少量の白色軽石・黄色スコリアを含む

へ層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の黒色土小ブロック(φ5～10mm大)と白色軽石・黄色スコリアを含む

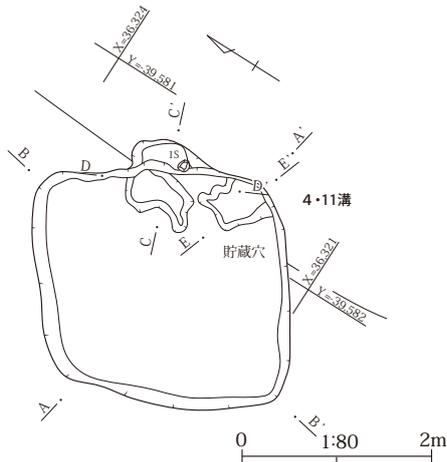
ト層 黒色土(10YR 3/3) 多量のぶい黄褐色～黄褐色砂質ロームブロック(φ5～30mm大)を含む

チ層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量のφ1～5mmの黒色土ブロック・少量のローム粒子を含む φ0.5mmの焼土粒子・白色軽石をわずかに含む

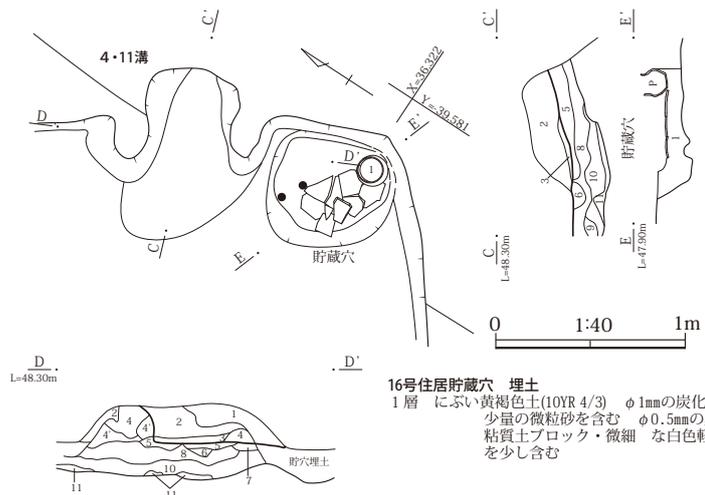
リ層 黒色土(10YR 2/1) φ1～3mmのロームブロックを少し含む



第375図 4区16号住居跡平・断面図



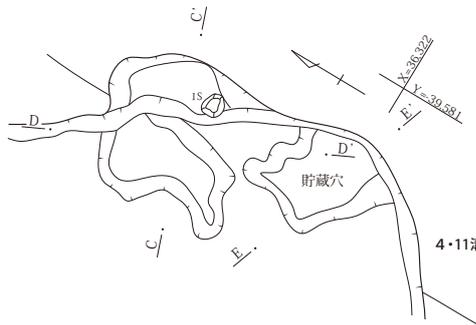
第376図 4区16号住居跡掘り方平面図



第377図4区16号住居跡カマド平・断面図

16号住居貯蔵穴 埋土

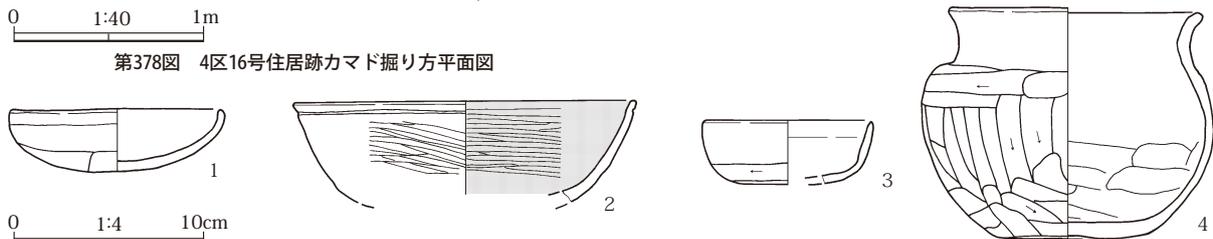
- 1層 ぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ1mmの炭化物・少量の微粒砂を含む φ0.5mmの黒色粘質土ブロック・微細な白色軽石を少し含む



第378図 4区16号住居跡カマド掘り方平面図

16号住居カマド 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の粗粒砂と少量の白色軽石(椋名ニッ岳+浅間C)を含む
- 2層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の焼土小ブロック(φ3～10mm大)・炭化物・淡黄色シルト小ブロック(φ3～5mm大)・白色軽石を含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の炭化物と少量の焼土小ブロック(φ3～5mm大)を含む
- 4層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の淡黄色シルト小ブロック(φ3～5mm大)を含む [袖部]
- 4層 ぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を少し含む
- 5層 黒褐色土(10YR 3/1) φ2～5mmの焼土ブロック・炭化物を含む・淡黄色シルト小ブロック(φ3～5mm)を含む
- 6層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 褐色土粒子を含む 焼土粒子・黒色土ブロック(φ1mm程度)をわずかに含む
- 7層 ぶい黄褐色土(10YR 7/4) 焼土・φ1～3mmの褐色土ブロックを少し含む
- 8層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 焼土を少し含む 褐色土粒子・φ2～10mmの黒色土ブロックを含む
- 9層 黒色土(10YR 2/1) 粘質土
- 10層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 褐色土粒子を含む 白色軽石・淡黄色シルト小ブロック(φ2mm以下)をわずかに含む φ1mm大の黒色土ブロックを少し含む
- 11層 黒色土(10YR 2/1) 粘質土



第379図 4区16号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と出土遺物

4区16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 杯	床面+3cm 口縁部~底部 1/2	口径 11.0 底径 - 器高 3.2	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい橙(5YR 6/4)	口縁部内湾。 外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。 内面：口縁部~体部横ナデ、底部ナデ。	
2	黒色土器 椀	埋土中 口縁部~体部上半 破片	口径 17.7 底径 - 器高 -	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 内面黒色 処理 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	外面：口縁部~体部が横方向ヘラ磨き。 内面：口縁部~体部は横方向ヘラ磨き。	
3	須恵器 杯	貯蔵穴埋土中 破片	口径 8.8 底径 6.0 器高 3.4	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 暗灰黄(2.5Y 5/2)	口縁部整形。 外面：体部下半~底部は回転ヘラ削り。 内面：体部~底部回転ナデ調整。	
4	土師器 壺	貯蔵穴埋土中 完形	口径 12.9 底径 8.0 器高 12.1	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 浅黄橙(7.5YR 8/3)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦、下位斜め方向ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部~底部ヘラナデ。	外面の黒斑あり。胴部から底部内面はスス付着。

4区17号住居跡(旧称4区SJ-17)

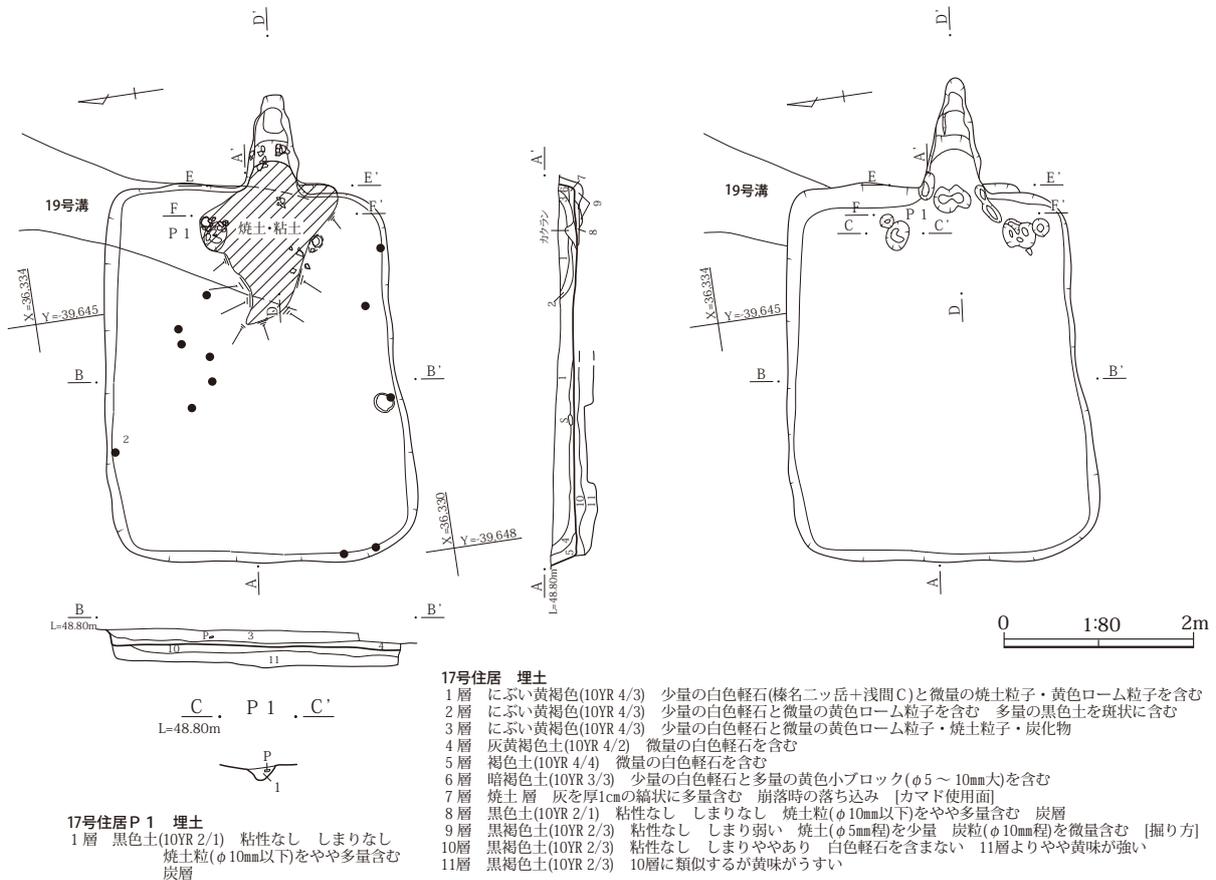
位置：X=36332 Y=-39646 主軸方向：N-98°-E 平面形状：隅丸長方形

残存深度：9cm~27cm 埋没土：少量の白色軽石を含むにぶい黄褐色~灰黄褐色土で埋没し、その堆積状態は自然埋没の様相を呈する。床面：掘り方埋土である黒褐色土で埋め固め、床面としている。

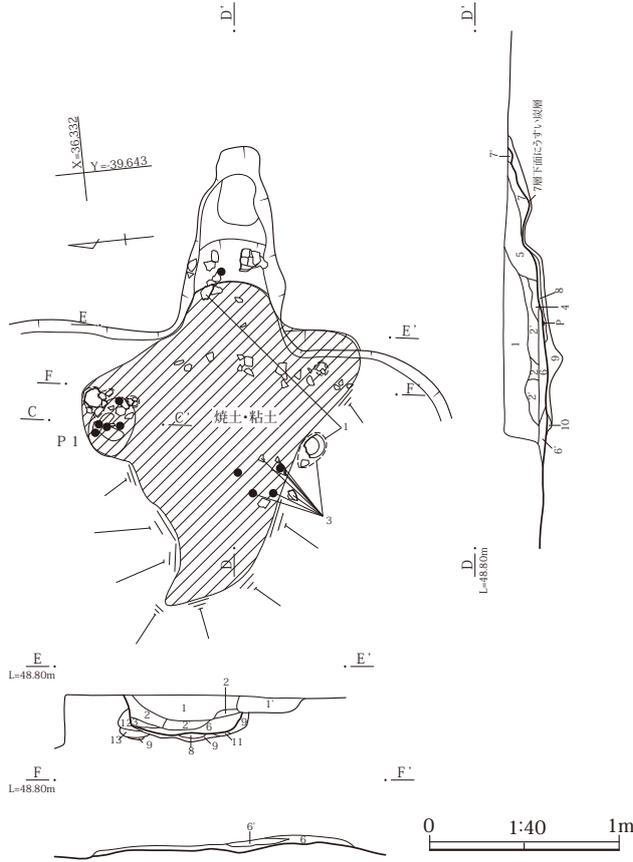
カマド：南東壁中央南寄りに位置する。遺存状態は比較的良好。袖部は失われているものの、燃焼部使用面には灰層および天井部崩落焼土が認められ、煙道部も良く焼けているため、長期間にわたって使用していたことがうかがえる。調査時にP1として調査した穴と掘り方調査時に検出された小ピットは、その位置と埋土からカマド袖内の心材(袖石)の掘り方である可能性が高い。柱穴：なし。貯蔵穴：なし。壁周溝：なし。

重複遺構：19号溝跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本遺構の方が古いものと判断された。

掘り方：全体に12~22cmほど掘り窪める。出土遺物：床面直上で須恵器杯(No. 2)・椀(No. 3)の破片などが出土している。所見：4区内の他の竪穴住居跡群とは離れた別群の一画と考えられる。

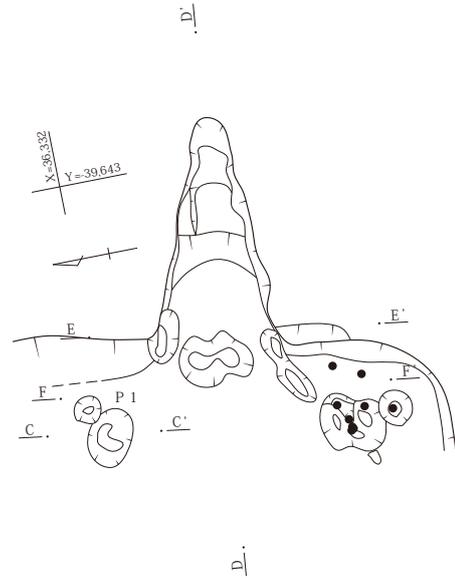


第380図 4区17号住居跡平・断面図、掘り方平面図

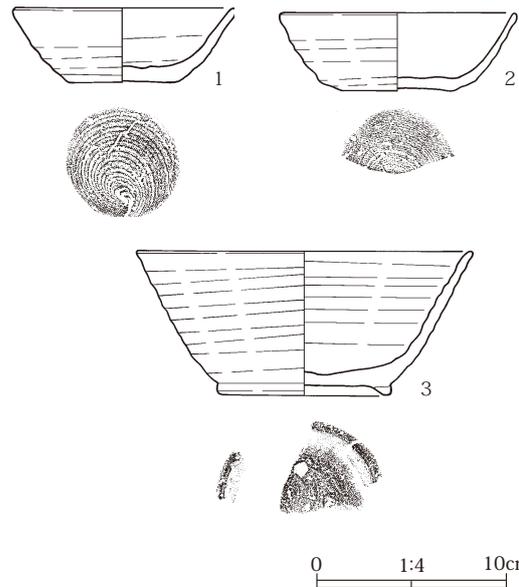


- 17号住居カマド 埋土**
- 1層 暗褐色土(10YR 3/3) 多量の白色軽石(榛名ニッ岳+浅間C)と少量の焼土粒子 黄色ローム粒子を含む
 - 1'層 暗褐色土(10YR 3/3) 焼土粒子を含まない
 - 2層 暗褐色土(10YR 3/3) 少量の白色軽石と多量の黄色小ブロック(φ5~10mm大)を含む
 - 2'層 暗褐色土(10YR 3/3) 多量の黄色ロームブロック(φ5~10mm大)を含む [袖・天井部崩落土]
 - 3層 灰層 多量炭化物と少量の焼土小ブロック・黄色ローム小ブロック(φ5~10mm大)を含む 黒褐色土(10YR 3/2) 微量の焼土粒子を含む
 - 5層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 多量の焼土ブロック(φ5~30mm大)を含む [天井部崩落土]
 - 6層 黒色土(10YR 2/1) 粘性なし しまりなし 焼土粒(φ10mm以下)をやや多量含む 炭層
 - 6'層 黒色土(10YR 2/1) 黄灰色粘土(カマド崩落土)をブロック(φ10mm以下)をやや多量含む
 - 7層 焼土層 灰を厚1cmの縮状に多量含む 崩落時の落ち込み
 - 8層 黄灰色土(2.5Y 4/1) 灰層 しまり弱い 焼土ブロック(φ10mm)をやや多量含む 上面が使用面
 - 9層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまり弱い 焼土(φ5mm程)を少量 炭粒(φ10mm程)を微量含む [掘り方]
 - 10層 炭層 上面が使用面 厚3cmの焼土(φ0.5~20mm)を少量含む
 - 11層 炭と焼土粒(φ2mm)程の混層
 - 12層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 粘土粒(φ10mm)・焼土粒(φ10mm)少量含む [掘り方]
 - 13層 黒褐色土(10YR 2/2) 粘性なし しまりやや弱い 焼土ブロック(φ30mm)・粘土粒(φ10mm)をやや多量含む [掘り方]

第381図 4区17号住居跡カマド平・断面図



第382図 4区17号住居跡カマド掘り方平面図



第383図 4区17号住居跡出土遺物

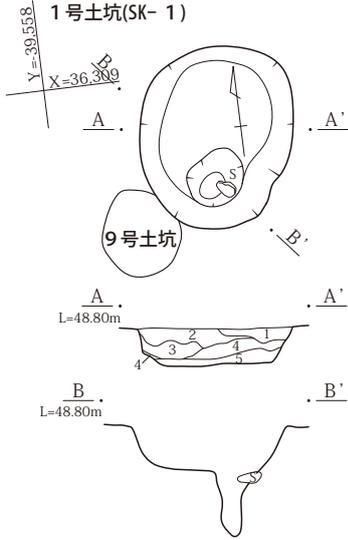
4区17号住居跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯	竈埋土中 口縁部~底部 2/3	口径 11.5 底径 5.6 器高 4.0	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 6/2)	口クロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。体部下端に指頭痕あり。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
2	須恵器 杯	床面直上 口縁部~底部 1/2	口径 12.2 底径 6.0 器高 4.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 5/3)	口クロ整形。回転右回り。口縁部やや外反。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	
3	須恵器 椀	床面直上 口縁部~底部 1/5	口径 17.4 底径 9.0 器高 7.6	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 不良(生焼け) ③ 灰白(N 7/0)	口クロ整形。回転右回り。 外面：口縁部~体部回転ナデ。底部回転系切り。高台貼付。 内面：口縁部~底部回転ナデ調整。	

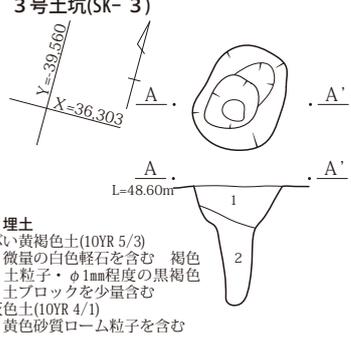
第3章 検出遺構と出土遺物

3、土坑跡・ピット跡

1号土坑(SK- 1)

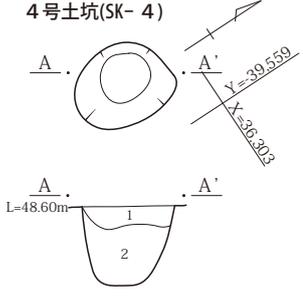


3号土坑(SK- 3)



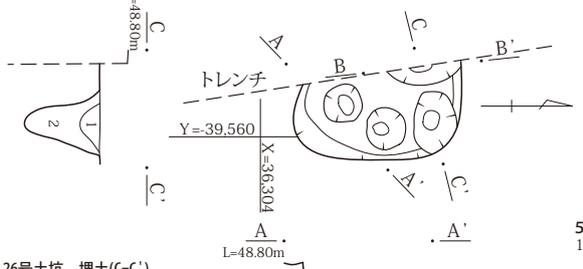
3号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子・φ1mm程度の黒褐色土ブロックを少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム粒子を含む

4号土坑(SK- 4)



4号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子・黒褐色土粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 黒褐色土粒子を多く含む黄色砂質ローム粒子を少量含む

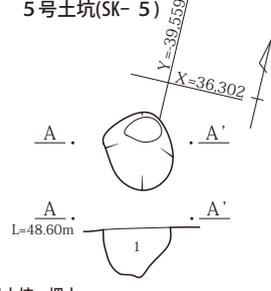
2、7、26号土坑(SK- 2、7、26)



26号土坑 埋土(C-C')

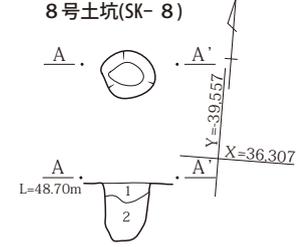
1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微量の白色軽石・黒褐色土粒子を含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 黒褐色土粒子を含む 黄色砂質ローム粒子を少量含む

5号土坑(SK- 5)



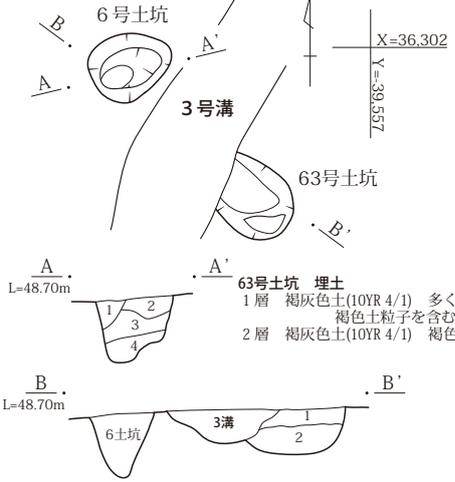
5号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子・黒褐色土粒子を少量含む

8号土坑(SK- 8)



8号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石を含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土粒子を少量含む

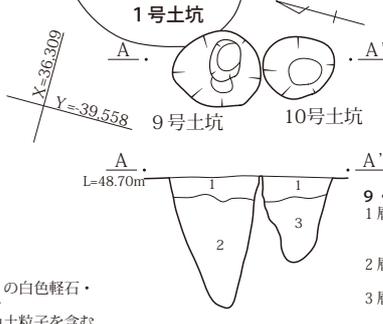
6、63号土坑(SK- 6、63)



6号土坑 埋土

1層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子・白色軽石を含む 褐色土粒子を少量含む 黒色土粒子を塊状に多量含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を多量含む
 4層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を多量含む

9、10号土坑(SK- 9、10)



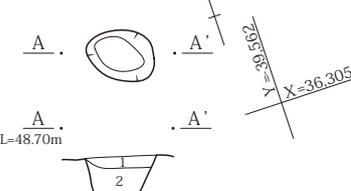
11号土坑 埋土

1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微量の白色軽石・少量のφ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを含む 炭化物が表面に含まれている 褐色土粒子を少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量のφ1mm程度の黄色砂質ロームブロック・褐色土粒子を含む

9・10号土坑 埋土

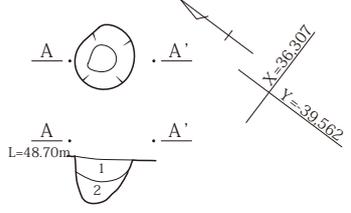
1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 少量の白色軽石を含む φ1mm程度の黄色砂質ロームブロック・褐色土粒子を少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 微量の白色軽石・褐色土粒子を含む
 3層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ1~20mm程度の黄色砂質ロームブロックを・褐色土粒子を含む

12号土坑(SK-12)

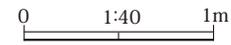


12号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 白色軽石・黒褐色土粒子を多く含む 褐色土粒子を少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を少量含む

13号土坑(SK-13)

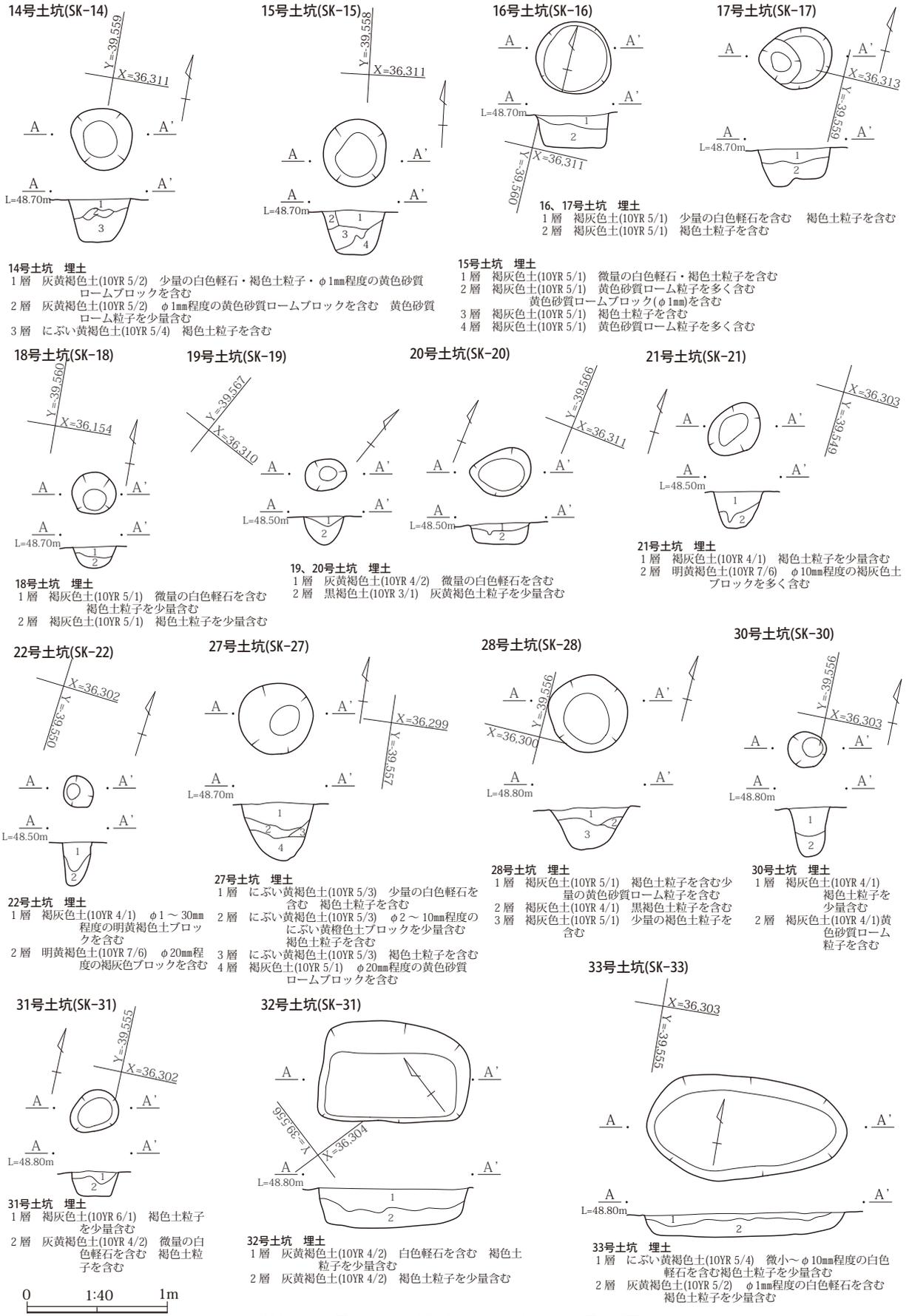


13号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の白色軽石・炭化物を含む 褐色土粒子を含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 褐色土粒子を含む



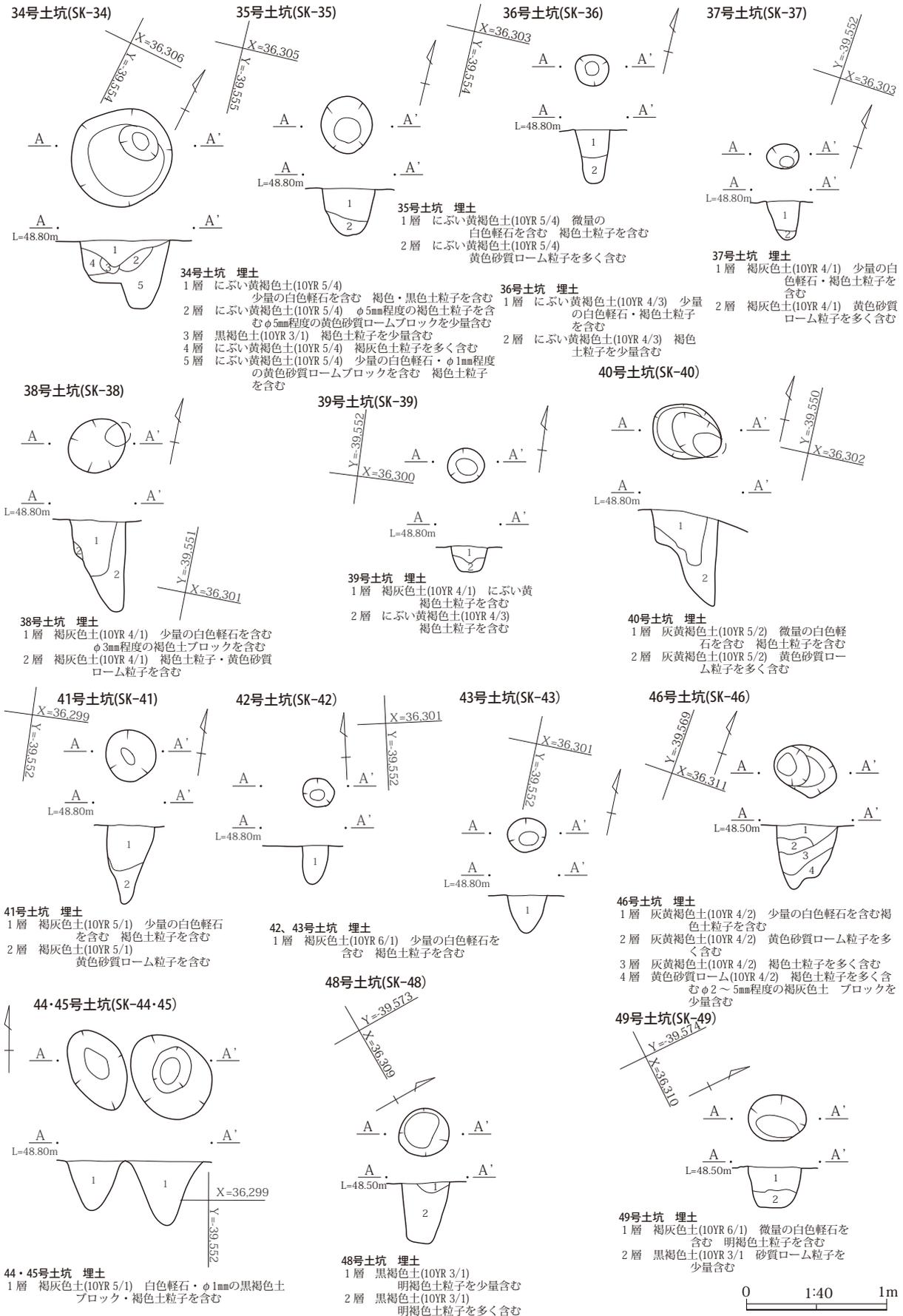
第384図 4区1~13・26・63号土坑跡平・断面図

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物



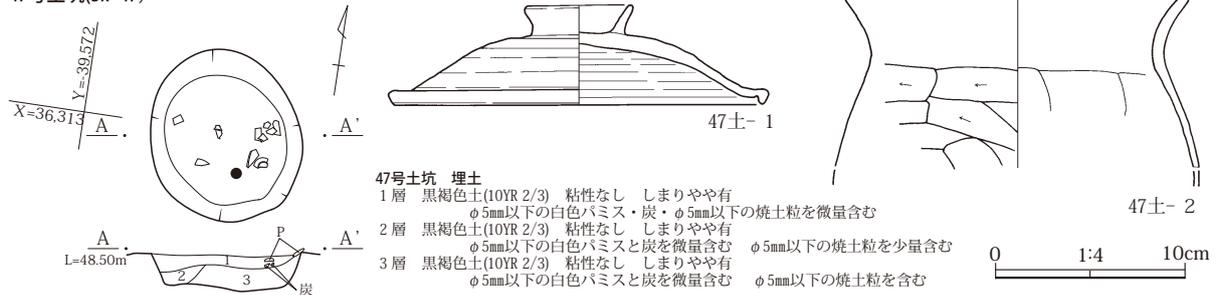
第385図 4区14～22・27・28・30～33号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



第386図 4区34~46・48・49号土坑跡平・断面図

47号土坑(SK-47)



47号土坑 埋土

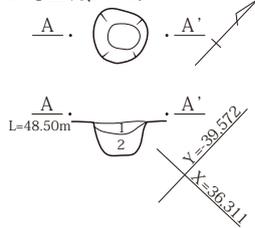
- 1層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや有
φ5mm以下の白色バミス・炭・φ5mm以下の焼土粒を微量含む
- 2層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや有
φ5mm以下の白色バミスと炭を微量含む φ5mm以下の焼土粒を少量含む
- 3層 黒褐色土(10YR 2/3) 粘性なし しまりやや有
φ5mm以下の白色バミスと炭を微量含む φ5mm以下の焼土粒を含む

第387図 4区47号土坑跡平・断面図、出土遺物

4区47号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	須恵器 杯蓋	底面+14cm 摘部~口縁部 1/3	口径 19.2 摘径 5.5 器高 5.2	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化燻 ③ にぶい橙(5YR 7/4)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部上半へラ削り。天井部下半~口縁部横ナデ。 摘み貼付。 内面：天井部~口縁部回転ナデ。	
2	土師器 甕	底面+12cm 口縁部~胴部上半 破片	口径 17.9 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化燻 良好 ③ 橙(5YR 6/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位斜め方向へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へラナデ。	

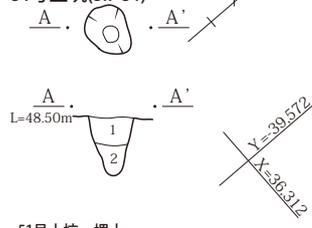
50号土坑(SK-50)



50号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の白色軽石
を含む 褐色土粒子を含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1)
褐色土粒子を多く含む

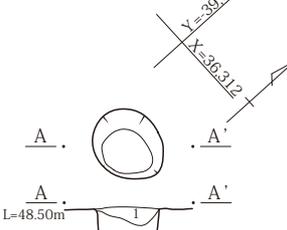
51号土坑(SK-51)



51号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 微量の白色軽
石を含む 褐色土粒子を少
量含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 砂質ローム粒子
を少量含む

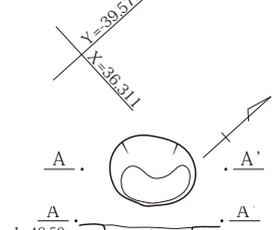
52号土坑(SK-52)



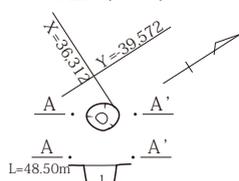
52, 54号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
- 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 5/1) 黄色砂質ローム粒子を含む

54号土坑(SK-54)



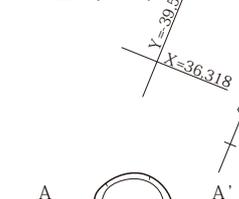
53号土坑(SK-53)



53号土坑 埋土

- 1層 黒褐色土(10YR 3/1) 砂質
ローム粒子を少量
含む

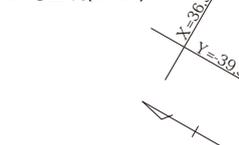
55号土坑(SK-55)



55号土坑 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 微量の白色軽石を含む
褐色土粒子を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 砂質ローム粒子を含む

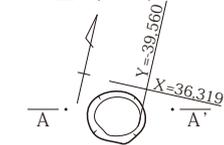
56号土坑(SK-56)



56号土坑 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む
少量の白色軽石を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 砂質ローム粒子を含む

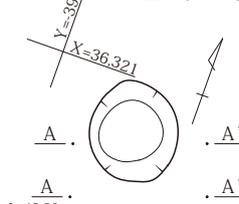
57号土坑(SK-57)



57号土坑 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽
石・φ1mmの黒色土ブロックを含む
- 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2)
にぶい黄褐色粒子を少量含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2)
にぶい黄褐色粒子を含む

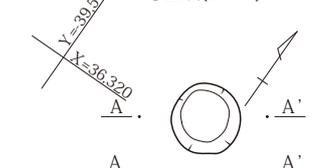
58号土坑(SK-58)



58号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む
褐色土粒子を含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) φ5mm程度の砂質ロームブロックを含む

59号土坑(SK-59)



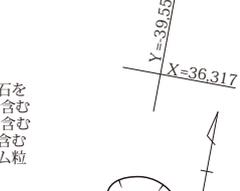
59号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む褐色土粒子を含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 砂質ローム粒子を含む

60号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を
含む 炭化物・褐色土粒子を含む
- 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 褐色土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土粒子を含む
- 4層 褐灰色土(10YR 5/1) 黄色砂質ローム粒
子を多く含む

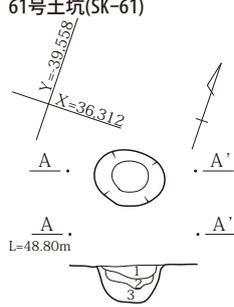
60号土坑(SK-60)



第388図 4区50~60号土坑跡平・断面図

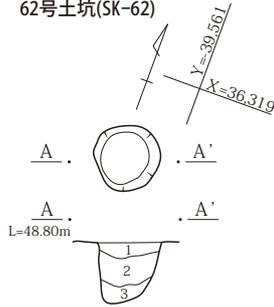
第3章 検出遺構と出土遺物

61号土坑(SK-61)



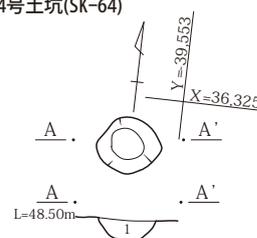
61号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 砂質ローム粒子を多く含む

62号土坑(SK-62)



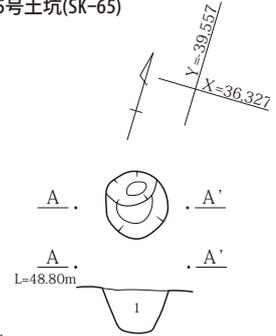
62号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 褐色土粒子を少量含む 砂質ローム粒子を多く含む

64号土坑(SK-64)



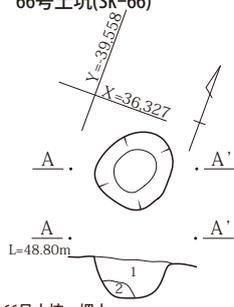
64号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mm程度の褐色土ブロック・φ2~10mm程度の黄色砂質ロームブロックを少量含む

65号土坑(SK-65)



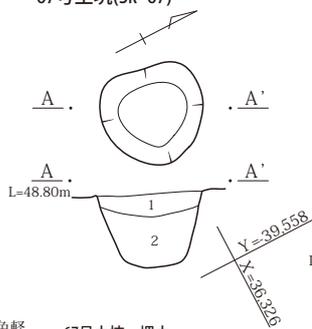
65号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 4/3) 上面に炭化物を含む φ1~5mmの黄褐色土ブロックを多く含む 微量の白色軽石を含む

66号土坑(SK-66)



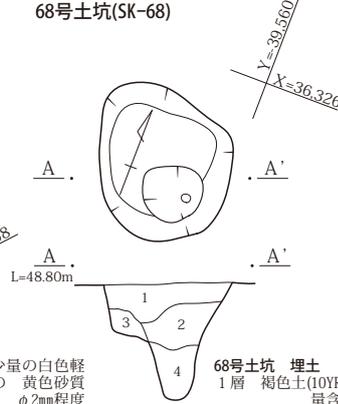
66号土坑 埋土
 1層 暗褐色砂質土(10YR 3/3) 少量の白色軽石・微量のφ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを含む φ2mm程度の褐色土ブロックを含む
 2層 褐灰色土(10YR 4/1) φ10mm程度の黄色砂質ロームブロックを含む

67号土坑(SK-67)



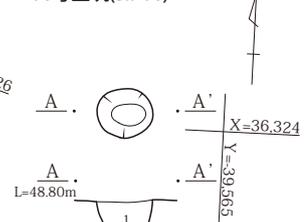
67号土坑 埋土
 1層 暗褐色砂質土(10YR 3/3) 少量の白色軽石・微量のφ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを含む φ2mm程度の褐色土ブロックを含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/3) φ1mm程度の黒褐色土ブロック・黄色砂質ローム粒子を含む

68号土坑(SK-68)



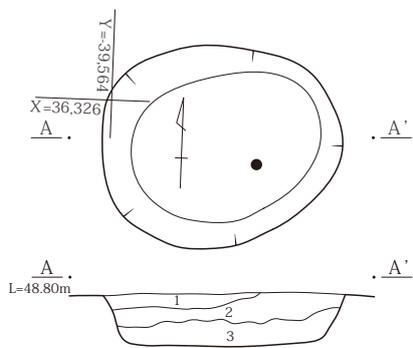
68号土坑 埋土
 1層 褐色土(10YR 4/4) φ0.5~2mm程度の白色軽石を少量含む φ1mm程度の黒褐色土ブロックを含む
 2層 褐色土(10YR 4/4) 黄色砂質ローム粒子をわずかに含む φ1mm程度の黒褐色土ブロックを含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む
 4層 褐色土(10YR 4/4) 黄色砂質ローム粒子を多く含む

70号土坑(SK-70)



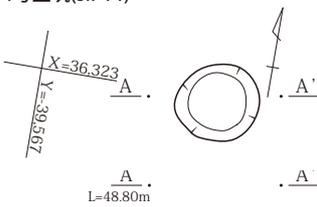
70号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 白色軽石を少量含む 褐色土粒子を含む

69号土坑(SK-69)



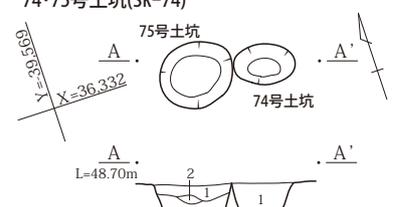
69号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1~5mm程度の白色軽石を含む 褐色土粒子を多く含む
 2層 褐灰色土(10YR 6/1) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 白色軽石を多く含む 褐色土粒子を含む

71号土坑(SK-71)



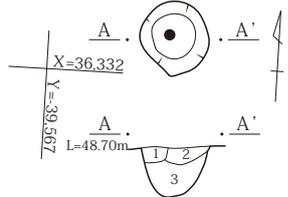
71号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1~5mm程度の白色軽石・黒褐色土粒子・褐色土粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子を多く含む

74・75号土坑(SK-74)



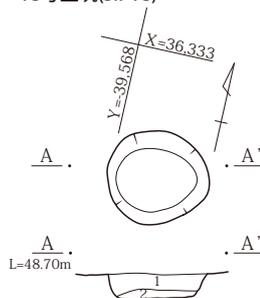
74号土坑 埋土
 1層 褐灰色砂質土(10YR 6/1) 褐色土粒子を含むローム粒子を少量含む 微量の白色軽石を含む
75号土坑 埋土
 1層 褐灰色砂質土(10YR 5/1) 褐色土粒子を少量含む
 2層 黒褐色砂質土(10YR 3/1) 褐色土粒子を含む
 3層 褐灰色砂質土(10YR 5/1) 褐色土粒子を多く含む

72号土坑(SK-72)



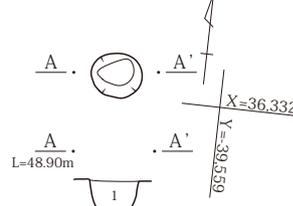
72号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 6/1) 灰黄褐色土粒子を多く含む 褐色土粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 6/1) 褐色土粒子を多く含む 炭化物を含む
 3層 褐灰色土(10YR 6/1) 褐色土粒子・黄色砂質ローム粒子を含む

73号土坑(SK-73)



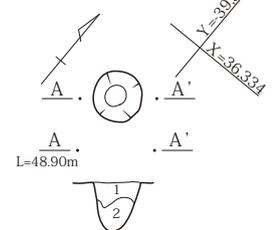
73号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石を含む 微量の炭化物を含む 褐色土粒子を含む 中央部に黒褐色土粒子が密集
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む

76号土坑(SK-76)

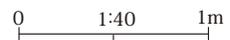


76号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を少量含む

77号土坑(SK-77)

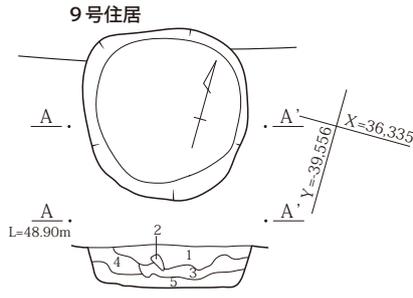


77号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 微量の炭化物を含む 少量の白色軽石を含む φ2mm程度の褐色土ブロックを含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む



第389図 4区61・62・64～77号土坑跡平・断面図

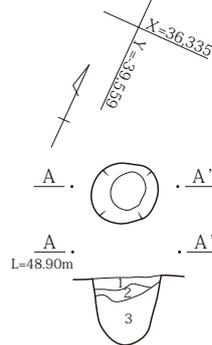
78号土坑(SK-78)



78号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 少量の白色軽石を含む
- 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 褐色土粒子を含む
- 3層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
- 4層 黒褐色土(10YR 3/2) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を多く含む
- 5層 黒褐色土(10YR 3/2) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む

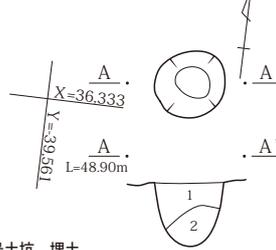
79号土坑(SK-79)



79号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) にぶい黄褐色土粒子を多く含む
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の白色軽石・褐色土粒子を含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子を少量含む

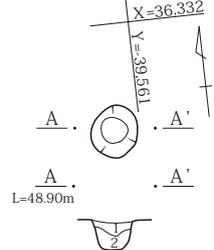
81号土坑(SK-81)



81号土坑 埋土

- 1層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 褐色土粒子を含む
- 2層 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2) 微量の白色軽石を含む φ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを少量含む 褐色土粒子を含む

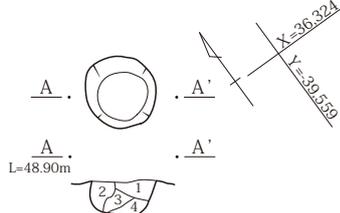
82号土坑(SK-82)



82号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐灰色土粒子を含む 黄色砂質ローム粒子をわずかに含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 灰黄褐色土粒子を含む

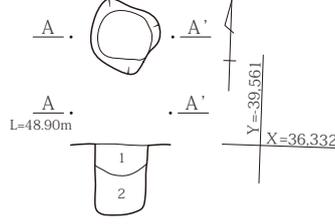
80号土坑(SK-80)



80号土坑 埋土

- 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の白色軽石を含む 明黄褐色土粒子を多く含む 褐色土粒子を含む φ5mm
- 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の白色軽石を含む の黄色砂質ロームブロックを含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 少量の白色軽石・褐色土粒子・φ1mm程度の黄色砂質ロームブロックを少量含む
- 4層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む 黄色砂質ローム粒子を多く含む

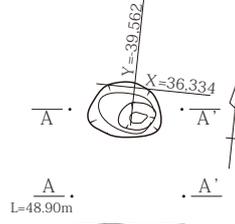
83号土坑(SK-83)



83号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 少量の白色軽石を含む 褐色土粒子を含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 炭化物・褐色土粒子を含む

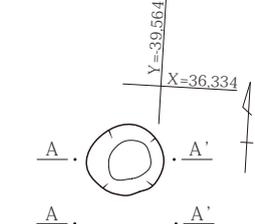
84号土坑(SK-84)



84号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 微量の白色軽石を含む 褐色土粒子を少量含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐色土粒子・黄色砂質ローム粒子を少量含む

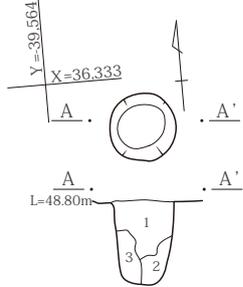
87号土坑(SK-87)



87号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) 褐色土粒子を少量含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) φ1mm程度の暗褐色土ブロックを少量含む

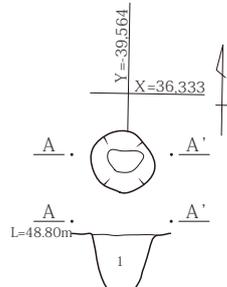
85号土坑(SK-85)



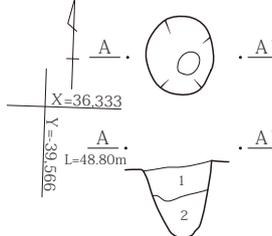
85、86、88号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 褐色土粒子を少量含む
- 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 黄色砂質ローム粒子を少量含む
- 3層 褐灰色土(10YR 4/1) φ10mm程度の黄色砂質ロームブロックを多く含む

86号土坑(SK-86)



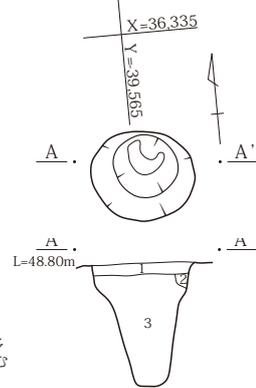
88号土坑(SK-88)



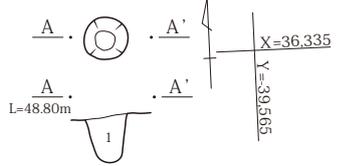
89号土坑 埋土

- 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 褐色土粒子を含む
- 2層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 6/3) 黄色砂質ローム粒子を含む
- 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 微量の白色軽石を多く含む 微量の焼土・炭化物を含む 褐色土粒子を少量含む

89号土坑(SK-89)



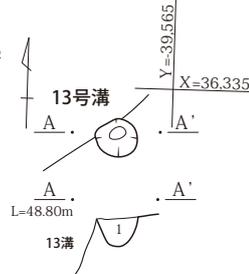
90号土坑(SK-90)



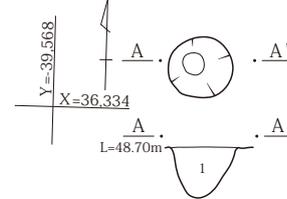
90～92号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 褐色土粒子を含む

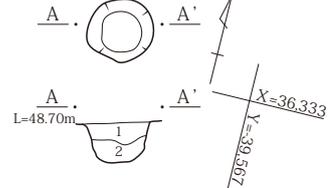
91号土坑(SK-91)



92号土坑(SK-92)



93号土坑(SK-93)



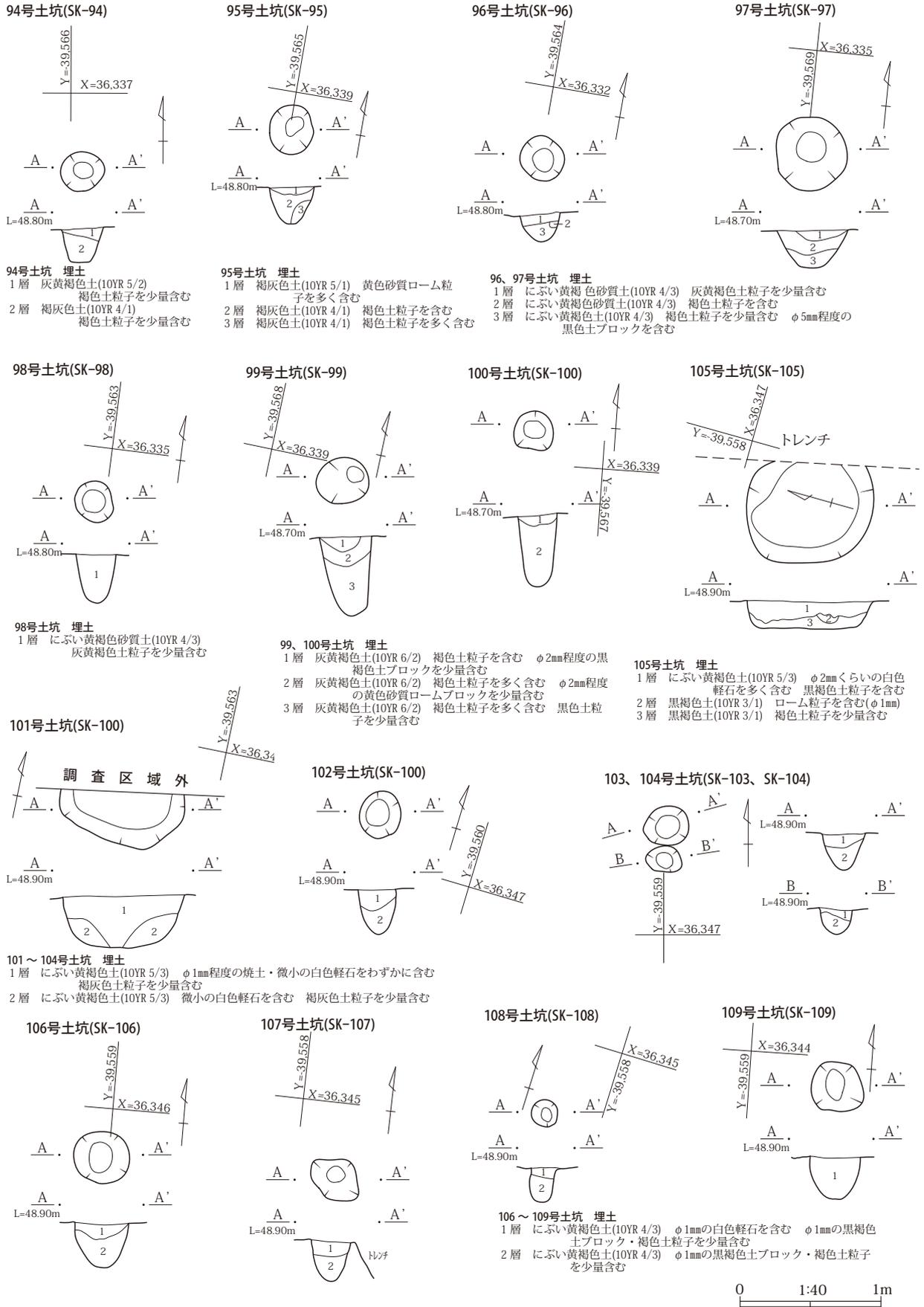
93号土坑 埋土

- 1層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 灰黄褐色土粒子を少量含む
- 2層 にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3) 褐色土粒子を含む



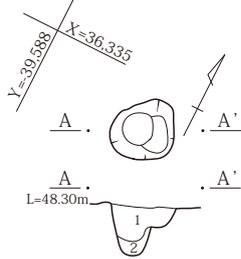
第390図 4区78～93号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



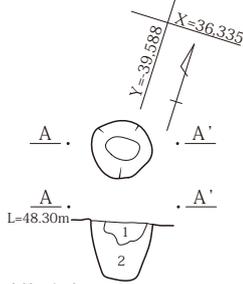
第391図 4区94～109号土坑跡平・断面図

111号土坑(SK-111)



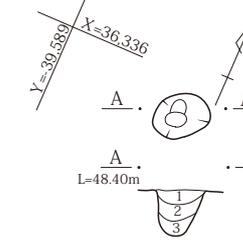
111号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黄色砂質ローム粒子をわずかに含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黒褐色土粒子を含む

112号土坑(SK-112)



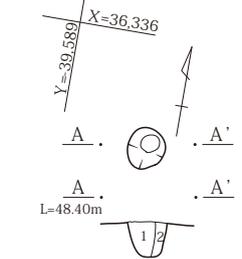
112号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ2mmの白色軽石・φ3mmの褐色土ブロックを少量含むφ3mmの黒褐色土ブロックを多く含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) 黒褐色土粒子・黄色砂質ローム粒子を少量含む

113号土坑(SK-113)



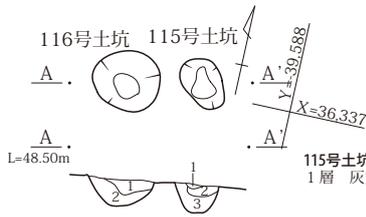
113号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 褐色土粒子・φ0.5mm黄色砂質ロームブロックを少量含む φ1mmの黒褐色土ブロックをわずかに含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 6/2) 褐色土粒子を少量含む φ1mmの黒褐色土ブロックをわずかに含む
 3層 褐灰色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む

114号土坑(SK-114)



114号土坑 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/1) φ2mmの白色軽石をわずかに含む 褐色土粒子・黄色砂質ローム粒子を少量含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 褐色土粒子・黄色砂質ローム粒子を少量含む

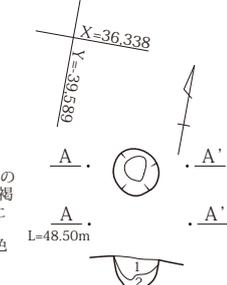
115、116号土坑(SK-115、116)



115号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの白色軽石・φ1mmの黒褐色土ブロック・褐色土粒子を少量含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 黒褐色土粒子を含む

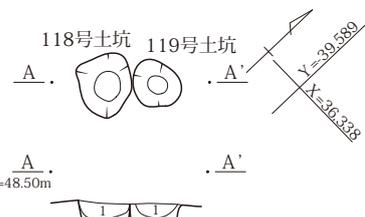
116号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの白色軽石・黄色砂質ローム粒子をわずかに含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 黒褐色土粒子を多く含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) わずかな灰黄褐色土粒子を含む

117号土坑(SK-117)



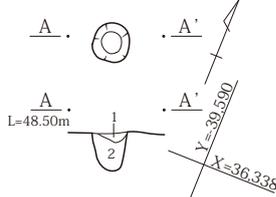
117号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ2mmの白色軽石・φ2mmの黒褐色土ブロック・褐色土粒子を少量含む
 2層 暗褐色土(10YR 3/4) 黄色砂質ローム粒子をわずかに含む

118、119号土坑(SK-118、119)



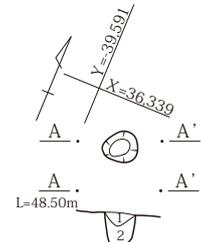
118・119号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの白色軽石・φ3mmの黒褐色土ブロック・褐色土粒子を少量含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子・褐色土粒子を少量含む

120号土坑(SK-120)



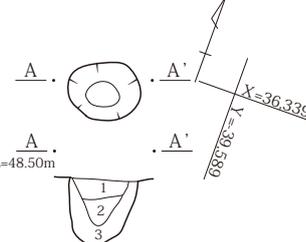
120号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ1mmの白色軽石を・黒褐色土粒子を少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黒褐色土粒子を含む

121号土坑(SK-121)



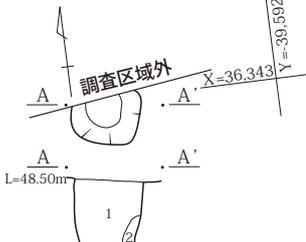
121号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ2mmの白色軽石を少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黒褐色土粒子を含む

122号土坑(SK-122)



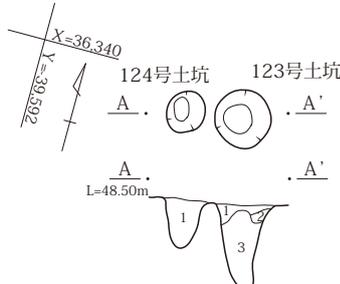
122号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの白色軽石・φ1mmの黒褐色土ブロックをわずかに含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 黒褐色土粒子を多く含む
 3層 黒褐色土(10YR 3/1) ローム粒子を少量含む

129号土坑(SK-129)



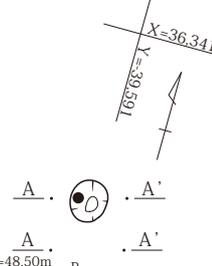
129号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土粒子・φ5mmの黄色砂質ロームブロックを少量含む φ1mmの白色軽石・φ2mmの黒褐色土ブロックをわずかに含む
 2層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1mmの黄色砂質ロームブロックを少量含む

123、124号土坑(SK-123、124)



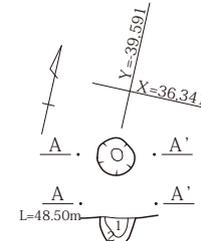
124、125号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土 (10YR 5/3) 褐色土粒子を多く含む

125号土坑(SK-125)

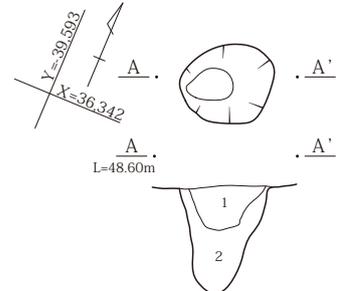


123、126号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ2mmの褐色土ブロック・φ1mmの黄色砂質ロームブロックを少量含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 黒褐色土粒子を少量含む
 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mmの褐色土ブロック・黄色砂質ローム粒子をわずかに含む

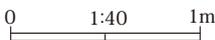
126号土坑(SK-126)



127号土坑(SK-127)

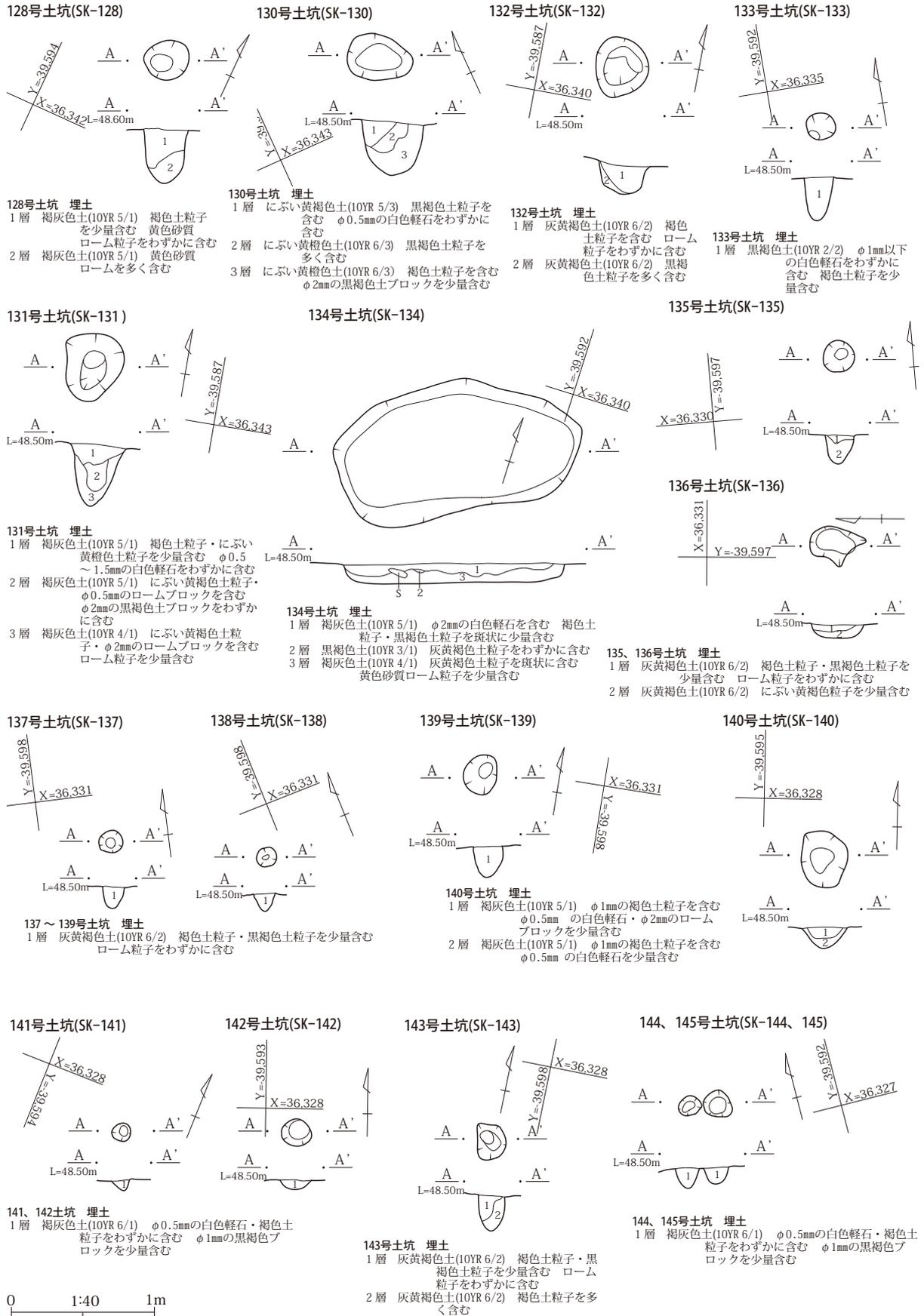


127号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) φ1mm以下の白色軽石・φ1mmの黄色砂質ロームブロックを含む φ1～3mmの黒褐色土ブロック・褐色土粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む 褐色土粒子をわずかに含む



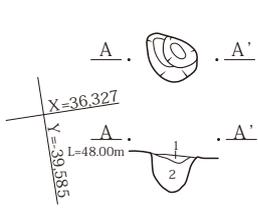
第392図 4区111～127・129号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



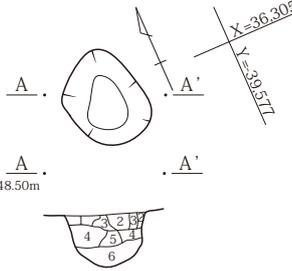
第393図 4区128・130～145号土坑跡平・断面図

146号土坑(SK-146)



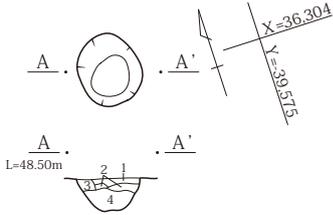
146号土坑 埋土
 1層 明黄褐色土(10YR 6/4) φ1mmの黒色粘質土ブロックを少量含む褐色土粒子を斑状に含む
 2層 明黄褐色土(10YR 6/4) φ1.5mmの黒色粘質土ブロックを多く含む 褐色土粒子を含む

147号土坑(SK-147)



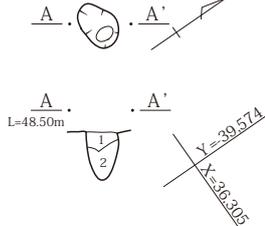
147号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 5/1) にぶい黄褐色粒子を斑状に含む
 2層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土粒子を少量含む φ1mmの白色軽石をわずかに含む
 3層 褐灰色土(10YR 5/1) にぶい黄褐色粒子を多く含む
 4層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土粒子・φ1mmの黄色砂質ロームブロックを少量含む
 5層 褐灰色砂質土(10YR 5/1) φ1mmの黄色砂質ロームブロック・褐色土粒子を少量含む
 6層 褐灰色土(10YR 5/1) 褐色土ブロック(φ1mm)・黄色砂質ローム粒子を少量含む

148号土坑(SK-148)



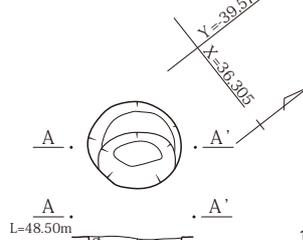
148号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 6/1) 微細の褐色土粒子を含む φ5mmの黒褐色土ブロックを1つ含む
 2層 褐灰色土(10YR 6/1) 微細の褐色土粒子を含む φ1mmの黄色砂質ローム粒子を多く含む
 3層 褐灰色土(10YR 4/1) わずかに褐色土粒子を含む
 4層 褐灰色土(10YR 6/1) 微細の褐色土粒子を含む φ1mmの黒褐色土ブロックを少量含む

149号土坑(SK-149)



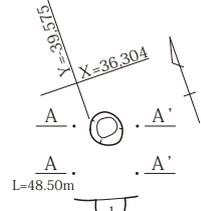
149号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) φ0.5mmの白色軽石・黄色砂質ロームブロック(φ0.5mm)をわずかに含む
 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム粒子を含む

150号土坑(SK-150)



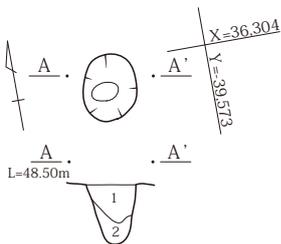
150号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmの白色軽石・φ1mmの暗褐色土ブロックをわずかに含む 微細なローム粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmの白色軽石・褐色土粒子をわずかに含む
 3層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mm以下の褐灰色砂質土を含む φ1mm以下の褐色砂質ローム粒子を少量含む
 4層 褐灰色土(10YR 4/1) φ1mmの暗褐色土ブロックをわずかに含む
 5層 灰黄褐色土(10YR 5/2) φ1mm以下の褐灰色砂質土・黄色砂質ローム粒子を含む
 6層 黒褐色土(10YR 3/1) 黄色砂質ローム粒子を少量含む

151号土坑(SK-151)



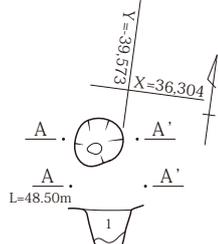
151号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 6/4) 黄色砂質ローム粒子を多く含む

152号土坑(SK-152)



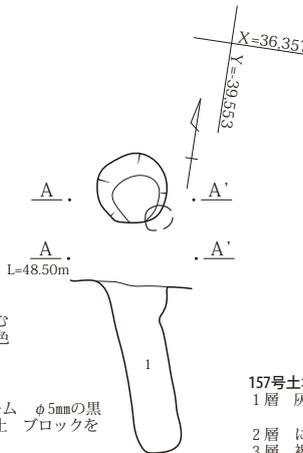
152号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) φ1mmの白色軽石をわずかに含む 褐色土粒子・φ0.5mmの黄色砂質ローム粒子を少量含む
 2層 褐灰色土(10YR 4/1) 黄色砂質ローム粒子を含む

153号土坑(SK-153)



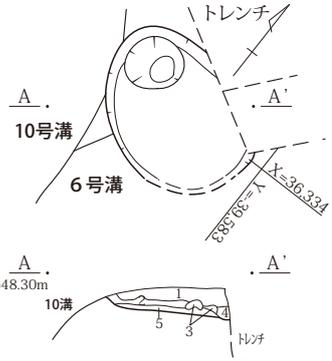
153号土坑 埋土
 1層 褐灰色土(10YR 4/1) 褐色土粒子を含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/1) 褐色土粒子を含む

154号土坑(SK-154)



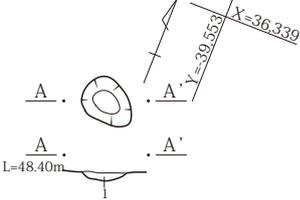
154号土坑 埋土
 1層 黄色砂質ローム φ5mmの黒褐色土ブロックを含む

157号土坑(SK-157)



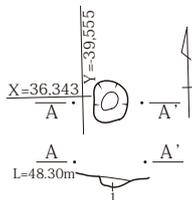
157号土坑 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 褐色土粒子を多く含む 微量の白色軽石を含む
 2層 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) 褐色土粒子を多く含む
 3層 褐灰色土(10YR 4/1) ローム粒子を少量含む
 4層 褐灰色土(10YR 4/1) 微量の白色軽石を含む・褐色土粒子・ローム粒子を含む
 5層 にぶい黄褐色土(10YR 6/3) 褐色土粒子・ローム粒子を含む

155号土坑(SK-155)



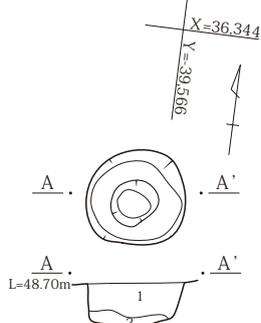
155、156号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) ローム粒子を含む

156号土坑(SK-156)

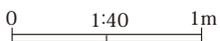
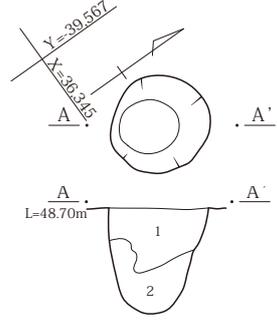


160、162号土坑 埋土
 1層 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) φ0.5~2mmの白色軽石・褐色土粒子を少量含む 雑土をわずかに含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/2) にぶい黄褐色土粒子・φ0.5mmのロームブロックを少量含む

160号土坑(SK-160)

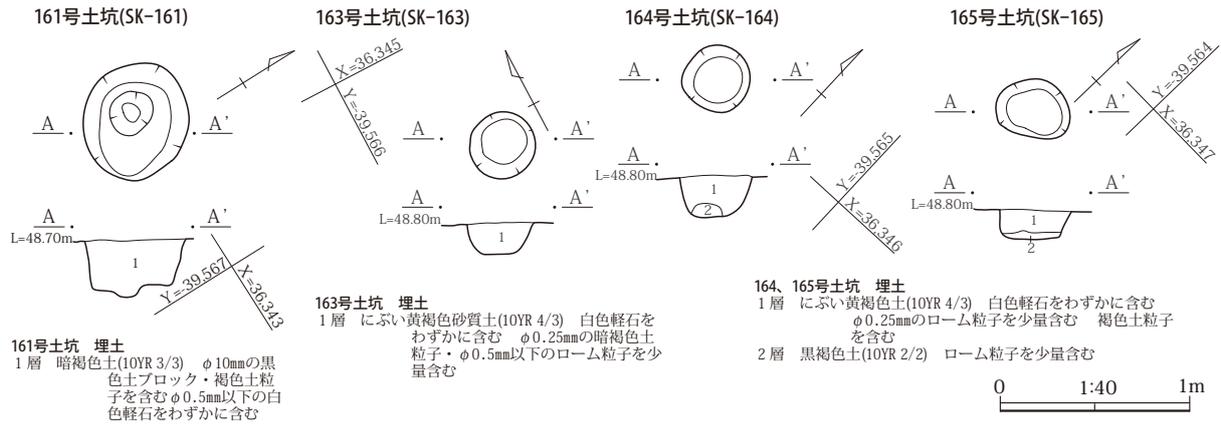


162号土坑(SK-162)

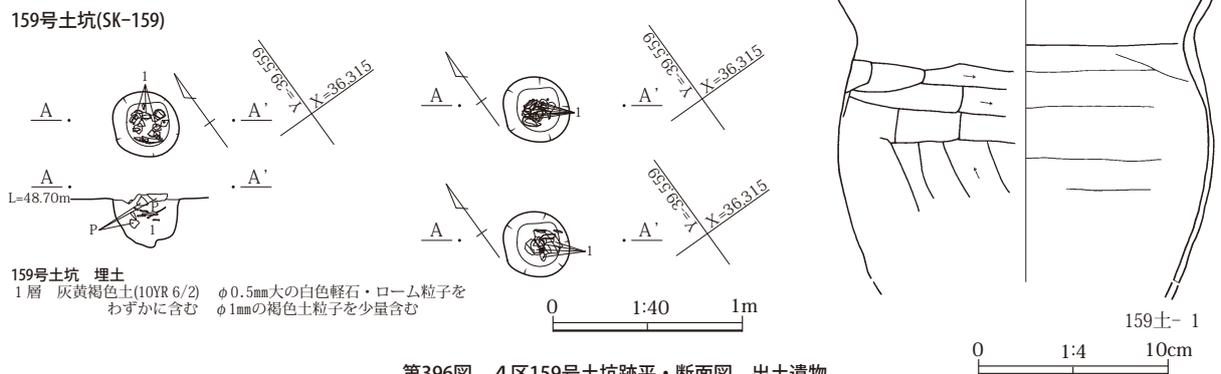


第394図 4区146~157・160・162号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物



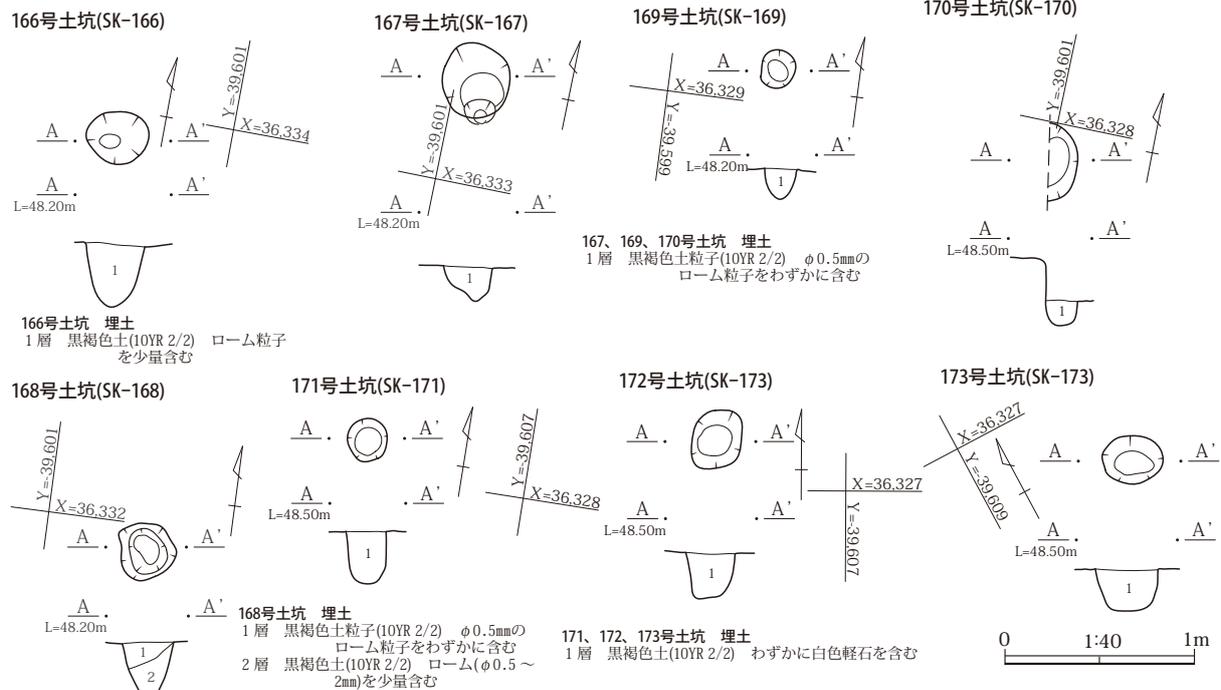
第395図 4区161・163～165号土坑跡平・断面図



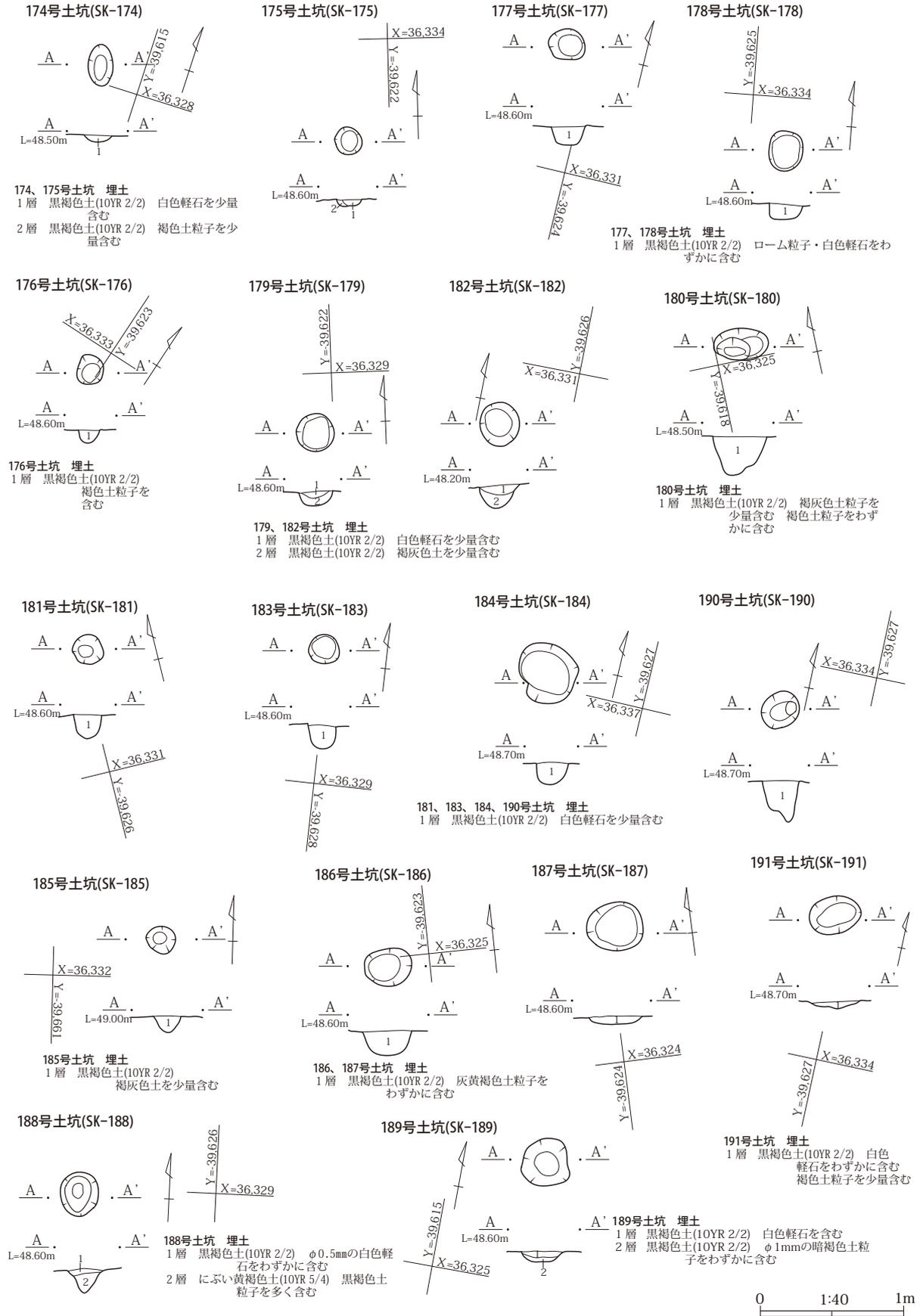
第396図 4区159号土坑跡平・断面図、出土遺物

4区159号土坑跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土師器 甕	底面+7cm 口縁部～胴部上半 破片	口径 20.1 底径 - 器高 -	① 細砂粒・粗砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 明赤褐(5YR 5/6)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	



第397図 4区166～173号土坑跡平・断面図



第398図 4区174～191号土坑跡平・断面図

第3章 検出遺構と出土遺物

4区 土抗跡一覧表

(注) 計測値の()は、推定値を示す

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	重複関係	備考
1号土抗跡	X=36309 Y=-39557	100×80cm	60cm	楕円形	逆台形	磨石(台石)	白色軽石と焼土粒、炭化物を含んだ黒褐色土。	9号土抗よりも新	
2号土抗跡	X=36305 Y=-39560	不明	27cm	不明	逆台形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。	7号土坑、26号土坑よりも旧	
3号土抗跡	X=36304 Y=-39559	55×45cm	63cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石を含、褐色土粒子、黒褐色土ブロックを含んだにぶい黄褐色土。		
4号土抗跡	X=36303 Y=-39559	50×45cm	45cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含と少量の褐色土粒子、黒褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
5号土抗跡	X=36302 Y=-39559	40×35cm	58cm	楕円形	U字形	土師器杯	微量の白色軽石と少量の褐色土粒子、黒褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
6号土抗跡	X=36302 Y=-39558	45×35cm	33cm	楕円形	逆台形	なし	褐色土粒子、白色軽石、黒色土粒子を含んだ褐灰色土。		
7号土抗跡	X=36305 Y=-39560	不明	31cm	不明	半円形	なし	少量の褐色土粒子を含んだ褐灰色土。	2号土抗よりも新	
8号土抗跡	X=36307 Y=-39557	30×25cm	34cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだにぶい黄褐色土。		
9号土抗跡	X=36308 Y=-39557	45×40cm	69cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と黄色砂質ロームブロック、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。	1号土抗よりも旧	
10号土抗跡	X=36308 Y=-39557	35×30cm	63cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と黄色砂質ロームブロック、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
11号土抗跡	X=36309 Y=-39558	32×32cm	53cm	円形	U字形	なし	微量の白色軽石と少量の黄色砂質ロームブロック、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
12号土抗跡	X=36305 Y=-39563	36×27cm	20cm	楕円形	逆台形	なし	多量の白色軽石と少量の褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
13号土抗跡	X=36308 Y=-39562	30×35cm	20cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と炭化物、褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
14号土抗跡	X=36310 Y=-39559	46×43cm	29cm	楕円形	逆台形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、黄色砂質ロームブロックを含んだ灰黄褐色土。		
15号土抗跡	X=36310 Y=-39558	50×45cm	28cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
16号土抗跡	X=36312 Y=-39560	55×55cm	25cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
17号土抗跡	X=36313 Y=-39559	55×45cm	27cm	楕円形	逆台形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
18号土抗跡	X=36314 Y=-39560	32×32cm	22cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
19号土抗跡	X=36310 Y=-39566	30×22cm	23cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ灰黄褐色土。		
20号土抗跡	X=36310 Y=-39566	45×33cm	15cm	不定形	逆台形	なし	微量の白色軽石を含んだ灰黄褐色土。		
21号土抗跡	X=36303 Y=-39550	45×32cm	36cm	楕円形	U字形	須恵器杯	褐色土粒子と褐灰色ブロックを含んだ褐灰色土。		
22号土抗跡	X=36301 Y=-39550	25×22cm	36cm	楕円形	V字形	なし	明黄褐色ブロックを含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性が高い。
24号土抗跡	X=36301 Y=-39550	150×70	48cm	不定形	不明	なし	白色軽石、焼土粒、炭化物、ローム粒子を含んだ灰黄褐色土。	6号住居と重複	6号住居蔵穴の可能性有。
26号土抗跡	X=36305 Y=-39560	35×23cm	40cm	楕円形	U字形	土師器甕	少量の褐色土粒子を含んだ褐灰色土。	2号土抗よりも新しい	
27号土抗跡	X=36299 Y=-39558	53×50cm	47cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、径2～10m程のにぶい黄褐色土ブロックを含んだにぶい黄褐色土。		
28号土抗跡	X=36300 Y=-39556	55×55cm	40cm	円形	逆台形	なし	褐色土粒子と少量の黄色砂質ローム粒子を含んだ褐灰色土。		28号土坑東に29号土坑有。
30号土抗跡	X=36303 Y=-39556	28×28cm	36cm	円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
31号土抗跡	X=36302 Y=-39555	38×30cm	17cm	楕円形	逆台形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含む灰黄褐色土。		
32号土抗跡	X=36304 Y=-39555	105×70cm	32cm	隅丸長方形	逆台形	土師器甕	白色軽石と少量の褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
33号土抗跡	X=36302 Y=-39554	143×75cm	15cm	楕円形	逆台形	なし	白色軽石と少量の褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
34号土抗跡	X=36305 Y=-39553	73×70cm	50cm	ほぼ円形	逆台形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
35号土抗跡	X=36305 Y=-39554	40×37cm	33cm	ほぼ円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
36号土抗跡	X=36303 Y=-39553	25×25cm	36cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
37号土抗跡	X=36302 Y=-39552	25×20cm	27cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
38号土抗跡	X=36302 Y=-39552	45×35cm	67cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と径3mm程の褐色土ブロックを含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
39号土抗跡	X=36300 Y=-39551	40×35cm	23cm	楕円形	U字形	なし	にぶい黄褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
40号土抗跡	X=36302 Y=-39551	50×40cm	65cm	楕円形	V字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
41号土抗跡	X=36299 Y=-39551	38×38cm	60cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
42号土抗跡	X=36301 Y=-39552	22×22cm	33cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
43号土抗跡	X=36300 Y=-39552	28×25cm	28cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	重複関係	備考
44号土抗跡	X=36300 Y=-39553	60×40cm	35cm	楕円形	U字形	土師器甕	白色軽石と径1mmの黒褐色土ブロック、褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
45号土抗跡	X=36300 Y=-39552	65×55cm	45cm	楕円形	U字形	なし	白色軽石と径1mmの黒褐色土ブロック、褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
46号土抗跡	X=36311 Y=-39568	45×35cm	54cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
47号土抗跡	X=36313 Y=-39571	92×80cm	20cm	楕円形	逆台形	土師器甕 須恵器蓋	微量の白色軽石と炭化物、焼土粒を含んだ黒褐色土。		
48号土抗跡	X=36309 Y=-39572	35×35cm	43cm	円形	U字形	なし	少量の明褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
49号土抗跡	X=36310 Y=-39573	40×35cm	30cm	楕円形	逆台形	なし	微量の白色軽石と明褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
50号土抗跡	X=36311 Y=-39573	30×30cm	20cm	円形	逆台形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
51号土抗跡	X=36312 Y=-39573	30×20cm	32cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
52号土抗跡	X=36311 Y=-39572	40×35cm	40cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
53号土抗跡	X=36312 Y=-39572	17×14cm	20cm	ほぼ円形	U字形	なし	砂質ローム粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
54号土抗跡	X=36311 Y=-39572	45×35cm	40cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
55号土抗跡	X=36317 Y=-39559	45×35cm	23cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
56号土抗跡	X=36317 Y=-39560	35×25cm	22cm	不定形	逆台形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
57号土抗跡	X=36319 Y=-39560	30×30cm	23cm	円形	逆台形	なし	少量の白色軽石と黒褐色土ブロックを含んだ灰黄褐色土。		
58号土抗跡	X=36321 Y=-39560	55×45cm	38cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
59号土抗跡	X=36320 Y=-39561	35×35cm	35cm	円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
60号土抗跡	X=36316 Y=-39558	40×40cm	32cm	ほぼ円形	U字形	土師器甕	微量の白色軽石と炭化物、褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
61号土抗跡	X=36312 Y=-39557	40×30cm	20cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
62号土抗跡	X=36319 Y=-39561	35×35cm	32cm	ほぼ円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ褐灰色土。		
63号土抗跡	X=36301 Y=-39558	不明	21cm	不明	逆台形か	なし	白色軽石、褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
64号土抗跡	X=36325 Y=-39553	35×30cm	12cm	楕円形	U字形	なし	少量の褐色土ブロックと黄色砂質ロームブロックを含んだ褐灰色土。		
65号土抗跡	X=36326 Y=-39557	35×35cm	31cm	円形	半円形	なし	上面に炭化物があり。径1～5mmの黄褐色土ブロックと微量の白色軽石を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
66号土抗跡	X=36327 Y=-39558	40×35cm	26cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを含んだ暗褐色砂質土。		
67号土抗跡	X=36326 Y=-39559	55×50cm	40cm	不定形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを含んだ暗褐色砂質土。		
68号土抗跡	X=36325 Y=-39560	90×70cm	84cm	不定形	U字形	なし	少量の白色軽石と黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
69号土抗跡	X=36326 Y=-39563	130×110cm	30cm	楕円形	逆台形	土師器甕 須恵器杯	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
70号土抗跡	X=36324 Y=-39565	30×28cm	22cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
71号土抗跡	X=36323 Y=-39566	45×40cm	22cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と黒褐色土粒子、褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
72号土抗跡	X=36332 Y=-39566	37×37cm	26cm	円形	U字形	須恵器杯	褐色土粒子と炭化物を含んだ褐灰色土。		
73号土抗跡	X=36332 Y=-39568	55×50cm	15cm	楕円形	逆台形	なし	褐色土粒子とローム粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
74号土抗跡	X=36332 Y=-39568	32×22cm	21cm	楕円形	U字形	なし	褐色土粒子と少量のローム粒子、微量の白色軽石を含んだ褐灰色砂質土。		
75号土抗跡	X=36332 Y=-39568	40×35cm	20cm	楕円形	逆台形	なし	少量の褐色土粒子を含んだ褐灰色砂質土。		
76号土抗跡	X=36332 Y=-39560	30×25cm	15cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
77号土抗跡	X=36334 Y=-39557	30×25cm	25cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と炭化物、径2mm程の褐色土ブロックを含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
78号土抗跡	X=36335 Y=-39557	90×90cm	20cm	隅丸方形	逆台形	土師器甕 須恵器甕	少量の白色軽石を含んだにぶい黄褐色土。	9号住居よりも新	
79号土抗跡	X=36334 Y=-39559	35×35cm	36cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、多量のにぶい黄褐色粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
80号土抗跡	X=36334 Y=-39560	40×40cm	18cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ褐灰色土。		
81号土抗跡	X=36333 Y=-39560	40×35cm	35cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と黄色砂質ロームブロック、褐色土粒子を含んだ灰黄褐色砂質土。		柱穴の可能性有。
82号土抗跡	X=36331 Y=-39561	28×24cm	17cm	楕円形	U字形	なし	褐灰色土粒子と黄色砂質ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
83号土抗跡	X=36333 Y=-39562	35×35cm	40cm	不定形	U字形	須恵器杯	少量の白色軽石と褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
84号土抗跡	X=36334 Y=-39562	40×30cm	32cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、黄色砂質ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。

第3章 検出遺構と出土遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	重複関係	備考
85号土抗跡	X=36333 Y=-39563	35×35cm	45cm	円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
86号土抗跡	X=36333 Y=-39564	35×30cm	30cm	楕円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
87号土抗跡	X=36334 Y=-39564	40×38cm	33cm	ほぼ円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
88号土抗跡	X=36333 Y=-39565	40×35cm	37cm	楕円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
89号土抗跡	X=36334 Y=-39565	55×50cm	67cm	楕円形	逆台形	土師器杯・須恵器杯	微量の白色軽石と焼土、炭化物、褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
90号土抗跡	X=36335 Y=-39566	24×23cm	22cm	円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		柱穴の可能性有。
91号土抗跡	X=36336 Y=-39565	23×20cm	16cm	不定形	U字形	土師器甕	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		柱穴の可能性有。
92号土抗跡	X=36334 Y=-39567	35×30cm	27cm	楕円形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。	13号溝より新	柱穴の可能性有。
93号土抗跡	X=36333 Y=-39568	35×33cm	20cm	ほぼ円形	U字形	なし	灰褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
94号土抗跡	X=36336 Y=-39566	30×30cm	25cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
95号土抗跡	X=36339 Y=-39565	35×30cm	27cm	楕円形	U字形	土師器甕	多量の黄色砂質ローム粒子を含んだ褐灰色土。		柱穴の可能性有。
96号土抗跡	X=36334 Y=-39569	52×52cm	25cm	円形	U字形	なし	少量の灰黄褐色土粒子と褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
97号土抗跡	X=36331 Y=-39564	32×32cm	22cm	円形	U字形	なし	少量の灰黄褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
98号土抗跡	X=36335 Y=-39563	30×27cm	35cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の灰黄褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
99号土抗跡	X=36339 Y=-39567	40×33cm	57cm	楕円形	U字形	土師器甕・須恵器杯	褐色土粒子と径2mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
100号土抗跡	X=36339 Y=-39567	30×27cm	53cm	ほぼ円形	U字形	なし	褐色土粒子と径2mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
101号土抗跡	X=36347 Y=-39564	不明	37cm	不明	逆台形	土師器杯	微量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
102号土抗跡	X=36347 Y=-39561	35×30cm	33cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
103号土抗跡	X=36348 Y=-39559	35×30cm	28cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
104号土抗跡	X=36348 Y=-39559	25×20cm	18cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
105号土抗跡	X=36348 Y=-39559	90cm×不明	20cm	隅丸長方形か	逆台形	土師器甕	白色軽石と黒褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		9号溝の氾濫の影響を受ける。
106号土抗跡	X=36348 Y=-39559	40×38cm	37cm	円形	U字形	土師器杯	白色軽石と褐色土粒子と、径1mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
107号土抗跡	X=36345 Y=-39558	40×30cm	30cm	不定形	U字形	なし	白色軽石と褐色土粒子と、径1mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
108号土抗跡	X=36345 Y=-39558	20×20cm	25cm	円形	U字形	なし	白色軽石と褐色土粒子と、径1mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
109号土抗跡	X=36344 Y=-39558	40×35cm	33cm	不定形	U字形	なし	白色軽石と褐色土粒子と、径1mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		
111号土抗跡	X=36335 Y=-39587	35×30cm	25cm	不定形	V字形	なし	微量の黄色砂質ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
112号土抗跡	X=36334 Y=-39588	32×32cm	25cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石と多量の黒褐色土ブロック、径3mm程の褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
113号土抗跡	X=36336 Y=-39588	30×22cm	26cm	楕円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子、黄色砂質ロームブロックを含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
114号土抗跡	X=36335 Y=-39588	22×22cm	20cm	ほぼ円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、黄色砂質ローム粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
115号土抗跡	X=36337 Y=-39588	30×20cm	16cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石と黒褐色土粒子、黄色砂質ローム粒子を含んだ灰黄褐色土。		
116号土抗跡	X=36337 Y=-39589	35×30cm	16cm	楕円形	U字形	なし	白色軽石と褐色土粒子と、黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		
117号土抗跡	X=36337 Y=-39588	25×25cm	20cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、径2mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		
118号土抗跡	X=36337 Y=-39590	35×30cm	25cm	不定形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、径3mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		

第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	重複関係	備考
119号土抗跡	X = 36337 Y = - 39590	28 × 25cm	25cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、径3mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		
120号土抗跡	X = 36337 Y = - 39590	20 × 20cm	22cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石と黒褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
121号土抗跡	X = 36339 Y = - 39591	20 × 17cm	22cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
122号土抗跡	X = 36339 Y = - 39590	40 × 30cm	38cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と黒褐色土粒子、径1mm程の黒褐色土ブロックを少量含んだ灰黄褐色土。		
123号土抗跡	X = 36340 Y = - 39591	30 × 30cm	44cm	円形	U字形	なし	径2mm程の褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。	13号溝より新	柱穴の可能性有。
124号土抗跡	X = 36340 Y = - 39591	22 × 20cm	24cm	ほぼ円形	U字形	なし	径2mm程の褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		
125号土抗跡	X = 36340 Y = - 39591	20 × 20cm	35cm	ほぼ円形	V字形	なし	褐色土粒子を多く含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
126号土抗跡	X = 36340 Y = - 39591	20 × 20cm	18cm	円形	U字形	なし	径2mm程の褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを少量含んだにぶい黄褐色土。		
127号土抗跡	X = 36342 Y = - 39592	50 × 40cm	60cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石、黒褐色土ブロック、褐色土粒子、黄色砂質ロームブロックを含んだ褐色土。		
128号土抗跡	X = 36343 Y = - 39593	33 × 30cm	38cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子と黄色砂質ローム粒子を含んだ褐色土。		
129号土抗跡	X = 36343 Y = - 39593	不明	52cm	不明	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、径2mm程の褐色土ブロック、黄色砂質ロームブロックを含んだ褐色土。		
130号土抗跡	X = 36343 Y = - 39589	45 × 30cm	38cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と黒褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
131号土抗跡	X = 36343 Y = - 39588	50 × 40cm	70cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石とにぶい黄褐色土粒子、褐色土粒子を含んだ褐色土。		
132号土抗跡	X = 36340 Y = - 39586	43 × 38cm	40cm	不定形	U字形	なし	褐色土粒子とローム粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
133号土抗跡	X = 36335 Y = - 39592	20 × 20cm	32cm	円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
134号土抗跡	X = 36339 Y = - 39592	170 × 90cm	15cm	不定形	逆台形	なし	白色軽石と褐色土粒子、黒褐色土粒子を含んだ褐色土。		
135号土抗跡	X = 36330 Y = - 39596	22 × 22cm	27cm	円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
136号土抗跡	X = 36330 Y = - 39597	30 × 22cm	12cm	不定形	逆台形	なし	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		
137号土抗跡	X = 36331 Y = - 39597	17 × 17cm	16cm	円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
138号土抗跡	X = 36331 Y = - 39598	15 × 15cm	12cm	円形	U字形	須恵器杯	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
139号土抗跡	X = 36331 Y = - 39599	28 × 23cm	25cm	楕円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
140号土抗跡	X = 36328 Y = - 39594	40 × 30cm	18cm	不定形	U字形	なし	少量の白色軽石と褐色土粒子、径2mmのロームブロックを含んだ褐色土。		
141号土抗跡	X = 36328 Y = - 39593	15 × 15cm	10cm	円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、径1mmの黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
142号土抗跡	X = 36328 Y = - 39593	22 × 19cm	9cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、径1mmの黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
143号土抗跡	X = 36327 Y = - 39598	25 × 20cm	30cm	不定形	U字形	なし	少量の褐色土粒子、ローム粒子、黒褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		柱穴の可能性有。
144号土抗跡	X = 36327 Y = - 39593	17 × 15cm	14cm	ほぼ円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、径1mmの黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
145号土抗跡	X = 36327 Y = - 39593	20 × 20cm	13cm	ほぼ円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、径1mmの黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
146号土抗跡	X = 36327 Y = - 39584	30 × 23cm	28cm	不定形	U字形	なし	褐色土粒子と、径1mmの黒褐色土ブロックを少量含んだ明黄褐色土。		柱穴の可能性有。
147号土抗跡	X = 36305 Y = - 39578	50 × 40cm	32cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石と、褐色土粒子、にぶい黄褐色土粒子を含んだ褐色土。		
148号土抗跡	X = 36304 Y = - 39576	38 × 32cm	20cm	楕円形	逆台形	なし	褐色土粒子、径5mmの黒褐色土ブロック、黄色砂質ローム粒子を含んだ褐色土。		
149号土抗跡	X = 36305 Y = - 39575	26 × 18cm	30cm	不定形	V字形	なし	微量の白色軽石と黄色砂質ローム粒子を含んだ褐色土。		柱穴の可能性有。
150号土抗跡	X = 36304 Y = - 39574	50 × 45cm	30cm	楕円形	逆台形	なし	微量の白色軽石とローム粒子、径1mmの暗褐色土ブロックを含んだ褐色土。		
151号土抗跡	X = 36304 Y = - 39575	18 × 18cm	18cm	円形	U字形	なし	黄色砂質ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
152号土抗跡	X = 36304 Y = - 39573	35 × 28cm	35cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子、黄色砂質ローム粒子を少量含んだにぶい黄褐色土。		柱穴の可能性有。
153号土抗跡	X = 36304 Y = - 39573	28 × 25cm	35cm	不定形	V字形	なし	褐色土粒子を含んだ褐色土。		柱穴の可能性有。
154号土抗跡	X = 36336 Y = - 39553	38 × 35cm	90cm	ほぼ円形	U字形	なし	黄色砂質ロームと径5mmの黒褐色土ブロックを含んだ褐色土。		柱穴の可能性有。
155号土抗跡	X = 36338 Y = - 39553	30 × 23cm	7cm	不定形	半円形	なし	ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
156号土抗跡	X = 36343 Y = - 39555	22 × 18cm	7cm	不定形	半円形	なし	ローム粒子を含んだにぶい黄褐色土。		

第3章 検出遺構と出土遺物

遺構名	位置	規模	深度	平面形状	断面形状	出土遺物	埋土	重複関係	備考
157号土抗跡	X=36334 Y=-39583	95×70cm	49cm	不定形	逆台形	なし	多量の褐色土粒子と微量の白色軽石を含んだ灰黄褐色土。	6号溝、10号溝より新	
158号土抗跡	X=36337 Y=-39563	176×76cm	58cm	不定形	逆台形	なし	少量の淡黄色砂質ローム土を斑状に含んだ暗褐色土。	8号住居よりも旧	縄文土坑か、ないしは、遺物が出土していないことから、風倒木痕となる可能性もある。
159号土抗跡	X=36315 Y=-39560	35×35cm	23cm	ほぼ円形	U字形	土師器甕が正位で埋設。	微量の白色軽石とローム粒子、褐色土粒子を含んだ灰黄褐色土。		埋襲
160号土抗跡	X=36343 Y=-39566	50×50cm	27cm	ほぼ円形	逆台形	土師器杯甕	少量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
161号土抗跡	X=36343 Y=-39568	62×56cm	34cm	楕円形	逆台形	土師器甕	微量の白色軽石と褐色土粒子、径10mmの黒色ブロックを含んだ暗褐色土。		
162号土抗跡	X=36345 Y=-39566	52×50cm	55cm	ほぼ円形	U字形	土師器甕	少量の白色軽石と焼土、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
163号土抗跡	X=36345 Y=-39565	35×35cm	15cm	円形	U字形	土師器甕	微量の白色軽石と褐色土粒子、ローム粒子を含んだにぶい黄褐色砂質土。		
164号土抗跡	X=36346 Y=-39565	35×35cm	20cm	円形	逆台形	なし	微量の白色軽石とローム粒子、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
165号土抗跡	X=36347 Y=-39565	40×30cm	26cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石とローム粒子、褐色土粒子を含んだにぶい黄褐色土。		
166号土抗跡	X=36334 Y=-39602	35×28cm	36cm	楕円形	U字形	なし	少量のローム粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
167号土抗跡	X=36333 Y=-39601	40×35cm	32cm	楕円形	U字形	なし	微量のローム粒子を含んだ黒褐色土。		
168号土抗跡	X=36332 Y=-39600	30×30cm	30cm	不定形	U字形	なし	微量のローム粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性が高い。東側にある土抗群より検出レベルが30cmほど低い。
169号土抗跡	X=36327 Y=-39598	20×20cm	18cm	円形	U字形	なし	微量のローム粒子を含んだ黒褐色土。		東側にある土抗群より検出レベルが30cmほど低い。
170号土抗跡	X=36327 Y=-39598	不明	14cm	不明	U字形	なし	微量のローム粒子を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性が高い。東側にある土抗群より検出レベルが30cmほど低い。
171号土抗跡	X=36328 Y=-39608	23×22cm	28cm	円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		柱穴の可能性有。
172号土抗跡	X=36327 Y=-39608	33×26cm	31cm	不定形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
173号土抗跡	X=36326 Y=-39608	32×25cm	23cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
174号土抗跡	X=36328 Y=-39615	30×20cm	6cm	楕円形	半円形	なし	少量の褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		
175号土抗跡	X=36333 Y=-39622	20×20cm	6cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
176号土抗跡	X=36333 Y=-39623	20×20cm	10cm	不定形	U字形	なし	褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		
177号土抗跡	X=36332 Y=-39624	26×22cm	18cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石とローム粒子を含んだ黒褐色土。		
178号土抗跡	X=36333 Y=-39625	28×24cm	12cm	隅丸長方形	U字形	なし	微量の白色軽石とローム粒子を含んだ黒褐色土。		
179号土抗跡	X=36329 Y=-39622	26×26cm	10cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
180号土抗跡	X=36325 Y=-39618	40×20cm	30cm	楕円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子と褐灰色土粒子を含んだ黒褐色土。		
181号土抗跡	X=36332 Y=-39626	22×22cm	18cm	円形	U字形	なし	少量の褐色土粒子と褐灰色土粒子を含んだ黒褐色土。		
182号土抗跡	X=36331 Y=-39626	30×28cm	17cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
183号土抗跡	X=36330 Y=-39628	22×22cm	17cm	円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
184号土抗跡	X=36333 Y=-39627	30×25cm	30cm	楕円形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
185号土抗跡	X=36332 Y=-39660	20×18cm	11cm	ほぼ円形	U字形	なし	少量の褐灰色土を含んだ黒褐色土。		
186号土抗跡	X=36325 Y=-39623	34×25cm	17cm	楕円形	U字形	なし	微量の灰黄褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		
187号土抗跡	X=36325 Y=-39624	40×34cm	6cm	楕円形	U字形	なし	微量の灰黄褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		
188号土抗跡	X=36329 Y=-39627	30×26cm	18cm	楕円形	U字形	なし	微量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
189号土抗跡	X=36327 Y=-39614	32×32cm	8cm	不定形	U字形	なし	白色軽石を含んだ黒褐色土。		
190号土抗跡	X=36337 Y=-39628	45×35cm	23cm	不定形	U字形	なし	少量の白色軽石を含んだ黒褐色土。		
191号土抗跡	X=36337 Y=-39627	35×26cm	7cm	楕円形	半円形	なし	微量の白色軽石と褐色土粒子を含んだ黒褐色土。		

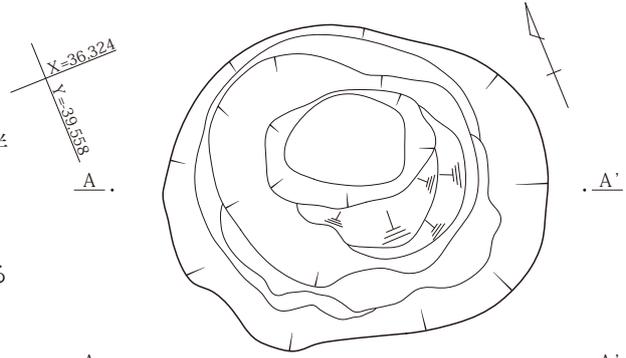
4 井戸跡

4区1号井戸(旧称=4区SK-25)

位置：X=36323 Y=-39557 規模：210×180cm
 深度：200cm 形状：平面形状は楕円形、断面形状は上半部が掘り鉢状、下半部が筒状を呈する。

重複遺構：なし。 出土遺物：土錘が出土している。

所見：井戸枠の痕跡はなく、側面の所々に挟れがみられることから、素掘り井戸と考えられる。



5 その他の遺構

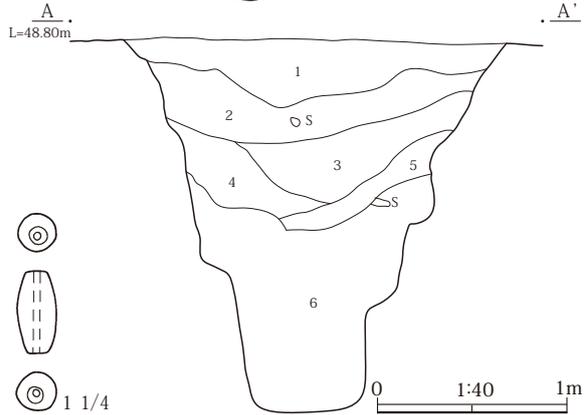
4区1号集石

位置：X=36329 Y=-39571

重複遺構：13号溝跡と重複し、遺構検出レベルの差より、本遺構の方が新しいものと判断される。

出土遺物：凝灰岩を含む礫595点、土器類は、土師器杯・小型甕、須恵器蓋・皿・壺・短頸壺片、土錘の他、黒色土器杯の底部に線刻の入ったものなど83点が出土している。

所見：調査区中央よりやや北寄りに位置し、礫下には掘り込を有ず、中央部は円形に礫を配する。祭祀遺構の可能性が高い。



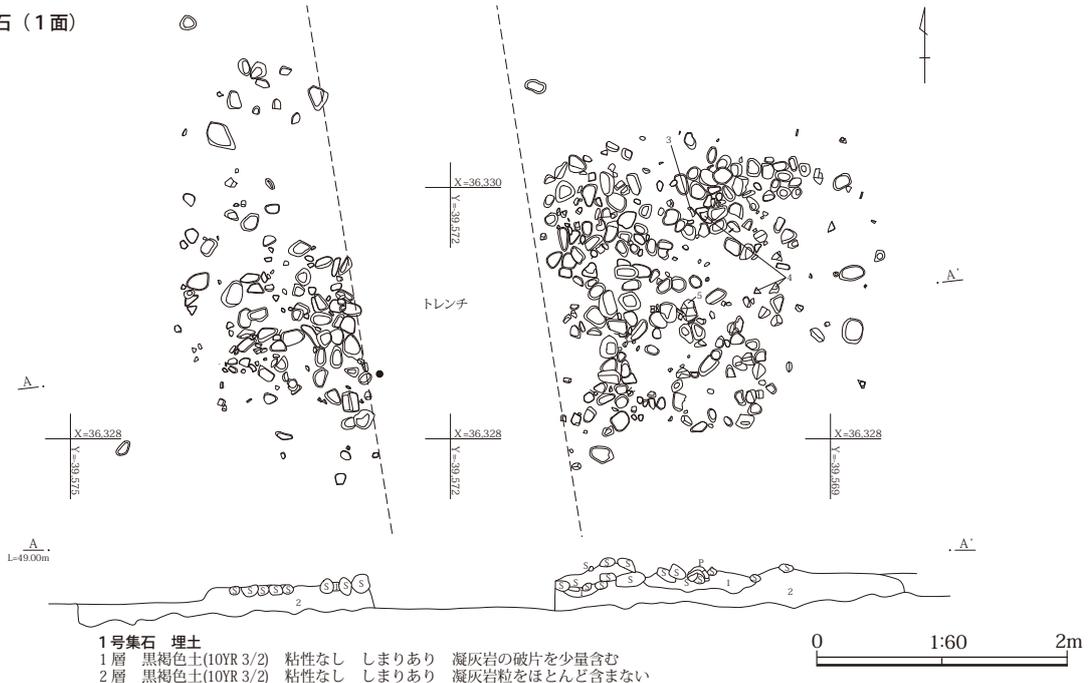
- 1号井戸 埋土
 1層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 多量の白色軽石(As-C+榛名二ツ岳)と少量の炭化物・焼土粒を含む
 2層 灰黄褐色土(10YR 5/2) 多量の白色軽石を含む 1層土に類似
 3層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の白色軽石と黄色砂質ローム粒子を含む
 4層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 少量の白色軽石と黄色砂質ロームブロック(φ20mm大)を含む
 5層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 多量の黄色砂質ローム小ブロック(φ5~10mm大)を含む
 6層 褐灰色土(10YR 4/1) 所々黄色砂質ローム土をラミナ状に含む

第399図 4区1号井戸跡平・断面図、出土遺物

4区1号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	土製品 錘	埋土中 完形	長さ 4.3 径 2.1 孔 0.4	① 細砂粒 ② 酸化焙 良好 ③ にぶい褐(7.5YR 6/3)	外面側面ナデ、両端部ヘラナデ。 中心部縦に径4.0mmの穿孔。 重量：16g	黒斑あり。

4区1号集石(1面)

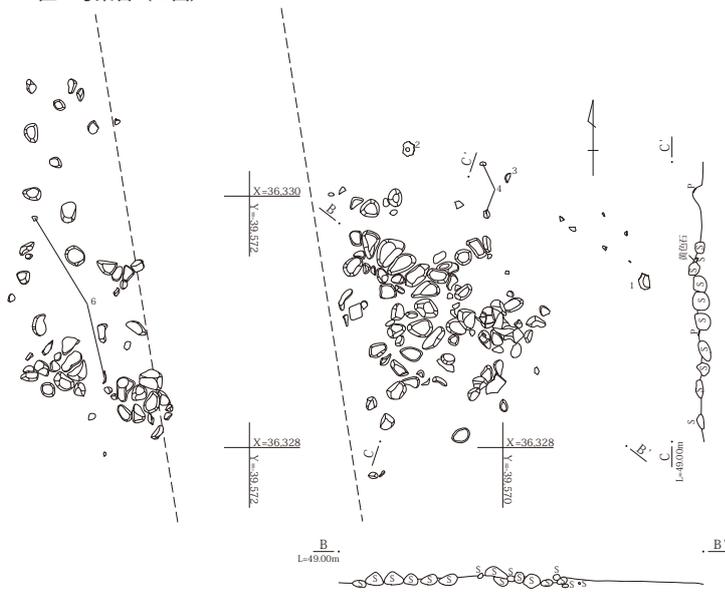


- 1号集石 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり 凝灰岩の破片を少量含む
 2層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまりあり 凝灰岩粒をほとんど含まない

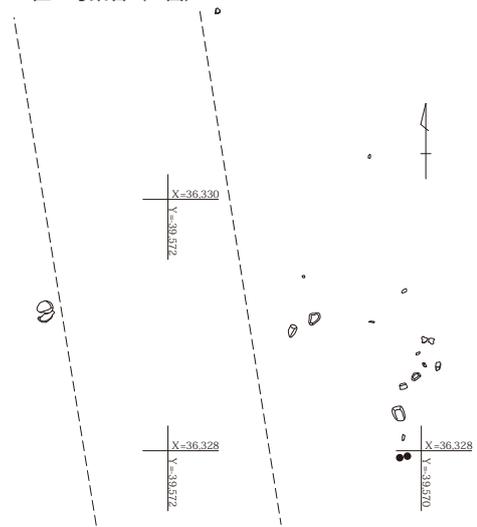
第400図 4区1号集石平・断面図(1)

第3章 検出遺構と出土遺物

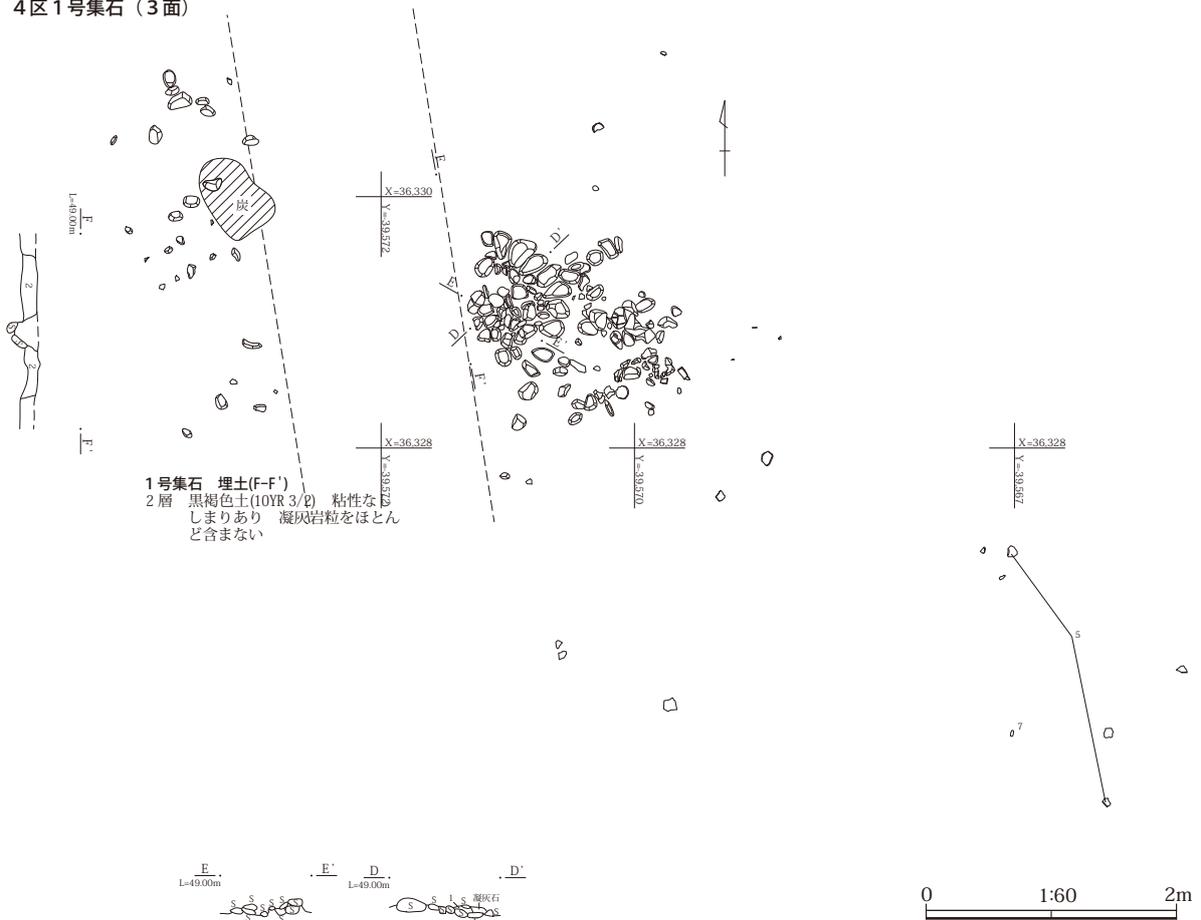
4区1号集石 (2面)



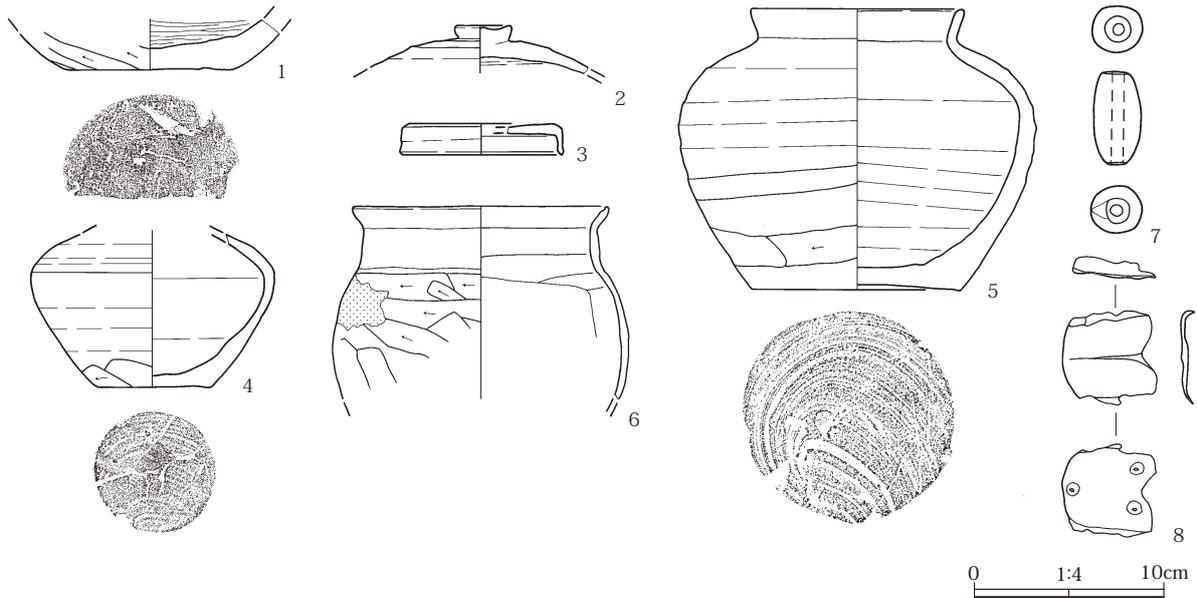
4区1号集石 (4面)



4区1号集石 (3面)



第401図 4区1号集石平・断面図(2)



第402図 4区1号集石出土遺物

4区1号集石跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考		
1	黒色土器 杯	体部下半～底部 1/2	口径 — 底径 9.0 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 酸化焰 良好 内面黒色 ③ 灰黄褐(10YR 6/2)	外面：体部へら削り。底部ナデ。 内面：体部～底部へら磨き。	底部外面にへら 記号「+」		
2	須恵器 杯蓋	天井部～摘部 破片	口径 — 摘径 2.8 器高 —	① 細砂粒・粗砂粒・細礫 ② 還元焰 良好 ③ 灰(5Y 6/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：天井部上半回転へら削り。天井部下半横ナデ。摘み 貼付。 内面：天井部回転ナデ。			
3	須恵器 長頸壺蓋	口縁部～天井部 破片	口径 8.4 底径 — 器高 1.6	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰(N 5/0)	ロクロ整形。 外面：口縁部～体部回転ナデ。天井部へら削り調整。 内面：口縁部～底部回転ナデ調整。			
4	須恵器 壺	肩部～底部 1/3	口径 — 底径 6.0 器高 —	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面：肩部～胴部横ナデ。底部回転糸切り後、へら削り調整。 内面：口縁部～底部横ナデ。			
5	須恵器 短頸壺	口縁部～底部 2/3	口径 11.0 底径 11.0 器高 14.8	① 細砂粒・粗砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰黄(2.5Y 4/1)	ロクロ整形。回転右回り。 外面：口縁部～胴部上半回転ナデ、下半回転へら削り。底 部回転糸切り。 内面：口縁部～胴部回転ナデ調整。			
6	土師器 小型甕	口縁部～胴部上半 破片	口径 13.2 底径 — 器高 —	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ 灰褐(5YR 4/2)	輪積み。 外面：口縁部横ナデ。胴部上位横、中位縦方向へら削り。 内面：口縁部横ナデ。胴部へらナデ。			
7	土製品 錘	完形	長さ 4.8 径 2.0 孔 0.6	① 細砂粒 ② 酸化焰 良好 ③ にぶい黄橙(10YR 6/3)	外面側面はナデ、両端部はへらナデ。 中心部縦に径6.0mmの穿孔。 重量30g	黒斑あり。		
番号	種別	器種	状態	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	摘要
8	銅製品	蛇尾	周辺部欠損	2.4	2.1	0.2	6.0	

4区2号集石

位置：X=36324 Y=-39575

重複遺構：10号溝跡と重複し、遺構検出レベルの差より、本遺構の方が新しいものと判断される。

出土遺物：礫95点。土器片は椀など10点ほどが出土している。

所見：調査区中央よりやや北寄りに位置し、すぐ北側には1号集石がある。1号集石とは異なり下面に浅い掘込を有する。位置的に1号集石に付随するものと考えられる。

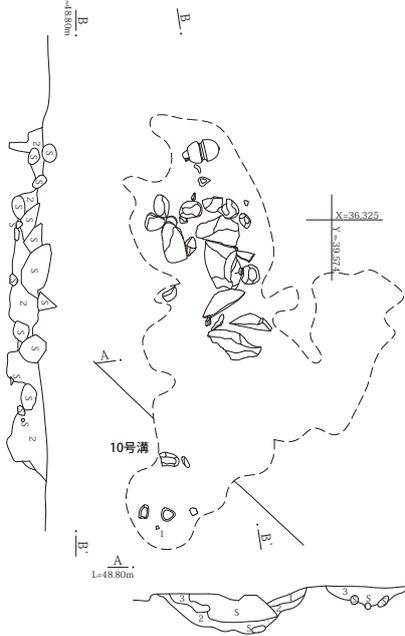
4区1号・2号杭列

位置：X=36305 Y=-39561

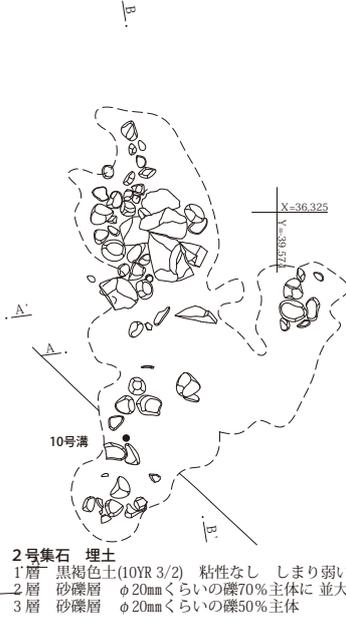
所見：15本の杭と杭痕が確認できた。出土した13本の杭はいずれも加工がされている。13号溝跡の底部にまで達しているものもある。13号溝跡に伴う柵(しがら)と考えられる。

第3章 検出遺構と出土遺物

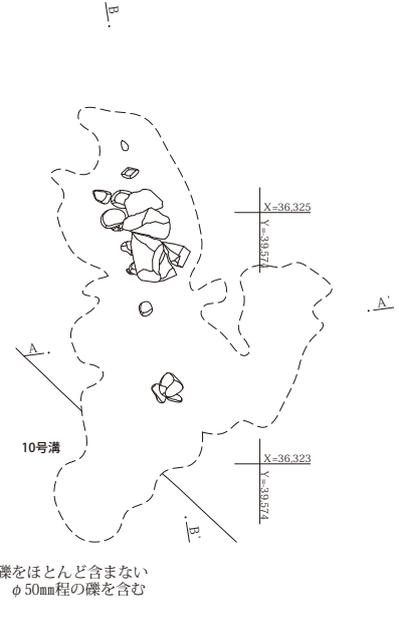
4区2号集石(1面)



4区2号集石(2面)



4区2号集石(3面)

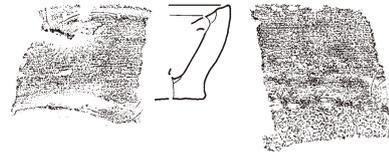
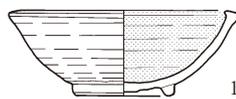
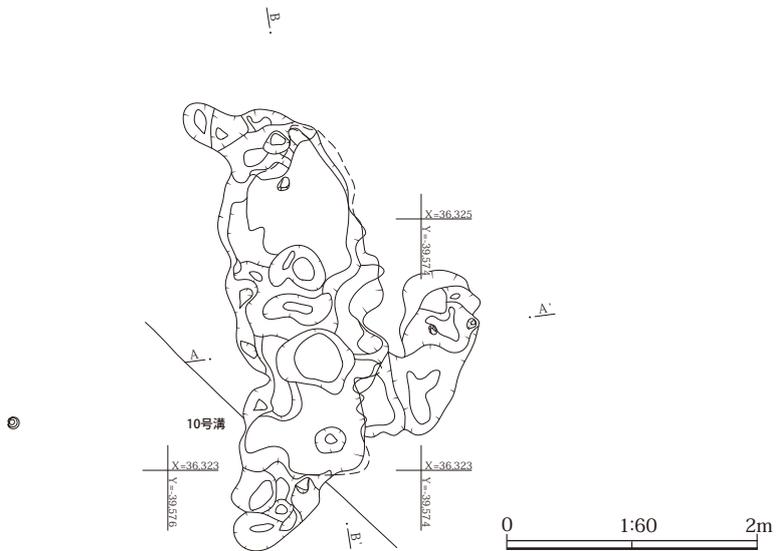


2号集石 埋土
 1層 黒褐色土(10YR 3/2) 粘性なし しまり弱い砂礫をほとんど含まない
 2層 砂礫層 φ20mmくらいの礫70%主体に 並大~ φ50mm程の礫を含む
 3層 砂礫層 φ20mmくらいの礫50%主体

4区2号集石(4面)



4区2号集石(5面)



0 1:4 10cm

第403図 4区2号集石平・断面図、出土遺物

4区2号集石跡出土遺物観察表

番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 cm	①胎土 ②焼成 ③色調	成形手法 調整手法	備考
1	陶器 椀	口縁部~底部 1/5	口径 12.7 底径 5.2 器高 4.6	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 灰白(2.5Y 7/1)	ロクロ整形。 外面:口縁部~胴部回転ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼付。 内面:口縁部~底部回転ナデ調整。	内外面に釉薬付着。
2	軟質陶器 焙烙	口縁部~底部 破片	口径 - 底径 - 器高 4.9	① 細砂粒 ② 還元焰 良好 ③ 黒褐(2.5Y 3/1)	ロクロ整形。 外面:口縁部~胴部回転ナデ。底部ヘラ削り。 内面:口縁部~底部回転ナデ調整。	

第3項 5区の遺構と遺物

1、調査区の概要

平成15年10月、7区の調査に並行して、調査面までの深度や遺構の分布状況を把握するために、5区・6区のトレンチによる範囲確認調査を行った。その結果、6区については隣接区と同様の様相が見られ、全域の表土除去の必要性が認められたが、5区については区全域にわたり上層部は土取りにより削平、下面も近現代洪水の影響を大きく受けて遺構は全て削平されているとの判断に至り、全面的な表土掘削および調査を行わず、トレンチ調査をもって5区の調査を終えることとした。

5区トレンチの設定は、下掲図のとおり座標軸に沿わず、調査区に対して全域を網羅できるよう任意に設定した。トレンチで確認された落ち込みは不定形に蛇行し、その埋土が水性堆積によるものであることから、人為的な遺構ではなく、河道跡若しくは大規模な河川の決潰による自然災害の痕跡と判断された。

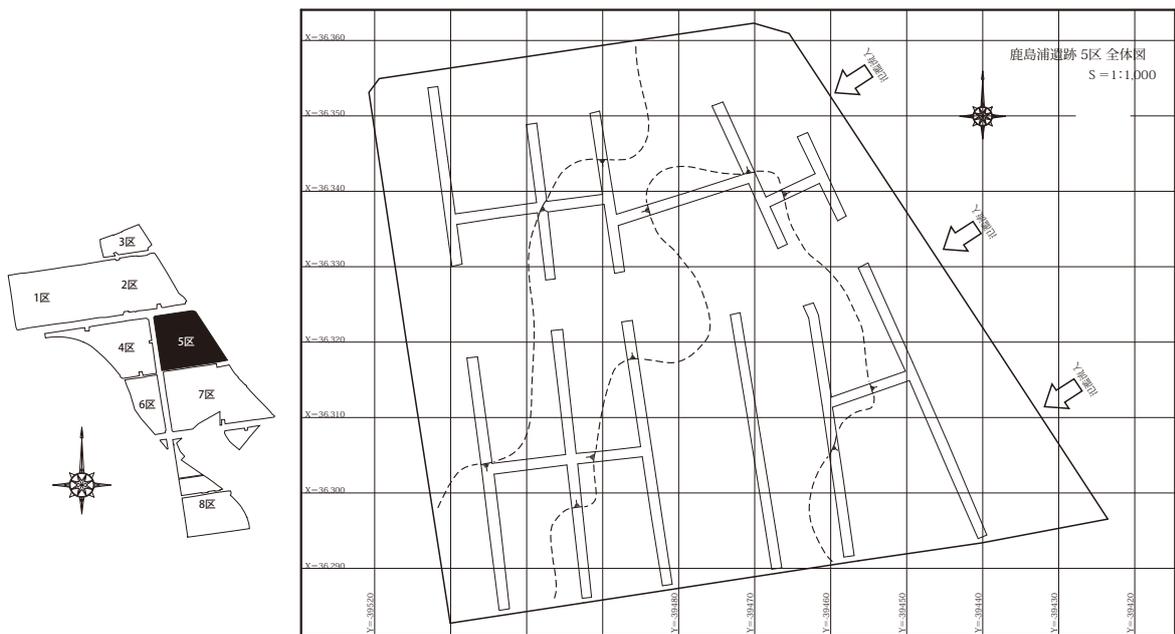
この氾濫跡は、隣接する6・7区へと続き、その時期については最も新しい出土遺物より昭和20年代頃と推定される。この時期の渡良瀬川水系の決潰・氾濫事例として、昭和22年9月のキャサリン(カスリン)台風・翌23年のアイオン台風・24年のキティー台風による未曾有の水害が記録されており、中でもキャサリン台風時には、渡良瀬川が増水し、葉鹿橋より上流側600mで堤防を越流、流域周辺の広範囲に床下浸水などの被害をもたらした。5～7区検出の氾濫跡もこの水害によるものと判断される。(「第3節 第2項 氾濫跡および遺構外出土遺物(中世～)」参照)



5区トレンチ北半部(西より)



5区トレンチ南半部(西より)



第404図 5区全体図